

序

濃尾平野のほぼ中央に位置する愛知県岩倉市は、近年、大都市近郊の住宅都市として急速に発展しています。五条川をはじめとする豊かな自然によって育まれたこの土地は、かつて中世末には政治の中心的地位を占めていました。その栄華は、岩倉古城址碑と地中に眠る岩倉城がひそやかに私どもに語りかけています。

さて、このたび五条川流域下水道事業にともない、市域南西部に位置する権現山遺跡の発掘調査を実施しました。発掘調査では縄文時代から江戸時代を通しての遺構・遺物を発見し、多大な成果を納めることができました。なかでも縄文時代後期における集落の営みを明らかにしたことは、古くからこの土地が自然豊かであったことを私どもに印象づけました。また、弥生時代後期から古墳時代にかけて造営された大規模な墳丘墓や古墳は、この豊かな土地に根ざして活躍した人物の姿を彷彿とさせるかのようです。今後、本書に掲載した多岐にわたる調査成果が学術的に活用され、ひいては埋蔵文化財の保護につながることを願ってやみません。

最後となりましたが、発掘調査の実施にあたり、地元住民の方々をはじめ、関係者および関係諸機関のご理解とご協力をいただきましたことに対し、厚く御礼を申し上げます。

平成 15 年 8 月

財団法人愛知県教育サービスセンター
理事長 井上銀治

例言

1. 本書は、愛知県岩倉市北島町・野寄町地内に所在する権現山遺跡（遺跡番号 11052：愛知県教育委員会 1994『愛知県遺跡地図（Ⅰ）尾張地区』）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、五条川右岸流域下水道浄化センター建設にかかる事前調査として、愛知県土木部（当時、現愛知県建設部）および愛知県建設部より、愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県埋蔵文化財センター（当時、現財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター）および財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 調査期間と調査面積は、平成 8 年 6～7 月（500 m²）、平成 9 年 7～11 月（1,800 m²）、平成 11 年 5～8 月・12 月（500 m²）、平成 13 年 6～10 月（2,350 m²）である。
4. 調査担当者は、平成 8 年度—高橋信明（課長補佐兼主査、現愛知県埋蔵文化財調査センター主査）・山本寿徳（調査研究員、現愛知県立岩倉高等学校教諭）・小川芳範（同、現愛知県立江南高等学校教諭）、平成 9 年度—大崎正敬（主査、現稲沢市立大塚小学校教諭）・早野浩二（調査研究員）、平成 11 年度—春日井毅（主査、現一宮市立宮西小学校教諭）・鉛谷 一（調査研究員、現愛知県立小牧高等学校教諭）・加藤博紀（同、現愛知県立蟹江高等学校教諭）・伊藤太佳彦（同、現愛知県立知多東高等学校教諭）・木川正夫（同、現愛知県立岡崎高等学校教諭）・蔭山誠一（同）、平成 13 年度—石黒立人（主査）、鶴飼雅弘（調査研究員）、早野浩二である。
5. 発掘調査にあたっては、次の各関係機関のご指導とご協力を得た。
愛知県教育委員会文化財課（当時、現愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室）および愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室・愛知県埋蔵文化財調査センター、愛知県土木部（当時、現愛知県建設部）および愛知県建設部、岩倉市教育委員会
6. 報告書作成にかかる整理作業には、次の方々の助力を得た。
平野昌子・上田恭子・岩本佳子（調査研究補助員）、尾崎和美（元調査研究補助員）、横川尚見・中村智可子・櫻井和枝・宇佐美美幸・服部久美子・山田有美子・山口きみ代・村上志穂子（整理補助員）、田中和子・服部恵子（元整理補助員）、山川和子・岡田真知子・小崎暢子・加藤美和子（元整理作業員）
なお、出土遺物の写真撮影については福岡栄氏の手を煩わせた。
7. 発掘調査、報告書作成の過程で、次の各氏をはじめ、多くの方々からご指導、ご協力を得た。
浅野弘子 安達厚三 伊藤秋男 伊藤正人 伊庭 功 植田文雄 上野 登
梶山 勝 春日井恒 唐松健夫 河合 忍 木下哲夫 額 纈 茂 小濱 学
杉浦隆支 瀬川貴文 高橋克壽 高橋健太郎 田中 裕 土本典生 寺崎裕助
寺沢 明 寺澤 薫 西 邦和 西村匡広 野口哲也 船越重伸 北條献示
松井直樹 森 勇一 山下 寛 山田隆一 渡邊裕之 渡辺 誠
8. 本書の執筆は、第 1 章（3）- 5）を鶴飼雅弘、第 3 章（1）を鬼頭 剛（調査研究員）・上田恭子、第 3 章（2）を藤根 久・今村美智子（パレオ・ラボ）、第 3 章（3）を小村美代子（パレオ・ラボ）、それ以外を早野浩二が担当した。
9. 遺構番号は原則として発掘調査時に用いたものを踏襲した。なお、使用する遺構記号は以下のとおりであるが、厳密な統一性はない。
SK；土坑 SD；溝 SE；井戸 SB；建物 SZ；墓
NR；自然流路 SX；その他不明遺構
10. 発掘調査および本書で使用した座標は、国土座標第Ⅶ系に準拠した。ただし、旧基準の「日本測地系」で表記している。
11. 本書で使用する土層の色調については、『新版標準土色帳』を参考に記述した。
12. 発掘調査の記録（実測図、写真等）は、財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センターで保管している。
13. 出土遺物は、愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。
愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方 802-24 TEL 0567-67-4164
14. 本書の編集は早野浩二が担当した。

目次

| | |
|-----------------------------------|-----|
| 第1章 調査の概要 | 1 |
| (1) 調査の経緯 | 1 |
| (2) 調査の経過 | 2 |
| (3) 位置と環境 | 6 |
| 第2章 遺構と遺物 | 14 |
| (1) 層位と微地形 | 14 |
| (2) 時期区分 | 15 |
| (3) 縄文時代 | 16 |
| (4) 弥生時代後期～古墳時代前期 | 34 |
| (5) 古墳時代後期 | 44 |
| (6) 奈良・平安時代 | 48 |
| (7) 鎌倉・室町時代 | 52 |
| (8) 江戸時代 | 54 |
| 第3章 分析・考察 | 58 |
| (1) 濃尾平野北東部，権現山遺跡の古環境解析 | 58 |
| (2) 権現山遺跡出土縄文土器胎土の材料分析 | 66 |
| (3) 権現山遺跡出土遺物の赤色顔料分析 | 76 |
| (4) 東海地方西部における縄文時代後期初頭の土器編年 | 79 |
| (5) 権現山遺跡の墳丘墓群が提起する問題 | 109 |
| 第4章 まとめ | 118 |

別表

図版

報告書抄録

図版目次

遺構図版

- 図版 1 上面遺構全体図・基本遺構割付図 (1 : 1,000)
図版 2 上面基本遺構図 1 (1 : 200)
図版 3 上面基本遺構図 2 (1 : 200)
図版 4 上面基本遺構図 3 (1 : 200)
図版 5 上面基本遺構図 4 (1 : 200)
図版 6 上面基本遺構図 5 (1 : 200)
図版 7 上面基本遺構図 6 (1 : 200)
図版 8 上面基本遺構図 7 (1 : 200)
図版 9 上面基本遺構図 8 (1 : 200)
図版 10 上面基本遺構図 9 (1 : 200)
図版 11 下面遺構全体図 (1 : 400)・基本遺構割付図 (1 : 1,000)
図版 12 下面基本遺構図 1 (1 : 200)
図版 13 下面基本遺構図 2 (1 : 200)
図版 14 99 A区 S B 01 遺構図 (1 : 50)
図版 15 97 区 S K 31・97 区 S B 08 遺構図 (1 : 50)
図版 16 97 区 S B 07・S B 09 遺構図 (1 : 50)
図版 17 97 区 S B 06・97 区土坑群遺構図 (1 : 50)
図版 18 97 区 S K 36・97 区 S K 67 遺物出土状態図 (1 : 20)
図版 19 97 区 S K 40・01 区 S K 73 遺物出土状態図 (1 : 20)
図版 20 01 区 S B 01 遺構図 (1 : 50)
図版 21 97 区 S B 01 遺物出土状態図 (1 : 20)
図版 22 97 区 S D 49 遺物出土状態図 (1 : 20)
図版 23 S Z 01 遺構図 (1 : 200、1 : 50)
図版 24 S Z 02 遺構図 1 (1 : 200)
図版 25 S Z 02 遺構図 2 (1 : 50)
図版 26 S Z 02 開口部付近遺構図 (1 : 100、1 : 50)
図版 27 S Z 02 B群・C群遺物出土状態図 (1 : 20)
図版 28 S Z 02 E群遺物出土状態図 (1 : 20)
図版 29 S Z 03 遺構図 (1 : 200、1 : 50)
図版 30 S Z 04 遺構図 (1 : 200、1 : 50)
図版 31 S Z 05 遺構図 (1 : 200、1 : 50)
図版 32 4号墳遺構図 (1 : 200、1 : 50)
図版 33 1号墳遺構図 (1 : 200、1 : 50)
図版 34 1号墳石室遺構図 1 (1 : 20)
図版 35 1号墳石室遺構図 2 (1 : 20)
図版 36 97 区 S B 02 遺物出土状態図 (1 : 20)
図版 37 97 区近世井戸土層断面図 (1 : 50)

遺物図版

- 図版 38 99 A区・96 区・99 C区出土縄文土器
図版 39 97 区 S K 31 出土土器 1
図版 40 97 区 S K 31 出土土器 2
図版 41 97 区 S K 31 出土土器 3
図版 42 97 区 S K 31 出土土器 4
図版 43 97 区堅穴住居出土土器
図版 44 97 区 S B 06・97 区 S K 67 出土土器
図版 45 97 区 S K 36 出土土器 1

- 図版 46 97 区 S K 36 出土土器 2
図版 47 97 区 S K 37 出土土器
図版 48 97 区土坑出土土器
図版 49 97 区谷地形出土土器 1
図版 50 97 区谷地形出土土器 2
図版 51 97 区谷地形出土土器 3
図版 52 97 区谷地形出土土器 4
図版 53 97 区谷地形出土土器 5
図版 54 97 区包含層出土土器 1
図版 55 97 区包含層出土土器 2
図版 56 97 区出土土器 1
図版 57 97 区出土土器 2
図版 58 97 区出土土器 3
図版 59 01 区堅穴住居出土土器
図版 60 01 区小河川出土土器
図版 61 01 区 S X 01・01 区包含層出土土器
図版 62 01 区出土土器 1
図版 63 01 区出土土器 2
図版 64 縄文時代晩期～弥生時代前期の土器、縄文時代土製品
図版 65 石鏃、剥片ほか
図版 66 石錘
図版 67 磨石・敲石
図版 68 97 区 S B 01 出土土器
図版 69 97 区出土土器 1
図版 70 97 区出土土器 2
図版 71 S Z 01・S Z 02 出土土器 1
図版 72 S Z 02 出土土器 2
図版 73 S Z 02 出土土器 3
図版 74 S Z 02 出土土器 4
図版 75 S Z 02 出土土器 5
図版 76 S Z 03・S Z 04・S Z 05 出土土器
図版 77 01 区 S B 01・01 区・96 区出土土器
図版 78 古墳時代中・後期の遺物
図版 79 古代堅穴住居・溝出土土器
図版 80 溝 C 出土土器
図版 81 溝 D・溝 E・その他の古代の遺物
図版 82 中世の遺物
図版 83 01 区 S D 22・99 C区 S D 06 出土遺物
図版 84 01 区溝・土坑出土土器
図版 85 97 区溝出土土器
図版 86 97 区溝・土坑出土土器
図版 87 97 区井戸出土遺物
図版 88 その他の近世の土器
図版 89 土製品
図版 90 石製品
図版 91 金属製品・鍛冶関連遺物

遺構写真

- 図版 92 96区
- 図版 93 97区縄文時代後期
- 図版 94 97区SK 31
- 図版 95 炉・埋設土器
- 図版 96 97区SK 67
- 図版 97 97区土坑
- 図版 98 97区遺物出土状況・01区縄文時代後期
- 図版 99 01区SK 73
- 図版 100 01区墳丘墓
- 図版 101 SZ 02周溝土層断面
- 図版 102 SZ 02遺物出土状況1
- 図版 103 SZ 02遺物出土状況2
- 図版 104 SZ 03・SZ 04
- 図版 105 竪穴住居ほか
- 図版 106 1号墳石室
- 図版 107 1号墳・4号墳
- 図版 108 97区古代以降の遺構群
- 図版 109 古代・中世の遺構
- 図版 110 01区近世遺構
- 図版 111 97区近世遺構

遺物写真

- 図版 112 97区SK 31出土土器1
- 図版 113 土坑出土土器・双耳壺など

- 図版 114 97区谷地形出土土器1
- 図版 115 97区谷地形・01区出土土器
- 図版 116 97区・99A区出土土器、石器
- 図版 117 97区SK 31出土土器2
- 図版 118 竪穴住居・土坑出土土器
- 図版 119 97区谷地形出土土器2
- 図版 120 97区包含層出土土器
- 図版 121 97区出土土器
- 図版 122 97区・01区出土土器
- 図版 123 01区出土土器
- 図版 124 01区出土土器・縄文時代晩期～弥生時代前期の土器
- 図版 125 97区出土土器
- 図版 126 SZ 02・SZ 04出土土器
- 図版 127 古墳時代中・後期の遺物
- 図版 128 古代の土器
- 図版 129 近世の土器・陶磁器
- 図版 130 その他の近世の遺物
- 図版 131 縄文時代の遺物1
- 図版 132 縄文時代の遺物2
- 図版 133 縄文時代の遺物3
- 図版 134 SZ 02出土土器・1号墳石室出土遺物
- 図版 135 古代の土器・近世の遺物
- 図版 136 土器胎土中の粒子顕微鏡写真
- 図版 137 赤色顔料分析試料の状態

挿表目次

| | | | | | |
|-----|-------------------------------|----|------|------------------------|-----|
| 第1表 | 発掘調査工程表 | 2 | 第10表 | 96区深堀トレンチにおける植物珪酸体分析結果 | 65 |
| 第2表 | 主要遺構時期区分表 | 15 | 第11表 | 権現山遺跡出土縄文土器とその特徴 | 67 |
| 第3表 | 石錘計測表 | 31 | 第12表 | 土器胎土中の粒子組成一覧表 | 70 |
| 第4表 | 97区における ¹⁴ C年代測定結果 | 61 | 第13表 | 土器胎土中の材料粘土・砂粒の特徴 | 73 |
| 第5表 | 01区における ¹⁴ C年代測定結果 | 61 | 第14表 | 岩石とその組み合わせ | 73 |
| 第6表 | 96区深堀トレンチにおける花粉分析結果 | 65 | 第15表 | 試料の詳細 | 77 |
| 第7表 | 96区深堀トレンチにおける植物珪酸体分析結果 | 65 | 第16表 | 試料から検出された元素と同定結果 | 77 |
| 第8表 | 96区深堀トレンチにおける植物珪酸体推定産量 | 65 | 第17表 | 編年対照表 | 105 |
| 第9表 | 96区深堀トレンチ植物珪酸体におけるタケ壺科の比率 | 65 | 第18表 | 編年対照表 | 111 |



調査開始当初の風景（1996年7月撮影）



調査後の風景（2003年7月撮影）

挿図目次

| | | | | | |
|------|---------------------------------|----|------|-------------------------|-----|
| 第1図 | 権現山遺跡の位置 | 1 | 第45図 | 01区S D 22遺物出土分布 | 56 |
| 第2図 | 調査区配置図 | 4 | 第46図 | 鍛冶関連遺物の分布 | 57 |
| 第3図 | 遺跡周辺字図 | 5 | 第47図 | 東西層序断面図と推定される古環境 | 63 |
| 第4図 | 周辺の遺跡 | 7 | 第48図 | 土器胎土中の粒子組成図 | 70 |
| 第5図 | 旧石器・縄文時代の遺跡分布 | 9 | 第49図 | 縄文土器胎土分析試料実測図 | 73 |
| 第6図 | 弥生・古墳時代の遺跡分布 | 11 | 第50図 | 伊勢・三河湾周辺の地層分布図 | 74 |
| 第7図 | 調査区周辺の地籍図と調査区の位置 | 13 | 第51図 | 分析試料実測図 | 77 |
| 第8図 | 遺跡の微地形 | 14 | 第52図 | 各試料の蛍光X線スペクトル図 | 78 |
| 第9図 | 縄文時代遺構配置図 | 17 | 第53図 | 縄文土器の分類 | 81 |
| 第10図 | 縄文時代後期遺構配置図 | 17 | 第54図 | Ⅱ群に関連する土器 | 82 |
| 第11図 | 97区S K 31遺物出土分布 | 19 | 第55図 | 三十稲葉式土器 | 82 |
| 第12図 | 97区S B 08遺物出土分布 | 20 | 第56図 | 福田K 2式との関連を示す弧状条線地深鉢 | 83 |
| 第13図 | 深鉢(93)の文様展開図 | 24 | 第57図 | 土器群の構成 | 84 |
| 第14図 | 谷地形遺物出土分布 | 25 | 第58図 | 各分類単位と縄文の撚り方向 | 84 |
| 第15図 | 小河川遺物出土分布 | 27 | 第59図 | 権現山式土器編年表(1) | 86 |
| 第16図 | 石器組成 | 30 | 第60図 | 権現山式土器編年表(2) | 87 |
| 第17図 | 石錘の計測方法 | 31 | 第61図 | 権現山式4期の資料 | 89 |
| 第18図 | 石錘の法量・重量 | 31 | 第62図 | 権現山遺跡における権現山先1期の資料 | 92 |
| 第19図 | 主要石器(石鏃・石錘)出土分布 | 32 | 第63図 | 権現山先1期の資料 | 92 |
| 第20図 | 01区S K 71剥片分布 | 32 | 第64図 | 口縁部付近の文様構成の変化 | 94 |
| 第21図 | 剥片の石材組成 | 33 | 第65図 | 口縁部形態と器形の分類 | 94 |
| 第22図 | 剥片出土分布1(下呂石) | 33 | 第66図 | 口縁部形態と器形の相関 | 94 |
| 第23図 | 剥片出土分布2(チャート・サヌカイト) | 33 | 第67図 | 権現山式1期新段階の中津式系深鉢とその関連資料 | 95 |
| 第24図 | 弥生時代後期～古墳時代前期主要遺構配置図 | 34 | 第68図 | 97区S K 31出土土 | 97 |
| 第25図 | 竪穴住居ほか器種組成 | 35 | 第69図 | 福田K 2式系深鉢の比較 | 99 |
| 第26図 | 墳丘墓出土土器の数量比較 | 36 | 第70図 | C字形口縁部貼付文の変遷 | 99 |
| 第27図 | S Z 02土器群出土地点 | 37 | 第71図 | C字形口縁部貼付文をもつ深鉢の比較 | 99 |
| 第28図 | S Z 02器種組成 | 37 | 第72図 | 武士遺跡711・712号土坑出土土器 | 102 |
| 第29図 | S Z 02の変遷過程 | 40 | 第74図 | 新徳寺遺跡S K 201出土土器 | 103 |
| 第30図 | S Z 01、S Z 03、S Z 04、S Z 05器種組成 | 41 | 第73図 | 城之腰遺跡R 24—p 30出土土器 | 103 |
| 第31図 | S Z 04西溝下層遺物出土状態図 | 42 | 第75図 | 称名寺式土器の系統関係 | 106 |
| 第32図 | 古墳時代後期主要遺構配置図 | 44 | 第76図 | 関連遺跡位置図 | 106 |
| 第33図 | 使用石材の構成 | 45 | 第77図 | 集落域と墓域における器種組成の比較 | 109 |
| 第34図 | 横穴式石室遺物出土状況 | 46 | 第78図 | 主要遺構の変遷 | 110 |
| 第35図 | 奈良・平安時代主要遺構配置図 | 48 | 第79図 | 山中遺跡S Z 13 | 111 |
| 第36図 | 溝A遺物出土分布 | 49 | 第80図 | 権現山遺跡における土器群の変遷 | 113 |
| 第37図 | 溝C遺物出土分布 | 50 | 第81図 | 権現山遺跡周辺の遺跡分布 | 115 |
| 第38図 | 溝A・溝C土層断面図 | 50 | 第82図 | 遺跡の消長 | 116 |
| 第39図 | 溝A・溝C器種組成 | 51 | 第83図 | 山中遺跡主要遺構配置 | 116 |
| 第40図 | 鎌倉・室町時代主要遺構配置図 | 52 | 第84図 | 余野遺跡出土の巫鏡と小銅鐸 | 117 |
| 第41図 | 01区東部遺構群 | 53 | 第85図 | 堤下遺跡出土土器 | 121 |
| 第42図 | 97区S K 11遺構図 | 53 | 第86図 | 三ツ井遺跡出土土器 | 121 |
| 第43図 | 江戸時代以降主要遺構配置図 | 54 | 第87図 | 朝日遺跡の貯蔵穴と出土土器 | 121 |
| 第44図 | 97区S D 27土層断面図 | 55 | 第88図 | 尾張低地部における縄文時代遺跡の消長 | 122 |

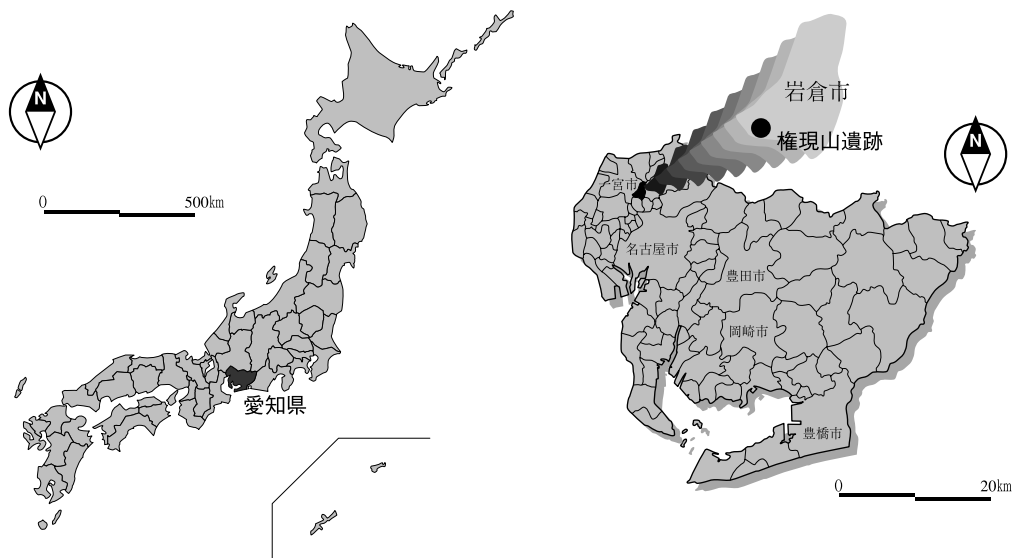
第1章 調査の概要

(1) 調査の経緯

遺跡の位置 権現山遺跡は岩倉市南西部の北島町・野寄町地内に所在する（遺跡番号11052、北緯35度15分55秒・東経135度51分13秒）。遺跡周辺の現況は水田と畑地からなる耕作地帯で、そのなかに住宅、機械・金属・ガラスの生産加工工場などが点在している。

遺跡の発見 従来この地区に遺跡は登録されていなかったが、平成5年度に一宮市、犬山市、江南市、岩倉市、大口町、扶桑町4市2町を対象とした下水処理施設が岩倉市北島町・野寄町および一宮市伝法寺地内に建設されることが決定されたことを受け、愛知県土木部下水道課（当時、現愛知県建設部下水道課）より愛知県教育委員会文化財課（当時、現愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室）に対して事業区域内における埋蔵文化財の有無についての照会があった（4教文第51－49号）。愛知県教育委員会は現地の地形や遺物の散布状況から遺跡の存在を想定し、愛知県教育委員会文化財課・愛知県埋蔵文化財調査センター・岩倉市教育委員会社会教育課の三者が試掘調査を平成6年2月に実施した結果、遺跡の存在を確定した。この試掘結果を受け、事業区域内の遺跡は「権現山遺跡」として新たに登録された。

発掘調査 平成8年度には財団法人愛知県埋蔵文化財センターが愛知県土木部下水道課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、範囲確認調査と本調査、計500㎡の発掘調査を実施した。以降、下水道事業の進捗にともない、平成9年度に1,800㎡、平成11年度に500㎡（範囲確認調査を含む）、平成13年度に2,350㎡の発掘調査を順次実施した。なお、平成11年度以降は財団法人愛知県埋蔵文化財センターから事業を引き継いだ財団法人愛知県教育サービスセンター・愛知県埋蔵文化財センターが調査主体となった。



第1図 権現山遺跡の位置

(2) 調査の経過

平成8年度 本調査と事業区域内の範囲確認調査、計500㎡の発掘調査を実施した。本調査では調査区南西をめぐる溝(S D08)が検出され、溝より出土した遺物から古墳時代前期の古墳の周溝との想定がなされた(その後の調査でS D08は古墳時代後期の円墳の周溝であることが判明)。これによって本遺跡が古墳時代前期を主体とする遺跡であることが判明した。範囲確認調査では水田化された後背地の北東の微高地上において遺跡が広がることを確認した。ただし、用水路以北の野寄町側は天地返しによって大規模に遺構面が破壊されている状況も明らかとなった。



平成9年度調査風景



平成9年度現地説明会

平成9年度 本調査1,800㎡、範囲確認調査200㎡の発掘調査を実施した。本調査は工場敷地内において前年度の範囲確認調査が及ばなかった地点が対象とされた。調査以前には工場の基礎による遺構面の破壊が危惧されていたものの、全面的な遺構面の破壊は免れており、遺物包含層も部分的に残存していた。本年度の調査では新たに縄文時代後期の遺構と遺物が発見されたほか、古墳時代前期、古墳時代後期、古代、中世、近世と各時代の遺構と遺物が確認されたことによって、本遺跡が長期間に及ぶ複合遺跡であることが明らかとなった。また、これらの成果を広く周知させることを目的として、10月4日に現地説明会を開催した。当日は小雨が滴るあいにくの天候であったにもかかわらず、約200名の参加者があった。

第1表 発掘調査工程表

| 調査年度 調査面積 | 調査委託 (県文書番号) | 調査主体 調査担当者 | 調査期間 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|---|---|------|------|-------|----------------|------|------|------|-----|------|------|------|------|-----|------|------|-------|--------------|
| | | | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | | | | | | | | |
| 平成8年度 500㎡ | 愛知県土木部下水道課 愛知県教育委員会文化財課 (8教文第61-12号) | (財)愛知県埋蔵文化財センター 高橋信明 山本寿徳 小川芳範 | | | 6/5 | 7/5 | 96区 | 7/10 | 7/19 | | | | | | | | | | |
| 平成9年度 1,800㎡ | 愛知県土木部下水道課 愛知県教育委員会文化財課 (9教文第61-12号) | (財)愛知県埋蔵文化財センター 大崎正敬 早野浩二 | | 5/8 | 6/3 | 範囲確認 (伝法寺野田遺跡) | 7/1 | | | | | | 10/4 | 11/7 | 97区 | | | | |
| 平成11年度 500㎡ | 愛知県土木部下水道課 愛知県教育委員会文化財課 (11教文第61-06号) | (財)愛知県教育サービスセンター 愛知県埋蔵文化財センター 春日井 毅 鈴木 一 加藤博紀 伊藤太佳彦 木川正夫 藤山誠一 | | 5/10 | 11/11 | 6/2 | 6/10 | 99A区 | 5/17 | 6/3 | 7/28 | 8/11 | | | | 99B区 | 99C区 | 99D区 | |
| 平成13年度 2,350㎡ | 愛知県建設部下水道課 愛知県教育委員会生涯学習課 文化財保護室 (13教文第36-1号) | (財)愛知県教育サービスセンター 愛知県埋蔵文化財センター 石黒立人 鶴飼雅弘 早野浩二 | | | | 6/11 | | 01区 | | | | | | | | | | 10/15 | 9/8 現地説明会 |

なお、範囲確認調査は事業区域内南西部（一宮市伝法寺地内）の散布地を対象として実施され、弥生時代中期を中心とする遺跡の存在が明らかとされた。この遺跡は権現山遺跡と区別して、以降、伝法寺野田遺跡と呼称されることとなった（平成10、11、14年度に本調査を実施）。



平成11年度調査風景

平成11年度 本調査と事業区域内の範囲確認調査、計500㎡の発掘調査を実施した。本調査は管理設工事にともなうもので、既調査区の周囲にA区（250㎡）、B区（100㎡）、C区（100㎡）、D区（50㎡）の4調査区を設定した。A～D区の調査区はいずれも長狭で、遺構の全体像の把握が困難であったが、A区北東において縄文時代中期末葉の遺構と遺物を検出した。範囲確認調査は事業区域内南



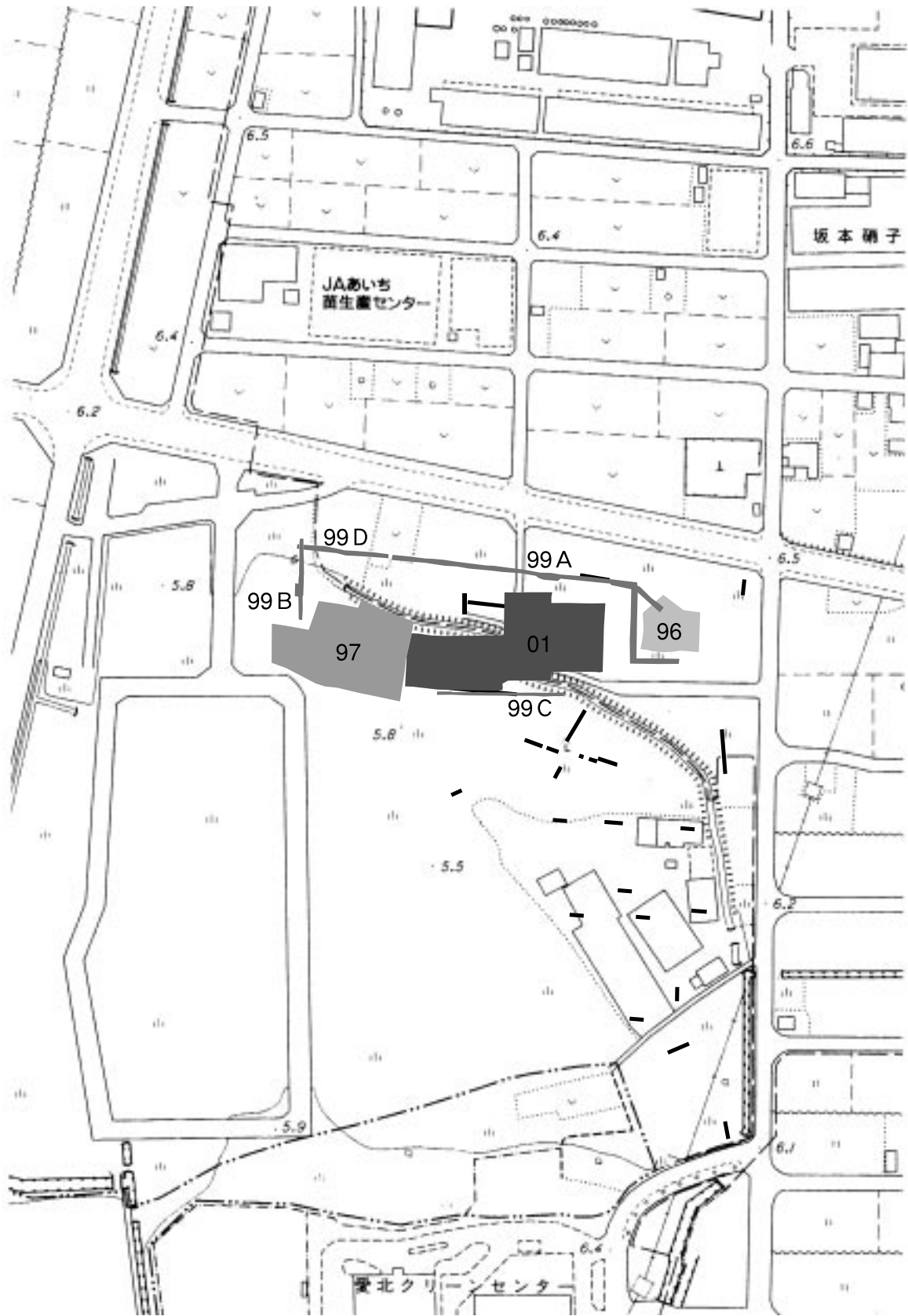
平成13年度調査風景

東部の工場跡地を対象とした。結果、いずれの試掘坑においても遺構、遺物の出土はみられず、対象地区が遺跡の範囲外であることを確定した。

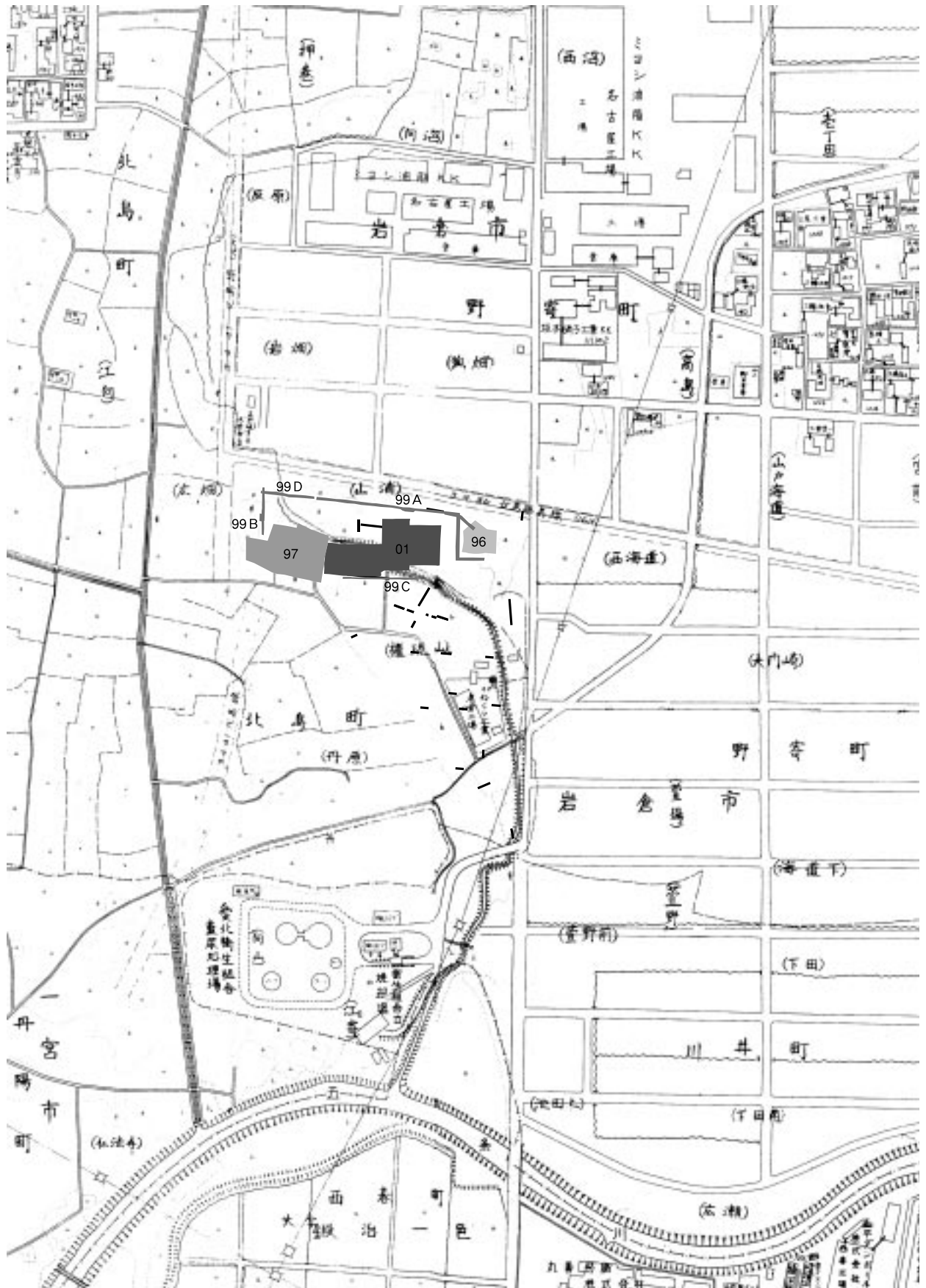
平成13年度 2,350㎡の発掘調査を実施した。調査区東半部の野寄町側は、遺構面がかなり破壊を被るといった状況であった一方、調査区西半部の北島町側は遺構面の残存がことのほか良好であった。本年度の調査では、古墳時代前期と古墳時代後期の墓域が広範囲に展開すること、縄文時代後期の遺物包含層と遺構群が調査区西部にまで及んでいることが確かめられた。また9月8日には現地説明会を実施しこれらの成果を公表した。当日は大型の墳丘墓が話題となり、好天に恵まれたことも手伝って、約500名の方々が遺跡を訪れた。

文献

- 山本寿徳 1997「権現山遺跡」『年報』平成8年度 財団法人愛知県埋蔵文化財センター
財団法人愛知県埋蔵文化財センター 1997「権現山遺跡現地説明会資料」
財団法人愛知県埋蔵文化財センター 1998「権現山遺跡」『ぶんか』第90号 愛知県教育委員会文化財課
- 山本寿徳 1998「権現山遺跡」『愛知県埋蔵文化財情報』13 平成8年度 愛知県教育委員会・財団法人愛知県埋蔵文化財センター
- 大崎正敬・早野浩二 1998「権現山遺跡」『年報』平成9年度 財団法人愛知県埋蔵文化財センター
大崎正敬・早野浩二 1999「権現山遺跡」『埋蔵文化財情報』14 平成9年度 愛知県教育委員会・財団法人愛知県埋蔵文化財センター
- 財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター 2001「権現山遺跡現地説明会資料」
早野浩二 2001「権現山遺跡」『まいぶん愛知』No.67 財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
- 愛知県埋蔵文化財センター 2002「権現山遺跡の発掘調査」『広報いわくら』No.739 岩倉市役所
鶴飼雅弘・早野浩二 2002「権現山遺跡」『年報』平成13年度 財団法人愛知県教育サービスセンター
愛知県埋蔵文化財センター
- 早野浩二 2003「権現山遺跡」『愛知県埋蔵文化財情報』18 平成13年度 愛知県教育委員会・財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター



第2図 調査区配置図 (1:2,500)



第3図 遺跡周辺字図 (1 : 4,000)

(3) 位置と環境

1) 地形

濃尾平野 伊勢湾を臨む濃尾平野は西縁を養老山地、東縁を台地や段丘群の発達する更新統堆積物によって画されるわが国第三位の面積を保する平野である。とくに木曾川を隔てた左岸域(愛知県側)の扇状地帯、自然堤防帯、三角州帯からなる平野面は尾張平野とも呼ばれ、その主要部は犬山扇状地を分流する古木曾川水系の諸河川による夥しい堆積物、第四紀沖積層によって覆われている。

木曾川系 調査地である岩倉市南西部の野寄町および北島町地区は、犬山扇状地の末端から南西方向に広がる木曾川系自然堤防帯に位置する。付近の標高は約7mである。周辺には自然堤防が良好に発達し、自然堤防間には旧河道跡が多く認められる。しかし自然堤防は、古くからの開田、河道の付け替え、あるいは近年の土地改良事業によって改変され、現在はその名残すら、島島が残る一宮市丹陽町三ツ井地区を除いてほとんどみられなくなってしまっている。

2) 周辺の遺跡

権現山遺跡が所在する岩倉市北島町、野寄町地区には弥生時代前期、古墳時代前期を中心とした北島白山遺跡などが知られている。また、南西に隣接する一宮市丹陽町伝法寺地区には弥生時代中期を中心とする伝法寺野田遺跡、弥生時代前期、古墳時代前期、戦国時代を中心とした元屋敷遺跡、白鳳寺院



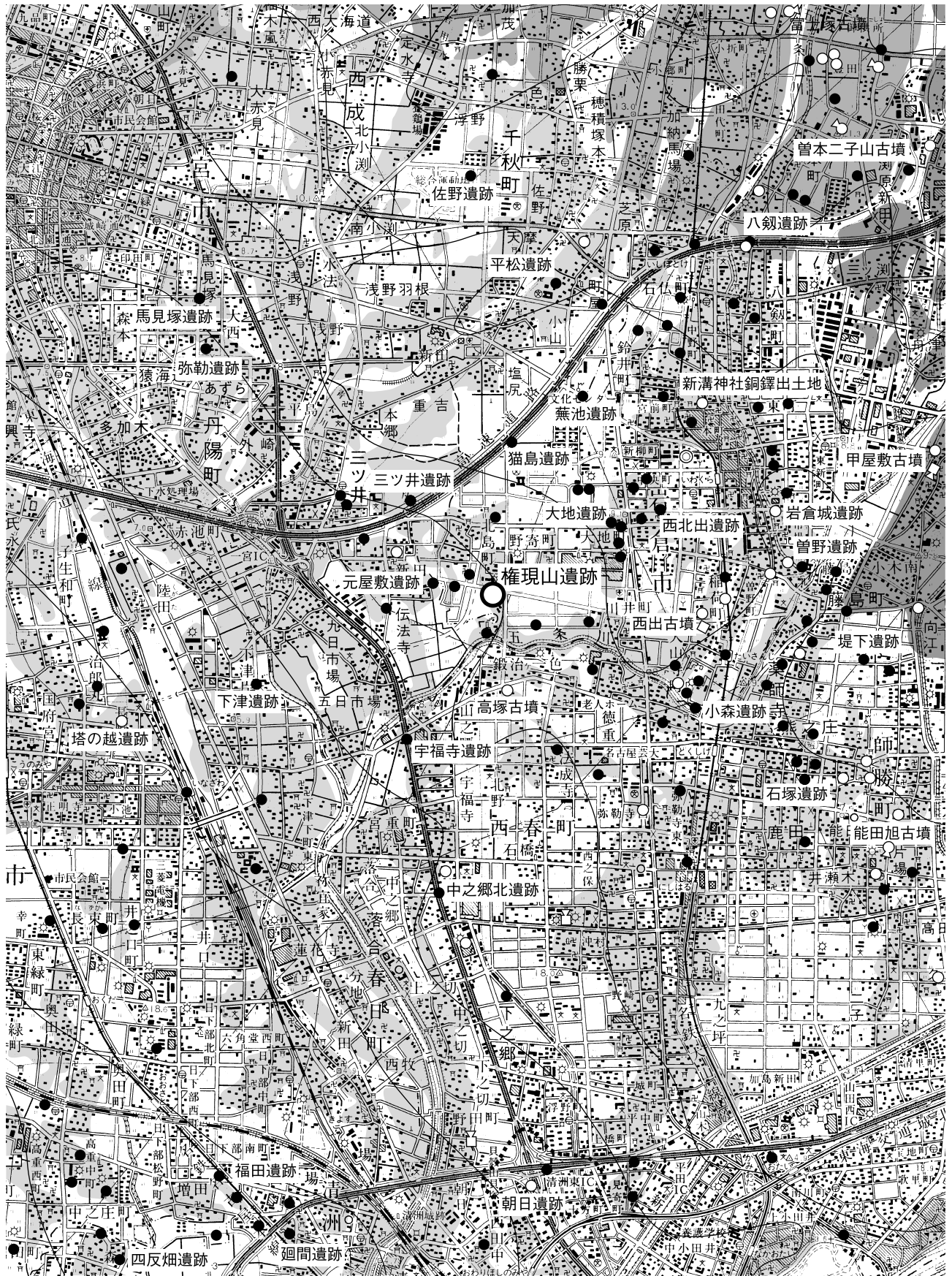
伝法寺野田遺跡

として伝法寺廃寺をはじめとする遺跡らが所在する。伝法寺野田遺跡は権現山遺跡と同じく、五条川右岸流域下水道浄化センター建設にともなって新たに発見、調査された遺跡で、弥生時代中期の水田跡の検出、同時期に帰属する無茎銅鏃の出土が注目された。

三ツ井遺跡 遺跡北西の一宮市丹陽町三ツ井、千秋町地区では縄文時代後・晩期から弥生時代前期を中心とする三ツ井遺跡、弥生時代中期を中心とする猫島遺跡が発掘調査された。前者では弥生時代前期の水田跡の検出、後者では面的に調査された環濠集落が特筆される。

岩倉城遺跡 一方、岩倉市街にほど近い川井町、大山寺町、大地地区に目を転じると、白鳳寺院として薬師堂廃宇、古墳時代中期の西出古墳、古墳時代前期を中心とする小森遺跡、弥生時代中期を中心とする大地遺跡をはじめとする各時代の遺跡が密集する。岩倉城遺跡では岩倉城に関連する遺構のほか、古墳時代前期をはじめとする各時代の遺構が検出された。

周辺の遺跡を概観したとき、かなり濃密な遺跡分布が知られること、また、それらの多くが列記にも余る複数の時代に関係することが容易に理解される。そこで次に、権現山遺跡の形成とも深く関係する旧石器・縄文時代、弥生・古墳時代それぞれの周辺遺跡の分布、さらには遺跡と環境変化とのかかわりについて、視野を広げてやや詳細に眺めてみることにする。



第4図 周辺の遺跡 (1 : 50,000)

3) 旧石器・縄文時代

後期旧石器時代 後期旧石器時代から縄文時代草創期にかけての遺跡は、犬山扇状地の扇中央部付近と小牧山
縄文時代草創期 から派生する鳥居松面と小牧面の台地上に立地する。後期旧石器時代の遺物は小牧市総濠遺跡などにおいて、縄文時代草創期の遺物は大口町中原遺跡などにおいて確認されている。標高は沖積面に近い総濠遺跡で約15mである。

縄文時代 縄文時代早～前期には縄文海進の高頂期を迎え、伊勢湾が内湾化する。当時の海岸線は現在
早～前期 の海拔5.0～7.5mに沿うようであって、権現山遺跡近く（岩倉市南西部から稲沢市北東部）にも内湾が拡大していたものと推定されている。縄文時代早期の遺跡としては、早くから大口町北替地遺跡、小牧市織田井戸遺跡が知られてきたが、近年、小牧市浜井場遺跡では集石土坑と煙道付炉穴が検出された。

縄文時代中期 縄文時代中期には「縄文中期の小海退」によって海岸線が後退する。縄文時代中期末葉の一宮市佐野遺跡、岩倉市野辺・ノンベ遺跡、権現山遺跡、**師勝町堤下遺跡**が標高7.5～10mの等高線上に立地する事実は、「海退」以後、活動域が南西に向けて大きく拡大したことを示している。

縄文時代後期 縄文時代後期には河川による粗粒堆積物（沖積上部砂層）の堆積が終息し、静穏な環境へと移行する。これに呼応するかのようには、権現山遺跡の周囲には縄文時代後期初頭から中葉の遺跡が面をなして分布するようになる。岩倉市域には、大地新町の西北出遺跡、大地地内の二本木遺跡、穴田遺跡、大地遺跡、大地町・川井町の野辺・ノンベ遺跡が知られ、さらに一宮市**三ツ井**・猫島遺跡を含めると、東海地方でも有数の遺跡密集地帯を形成していたものと把握される。また、清洲町朝日遺跡の埋積浅谷近くにおいて検出されたドングリ貯蔵穴は縄文時代後期前半における生業活動の一端を示す重要な資料として評価される。

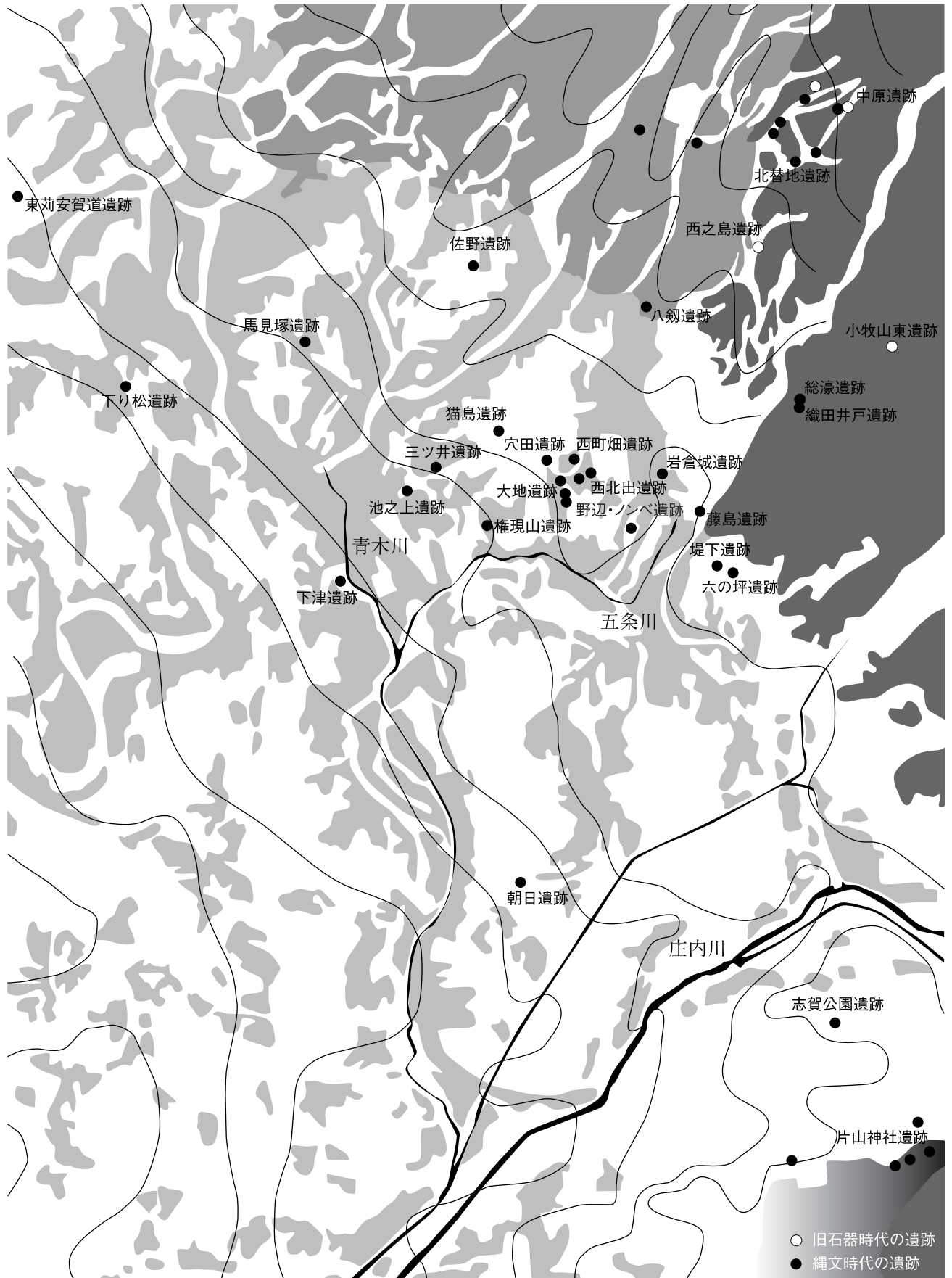
縄文時代晩期 縄文時代後期後葉から縄文時代晩期にかけて、岩倉市八剣遺跡、稲沢市下津遺跡、一宮市馬見塚遺跡、一宮市下り松遺跡、尾西市東苺安賀道遺跡など、より広範囲に縄文時代の遺跡が展開する。これらの遺跡は下津遺跡や東苺安賀道遺跡のように、沖積層の下位において発見されることも多い。縄文時代後期から晩期にかけての「縄文後期の再海進」、縄文時代晩期から弥生時代前期の小海退にともなって堆積環境が不安定化したことを反映しているであろう。朝日遺跡が縄文時代晩期に断絶することをも考慮するなら、縄文時代から弥生時代への移行には環境変化の影響も大きく作用していたものと考えられる。



三ツ井遺跡



馬見塚遺跡



第5図 旧石器・縄文時代の遺跡分布 (1 : 80,000)

4) 弥生・古墳時代

弥生時代前期 弥生時代前期には、一宮市三ツ井遺跡、一宮市元屋敷遺跡をはじめとして、活発な遺跡形成が認められる。元屋敷遺跡では環濠集落が、三ツ井遺跡では用水をともなった水田跡が検出されていて、集落形成と可耕地の獲得が地域社会において、およそ一体として進行したことを示している。ただし、権現山遺跡周辺のこれら弥生時代前期の遺跡は総じて短命で、清洲町朝日遺跡、一宮市八王子遺跡、名古屋市西志賀遺跡、名古屋市高蔵遺跡といった地域の中核たる集落とはその形成過程を異にしている。

弥生時代中期 弥生時代中期の遺跡としては、大地遺跡が早くから知られていたが、現在は都市化の進行によって、遺跡の全体像を知ることはもはや難しい。近年に調査された一宮市猫島遺跡、一宮市伝法寺野田遺跡の例から推すなら、弥生時代中期は弥生時代前期と同様、長短に差こそあれ、継続的な大規模集落の形成は認めがたい。猫島遺跡では、二重の環濠とそれに付属する生産域が検出されていて、集落としての継続性が維持されていたことを示すが、環濠の機能など、朝日遺跡などの環濠集落とは必ずしも一体視できない部分も多い。

弥生時代後期 弥生時代後期の遺跡は蕪遺跡を除いて、周辺の遺跡にかかる情報はきわめて断片的であるものの、遺物は遺跡周辺で広く採集されている（名古屋博物館所蔵浅野清春コレクションなど）。

古墳時代前期 つまり、弥生時代には集落の地点移動が小規模に繰り返されたものと推測され、原則的にこの傾向は古墳時代に継続する。**周辺の古墳時代の遺跡**としては、権現山遺跡のほか、元屋敷遺跡、三ツ井遺跡、岩倉市小森遺跡、岩倉市岩倉城遺跡をはじめとする遺跡が知られていて、より面的に遺跡が形成される。古墳時代の集落形成は、濃尾平野における集落遺跡の相対的な増加現象にも呼応するものであろうが、小地域単位に則してより微視的にその過程を分析する必要がある。一方、前方後円墳など大型古墳の築造は顕著でない。古墳時代中期前半に西春町高塚古墳が中央政権に通じる埴輪祭式を受容しているにもかかわらずである。古墳時代前期の大型古墳が継続的に築造される小牧市小木地区との関係がさしあたっての重要な課題となるであろう。

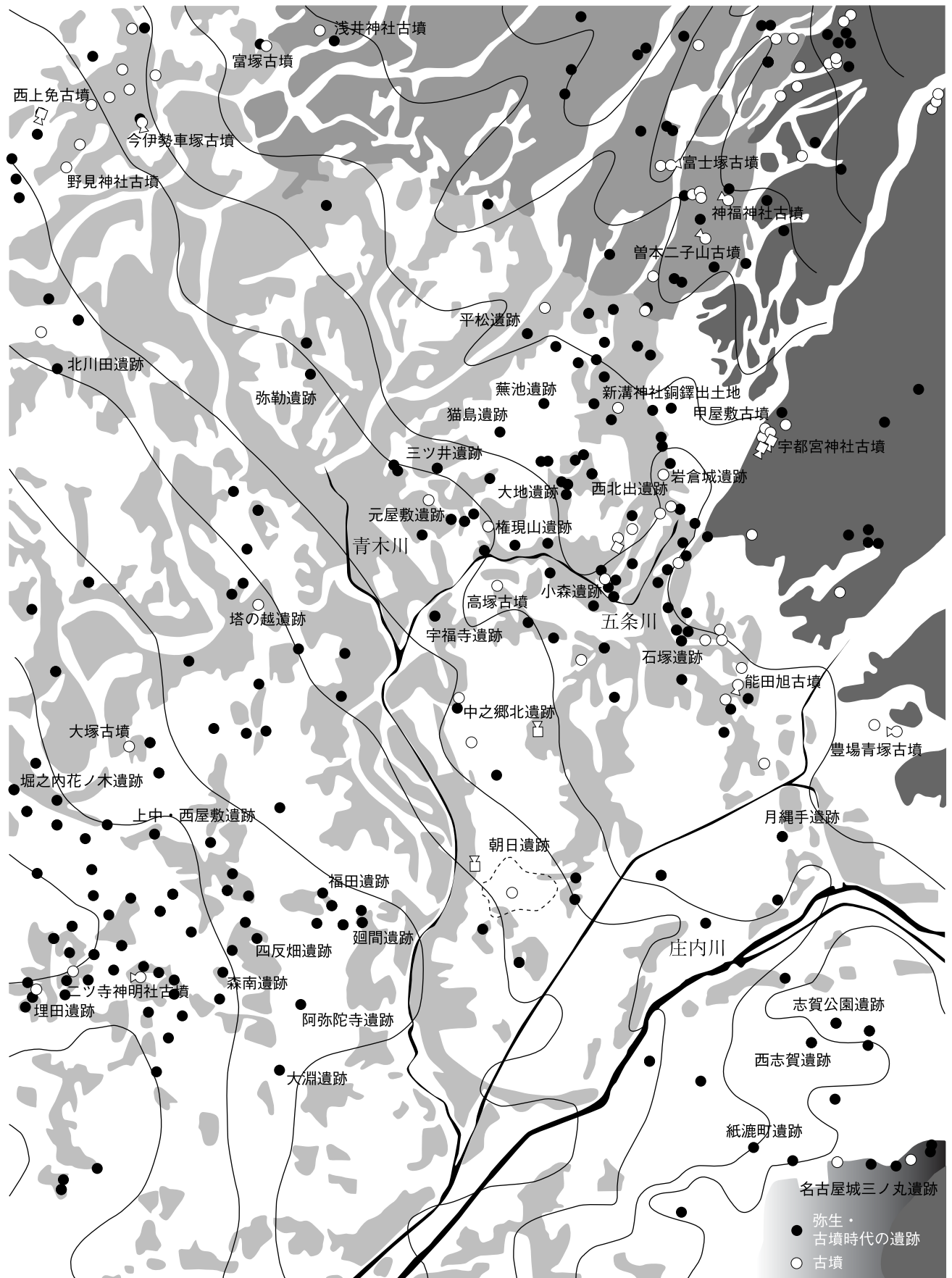
中之郷北遺跡 五条川中流域から下流域にかけて、現状では弥生・古墳時代の遺跡分布が希薄となるものの、古墳時代の遺跡が想像にも及ばないダイナミックな沖積作用によって深く埋没していることを、西春町中之郷北遺跡、西春町宇福寺遺跡の調査が教えてくれた。この地域における弥生・古墳時代遺跡、あるいは古墳の景観やその分布が、「見かけ」のうえでは語り尽くせないものであることを最後に強調しておきたい。



高塚古墳



中之郷北遺跡



第6図 弥生・古墳時代の遺跡分布 (1:80,000)

5) 史料からみた野寄・北島の中近世

中世の「野依」 中世に入り、野寄（史料上は野依）の地名が文献上に現れる。浄金剛院領千代氏荘は尾張国尾張藩領の在庁官人らが弘安五（1282）年、各地に散在していた国衙領を寄進して成立した荘園である。このとき作成された「浄金剛院領尾張国千代氏荘坪付注進状案」⁽¹⁾の鈴裳名の項目に「丹羽郡東条野依村三丁一反半」とあり、国衙領であったことが確認できる。その後千代氏荘は、室町時代初頭の文和二（1353）年ごろ醍醐寺三宝院領となるが、この年の「尾張国諸郷保以下年貢并料足用途注文」⁽²⁾に野依村から4回にわたり、合計1貫223文の年貢が納められたとの記述がある。一方、猿投神社文書熱田社領関係文書⁽³⁾中、「熱田社領国衙方横妨注文案」に「野依供御所」の記載があり、降って室町時代中ごろ文明三（1471）年5月の「尾張国一宮社領年貢注文」⁽⁴⁾にも「七貫七百五十文 野依」とある。これらのことから、野依村には国衙領から立荘された地域と神社領があったことがわかる⁽⁵⁾。

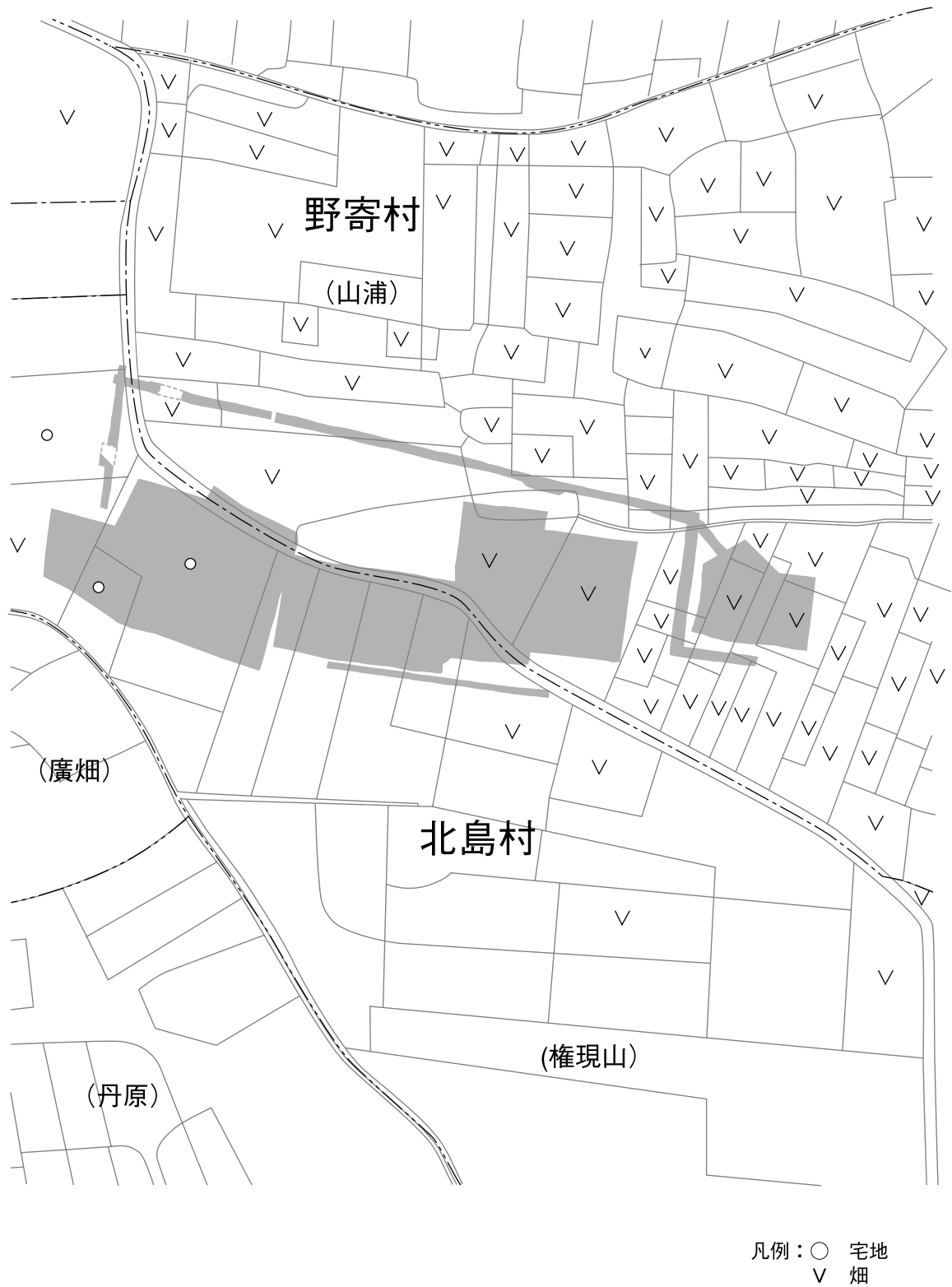
中世の北島村 北島村の地名が文献上に現れるのは室町時代のことである。天文九（1540）年、正眼寺⁽⁶⁾に対し、春日井郡宇福寺村（現西春日井郡西春町）・丹羽郡伝法寺村（現一宮市丹陽町）とともに、三か村あわせて寺領150貫を寄進する旨の足利義晴御内書⁽⁷⁾が出されたとされる。

戦国・近世 戦国時代から織豊期に至る両村の状況は史料的に制約が多く、わずかに慶長七（1602）年「伊勢太神宮御木材之帳」⁽⁸⁾に「北島村 野依」の記載があること以外、目立った記事はみられない。江戸幕府が成立し、尾張藩領になってからの両村の状況を、『寛文村々覚書』⁽⁹⁾・『尾張徇行記』⁽¹⁰⁾の記事に従ってまとめると、野寄村は元高四百八十三石七斗一升二合、概高六百二十二石三斗六升である。このうち御蔵入高は二十石一斗二升、残りは藩士16名の相給である。北島村は元高九百三十四石七斗五升四合、概高千五十九石六斗七升である。村全体が藩の御付家老成瀬隼人正の知行地である。『尾張徇行記』によると、古来より戸口があり、村立がよく「頭百姓も二三戸アリテ農商ヲ兼タル者モアリ」という状況であった。

地籍 調査区は旧野寄村山浦・旧北島村権現山の境に流れていた水路跡をはさみ設定されている（第7図）。明治十七（1884）年に作成された地籍図によると、字山浦は島が卓越し、一方、字権現山は用材林及び宅地とされている。この宅地については、『尾張徇行記』の「田畑三町四反八畝三步給人自分起家数二軒（中略）、是ハ本郷辰巳ノ方幼川ノ辺ニアリ」の記載に相当するものと考えられる。

註

- (1) 『愛知県史 資料編8 中世1』478号文書（以下県史8-478と略す）。
- (2) 『新編一宮市史 資料編六』366号文書（以下一宮6-366と略す）。
- (3) 県史8-597。
- (4) 一宮6-347。
- (5) 上村喜久子によれば、尾張国衙領の名の一部あるいは全部が神社・寺院等の所領となった後も、名は税の取収単位としてのまとまりを維持しているとされる。『一宮市史 本文編 上』第七章第二節参照のこと。
- (6) 曹洞宗正眼寺は応永元（1394）年、天鷹禪師が伝法寺（現一宮市丹陽町）の廃跡に創建したとある（『尾州府志』）。その後元禄二（1689）年三淵村（現小牧市三ツ淵）に移転したが、末寺は向陽寺（岩倉市北島町）など西春日井郡を中心に分布する（『岩倉市史 上』）。
- (7) 一宮6-236。なお註に東洋文庫蔵「尾張国春日井郡丹羽郡葉栗郡寺社領」所載とあり、文書は現存しないとされる。また『東春日井郡史』には、南北朝合一後の応永五（1398）年六月、正眼寺に対し三か村を寄進する旨の足利義満朱印状が紹介されている。
- (8) 『岩倉市史 上』82頁。
- (9) 『名古屋叢書続編』1巻。
- (10) 『名古屋叢書続編』6巻（同書は『郡村徇行記』とも呼称し、樋口好古により、文政5（1822）年に完成した）。



第7図 調査区周辺の地籍図と調査区的位置 (1:1,500)

第2章 遺構と遺物

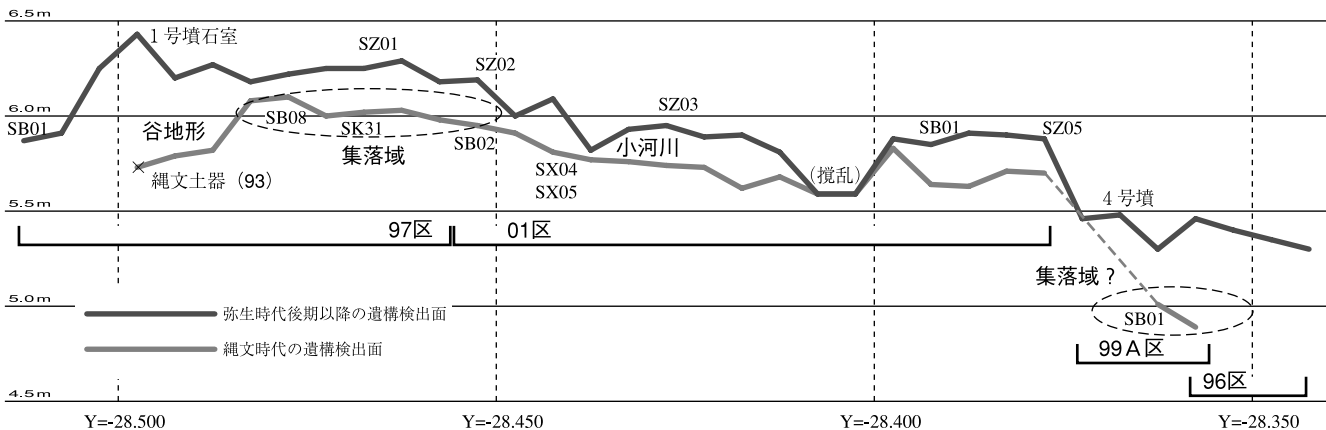
(1) 層位と微地形

基本層序 権現山遺跡が立地する自然堤防状微高地の基本層序は、上位から表土（耕作土、客土）、黒褐色シルト層、淡黄色極細粒砂層、灰白色細～粗粒砂層の層順で、相対的に安定している。黒褐色シルト層は弥生時代後期～古墳時代前期の遺物を中心に古代までの遺物を包含するが、それは部分的に確認されるのみで、調査区の大半は表土下に淡黄色極細粒砂層が堆積する。弥生時代後期以降の遺構の大部分はこの淡黄色極細粒砂層の上面で検出された。

遺物包含層 淡黄色極細粒砂層は縄文時代後期の遺物を多く包含する層（層厚0.2～0.5m）で、その下位の灰白色細粒砂層の上面で縄文時代後期の遺構群を検出した。ただし、淡黄色極細粒砂層から灰白色細粒砂層への層位変化は漸位的で、結果的には遺物が包含される状況を加味しつつ、遺構検出面を決定した。その下位は基本的に粗粒砂の堆積が認められる。この粗粒砂層は斜層理が明瞭であったことから河川内の堆積物と判断される。

遺跡の断面 第8図に遺跡の東西方向（約200m）の断面を模式化し、弥生時代後期以降の遺構検出面と縄文時代後期の遺構検出面を示した。これから、97区が周囲よりも相対的に高く、縄文時代後期の集落が自然堤防の最高所を選地していること、また縄文時代後期の遺構検出面と弥生時代後期以降の遺構検出面の起伏が概ね対応することが理解される。よって、自然堤防の形成以後、大規模な造成が及ぶまで、遺跡周囲には1m前後の起伏が存在したことになる。

微地形 さらに周辺の試掘結果と遺構の分布状況を参考にすれば、自然堤防の範囲は、西端と南端が急斜面、東端と北端が緩斜面となる東西約200m、南北約100mの範囲が想定される。つまり、南西に舌状気味に張り出した自然堤防状微高地の最高所を中心として形成された遺跡の景観が復原される。



第8図 遺跡の微地形（水平方向1：1,000・垂直方向1：40）

(2) 時期区分

本報告では、権現山遺跡を縄文時代後期、弥生時代後期～古墳時代前期、古墳時代後期、奈良時代後期～平安時代前期、鎌倉・室町時代、江戸時代の大きく6つの時期に区分して理解する(第2表)。以下に、各時期の検出された遺構と遺物について概説する。

縄文時代 97区東半部から01区西半部にかけて、縄文時代後期初頭～前葉の遺構と遺物が比較的濃密に検出された。遺構は竪穴住居、土器埋設遺構、石器製作関連遺構などによって構成される。出土土器は中津Ⅱ式～福田K2式にまとまりをみせる。なお、99A区では中期末葉の遺構と遺物を確認した。

弥生時代後期～古墳時代前期 遺跡のほぼ全域にわたって遺構と遺物が広がり、5基の大型墳丘墓を中心とした遺構が展開する。同時に竪穴住居2棟を検出した。これらの遺構群は墓域の景観を復原するうえで興味深い事例である。

古墳時代後期 古墳時代後期に遺跡は再び墓域として利用される。発掘調査では4基の円墳(1号墳～4号墳)を確認した。1号墳では川原石を使用した横穴式石室も残存していた。これらは、すでに滅失したであろう古墳とあわせ、尾張低地部に展開する群集墳の好例としてよい。

奈良時代後期～平安時代前期 調査区を縦断する溝数条と竪穴住居1棟(97区SB02)を確認した。遺構から出土する遺物は奈良時代後期に概ねまとまりをみせる。

鎌倉・室町時代 調査区各所で散発的に遺物が出土し、円形と方形の数基の土坑が確認されるのみ。鎌倉時代を中心に遺跡は墓域として機能していたものと推測される。

江戸時代 屋敷とその周辺の区画が確認された。発掘調査において確認した区画は地籍図にみえる区画とも一致し、土地利用についても概ね一致する。

第2表 主要遺構時期区分表

| | 97 | 99ABCD | 01 | 96 |
|-------------------|---|-------------------------------|--|------|
| 縄文時代後期 | SB06,SK67 SB08,SK31 SK36,SK40 | A SB01 (中期末葉) | SB02,SK71,SK73 SX04,05(小河川) | |
| 弥生時代後期～ 古墳時代前期 | SB01 SK10 SK121 SD49 SZ01(SZ01) SZ02(SZ02) | C SD13 | SB01 SD35(SZ03) SD11,17,20(SZ04) SD07(SZ05) SD64(SZ02) | |
| 古墳時代後期 | SD13,20,31,SX01(1号墳) SD57,73,78(2号墳) SD76,86(3号墳) | B SD09 A SD07 | SD08(4号墳) | SD08 |
| 奈良時代後期～ 平安時代前期 | SB02 SD16,30,34,45 SD37 | D SD10 | SD19 SD50,SK49 | |
| 鎌倉・ 室町時代 | SD24 SK11 SK12 | B SD02 C SD01 C SD10,12 | SK01 SD01,SD02,SD31 SD65 | |
| 江戸時代 | SD17 SD23,27,28 SD26,SD79 SE03,SE04 SE05 | C SD06 B SE01 | SD22 SD45 SD51 Sk40 SE01 | |

(3) 縄文時代

1) 遺構の確認

調査の経過 縄文時代の遺構と遺物の存在は、試掘調査あるいは平成8年度の本調査と範囲確認調査を経過した段階では予見しえず、平成9年度の調査においてはじめて認識した。調査当初に基盤層として想定した淡黄色極細粒砂層中に縄文土器が包含されていることが判明したことによって、はじめて本遺跡が縄文時代の遺跡であることを認識するにいたったのである。

以後の調査では、より客観的な遺構検出面の確定と遺構の認定を目標としたが、色調や土質の変化に乏しい淡黄色極細粒砂層の解釈は容易でなく、遺構検出面の確定に対して機械的に処理した部分がなかったことは否定できない。その一方で、遺構は炭化物や焼土の散布状況を考慮しつつ検出することとし、可能な限り遺構を断ち割って土層断面を観察、記録する作業を通じて遺構としての蓋然性を高めることに努めた。また、遺跡には弥生時代後期以降の大型の遺構や攪乱坑によって、縄文時代の遺構はその多くが何らかの人為的な破壊を被り、遺構の全体像の把握には困難がともなった。

結果、安定した遺物の出土状況、あるいは明確な遺構断面が確認されるものと、その反面、遺構とするには根拠が不十分な遺構とが混在する状況が生じた。この状況は集落景観の復原に大きな弊害をもたらすことは自明であるものの、原則として両者を同様の扱いで提示することとした。そこで、以下の遺構の報告においては、少なくともこれらの遺構に対する客観的な判別を妨げない記述を意識しつつ説明を加えることに努めたい。

2) 縄文時代中期末葉

99 A区 遺跡の北東端付近、99 A区の北東において竪穴住居1棟を確認した。ただし、調査区の制約から遺構の把握が困難で、炭化材や土器、礫が散在する径6.0m前後の浅い窪みを竪穴住居として認定したにすぎず、炉や柱穴も明確でない。なお、出土した礫は大部分が濃飛流紋岩で、花崗岩、砂岩、凝灰岩、泥岩がわずかに混在していた。

出土遺物 出土土器として深鉢3個体(1~3)がある。1は低い幅広の隆帯による連弧文状の区画をもつ深鉢で、隆帯には長刺突が連続して加えられる。体部には細い沈線によって綾杉状の文様を施す。西尾市八王子貝塚VI層第1群b類、南知多町林ノ峰貝塚G層1f類に類するものであろう。2は細身の深鉢で、細い縦位の沈線が施される。体部上半は残存しないが、沈線によって綾杉状の文様を構成しているものと推定される。師勝町堤下遺跡に器形、文様が類似した個体が存在する。これらは縄文時代中期末葉の山の神式に対比される。



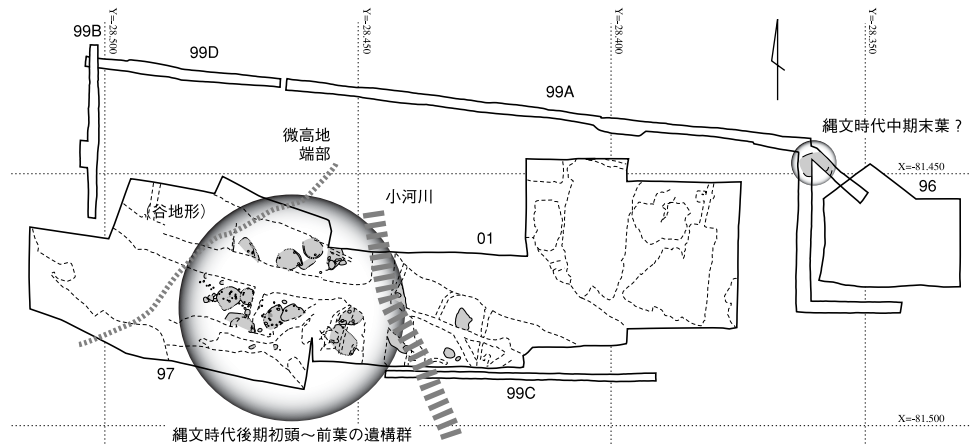
八王子貝塚



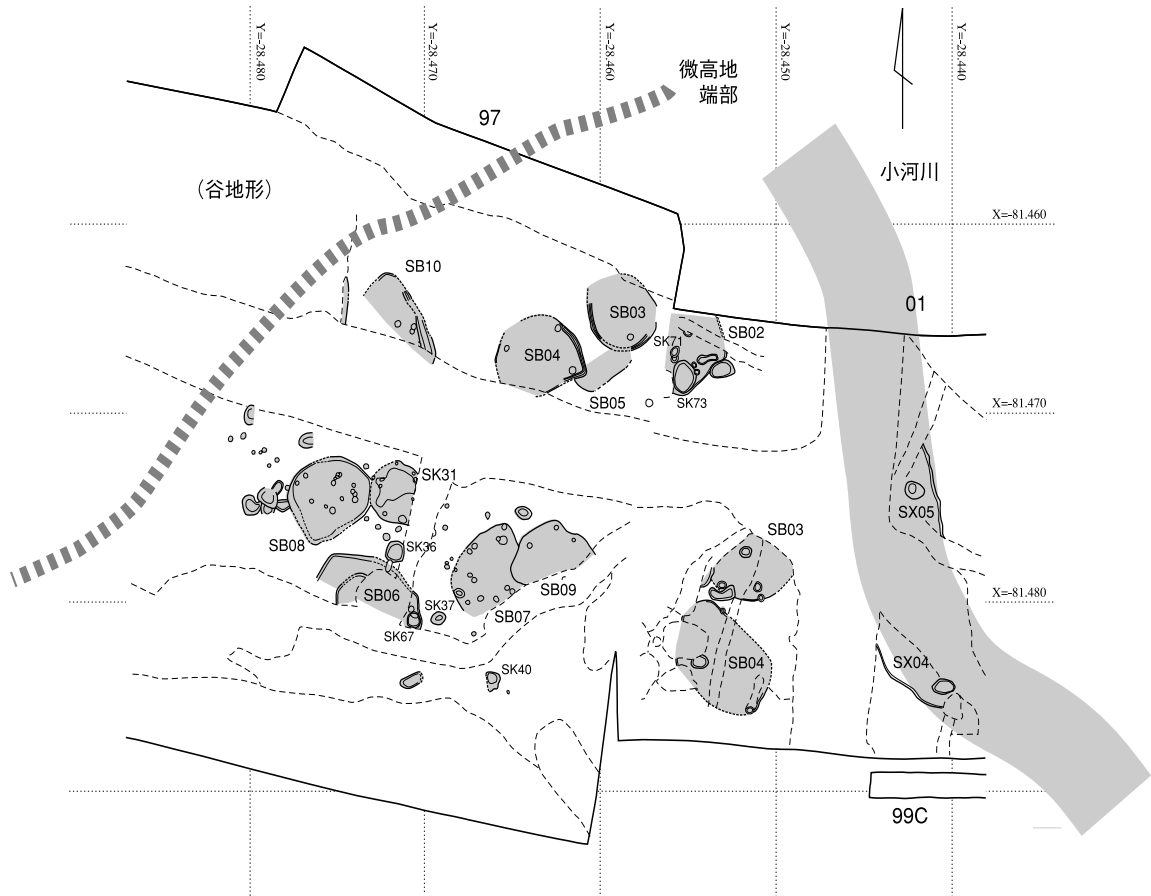
堤下遺跡

なお、99 A区周辺においては、散発的に縄文時代後期初頭の土器が出土する(4~6)。4は円形に窪ませた部分に接して文様帯が展開する特徴的な個体。双耳壺の可能性を指摘したい。文様帯は2本沈線と3本沈線が交互に配される。福田K2式第2段階。96区出土。6は3本沈線が縦横に配される。福田K2式第2段階。99 C区出土。

縄文時代中期末葉の遺構や遺物は99 A区北東部以外に皆無であること、遺構を検出した地点は遺跡でも標高が低いことから、集落が安定して存在した可能性は低い。



第9図 縄文時代遺構配置図 (1:1,500)



第10図 縄文時代後期遺構配置図 (1:400)

3) 縄文時代後期初頭～前葉

包含層

縄文時代後期の遺物包含層と認識した淡黄色極細粒砂層は、遺跡全域にわたって安定して堆積する。そのなかでも遺物が包含されるのは、97区から01区西半部にかけての東西約80mの範囲で、01区東半部や周辺の調査区において遺物はほとんど出土していない。包含層の層厚は概ね0.2～0.3mで、谷状に緩やかに落ち込む97区北西部では0.4～0.5mに達する。

遺構

縄文時代後期の遺構は、97区東半部から01区西半部にかけての東西約50mの範囲で比較的濃密に認められた。検出された遺構には竪穴住居12棟と土坑104基があるほか、不整形な落ち込み3基、小河川状の落ち込み1条がある。なお、竪穴住居と土坑は97区北西部の浅い谷状の落ち込みと01区の小河川状の落ち込み（01区S X 04、01区S X 05）との間にその分布が集約される（第10図）。

竪穴住居

97区S K 31 攪乱によって東端部と北西端部が失われているものの、平面形として径約3.1mの円形が想定される。断面形は皿状で、深さは中央付近において約0.3mを計測する。これらの特徴から当初は大型の土坑と認識したが、遺構底面において小土坑が検出されたことから、竪穴住居の蓋然性がより高いものと判断した。また、97区S B 08と切り合い関係を有し、発掘調査の段階においては97区S B 08が97区S K 31に先行するものと把握したが、重複部分はわずかで先後関係は確実ではない。埋土中には炭化物が大量に混入し、埋土そのものも黄褐～褐色を帯びていた一方、炉あるいは焼土面は検出されなかった。小土坑は8基検出された。これらのうち、97区S K 110、97区S K 112、97区S K 114、97区S K 115、97区S K 117を主柱穴と想定し、攪乱によって失われた東端部分を考慮すると、六角形の主柱穴配置が復原される。

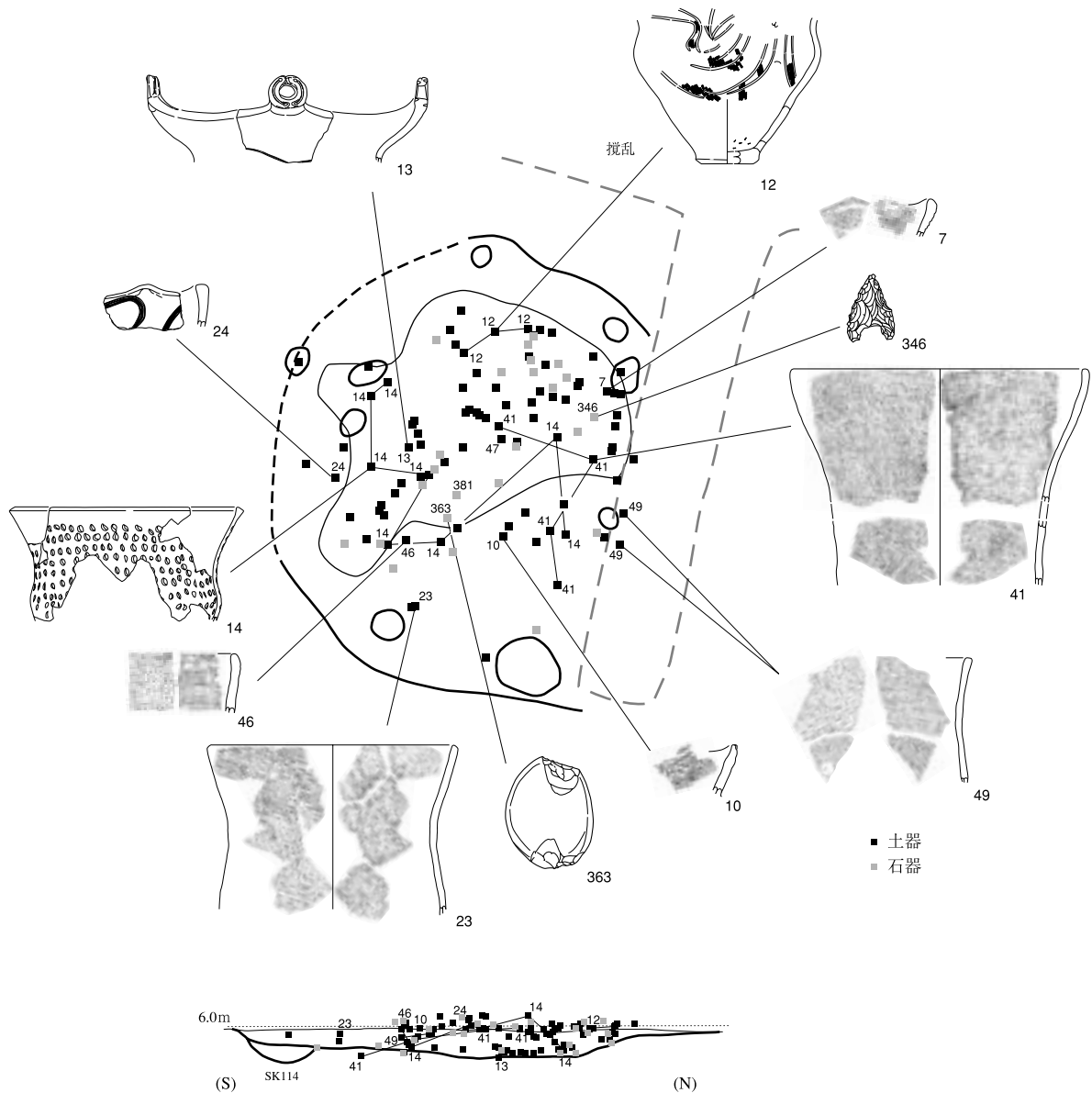
遺構からはまとまった遺物が出土した。これらは床面より10～20cm浮いた位置で出土したものが多く、埋土が単純であることから、住居の廃絶後に一括して廃棄された状況が想定されるであろう（第11図）。遺構の帰属時期は出土した土器から概ね福田K 2式第2段階と判断する。

出土遺物

出土土器として44点、22個体（7～50）を図示した。7～9は幅広の磨消縄文帯をもつもので、中津Ⅱ式を前後するもの。7はやや厚手の波状口縁で、沈線を介さず口縁部直下に縄文帯を配すことから、中津Ⅰ式に近い位置が与えられる可能性がある。10は波状口縁の頂部を起点としてきわめて細い3本沈線を描出するもの。調整や胎土は粗製土器に近似する。12は2本沈線による磨消縄文帯をもつもので、頸部が緩やかにくびれる器形が想定される。幅1.1cm前後の縄文帯は体部下位にまで展開し、下位の沈線は相対的に細く弱い。沈線の末端は開放する傾向が顕著。福田K 2式第1段階に対比される。13は称名寺Ⅱ式から堀之内Ⅰ式に多く認められるC字形口縁部貼付文をもつ深鉢。なお、実測図は4単位波状口縁として図示した。C字形口縁部貼付文は中央が貫通し、貫通孔をめぐる沈線両端に小円孔を配したものの。刺突は内外面両面に加えられる。口縁部は内折し、端部は緩やかに窪む。頸部は無文で大きくくびれ、その下位には沈線が認められる。称名寺Ⅱ式の後半に相当するものか。

14～22は横方向から深く抉るような刺突（花弁状刺突）が器面を充填するもの。施文の手法は北陸北東部の三十稲葉式に通じる。14～21は同一個体で、22は刺突文間に細密な条線が観察されることから、あるいは別個体の可能性もある。なお、同一個体の破片は97区S B 08からも出土している。14は頸部がややくびれ、体部が若干張る器形で、器壁は薄い。口縁部直下は刺突列を欠き、内面と同様の横位のミガキを施す。

23～27は弧状条線地の深鉢。24は突起状の部分が認められる。26、27は同一個体。28～



第 11 図 97 区 S K 31 遺物出土分布 (1 : 50)

46 は条線地深鉢で、29 ~ 34 は同一個体、36 と 37、38 ~ 40、41 ~ 45 はそれぞれ同一個体の可能性がある。47 ~ 49 は粗製無文深鉢。50 は貫通孔を有する突起部で、精製であることから双耳壺の突起部と判断した。

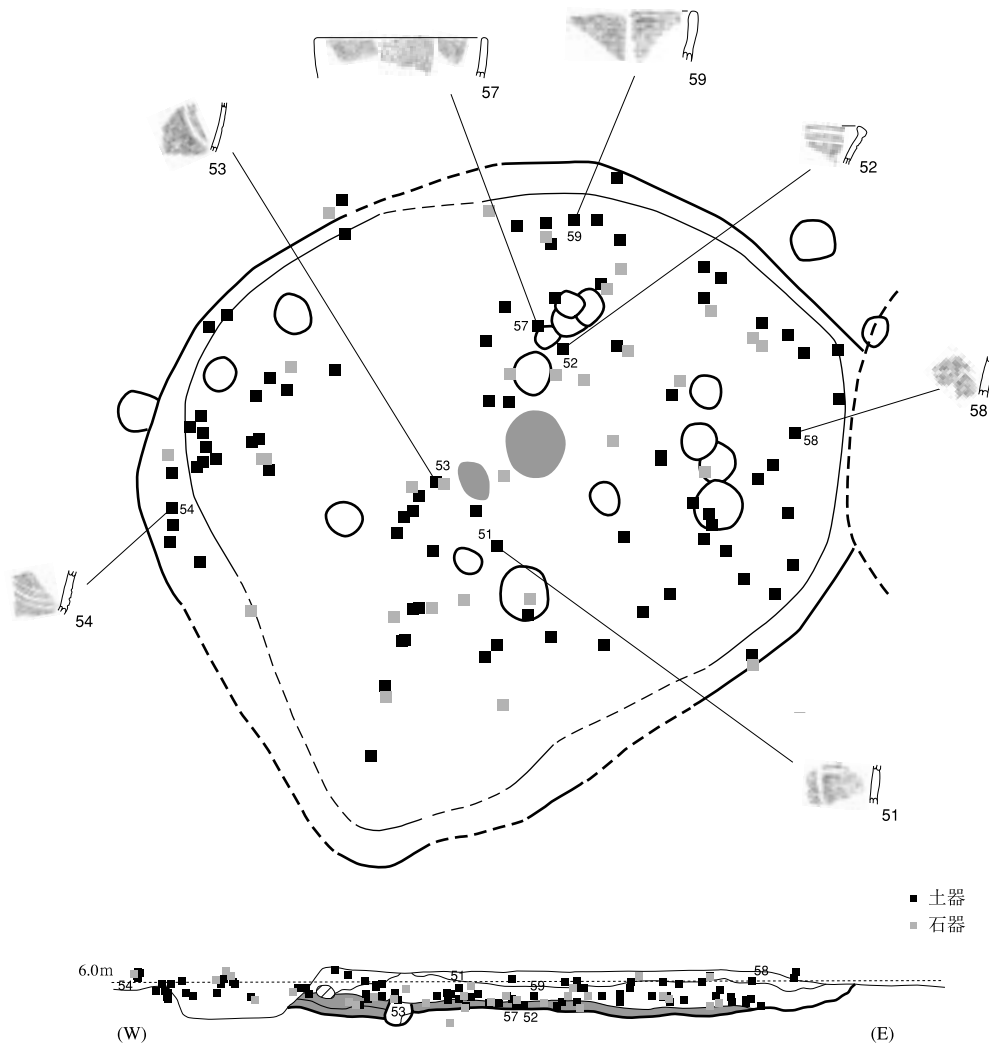
なお、石器として石鏃 1 点 (346)、礫石錘 1 点 (363)、磨石・敲石 1 点 (381) が出土した。

97 区 S B 08 97 区 S K 31 に西接する。97 区 S D 33 と大きく重複し、欠失する部分も少なくないものの、長軸約 4.6 m、短軸約 4.0 m の不整な方形としてほぼ全形が把握された。掘形も明確で、深さは 0.3 m 前後を計測する。埋土は黄褐色を基調とする均質な極細粒砂で、炭化物の混入は相対的に少ない。その一方、掘形の底面には炭化物を多く含み黒褐色を帯びた極細粒砂の薄層がほぼ全面に堆積していることが確認された。小土坑や地床炉はこの薄層の上面において検出されたことから、この薄層は竪穴住居の貼床として判断される。

住居の中央付近には赤変する部分が認められ、精査の結果、径約0.4m、深さ約0.1mの地床炉として検出することができた。地床炉の断面形は皿状で、埋土には焼土と炭化物が濃密に含まれていた。小土坑は10基以上が散在し、97区S K 88、97区S K 119、97区S K 79、97区S K 84が支柱穴となる可能性が考えられる。この場合、地床炉を挟んで対向する2対の支柱穴配置が復原される。出土遺物は少なく遺構の時期を明確に示すことは難しい。福田K 2式第2段階の土器が床面付近から出土していることを重視して遺構の帰属時期とした場合、01区S K 31が01区S B 08に先行するものと判断される（第12図）。

出土遺物

図示した土器は9個体である（51～59）。51は称名寺Ⅱ式に類似する土器で、97区S K 36出土の85と同一個体の可能性がある。52は幅0.8cm前後のやや幅の狭い磨消縄文帯が口縁部下をめぐり、さらに下位に展開するもので、福田K 2式第1段階。54は3本沈線による磨消縄文帯をもつもので、器面は丁寧なミガキによって光沢を帯びる。福田K 2式第2段階の典型例に近似する個体と思われる。55は2本沈線と3本沈線が共存するもので、福田K 2式第2段階に位置づけられる。相互の沈線末端は鍵の手状に入り組む。56～59は条線地深鉢。



第12図 97区S B 08 遺物出土分布（1：50）

97区S B 06 97区S D 37と97区S E 04によって大きく損なわれている。削平も著しく、深さは0.1 m程度を計測するにすぎない。長軸で6.5 m以上を計測するが、複数の遺構を混同している可能性など、遺構の形状については不安定な要素が多い。支柱穴や炉は検出されなかったが、中央で浅い窪み(97区S K 69)と東端部で土器埋設遺構(97区S K 67)を検出した。出土した土器はいずれも粗製深鉢のみで、細かな時期を決定する出土遺物には恵まれない。

出土遺物 出土土器として9点、8個体(72～80)を図示した。72～77は条線地深鉢で、73、74は同一個体。78は弧状条線地深鉢。79は縄文地深鉢。

97区S B 07 遺構検出時にすでに焼土が露呈していたため、周囲の遺物の散布状況を考慮しつつ、これ

97区S B 09 ら2棟の竪穴住居を認定した。平面形が不整形であったり、焼土が偏した位置にあることも部分的に残存する竪穴住居の床面付近を検出したことに大きく影響されている。それぞれの支柱穴配置も明確でない。出土遺物には中津Ⅱ式～福田K 2式第2段階に相当する土器があるものの、いずれも遺構の時期を決定づけるものではない。

出土遺物 97区S B 07出土土器として7個体(60～66)を図示した。60は86と同一個体の可能性がある。60、61は磨消縄文帯をもつもので、中津Ⅱ式～福田K 2式第1段階に位置づけられる。62～64は条線地深鉢。65、66は無文。他に遺構精査中に切目石錘1点(365)、用途不明加工品1点(329)が出土した。97区S B 09出土土器として3個体(67～69)を図示した。67は福田K 2式。68は条線地深鉢、69は粗製無文深鉢で補修孔を認める。

01区S B 02 01区北西部で検出した。埋土は褐色を帯びており、遺構の識別は比較的容易であったものの、残存は良好でなく、97区では遺構の西半部を検出しえなかったため規模は明確でない。地床炉とも推定される焼土と炭化物の集積(01区S K 90)のほか、土器片敷遺構(01区S K 73)、石器製作関連遺構(01区S K 71)を検出した。

出土遺物 出土土器として8点、4個体(247～254)を図示した。247～251は同一個体で、沈線による縦横の区画内に短沈線を充填する。253は口縁部を幅広に無文とすることから、広瀬土壙40段階に位置づけられる。254は鉢状の器形で無文。

また、石器として切目石錘1点(367)が出土した。

01区S B 03 01区南西部で検出した。それぞれに焼土と炭化物の集積(01区S K 83、01区S K 86)を

01区S B 04 確認したことを根拠に竪穴住居として認定した。ただし、いずれも残存は良好でなく、平面形も不整であることから、正確に検出しえたかについては疑問が残る。

遺構の時期を決定しうるものではないが、中津Ⅱ式～福田K 2式の土器がわずかに出土した。

出土遺物 01区S B 03出土土器として4個体(256～259)を図化した。256、257は幅広の磨消縄文帯をもつもので、中津Ⅱ式。258は3本沈線による磨消縄文帯をもつもので、福田K 2式第2段階。259は条線地深鉢。01区S B 04出土土器として6個体(260～265)を図示した。260は沈線によって曲線的な図形を描出するもので、縄文の有無は摩滅によって明らかにできない。261は3本沈線による磨消縄文帯をもつもので、器面には丁寧なミガキ調整が施される。262は口縁部を幅広に無文とすることから広瀬土壙40段階に位置づけられる。263、264は条線地深鉢。

- 97区S B 03 97区北東部で検出したこれら4棟の竪穴住居はいずれも削平が著しく、住居にともなう炉
97区S B 04 や支柱穴配置も明確にしえなかったため、竪穴住居と認定するまでの積極的根拠は乏しい。
97区S B 05 出土遺物も、S B 10から中津Ⅱ式～福田K 2式の土器がわずかに出土したのみである。
97区S B 10 97区S B 10から出土した縄文土器2個体(70、71)を図示した。70、71ともにJ字文を
描出するもの。ただし、71は弱い沈線による描出で、区画もきわめて曖昧である。

土器埋設遺構

- 97区S K 67 97区S B 06内で検出した。ただし、97区S B 06との共時性、あるいは新旧関係については
明確にしえなかった。規模は長軸0.8m、短軸0.7mで、平面形は円形に近い不整な方形。
土坑は約0.3mを掘り窪め、さらに土坑の北辺のみ袋状に大きく拡張した断面形が特徴的
である。埋土は黒色を帯びるまでに炭化物が充填されたかのような状態で、やや粘性も帯びて
いた。

埋設土器は土坑の底面より約0.2m浮いた位置で確認された。土器は完形の粗製無文深鉢
(81)を縦に半裁したものが用いられ、蓋として被せたかのように横位に埋設されていた。深
鉢は単純に外反する器形で調整はきわめて粗略。底部外面に網代圧痕を認める。また、袋状
に拡張された壁面に貼りつくような状態で礫石錘1点(364)が出土した。

- 97区S K 40 97区の遺構群の南東端に位置する。長径1.3m、短径0.7mの長楕円形の土坑として検出
したが、埋土は基盤層とほとんど同一の均質な淡黄色極細粒砂で、炭化物の混入もみなが
たことから、遺構とするには若干の疑問も残る。

埋設土器は土坑のほぼ底面の位置で確認された。土器は完形の中津Ⅱ式あるいは福田K 2
式に類似する深鉢(92)が用いられ、横位に埋設されていた。深鉢は4単位波状口縁で、沈
線を介さず口縁部直下に縄文帯を配する。沈線は細く、縄文帯の幅は狭い。器面調整は粗製
土器に近似し、底部外面には網代圧痕を認める。

土器片敷遺構

- 01区S K 73 01区S B 02内において検出した。01区S B 02との共時性、あるいは新旧関係については
明らかでないが、01区S B 02において出土した247～251と同一個体の破片が出土してい
る。規模は長径1.7m、短径1.3mで、平面形はやや偏した長楕円形を呈する。埋土は均質な
黄褐色極細粒砂で、炭化物をやや多く混じえる。

土器片のほとんどは土坑底面より浮いた位置でほぼ同一の高さを保って出土した。出土
した土器はおよそ一個体分の粗製無文深鉢(255)に相当するものと判断されたが、表裏が
一定しない不自然な出土状況が観察された。これらの所見から、粗製無文深鉢は破碎され
てから、意図的に土坑に敷かれたものと判断した。しかし、土坑南半では土器片の出土は散漫
で、土坑を土器片で覆い尽くすといった造作は認められない。また、土器が二次的に被熱し
た痕跡も観察されなかった。

深鉢は二分の一強が残存する。底部から口縁部にかけて大きく外反し、体部中位で若干く
びれる器形。調整は横位のミガキを主体とし、ナデやケズリを主体とする粗製無文深鉢とは
幾分か異なる。

石器製作関連遺構

01区S K 71 01区S B 02内において検出した。ただし、01区S B 02との共時性、あるいは新旧関係については01区S K 73と同様に明らかでない。規模は長径0.6 m、短径0.4 mで、平面形は長楕円形。

土坑からは下呂石のみからなる剥片が177点(60.0 g)集中して出土した。これらは土坑の検出面付近で出土したものが多い。なお、剥片以外の石器や土器は出土しなかった。

その他の土坑

97区S K 36 長軸約1.1 m、短軸約1.0 mの不整な方形を呈する土坑。断面形は深さ0.1 m前後の浅い皿状。埋土は均質な極細粒砂で、炭化物を多く混じえる。土坑の底面よりわずかに浮いた位置で中津Ⅱ式あるいは福田K 2式第1段階に類似する深鉢(84)と称名寺Ⅱ式に類似する深鉢(85)が相伴して出土した。

84は同一個体の3破片を図示した。上段と中段の破片が接合し、4単位波状口縁の深鉢であることが明確となっている。頸部が緩やかにくびれる器形で、器壁は薄い。文様帯は頸部に幅広の無文帯を介して口縁部文様帯と胴部文様帯が分帯する構成をとる。口縁部文様帯は幅広の磨消縄文帯が横位に展開し、波頂部において横位への連絡は途切れる傾向にあることが観察される。胴部文様帯は波頂部に対応する位置に横位の磨消縄文帯から大振りで横長のJ字文が垂下し、その脇には小振りの渦文(あるいは円文)が配される。

85は体部上位が中心に残存し、他の口縁部破片、底部破片、体部破片をもとに器形と文様帯を復原したものを下段に図示した。大きく外反する平縁口縁で、頸部は大きく緩やかにくびれる器形。口縁部下から体部上位にかけて磨消縄文帯による長方形(窓枠状)区画が連続して展開する文様構成が復原される。文様帯を区画する沈線は途切れたり離れたりする傾向がより顕著となっている。充填される縄文は撚りがきわめて曖昧な無節縄文(擬縄文)で、施文間隔は粗い。

97区S K 37 97区S K 37出土の86は、破片から器形と文様構成を復元的に図示した。84に類似する器形、文様構成が想定される。口縁部は平縁で、二山の小突起を配する。口縁部文様帯は二本沈線からなる磨消縄文帯で、突起部の頂点で収束する。胴部文様帯は横位の磨消縄文帯から巻き込みが顕著なJ字文(渦文)が垂下するものと考えられる。中津Ⅱ式から福田K 2式第1段階に併行する。

その他土坑 97区S K 35出土の87、88は97区S K 31出土の10と同一個体と思われる。97区S K 34出土の90は3本沈線による磨消縄文帯をもつもので、福田K 2式第2段階。沈線は細い。91は双耳壺の突起部とした。上面の円孔2孔、下面の円孔1孔は、紐通しの貫通孔が装飾に転化したものか。

谷地形

97区北西部 97区の北西部は基盤層が緩やかに標高を減じ、遺構も検出されなくなることから微高地の縁辺に相当するものと理解される。97区において確認される基盤層の高低差は最大で約0.4 mで顕著には傾斜しないが、この緩やかな谷状の落ち込みを以下においては単純に谷地形とする。

包含層も標高を減じるに応じて最大で0.5 m近くにまで層厚を増し、層中からは比較的多くの遺物が出土した。しかし、包含層とした淡黄色極細粒砂層は微高地から谷地形にかけて連続して堆積し、谷地形の堆積層を明確に分離するにいたらなかった。そこで、遺物が出土した高低差を考慮して、遺物群を最下層、下層、中層、上層に区分することとした(第14図)。なお、遺物は中層においてもっとも多く出土した。層区分と対照可能な土器は、最下層—93、下層—94、101、115、中層—95、104、107、108、112、113、120、124、125、126、128 上層—96～100、110、111、116、118、119、122である。

なお、谷地形はきわめて単純な堆積と把握されるので、出土遺物が上下の層で混在する可能性は低いものと考えられる。土器型式としては、最下層が中津Ⅱ式、下層が福田K 2式第1段階、中層が福田K 2式第2段階、上層が福田K 2式第3段階におよそ対応する。

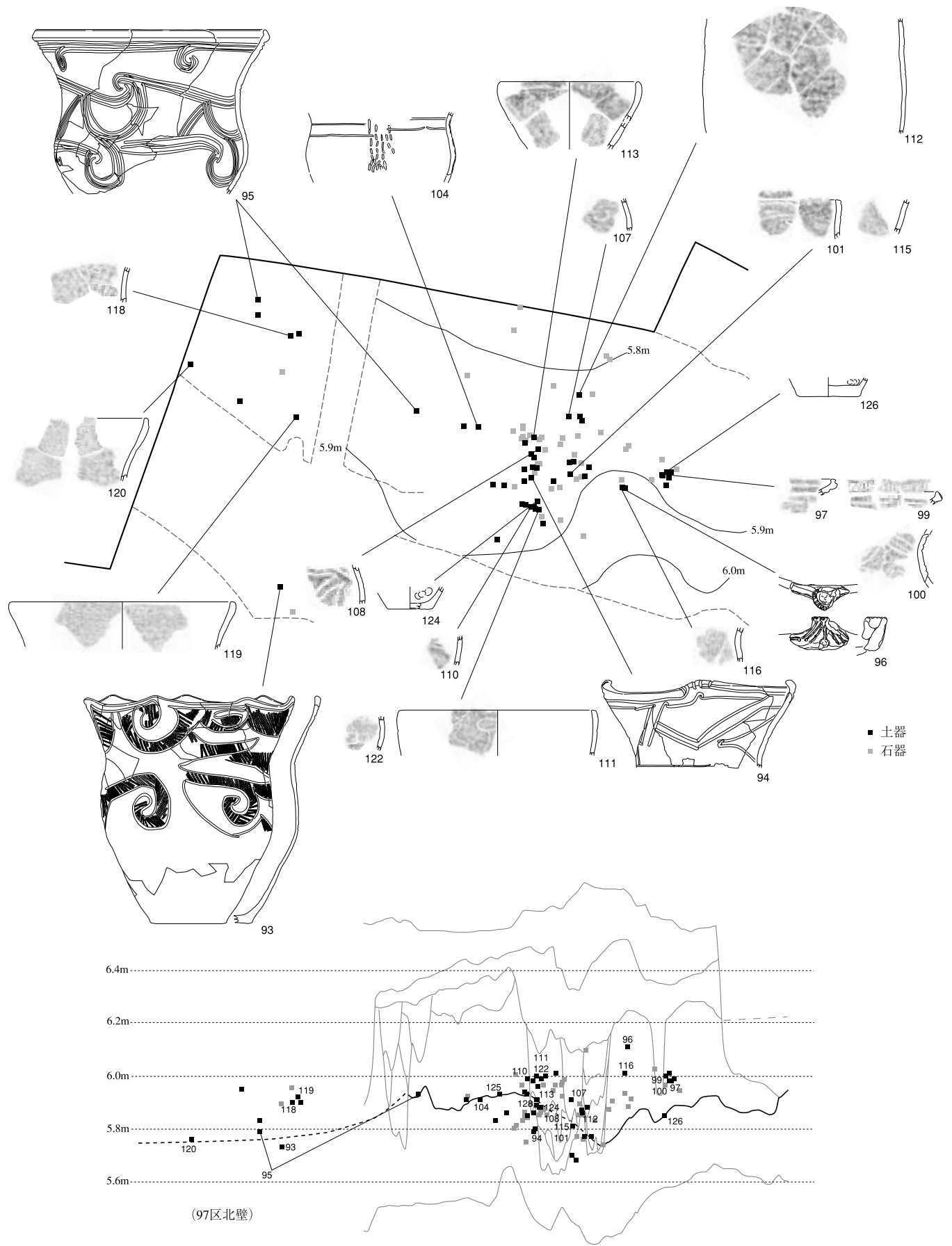
出土遺物

谷地形から出土した土器として、37点30個体(93～129)を図示した。93は7単位波状口縁の深鉢。大きく外反する口縁部から緩やかに体部がくびれる器形で、器壁は薄い。文様帯は上下二段に構成されるが、厳密には上段と下段は関連せず、口縁部文様帯と胴部文様帯に分帯化する傾向が明確に看取される。上段の文様帯は波状口縁に対応する位置に口縁部から無文のJ字が垂下するが、割付に苦慮したためか1単位のみ変形した図形が配されている。下段への連絡は無意味化したとみられ、斜位の区画を意識しつつも縄文帯を構成していない。下段は縄文のJ字を基調とした図形を4単位(または5単位)配するが、単位の割付には規則性が乏しく、文様下端も収束しない。沈線そのものも総じて浅く、途切れたり相互に切り合ったりする傾向が顕著である。中津Ⅱ式に対比されようが、より下降する位置が与えられるものと考えられる。最下層出土。

94は4単位の突起(小波頂部)を配する深鉢で、2単位の突起が残存する。口縁部が内彎し、頸部が緩やかにくびれる器形。口縁部下には波頂部を起点として沈線が横位に展開しつつ、斜位への展開をも明確とする文様構成として把握される。磨消縄文をともなわない2本



第13図 深鉢(93)の文様展開図



第14图 谷地形遺物出土分布 (1:200)

沈線の特徴とするも、厳密には2本の沈線は併走せず、1本単独で展開する沈線も少なくない。沈線相互は小さく鍵の手状に組み合うことが多い。やや独特な印象を与えるが、福田K 2式第1段階に対比しておきたい。下層出土。

95は同一個体と考えられる2破片を図示した。平縁口縁の深鉢で口縁部は内折する。磨消縄文をともなわない3本沈線が縦横に展開する文様構成で、複雑でありつつも、3段に多段化した構成、連続した単位文様など一定の規則性も認められる。沈線相互は鍵の手状に入り組む。福田K 2式第2段階に対比される。中層出土。96～100は同一個体の可能性が高い。96は筒状突起で、上端に刻みを施す。突起外面中央の沈線と円形の窪みを中心にして、両端に小円孔をともなう3本の沈線を配する。さらに口縁端部上にも同様の沈線が配される。平縁の口縁端部は同一個体の破片にあっても変異が認められ、口縁端部に沈線が1本かかるもの(97)や、それがやや曖昧なもの(98)、さらに刻みを密に施すもの(99)がある。体部(100)は磨消縄文をともなわない3本沈線で文様を構成する。これらの諸特徴から、福田K 2式第3段階に対比したが、広瀬土壙40段階に型式が下降する可能性も考慮すべきかもしれない。すべて上層出土。

101、102は同一個体で、口縁部端部に縄文を施文する。口縁部直下の縄文帯からは小J字が垂下する。中津I式と考えられる。下層出土。103は幅広の磨消縄文帯をもつことから、中津式に対比される。104は頸部に2条の沈線をめぐらし、沈線の末端が離れた位置から短沈線を縦列に配する。105は104と同一個体で、弱い沈線によってJ字に類似する図形を描出する。106、107は弱い沈線によって文様を描出するもの。108、109は2本沈線からなる文様をもつもので、福田K 2式第1段階。108は磨消縄文をともなわない。110は3本沈線による磨消縄文帯をもつ。福田K 2式第2段階。111、112は同一個体で、沈線によって曲線からなる文様を描出するもの。上層出土。

113～118は条線地深鉢。119～121は無文の深鉢。122は縄文地深鉢。129は中空状の破片で、注口土器あるいは突起の一部と考えられる。

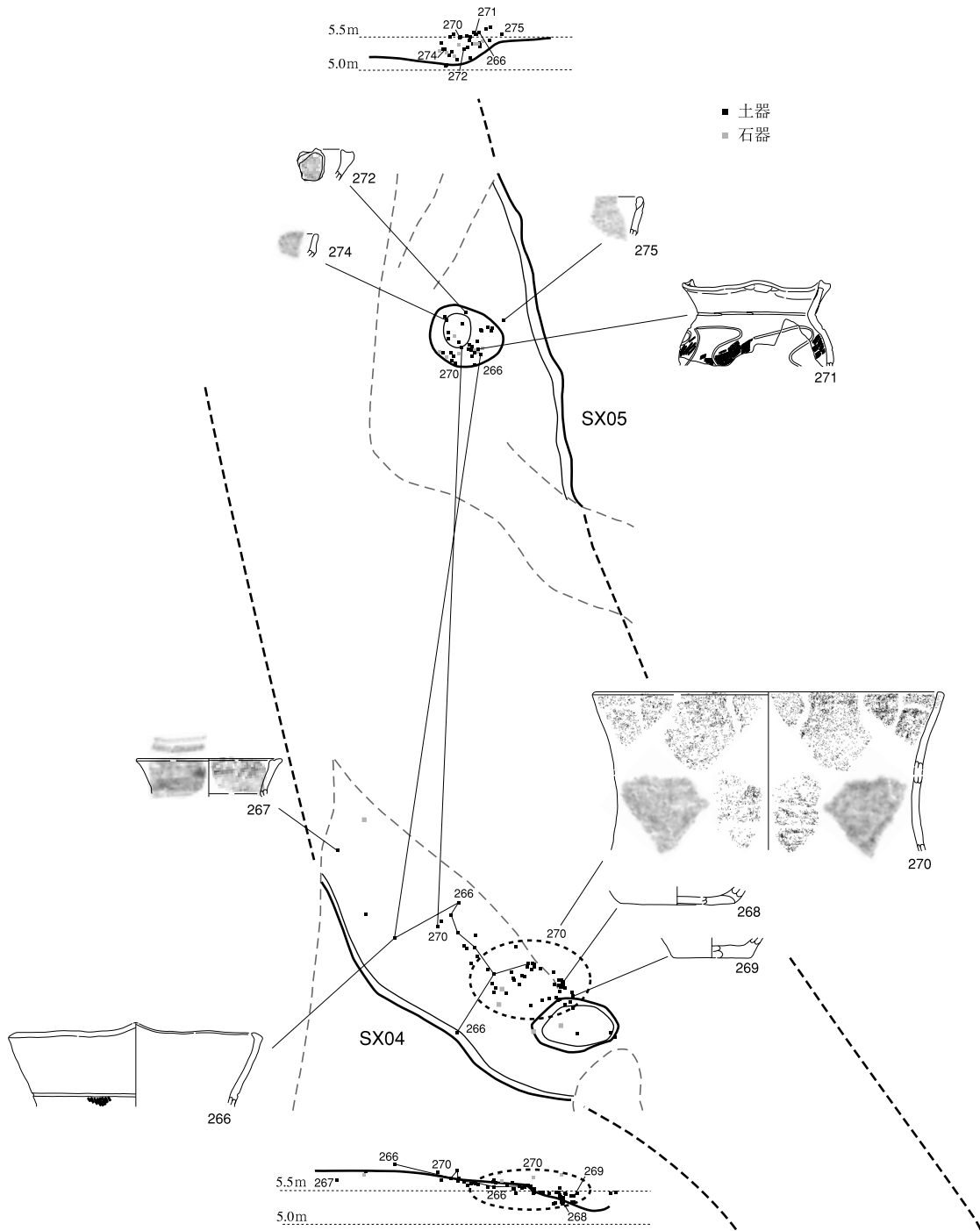
小河川 (01区S X 04、01区S X 05)

縄文時代後期の遺構群の東端を画する位置で、小河川状の浅い落ち込みを検出した。上面の遺構群による損壊が著しく、全形の把握が困難であったものの、01区S X 04が小河川の西岸、01区S X 05が小河川の東岸に相当するものとした。この復原によれば、小河川は幅約6.0m、深さ約0.6mと把握される。

小河川では遺物のまとまった出土がみられ、西岸の01区S X 04では散在した分布、東岸の01区S X 05では集中した分布を示した(第15図)。01区S X 04と01区S X 05において出土した土器が接合関係を有することも、両者が同一遺構であったことを示唆する。なお、01区S X 05の緩傾斜面において炭化物を濃密に含んだ長径約1.1m、短径約0.9m、深さ約0.5mの土坑が検出された。特徴的な遺物や植物遺体は検出されず、その性格を明らかにするにいたらなかった。出土した土器の多くは広瀬土壙40段階に対比される。

出土遺物

01区S X 04から出土した土器として5個体(266～270)、01区S X 05から出土した土器として5点4個体(271～275)を図示した。266、270は01区S X 04と01区S X 05との間



第15図 小河川遺物出土分布（1：100）

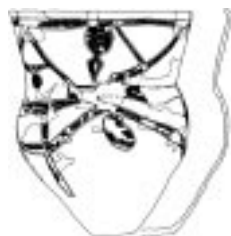
で接合した。266は平縁口縁の深鉢で小波状となる部分が確認できる。口縁部は内折する。口縁部を幅広の無文とし、頸部の沈線以下には縄文を施す。福田K2式～広瀬土壙40段階。267は口縁端部に1条の沈線をもつ。大きくくびれる無文の頸部には1条の沈線がめぐる。広瀬土壙40段階。270は大型の条線地深鉢。271は口縁部を4単位の小波状として、その部分を内外に拡張する。頸部は無文で、屈曲する位置に1条の沈線をめぐらす。広瀬土壙40段階。272は271と同一。273は条線地深鉢。274、275は無文の深鉢。

97区包含層出土遺物

97区包含層出土遺物として41点39個体(130～171)を図示した。130、131は同一個体で、称名寺式に類似する深鉢。直線的な器形で器壁は厚く、補修孔を穿つ。口縁部下の横位の縄文帯からは紡錘文と丁字文?(の組み合わせ)が垂下するが、沈線は離れたり、相互に切り合い、文様展開は連続性に乏しい。132も称名寺式に類似する個体。133～137は中津Ⅱ式に対比しうる一群。133は幅広の磨消縄文帯、無文の頸部を特徴とする。97区S K 36出土の84、97区S K 37出土の86に文様構成が類似する。138～141は沈線の描出、縄文の施文が曖昧なもの。142～149は2本沈線からなる磨消縄文帯をもつもので、福田K 2式第1段階、150、151は口縁部で、その時期を前後するものと考えられる。152、153は3本沈線からなる文様を描出するもので福田K 2式第2段階～第3段階。

154～161は条線地深鉢で、同一個体の160、161は弧状の条線。162～164は無文の深鉢。171は貫通孔が残る破片で、双耳壺とした。

その他97区出土遺物



新徳寺遺跡

97区において、後続する時期の層位や遺構から出土した土器75点68個体(172～246)を図示した。172～174はやや幅広の磨消縄文帯をもつもので、中津Ⅱ式～福田K 2式第1段階。172は三重県新徳寺遺跡S Z 54出土の深鉢に器形、文様構成が類似する。175～181は弱い沈線による文様を描出する一群。182～184は称名寺Ⅱ式に類似するもので、183、184は85と同一個体の可能性がある。いずれも沈線間に撚りが曖昧な無節縄文(擬縄文)を充填する。186～193は福田K 2式第1段階に対比されるものと考えられる。188は深鉢の突起部分で、滋賀県今安楽寺遺跡S X 09上層に類似する個体がある。194～199は福田K 2式第2段階～第3段階に対比されるもの。



城之腰遺跡

201は口縁部の突起部分で、沈線と円孔による装飾を施す。新潟県城之腰遺跡P 25-p 3の鉢に類するものか。202は内外面に細かなヘラミガキを施す精製の器種で器壁も薄い。97区包含層出土の171の双耳壺と同一個体の可能性もある。203は縄文地に沈線を施す個体で、堀之内式(北白川上層式1期)に類似するもの。204～211は胎土や沈線の描出から同一個体の可能性があるが、全体の文様構成については不明。204は2本沈線間に直交する短沈線を整然と施す破片で、その下位には斜位の沈線も認められる。鉢状の器形が想定される。類例に乏しいが、新徳寺遺跡S H 207・S K 223、三重県伊勢寺遺跡出土資料との関連を考えておく。212は袋状の突起部分で、広瀬土壙40段階に多く認められるもの。213は口縁部の一部を弧(円環)状とするもの。214は沈線による曲線を描出する深鉢。215～217、220～235は条線地深鉢で、215は弧状の条線地。216は口縁端部に刺突を施す。218、219は縄文地の深鉢。236～240は無文の深鉢。



伊勢寺遺跡

01区包含層出土遺物



赤野井湾遺跡

01区包含層出土遺物として13点37個体(278～290)を図示した。278～280は01区S B 02出土の247～251と同一。281は口縁部が短く外反する特徴的な器形で、内外面にヘラミガキを施す精製の器種。赤野井湾遺跡包含層Ⅲ・Ⅳに類似した個体を認める。福田K 2式に対比しうる。282、283は福田K 2式。284～286は条線地深鉢。287～288は無文の深鉢。

さらに土製品として土偶と考えられる破片1点(345)が97区から出土した。上腕部から胸部にかけての部位で、わずかに膨らむ部分を乳房と判断した。

その他01区の出土遺物

01区において、後続する時期の層位や遺構から出土した土器45点44個体(291～335)を図示した。291～295は幅広の磨消縄文帯をもつもので、中津Ⅱ式。296、297は粗製土器に近い個体。298は沈線間に擬縄文を充填するもので、称名寺Ⅱ式に類似する。299は称名寺式に類似するものか。300は縦位の沈線間に刺突を配するもので、称名寺Ⅱ式との関連も想起される。301～305は2本沈線による磨消縄文帯をもつもので福田K2式第1段階。306～309は福田K2式の突起部と口縁部と考えられる。310、311は福田K2式第3段階。311は口縁部を断面T字形とし、肥厚させた口縁端部に1条、その下位に2条の沈線を施す。肥厚させた口縁部の両端には棒状工具による刺突を密に施す。312、313は口縁端部の沈線が1条となったもので、広瀬土壙40段階。314は口縁端部に貫通する円孔を中心として対向する三重の重弧文を配する。広瀬土壙40段階。

318、319は弧状条線地の深鉢、320～327は条線地深鉢、328～331は無文の深鉢。

4) 縄文時代晩期～弥生時代前期

明確な遺構は確認されないが、後世の遺構に混入した状態で遺物がわずかに出土した(336～344)。336は晩期前葉(大洞C式併行)の精製鉢(椀)、337～342は晩期中葉(西之山式)の粗製深鉢、343は晩期後葉(五貫森式～馬見塚式)の粗製深鉢。344は遠賀川系土器壺で弥生時代前期中葉。各時期に相当するこれらの遺物は元屋敷遺跡をはじめとする周辺遺跡との関連を示唆しよう。

文献

(編年に関係するもの)

石井寛1992「称名寺式土器の分類と変遷」『調査研究集録』第9冊 財団法人横浜市ふるさと歴史財団

石井寛1993「堀之内1式期土器群に関する問題」『牛ヶ谷遺跡・華蔵台南遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告XIV 財団法人横浜市ふるさと歴史財団

今村啓爾1997「称名寺式土器の研究(上)・(下)」『考古学雑誌』第63巻第1号・第2号

千葉豊1989「緑帯文系土器群の成立と展開—西日本縄文後期前半の地域相—」『史林』第72巻第6号 史学研究会

千葉豊1992「西日本縄文後期土器の二三の問題」『古代吉備』第14集 古代吉備研究会

増子康真1981「東海地方西部の縄文中期末土器型式—山の神式土器の細別—」『古代人』38 名古屋考古学会

(遺跡に関係するもの)

赤野井湾遺跡 濱修ほか1998『赤野井湾遺跡』琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書2 滋賀県教育委員会事務局文化財保護課・財団法人滋賀県文化財保護協会

伊勢寺遺跡 竹内英昭1994「松阪市伊勢寺遺跡出土の縄文土器」『研究紀要』第3号 三重県埋蔵文化財センター

今安楽寺遺跡 植田文雄1990『能登川町埋蔵文化財調査報告書第17集 今安楽寺遺跡』能登川町教育委員会

城之腰遺跡 藤巻正信編1991『関越自動車道関係発掘調査報告書 城之腰遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第29集 新潟県教育委員会

新徳寺遺跡 小濱学編1997『新徳寺遺跡(付編) 母ノ世古遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財調査報告123-3 三重県埋蔵文化財センター

堤下遺跡 市橋芳則・鈴木こず恵1992『熊之庄堤下遺跡』師勝町埋蔵文化財報告書4 師勝町教育委員会

八王子貝塚 松井直樹2000『八王子貝塚I—縄文時代中期・後期前葉編—』西尾市教育委員会

林ノ峰貝塚 山下勝年編1983『林ノ峰貝塚I』南知多町文化財調査報告書第五集 南知多町教育委員会

5) 石器

概要

今回の調査で出土した石器は思いのほか点数が少ない。定型的な石器計37点の構成は、石鏃6点(16.2%)、調整痕のある剥片8点(21.7%)、用途不明加工品1点(2.7%)、石錘11点(29.7%)、磨石・敲石11点(29.7%)である。剥片・原石は437点(調整痕のある剥片を除いた点数)を数え、剥片を連続的に剥がした残核とみられるものも2点認めた。これらから構成される石器群は、明らかに弥生時代中期に帰属する99A区出土の石鏃1点を除いて、その大部分が97区から01区にかけて展開する縄文時代後期初頭を中心とした遺構と土器群に呼応するものとみられる。ただし、出土状況において人為性を積極的に認めうるものは石器製作によって生じた剥片を処理した土坑、01区SK73から出土した下呂石剥片177点に限られる。

石鏃

石鏃は計6点(346～351)が出土した。これらは形態から凹基無茎鏃2点(346、347)、平基無茎鏃2点(348、349)、尖基無茎鏃1点(350)、五角形鏃1点(351)に分類される。346～349、351が下呂石製、350がチャート製。346、347は整った凹基無茎の形態で、346は小型で扁平、347はやや肉厚。鏃身の側辺は連続した丁寧な押圧剥離が加えられる。348、349は基部の形態が若干異なるが、全体に単位の粗い剥離で仕上げていることから、基部の細かな調整には意識が向けられていなかったものとして形態分類のうえでは区別しなかった。片面の調整の省略も顕著である。351はいわゆる五角形鏃で、肩部の屈曲を突出気味に強調する特徴的な形態。弥生時代中期に帰属する。99A区出土。

調整痕剥片

調整痕のある剥片として4点を図示した。352、353がチャート製、354、355が下呂石製。352は片面の長辺にのみ細かな押圧剥離を加えた剥片、353は鈍角に屈曲する長辺に微細剥離(刃こぼれ)を認める剥片。354は断面が凸レンズ状に近く形態のうえでは楔形石器に類似するが、両極に対する打撃が曖昧であることから調整痕のある剥片として分類した。355は形態のうえでは石鏃に類似する剥片。

縦長剥片

なお、356は下呂石の縦長剥片。357、358は連続して剥片を剥がした下呂石の残核と思われるものとして図示した。

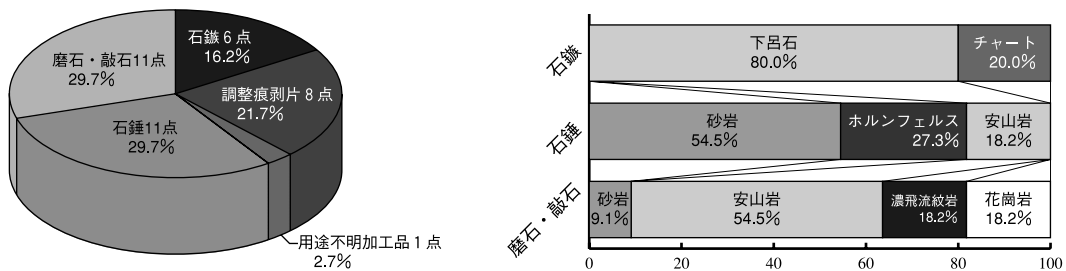
残核

用途不明品

359はノミ様の形態であるものの、短辺の先端に刃部を作りだしていないことから用途不明の加工品とした。側面を中心に丁寧な研磨を加えることによって仕上げている。ホルンフェルス製。97区SB07出土。

石錘

石錘は出土した11点(360～370)を図示した。礫石錘5点(360～364)、切目石錘6点(365～370)からなる。



第16図 石器組成 (左; 器種別・右; 石材別)

石材は礫石錘 360、361、切目石錘 366～369 が砂岩製、礫石錘 362、363 が安山岩製、礫石錘 364、切目石錘 365、370 がホルンフェルス製。礫石錘は 360 のみ角錐形で、その他はすべて扁平な礫の長軸両端を打ち欠いたもの。切目石錘はすべて切目を長軸両端に施したもの。第 3 表には渡辺誠が提唱する礫石錘の計測方法を参考にして（第 17 図）、礫石錘と切目石錘を計測した数値を示した（渡辺誠・小笠原久和 1982『形原遺跡発掘調査報告書』蒲郡市教育委員会）。

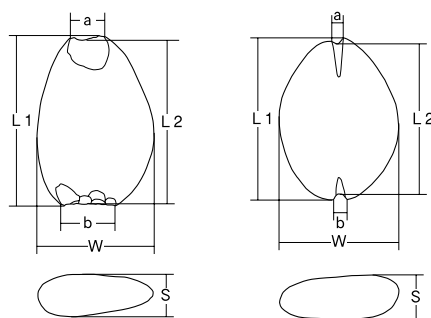
磨石・敲石

敲打痕跡と顕著な摩耗痕跡の両者が認められるものを磨石・敲石として分類し、出土した 11 点（371～381）を図化した。敲打痕跡が両長軸側面にあるもの（371）、短軸両側面にあるもの（372、379）、上面にあるもの（373）、上面と短軸片側面にあるもの（374）、短軸片側面にあるもの（375、377、378、380、381）、表裏と三側面にあるもの（376）がある。石材は 371、372 が濃飛流紋岩、373、374、376、377、379、380 が安山岩、375、378 が花崗岩、381 が砂岩。

その他、敲打痕跡を残さないものの、顕著な摩耗痕跡が認められる円礫を 9 点抽出した。数量把握が不安定となるので、ここでは石器として分類していない。ただし、これらは縄文時代後期の遺構や包含層にともなうものが少なくないことから、一定の有意性を認めておく必要がある。石材は安山岩が 8 点、凝灰質砂岩が 1 点で安山岩が圧倒的に多い。

石器石材

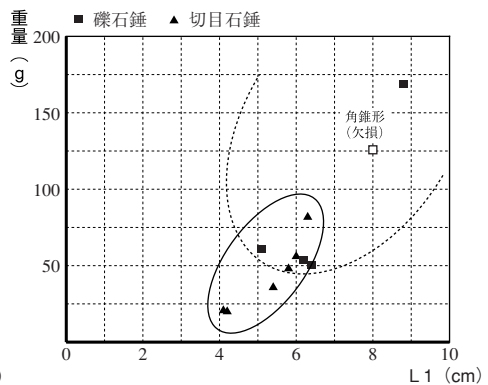
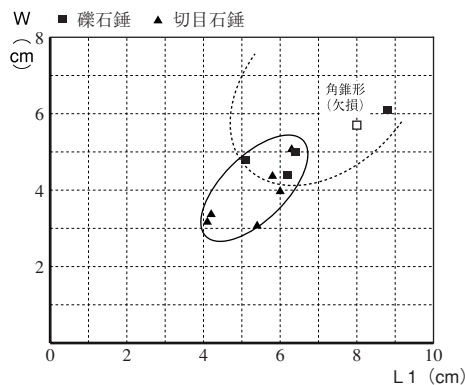
主要石器の石材の構成を第 16 図右に示した。石鏃は下呂石が 80.0%、チャートが 20.0% で下呂石が優勢。他の剥片石器は明確でないが、剥片石器については下呂石が主として用いられたことが明らかである。石錘は砂岩が 54.5%、ホルンフェルスが 27.3%、安山岩が 18.2% で砂岩が優勢。なお、安山岩は礫石錘にのみ使用される。磨石・敲石は安山岩が 54.5%、濃飛流紋岩と花崗岩がそれぞれ 18.2%、砂岩が 9.1% となる。摩耗痕跡のある円礫が安山岩によってほぼ占められることから、敲石・磨石には安山岩が緊密に相関するものとみてよい。



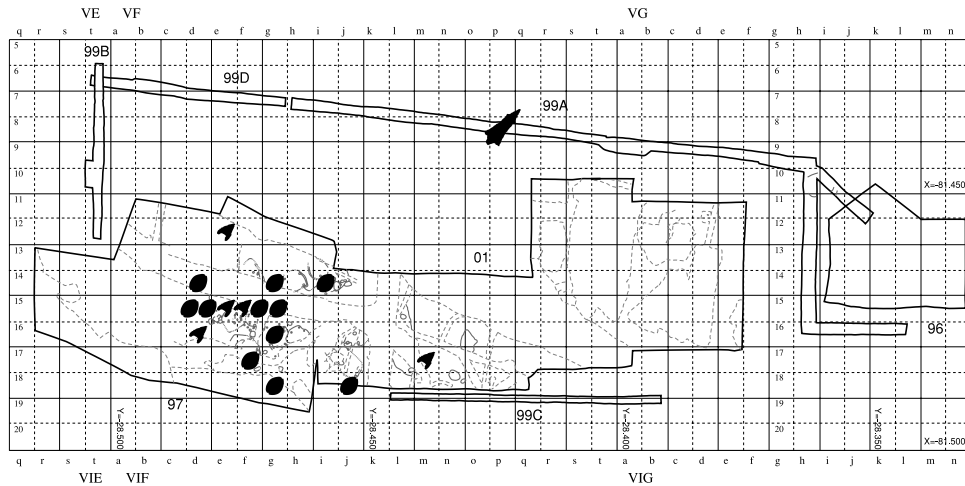
第 17 図 石錘の計測方法

第 3 表 石錘計測表

| | L1 | L2 | W | a | b | S | 重量 (g) |
|-----|------|------|------|-----|-----|------|--------|
| 360 | 8.0* | 7.6* | 5.7* | 1.7 | | 3.5* | 125.8* |
| 361 | 8.8 | 8.5 | 6.1 | 1.9 | 2.9 | 2.2 | 168.9 |
| 362 | 5.1 | 4.8 | 4.8 | 2.0 | 3.2 | 1.8 | 61.1 |
| 363 | 6.4 | 5.4 | 5.0 | 2.1 | 3.1 | 1.2 | 50.4 |
| 364 | 6.2 | 5.9 | 4.4 | 1.3 | 0.9 | 1.6 | 53.6 |
| 365 | 5.8 | 5.4 | 4.4 | 0.7 | 0.6 | 1.2 | 48.9 |
| 366 | 6.3 | 6.0 | 5.1 | 0.5 | 0.6 | 1.7 | 82.6 |
| 367 | 6.0 | 5.8 | 4.0 | 0.5 | 0.4 | 1.5 | 56.9 |
| 368 | 5.4 | 5.1 | 3.1 | 0.5 | 0.6 | 1.7 | 36.6 |
| 369 | 4.2 | 4.0 | 3.4 | 0.4 | 0.3 | 1.1 | 20.8 |
| 370 | 4.1 | 3.9 | 3.2 | 0.4 | 0.4 | 1.1 | 21.5 |



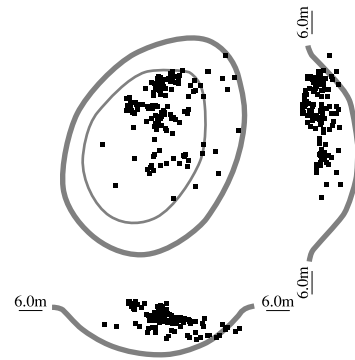
第 18 図 石錘の法量・重量



第19図 主要石器（石鋸・石錘）出土分布



01区SK71下呂石剥片出土状況

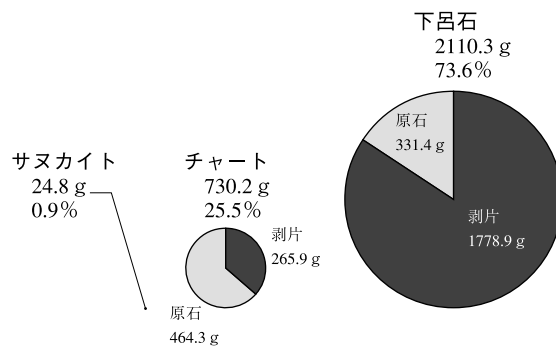


第20図 01区SK71剥片分布（1：20）

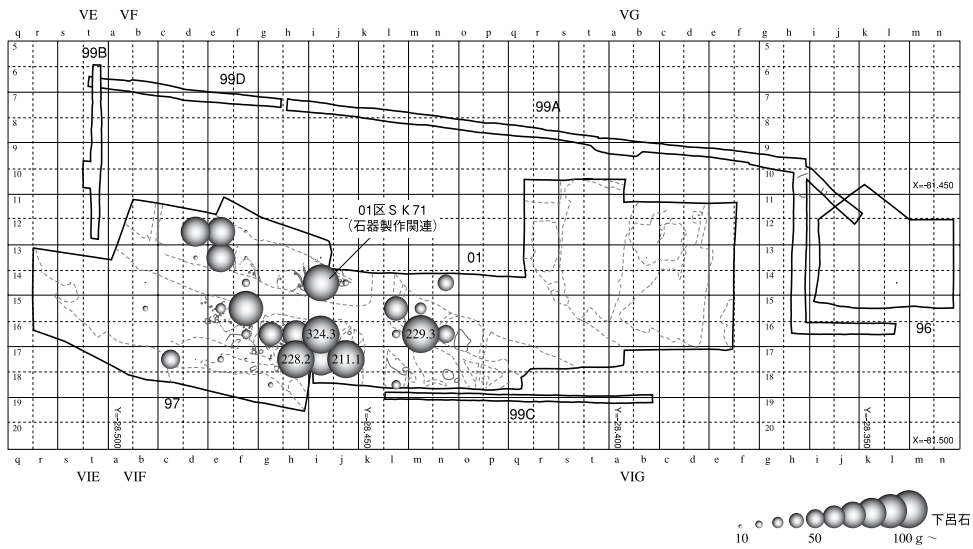
剥片・原石 遺跡からは445点、2865.3gの剥片・原石が出土した。剥片・原石の石材の構成（％表示は重量比）は下呂石404点・2110.3g（73.6％）、チャート38点・730.2g（25.5％）、サヌカイト2点・24.8g（0.9％）で、下呂石が優勢である（第21図）。これは剥片石器（石鋸）の石材の構成に類似する。

下呂石 石材として使用された下呂石は、原石や自然面を残す剥片の観察からすべて円礫とみられる。また下呂石剥片は、節理が発達した、つまり良質な素材剥片を獲得するに必ずしも適当でないものが多い傾向にあるといった印象を受けた。この傾向は遺跡から出土する剥片石器が希少なことに関連しよう。

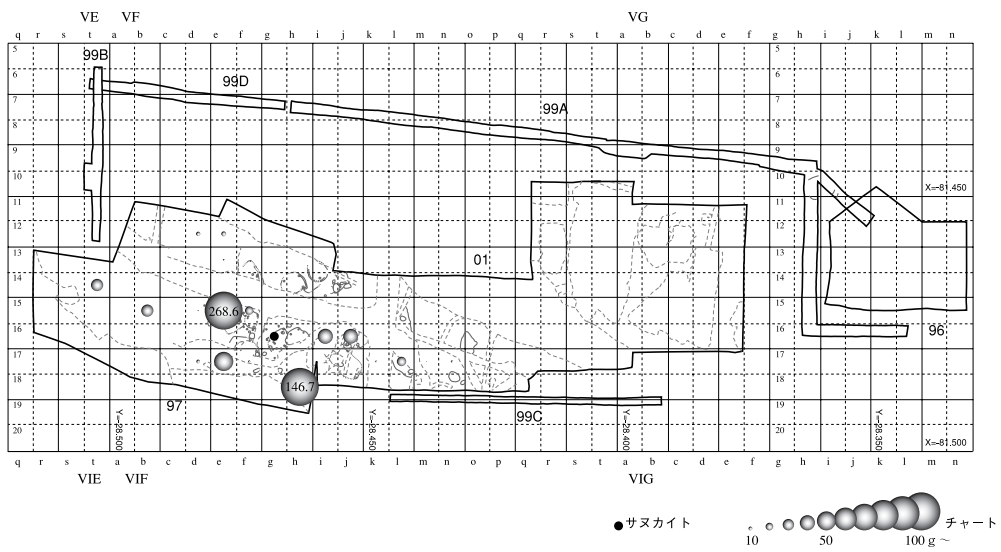
剥片分布 第22・23図に示した剥片の出土分布によれば、剥片の出土は縄文時代後期の遺構分布に概ね対応することが理解される。特徴的な点として、下呂石剥片の分布は97区よりも01区、なかでも01区南西部（01区SB04付近）に重心がある点を指摘しておく。石器製作関連遺構（01区SK71）の存在をも考慮すると、石器製作活動の主たる場を01区西部に求めることも可能であろう。



第21図 剥片の石材組成



第22図 剥片出土分布1 (下呂石)



第23図 剥片出土分布2 (チャート・サヌカイト)

(4) 弥生時代後期～古墳時代前期

概要

弥生時代後期～古墳時代前期の遺構、遺物は各調査区において広範に確認される。主たる遺構としては、竪穴住居2棟と墳丘墓5基を検出した(第24図)。

なお、個々の墳丘墓は複数の調査区に分割されたり、調査の段階において複数の遺構番号が付されたものもある。本報告では煩雑な記述を避けるため、5基の墳丘墓をそれぞれSZ01(97区SZ01)、SZ02(97区SZ02・01区SD64・99C区SD13)、SZ03(01区SD35)、SZ04(01区SD11・01区SD17・01区SD20)、SZ05(01区SD07)として統一的に呼称する。

1) 97区 竪穴住居と集落域

集落域

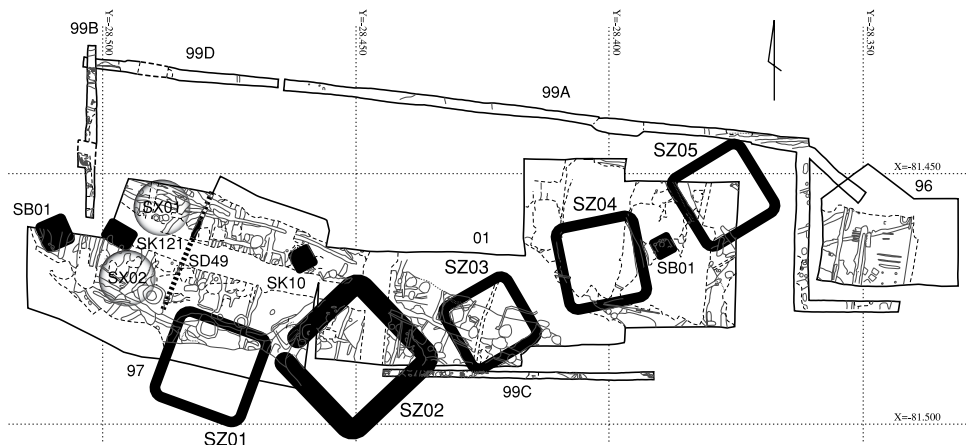
97区西半部では、土器群をともなう幾つかの遺構を検出した。性格を明確にしうる遺構は竪穴住居97区SB01のみであるものの、土器群の出土状況やその構成から97区西半部が集落域として利用されていた可能性を指摘しうる。

97区SB01

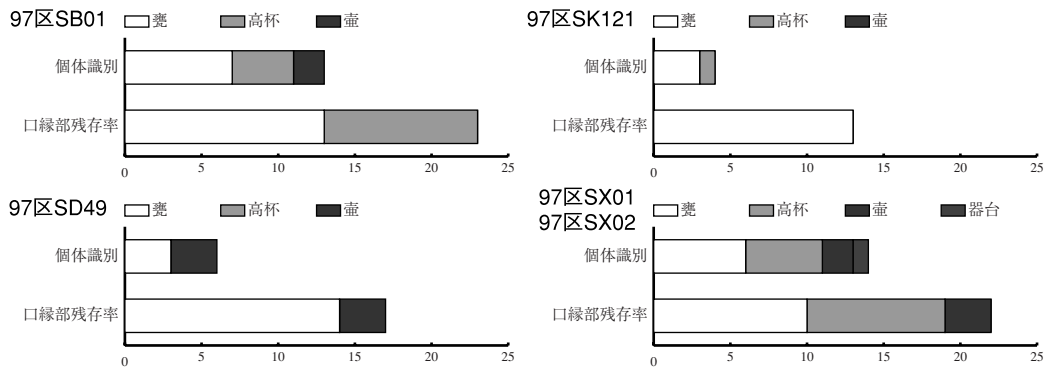
97区西端付近において検出し、竪穴住居の南西部分を調査した。残存は良好でなく、深さ0.1m前後で床面に達する。住居南西隅の主柱穴は97区SK125が相当すると考えられる。周溝は確認されなかった。なお、床面下では不定形な窪みが検出された。床面の構築にともなう整地の痕跡と判断される。

土器群

床面付近では土器群が検出された。廻間I式の良好な一括資料で、13個体の土器を個体識別した(382～394)。土器群は甕7個体、高杯4個体、壺2個体で構成される。甕は受口状口縁台付甕、くの字状口縁台付甕、S字状口縁台付甕(以下、S字甕)による多様な構成で、それぞれの甕の個体差も際立つ。その一方で、口縁部端部の製作手法は甕相互において近似する。382はわずかに内傾する受口状口縁と均一な薄い器壁を特徴とする。385は1次調整として右上がりのタタキが観察されるS字甕の脚台で、脚端部の折り返しが明確でないことから、A類に対比される。387は赤褐色の色調、厚い器壁など通例のS字甕とは特徴を異にする。



第24図 弥生時代後期～古墳時代前期主要遺構配置図(1:1,500)



第25図 竪穴住居ほか器種組成

これらの土器群は、S字甕A類を含みつつ多様な甕によって構成されること、高杯の形態や技法の特徴から、師勝町能田旭遺跡溝状遺構出土の土器群に後出する位置、すなわち廻間I式3段階に相当するものと判断される。

97区S D 49 97区東半において検出された遺構で土器群をとまなう。97区S D 49は97区S D 12、97区S K 121区S D 71(97区S D 57との新旧関係は不明確)と同一の溝である可能性もある。とすれば、97区S D 49(=97区S D 12-97区S D 71)には墳丘墓群と集落域を区画する機能が付託されていたものと理解することも可能となる。

97区S K 121では、4個体(395~398、甕3個体、高杯1個体)、97区S D 49では6個体(399~404、甕3個体、壺3個体)の土器を識別した。いずれも廻間I式1~2段階に帰属しよう。

97区S X 01 97区東半に堆積した黒色~黒褐色シルト層からは山中式を主体とする土器群が出土した。
97区S X 02 後続する時期の遺構が複雑に重複していたため、調査の段階で遺構として認識されなかったものの、土器群が出土したまとまりをここでは97区S X 01、97区S X 02とした。

個体識別した土器は97区S X 01、97区S X 02の総計で14個体(406~426、甕6個体、高杯5個体、壺2個体、器台1個体)で、山中I式3段階を前後する個体が相対的に多いとみられる。

2) 97区・01区 墳丘墓群

立地と群構成

墓域 97区東半部から01区にかけて墳丘墓を中心とした遺構群が広範に展開する。なお、今回の調査によって墓域の範囲は少なくとも東西120mに及ぶことを明らかとした。周辺調査区や範囲確認調査の調査成果をも考慮すると、自然堤防状微高地のかなりの部分が墓域としての利用に供されていたものと考えられる。

配置 検出した墳丘墓は5基を数え、それぞれの墳丘墓は一定の間隔を空けつつ東西方向(北東-南西方向)に列状に配される。また、列状に配された墳丘墓の背後と正面の空間に同時期の遺構が確認されない状況から、墳丘墓の配置には築造の当初から一定の秩序だった計画性が存在したものと推測される。なお、5基の墳丘墓に墳丘盛土と埋葬施設はいっさい遺存していなかった。

S Z 02

規模と形態 97区東部、01区西部、99C区西部に跨って検出された群中最大規模の墳丘墓である。東溝と南溝の大部分は調査区外で、北西隅は攪乱によって失われていた。墳丘規模は東西辺19.2m、南北辺18.8mで、墳丘形態は正方形に近い。墳丘主軸の方位はN42°W。

開口部 周溝の南西隅は陸橋として明確に掘り残して開口部としているが、その付近では少なくとも5基の遺構の複雑な重複を確認した。遺構のいずれもが周溝と同様に黒褐色を基調とする粘質シルトを埋土としていたため、遺構の平面形を正確に把握することはできなかったが、土層断面の観察から少なくとも3段階に及ぶ遺構の変遷があったものと判断される。

第1段階 これらS Z 02造営後の遺構の変遷を確認しておく。第1段階としてS Z 02の造営後に97区S D 63、97区S D 65、97区S D 66が掘削される。なお、97区S D 63は「コ」字状に屈

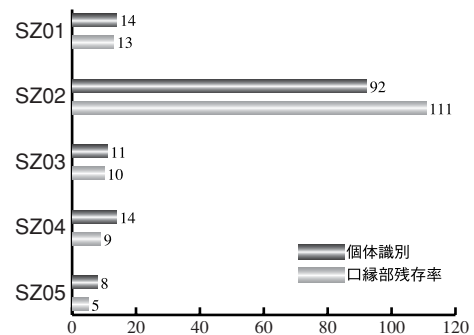
第2段階 曲する二段掘りの溝として検出され、97区S D 66には土器群（C群）がともなっていた。第

第3段階 2段階として墳丘墓の開口部に西溝と南溝を通じる溝として97区S D 67が掘削される。第3段階として97区S D 67に重複して97区S D 64が掘削される。また、97区S D 64と相前後して97区S D 62が掘削される。これらの遺構はS Z 02の造営後も墳丘墓に対する何らかの営為が継続していたことを示唆する。

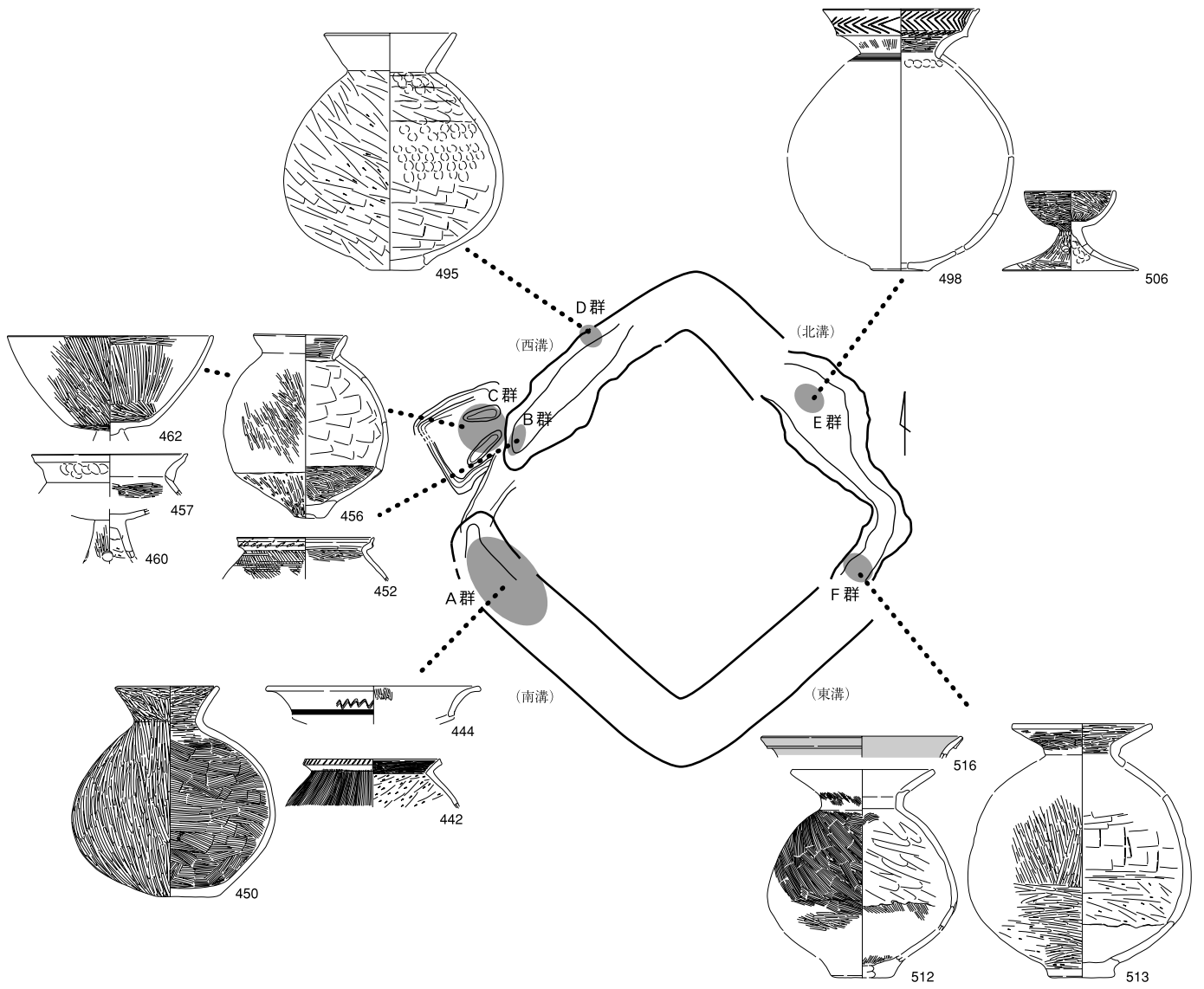
周溝 周溝の形状はやや不整形な形状として図示されるが、これは残存状況に応じて検出面が大きく相違したことに起因する。周溝の幅は良好に残存する北溝中央付近において、約5.0m、深さ約1.0mを計測する。周溝埋土は上位から黒褐色シルト（上層）、黒褐色粘質シルト（中層）、基盤層に由来する淡黄色極細粒砂が斑状に混入する黒褐色粘質シルト（下層）に比較的明瞭に区分される。

再掘削 ただし西溝の下層のみ、基盤層に由来する淡黄色極細粒砂を主として、暗褐色シルト、黒褐色シルトなどが大型のブロックとなって堆積していた。墳丘からの崩落土とも思われたが、周溝外側からの堆積がむしろ主であった状況が観察されたことから、周溝掘削時に取り残されたり、作業中に崩壊した堆積層である可能性が考えられた。加えて、南溝、北溝、東溝は周溝底面が標高約5.0mで均一である一方、西溝のみ0.5m前後、より深く掘削されていた。これら周溝の埋土と断面形にみられる不整合から、S Z 02西溝は築造後に大規模な再掘削を経験しているものと理解する。

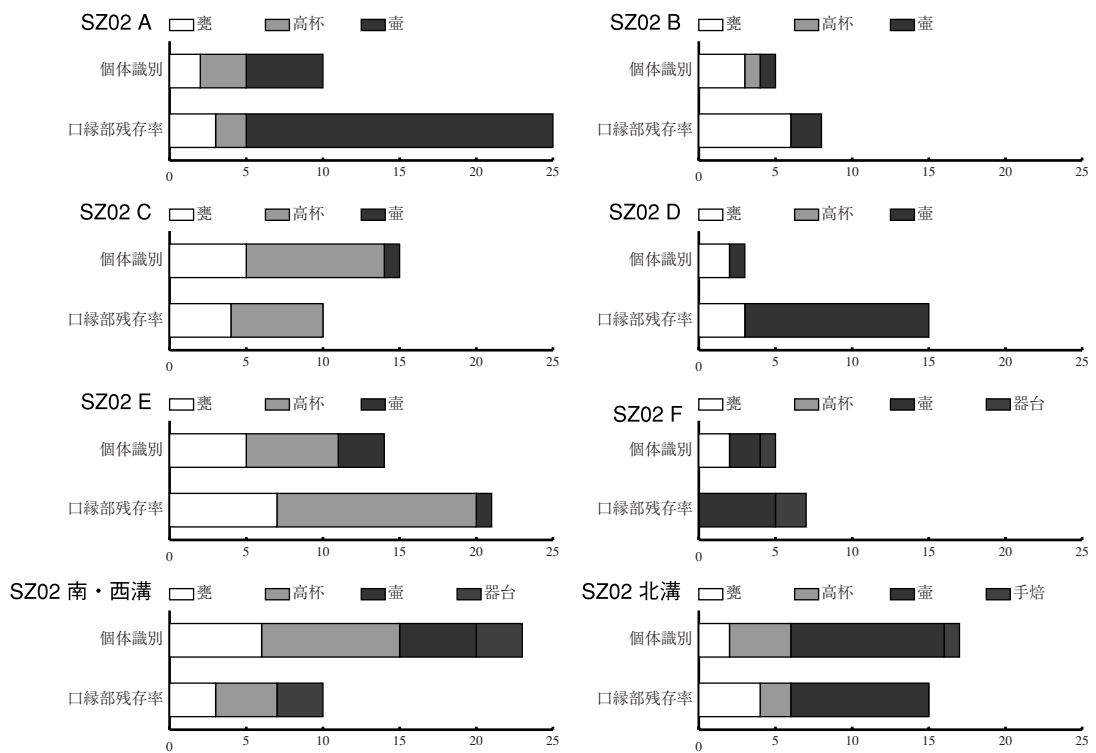
土器群 S Z 02では残存が良好な土器が周溝下層から比較的多く出土した。土器の相対的な出土量はS Z 02が他の墳丘墓を圧倒し（第26図）、墳丘墓群の中心的位置を占めていたことを推測させる。これらは土器集積として検出される場合と、完形の土器が単独で出土する場合とに大別され、出土した地点に応じてA～F群の6群に区分した（第27図）。なお、北溝上層では5世紀後半の須恵器（603）が出土していることから、周溝の埋没には相当の期間を要したことが明らかである。



第26図 墳丘墓出土土器の数量比較



第27图 SZ02 土器群出土地点



第28图 SZ02 器種組成

- A群** 97区、南溝の周溝底面付近においてやや散漫に出土した土器群を一括した。墳丘上から転落した土器が多いものと考えられる。10個体の土器が個体識別された(442～451)。土器群の構成は甕2個体、高杯3個体、壺5個体で、壺の比率が他を圧倒する。ほぼ完形の広口壺450は平底で、底部に木葉痕がある。山中式に帰属する。山中型台付甕442、(残存は良好でなく風化も認められるが、)山中型の有段高杯444の存在も考慮すると、山中Ⅰ式3段階～山中Ⅱ式1段階に一つのまとまりを認めることができる。有段高杯446、内彎短頸壺447など廻間Ⅰ式2～3段階の土器も散見されるが、破片として出土したもので安定を欠く。広口壺451は口縁部形態がパレススタイル壺に類するが、いっさいの加飾が欠落し、胎土も粗悪である。廻間Ⅱ式後半以降に位置づけられようか。
- B群** 97区、西溝の開口部直下の地点において出土した土器群。周溝底面からわずかに浮いた位置で一括出土した。周溝の外側から投棄された可能性が考えられる。5個体の土器が個体識別された(452～456)。土器群の構成は甕3個体、高杯1個体、壺1個体で、甕の比率が高い。残存が比較的良好なS字甕A類(452)から廻間Ⅰ式3段階を相前後する時期の土器群と判断される。
- C群** 97区S D 66を中心として、開口部付近において出土した土器群を一括した。開口部周辺の遺構に遺棄されたものと考えられる。15個体の土器が個体識別された(457～471)。土器群の構成は甕5個体、高杯9個体、壺1個体で、高杯の比率が優勢である。462は完存に近い有段高杯の杯部で廻間Ⅰ式2～3段階に相当する。他の土器もこの時期から大きく逸脱するものではない。なお、開口部付近に遺棄されたB群とC群は互いに近接した時期に位置づけられることから、両者を一連の土器群として理解することも可能かと思われる。
- D群** 01区、西溝の周溝掘形に食い込むように横転して単独出土した広口壺495にその周囲で出土した2個体の甕を含めた。周溝掘形の崩落時に周溝外側から混入した土器とみられる。495は器壁が厚く、器面調整も粗略化が著しい。明確に時期を決定することは難しいが、下膨れの器形の特徴と胎土や器面調整が451に類似する点を考慮して廻間Ⅱ式後半に位置づけたい。
- E群** 01区、北溝の辺中央付近で出土した。周溝底面からやや浮いた位置でやや散漫に出土し、それぞれの土器の出土位置に高低差はほとんど認められなかった。墳丘上から転落したか周溝外側から投棄されたかの判断は難しい。甕5個体、高杯6個体、壺3個体、計14個体の土器を個体識別した(498～511)。柳ヶ坪型壺498は復原して図示したが、凶化しえなかった多数の破片も含めるとほぼ1個体分に相当する。口縁部は比較的薄作りで、上段と下段の長さの比がほぼ1:1となる特徴、口縁部の外反の度合いが顕著でない特徴から廻間Ⅲ式4段階に位置づけられる。完形に近い低脚高杯506は498に接しつつもわずかにその下位から出土した。杯部下端の稜に鋭利さを欠く、脚裾部が大きく緩やかに広がるといった器形の特徴と加飾が認められない特徴から廻間Ⅱ式3～4段階に位置づけられる。他の土器は廻間Ⅰ式後半を相前後するものが多い。

F群 99C区、東溝の北東隅近くで出土した土器群。5個体の土器を個体識別した(512～516)。土器群の構成は甕2個体、壺2個体、器台1個体で壺の比率が相対的に高い。広口壺512、513は時期を明確にしがたいが、廻間Ⅱ式後半を相前後する位置を与えておく。513の体部上半には器面調整に用いたハケとは異なる工具を用いて、少なくとも2単位の波状の**記号文**を描く。外面には**ベンガラ**を塗布した痕跡も残る。516は内外面を赤彩する精製器種で、北陸系の器台の可能性が考えられる。

築造時期 A～F群とした土器群には、山中Ⅰ～Ⅱ式、廻間Ⅰ式2～3段階、廻間Ⅱ式3～4段階、廻間Ⅲ式4段階のそれぞれの時期に帰属する土器が確実に存在する。土器群すべては周溝下層から出土していて、いずれの土器群にも完形に近い土器がともなっているため、築造時期の決定は容易でない。

土器群のなかで最も時期が下降するE群の柳ヶ坪型壺(498)は北溝下層から出土したものの、その付近で出土した低脚高杯(506)とは明らかに時期を異にする。この事実はかなりの長期間にわたって土器が周溝下層にまで到達するような状況が継続したことを説明していて、周溝下層から出土した土器によって築造時期を推定することの不安定さを示唆している。また、広口壺495が西溝の最下層で掘形に食い込むようにして出土したことも重視すべきであるが、西溝の大部分は大規模に再掘削されている可能性が高く、495の出土状況はSZ02の築造時期を決定する材料として積極的に採用しがたい。

西溝の再掘削以外にも、SZ02の築造後に墳丘墓の整備や改変、あるいは追加的な墳墓祭祀が継続して実施されたものとする理解によるなら、SZ02の築造時期は南溝下層から出土したA群の主たる時期、すなわち山中Ⅰ式3段階～山中Ⅱ式1段階に求める見解が最も妥当であると考えられる。

変遷過程 SZ02築造時期を山中式に求めたことを前提として、SZ02築造後の変遷を各土器群に照らしつつ整理する。ここでは便宜的に4段階に区分した理解を示す(第29図)。

1段階 SZ02が築造された前後の時期を1段階とした。A群の編年の位置から山中Ⅰ式3段階～山中Ⅱ式3段階を中心とするものと想定する。A群の広口壺450は周溝下位でも墳丘斜面に接する位置で出土していることから、墳丘上に供献された土器が転落したことを想起させる。この段階には墳丘の築成にともない、主として墳丘に対して土器供献が実施されたものと考えられる。

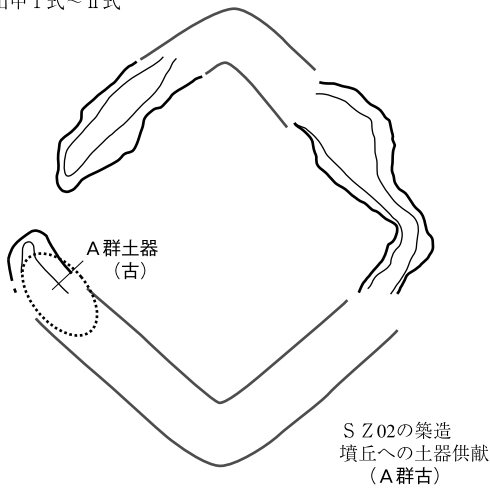
2段階 SZ02の開口部付近に小規模な遺構が展開する時期を2段階とした。一括性を認めうるB群、C群の編年の位置から廻間Ⅰ式2～3段階を中心とする時期と判断される。97区SD66、97区SD65は形状が不明瞭なものの、土器を遺棄することを前提として設置された遺構であったと考えられる。97区SD63は97区SD66、97区SD67を圍繞する溝で、特別な空間を用意する機能を与えられていた可能性もある。いずれにせよ、墳丘に対する土器供献が開口部付近を中心として実施されていたことは相違ない。

3段階 西溝が大規模に再掘削される時期を3段階とした。西溝の再掘削に由来すると判断したD群の広口壺495から廻間Ⅱ式3～4段階を想定する。また、97区SD67は南溝と西溝を連結するように掘削される溝で、時期を明確にする土器をとまわらないが、2期の97区SD

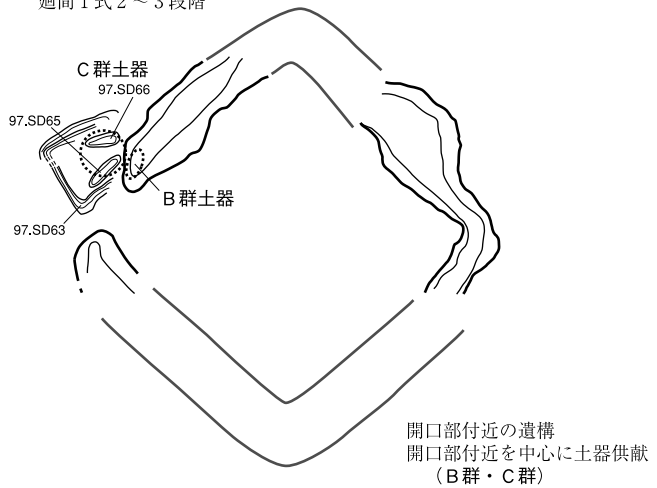
67を切ることからこの段階に含めた。また、495は外側の周溝掘形に食い込むように横転して出土しているので、墳丘上からではなく、周溝外側から転落したものと判断される。E群の低脚高杯506も北溝の中央付近で完形を保って出土していて、墳丘上から転落したとの判断は難しいように思われた。これらの土器の出土状況から、この段階の土器供献はS Z 02の周囲で実施されていた可能性を示しておきたい。F群はやや編年的位置が不安定なものの、この前後の時期に含めておく。

4段階 S Z 02に関連した営為が終息する前後を4段階とした。E群の柳ヶ坪型壺498から廻間Ⅲ式4段階が相当する。遺跡においてこれに後続する時期（松河戸式）の土器は出土していないことから、墳丘墓群にともなう営為自体も終焉していると判断される。なお、4期以降、周溝の埋積が本格的に進行する。

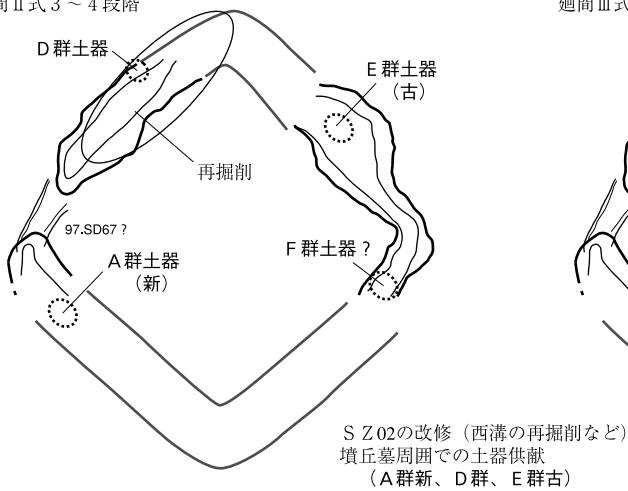
【1段階】
山中Ⅰ式～Ⅱ式



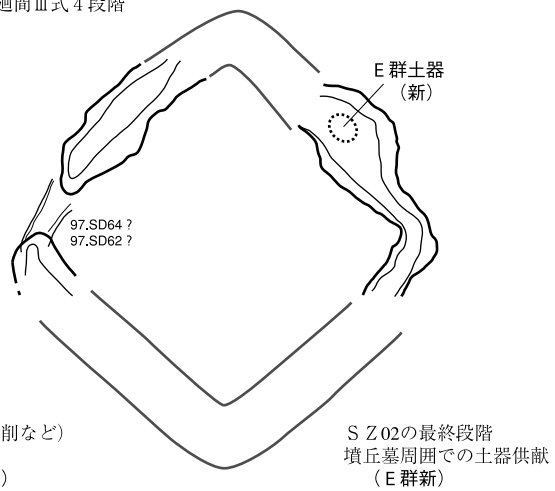
【2段階】
廻間Ⅰ式2～3段階



【3段階】
廻間Ⅱ式3～4段階



【4段階】
廻間Ⅲ式4段階



第29図 S Z 02の変遷過程

S Z 01

配置と規模

97区のはほぼ中央、墳丘墓群の西端に位置する。北溝と東西溝の一部を確認したのみ。墳丘規模は東西辺約14.0mで、墳丘主軸の方位はN 20° E。確認した部分で周溝は全周するが、周溝の北東隅と北西隅は掘り残され、周囲より浅くなっていた。周溝の幅は2.2m、深さは約0.5m（掘り残し部分で約0.1m）で、均質な黒褐色粘質シルトが堆積する。



S Z 01 北東隅付近

出土土器

出土土器として14個体を個体識別した（428～441）。土器群は甕8個体、高杯4個体、壺2個体で甕がやや多い。ただし、確実に墳丘墓にともなう土器は出土状況からは特定しえない。残存が比較的良好な428、434の甕は廻間I式前半に位置づけられ、他の個体もその段階に帰属するものが相対的に多いことを重視するなら、築造時期は廻間I式前半と判断される。

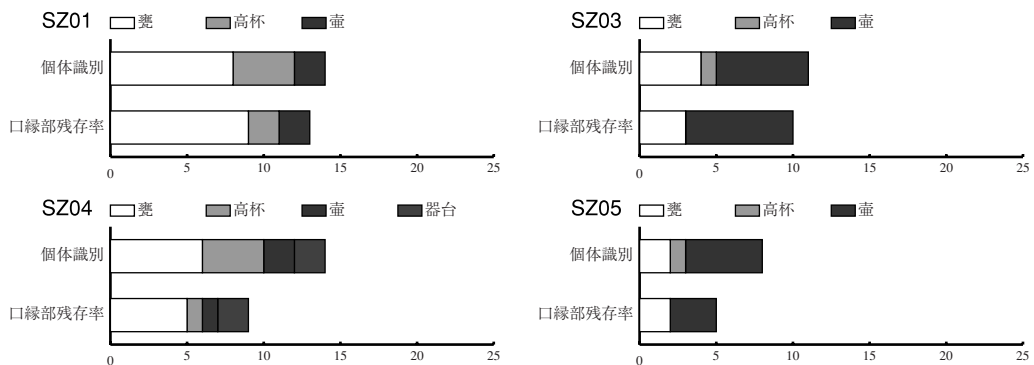
S Z 03

配置と規模

01区の中央付近、S Z 02とS Z 04の中間で検出した。後続する時期の遺構によって破壊される部分があるものの、東溝と南溝、西溝の一部を調査することができた。墳丘規模は東西辺約13.2mで、墳丘主軸の方位はN 31° W。周溝は検出した部分は全周していたが、北東隅付近がきわめて浅くなることから、北東隅が開口していた可能性も示しておきたい。なお、南東隅付近と南西隅付近においても周溝が浅くなる傾向が看取された。周溝の幅は約2.4m、深さは約0.6m。周溝底面付近には基盤層に由来する淡黄色極細粒砂が斑状に混入し、その上位から検出面までは黒褐色シルトが均一に堆積する。

出土土器

出土土器として11個体を個体識別した（534～538）。土器群は甕4個体、高杯1個体、壺6個体によって構成されるが、いずれも周溝の上位からの出土で、明確に墳丘墓にともなうものではない。廻間I式に帰属する土器が多いものの、築造時期の決定はきわめて困難である。

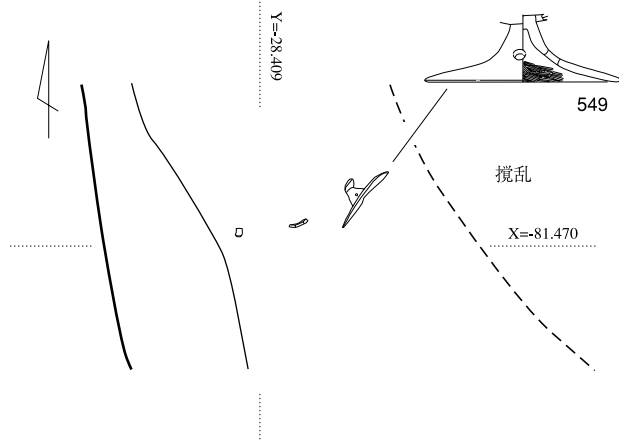


第30図 S Z 01、S Z 03、S Z 04、S Z 05 器種組成

S Z 04

配置と規模

01区の中央付近、S Z 03とS Z 05の中間で検出した。周囲は著しく攪乱され、部分的に残存する西溝、南溝、東溝から墳丘墓の存在を明らかにしえた。墳丘規模は東西辺が14m前後、南北辺が16m前後と推定され、墳丘形態としては南北辺がやや長い長方形として復原される。墳丘主軸の方位はN



第31図 S Z 04 西溝下層遺物出土状態図 (1:20)

10° W。周溝の幅は約2.6m、深さは約0.6m。周溝埋土は黒褐色シルトを基調とする上層、黒褐色シルトと基盤層に由来する淡黄色極細粒砂層が斑状に堆積する下層とに区分される。下層の埋土は墳丘側から墳丘盛土が流入したものである可能性が考えられる。西溝南部においては、周溝底面に接して低脚高杯(549)が出土した(第31図)。

出土土器

出土土器として14個体を個体識別した(545～558)。土器群の構成は甕6個体、高杯4個体、壺2個体、器台2個体で、甕と高杯がやや多い。545～549が西溝下層、550が南溝下層、551～556が東溝下層、557～558が東溝上層からの出土である。545はS字甕B類古段階。549は脚部がほぼ完存する低脚高杯で、548がその杯部となる可能性がある。脚裾部が緩やかに大きく開く形態を特徴とするもので、透孔を4方に穿つ。廻間Ⅲ式1～2段階に位置づけられる。558は体部外面に右上がりの細筋のタタキを施す甕。残存が良好な549が周溝下層から出土したことを重視するなら、築造時期は廻間Ⅲ式1～2段階に求められようが、下層からは545、555など廻間Ⅰ式後半に帰属する土器も少なからず出土しているので、築造時期は単純には決せられない。

S Z 05

配置と規模

01区の東端において西溝と南溝の一部を検出した。墳丘規模は南北辺で14m以上を計測するが、99A区の調査で周溝は検出されていないので、墳丘の一边は14mを大きく上回ることはないであろう。墳丘主軸の方位はN31° W。周溝の幅は約1.9m、深さは約0.8m。周溝埋土は淡黄色極細粒砂を主体とする下層、黒褐色粘質シルトに淡黄色極細粒砂が斑状に混入する中層、黒褐色粘質シルトを主体とする上層の3層に大きく区分される。なお、下層に堆積した淡黄色極細粒砂層は墳丘の外側から流入している状況がいずれの土層断面においても観察された。

出土土器

出土土器として8個体を個体識別した(559～566)。土器群は甕2個体、高杯1個体、壺5個体によって構成され、廻間Ⅰ式4段階～廻間Ⅱ式1段階に相当する土器が多い。ただし、中層から出土した566以外、出土状況はやや不安定で、築造時期の決定は難しい。

3) 97区・01区 墳丘墓関連遺構

97区SK10 97区の東端近く、SZ02の北西で検出した堅穴状の遺構。周囲に同時期の遺構は希薄である。攪乱によって失われる部分が多いが、平面形は一辺5m前後の方形として復原される。特徴的な遺構配置から墳丘墓に関連する遺構と想定する。

出土土器 出土した高杯(405)は杯部の約二分の一が残存する。独特な椀形の杯部、緩やかに大きく広がる脚部を器形の特徴とする精製器種。口縁端部の手法の特徴などから廻間I式2~3段階に位置づけておきたい。なお、杯部外面には全面にわたって煤が付着する。水銀朱を精製した容器との想定をもとに**蛍光X線分析**を実施したが、水銀は検出されなかった。

01区SB01 SZ04とSZ05の間に配された堅穴住居。北端と南端は攪乱によって失われる。幅0.7m前後の周溝を貼床とする床構造で、支柱穴と地床炉を配する。支柱穴は01区SK65、01区SK74、01区SK68で、四角形配置が復原される。支柱穴の深さは0.5m前後を計測する。中央に配される地床炉には炭化物と灰が濃密に認められた。

出土土器 出土土器はわずかで、5個体を個体識別したのみ(567~571)。567はS字甕B類新段階。570は杯部内面を加飾する高杯。直線文と鋸歯文は細いヘラ状工具によるもので形骸化を指摘しうる。これらの土器は廻間II式3~4段階に帰属する。

01区SB01は墳丘墓間のわずかな空間を利用して単独で位置すること、墳丘墓出土土器に前後する時期の土器が出土したことなどから、墳丘墓にかかわる施設としての可能性を提示しておきたい。



01区SB01

4) 小結

弥生時代後期から古墳時代前期の遺構は墳丘墓5基とその関連遺構が主体となる。また小規模な集落域も確認された。墳丘墓からは山中式から廻間式にかけての土器が間断なく出土する一方で、集落域から出土する土器は山中式~廻間I式に限定される。すなわち、集落域と墓域の関係はその規模と存続時期の相互の対応において明らかに不明な点を確認できる。また、墳丘墓の時期の決定にも多くの問題を残して、墳丘墓の築造過程の説明も容易ならざる状況にある。これらの困難な問題を解決するには、当地域における墳丘墓の特質と集落構造の変遷過程の整理、周辺遺跡の動態に対する**分析**が不可欠であろう。

文献

(編年に関するもの)

赤塚次郎 1990「考察」『廻間遺跡』愛知県埋蔵文化財調査報告書第10集 財団法人愛知県埋蔵文化財センター

赤塚次郎 2002「濃尾平野における弥生時代後期の土器編年」『八王子遺跡』愛知県埋蔵文化財調査報告書第92集 財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター

(遺跡に関するもの)

能田旭遺跡 市橋芳則編 1986『能田旭古墳—第一次発掘調査報告—』師勝町教育委員会

(5) 古墳時代後期

概要

古墳時代後期に帰属する4基の円墳を発掘調査によってはじめて確認した(第32図)。円墳はすべて墳丘盛土が遺存せず、それぞれの円墳の周溝と、1基においてのみ遺存していた横穴式石室を検出したにすぎない。検出された円墳の周溝は残存が良好でなかったり、複数の調査区に分割されていたために、調査の段階において複数の遺構番号を付したものが多く、本報告では煩雑な記述を避けるため、4基の円墳をそれぞれ1号墳(97区SD31・99B区SD09・97区SD20・97区SD13を周溝とする円墳、以下同じ)、2号墳(97区SD57・SD73・SD78)、3号墳(97区SD76・97区SD86)、4号墳(01区SD08・96区SD08・99A区SD07)として呼称する。

1号墳

墳丘と周溝

97区西部、99B区南部において検出した円墳。墳丘盛土はすでに失われていたが、中央付近には墳丘に利用された旧表土(黒色シルト)が残存し、微かな高まりをとどめていた。周溝は後続する時期の遺構に破壊される部分が多いものの、円弧として復原することが可能で、周溝が南西方向に大きく開口することも明らかにしえた。これによって1号墳は墳丘径約14.0mであることが判明する。周溝は97区SD13において幅約2.5m、深さ約0.4mを計測する。

周溝底面の標高は西周溝(97区SD31)が約5.5m、東周溝(97区SD13)が約5.9mで、東西において約0.4mの比高を認める。また、中央の旧表土の標高は約6.4mで、みかけでの墳丘の高さは高い部分で約0.9m、低い部分で約0.5mとなる。つまり、1号墳は微高地西端近くの自然地形の傾斜を利用して築造されたものと理解される。周溝埋土は下位において基盤に由来する淡黄色極細粒砂が斑状に混入するものの、大部は黒色を基調とするシルトの均一な堆積である。

周溝からの出土遺物はごく少なく、古墳に関する遺物としては97区SD31において2個体の須恵器蓋杯蓋(599、600)が出土したのみである。



第32図 古墳時代後期主要遺構配置図(1:1,500)

横穴式石室

1号墳では埋葬施設として南西方向に開口する横穴式石室を確認した(97区SX01)。横穴式石室は奥壁の位置が周溝の円弧の中心にほぼ一致する位置に構築され、周溝の開口方向と同じく南西方向(N 57° E)に開口する。

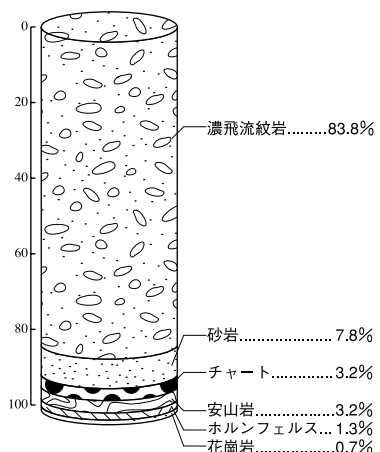
石室掘形は旧表土と基盤層を掘削した長方形の平面形として検出した。掘形の規模は、右壁側については十分に検出しえなかったため正確さを欠くが、幅約1.8 m、深さ0.15 m前後を計測する。埋土は黒色を基調とするシルトで、旧表土と比較して、基盤に由来する淡黄色極細粒砂の含有が相対的に多いことが観察された。

石室は玄室の奥壁側の一部が残存するのみで、石室の構築技法、平面形、規模を知る材料はさわめて乏しい。以下に、石室に関係する限られた知見を列記する。

検出時の石室は礫が散乱した状態で、左壁の基底石と床面に敷かれた円礫のみが石室構築時の位置をとどめているものと判断した。右壁と奥壁、左壁の一部の基底石はすでに失われていて、石材が抜かれた痕跡を確認した。これを参考にすると、玄室は長方形で、玄室幅は内法0.9 m前後であること、奥壁、右壁とも左壁と同じく大振りな石材を基底石として配していたことが推測される。また、原位置をとどめる基底石と基底石が抜かれた痕跡から、基底石は石室掘形の底面から直接に0.1 m前後埋め込まれていたことが分かる。石室床面には掘形の底面に接して円礫が敷かれていた。円礫は10～20 cm、0.1～0.4kgのものが多い。

石室石材

石室の構築に使用された石材は濃飛流紋岩が大部分で(83.8%)、他に砂岩(7.8%)、チャート(3.2%)、安山岩(3.2%)、ホルンフェルス(1.3%)、花崗岩(0.7%)がある(第33図)。なお、基底石、床に敷かれた円礫の多くが被熱するといった状況が観察された。被熱した部分は原位置をとどめていた基底石の裏面においても認められたことから、石室構築後に石材が被熱したのではなく、元来より被熱した石材を使用していることが明らかである。



第33図 使用石材の構成

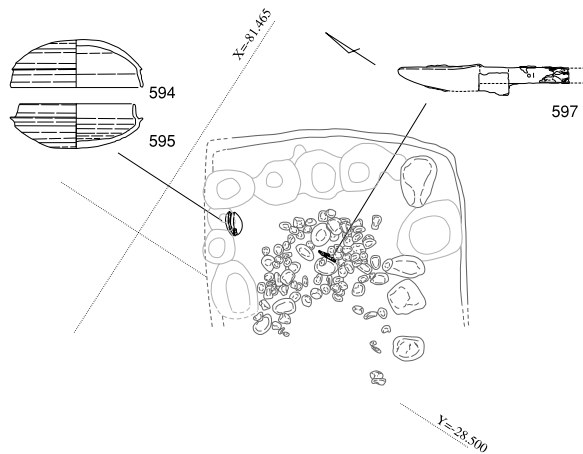
横穴式石室

横穴式石室を精査する過程で須恵器蓋杯蓋1点

遺物出土状況

(594)・蓋杯杯1点(595)・提瓶1点(596)、鉄刀子1口(597)が出土した(第34図)。また、横穴式石室の検出中に須恵器蓋杯蓋1点(598)が出土した。

須恵器蓋杯(594、595)は右壁付近において、蓋が杯に被さった状態で出土した。これらは床面にほとんど接する位置で出土したが、横転して蓋がずれていたこと、下位は基底石がすでに抜かれていたことから、石材が抜かれた際に周囲の円礫とともに落ち込んだ状況が想定される。原位置をとどめていないことは明らかであるものの、蓋と杯が被さった状態であったことから、原位置からさほど移動していないものと思われる。蓋杯内部には土が充満していて、その土を水洗選別したもの、小円礫が混入していたのみで、遺物は何ら認められなかった。さらに土壌中の微化石の抽出も試みたが、風化によって珪藻殻はほとんど崩壊した状態であった。なお、須恵器提瓶は石室埋土の上位で出土した。不用意に採集したため



第34図 横穴式石室遺物出土状況（1：50）

横穴式石室須恵器蓋杯出土状況

正確な出土位置については特定しえない。

鉄刀子（597）は左壁と右壁のほぼ中央、床面の直上で、切先を奥壁と右壁が接する位置に向けて（ほぼ真北方向）出土した。出土時は錆化によって折損し、碎片が周囲に散乱した状態であった。なお、石室埋土のほぼすべてを篩かけしたが、遺物は何らえられなかった。

出土遺物

石室内より出土した須恵器蓋杯（594、595）は形態や技法の特徴から、東山61号窯期と東山44号窯期の中間で、より東山44号窯期に近い位置が与えられる。鉄刀子（597）は使用による研ぎ減りによって刃先がかなり短くなっている。関の形態は両関で、背関は浅く、刃関が深い。切っ先はふくらを有する。柄には木質が付着し、木装であったことが判る。柄縁金具をともない、目釘孔を認める。

石室の埋土上位で出土した須恵器提瓶（596）、周溝から出土した須恵器蓋杯蓋（599、600）とも、石室内より出土した須恵器の型式から大きく逸脱するものではない。石室の周囲では東山11号窯期に位置づけられる須恵器蓋杯（598）も出土しているが、出土状況が不安定で、直接古墳にともなう可能性はごく低い。したがって、1号墳の築造時期は石室内から出土した須恵器蓋杯の型式から6世紀後葉と判断される。

2号墳

墳丘と周溝

1号墳に東接する円墳。97区S D 57、97区S D 73、97区S D 78によって円弧が求められ、北方向に周溝が開く。墳丘径は約7.0 m、周溝は97区S D 78において幅約1.0 m、深さ約0.1 mを計測する。周溝埋土は黒色を基調とするシルトの均一な堆積である。周溝から古墳に関する遺物は出土しなかった。

3号墳

墳丘と周溝

2号墳の北東に接する位置で検出した円墳。円弧状にめぐる溝97区S D 76・97区S D 86が古代の溝97区S D 50（溝B）に先行することから、古墳の周溝と判断した。周溝は1号墳と同じく南西方向に開口するものと思われる。墳丘径は約12.0 mに復原され、周溝は97区S D 76において幅約1.4 m、深さ約0.5 mを計測する。周溝埋土は黒色を基調とするシルトの均一な堆積である。周溝から古墳に関する遺物は出土しなかったが、97区S D 76では溝の上位に礫（すべて濃飛流紋岩）が散乱していた。礫群は石室の構築に使用された石材であった可能性が高い。

4号墳

墳丘と周溝 01区南東部の溝01区S D 08、96区南西部の溝96区S D 08、99A区南東部の溝S D 07を周溝とする円墳で、墳丘径は約25.5mに復原される。周溝は96区S D 08において幅約3.7m、深さ約0.5mを計測する。周溝底面の標高は西周溝（01区S D 08）が約5.4m、東周溝（96区S D 08）が約4.9mで、東西において約0.5mの比高がある。つまり4号墳は1号墳と同様に、微高地東端近くの自然地形の傾斜を利用して築造されたことが理解される。周溝埋土は下位において基盤に由来する淡黄色極細粒砂が斑状に混入するものの、黒色を基調とするシルトの均一な堆積によって大部が占められる。

なお、01区S D 08の底面において方形を基調とする土坑4基を検出した。土坑はそれぞれに切り合う2基を1単位として分布する。土坑は長軸1.5m前後、短軸0.8m前後、深さ0.15m前後を計測し、周溝と同様に黒色シルトを埋土とする。埋土がしまりをやや欠いていたこと、土坑の深さが総じて浅いこと、01区S D 08周辺には中世の遺構が多く分布することなどから、本来は周溝埋土の上位から掘削された中世の遺構であった可能性もある。

出土遺物 周溝出土遺物で古墳に關係する遺物はごく少なく、01区S D 08から須恵器甕（601）が単独で出土したのみである。601は型式を特定することが難しいが、東山61号窯期から東山44号窯期までのいずれかの型式に相当するものと思われる。したがって、4号墳の築造時期は6世紀中葉から7世紀前葉のいずれかの時期に求められることになる。

小結

群集墳 発掘調査においてその存在をはじめて明らかにした4基の円墳は、木曾川系自然堤防帯に展開する群集墳を構成するものと把握される。築造時期は古墳の埋葬施設や周溝から出土した遺物から6世紀後葉を中心とするものと推測する。遺跡から埴輪が出土していないこともこの推測を補強しよう。しかし一方で、遺跡には5世紀後半から6世紀中葉にかけての遺物が散見されることも考慮する必要がある。

立地と群構成 群集墳の立地と群構成の特徴としては、1号墳、2号墳、3号墳が自然堤防の西端に、4号墳が自然堤防の東端に築造されること、1号墳、2号墳、3号墳は相互に周溝を接するように密集して築造されることを指摘しよう。これは、自然堤防の先端付近を意識的に選地したことも考えられるものの、弥生時代後期～古墳時代前期に築造された墳丘墓群がなお墳丘の高まりを維持し、古墳の築造に多大な制約を負わせていたことがもっとも深く関係していたのであろう。

横穴式石室 また、1号墳において残存していた横穴式石室は川原石積みと礫床を特徴とする構造で、木曾川左岸における代表的な群集墳、浅井北古墳群の埋葬施設との関連を想起させる。これは、これまでまったく不明のままであった尾張低地部の後期古墳の埋葬施設にかかわる貴重な知見である。

文献

斎藤孝正 1989 「古墳時代の猿投窯」『第6回東海埋蔵文化財研究会 断夫山古墳とその時代』愛知考古学談話会
植崎彰一ほか 1963 『新編一宮市史 資料編三』一宮市

(6) 奈良・平安時代

概要 古代の主要な遺構として、竪穴住居1棟と溝5条を検出した(第35図)。溝は複数の調査区に跨ったり、他の時代の遺構と複雑な切り合い関係を有していたことから、調査の段階において、同一遺構に対して複数の遺構番号を付したことが多い。以下の記述では煩雑さを避けるため、97区SD16・SD30・SD34・SD45を溝A、97区SD50・SD47・SD46を溝B、97区SD37、01区SD50・SK49を溝C、01区SD19を溝D、99D区SD10を溝Eとして表記する。

竪穴住居 97区SB02

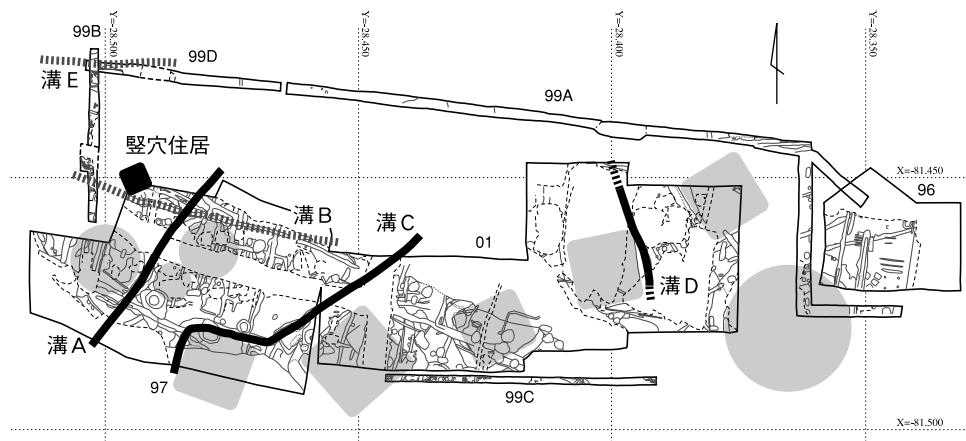
電 97区北西部に位置する。大部分が調査区外にあるため、平面形や正確な規模については不明である。炭化物と焼土粒が集中して検出されたことを根拠に竪穴住居として認定した。あるいは炭化物と焼土がとくに濃密な部分を竈と考えることも可能かと思われる。遺物はこの近辺で集中して出土した。

溝A

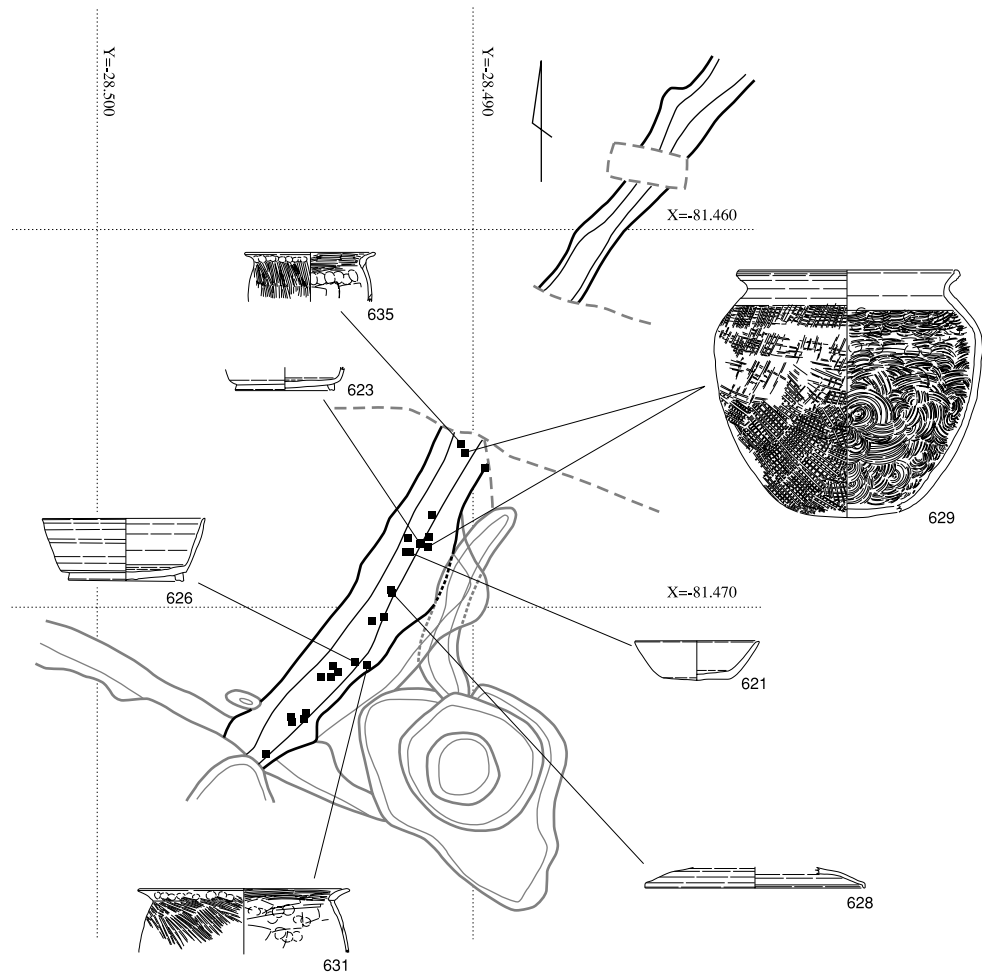
石室石材 97区を南北に縦断する溝で、1号墳の周溝(97区SD13)に大きく重複する。検出面での幅は約1.5m、深さは約0.5mで、埋土は黒褐色を基調とするシルトの均質な堆積であった。遺物の多くは溝の上位から出土した。なお、出土遺物には濃飛流紋岩をはじめとする円礫も多数含まれていた。これらは周囲の古墳の石室に使用されていた石材が、石室の崩壊後、溝に流れ込んだか、廃棄されたものと推測される。

溝B

97区北東部での削平がとくに著しく断定が困難なものの、97区北部を東西に通じる溝として、3条の溝を同一の遺構とした。出土遺物はごく少ないが、3号墳の周溝(97区SD76)より新しく、溝Aに先行することから古代に帰属する遺構と判断した。すなわち溝Aと溝Bの切り合いから、古代の遺構は少なくとも二小期に区分されることになる。



第35図 奈良・平安時代主要遺構配置図(1:1,500)



第36図 溝A遺物出土分布（1：200）

溝C

S Z 01 西溝、S Z 01 北溝、S Z 02 西溝を縦断するように通じる溝で、検出面での幅は約1.6m、深さは最大で0.8mを測る。埋土は暗褐色を基調とするシルトの均質な堆積で、切り合い関係を有する周囲の遺構との埋土の識別は困難であった。溝の下部は段状に約0.4m深く掘削され、また溝の上部では堆積の不整合が観察されることから（第38図）、2回以上にわたって溝が再掘削された可能性を指摘できる。遺物の出土は相対的に多いものの、やや散漫な出土状況を示した。これには複数回に及ぶ溝の掘削が関係しているものと考えられる。

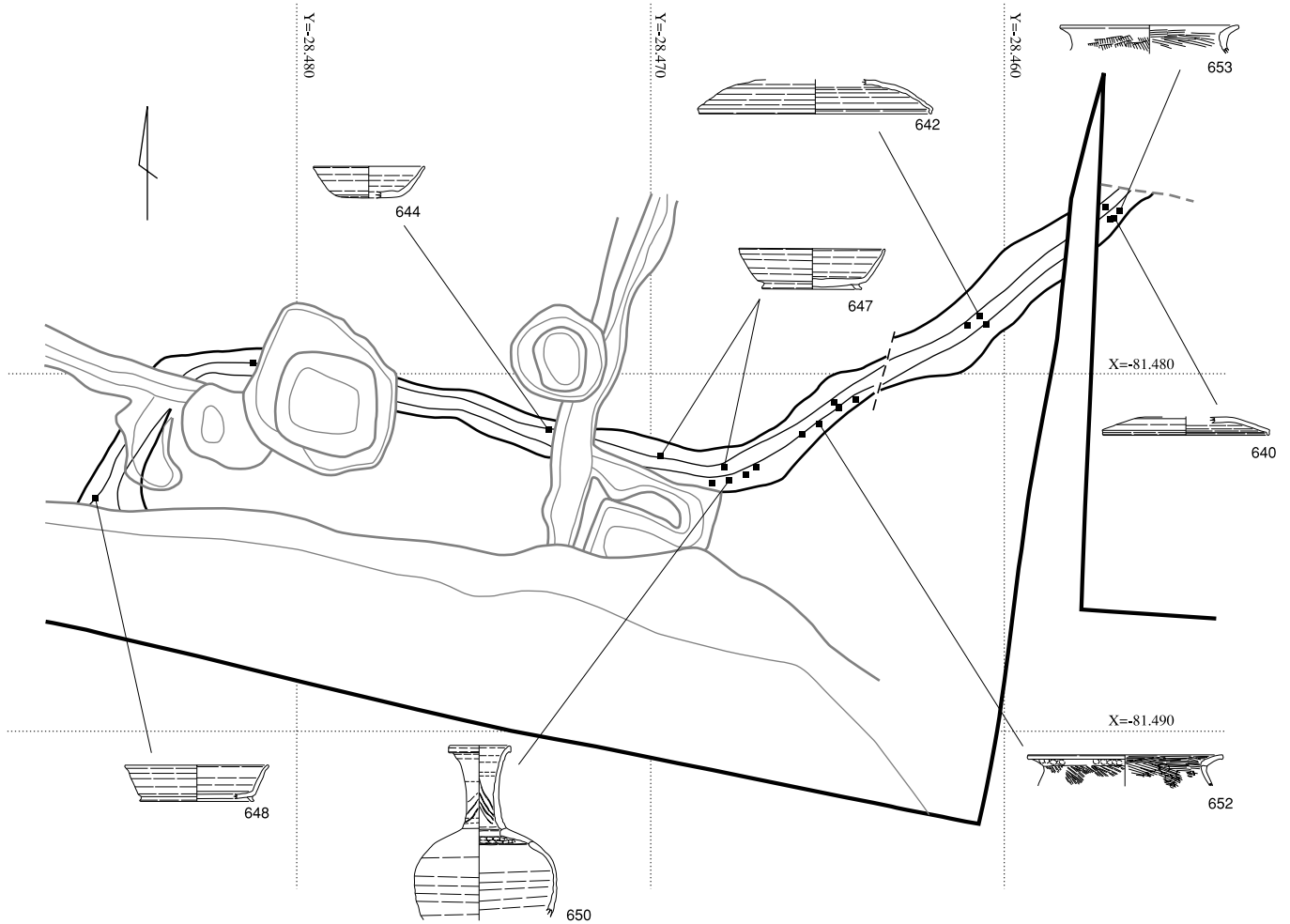
再掘削

溝D

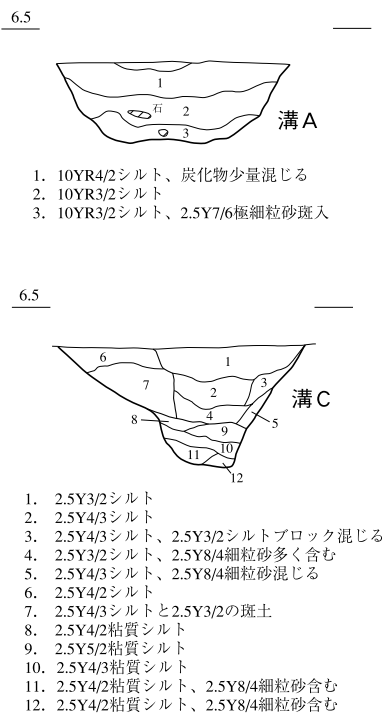
S Z 04 東溝を南北に縦断する溝。S Z 04 東溝の最上層として把握することもできるが、断面形が明確であったこと、古代の溝の多くが墳丘墓や古墳の周溝と重複する傾向にあることを考慮して、人為的に掘削された溝として扱った。検出面での幅は約0.9m、深さは約0.2mを測る。埋土は他の古代の溝と同様に暗褐色を基調とするシルトである。出土遺物はごく少ない。

溝E

大部分が調査区外で、周囲も激しく攪乱されている。規模やその性格などは明らかでない。



第37図 溝C遺物出土分布 (1:200)



第38図 溝A・溝C土層断面図 (1:50)



溝A土層断面



溝C土層断面

出土遺物

器種組成 竪穴住居、溝A、溝Cからはまとまった量の土器が出土している。基本的な器種組成として、須恵器は有台杯、無台碗が普遍的に存在し、これに甕、鉢、長頸瓶などが補完的に加わる一方、土師器甕は濃尾型甕によって占められる（第39図）。これらは概ね折戸10号期に帰属するものとみられ、8世紀末から9世紀初頭の年代が与えられる。なお、灰釉陶器が遺跡から数点出土しているものの、遺構にもなって出土することはない。

615、616は杯蓋、617、618は無台碗で、618は底部外面に回転糸切り痕。619は有台碗。620は濃尾型甕。

621、622は無台碗、623は有台碗、624～627は有台杯で、625、626は深手のもの。628は杯蓋。629は美濃須衛産の甕。630は鉢。631～635は濃尾型甕。

土師器碗 638～642は杯蓋。643は土師器で器形は須恵器の無台碗に通じる。644は無台碗、645、646は無台杯、647は有台碗、648は有台杯。649は双耳瓶で体部下位に耳を付し、耳には小円孔を穿つ。650は長頸瓶で、頸部は細く締め、頸部と胴部の接合は三段構成。652～654は濃尾型甕。

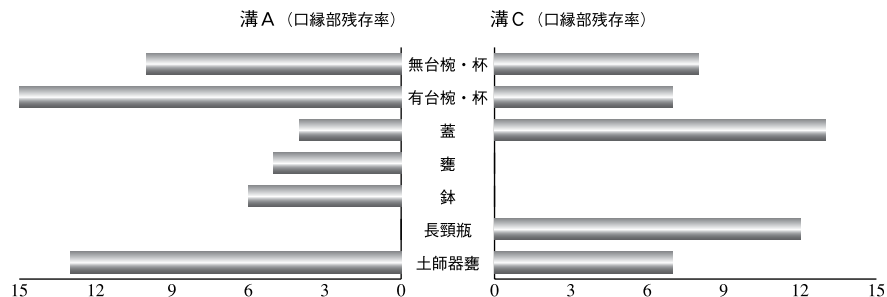
平瓦 その他、01区からは平瓦（671）が1点出土したが、かなり摩滅していることから、周辺から混入したものとみられる。672は灰釉陶器皿で黒笹14号期。

小結

古代の遺構と遺物は97区において相対的に濃密に認められた。調査区を縦断する溝はほぼ例外なく墳丘墓や古墳の周溝に重複して掘削されていることから、残存する墳丘部分の高まりが溝の設定に多大な制約を負わせていたと考えられる。遺構から出土する遺物はさきわめて近接した時期のものに限られることから、古代においては継続的な土地利用が意図されていたとはいいがたい。つまり、遺跡は近在する古代集落の周縁部に相当していた可能性が高く、周辺における開発の頂点も8世紀末頃にあったものと推察される。

文献

- 尾野善裕 2000「猿投窯（系）須恵器編年の再構築」『須恵器生産の出現から消滅』東海土器研究会
 城ヶ谷和広 1991「古代尾張の土師器～6世紀後半から11世紀の様相～」『年報』平成2年度 財団法人愛知県埋蔵文化財センター
 永井宏幸 1996「尾張平野を中心とした古代煮炊具の変遷」『鍋と甕そのデザイン』東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会
 植崎彰一 1983「猿投窯の編年について」『愛知県古窯跡群分布調査報告（Ⅲ）』愛知県教育委員会



第39図 溝A・溝C器種組成

(7) 鎌倉・室町時代

概要 中世の遺構、遺物はきわめて散発的に検出されるのみで、遺構の分布は01区東部、01区南西部・99C区西部、97区西部にほぼ限定される（第40図）。

01区東部

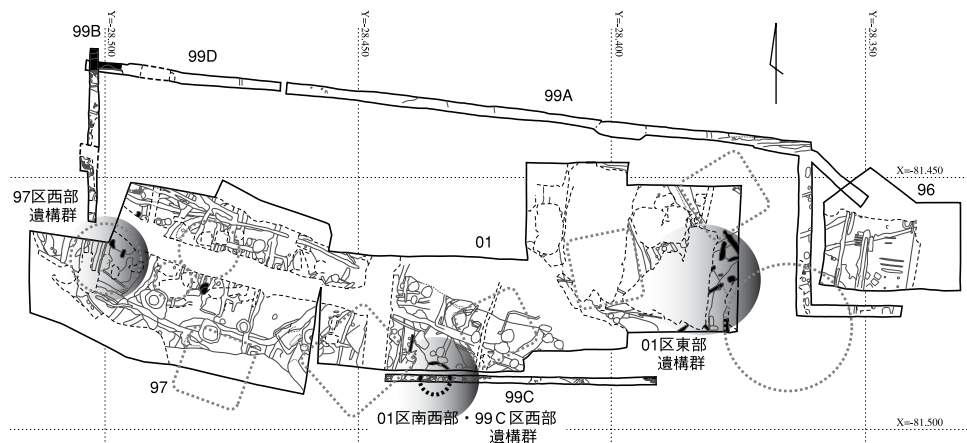
土坑墓 S Z 05および4号墳付近に円形の土坑（01区S K 01）や短小な溝状遺構（01区S D 01、01区S K 01 01区S D 02など）が散在する（第41図）。01区S K 01は遺構の断面形が円筒形に近いこと、埋土が掘削直後の埋め戻しを想起させる斑土であることから土坑墓の可能性が考えられる。01区S K 01では、瀬戸第4型式の灰釉系陶器の小椀（673）、椀（674）が出土した。01区S D 01と01区S D 02などは短小な溝状の平面形、舟底状の断面形を特徴とする。01区S K 01とともに群在することから、01区S K 01と同様に土坑墓の可能性を指摘したい。遺物の出土状況も01区S K 01に類似し、01区S D 01では伊勢型鍋（679）と龍泉窯系I - 4類の青磁椀（680）、が、01区S D 02では瀬戸第5型式の灰釉系陶器椀（675～678）が出土した。出土遺物はみられなかったものの、01区S K 04、01区S K 05、01区S D 03、01区S D 04、01区S D 05、01区S D 09などの遺構も01区S D 02と同様の遺構と考えられる。

01区南西部・99C区西部

区画墓 S Z 02の周溝に接して弧状にめぐる幅約0.6mの溝（01区S D 65、99C区S D 10・S D 01区S D 65 12）が検出された。遺構の埋土は黒色シルトで、S Z 02の周溝の埋土との新旧関係の判別が困難であったため、溝の一部分については検出することができなかった。溝で区画される範囲の復原径は約5.0mで、古墳時代の円墳としては著しく規模が小さいこと、溝から瀬戸第5型式の灰釉系陶器椀（683、684）が出土したことから中世の区画墓と判断した。

97区西部

97区S K 11 1号墳の埋葬施設の近辺で方形の土坑を検出した。97区S K 11の埋土は斑土であることから、97区S K 12とともにやや小型の土坑墓と考えられる（第42図）。97区S K 11からは瀬戸第5型式の灰釉系陶器椀（687）が出土した。



第40図 鎌倉・室町時代主要遺構配置図（1：1,500）

中世前期

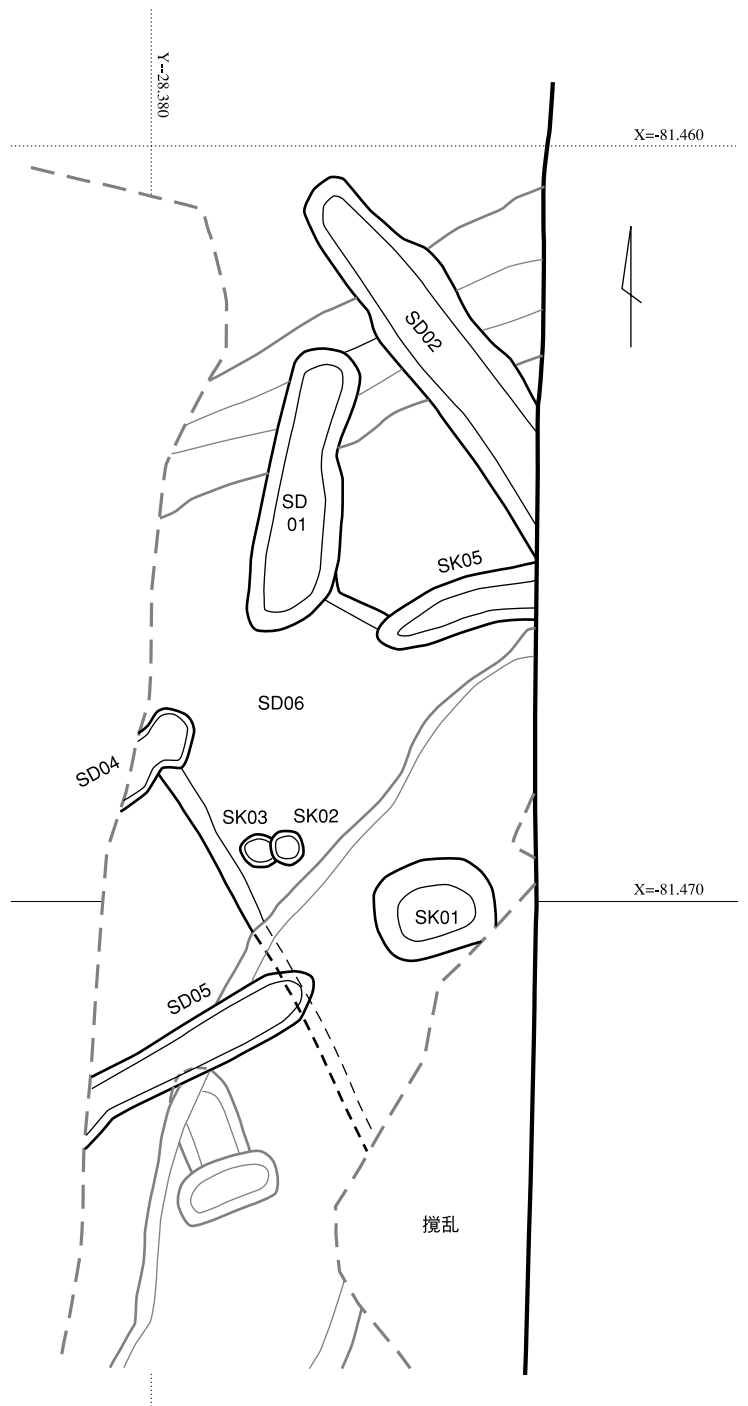
中世墓

「塚」状の高まり

小結

遺跡からは瀬戸第6型式の灰釉系陶器椀(694)、東濃型大洞東窯期の灰釉系陶器椀(697)や古瀬戸後期の水注(698)もわずかに出土するものの、中世の遺構から出土する遺物の多くは瀬戸第5型式の灰釉系陶器である。つまり、遺跡において中世の遺構が展開する時期は中世前期のごく短期間にはほぼ集約される。そして遺構の多くが中世墓を類推させるもので、円形土坑墓、方形土坑墓、円形区画墓など、その形態は多様である。

また、これらの中世墓は墳丘墓群や古墳群の間の空間に、あるいは周溝と重複する場所に選地される傾向があることから、墳丘墓群や古墳群の周溝が完全に埋没しつつある一方で、なお墳丘は高まりを有していたことはほぼ間違いない。あるいはこれらの中世墓が墳丘墓や古墳群などの「塚」状の高まりを意識して選地している可能性も考えられる。

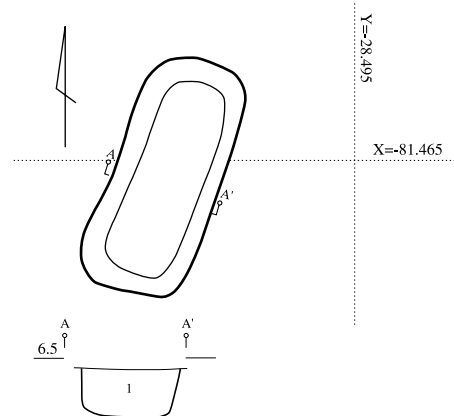


第41図 01区東部遺構群(1:100)

文献

藤澤良祐 1991 「古瀬戸後期様式の編年」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要X』瀬戸市歴史民俗資料館

藤澤良祐 1994 「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要』第3号 三重県埋蔵文化財センター



1. 2.5Y4/4シルト質極粒細砂、2.5Y3/1シルト質極粒細砂斑入

第42図 97区S K 11遺構図(1:50)

(8) 江戸時代

概要 近世の遺構は各調査区において比較的濃密に確認される。これらは97区において検出された屋敷地に直接関係する遺構群と、主として01区で検出された屋敷地に付随する遺構群とに二分される(第43図)。

97区

屋敷地区画 屋敷地のほぼ一区画を97区において確認した。すなわち、97区SD23・SD28、97区SD27、97区SD19・SD36によって画される東西約30m、南北25m以上の範囲を屋敷地の一区画と推定した。

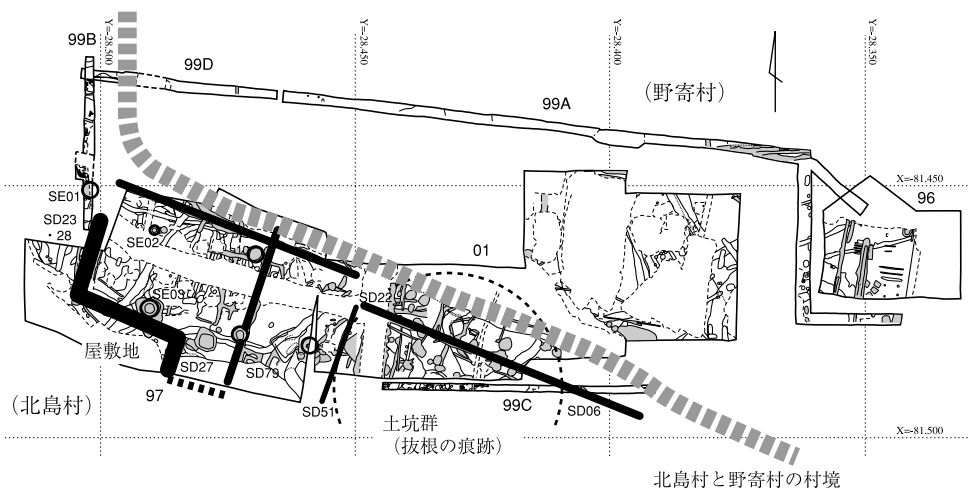
97区SD23 97区SD23・SD28と97区SD27は、ガラス工場操業時の廃棄物を処理した攪乱坑によって分断されているものの、特徴的な溝の断面形から同一の遺構と判断した。すなわち97区SD23・SD28が攪乱坑付近で屈曲して97区SD27へと通じ、それぞれが屋敷地の西辺と南辺を画しているものと考えられる。なお、97区SD23は97区SD28の溝の幅を拡張気味に再掘削した溝として発掘調査時には区別して扱った。

97区SD27 97区SD27は、いわゆる「薬研掘」状の断面形を呈している状況が明瞭に観察された。また97区SD28の下部も同様の断面形であった。溝の埋土は下層が黒褐色を基調とする粘質シルトの均質な堆積である一方で、上層には黒褐色粘質シルトに淡黄色細粒砂が斑状に多く混入していることから(第44図)、一定の自然埋没の経過後、整地されたと考えられる。

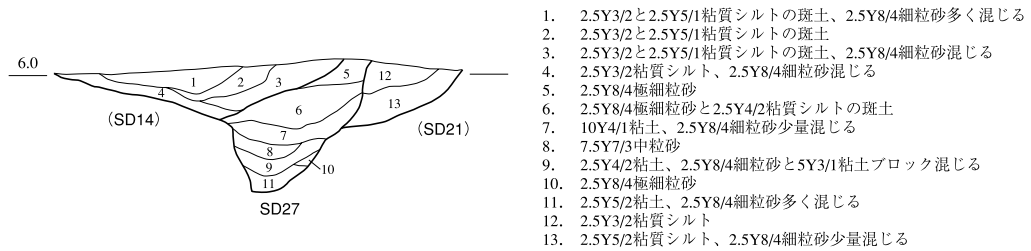
97区SD23・SD28と97区SD27の出土遺物は相対的に少ない。これらの遺物は瀬戸美濃産陶器が多く(751～753、755～757)、肥前産磁器小杯(758)も含まれる。これらは18世紀中葉を前後するものとみられる。

97区SD26 なお、97区SD26は97区SD27の埋没後に掘削された溝で、礫とともに若干の遺物が投棄されていた。出土遺物(759～764)は18世紀中葉～後葉に帰属しよう。

屋敷地の東辺の区画についてはやや疑問が残る。遺構の集中度を考慮すれば、97区SD19・SD36が屋敷地の東辺を画している可能性がもっとも高いと考えたが、溝の断面形が97



第43図 江戸時代以降主要遺構配置図(1:1,500)



第44図 97区SD27土層断面図（1：50）

区SD27とは明瞭に異なることから、少なくとも97区SD19・SD36が屋敷の西辺、南辺の区画とは異なる意識が反映されていることは確かであろう。これは97区SD19・SD36以東の土地利用と大きく関係しているものとも考えられる。

97区SD79 97区SD79は想定される屋敷地区画の南東隅付近で検出された溝で、10枚以上のロクロ成形土師器皿（768～780）が出土した。土師器皿は口縁部に使用痕が認められるものも多い。他に瀬戸美濃産陶器燭台（767）も出土している。これらの遺物は18世紀中葉～後葉に位置づけられる。

97区SD17 屋敷地の区画内で遺物が豊富に出土した溝として97区SD17と97区SD38がある。97区SD17は瀬戸美濃産陶器の広東茶椀（794）が出土したほか、瀬戸美濃産磁器も多く、蕎麦猪口（791）、小椀（792・793）、小型皿（796）、蓋（798）が出土した。これらは19世紀中葉～後葉に帰属しよう。

井戸 井戸は屋敷地の区画内に4基、区画外に2基が検出された。これらのうち、4基（97区SE03、97区SE04、97区SE05・01区SE01、97区SE06）が内部構造として結桶を使用した結桶井戸で、1基（97区SE02）が井戸側専用瓦を円筒状に積み上げた瓦積井戸、1基が何ら構造物が認められなかった無構造物井戸（99B区SE01）である。

4基の結桶井戸はいずれも結桶が井戸廃絶時にすべて抜きとられており、結桶のタガが遺存するのみであった。なお、97区SE03には常滑窯産陶器が、97区SE04には瓦、土器・陶磁器が集中して廃棄されていた。

97区SE04 97区SE04からは多様な器種からなる瀬戸美濃産陶器、瀬戸美濃産磁器が出土した。瀬戸美濃産陶器には徳利（809～811）、丸鉢（812）、筒形鉢（813）、土瓶（814）、筒形容器（815・816）、灯臺（819）が、瀬戸美濃産磁器には型打皿（817）、丸皿（818）、灯臺（820、821）がある。これらには19世紀中葉～後葉の年代が与えられる。

瓦積井戸（97区SE02）は井戸側専用瓦が1段に8枚ずつ径約0.6mの円筒状に積み上げられていた。瓦はセメントで固定され、積み上げた瓦はさらに鉄筋で補強されていた。

井戸側専用瓦は特徴が異なる2枚を図示した。824は凸面に刺突列を4列もつもの、825は凸面に刺突列を3列もつもの。

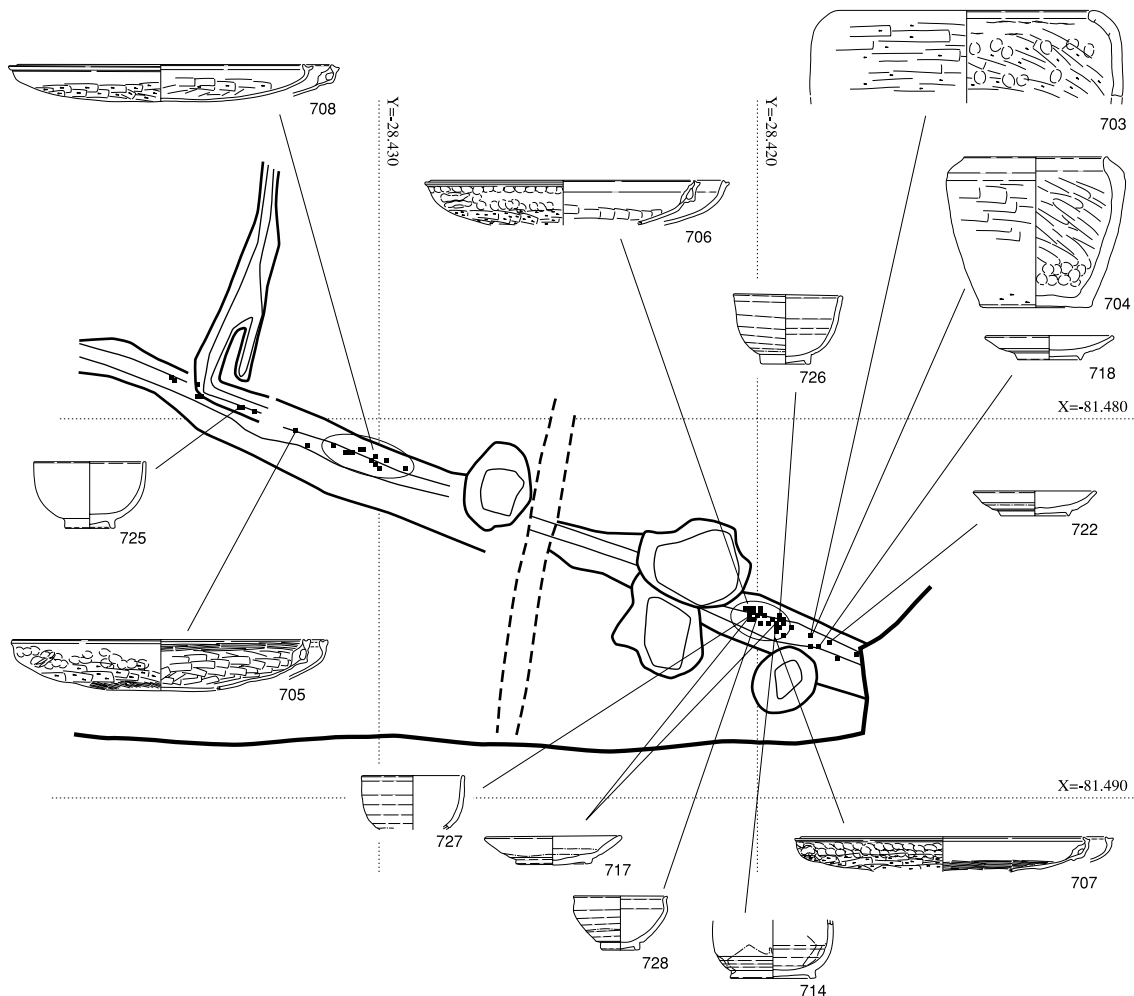
99B区SE01 無構造物井戸（99B区SE01）は、構造物を抜きとる際に、大きく掘形が掘り返されている状況が確認される。

01区

01区では西半を中心に土坑、溝が多数検出された。これらは、周囲に井戸がまったく認められないこと、明確な区画を意識した溝は少ないことから、97区から連続する屋敷地を構成するというよりもむしろ97区で検出された屋敷地に付随する遺構群と考えられる。

01区 S D 22 01区 S D 22・99 C区 S D 06は01区の中央を東西に通じ、方位は97区の屋敷地のそれを踏襲する。ただし、01区 S D 42と合流する付近で01区 S D 22は深さを急に減じていることから、97区には連続しないとみられる。検出面での幅は約1.6 m、深さは約0.7 cmで、何らかの区画を意図したことは疑いないが、その性格については明らかでない。埋土は褐色を基調とするシルトで締まりをやや欠く。下層からは土器、陶磁器、石製品などの遺物が集中して検出され、なかには焙烙鍋が集中して出土する地点も認められた（第45図）。

遺物は土師器焙烙鍋（705～709）や土師器皿（710～713）、常滑製品（703～704）など出土量が相対的に多い。供膳具は土師器皿を除いてすべて瀬戸美濃産陶器によって占められ、なかでも丸皿（717～723）が卓越する。なお、口縁部の全周が敲打によって著しく剥離した丸椀（725）や、煤が厚く付着した徳利（714）は、灰落しや火入れ等に転用されたことを示す。729は礫岩を直方体に加工したもので、全面が顕著に被熱する。竈の構築材であろう。これらの遺物は18世紀前葉を中心とする良好な一括資料である。



第45図 01区 S D 22 遺物出土分布 (1:200)

01区SD 45 このほかに小規模ながら遺物が集中して出土した溝として、97区SD 18・01区SD 45と
 01区SD 51 01区西部を南北に通じる01区SD 51がある（2条の溝は一連の遺構の可能性もある）。

01区SD 45出土遺物（730～736）、01区SD 51出土遺物（737～743）とも、土師器焙
 烙鍋が目立つこと、供膳具が瀬戸美濃産陶器によって占められ磁器製品をほとんど含まない
 こと、01区SD 22・99C区SD 06と比較して器種が豊富であることを特徴とする。741は
 灰落しとしての使用痕が顕著に残る。これらは概ね18世紀中葉に帰属しよう。

土坑 01区では平面形が円形、あるいは不整形の土坑が多数、不規則に分布する。これらの多く
 は深さが0.5mにも満たないような浅い播鉢状の断面形を呈し、出土遺物もほとんどみられ
 ない。また、埋土は斑土で著しく締まりを欠く。これらの特徴からこれらの円形の土坑は樹
 木を抜根した痕跡である可能性が高いと考えられる。

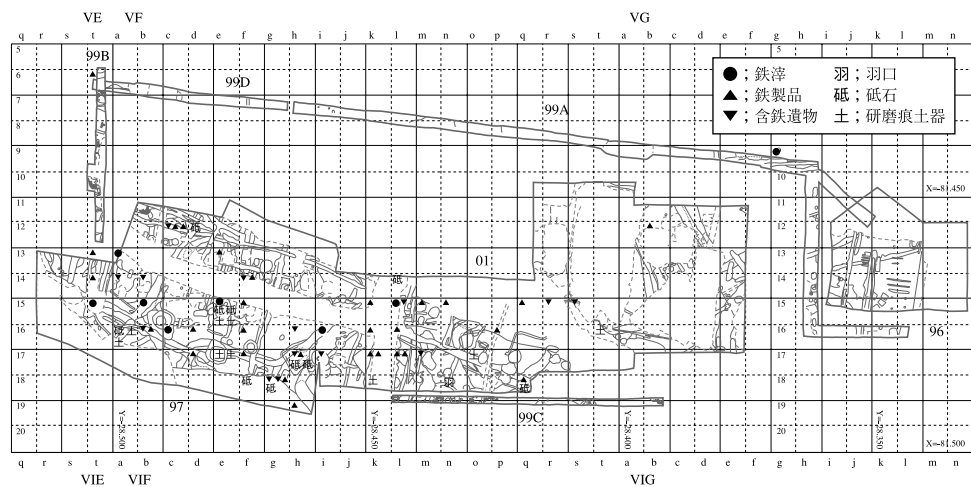
境溝 01区を分断するようにして東西に通じる溝（01区SD 10）は、北島村と野寄村の境溝で
 ある。溝は調査当初時にも完全に埋没せずに、その位置を現地表面にもはっきりと留めていた。
 客土下の整地層（褐色シルト層）には近世の陶磁器をはじめとする遺物が若干含まれ、さら
 にその下層は灰色粘土層、粗粒砂混じりの灰色粘土層、粗粒砂層の順で堆積し、各時代の遺
 物も出土したが、激しい湧水のため、十分に調査できなかった。

小結

地籍図や史料は、旧北島村権現山は宅地と用材林、旧野寄村山浦は島として利用されてい
 たとする。発掘調査による所見もおよそ地籍図や史料と一致し、出土遺物の年代から、屋敷
 地は17世紀後葉から19世紀後葉にかけて存続したものと推測される。これらの成果は、近
 世の屋敷地とその周辺の景観を復原するうえでの良好な事例である。一方、用材林と推定さ
 れる地区においても、01区SD 22に代表される区画が存在し、区画溝からは日常雑器類が
 豊富に出土している。屋敷とその周辺の景観の変遷をより詳細に分析する必要がある。

文献

財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター 2002『江戸時代の瀬戸窯』



第46図 鍛冶関連遺物の分布

第3章 分析・考察

(1) 濃尾平野北東部, 権現山遺跡の古環境解析

鬼頭 剛・上田恭子

はじめに

濃尾平野北東部の権現山遺跡にて地下層序を観察する機会を得た。その層序・堆積相解析、微化石分析、¹⁴C年代測定から新たな知見が得られたので報告する。

1) 試料および分析方法

96区・97区・01区において地表面からバックホーにより掘削し、層序断面を露出させ、層序断面図の作成と微化石・¹⁴C年代の試料採取を実施した。96区では地表面(標高5.93m)から深度1.20mまで掘削した。層序断面は堆積物の粒度と色調、堆積構造から4層に区分でき、下位層から上位層へ計6試料の微化石分析試料を採取した(第47図の96区部分を参照)。97区では地表面(標高7.41m)から深度5.4mまで掘削した。粗粒～極粗粒砂層中の標高2.4mの¹⁴C年代測定試料を2点採取した。01区では調査区の西部(地表面標高6.0m)と東部(地表面標高6.5m)の2地点で深掘を実施した。

層相の記載

層序トレンチより断面図の作成と試料の採取を実施した。断面図の作成にあたり、層相・粒度・色調・堆積構造・化石の有無の特徴を詳細に記載した。堆積相の記載はMiall(1977, 1978, 1996)の河川コードを用いた。

花粉分析

試料は5%の水酸化ナトリウム溶液を加え15分間湯煎し、水洗後、0.5mmの篩で篩別後、沈殿法により砂粒の除去を行なった。25%のフッ化水素酸溶液を加え30分間放置し、水洗後、氷酢酸により脱水し、アセトリシス処理を施した。再び氷酢酸を加えた後、水洗を行なった。残渣に石炭酸フクシンを加え染色を行ない、グリセリンゼリーで封入しプレパラートを作製した。検鏡は生物顕微鏡にて300～1000倍で行なった。同定は島倉(1973)および中村(1974, 1977, 1980)を参考にした。分析は株式会社古環境研究所に依頼した。

植物珪酸体分析

試料を105℃で24時間乾燥後、試料約1gに対して直径約40μmのガラスビーズを約0.02g添加する。電気炉灰化法(550℃・6時間)により脱有機物処理後、超音波水中照射(300W・42KHz・10分間)により分散させた。沈底法により20μm以下の微粒子の除去後、封入材(オイキット)中に分散させプレパラートを作成した。同定は機動細胞に由来する植物珪酸

体を対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行なった。計数はガラスビーズ個数が400個以上になるまで行なった。試料1gあたりのガラスビーズ個数に計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。また、この値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位： 10^{-5} g）をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネの換算係数は2.94、ヨシ属は6.31、ススキ属は1.24、メダケ節は1.16、ネザサ節は0.48、クマザサ属は0.75である。分析は株式会社古環境研究所に依頼した。

珪藻分析

試料約1g（湿潤重量）を秤量後、30%過酸化水素水を加えて加熱し、有機物の分解と粒子の分散を行なった。反応終了後、水洗を7回ほど繰り返した。残渣を遠心管に回収し、マイクロピペットで適量を取り、カバーガラスに滴下して乾燥させた。乾燥後、マウントメディアで封入し、プレパラートを作製した。1000倍の顕微鏡下で観察し、200個体以上について同定・計数した。分析は株式会社古環境研究所に依頼した。

^{14}C 年代測定

ガス比例計数管（GPC）法と加速器質量分析（AMS）法により測定を行なった。ガス比例計数管法の試料はアルカリ・酸処理を施して不純物を除去し、炭化処理をした後、リチウムと混合して反応管に入れ、真空ポンプで引きながら800℃まで加熱して炭化リチウム（カーバイド）を生成後、加水分解によりアセチレンを生成した。測定はラドン崩壊のために約1ヶ月放置した後、精製したアセチレンを容量400ccのガス比例計数管に充填し、補正した ^{14}C 濃度を用いて ^{14}C 年代を算出した。 ^{14}C の半減期としてLibbyの半減期5,568年を使用した。測定はパリノ・サーヴェイ株式会社を通じて学習院大学放射性炭素年代測定室（Code No.; Gak）に依頼した。

加速器質量分析法は125 μm の篩により湿式篩別を行ない、篩を通過したものを酸洗浄し不純物を除去した。石墨（グラファイト）に調整後、加速器質量分析計にて測定した。測定された ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行なった後、補正した ^{14}C 濃度を用いて ^{14}C 年代を算出した。 ^{14}C 年代値の算出には、 ^{14}C の半減期としてLibbyの半減期5,568年を使用した。 ^{14}C 年代の暦年代への較正にはCALIB4.3を使用した。測定は株式会社パレオ・ラボ（Code No.; PLD）に依頼した。

2) 分析結果

層序

96区では地表面（標高5.93m）から深度1.20mまでの地下層序断面を得た。堆積物の粒度と色調から4層に区分される。下位層より標高4.73～4.83mまでは黄橙色を呈する砂質シルト層からなる。標高4.83～5.45mは黒色～黒褐色を呈する粘土層、標高5.45～5.65mは黒褐色を呈するシルト質粘土層である。標高5.65～5.93mは灰黒色を呈するシルト層からなる。

97区では地表面から深度約5.5mまでの地下層序断面を得ることができた。97区の層序について下位層より述べる。標高2.0～5.8mは淘汰良好な中粒～粗粒砂層からなる。トラフ状

斜層理が明瞭に観察される。まれに長軸20cm程度の円礫を含む。本砂層中の標高2.4mには層理面に平行に摩耗した木片がみられる。標高5.8～6.8mには塊状な黒褐色～黄褐色を呈する粘土層が堆積する。標高6.8～7.4mは黒褐色～灰黒色を呈する粘土質シルト層である。砂粒子を混じえる。標高6.2～7.1mからは古墳時代初頭の考古遺物を含む。標高7.1～7.4mは現世の堆積物である。

01区では西部と東部とでその層相を異にする。西部の層序は97区の層序断面上部と類似し、標高4.0～5.3mは淘汰良好な中粒～粗粒砂層からなり、明瞭なトラフ状斜層理が観察される。標高5.3～6.1mは主にシルト層からなるが、標高5.4～5.5mには砂質シルト層が、標高5.8～6.0mには粘土層が挟まれる。標高6.1～6.6mは現代の人工的な盛り土である。東部は96区の層序断面と類似する。全体にシルトに富む堆積物からなる。標高4.0～4.3mは粘土質シルト層からなる。標高4.3～6.1mはシルト層からなるが、その上部および下部は砂粒子を含む砂質シルト層となっている。標高6.1～6.5mは現代の人工的な盛り土である。

堆積相

トレンチ調査で得られた層序記録をもとに粒度・堆積構造・色調により堆積相解析を行った。その特徴について4つの堆積相が認められた。各堆積相の特徴を以下に述べる。

堆積相St：中粒～粗粒砂からなる。明瞭かつさまざまなスケールのトラフ状斜層理が発達し、層厚は4m以上である。一般にシーケンスの上方ほど規模が小さくなり、斜層理の1セットは上方細粒化傾向を示す。表面が摩耗した木片をともなう。

堆積相Fl：粘土～シルトを主体として、砂粒子が混じる。色調は黒褐色～明褐色までさまざまに変化する。普遍的に根跡がみられ、植物破片も含まれる。人間も含めた動・植物由来する生物攪乱（バイオターベーション）により極めて不規則に乱され、堆積構造は破壊されている。

堆積相Fsc：シルト～粘土からなり、シルトを主体とすることで堆積相Fmと区別される。まれに砂粒子を含む場合がある。有機物の含有量の違いにより色調は変化し、含有量の多いものは黒褐色を、少ないものは灰黒色を呈する。遺構や遺物がみられる。

堆積相Fm：シルト～粘土からなり、主に粘土からなる。塊状・均質で礫や砂粒子を含まない。色調は黒色～黒褐色を呈する。遺物や遺構がみられる。

放射性炭素年代測定

97区の中粒～粗粒砂層に含まれる木片（標高2.4m）2試料から4780±80 yrs BP(Gak-19911)と4630±70 yrs BP(Gak-19912)の年代値を得た（第4表）。01区では有機物に富む粘土、木片、堆積物中に含まれる炭化物の試料を用い、約4500年前（PLD-1588, PLD-1589）から1820年前（PLD-1583）までの年代値を得た（第5表）。

96区における微化石分析

地表面（標高5.93m）から深度約1.20mまでに4層に区分され、標高4.79mの砂質シルト層から1試料（No. 6）、黒色～黒褐色粘土層中の標高4.89m、5.10m、5.33mから3試料（No. 5, 4, 3）、シルト質粘土層中の標高5.53mから1試料（No. 2）、灰黒色を呈するシルト層中の標高5.77mから1試料（No. 1）を採取した（第47図の96区部分を参照）。

第4表 97区における¹⁴C年代測定結果

| 調査区 | 標高 (m) | 堆積物 | 試料の種類 | ¹⁴ C年代 (yrs BP) | Code No. |
|-----|-----------|---------|-------|-------------------------------|-----------------|
| 97 | 2.4 | 中粒～粗粒砂層 | 木片 | 4780±80 | Gak-19911 (GPC) |
| 97 | 2.4 | 中粒～粗粒砂層 | 木片 | 4630±70 | Gak-19912 (GPC) |

第5表 01区における¹⁴C年代測定結果

| 調査区 | 標高 (m) | 堆積物 | 試料の種類 | ¹⁴ C年代 (yrs BP) | $\delta^{13}\text{CPDB}$ (‰) | 暦年代較正值 (1 σ , cal yrs BP) | Code No. |
|-----|-----------|--------|-------|-------------------------------|---------------------------------|-------------------------------------|----------------|
| 01 | 4.6 | シルト層 | 土壌 | 2665±30 | -17.9 | 2765 | PLD-1582 (AMS) |
| 01 | 5.0 | シルト層 | 炭化材 | 4080±35 | -24.2 | 4530, 4540, 4545, 4560, 4570 | PLD-1589 (AMS) |
| 01 | 5.4 | シルト層 | 土壌 | 1860±30 | -18.1 | 1820 | PLD-1583 (AMS) |
| 01 | 5.5 | 砂質シルト層 | 炭化材 | 4060±35 | -22.6 | 4525, 4565 | PLD-1588 (AMS) |
| 01 | 5.7 | 砂質シルト層 | 土壌 | 3740±35 | -24.2 | 4090 | PLD-1587 (AMS) |
| 01 | 5.8 | 砂質シルト層 | 土壌 | 2140±30 | -17.9 | 2120, 2145 | PLD-1581 (AMS) |
| 01 | 5.8 | 砂質シルト層 | 炭化物 | 3990±30 | -26.9 | 4420, 4430, 4435 | PLD-1609 (AMS) |

花粉分析結果

下位層準であるNo.6～2からは花粉化石はほとんど検出されず、No.1試料のみ花粉化石が検出された(第6表)。No.1では樹木花粉ではマツ属複雑管束亜属やスギが、花粉化石ではイネ属型を含むイネ科やアカザ科-ヒユ科、ナデシコ科、アブラナ科の出現率が高かった。

植物珪酸体分析結果

試料全体から植物珪酸体化石が検出され、全体的にススキ属型やウシクサ族型、ネザサ節型などが検出された(第7～9表)。No.1～3ではイネが検出された。イネの密度は500～2,200個/gと比較的低い値である。また、No.3～4ではキビ族型、No.2～4ではヨシ属が検出された。

珪藻分析結果

試料全体の珪藻殻数の保存状態は悪く、No.4のみ200個体以上が検出された(表10表)。No.4の珪藻殻数は堆積物1g中に約 1.43×10^5 個で、完形殻の出現率は約24%であった。優先種として*Eunotia pectinalis* var. *bidens*, *Neidium iridis*, *Pinnularia viridis*, *Hantzschia amphioxys*がある。試料全体では陸生珪藻の*Hantzschia amphioxys*が確認された。

3) 考察

堆積相から推定される4500 yrs BP以降の堆積環境

権現山遺跡における層序解析および¹⁴C年代データに基づいて堆積システムの解明を試みる。

権現山遺跡の地下層序下位では中粒～粗粒砂層からなる堆積相Stが確認された。本堆積相で見られるトラフ型斜層理は河川流路といった一方向流が流路底につくる砂堆(デューン)の移動とその累積によって形成されたものである。砂堆の形態には二次元的なものと同三次元的なものに分けられる。三次元的なものがトラフ状斜層理にあたる(Harms, et. al., 1975)。一般に三次元的な砂堆はより大きな流速で形成される(Costello and Southard, 1981)。本堆積相の下部、標高2.40mから得られた木片の年代値は4780±80 yrs BP(Gak-19911), 4630±70 yrs BP(Gak-19912)を示した。このことから約4600年前頃の調査地点では、砂堆とよばれる

舌状の高まりが河道中に配置し、その間をぬうように低水時の流水が網状に流れる網状河川の流路内であったことがわかる。層厚がおよそ4m以上と厚いことから、現在の木曾川に匹敵する幅や水理営力をもった流路が当地に存在したことを示す。

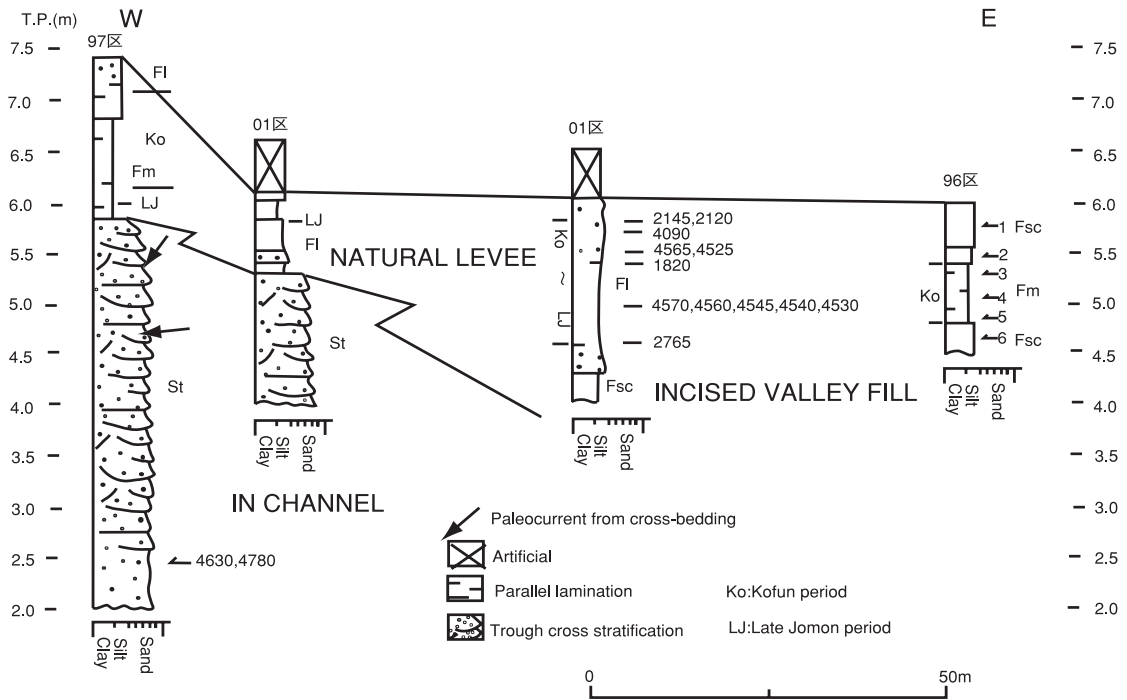
堆積相FscおよびFmはシルトや粘土の細粒な粒子を主体とした。静水中でゆっくりと堆積したことがわかる。また、色調が黒色を呈する部分もみられた。堆積物の色調は有機炭素量、鉄含有量などが決定要因となるが、黒色化は主に植物遺体といった有機物含有量が多いことに起因する。本堆積相の堆積時には、繁茂する植物の遺体が集積し、堆積したものと思われる。これらの特徴から、後背湿地あるいは後背湿地の凹地に出現した池や沼といった環境であったと判断される。

堆積相Flは粘土やシルトといった細粒な粒子と、砂の粗粒な粒子とが渾然一体となっており、堆積構造はみられない。動・植物に由来するバイオターベーションがみられることや植物の根跡が普遍的にみられることから、堆積後には離水環境が卓越していたことがわかる。この特徴から堆積相Flは洪水により上方へ堆積物を累積させるとともに、一時的な堆積の休止と離水を繰り返す自然堤防の堆積環境である。また、本堆積相のみられる01区では標高4.6mの粘土層が2765 yrs BP(PLD-1582)、標高5.4mの粘土層が1820 yrs BP(PLD-1583)を示した。文化編年の縄文時代晩期から弥生時代後期にあたり、本堆積相から考古遺物が出土することからも考古学的な事実と矛盾しない。上記の各堆積相は、下位の粗粒な粒子からなる堆積相Stを細粒粒子で構成される堆積相Fsc・Fm・Flが覆う(第47図)。このことから調査地点の堆積環境は網状河川→後背湿地→自然堤防へと変化したことがわかる。

層序断面に現われる縄文時代後期の大規模埋積谷

網状河川と推定される砂層は東西層序断面の主に西部で確認される(第47図)。また、それはシルトや粘土からなる堆積相FmやFlにより覆われる。粗粒な砂層(堆積相St)からシルト・粘土(堆積相Fsc・Fm・Fl)への粒度変化から河川営力は急激に弱まっており、河川の主たる活動の場がほかに移動したことが考えられる。

ここで砂層の最上部と細粒な堆積物との境界に注目すると、97区では標高5.8m、01区西側で標高5.3mにその境界がみられ、約20m間で見かけの傾斜およそ20°で西から東へむかい次第に境界面の標高を減じている。また、砂層を覆う細粒な堆積相である堆積相Fmおよび堆積相Flからは縄文時代後期の考古遺物が確認されている。97区と01区西部でみられる砂層最上部の傾斜角から推定すると、01区東側での砂層最上部は標高4.0m以下と予想される。これに関して、01区のちょうど南側で発掘調査された99区では標高4.9mより縄文時代中期末の考古遺物が出土しており、縄文時代の考古遺物が細粒堆積相から出土する事実から判断すると、砂層最上部はさらに深く位置することが予想され、考古学的な所見と矛盾しない。このように、堆積相Stが西から東へ徐々に標高を減じると調和的に、西から東へ標高を減じて縄文時代後期の考古遺物が出土する事実は、砂層最上部は全体に凹地形(埋積谷: incised valley)を形成しているものと推定される。東西層序断面から判断すると、この埋積谷は少なくとも東西方向のみかけの幅約70m、みかけの深さ約2mで南北方向にのびる埋積谷が存在したことを示唆する。そして、この谷地形は縄文時代後期の考古遺物が出土するよ



第47図 東西層序断面図と推定される古環境

り前の一時期に堆積速度が0になり、無堆積期間（ハイエイタス）を経験したことになる。この堆積速度の減少により、人類活動が行なえる離水・乾燥環境が出現したことを示す。縄文時代後期以降は埋積谷を埋めるように堆積物が上方へ累積し、標高4.6mの粘土層の¹⁴C年代値が2765 yrs BP(PLD-1582)、標高5.4mの粘土層が1820 yrs BP(PLD-1583)であることから、その期間に堆積地形の平坦化と離水・乾燥環境が卓越し、人類活動が行なわれていたことがわかる。また、01区東側の層序断面に現われる約4000年代を示す年代値は、人為的な生物攪乱（バイオターベーション）による汚染（コンタミネーション）の結果である。

埋積谷の堆積学的成因

権現山遺跡でみられるような粗粒砂からシルト・粘土といった細粒碎屑物への急激な粒度変化が生じるひとつの要因として、陸上河川の突然の流路変更であるアバルジョン(avulsion)があげられる。アバルジョンの頻度と堆積物供給量とは正の相関があり(Allen, 1965; Bridge and Leeder, 1979; Mackey and Bridge, 1995)、堆積物供給量が大きいほどアバルジョンの出現頻度は増大する。堆積物供給量の増大は河川流路勾配の減少と流路側方の勾配増加をもたらし、アバルジョンを発生させる(Jones and Schumm, 1999)。それは主に洪水により引き起こされ、発生頻度の高い堆積地形として扇状地や幅の広い谷、氾濫原、デルタがあげられる。現在の権現山遺跡の位置は濃尾平野北東部、伊勢湾から約30km北東に位置する。調査地点の東-北東側には扇状地(木曾川扇状地)が、その西-南西方向には自然堤防-後背湿地帯が広がる。調査地点は扇状地の扇端部から約4km南西の自然堤防-後背湿地帯にあたる。扇状地の端部に近いことから堆積物供給量は氾濫原やデルタ地帯よりも大きいことが期待される。

堆積物供給量について、97区の砂層下部から4780 ± 80 yrs BP(Gak-19911)、4630 ± 70 yrs BP(Gak-19912)の年代値が得られたが、上部からは¹⁴C年代測定用の試料は採取できなかった。

ところで、権現山遺跡の約1.3km北方に縄文時代後期の遺物が確認された三ツ井遺跡がある(田中伸明ほか編, 1999)。三ツ井遺跡でも中粒～粗粒砂層からなる堆積相Stから細粒堆積相である堆積相Fm・Fscなどが確認されており、砂層中の標高5.0mの木片は 3410 ± 70 (Beta-105388)を示した(鬼頭ほか, 1999)。この標高は権現山遺跡の砂層上部に対比できる。ここで、地層の層厚で表わされる堆積物の上方への累積変化を Δh 、 ^{14}C 年代値で示される時間変化を Δt とすると、堆積物供給速度は層厚を時間で微分した $\Delta h / \Delta t$ で求められる。三ツ井遺跡の ^{14}C 年代値を参考に権現山遺跡の堆積物供給速度を求めると2.1mm/yとなる。権現山遺跡01区東側で測定された年代値をもとに細粒堆積相の堆積速度を求めると0.8mm/yであり、粗粒堆積相は細粒堆積相のおよそ2.6倍である。考古遺物が出土する細粒堆積相に比べて、堆積物供給速度が約2.6倍も高かったことがわかる。このような堆積物供給速度の増大が、権現山遺跡調査地点における突然のアバルジョンを生じさせた可能性がある。川添(2000)は濃尾平野東部および北東部の縄文時代の考古遺跡について、その地理的分布を自然環境変遷の視点から紹介した。今後、それらの遺跡の発掘調査において深掘トレンチ調査を行なえる機会があれば、地質学側からさらに詳細な堆積環境変化を提示できよう。

謝辞

本論を作成するにあたり、試料の整理および図面作成では元調査研究補助員の尾崎和美氏、元整理補助員の服部恵子氏・田中和子氏、整理補助員の宇佐美美幸氏・服部久美子氏・山口きみ代氏・村上志穂子氏にお手伝いいただいた。記して厚くお礼申し上げます。

文献

- Allen, J. R. L., 1965, A review of the origin and characteristics of recent alluvial sediments, *Sedimentology*, 5, 89-191.
- Bridge, J. S. and Leeder, M. R., 1979, A simulation model of alluvial stratigraphy, *Sedimentology*, 26, 617-644.
- Costello, W. R. and Southard, J. B., 1981, Flume experiments on lower-flow-regime bedforms in coarse sand, *J. Sed. Petrol.*, 51, 849-864.
- Harms, J. C., Southard, J. B., Spearing, D. R. and Walker, R. G., 1975, Depositional Environments as Interpreted from Primary Sedimentary Structures and Stratification Sequences, Short Course Notes, 2, SEPM, Dallas, 161p.
- Jones, L. S. and Schumm, S. A., 1999, Causes of avulsion : an overview, *Spec. Publs int. Ass. Sediment.*, 28, 171-178.
- 川添和暁, 2000, 愛知県の縄文遺跡(1)- 尾張北部地域について -, 研究紀要 第1号, 愛知県埋蔵文化財センター, 1-8.
- 鬼頭 剛・堀木真美子・尾崎和美, 1999, 三ツ井遺跡の古環境解析, 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第87集「三ツ井遺跡」, 愛知県埋蔵文化財センター, 118-146.
- Mackey, S. D. and Bridge, J. S., 1995, Three-dimension model of alluvial stratigraphy : theory and application, *J. Sediment. Res.*, B65, 7-31.
- Miall, A. D., 1977, A review of the braided-river depositional environment, *Earth-Science Rev.*, 13, 1-62.
- Miall, A. D., ed., 1978, *Fluvial sedimentology*, Canadian Society of Petroleum Geologists, Memoir 5, 859p.
- Miall, A. D., 1996, *The geology of fluvial deposits*, Springer-Verlag, New York, 582p.
- 中村 純, 1974, イネ科花粉について, とくにイネ(*Oryza sativa*)を中心として, 第四紀研究, 13, 187-193.
- 中村 純, 1977, 稲作とイネ花粉, 考古学と自然科学, 10, 21-30.
- 中村 純, 1980, 日本産花粉の標徴, 大阪自然史博物館収蔵目録第13集, 91p.
- 島倉巳三郎, 1973, 日本植物の花粉形態, 大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集, 60p.
- 田中伸明ほか編, 1999, 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第87集「三ツ井遺跡」, 愛知県埋蔵文化財センター, 196p.

第6表 96区深堀トレンチにおける花粉分析結果

| 学名 | 分類群 | 和名 | No.1 | No.2 | No.3 | No.4 | No.5 | No.6 |
|---------------------------------------|-----|-----------------|--------------------|--------------------|------------------|-------------------|------------------|-------------------|
| | | | 灰黒色シルト層 標高5.77m | シルト質粘土層 標高5.53m | 黒色粘土層 標高5.33m | 黒褐色粘土層 標高5.10m | 黒色粘土層 標高4.89m | 砂質シルト層 標高4.79m |
| Arboreal pollen | | 樹木花粉 | | | | | | |
| <i>Tsuga</i> | | ツガ属 | | 1 | | | | |
| <i>Pinus subgen. Diploxylon</i> | | マツ属複雑維管束亜属 | | 47 | 1 | | | |
| <i>Cryptomeria japonica</i> | | スギ | | 58 | 3 | 1 | | |
| Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae | | イチイ科・イヌガヤ科・ヒノキ科 | | 2 | 1 | | | |
| <i>Alnus</i> | | ハンノキ属 | | 2 | 1 | | | |
| <i>Carpinus-Ostrya japonica</i> | | クマシテ属-アサダ | | 2 | | | | |
| <i>Castanea crenata-Castanopsis</i> | | クリ-シイ属 | | 1 | | | | |
| <i>Quercus sugen.Lepidobalanus</i> | | コナラ属コナラ亜属 | | 2 | | 1 | | |
| <i>Quercus sugen.Cyclobalanopsis</i> | | コナラ属アカガシ亜属 | | 2 | | | | |
| <i>Ulmus-Zelkova serrata</i> | | ニレ属-ケヤキ | | 1 | | | | |
| <i>Mallotus japonicus</i> | | アカメガシワ | | | | 1 | | |
| <i>Ilex</i> | | モチノキ属 | | 1 | | | | |
| Arboreal·Nonarboreal pollen | | 樹木・草本花粉 | | | | | | |
| Moraceae-Urticaceae | | クワ科-イラクサ科 | | 8 | | | | |
| Nonarboreal pollen | | 草本花粉 | | | | | | |
| <i>Typha-Sparganium</i> | | ガマ属-ミクリ属 | | 1 | | | | |
| Gramineae | | イネ科 | | 87 | 4 | 4 | | |
| <i>Oryza type</i> | | イネ属型 | | 2 | | | | |
| Cyperaceae | | カヤツリグサ科 | | 15 | 1 | | | |
| <i>Monochoria</i> | | ミズアオイ属 | | 1 | | | | |
| Chenopodiaceae-Amaranthaceae | | アカザ科-ヒユ科 | | 50 | | | | |
| <i>Portulaca oleracea</i> | | スベリヒユ属 | | 1 | | | | |
| Caryophyllaceae | | ナデシコ科 | | 45 | | | | |
| Cruciferae | | アブラナ科 | | 17 | 1 | | | |
| Umbelliferae | | セリ科 | | 1 | | | | |
| Solanaceae | | ナス科 | | 1 | | | | |
| <i>Plantago</i> | | オオバコ属 | | 1 | | | | |
| Lactucoideae | | タンポポ科 | | 5 | 1 | | | 1 |
| Asteroidae | | キク亜科 | | 2 | | | | |
| <i>Artemisia</i> | | ヨモギ属 | | 3 | | | 9 | 8 |
| Fern spore | | シダ植物胞子 | | | | | | 20 |
| Monolate type spore | | 単条溝胞子 | 21 | | 12 | 20 | 17 | 5 |
| Trilate type spore | | 三条溝胞子 | 2 | | | | 1 | |
| Arboreal pollen | | 樹木花粉 | 119 | 6 | 3 | 0 | 0 | 0 |
| Arboreal·Nonarboreal pollen | | 樹木・草本花粉 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Nonarboreal pollen | | 草本花粉 | 232 | 7 | 14 | 8 | 21 | 0 |
| Total pollen | | 花粉総数 | 359 | 13 | 17 | 8 | 21 | 0 |
| Unknown pollen | | 未同定花粉 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Fern spore | | シダ植物胞子 | 23 | 12 | 20 | 18 | 5 | 0 |

第7表 96区深堀トレンチにおける植物珪酸体分析結果

| 分類群 | 検出密度 (単位: ×100個/g) | | | | | |
|---------|----------------------------|----------------------------|--------------------------|---------------------------|--------------------------|---------------------------|
| | No.1 灰黒色シルト層 標高5.77m | No.2 シルト質粘土層 標高5.53m | No.3 黒色粘土層 標高5.33m | No.4 黒褐色粘土層 標高5.10m | No.5 黒色粘土層 標高4.89m | No.6 砂質シルト層 標高4.79m |
| イネ科 | | | | | | |
| イネ | 5 | 22 | 11 | 7 | | |
| キビ族型 | | | 28 | | | |
| ジュズダマ属 | | 7 | | | | |
| ヨシ属 | 9 | 7 | 6 | 7 | 22 | 7 |
| スキ属型 | | 22 | 34 | 7 | | |
| ウシクサ族型 | 23 | 30 | 28 | 66 | 51 | 14 |
| タケ亜科 | | | | | | 7 |
| メダケ節型 | | | | | | |
| ネザサ節型 | 23 | 15 | 23 | 15 | 15 | |
| クマザサ節型 | 5 | 7 | | | | |
| 未分類等 | 18 | | 6 | 15 | 15 | 14 |
| その他のイネ科 | | | 6 | 15 | | |
| 表皮毛起源 | | | 85 | 132 | 59 | 21 |
| 棒状珪酸体 | 134 | 52 | | 7 | 15 | |
| 葉部起源 | | 7 | | | | |
| 未分類等 | 263 | 193 | 271 | 301 | 220 | 127 |
| 植物珪酸体総数 | 480 | 363 | 497 | 572 | 397 | 191 |

第8表 96区深堀トレンチにおける植物珪酸体推定産量

| 分類群 | (単位: Kg/m ² ·cm) | | | | | |
|--------|-----------------------------|----------------------------|--------------------------|---------------------------|--------------------------|---------------------------|
| | No.1 灰黒色シルト層 標高5.77m | No.2 シルト質粘土層 標高5.53m | No.3 黒色粘土層 標高5.33m | No.4 黒褐色粘土層 標高5.10m | No.5 黒色粘土層 標高4.89m | No.6 砂質シルト層 標高4.79m |
| イネ | 0.14 | 0.65 | 0.33 | | | |
| ヨシ属 | | 0.47 | 0.36 | 0.46 | | |
| スキ属型 | 0.11 | 0.28 | 0.42 | 0.09 | 0.27 | 0.09 |
| メダケ節型 | | | | | | 0.08 |
| ネザサ節型 | 0.11 | 0.07 | 0.11 | 0.07 | 0.07 | |
| クマザサ節型 | 0.03 | 0.06 | | | | |

第9表 96区深堀トレンチ植物珪酸体におけるタケ亜科の比率

| 分類群 | (%) | | | | | |
|--------|----------------------------|----------------------------|--------------------------|---------------------------|--------------------------|---------------------------|
| | No.1 灰黒色シルト層 標高5.77m | No.2 シルト質粘土層 標高5.53m | No.3 黒色粘土層 標高5.33m | No.4 黒褐色粘土層 標高5.10m | No.5 黒色粘土層 標高4.89m | No.6 砂質シルト層 標高4.79m |
| メダケ節型 | | | | | | 100 |
| ネザサ節型 | 76 | 56 | 100 | 100 | 100 | |
| クマザサ節型 | 24 | 44 | | | | |

第10表 96区深堀トレンチにおける植物珪酸体分析結果

| 分類群 | No.1 | No.2 | No.3 | No.4 | No.5 | No.6 |
|---|--------------------|--------------------|------------------|-------------------|------------------|-------------------|
| | 灰黒色シルト層 標高5.77m | シルト質粘土層 標高5.53m | 黒色粘土層 標高5.33m | 黒褐色粘土層 標高5.10m | 黒色粘土層 標高4.89m | 砂質シルト層 標高4.79m |
| <i>Achnanthes inflata</i> | - | - | - | - | - | 1 |
| <i>Amphora ovalis var. libyca</i> | - | - | 1 | - | - | - |
| <i>Caloneis lauta</i> | - | - | - | 5 | - | - |
| <i>Cocconeis placentula</i> | - | - | 1 | 5 | - | - |
| <i>Cyclotella stelligera</i> | 2 | - | - | - | - | - |
| <i>Cymbella leptoceros</i> | - | - | - | 3 | 2 | - |
| <i>C. minuta</i> | - | - | 3 | 3 | 2 | - |
| <i>C. tumida</i> | - | - | - | 3 | 1 | - |
| <i>C. turgidula</i> | - | - | - | 15 | 3 | - |
| <i>C. spp.</i> | 2 | - | - | 7 | 1 | - |
| <i>Eunotia flexuosa</i> | - | - | - | - | 2 | - |
| <i>E. formica</i> | - | - | - | 2 | 3 | - |
| <i>E. pectinalis var. minor</i> | - | - | 1 | 3 | - | - |
| <i>E. pectinalis var. undulata</i> | - | - | - | - | 6 | - |
| <i>E. praerupta var. bidens</i> | - | - | - | - | 24 | 2 |
| <i>E. spp.</i> | - | - | - | 4 | 19 | 1 |
| <i>Fragilaria ulna</i> | 1 | - | - | 2 | 1 | 1 |
| <i>Frustulia rhomboides var. saxonica</i> | - | - | - | - | 1 | - |
| <i>Gomphonema acuminatum</i> | - | 1 | 1 | 1 | - | - |
| <i>G. augur</i> | - | - | - | 1 | - | - |
| <i>G. construens</i> | - | - | 1 | - | - | - |
| <i>G. parvulum</i> | 1 | - | - | - | - | - |
| <i>G. spp.</i> | - | - | - | - | 2 | - |
| <i>Hantzschia amphioxys</i> | 34 | 6 | 2 | 39 | 7 | - |
| <i>Merosira spp.</i> | 2 | - | - | - | - | - |
| <i>Meridion circulare var. constricta</i> | - | - | 1 | - | - | - |
| <i>Navicula conii</i> | - | - | - | 20 | - | - |
| <i>N. elgimensis</i> | 1 | - | - | - | - | - |
| <i>N. matica</i> | - | - | - | 4 | 1 | - |
| <i>N. tokyoensis</i> | - | - | - | 2 | - | - |
| <i>N. viridula</i> | - | - | 1 | - | - | - |
| <i>Neidium iridis</i> | - | - | 1 | 10 | 1 | - |
| <i>Nitzschia parvula</i> | - | - | - | 1 | - | - |
| <i>N. spp.</i> | - | - | - | 6 | - | - |
| <i>Pinnularia acrosphaeria</i> | - | - | - | 1 | - | - |
| <i>P. borealis</i> | - | 1 | - | 6 | - | - |
| <i>P. hemiptera</i> | - | - | - | 1 | - | - |
| <i>P. microstauron</i> | - | - | - | 2 | - | - |
| <i>P. obscura</i> | 13 | - | - | - | - | - |
| <i>P. viridis</i> | 1 | 1 | 1 | 11 | - | - |
| <i>P. spp.</i> | 1 | 5 | 3 | 16 | - | - |
| <i>Rhopalodia gibba</i> | - | 1 | - | - | - | - |
| <i>R. gibberula</i> | - | 1 | - | 4 | - | - |
| <i>Stauroneis acuta</i> | - | - | - | 2 | - | - |
| <i>S. phoenicenteron</i> | 1 | 1 | 1 | 2 | - | - |
| <i>Surirella spp.</i> | - | - | - | 1 | - | - |
| Unknown | 4 | - | 5 | 2 | 1 | - |
| 珪藻殻数 | 63 | 22 | 60 | 210 | 14 | 2 |

(2) 権現山遺跡出土縄文土器胎土の材料分析

藤根 久・今村美智子 (パレオ・ラボ)

はじめに

土器の胎土分析は、一般的には製作地の推定を目的として行われることが多い。しかしながら、例えば胎土中に含まれる岩石片の特徴から、これら砂粒物の示す地域がいずれであるかを推定することは容易でない。土器胎土は、基本材料として粘土と砂粒などの混和材から構成されるが、粘土材料は比較的良質とも思える粘土層から採取されたことが、粘土採掘坑の調査から推察される。

一方、混和材としての砂粒物は、これら粘土採取の際に粘土層の上下層に分布する砂層などから採取したことが予想される。東海地域の弥生時代後期においては、赤彩を施したパレススタイル土器が知られている。これら3分の1程度の土器では、砂粒物として火山ガラスが多量に含まれるが(藤根1998・車崎ほか1996)、これら火山ガラスは、粘土採取の際に上下層に分布したと思われるテフラ層から採取したと予想される。このように、胎土中の混和材は、砂層の特徴を示す可能性が高く、現河川砂の特徴とは大きく異なることから、現在の河川砂の特徴との比較では問題が大きい。こうしたことから、以前に堆積した段丘堆積物の砂層などとの比較検討が必要と思われる。

土器胎土については、第一に土器に使用した粘土や混和材がどのような特徴を持つかを十分理解することが重要であり、こうした特徴を持つと思われる粘土層や砂層などと比較検討すべきと考える。ここでは、権現山遺跡から出土した縄文時代中期末および後期初頭などの土器について、これら胎土の粘土あるいは砂粒物の特徴について調べた。

1) 試料と方法

試料は、権現山遺跡から出土した縄文時代中期末葉の土器1試料と後期初頭の土器11試料、権現山遺跡の近隣に所在する猫島遺跡から出土した弥生時代中期前葉の土器1試料である(第11表)。これら土器は、次の手順に従って偏光顕微鏡観察用の薄片を作成した。

(1)試料は、始めに岩石カッターなどで整形し、恒温乾燥機により乾燥した。全体にエポキシ系樹脂を含浸させ固化処理を行った。これをスライドガラスに接着し平面を作成した後、同様にその平面の固化処理を行った。

(2)さらに、研磨機およびガラス板を用いて研磨し、平面を作成した後スライドガラスに接着した。

(3)その後、精密岩石薄片作製機を用いて切断し、ガラス板などを用いて研磨し、厚さ0.02mm前後の薄片を作成した。仕上げとして、研磨剤を含ませた布板上で琢磨し、コーティング剤を塗布した。

試料は、薄片全面について**微化石類**(珪藻化石、骨針化石、孢子化石)や大型粒子などの特徴について観察・記載を行った。なお、ここで採用した各分類群の記載とその特徴などは

第 11 表 権現山遺跡出土縄文土器とその特徴

| 分析 No | 時期 | 型式など | 図版番号 | 調査区・遺構 | 重さ(g) | 色相明度/彩度 | 色調 | 中黒層の有無 | 混入粒子の肉眼的特徴 (主に内側面の観察) | | | | | | | | |
|-------|----------|-----------|------|---------------|-------|-------------------------|----------|--------|-----------------------|------|---------|-----|------|------|-------|-------|-----------|
| | | | | | | | | | 透明鉱物 | 白色鉱物 | 輝石・角閃石類 | 雲母類 | チャート | 赤色粒子 | 黒灰色粒子 | 黄白色粒子 | その他 |
| 1 | 縄文時代後期前葉 | 粗製無文 | | 01区SX04 | 65.6 | 7.5YR 7/6 | 橙 | 顕著 | △ | ○ | | 金色○ | | ◎ | | | |
| 2 | 縄文時代後期初葉 | 粗製無文 | 287 | 01区包含層 | 92.0 | 10YR 7/3 | にぶい黄橙 | なし | △ | △ | | 金色△ | ◎ | | | | 大型チャート目立つ |
| 3 | 縄文時代後期前葉 | 条線地 | 270 | 01区SX04 | 81.5 | 10YR 6/3 | にぶい黄橙 | 顕著 | | ○ | | 金色△ | | ◎ | | | |
| 4 | 縄文時代後期初葉 | 粗製無文 | 255 | 01区SK73 | 85.4 | 10YR 6/1 | 褐灰 | なし | | △ | | | | | ◎ | | |
| 5 | 縄文時代中期末葉 | 山の神式 | 2 | 99A区SB01 | 35.9 | 7.5YR 6/6 | 橙 | やや出現 | △ | △ | | 金色△ | | △ | ○ | | |
| 6 | 縄文時代後期初葉 | 弧状条線地 | 23 | 97区SK31 | 42.6 | 10YR 3/3 | 黒褐 | やや出現 | | △ | | 金色△ | | | ◎ | | |
| 7 | 縄文時代後期初葉 | 三十桶場式 | 14 | 97区SK31 | 36.7 | 7.5YR 3/2 | 黒褐 | なし | | ○ | | | | ○ | | | |
| 8 | 縄文時代後期初葉 | 称名寺Ⅱ式 | 85 | 97区SK36 | 433.6 | 7.5YR 7/4 | にぶい橙 | なし | | △ | △ | 金色△ | | | ○ | ○ | |
| 9 | 縄文時代後期初葉 | 福田K2式第2段階 | 95 | 97区谷中層 | 77.9 | 10.5YR 7/3 ～2.5Y 7/3 | にぶい黄橙～浅黄 | 顕著 | | △ | | | | △ | ◎ | | |
| 10 | 縄文時代後期初葉 | 福田K2式第3段階 | 96 | 97区谷上層 | 79.6 | 7.5YR 6/6 | 橙 | やや出現 | | △ | | 金色△ | ○ | | ○ | | 大型砂岩質多い |
| 11 | 縄文時代後期初葉 | 中津Ⅱ式 | 93 | 97区谷最下層 | 67.0 | 5YR 5/6 | 明赤褐 | 顕著 | | | | | | | | ◎ | |
| 12 | 縄文時代後期初葉 | 条線地 | 154 | 97区包含層 | 42.5 | 7.5YR 7/1 | 明褐灰 | 顕著 | △ | ○ | | | | △ | ○ | | |
| 13 | 弥生時代中期前葉 | 広口壺 | 猫島遺跡 | 99C b区S D16下層 | 58.7 | 7.5YR 7/4 | にぶい橙 | なし | ○ | ◎ | | | | | △ | | |

以下の通りである。

骨針化石 海綿動物の骨格を形成する小さな珪質、石灰質の骨片で、細い管状や針状などを呈する。海綿動物は、多くは海産であるが、淡水産としても日本において23種ほどが知られ、湖や池あるいは川の水底に横たわる木や貝殻などに付着して生育する。

珪藻化石 珪酸質の殻をもつ微小な藻類で、その大きさは10～数百 μm 程度である。珪藻は海水域から淡水域に広く分布し、個々の種類によって特定の生息環境をもつ。最近では、小杉(1988)や安藤(1990)によって環境指標種群が設定され、具体的な環境復元が行われている。ここでは、種あるいは属が同定できるものについて珪藻化石(淡水種)と分類し、同定できないものは珪藻化石(?)とした。なお、各胎土中の珪藻化石は、その詳細を記載した。

植物珪酸体化石 植物の細胞組織を充填する非晶質含水珪酸体であり、大きさは種類によっても異なり、主に約10～50 μm 前後である。一般的にプラント・オパールとも呼ばれ、イネ科草本、スゲ、シダ、トクサ、コケ類などに存在することが知られている。ファン型や垂鈴型あるいは棒状などがあるが、ここでは大型のファン型と棒状を対象とした。

胞子化石 胞子状粒子は、珪酸質と思われる直径10～30 μm 程度の小型無色透明の球状粒子である。これらは、水成堆積中で多く見られるが、土壌中にも含まれる。

石英・長石類 石英あるいは長石類は、いずれも無色透明の鉱物である。長石類のうち後述する双晶などのように光学的に特徴をもたないものは石英と区別するのが困難である場合が多く一括して扱う。なお、石英・長石類(雲母)は、黄色などの細粒雲母類が包含される石英または長石類である。

長石類 長石は大きく斜長石とカリ長石に分類される。斜長石は、双晶(主として平行な縞)を示すものと累帯構造(同心円状の縞)を示すものに細分される(これらの縞は組成の違いを反映している)。カリ長石は、細かい葉片状の結晶を含むもの(パーサイト構造)と格子状構造(微斜長石構造)を示すものに分類される。また、ミルメカイトは斜長石と虫食い状石英

との連晶(微文象構造という)である。累帯構造を示す斜長石は、火山岩中の結晶(斑晶)の斜長石にみられることが多い。パーサイト構造を示すカリ長石はカコウ岩などのSiO₂%の多い深成岩や低温でできた泥質・砂質の変成岩などに産する。ミルメカイトあるいは文象岩は火成岩が固結する過程の晩期に生じると考えられている。これら以外の斜長石は、火成岩、堆積岩、変成岩に普通に産する。

雲母類 一般的には黒雲母が多く、黒色から暗褐色で風化すると金色から白色になる。形は板状で、へき開(規則正しい割れ目)にそって板状には剥がれ易い。薄片上では長柱状や層状に見える場合が多い。カコウ岩などのSiO₂%の多い火成岩に普遍的に産し、泥質、砂質の変成岩および堆積岩にも含まれる。なお、雲母類のみが複合した粒子を複合雲母類とした。

輝石類 主として斜方輝石と単斜輝石とがある。斜方輝石(主に紫蘇輝石)は、肉眼的にビールびんのような淡褐色および淡緑色などの色を呈し、形は長柱状である。SiO₂%が少ない深成岩、SiO₂%が中間あるいは少ない火山岩、ホルンフェルスなどのような高温で生じた変成岩に産する。単斜輝石(主に普通輝石)は、肉眼的に緑色から淡緑色を呈し、柱状である。主としてSiO₂%が中間から少ない火山岩によく見られ、SiO₂%の最も少ない火成岩や変成岩中にも含まれる。

角閃石類 主として普通角閃石であり、色は黒色から黒緑色で、薄片上では黄色から緑褐色などである。形は細長く平たい長柱状である。閃緑岩のようなSiO₂%が中間的な深成岩をはじめ火成岩や変成岩などに産する。

ガラス質 透明の非結晶の物質で、電球のガラス破片のような薄くて湾曲したガラス(バブル・ウォール型)や小さな泡をたくさんもつガラス(軽石型)などがある。主に火山の噴火により噴出された噴出物と考える。なお、濁ガラスは、非晶質でやや濁りのあるガラスで、火山岩類などにも見られる。

複合鉱物類 構成する鉱物が石英あるいは長石以外に重鉱物を伴う粒子で、雲母類を伴う粒子は複合鉱物類(含雲母類)、輝石類を伴う粒子を複合鉱物類(含輝石類)、角閃石類を伴う粒子を複合鉱物類(角閃石類)とした。

複合石英類 複合石英類は石英の集合している粒子で、基質(マトリックス)の部分をもたないものである。個々の石英粒子の粒径は粗粒なものから細粒なものまで様々である。ここでは、便宜的に個々の石英粒子の粒径が約0.01mm未満のものを微細、0.01~0.05mmのものを小型、0.05~0.1mmのものを中型、0.1mm以上のものを大型と分類した。また、等粒で小型の長石あるいは石英が複合した粒子は、複合石英類(等粒)として分類した。この複合石英類(等粒)は、ホルンフェルスなどで見られる粒子と考える。

砂岩質・泥岩質 石英、長石類、岩片類などの粒子が集合し、それらの間に基質の部分をもつもので、含まれる粒子の大きさが約0.06mm以上のものを砂岩質とし、約0.06mm未満のものを泥岩質とする。

不透明・不明 下方ポーラーのみ、直交ポーラーのいずれにおいても不透明なものや、変質して鉱物あるいは岩石片として同定不可能な粒子を不明とする。

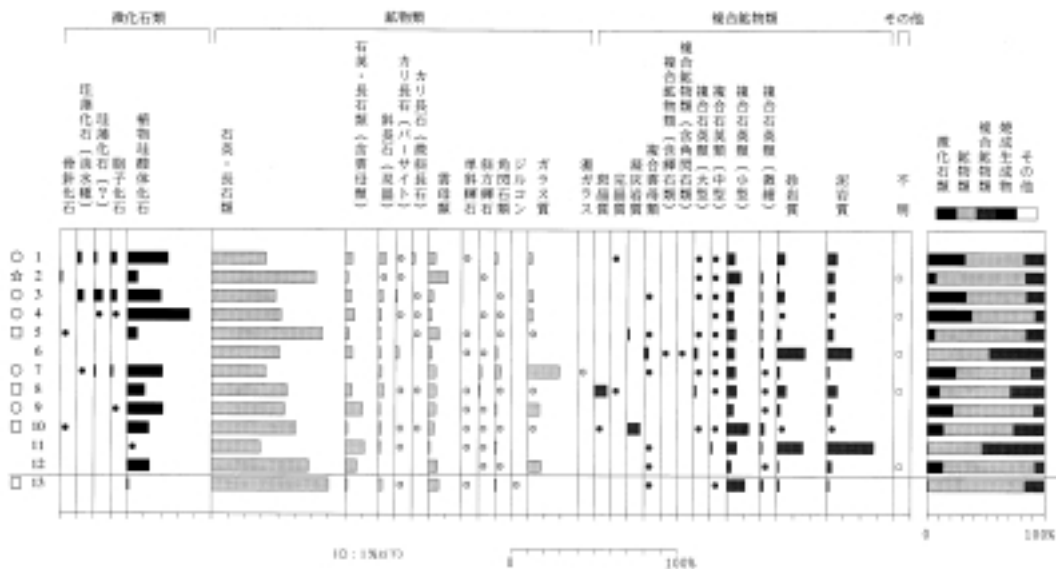
2) 結果

胎土中の粒子組成は、任意の位置での粒子を分類群別に計数した(第12表)。また、計数されない微化石類や鉱物・岩石片を記載するために、プレパラート全面を精査・観察した。以下では、粒度分布や0.1mm前後以上の鉱物・岩石片の砂粒組成あるいは計数も含めた微化石類などの記載を示す。なお、不等号は、概略の量比を示し、二重不等号は極端に多い場合を示す。

- No.1: 130 μm ~ 1.0mmが多い(最大粒径2.6mm)。石英・長石類>複合石英類(微細)>砂岩質>複合石英類>斜長石(双晶)、斑晶質(やや変質)、カリ長石(ハースト)、ガラス質、角閃石類、単斜輝石、斜方輝石、珪藻化石(湖沼浮遊生指標種群 *Melosira granulata*、淡水種 *Eunotia biareofera* 多い、*Eunotia monodon*、*Eunotia* 属多産、*Pinnularia* 属、*Melosira* 属、*Cymbella* 属、陸域指標種群 *Hantzschia amphioxys*、不明種)、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石多い
- No.2: 100 ~ 900 μm が多い(最大粒径2.8mm)。石英・長石類>複合石英類(微細)>複合石英類>斜長石(双晶)、複合鉱物類(角閃石類)、ジルコン、角閃石類、[ガラス質]、珪藻化石(海水種 *Stephanopsis* 属、*Coscinodiscus* 属/*Thalassiosira* 属、不明種)、骨針化石多い、胞子化石、植物珪酸体化石少ない
- No.3: 110 ~ 800 μm が多い(最大粒径2.6mm)。複合石英類(微細)>石英・長石類>複合石英類>砂岩質、斜長石(双晶)、カリ長石(ハースト)、雲母類、ガラス質、角閃石類、珪藻化石(湖沼浮遊生指標種群 *Melosira granulata*、淡水種 *Eunotia biareofera* 多い、*Eunotia* 属多産、*Melosira* 属、*Cymbella* 属、*Stauroneis* 属、不明種)、胞子化石、植物珪酸体化石多い
- No.4: 70 ~ 700 μm が多い(最大粒径850 μm)。石英・長石類>複合石英類(微細)>複合石英類、斜長石(双晶)、カリ長石(微斜長石)、ガラス質、角閃石類、単斜輝石、珪藻化石(淡水種 *Eunotia biareofera*、*Eunotia* 属、不明種)、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石多産(ヨシ属含む)
- No.5: 80 ~ 600 μm が多い(最大粒径1.3mm)。石英・長石類>複合石英類(微細)>複合石英類、斜長石(双晶)、カリ長石(ハースト)、ガラス質、雲母類、ジルコン、[凝灰岩質]、単斜輝石、骨針化石、植物珪酸体化石少ない
- No.6: 200 μm ~ 1.1mmが多い(最大粒径2.6mm)。複合石英類(微細)>砂岩質>石英・長石類>複合石英類、カリ長石(ハースト)、角閃石類、[変質斑晶質]、植物珪酸体化石極少ない
- No.7: 80 ~ 900 μm が目立つ(最大粒径2.6mm)。石英・長石類>複合石英類(微細)>片理複合石英類>ガラス質、複合石英類、砂岩質、角閃石類、斜方輝石、単斜輝石、ジルコン、[凝灰岩質]、珪藻化石(淡水種 *Cymbella cuspidata*、*Diploneis* 属、*Eunotia* 属、*Cymbella* 属、*Pinnularia* 属、不明種)、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石少ない(ヨシ属含む)
- No.8: 120 ~ 900 μm が目立つ(最大粒径2.1mm)。石英・長石類>斑晶質>斜長石(双晶)、カリ長石(ハースト)、砂岩質、複合石英類、雲母類、斜長石(累帯)、単斜輝石、斜方輝石、ジルコン、角閃石類、ガラス質、骨針化石、植物珪酸体化石少ない
- No.9: 50 ~ 900 μm が目立つ(最大粒径1.7mm)。複合石英類(微細)>石英・長石類>複合石英類、ガラス質、角閃石類、ジルコン、珪藻化石(淡水種 *Epithemia* 属、*Cymbella* 属、*Pinnularia*

第 12 表 土器胎土中の粒子組成一覽表

| 分類群 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
|---------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 微化石類 | | | | | | | | | | | | | |
| 骨針化石 | - | 4 | - | - | 1 | - | - | - | - | 3 | - | - | - |
| 珪藻化石 (淡水種) | 8 | - | 15 | - | - | - | 2 | - | - | - | - | - | - |
| 珪藻化石 (?) | 5 | - | 20 | 1 | - | - | 3 | - | - | - | - | - | - |
| 胞子化石 | 11 | - | 14 | 1 | - | - | 4 | - | 3 | - | - | - | - |
| 植物珪酸体化石 | 75 | 23 | 75 | 196 | 26 | - | 55 | 28 | 72 | 42 | 1 | 52 | 4 |
| 鉱物類 | | | | | | | | | | | | | |
| 石英・長石類 | 101 | 231 | 144 | 219 | 284 | 86 | 85 | 121 | 149 | 163 | 48 | 226 | 277 |
| 石英・長石類 (含雲母類) | 13 | 5 | 14 | 28 | 9 | 9 | - | 11 | 36 | 4 | 19 | 27 | 5 |
| 斜長石 (双晶) | 13 | 2 | 10 | 9 | 5 | 3 | 5 | 9 | 4 | 6 | 2 | - | 9 |
| カリ長石 (パーサイト) | 1 | 1 | 4 | 3 | - | 4 | - | 1 | - | 1 | 1 | - | 3 |
| カリ長石 (微斜長石) | 5 | - | 1 | 1 | 1 | - | - | 1 | - | 1 | - | - | - |
| 雲母類 | 13 | 43 | 10 | 11 | 28 | 5 | 12 | 12 | 15 | 12 | 2 | 21 | 24 |
| 単斜輝石 | 1 | - | - | - | 1 | 1 | - | 2 | 1 | 1 | 1 | - | 1 |
| 斜方輝石 | - | 1 | - | 1 | - | 1 | 5 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | - |
| 角閃石類 | 4 | - | 1 | 1 | 3 | 3 | 10 | 1 | 4 | 1 | 2 | 1 | 5 |
| ジルコシ | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 |
| ガラス質 | 7 | - | 11 | 15 | 3 | - | 50 | 1 | 24 | 3 | - | 30 | - |
| 濁カラス | - | - | - | - | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - |
| 複合鉱物類 | | | | | | | | | | | | | |
| 斑晶質 | - | - | - | - | - | - | - | 21 | - | 1 | - | - | - |
| 完晶質 | 2 | - | - | - | - | - | - | 1 | - | - | - | - | - |
| 凝灰岩質 | - | - | - | - | 6 | - | - | - | - | 25 | - | - | - |
| 複合雲母類 | - | - | 2 | - | 3 | 6 | 2 | - | - | - | 1 | 2 | 2 |
| 複合鉱物類 (含輝石類) | - | - | - | - | - | 2 | - | - | - | - | - | - | - |
| 複合鉱物類 (含角閃石類) | - | - | - | - | - | 2 | - | - | - | - | - | - | - |
| 複合石英類 (大型) | 1 | 2 | 1 | - | 2 | 5 | 2 | 4 | - | 1 | - | - | - |
| 複合石英類 (中型) | 3 | 1 | 1 | 2 | 2 | 1 | 2 | 2 | - | 2 | 2 | - | 1 |
| 複合石英類 (小型) | 15 | 31 | 16 | 22 | 23 | 10 | 14 | 16 | 14 | 43 | 10 | 11 | 44 |
| 複合石英類 (微細) | - | 5 | 4 | 8 | 5 | 4 | 2 | 1 | 2 | 8 | 2 | 2 | 8 |
| 複合砂岩質 | 15 | 5 | 17 | 4 | 10 | 36 | 5 | 15 | 7 | 3 | 26 | 4 | 6 |
| 複合泥岩質 | 19 | 17 | 18 | 5 | 17 | 32 | 4 | 17 | 9 | 2 | 46 | 12 | 5 |
| その他 | | | | | | | | | | | | | |
| 不明 | - | 1 | - | 1 | - | 1 | - | 1 | - | - | - | 1 | - |
| 総ポイント数 | 312 | 372 | 378 | 528 | 429 | 211 | 263 | 268 | 341 | 323 | 164 | 390 | 395 |



第 48 図 土器胎土中の粒子組成図 (全分類群を基数とした百分率で表示)

属、*Eunotia*属、不明種)、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石多い(ヨシ属含む)

No.10: 80 ~ 500 μm が多い(最大粒径1.8mm)。複合石英類(微細) > 石英・長石類 > 凝灰岩質 > 斜方輝石、ガラス質、変質斑晶質、単斜輝石、角閃石類、珪藻化石(不明種)、骨針化石、植物珪酸体化石少ない

No.11: 70 μm ~ 1.1mmが多い(最大粒径2.4mm)。砂岩質(軟質) > 複合石英類(微細) > 石英・長石類 > 複合石英類、単斜輝石、角閃石類、ジルコン、植物珪酸体化石極少ない

No.12: 60 μm ~ 2.0mmが多い(最大粒径3.7mm)。複合石英類(微細) > 複合石英類、石英・長石類、砂岩質、ガラス質、斜方輝石、珪藻化石(砂粒付着珪藻)、植物珪酸体化石少ない、植物遺体

No.13: 60 ~ 500 μm が多い(最大粒径4.6mm)。石英・長石類 > 複合石英類 > 複合石英類(微細) > 斜長石(双晶)、複合鉱物類(雲母類)、雲母類、角閃石類、ジルコンやや多い、斜方輝石、骨針化石、植物珪酸体化石少ない

3) 考察

胎土の肉眼観察

ここでは、土器胎土の肉眼的特徴について記載した(第11表)。

第一に、胎土の破断面あるいは切断面において、黒斑とは異なり中心部において黒色部が見られ、いわゆるサンドイッチの中黒構造を示す胎土がある。これらサンドイッチの中黒構造は、有機質粘土を用いた胎土において、比較的焼成温度が低く内部まで熱が及ばない時に見られるものと思われる。

次に、混入粒子の観察では、結晶面を示す鉱物として透明鉱物、白色鉱物、黒色質の輝石・角閃石類、雲母類について観察した。これらの粒子群は、粒度などに支配され易いが、極端に組成が違う場合に有効である。

粒子群の観察では、No.8の胎土において輝石・角閃石類がやや目立つ。

これ以外では、実体顕微鏡を用いて主に黒色質のチャートや堆積岩類と思われる黒灰色粒子が目立つ胎土があった。また、胎土の粘土部分とは色調が異なり、やや軟質の質感をもつ粒子状である黄灰または灰白色の粒子(黄白色粒子)を特徴的に含む胎土が見られた。特に、No.4とNo.6およびNo.11の胎土では多く見られた。

微化石類による材料粘土の分類

検討した胎土中には、その薄片全面の観察から、珪藻化石や骨針化石などが検出された。これら微化石類の大きさは、珪藻化石が10~数100 μm (実際観察される珪藻化石は大きいもので150 μm 程度)、骨針化石が10~100 μm 前後である(植物珪酸体化石が10~50 μm 前後)。一方、碎屑性堆積物の粒度は、粘土が約3.9 μm 以下、シルトが約3.9~62.5 μm 、砂が62.5 μm ~2mmである(地学団体研究会・地学事典編集委員会編1981)。このことから、植物珪酸体化石を除いた微化石類は胎土の材料となる粘土に含まれるものと考えられ、その粘土の起源を知るのに有効な指標になると考える。

なお、植物珪酸体化石は、堆積物中に含まれていること、製作場では灰質が多く混入する

可能性が高いなど、他の微化石類のように粘土の起源を指標する可能性は低いと思われる。

検討した胎土は、微化石類により、a)海成粘土を用いた胎土、b)淡水成粘土を用いた胎土、c)水成粘土を用いた胎土、d)その他の粘土、に分類された。以下では、分類された粘土の特徴について述べる。なお、水成を指標する珪藻化石が少ない場合には（淡水成）などとした。

a)海成粘土を用いた胎土（1胎土）

これらの胎土中には、少ないものの海水種珪藻化石あるいは骨針化石が含まれていた。これら海成層は、東海地域においては熱田海進期に堆積した熱田層や中新統などがある。

b)淡水成粘土を用いた胎土（5胎土）

これらの胎土中には、淡水種珪藻化石の *Eunotia* 属や *Cymbella* 属などが含まれていた。なお、No 1 や No 3 では *Eunotia biareofera*、*Eunotia* 属などが特徴的に多く、湖沼浮遊生指標種群 *Melosira granulata* が出現した。両者の胎土はこれら検討した胎土の中でも極めて類似した特徴を持つと言える。なお、No 4 においても出現頻度は低いものの同様の珪藻化石が出現した。

Eunotia biareofera やこれに類する *Eunotia* 属の珪藻化石は、堆積環境としては沼沢湿地環境と推定される。また、湖沼浮遊生指標種群 *Melosira granulata* は、典型的な湖沼環境において出現する。こうした特徴をもつ堆積物は、東海地域においては熱田海進期に堆積した熱田層において見られるが、海水種を伴っていないことから該当しない。近接地としては琵琶湖周辺に分布する古琵琶湖層群の堆積物はこうした特徴を示す。

c)水成粘土を用いた胎土（4胎土）

この胎土中には、骨針化石あるいは不明種珪藻化石が含まれていた。

d)その他粘土を用いた胎土（3胎土）

この粘土層中には、水成起源を指標する珪藻化石や骨針化石は含まれていなかった。

胎土中の砂粒組成による分類

ここで設定した複合鉱物類は、構成する鉱物種や構造的特徴から設定した分類群であるが、地域を特徴づける源岩とは直接対比できない。このため、各胎土中の鉱物、岩石粒子の岩石学的特徴は、地質学的状況に一義的に対応しない。ここでは、比較的大型の砂粒について起源岩石の推定を行った（第13表）。岩石の推定は、泥岩質や砂岩質あるいは複合石英類（微細）が堆積岩類、複合石英類（大型）や複合鉱物類（含輝石類・含角閃石類・含雲母類）が深成岩類、凝灰岩質が凝灰岩類、片理複合石英類が片岩類、斑晶質が火山岩類、ガラスがテフラ（火山噴出物）である。

さらに、推定した起源岩石は、第14表の組み合わせに従って分類した。

C b 群は、堆積岩類を主体として深成岩類などを伴う組成である（9胎土）。その他では、堆積岩類や片岩類を主体とした C a 群（1胎土）、堆積岩類を主体として凝灰岩類を伴う C e 群（1胎土）、火山岩類を主体として堆積岩類を伴う D c 群（1胎土）、堆積岩類を主体として凝灰岩類を伴う B c 群（1胎土）である。

胎土 No 8 の D c 群とした火山岩類を主体とした組成は、火山が隣接する地域以外では、美濃加茂市～可児市にかけて分布する中新統堆積物中の砂粒組成のほか（第50図）、熱田台地を構成する熱田層上部層中の砂層などがある（藤根ほか2001）。このうち熱田層上部層は、

第 13 表 土器胎土中の材料粘土・砂粒の特徴

| 分析No | 時期 | 備考(型式) | 図版番号 | 調査区・遺構 | 粘土の特徴 | | | | | | 砂粒の特徴 | | | | | 植物珪酸体化石 | 総合分類 |
|------|-------------|-----------|------|----------------|-------|-------|---------|---------|---------|------|-------|-----------------------|------|------|-----|---------|-------|
| | | | | | 分類 | 種類 | 海水種珪藻化石 | 淡水種珪藻化石 | 不明種珪藻化石 | 骨針化石 | 分類 | 頻度順(《は極端な場合、[]内は稀な場合) | ジルコン | 角閃石類 | 輝石類 | | |
| 1 | 縄文時代後期前葉 | 粗製無文 | | 01区SX04 | ○ | 淡水成 | | ◎ | △ | △ | C b | 堆積岩類>深成岩類>テフラ、変質火山岩類 | | + | + | ++ | I b |
| 2 | 縄文時代後期初頭~前葉 | 粗製無文 | 287 | 01区包含層 | ☆ | (海水成) | △ | | △ | ○ | C b | 堆積岩類>深成岩類>テフラ | + | + | + | + | I a |
| 3 | 縄文時代後期前葉 | 条線地 | 270 | 01区SX04 | ○ | 淡水成 | | ◎ | △ | | C b | 堆積岩類>深成岩類>テフラ | | + | | ++ | I b |
| 4 | 縄文時代後期初頭 | 粗製無文 | 255 | 01区SK73 | ○ | 淡水成 | | ○ | △ | △ | C b | 堆積岩類>深成岩類、テフラ | | + | + | +++ | I b |
| 5 | 縄文時代中期末葉 | 山の神式 | 2 | 99A区SB01 | □ | 水成 | | | | △ | C b | 堆積岩類>深成岩類>テフラ、[凝灰岩類] | + | + | + | + | I c |
| 6 | 縄文時代後期初頭 | 弧状条線地 | 23 | 97区SK31 | | その他 | | | | | C b | 堆積岩類>深成岩類、[変質火山岩類] | | + | | + | I d |
| 7 | 縄文時代後期初頭 | 三十稲場式 | 14 | 97区SK31 | ○ | 淡水成 | | ○ | ○ | △ | C a | 堆積岩類>片岩類>テフラ>深成岩類 | + | ++ | + | + | II b |
| 8 | 縄文時代後期初頭 | 称名寺Ⅱ式 | 85 | 97区SK36 | □ | 水成 | | | | △ | D c | 火山岩類>堆積岩類>深成岩類 | + | + | + | + | III c |
| 9 | 縄文時代後期初頭 | 福田K2式第2段階 | 95 | 97区谷中層 | ○ | 淡水成 | | ○ | △ | △ | C b | 堆積岩類>深成岩類>テフラ | + | + | | ++ | I b |
| 10 | 縄文時代後期初頭 | 福田K2式第3段階 | 96 | 97区谷上層 | □ | 水成 | | | △ | △ | C e | 堆積岩類>凝灰岩類>テフラ、変質火山岩類 | | + | + | + | IV c |
| 11 | 縄文時代後期初頭 | 中津Ⅱ式 | 93 | 97区谷最下層 | | その他 | | | | | C b | 堆積岩類>深成岩類 | + | + | + | + | I d |
| 12 | 縄文時代後期初頭 | 条線地 | 154 | 97区包含層 | | その他 | | | | | C b | 堆積岩類>深成岩類、テフラ | | + | + | + | I d |
| 13 | 弥生時代中期前葉 | 広口壺 | 猫島遺跡 | 99C b区S D 16下層 | □ | 水成 | | | | △ | B c | 深成岩類>堆積岩類 | ++ | + | + | + | V c |

第 14 表 岩石とその組み合わせ

| | | 第 1 出現群 | | | | | |
|---------|---|---------|------|------|------|------|-----|
| | | A | B | C | D | E | F |
| | | 片岩類 | 深成岩類 | 堆積岩類 | 火山岩類 | 凝灰岩類 | テフラ |
| 第 2 出現群 | a | 片岩類 | B a | C a | D a | E a | F a |
| | b | 深成岩類 | A b | C b | D b | E b | F b |
| | c | 堆積岩類 | A c | B c | D c | E c | F c |
| | d | 火山岩類 | A d | B d | C d | E d | F d |
| | e | 凝灰岩類 | A e | B e | C e | D e | F e |
| | f | テフラ | A f | B f | C f | D f | E f |



第 49 図 縄文土器胎土分析試料実測図 (1:10)



第50図 伊勢・三河湾周辺の地層分布図（藤根1998）

平成13年度名古屋城三の丸遺跡の深堀調査により、深度約2.6m付近の砂層においてほぼ100%の火山岩類砂からなる砂層であることが確認された。この砂層は、御岳起源の火砕流などにより運ばれてきたものと推定される。胎土No7のC a群とした片岩類を特徴的に含む組成は、現河川の砂粒組成からすると伊勢地域の周辺で見られる組成に近い（藤根1998）。No10の凝灰岩類は、前述の美濃加茂市～可児市にかけて分布する中新統堆積物中の砂粒組成でもある。

胎土材料の分類

粘土材料は、その種類が海成、淡水成、水成、その他の4種類に分類された。また、砂粒は、C b群、C f群、C e群、B c群の4群に分類された。

これらを総合的に分類すると、砂粒組成の分類に基づいて大きくI～IV群に分類され、材料粘土が海成粘土の場合には細分a、淡水成粘土の場合には細分b、水成粘土の場合には細分c、その他粘土が細分dである。

その結果、I a群が1胎土、I b群が4胎土、I c群が1胎土、I d群が3胎土、その他II b群、III c群、IV c群、V c群が各1胎土であった。

なお、No1やNo3では粘土中に含まれる珪藻化石の種類やその頻度が類似することから、これら検討した胎土の中でも極めて類似した特徴を持つと言える。

4) おわりに

ここでは、縄文時代中期末葉と後期初頭および弥生時代中期前葉の土器について、土器胎土の材料とした粘土および混和材の特徴について調べた。その結果、砂粒組成の特徴から、I～V群に分類し、さらに粘土の特徴からa～dに細分した。このうちI b群に分類した胎土が最も多いが、No1とNo3の胎土は、含まれる珪藻化石の種類とその頻度から非常に類似した胎土であることが分かった。今後、粘土採取の対象となったと思われる段丘堆積物などの粘土や砂粒の特徴と比較検討が必要である。

文献

- 安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用．東北地理，42,2,73-88.
- 地学団体研究会・地学事典編集委員会編（1981）『増補改訂 地学事典』，平凡社，1612.
- 藤根 久（1998）東海地域（伊勢～三河湾周辺）の弥生および古墳土器の材料．第6回東海考古学フォーラム岐阜大会、土器・墓が語る、108～117.
- 藤根 久・今村美智子・小村美代子・鈴木 茂（2001）弥生土器・製塩土器・土師器の胎土材料。「八王子遺跡」報告編、161-186.
- 小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用．第四紀研究，27,1-20.
- 車崎正彦・松本 完・藤根 久・菱田 量・古橋美智子（1996）(39)土器胎土の材料—粘土の起源を中心に—．日本考古学協会第62回大会研究発表要旨、153-156.

(3) 権現山遺跡出土遺物の赤色顔料分析

小村美代子(パレオ・ラボ)

1) 試料と方法

今回、権現山遺跡より出土した遺物について赤色顔料利用の有無を検討するために蛍光X線分析を行った。試料は、石製品(石杵?)、高杯杯部、壺体部、高杯脚部、不明品の計5点である。各試料の詳細は第15表に示す。

赤色顔料を遺物(土器や石)ごと測定すると、遺物に含まれる元素が顕著に検出されてしまうため、赤色部にセロハンテープを押し付けて赤色物のみを採取するようにした。ただし測定試料は、純粋に赤色物のみではなく、セロハンテープに赤色物と共に付着した土器の胎土や土壌等も僅かに含まれる。

なお、No1の石製品(石杵?)とNo2の高杯杯部については肉眼で赤色物の確認される部位がなかった。しかし、このような試料でも、赤色顔料の1種の水銀朱(HgS)が残存している場合、水銀は重元素なので微量でも検出される。このため、No1の石製品(石杵?)は赤色顔料を磨り潰したと思われる底部の、特に細かい孔の部分にセロハンテープを押し付けて採取した。No2の高杯杯部は赤色顔料を入れていたと思われる内面の底部にセロハンテープを押し付けた。各試料の採取部は写真図版137に示す。

分析はセイコー電子工業(株)製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA-2001Lである。装置の仕様は、X線発生部の管球のターゲットはロジウム(Rh)、ベリリウム(Be)窓、X線検出器はSi(Li)半導体検出器である。測定条件は、測定時間300秒、照射径10mm、電流61~63 μ A、電圧63kV、試料室内は真空である。

2) 分析結果

第52図には各試料の蛍光X線スペクトル図、第16表には各試料から検出された元素と同定結果を示す。検出された元素はアルミニウム(Al)、ケイ素(Si)、リン(P)、S(イオウ)、カリウム(K)、カルシウム(Ca)、チタン(Ti)、クロム(Cr)、マンガン(Mn)、鉄(Fe)、ニッケル(Ni)、銅(Cu)、亜鉛(Zn)、ジルコニウム(Zr)である。

No1~5全ての試料からは、水銀朱(HgS)を構成する水銀(Hg)は検出されなかった。ベンガラ(Fe₂O₃)の成分である鉄(Fe)は全ての試料から検出された。

なお、各試料から検出されたロジウム(Rh)については、分析装置に関係しているので試料とは関係がない。またイオウ(S)についてはセロハンテープにも含まれる元素である。

3) 考察

今回、試料5点からは全て水銀は検出されなかったことから、水銀朱は用いられなかったと考えられる。鉄は全ての試料から検出された。しかし鉄は、土壌や土器胎土や石等に普遍的に含まれる元素なので、今回の分析方法のみでベンガラと判断することはできない。一般

にベンガラは、人為的に用いられた赤色の鉄の顔料である。よって今回の蛍光X線分析に加えて、肉眼観察による赤色物の状況が人為的なのかを考慮して、各試料の同定結果を以下にまとめた。

No1の石製品(石杵?)とNo2の高杯杯部は赤色物が肉眼で識別不可能であった。このことから、もともと顔料が用いられていなかった可能性がある。しかし、蛍光X線分析で検出された鉄がNo1の石やNo2の土器胎土に含まれる鉄分であるほかに、肉眼では確認できない微量のベンガラの鉄分である可能性も否定できない。よって第16表の赤色顔料の同定結果には「不明」とした。

No3の壺体部は、はっきり赤彩と確認できる状況で鉄が検出されたことから、同定結果は「ベンガラ」とした。

No4の高杯脚部とNo5の小礫については表面に赤い斑文らしきものが確認された。このような斑文は、人為的なものではなく自然に発生したものの可能性があり、赤色顔料との判断が難しい。よって同定結果には「自然に沈着したもの?」とした。

第15表 試料の詳細

| No. | 調査区 | 遺物 | 赤色物付着部位 | 赤色物付着状況 |
|-----|-------------------------|----------|-----------|----------|
| 1 | 97区 S D 62(S Z 02 C 群) | 石製品(石杵?) | 無し(底部?) | 肉眼で識別不可能 |
| 2 | 97区 S K 10 | 高杯杯部 | 無し(内面底部?) | 肉眼で識別不可能 |
| 3 | 99C区 S D 13(S Z 02 F 群) | 壺体部 | 外面 | 赤彩 |
| 4 | 97区 S D 50 | 高杯脚部 | 外面 | 赤い斑文? |
| 5 | 97区 包含層(縄文時代後期) | 小礫 | 端部 | 赤い斑文? |

第16表 試料から検出された元素と同定結果

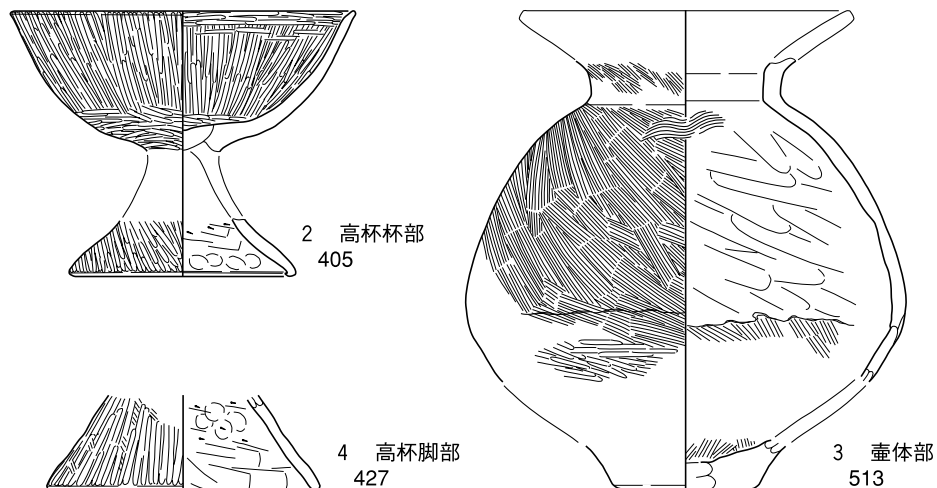
[元素記号]

Al: アルミニウム、Si: ケイ素、P: リン、S: イオウ、K: カリウム、Ca: カルシウム、Ti: チタン、Cr: クロム、Mn: マンガン、Fe: 鉄、Ni: ニッケル、Cu: 銅、Zn: 亜鉛、Zr: ジルコニウム、Hg: 水銀

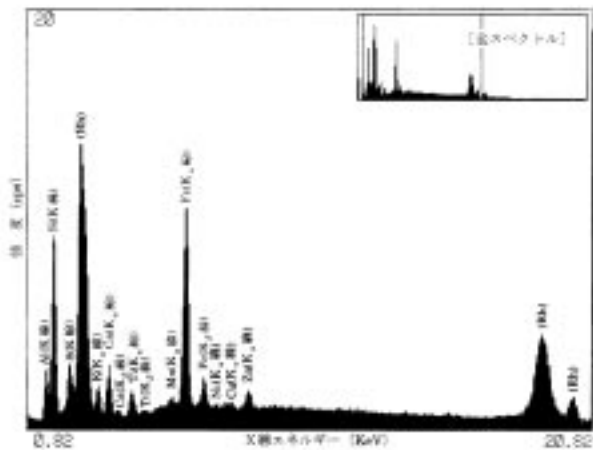
[記号]

○: 検出、—: 未検出

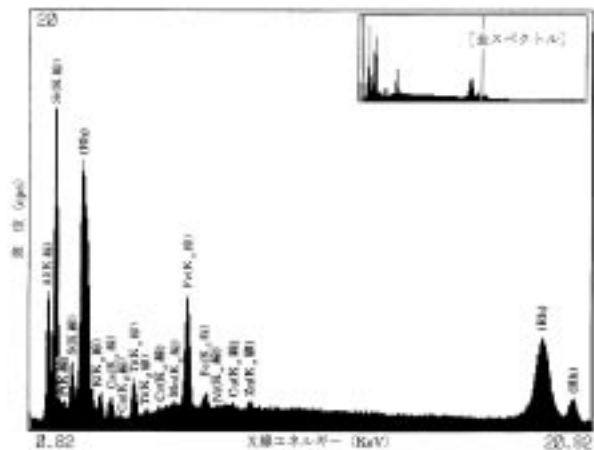
| No. | Fe | Hg | その他検出された元素 | 同定結果 |
|-----|----|----|---|---------------|
| 1 | ○ | — | Al, Si, S, K, Ca, Ti, Mn, Ni, Cu, Zn | 不明(石の鉄分を検出?) |
| 2 | ○ | — | Al, Si, P, S, K, Ca, Ti, Cr, Mn, Ni, Cu, Zn | 不明(胎土の鉄分を検出?) |
| 3 | ○ | — | Al, Si, P, S, K, Ca, Ti, Cr, Mn, Ni, Cu, Zn, Zr | ベンガラ |
| 4 | ○ | — | Al, Si, S, K, Ca, Ti, Mn, Cu, Zn | 自然に沈着したもの? |
| 5 | ○ | — | Al, Si, P, S, K, Ca, Ti, Mn, Cu, Zn | 自然に沈着したもの? |



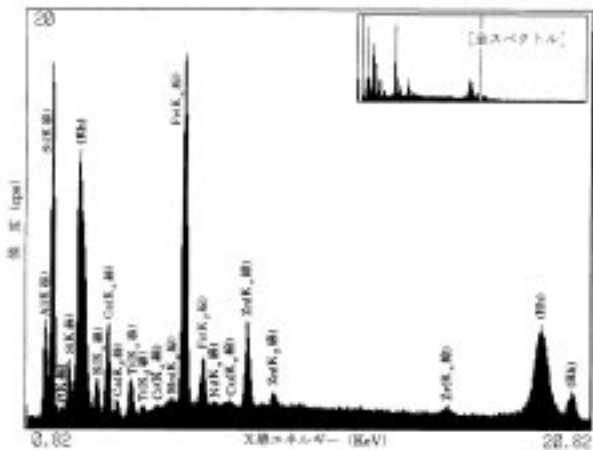
第51図 分析試料実測図(1:4)



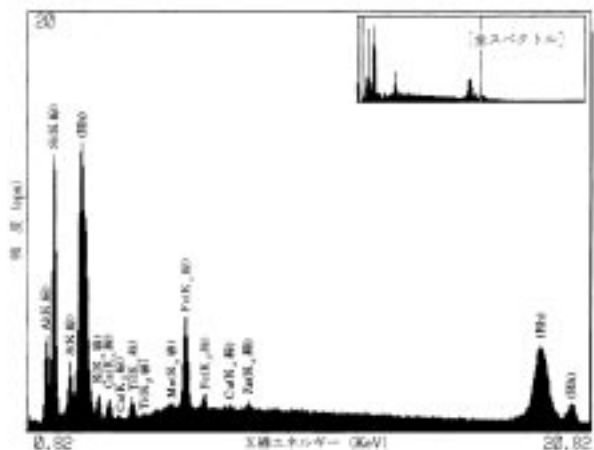
1 石製品 (石柱?)



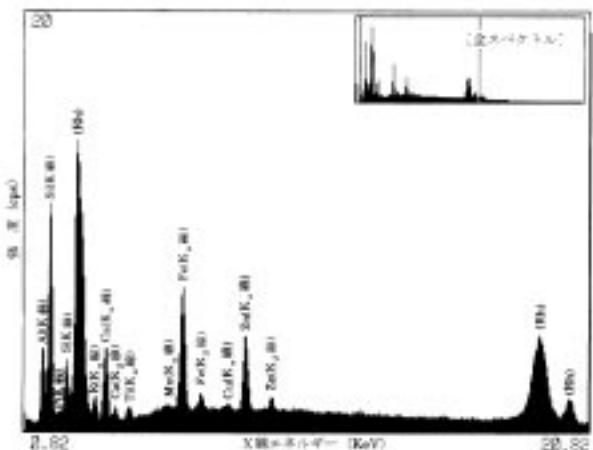
2 高杯杯部 (405)



3 壺体部 (513)



4 高杯脚部 (427)



5 小礫 (縄文時代後期)

[元素記号]
 Al: アルミニウム、Si: ケイ素、P: リン、S: イオウ、K: カリウム、
 Ca: カルシウム、Ti: チタン、Cr: クロム、Mn: マンガン、Fe: 鉄、Ni: ニッケル、
 Cu: 銅、Zn: 亜鉛、Zr: ジルコニウム、Rh: ロジウム (X線管球より)

第52図 各試料の蛍光X線スペクトル図

(4) 東海地方西部における縄文時代後期初頭の土器編年

早野浩二

はじめに

概要

権現山遺跡において出土した縄文土器は、99A区北東部で検出した中期末葉に帰属する一群と各調査区で散発的に出土した晩期に帰属する一群を除けば、そのほとんどが後期初頭から前葉に帰属する。つまり、これらの縄文土器は比較的集約された時間にまとまりをもつ良好な資料群との評価が与えられる。すでに本報告では遺跡から出土した縄文土器は可能な限り資料化の対象とし、出土状況に則してそれらを提示した。その時点では、汎用の便を考慮して意識的に既存の土器型式に対比させたが、それら型式相互の関係性についてはいっさい不問とした。

それはひとえに東海地方西部地域において権現山遺跡の資料群に対比しうる資料、つまり地域固有の土器型式の存在について知る手がかりが十分でなかったことにほかならない。そこで、この考察では権現山遺跡の良好な資料群を用い、縄文時代後期初頭から前葉の地域間関係を論じるうえで前提とすべき二つの問題について一定の道程を設けることとしたい。一つは縄文土器のそれぞれの系統を把握し、編年にかかる作業を提示すること。二つは提示した編年と他地域の編年の時間的関係を明確に示すことである。

1) 分類

器種

深鉢

権現山遺跡において出土した縄文時代後期の土器は、そのほとんどが深鉢である。浅鉢あるいは鉢、壺と推定される個体も存在するものの、その識別は残存状況に大きく左右されることになるので、明確な器種分類は提示していない。その他、特徴的な器種として精製の双耳壺がわずかながら存在する。ここでは、権現山遺跡の土器群が総じて器種分化に乏しいことを確認しておきたい。

双耳壺

分類単位

10群20類

他地域の土器型式との位置関係を明確にする目的で、権現山遺跡における縄文時代後期初頭から前葉にかかる土器群を10群20類に分類した(第53図)。なお、分類は深鉢のみを対象とし、分類の適用が困難な底部と突起部については、分類の対象から除外した。分類においてはそれぞれの系譜関係を整理することを主眼とし、文様のほか、器面調整、胎土などを考慮して分類単位を設定した。

1群

2本沈線からなる幅広の磨消縄文帯によって曲線を中心とした図形を描出するもの。精製で器壁は薄い。さらに1類と2類に分類した。

1類

幅広の磨消縄文帯によってJ字を中心とした図形を描出するもの。

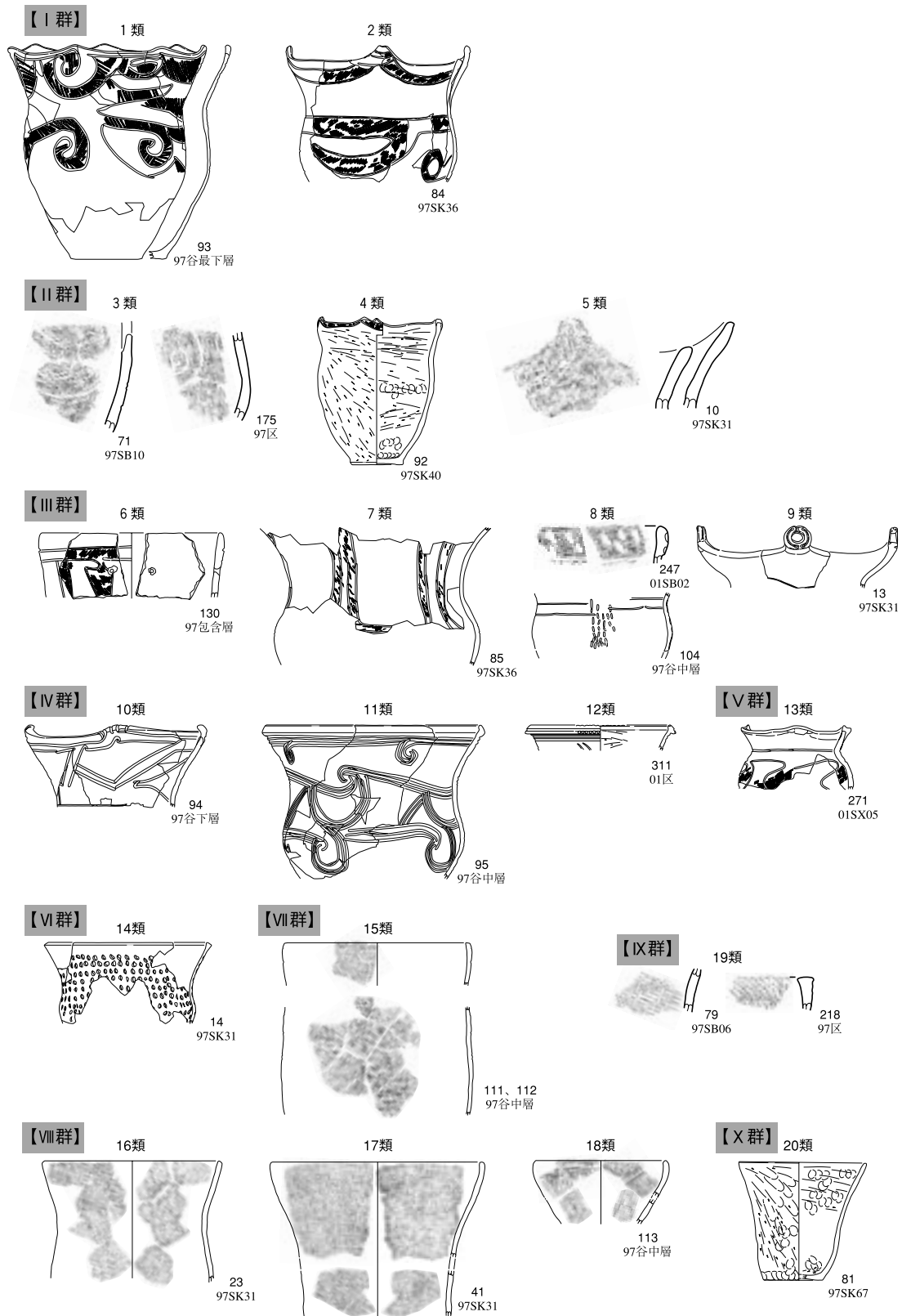
2類

磨消縄文帯の幅が1類より相対的に狭いもので、J字をはじめとして渦巻、円などの図形を描出するもの。

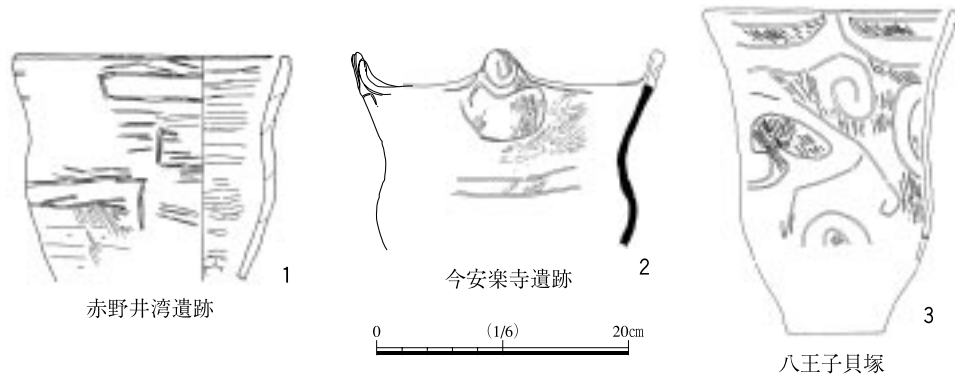
- II群 I群と同様に磨消縄文帯による図形を描出するが、縄文帯を区画する沈線が総じて弱いもの。縄文の施文が曖昧であったり、縄文そのものが消失しているものも多い。器面の調整は粗製土器に近似する。さらに3類～5類に分類した。
- 3類 幅広の磨消縄文帯によってJ字をはじめとする図形を描出するもの。
- 4類 2本沈線からなる磨消縄文帯をもつもので、縄文帯の幅が狭いもの。
- 5類 きわめて細い沈線によって文様を描出するもの。
- III群 I群と同様、磨消縄文帯による図形を描出するもの。沈線による区画内に充填される縄文が擬縄文（無節縄文）や短沈線に置き換わったものも一括する。器壁が厚いものが多く、胎土に砂粒を大量に混入させる傾向がある。さらに6類～9類に分類した。
- 6類 幅広の磨消縄文帯によってJ字をはじめとする図形を描出するもの。
- 7類 沈線による区画内に擬縄文（無節縄文）を充填するもの。
- 8類 沈線による区画内に短沈線を充填するもの。
- 9類 大きくくびれる頸部を無文とするもの。
- IV群 2本沈線や3本沈線によって縦位、斜位に展開する文様を描出するもの。沈線相互が鍵の手状に組み合ったり、食い違ったりする傾向が顕著になる。さらに10類～12類に分類した。
- 10類 2本沈線で構成される複雑な文様を描出するもの。
- 11類 3本沈線で構成される複雑な文様を描出するもの。
- 12類 口縁端部に文様帯を構成する沈線の一部をもつもの。
- V群 13類 口縁端部に1本の沈線をもつか、または口縁部付近の沈線が消失したもので、大きくくびれる頸部を無文とするもの。頸部と体部の境界には1本の沈線をめぐらす。
- VI群 14類 体部全面に横方向からの抉るような刺突（花卉状の刺突）を整然と施すもの。
- VII群 15類 1本の曲線的な沈線のみで体部の文様を描出するもの。
- VIII群 条線地の土器を一括する。原体はヘラ状工具、粗いクシ状工具、細かいクシ状工具など、複数存在することが明らかではあるものの、分類のうえでは考慮していない。さらに16類～18類に分類した。
- 16類 条線が弧状に施されるもの。
- 17類 横位と縦位に直線的な条線が施されるもの。
- 18類 縦位に直線的な条線が施されるもの。
- IX群 19類 縄文地の土器。沈線による区画の有無が明確にされないものも便宜的に含めた。
- X群 20類 無文の粗製土器を一括する。

既存の土器型式との対比と各分類単位の相互関係

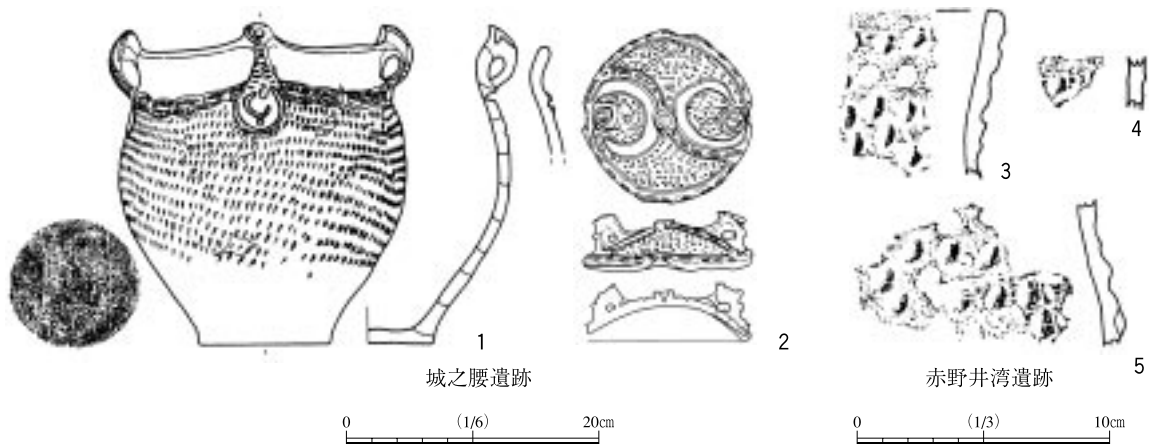
- 精製土器 I～V群は磨消縄文、あるいは縄文を省略しつつも磨消縄文との関係が明らかな文様を特徴とする土器である。ここでは、「精製土器」と呼称する。
- 中津式 I群は中津式との対比において理解される土器で、多くは中津Ⅱ式に相当する。さらに1類が相対的に古相、2類が新相に位置づけられることも了とされよう。Ⅱ群は中津式からの派生が想起されるものの、中津式との距離の隔たりが大きいことをむしろ重視すべきである。単純化した理解を示すなら、3類は1類からの、4類は2類からの派生として把握される。



第53図 縄文土器の分類



第54図 II群に関連する土器（1：6）



第55図 三十稲葉式土器（1：6、1：3）

赤野井湾遺跡 これらII群は、滋賀県赤野井湾遺跡湖岸堤法竜川水門地区包含層Ⅲ・Ⅳ出土のKⅣ群27類
今安楽寺遺跡 として分類された「文様化が不十分な」土器（第54図1）、滋賀県今安楽寺遺跡落ち込み出
 土の沈線区画や縄文施文が曖昧な例（第54図2）などとの類似が指摘しうる。ただし5類
 については、他に対比すべき個体の存在を知らない。

称名寺式 Ⅲ群は称名寺式に類似する文様構成をもつもので、称名寺式との関係を指摘しうるものも
 含めた。6類が称名寺Ⅰ式、7類が称名寺Ⅱ式に類似する。8類は称名寺式というよりむしろ
 Ⅵ群（三十稲葉式）との関係において理解すべきとの意見（柿沼・田川1986）もある。頸
 部を無文とする9類については一例のみで、文様構成については明らかにしえない。

福田K2式 Ⅳ群は福田K2式に対比しうる。それぞれ10類が福田K2式第1段階、11類が福田K2
 式第2段階、12類が福田K2式第3段階に対応する（千葉1992）⁽¹⁾。ただし、Ⅳ群10類と
 Ⅰ群2類は連続的な変化が考えられるので、明確な弁別は困難である。なお、Ⅴ群13類は
 広瀬土壙40段階（千葉1989）に対応する。

三十稲葉式 Ⅵ群14類はきわめて異質な存在で、花卉状の刺突から北陸北東部に分布する三十稲葉式
 （第55図1・2）との関連が明らかである。器形、器壁の薄さ、器面調整は精製土器（Ⅰ～
 Ⅴ群）に近似するので、製作技術系譜の見地からはむしろ精製土器に含められる。滋賀県赤
 野井湾遺跡湖岸堤法竜川水門地区包含層Ⅲ・Ⅳ出土土器に類似した個体（第55図3～5）を
 認める。「類三十稲葉式土器」ともすべきか。

非精製土器 VII～X群は文様意匠としての意識が希薄な土器群で、これらは「(広義の)粗製土器」としばしば呼称される。ここではX群20類に対してのみ「(狭義の)粗製土器」の呼称を与えることとし、VII～X群を包括して「非精製土器」と呼称しておきたい。なお、VII群15類は「沈線文系土器」として定義された一群に通じるもので(幸泉2001)⁽²⁾、精製土器に近い位置にある。また、VIII群16類とした弧状

今安楽寺遺跡 条線地深鉢は、今安楽寺遺跡落ち込み出土の弧状条線地深鉢(第56図)を想起すれば、福田K2式の文様構成を転化させたものと理解することもできる。

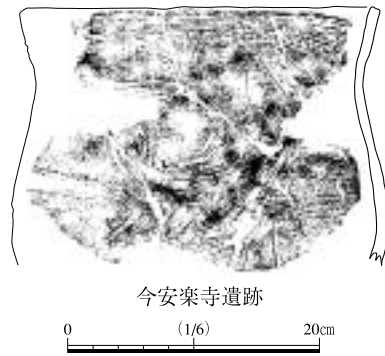
土器胎土材料との相関

材料の選択 以上に示した縄文土器の分類と、土器胎土材料の選択性における傾向の相違、つまり土器製作環境の相違との相関について一定の示唆を与える目的で、縄文土器12点の胎土分析をパレオ・ラボに依頼して実施した。なお、その比較として権現山遺跡の近隣に所在する猫鳥遺跡において出土した弥生時代中期前葉の土器1点についても同一の視点、方法によって胎土分析を実施している。分析においては、材料粘土中の微化石と砂粒組成の岩石学的特徴などについての所見から、総合的に土器胎土を分類する方法を用いた。分析の報告とその考察は第3章(2)の藤根久・今村美智子による論考に預けることとして、ここでは分析結果と分類単位との相関について幾つか言及しておく。

材料粘土 材料粘土としては、精製土器、非精製土器を通じて淡水性粘土が使用される傾向が顕著で(11胎土中5胎土)、水成粘土の使用がそれに次ぐ(11胎土中3胎土)。水成粘土を使用した縄文土器は、III群7類とした称名寺式Ⅱ式系土器(85)、中期末葉の山の神式土器(2)、縁帯文土器成立直前段階(福田K2式第3段階)のIV群12類とした土器(96)で、猫鳥遺跡の弥生時代中期前葉の広口壺がこれに加わる。この結果から、称名寺Ⅱ式系土器を除くと水成粘土の使用は、縄文時代後期初頭の前後の時期、あるいは弥生時代との相関が顕著であること、つまり粘土の選択性は時代的な傾向を反映している可能性が高いものと予測される。

砂粒組成 砂粒組成では、堆積岩類・深成岩類組成が圧倒的多数で(11胎土中9胎土)、それ以外には堆積岩類・片岩類組成、堆積岩類・凝灰岩類組成、火山岩類・堆積岩類組成が認められる。つまり、ほとんどの縄文土器が堆積岩類を主体とした組成を示すこととは対照的に、称名寺Ⅱ式系土器(85)のみが火山岩類を主体とする組成を示す。

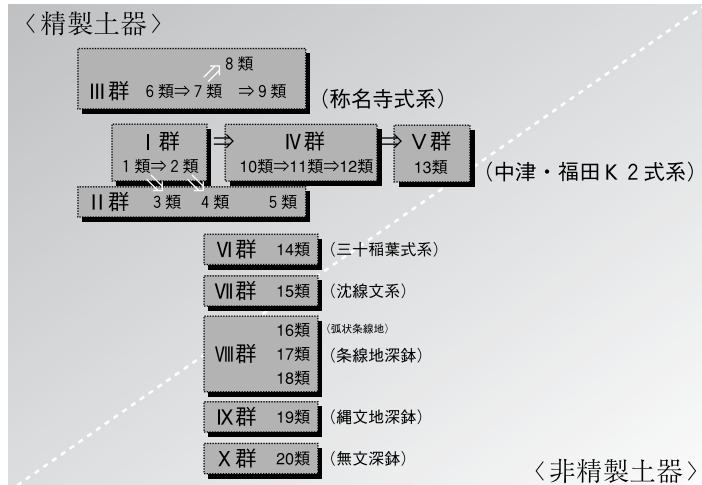
以上の分析結果から、称名寺Ⅱ式系土器(85)が材料粘土、砂粒組成の両面において特徴的な位置を占めていることが理解された。またこの結果は、III群(6・7類)を称名寺式に類似する土器として分類する段階において、肉眼によって識別される土器胎土の質感を加味したこともよく調和する。粘土の採取地や岩石の起源地の問題は別にしても、ここに示した縄文土器の分類と土器胎土の相関は、東海地方西部における磨消縄文土器(精製土器)群の構成、すなわち中津式土器と称名寺式土器のかかわりを知るうえでも興味深い。



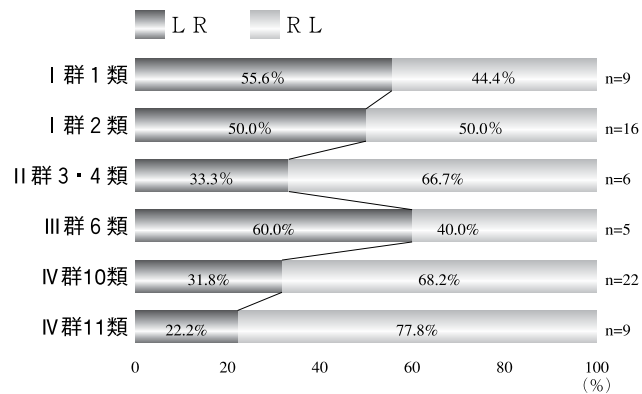
第56図 福田K2式との関連を示す弧状条線地深鉢(1:6)

土器群の構成

土器分布圏 権現山遺跡の土器群の構成を東海地方西部（尾張地域）に敷衍するならば、当地域は中津・福田K 2式土器が主体として分布する地域であることが理解される。つまり、東海地方西部は西日本（近畿・中四国地域）と同一の中津・福田K 2式土器の広域土器分布圏に包摂されることが原則的には認められよう。精製土器はこれら中津・福田K 2式系土器（関西系土器）に若干の称名寺式系土器（関東系土器）が加わる基本的な構図として把握される（第57図）。従来、当地域において福田K 2式



第57図 土器群の構成



第58図 各分類単位と縄文の撚り方向

土器は断片的な資料が知られるのみであったので、ここによりやく縄文時代後期初頭における土器分布圏の問題に対して一つの回答が与えられることになった。

縄文の撚り方向 土器分布圏と地域相の問題に触れたところで、縄文の撚り方向についてもまとめておく。対象とした資料は少ないものの、各分類単位における縄文の撚り方向を第58図に示した。権現山遺跡では、I群（中津式系）とIII群（称名寺式系）がL RとR Lほぼ同数、IV群（福田K 2式系）がR L優勢という傾向がえられた。なお、I・IV群からの派生として理解したII群については、IV群に近い傾向を示した。縄文の撚り方向についての既知の分析結果によると、関東地方は後期初頭以降、L Rが圧倒的優勢で、関西地方は後期初頭にはR Lが圧倒的に優勢であるという（今村 1977、千葉 1989 など）。東海地方西部においては、福田K 2式に対比される段階に関西地方への傾斜を強めたことを示唆するのであろうか。

精製土器と非精製土器 さらに、これら精製土器に非精製土器とした一群が組成することによって、総体としての土器群が構成される。ただし、精製土器と非精製土器は対極に背反する関係にはありえず、精製土器から非精製土器に傾斜する土器、非精製土器から精製土器に傾斜する土器を複雑に生成していたものと理解される。

2) 編年的考察—権現山式の設定—

権現山式 1～4 期の設定

土器群の推移 さきに示した権現山遺跡の土器群の把握を受けるなら、編年にかかる作業においては中津・福田 K 2 式土器・縁帯文土器の編年研究（泉・玉田 1986、玉田 1989、千葉 1989・1992、植田 1990 など）に則することが一定程度有効と判断しうる。すなわち、権現山遺跡における中津・福田 K 2 式系土器は I 群（1 類、2 類）、IV 群（10 類、11 類、12 類）、V 群（13 類）の順序で推移したことが予測される。

経年変化と地域差 しかし、広域土器分布圏とそれに包摂される小地域の関係を明確に把握しないままに単系的な土器の変遷を優先すれば、系統差や地域差を峻別する視点がなござりとされる危険がある。とくに福田 K 2 式については、土器の経年変化と地域差の関係をめぐることがきわめて複雑化している経緯（千葉 1995）がある。中津・福田 K 2 式系土器分布圏の周縁地域と目される東海地方西部においては、この問題についてよりいっそうの注意を喚起すべきであることはいうまでもない。

権現山式 さて、権現山遺跡の土器群は限定された時間にまとまりをもつことに加えて、複数系統の土器が同一の遺構や層位において共存した事例も幾つか知られている。つまり、すでに用意されている編年に遺跡、遺構での出土状況を照らしつつ、地域編年として相対化される可能性がある。このような問題意識によりながら、権現山遺跡の土器群をここに「権現山式」として把握し、それらを時間軸上の序列に従って権現山式 1～4 期として設定した（[第 59・60 図](#)）。

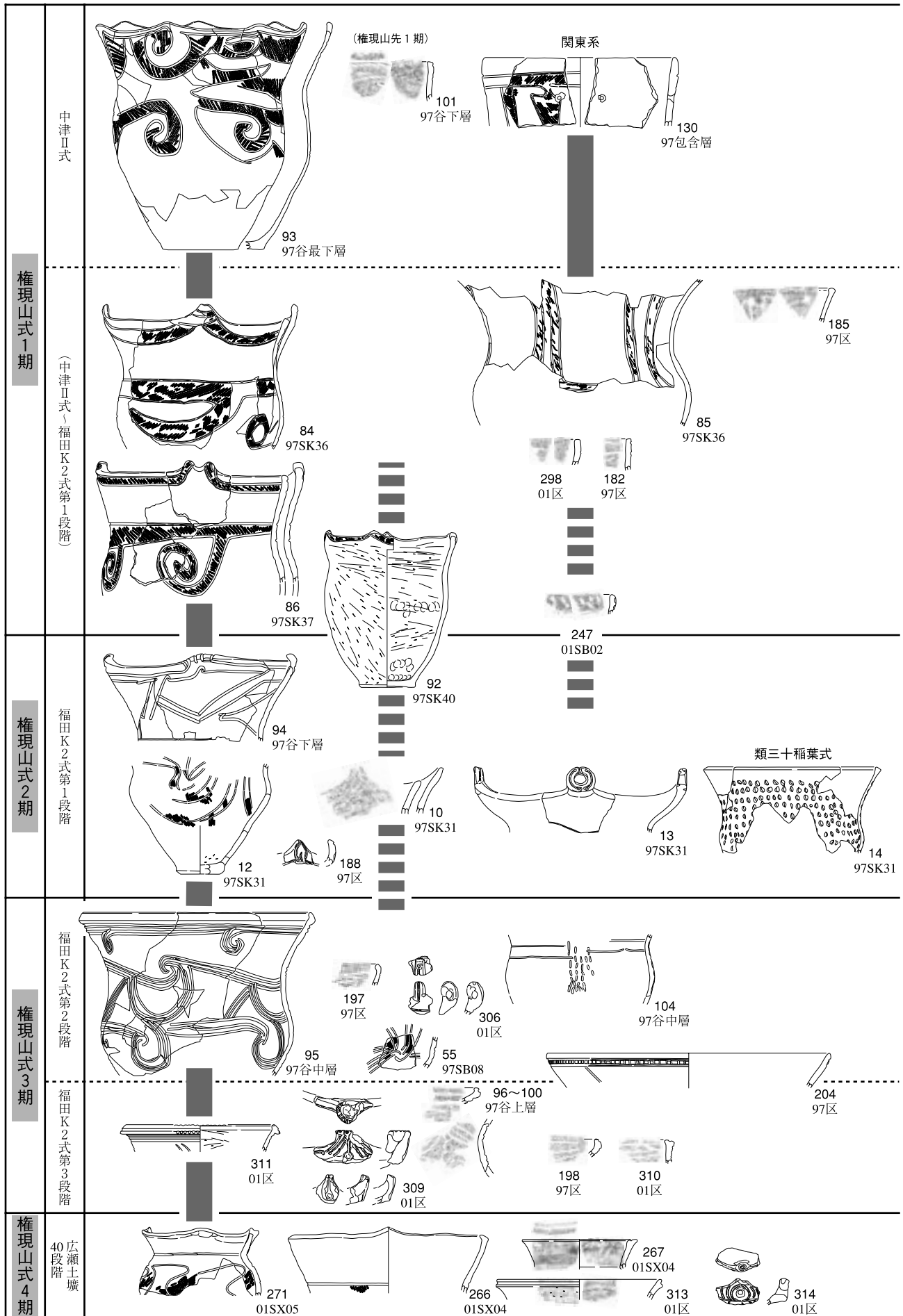
権現山式 1 期

1 期古段階 中津 II 式に対比される段階として権現山式 1 期を設定する。1 期はさらに中津式系深鉢（I 群）の変遷観、つまり 1 類と 2 類の比較において 2 段階に細分される可能性がある。ここでは 97 区谷地形最下層として抽出した 93 を 1 期古段階、97 区 S K 36 を 1 期新段階の基準資料として理解する。

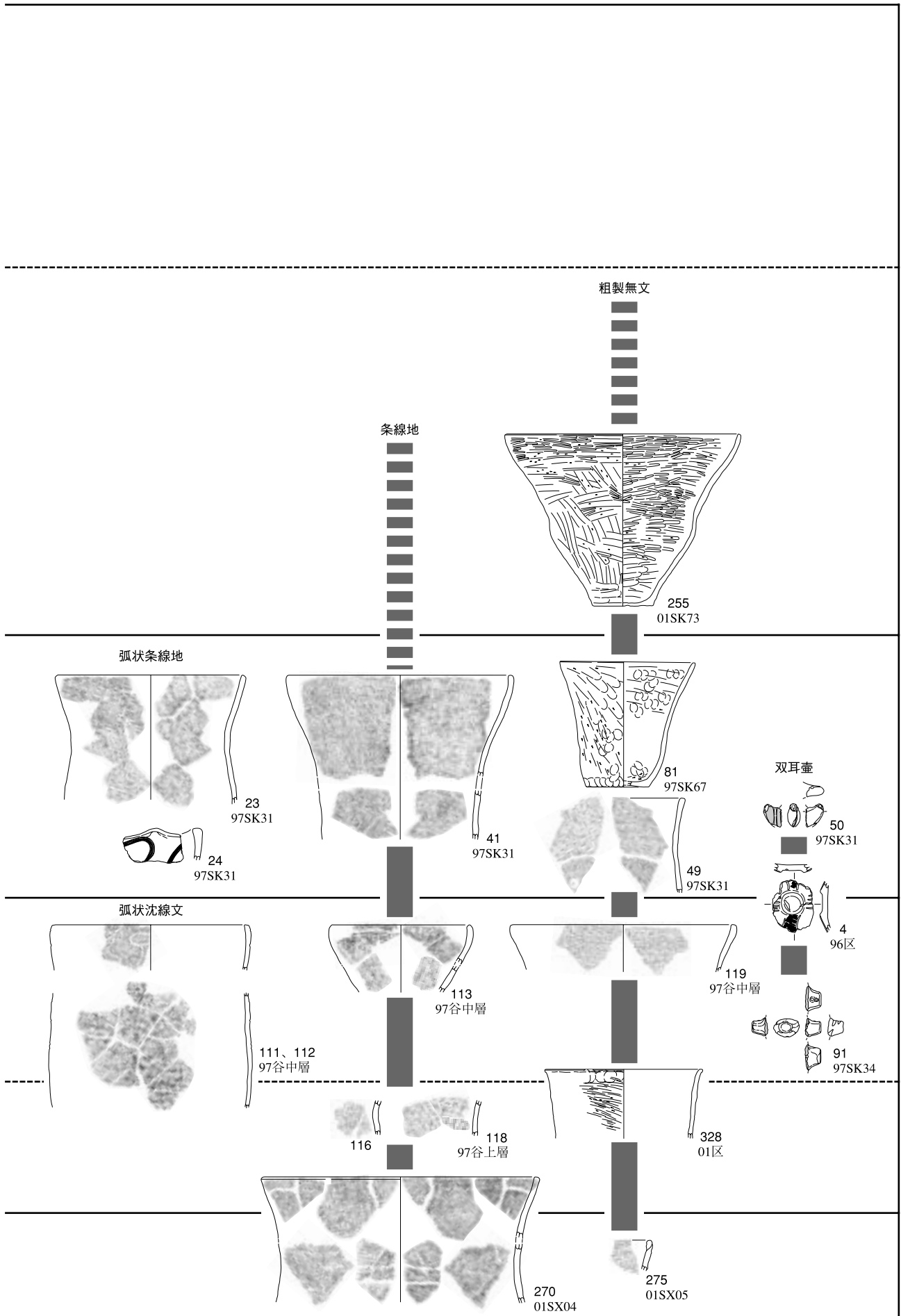
1 期古段階の中津式系深鉢（1 類）は 93 を典型とする。93 は文様帯が上下二段に構成され、すでに口縁部文様帯と胴部文様帯に分帯化する兆しが観察される。上段（口縁部文様帯）は J 字を基調とした図形が多用され、それらは横位への連続展開、面構成を強く志向する。下段の文様帯（胴部文様帯）は単位文様の抽出が困難で、沈線は途切れたり切り合ったりする傾向がより顕著である。文様以外の特徴としては、波状口縁が多い、口縁部から体部にかけて緩やかにくびれる点などがある。

1 期新段階 1 期新段階の中津式系深鉢（2 類）は、1 期古段階の深鉢（1 類）と比較して磨消縄文帯の幅が狭くなる。84 は口縁部文様帯と胴部文様帯が明確に分帯し、口縁部文様帯の幅も縮小する。口縁部文様帯は波頂部において横位への連続が保たれる部分と分割される部分が混在し、横位への連続展開に対する意識が希薄になりつつあることがうかがえる。胴部文様帯には J 字をはじめとする図形が配されるが、単位文様としての抽出は困難となる。

97 区 S K 37 97 区 S K 37 において単独で出土した深鉢（86）は縄文帯の幅からは福田 K 2 式第 1 段階に対比すべきかもしれないが、84 の文様構成と密接に関連することから 1 期新段階として理



第59図 権現山式土器編年表(1)



第60図 権現山式土器編年表(2)

解した。口縁部は4単位波状口縁から突起をもつ平縁口縁に転化する過渡的な形態をよく示している。口縁部文様帯はより狭められ、波頂部において完全に横位への連続を断っている。特長は84と比較してより新しい傾向と認めうる。胴部文様帯はJ字文が垂下するも巻き込みが著しくなり、渦文とする表現がむしろ適う。1期新段階における文様以外の特徴としては、4単位波状口縁が主流となる点、口縁部が内彎をより強める傾向にある点などがある。

称名寺式 97区SK36において、中津式系深鉢(84)に称名寺式系深鉢(85)が共伴する。85(7類)は胴部が大きくくびれ、縄文充填が擬縄文の充填に置き換わっていることから、称名寺Ⅱ式(今村1977)・称名寺式土器新段階(石井1992)に対比したい。なお、沈線による区画内に短沈線(刺突)を充填する一群(8類)を称名寺Ⅱ式土器の系譜において解釈するなら、この一群の土器の出現は1期新段階を上限とすることになる。

包含層から出土した称名寺式系深鉢130(6類)は、横位への文様展開が失われつつある特長が看取されることから、称名寺Ⅰ式C類・称名寺式土器中段階に対比される。すなわち、1期新段階において称名寺Ⅱ式の共伴が確かめられることから、130は1期古段階に対比されるであろう。

権現山式2期

福田K2式第1段階(中津Ⅲ式)に対比される段階として権現山式2期を設定し、97区SK31、97区谷地形下層を基準資料として理解する。

福田K2式の深鉢(10類)は、2本沈線が横位や斜位に展開し、沈線末端は離れたり、鍵の手状に組み合ったりする特徴がみられるようになる。谷地形下層から出土した福田K2式第1段階の深鉢(94)にみられる4単位の小突起、口縁部下の沈線が小突起上にめぐると特徴は1期新段階に位置づけた97区SK37出土の深鉢(86)からの連続を示唆する。つまり権現山式1期と権現山式2期の弁別は、結果的に沈線末端の処理に福田K2式の第一義的な指標を負わせる立場(富井2000)に大局として従うことになる。文様以外の特徴としては、波状口縁が少なくなり平縁口縁が多くなる点、口縁部の内彎、胴部のくびれがより顕著となる点などがある。

C字形口縁部 97区SK31において、福田K2式の深鉢に関東系(9類)としたC字形口縁部貼付文をもつ深鉢(13)が共伴する。ここでは今村啓爾による口縁部貼付文の変遷の概略(今村1977、第70図)を参考として、称名寺Ⅱ式に位置づけられる可能性が高いことを確認するととどめる。また、SK31においてはⅥ群14類とした三十稲葉式系(類三十稲葉式)土器(14)の共伴も知られる。これらの**共伴関係**にかかる詳細については後論する。

権現山式3期

福田K2式第2・3段階に対比される段階として権現山式3期を設定する。権現山式3期は福田K2式の細分案(千葉1989・1992)に従って型的に二分される可能性があり、97区谷地形での出土状況もこれを支持する⁽³⁾。つまり、97区谷地形中層が福田K2式第2段階(権現山式3期古段階)、97区谷地形上層が福田K2式第3段階(権現山式3期新段階)にそれぞれ対応する。

福田K2式の深鉢は3本沈線による複雑な文様構成を特徴とする。また、口縁端部におけ

福田 K 2 式 する沈線の有無を指標として、11 類が 3 期古段階（口縁端部に沈線を有さない）、12 類が 3 期新段階（口縁端部に沈線を有する）の特徴を示すものとする。また、口縁端部の沈線の有無は口縁部の形態の変化とも無関係でなく、3 期古段階には口縁端部がわずかに内折する程度であったものが、3 期新段階には口縁部の内折がより顕著となり、口縁部の断面形が「T 字形」を呈するものがみられるようになる。その他、平縁口縁が多くなること、胴部のくびれが顕著となることなど、前段階からの変化が継続して進行する。

権現山式 4 期

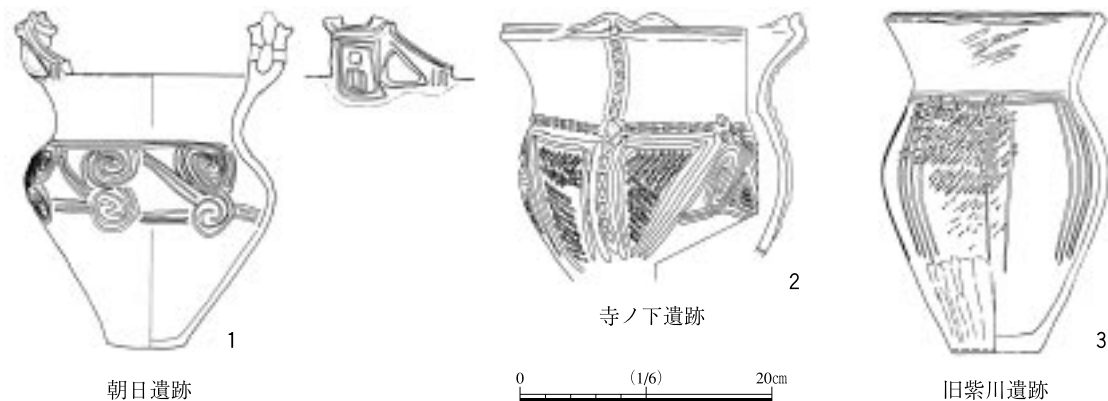
縁帯文土器 広瀬土壙 40 段階、縄文時代後期前葉の「縁帯文土器成立期」に対比される段階として権現山式 4 期を設定し、01 区 S X 04・01 区 S X 05（小河川）を基準資料として理解する。

「縁帯文土器」の深鉢（13 類）は、口縁部付近の沈線が消失するか、口縁端部の 1 条の沈線を残して口縁部外面の沈線が消失することを特徴とする。また、大きくくびれた頸部は幅広にわたって無文とし、体部との境界には 1 条の沈線をめぐらす。01 区 S X 05 から出土した 271 は頸部が「く」字状に明確に屈曲する（壺の可能性もある）。貫通する円孔の周囲に三重の重弧文を配した 01 区出土の 314 もおよそ同時期と考えられる。

朝日遺跡 権現山式 4 期を構成する土器として提示できる資料はごく限られるので、その欠を補う良好な資料として清洲町朝日遺跡 60 E 区から出土した深鉢（第 61 図 1）を示しておきたい。朝日遺跡 60 E 区の深鉢は頸部が強くくびれて体部上位が張る器形で、頸部を無文とする。口縁部付近の沈線は消失し、頸胴部を画する沈線をめぐらす。体部文様は 3 本沈線と 2 本沈線からなる渦文と斜行文を配することによって構成される。また、足助町寺ノ下遺跡（第 61 図 2）、名古屋市旧紫川遺跡（第 61 図 3）から出土した深鉢も同様の時期に位置づけられる。

非精製土器の編年

これまで主として文様構成の系統的な変遷を追うことで、精製土器の変化の過程を明らかにした。一方で、文様を明確に構成することがなく、器形の変化にも乏しい非精製土器については、精製土器に準じた分析は放棄せざるをえない。そこで次善の策として、遺構や層位での精製土器との共存を手がかりに、非精製土器の消長と変遷についておよそ把握しうる傾向について述べることにしたい。



第 61 図 権現山式 4 期の資料（1：6）

01区SK73 権現山式1期において非精製土器の存在を示す確実な出土例はないが、1期新段階に帰属する可能性がある非精製土器として、01区SK73出土の粗製無文深鉢(255)がある。01区SK73では粗製無文深鉢のほか、01区SB02において出土した沈線による区画内に短沈線を充填する土器(247ほか)の破片も含まれていたことから、両者の共時性、つまり1期新段階に位置づけられることも考えられる。ただし、後者は称名寺Ⅱ式からの距離が近いとする形式的な理解によって、消極的ながら1期新段階に位置づけているので、粗製無文深鉢の編年の位置もその理解の成否に左右される。なお、255は横位のミガキを主体とした調整で、ナデやケズリを多用する通有の粗製無文深鉢とはやや異なった印象を与えている。これを精製土器との距離の近さ(未分化)を示すものと解釈するなら、編年の位置の不安定な理解を補うことにもなるであろう。

権現山式2期においては97区SK31、97区谷地形中層において、Ⅶ群14類とした沈線文系深鉢、Ⅷ群(16・17・18類)とした条線地深鉢、X群20類とした粗製無文深鉢の確かな共存が認められる。以後、権現山式3・4期を通じて精製土器と非精製土器による構成に可視的な変化はみられない。精製土器と非精製土器の構成比を数値化によって示しえないが、感覚的には時期が下降するに従い、Ⅷ群18類の条線地深鉢とX群20類の粗製無文深鉢を主体として、精製土器に対する非精製土器の比率が増加する傾向にあるように思われる。

器形変化 非精製土器のおよその器形の変化としては、01区SK73出土の粗製無文深鉢(255)、97区SK31出土の条線地深鉢(41)、01区SX04出土の条線地深鉢(270)の諸例をもとにした理解を示すなら、底部から口縁部にかけて大きく外反し体部中位で若干くびれる器形から、徐々にくびれを失い直線的で円筒形に近い器形への変化が想定される。この器形の変化は、精製土器において胴部のくびれが徐々に顕著になる変化とは相反していて、一見矛盾するようにも思える。しかしここでは、精製土器と非精製土器の構成比の変化と、それともなう深鉢の用途の分化が器形変化の差異に大きく関与していたものとの理解を提示しておく。

精製土器との関係

Ⅱ群について

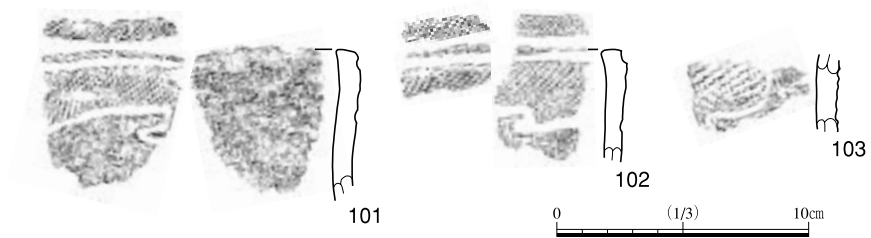
文様が曖昧で、調整において非精製土器との関連を示唆したⅡ群の編年の位置についてもここで触れておきたい。これらは中津・福田K2式系土器からの派生とする理解をすでに示したが、系統だった変化を追うことは事実上不可能である。97区SK40において出土した深鉢(92)は4単位波状口縁、口縁部直下の文様帯が波頂部において横位への連続展開を断っていることを特徴とすることから、I群2類(権現山式1期新段階)とした深鉢を原型としたことが考えられる。ただし、沈線の描出がきわめて曖昧な点、縄文帯の幅が著しく狭い点をも考慮して、92を権現山式1期新段階から権現山式2期(中津Ⅱ式～福田K2式第1段階)に位置づけておきたい。

この位置づけによるなら、Ⅱ群とした非精製土器に傾斜する精製土器の生成が権現山式1期から権現山式2期にかけて生じた可能性を示すことになる。この理解は、すでに非精製土器の展開が権現山式1期から権現山式2期にかけて明確化することを示したことも無関係ではないであろう。つまり、多系統の土器が分化する発露が権現山式1期から2期にかけて認められることをここでは強調しておきたい⁽⁴⁾。

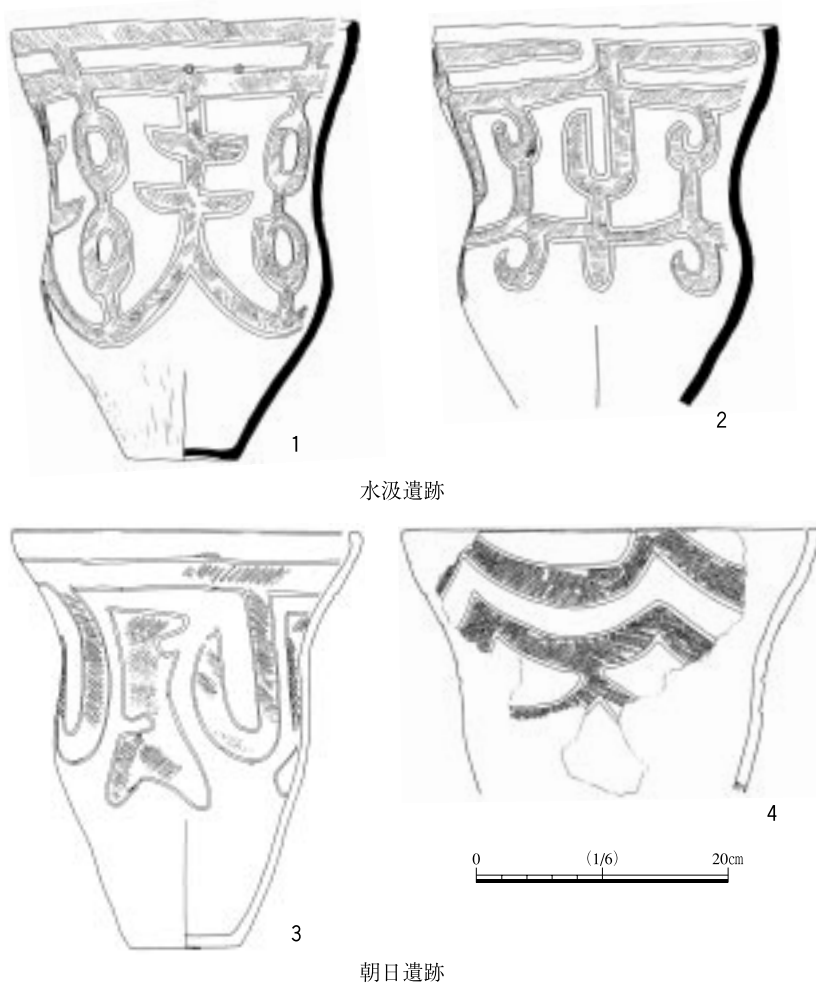
3) 権現山式が提起する問題

「権現山先1期」について

- 先行型式** 権現山式が立脚する位置を確たるものとするうえで、それに先行する型式との関係を明らかにする作業が不可欠であろう。ただし、縄文時代中期末葉からの系統的な変遷を見通すことはいまだ困難な状況にあるので、ここでは中津Ⅰ式あるいは称名寺Ⅰ式前半に相当する時期に限って、現段階での理解⁽⁵⁾を簡略に示しておきたい。
- 中津式** 権現山遺跡において中津Ⅰ式に相当する可能性がある土器としては、97区谷地形下層から出土した深鉢(101～103)がある(第62図)。これは口縁部直下に磨消縄文帯を配し、口縁端部にも縄文を施文する特徴が認められるもので、形式的な理解によって権現山式1期に先行する段階に位置づけられる。これらは97区谷地形において相対的に下位から出土しているものの、出土状況において権現山式1期から明確に弁別することはできない。いずれにせよ、権現山遺跡においては中津Ⅰ式に相当する土器はきわめて断片的な資料に限られる。
- 朝日遺跡** そこで、権現山式1期に先行する段階の資料を近隣の遺跡に求めてみたい(第63図)。第63図3は清洲町朝日遺跡から出土した完形の深鉢で、口縁部直下の無文帯の下位に配された横位の縄文帯から縦長のJ字が垂下する文様構成を基本とする。1段構成からなる縦長のJ字は3単位が配されていて、J字間の無文の部分を充填するように独立した文様図形が同じく3単位配される。権現山遺跡97区谷地形最下層から出土した中津式系深鉢(93)との文様構成の比較においては、文様帯が横位への連続展開を保っている点、単位文様としての図形の抽出が可能である点など、明らかに93に型的に先行する。一方、沈線の描出は総じて深い細く、沈線が途切れたり、引き直されたりしている部分が多い特徴は93との距離の近さを感じさせる。すでに93は中津Ⅱ式に対比したので、朝日遺跡例は中津Ⅰ式に対比される可能性がある。ただし、93に中津Ⅱ式でもより新しい要素が多く看取され、93と朝日遺跡例に絶対的な距離感を認めることが難しいことを重視するなら、朝日遺跡例は中津Ⅰ式新段階～中津Ⅱ式として把握すべきかもしれない。
- 第63図4も同じく朝日遺跡から出土した深鉢で、口縁部文様帯としての窓枠状区画が崩壊したことともなって連弧状の図形に転化した縄文帯によって文様帯が構成される。口縁端部に縄文を施文する特徴からも、先に説明した第63図3の深鉢とおよそ同時期、あるいはそれに先行するものと考えられる。
- 水汲遺跡** さらに西三河地域の藤岡町水汲遺跡出土の深鉢を例示しておく(第63図1・2)。第63図1と第63図2では、口縁部文様帯としての窓枠状区画に相違が認められるが、およそ中津Ⅰ式古段階(玉田1989)に位置づけられる。また、沈線の描出が太く整っている特徴は、朝日遺跡(第63図3)や権現山遺跡(93)の諸例に対して明らかに先行する。
- 権現山先1期** いまだ体系的に土器型式を把握する作業が不足しているものの、権現山遺跡に先行する段階を「権現山先1期」として仮称し、水汲遺跡例をその古段階、朝日遺跡例をその新段階の典型を示すものとして提示しておきたい。また、先1期古段階が中津Ⅰ式古段階、先1期新段階が中津Ⅰ式新段階(～中津Ⅱ式)に相当するものと想定する。



第 62 図 権現山遺跡における権現山先 1 期の資料 (1 : 3)



第 63 図 権現山先 1 期の資料 (1 : 6)

中津・福田K 2 式系深鉢の変遷

権現山式の編年にあたっては、中津・福田K 2 式系土器の系統的な変遷に則して作業をすすめた。しかし、従来の中津・福田K 2 式系土器の変遷の理解に対して大きな「違和感」を投げかけた資料が権現山式に存在する。権現山式 1 期新段階に位置づけた 97 区 S K 36 出土の深鉢（84、第 67 図 1）と 97 区 S K 37 出土の深鉢（86、第 67 図 2）である。これらの資料の位置づけを検討する作業を通じて、ここで中津・福田K 2 式系土器の系統的な変遷についても改めて整理しておきたい。

文様の分帯化 「違和感」をもって迎えられた資料は、口縁部下の無文帯を介して横位に展開する磨消縄文帯を口縁部文様帯、無文部分を頸部文様帯、横位の磨消縄文帯から J 字などの文様図形を垂下させる部分を胴部文様帯とするもので、明らかな文様の分帯化が看取できる。84 については、4 単位の波状口縁で、少なくとも連続する 2 単位に対応する部分にわたって頸部を無文としていることが土器の残存状況から明らかとなっている。86 については残存する部分が少ないが、84 に類する文様構成と考えた。これらの資料は主として文様構成の理解から、すでに権現山式 1 期新段階、つまり中津Ⅱ式または福田K 2 式第 1 段階に対比しうるものとして位置づけた。しかし、福田K 2 式が「中津式の文様構成の崩壊にともなう、中津式文様の変形」によって生成した（千葉 1989）、つまり、横位への連続展開を断って、上下方向への文様展開を志向する過程を中津Ⅱ式から福田K 2 式への変遷の説明としてきた通有の理解にこれらの資料はそのままには馴染まないのである。また、頸部を無文とする特徴はこれまで縁帯文土器を特徴づける重要な一つの要素とされてきたから、縁帯文土器の理解においても、これらの資料が提起する問題は決して小さくない。

そこで、これらの土器の編年的位置と中津・福田K 2 式系土器、縁帯文土器の系譜にかかる問題を解決するために、中津・福田K 2 式系深鉢について、すでに説明を与えた文様構成（第 64 図）以外にも縄文帯の幅、口縁部形態、器形それぞれの要素（第 65 図）を比較する作業を通じて型式的な前後関係を検証した（第 66 図）。

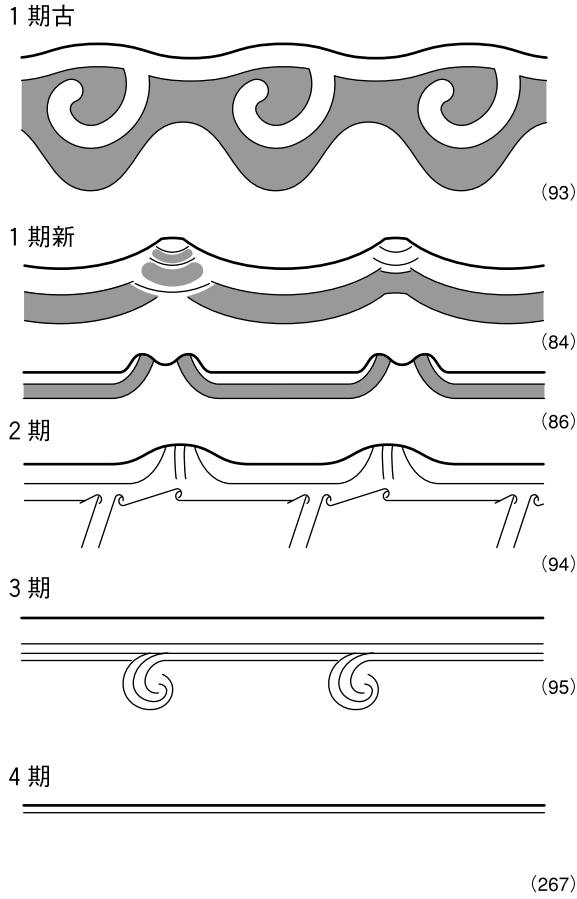
縄文帯の幅 縄文帯の幅は、中津式から福田K 2 式にかけて縮小する傾向にある。それぞれの縄文帯の幅についての計測した結果を提示することはしていないが、縄文帯の幅の変化と深鉢の型式変化はおおよそ対応しているものと考えられる。

口縁部形態 口縁部形態について、1～6 種の 6 種に分類した。1 種は口縁部の先端付近がわずかに内彎するもの、2 種は口縁部の先端がわずかに内面に肥厚するもの、3 種は口縁部の先端が顕著に内彎するもの、4 種は口縁部先端が内折し、口縁端部に明確な平坦面をもつもの、5 種は口縁端部に文様帯を構成する沈線の一部があるもの、6 種は口縁端部にのみ 1 条の沈線があるもの、である。

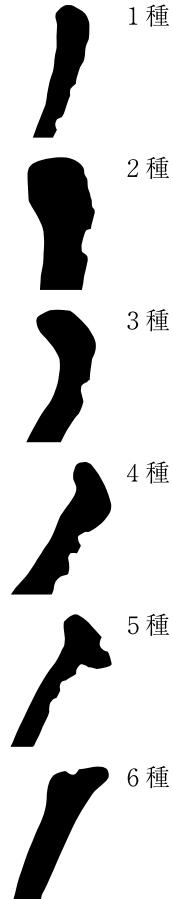
4 種、5 種、6 種とした口縁部形態は、千葉豊がいうところの「a 種」、「b 種」、「d 種」にそれぞれ対応し、これらは「a 種」、「b 種」、「d 種」、つまり 4 種、5 種、6 種の順序で変遷したことが説明されている（千葉 1989）。また、「a 種」口縁は口縁部の内彎あるいは肥厚、内折化を経て変化した形態と考えるなら、1 種、2 種、3 種の順序での変遷も妥当なもの判断しうる。土器型式に対しては、1 種と 2 種が中津Ⅱ式、3 種と 4 種が福田K 2 式第

口縁部付近の文様構成の変化

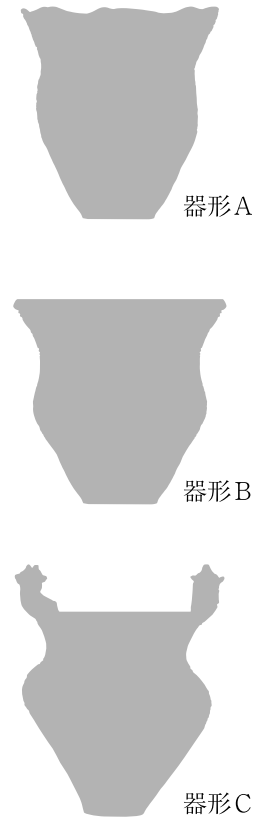
※トーンは縄文施文部分



口縁部形態の分類



器形の分類



第64図 口縁部付近の文様構成の変化

第65図 口縁部形態と器形の分類

| | 口縁部形態 | | | | | | 器形 | | |
|-------|-------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| | 1種 | 2種 | 3種 | 4種 | 5種 | 6種 | 器形A | 器形B | 器形C |
| 1期古段階 | ● | | | | | | ● | | |
| 1期新段階 | ● | ● | | | | | ● | ● | |
| 2期 | | | ● | ● | | | | ● | |
| 3期古段階 | | | | ● | | | | ● | |
| 3期新段階 | | | | | ● | | | ● | |
| 4期 | | | | | | ● | | | ● |

第66図 口縁部形態と器形の相関

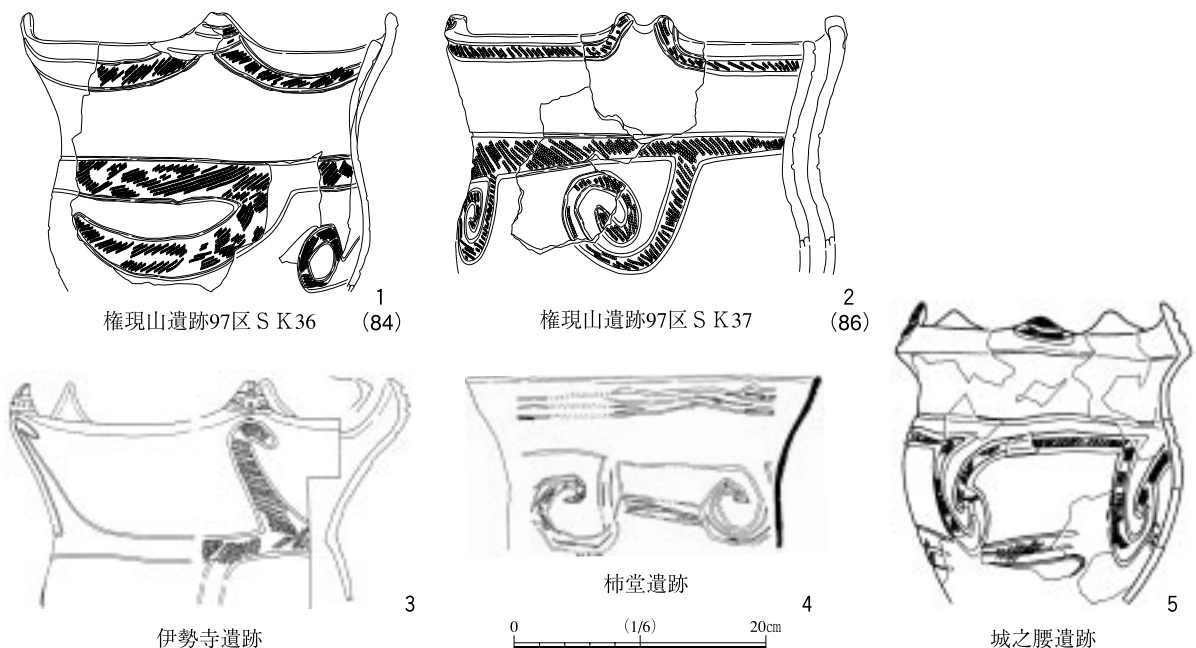
1～2段階、5種が福田K2式第3段階、6種が広瀬土壙40段階におよそ対応する。84の口縁部は1種、86の口縁部は2種に分類されるので、口縁部形態の変化によっても84と86の編年の位置の確かさを知ることができる。

器形 深鉢形の器形について、器形A～Cに三大別した。器形Aは口縁部から体部にかけて緩やかにくびれるもの、器形Bは口縁部から体部にかけてやや強くくびれるもの、器形Cは頸部で明確に屈曲するもの、である。ただし、明確な基準は用意していない。

中津式以降、深鉢形の器形は、ほとんど口縁部から体部にかけてほとんどくびれない器形から、器形A、器形B、器形Cの順序で変遷したものと推定される。84、86とも器形Aとして分類され、中津Ⅱ式から福田K2式にかけて多く認められる器形と理解される。加えて中津Ⅱ式から福田K2式にかけて波状口縁から平縁口縁が多くなる変化の傾向に照らしても、84、86の編年の位置は矛盾しない。

関連資料 文様構成、口縁部形態、器形それぞれの要素を比較した結果、84、86を含めた中津・福田K2式系土器の変遷が無理なく説明できることを明らかとした。最後に関連すると思われる資料を幾つか例示し（第67図）、類例の新出を待つことにする。

伊勢寺遺跡 第67図3は三重県伊勢寺遺跡から出土した深鉢で5単位の波状口縁として復原されている。口縁部付近をめぐる文様帯は消失し、頸部には胴部をめぐる横位の縄文帯から縦長の逆J字がせりあがるものの、明らかに無文部分が頸部の多くの面積を占める。波頂部の沈線と刺突による装飾は権現山遺跡例（84）の沈線区画にも類似し、沈線区画が装飾に転化したものとも考えられる。縄文帯の幅、口縁部形態の特徴などに84に後出する要素が看取されることから、福田K2式第1段階に相当させることができようが、沈線末端が離れたり、鍵の手状に組み合わたりすることはない。いずれにせよ、84に近い型式的位置が与えられることに異論はないであろう。



第67図 権現山式1期新段階の中津式系深鉢とその関連資料（1：6）

柿堂遺跡 第67図4は滋賀県柿堂遺跡から出土した深鉢で、沈線によってJ字を描出し、その区画内を沈線で充填している。中津式系深鉢から著しく変容したものと理解されるが、頸部を無文とする特徴が同じく認められる。福田K2式第1段階～第2段階に相当するものと考えられようか。

城之腰遺跡 第67図5は新潟県城之腰遺跡から出土した関西系土器で、深鉢は口縁部が屈曲することで口縁部文様帯が、頸部と胴部を画する沈線によって頸部の無文帯と胴部の文様帯が確立されている。その一方で、胴部文様は鍵の手状に組み合う2本沈線と3本沈線が混在する福田K2式に近い文様によって構成される。また、波状口縁の沈線区画は権現山遺跡例(84)に類似することも付け加えておく。

権現山遺跡例を含めて第67図に例示した資料は、中津Ⅱ式から福田K2式の段階において、すでに縁帯文土器に通じるかのような要素を表出させたもので、中津式から福田K2式、そして縁帯文土器への変遷の理解についても改めて整理する必要性を示唆している。また、これらが福田K2式土器の分布する周縁地域、あるいはさらにその圏外の地域における自律的な展開を表出させている可能性も否定されない。いずれにしても、これらが中津・福田K2式土器の系統、あるいはその分布圏の問題について興味深い話題を提供する資料であることは疑いない。

4) 東西編年の併行関係の構築

併行関係 権現山式の設定はひとり一地域における編年の問題にとどまらない。遺跡の地理的な位置を加味するなら、すでに空間的な関係を前提とした関東地方における称名寺・堀之内式土器と関西地方における中津・福田K2式土器、縁帯文土器との併行関係の推定に寄与するところは小さくないと思われる。

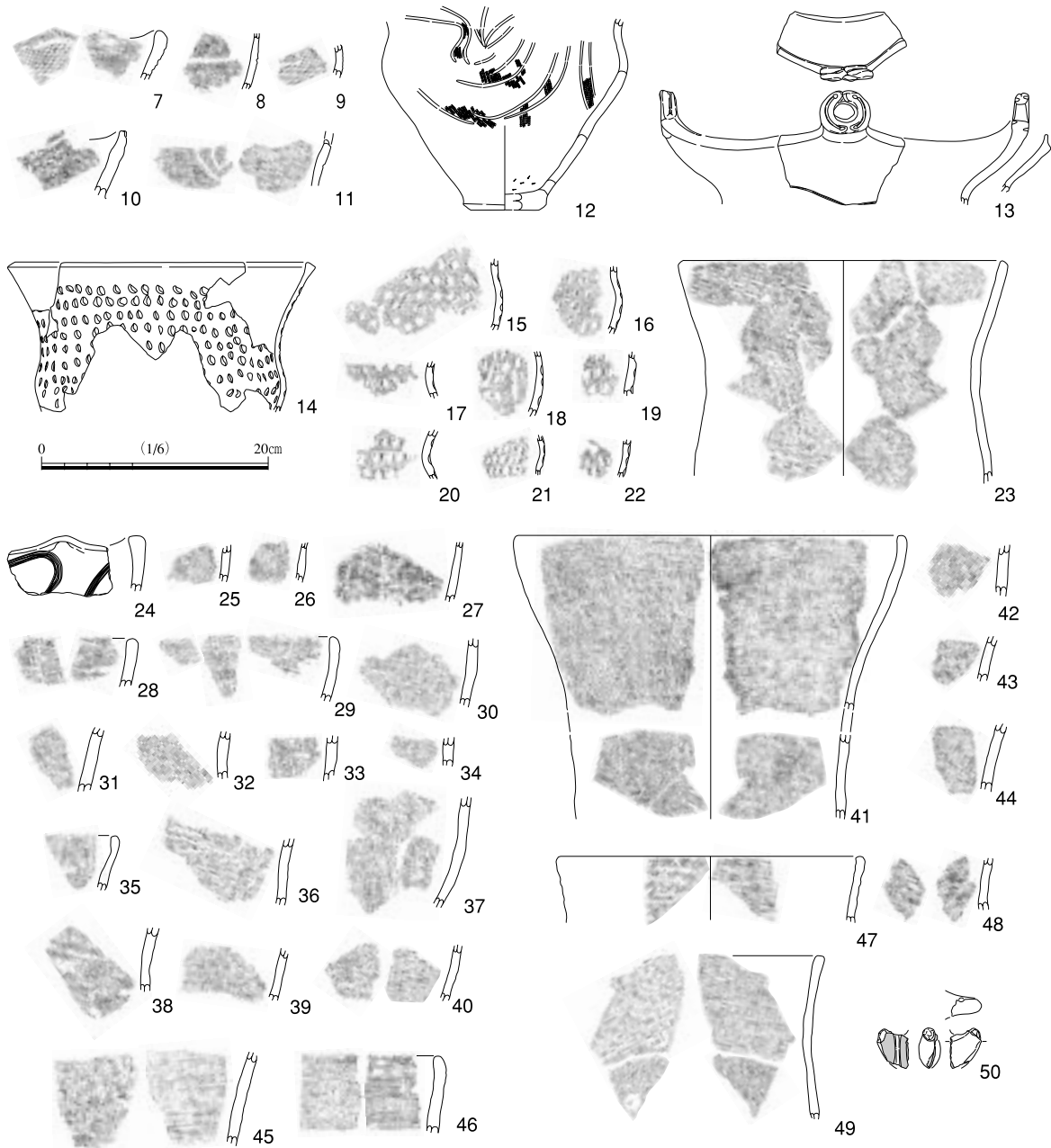
中津Ⅰ式 さて、称名寺Ⅰ式と中津Ⅰ式は明確には分ちがたい型式であって、併行関係にかかる大きな問題はない。権現山遺跡においては称名寺Ⅰ式、中津Ⅰ式に対比される資料は明確でないが、それに類する型式の存在から権現山先1期を設定した。よってここでは具体的な問題を論じるまでにない。

福田K2式 ところが問題は、それより以降、つまり権現山式1期以降で、とくに問題視されているのが、関東地方の編年に対する福田K2式の位置である。問題の成因は福田K2式、あるいは称名寺Ⅱ式が地域色を顕著に表出させることによって、相互に類似した要素が乏しくなることにある。また、問題の解答が長らく提出されなかった大きな要因として、しばしば東海地方における資料の欠如も指摘されてきた。その指摘は、関東地方と関西地方の中間に位置する東海地方において、相互の型式、あるいは型式を構成する要素が共存する資料への渴望にほかならない。

97区SK31 さらに権現山式を設定したことで、型式の時間的な流れについては基礎的な整理を果たした。さらに権現山遺跡には、関東地方と関西地方の併行関係を良好な遺物の出土状況をもとに類推できる重要な資料が存在する。権現山式2期の基準資料とした97区SK31出土土器である。

97区SK31について

出土状況 97区SK31は径約3.1mを計測する円形の竪穴住居と推測される遺構で、遺物が同時、あるいはきわめて限定された時間に一括廃棄された状況が観察された。遺構からは福田K2式に対比される土器のほか、それとは系譜を異にすると思われる幾つかの土器が出土した(第68図)。それらの位置づけについて、ここでやや詳細に検討する。



(番号は図版番号に一致)

第68図 97区SK31出土土器(1:6)

「福田K 2式土器」について

福田K 2式土器 福田K 2式土器 12 (第69図1) は残存が体部下半のみであるものの、文様構成などをある程度把握できる。文様は斜方向を中心として展開する2本沈線によって構成され、明確な3本沈線は認められない。縄文帯の幅は約1.1cmと相対的に細く、沈線の描出も総じて弱いが、中津Ⅱ式・福田K 2式系深鉢において、体部下半の沈線は体部上半と比較して描出が弱くなる傾向にあることを考慮すれば、沈線の描出方法を単純に型式の新古にそのまま対応させることはできない。器形としては、突出気味に体部が張って頸部が強くくびれる特徴がみられ、類似した器形は赤野井湾遺跡包含層Ⅲ・Ⅳ出土土器 (第69図2) において認めることができる。赤野井湾遺跡例は明確な3本沈線によって文様が構成されるが、沈線末端の処理は権現山遺跡例に類似するように見えなくもない。とするなら、権現山遺跡例においても体部上半で2本沈線と3本沈線が混在する可能性も想定されるかもしれない。よって97区SK 31から出土した福田K 2式土器の位置は、およそ福田K 2式第1段階に対比しながらも、あるいは福田K 2式第2段階に対比される可能性をも同時に示しておきたい。

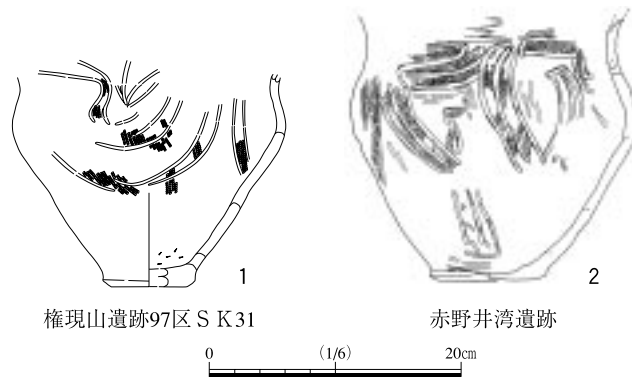
「関東系深鉢」について

C字形口縁部 97区SK 31においては、C字形口縁部貼付文をもつ深鉢が出土している (13、第71図1)。
貼付文 C字形口縁部貼付文は東北地方南部の大本10式の口縁部の隆起線に由来する装飾文様で、称名寺Ⅱ式から堀之内1式にかけてしばしば使用されることから、権現山遺跡出土のC字形口縁部貼付文をもつ深鉢をここでは「関東系深鉢」と呼称する。

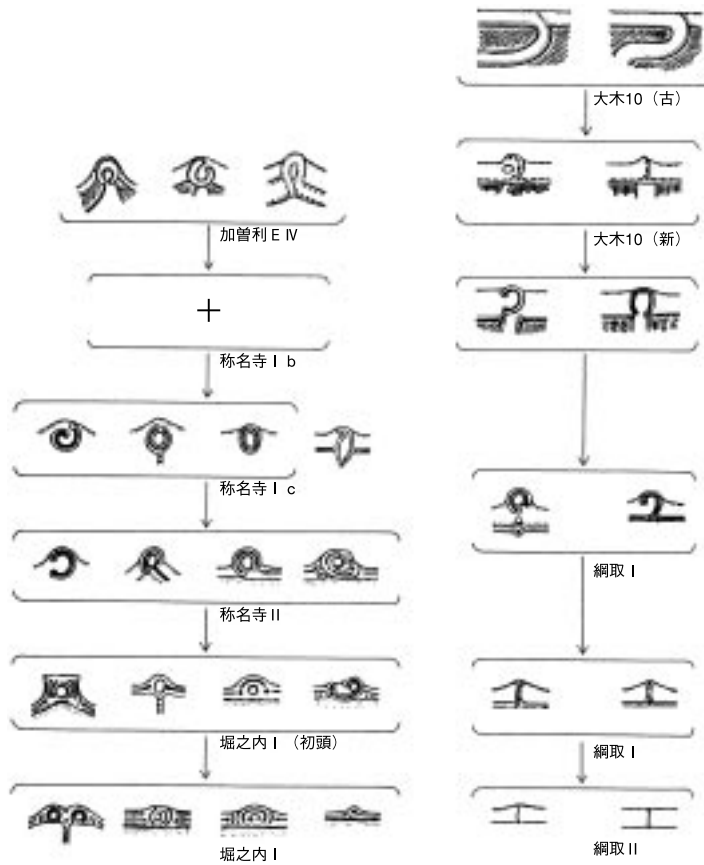
変遷 C字形口縁部貼付文の変遷については、すでに今村啓爾が明快な理解を示している (今村1977、第70図)。それによると、その使用がはじまる称名寺Ⅰ式後半 (Ⅰ式c類) には、口縁部外面の波状口縁の波頂部 (突起部) 位置に対応して配され、称名寺Ⅱ式～堀之内1式初頭には、これが発達して口縁部に配されるようになり、しばしば貫通孔を有し、さらに堀之内1式以降は、それが萎縮する傾向にあるとされる。さて、権現山遺跡の関東系深鉢はC
称名寺Ⅱ式 字形口縁部貼付文が強調されるようにして口縁部に配される特徴から、称名寺Ⅱ式に対比されるであろう。

頸部の無文化 しかし、これを関東系深鉢として理解したとき、C字形口縁部貼付文のみをもって称名寺Ⅱ式として位置づけることに問題がないわけではない。それは、権現山遺跡の関東系深鉢は口縁部から頸部にかけて大きくくびれ、かつ頸部が無文化している特徴が認められることで、その特徴は称名寺Ⅱ式から堀之内1式への「最も基本的な変化」であることを今村啓爾がすでに説いているからである (今村1977)。一方で、中津Ⅱ式から福田K 2式第1段階に相当する段階において、権現山遺跡などでは頸部を無文とする深鉢が確実に存在することを前節において明らかとし、それが小地域における自律的な変化に起因したものである可能性も示唆しておいた。

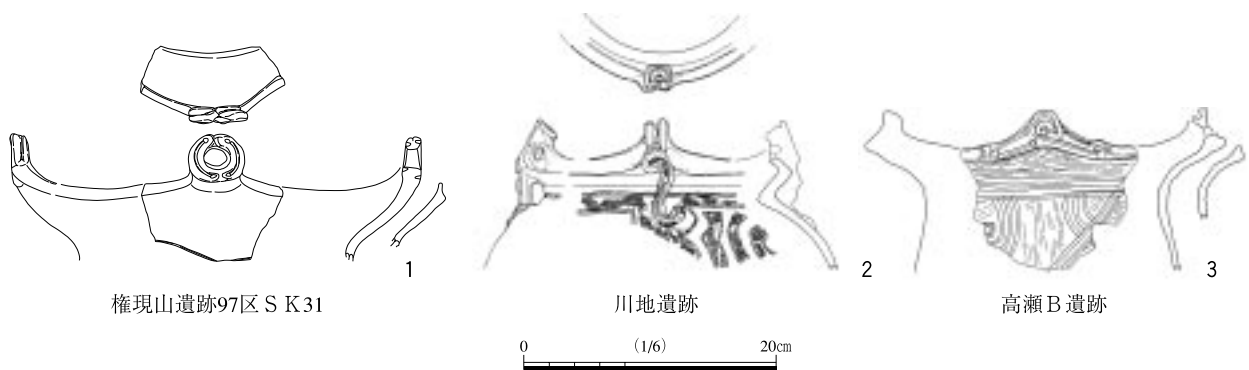
高瀬B遺跡 そこで、C字形口縁部貼付文をもつ深鉢の類例を東海地方西部において求めてみたい。三
川地遺跡 重県高瀬B遺跡 (第71図2)、渥美町川地遺跡 (第71図3) の諸例は、口縁部から頸部にかけて大きくくびれ、かつ頸部を無文としている。C字形口縁部貼付文は権現山遺跡例と比較
堀之内1式 して明らかに萎縮し、体部の文様構成は堀之内1式 (縁帯文) 土器との関係が指摘できる。



第69図 福田K2式系深鉢の比較(1:6)



第70図 C字形口縁部貼付文の変遷(今村1977より)



第71図 C字形口縁部貼付文をもつ深鉢の比較(1:6)

また、川地遺跡においては縄文時代後期初頭（称名寺式、中津・福田K2式）の土器がほとんど認められないことも参考となる。つまり、権現山遺跡例は高瀬B遺跡と川地遺跡の諸例に型式的に先行しつつ、それらと類似する特徴も幾つか認められることから、称名寺Ⅱ式でもより堀之内Ⅰ式に近い編年の位置が想定されるであろう。

「類三十稲葉式土器」について

三十稲葉式 さらに97区SK31には明らかに北陸北東部の三十稲葉式土器との関係において理解されるべき資料が1、2個体ともなっていた（14～22）。それは、横方向からの抉るような刺突、いわゆる「花卉状刺突」が体部の器面全体を覆う特徴的な深鉢で、その施文手法は明らかに三十稲葉式土器に由来する。その一方で、権現山遺跡例には三十稲葉式土器の深鉢に通有の口縁部無文帯を跨ぐ4単位の橋状突起が存在しないことなど、決定的な器形の相違も指摘できる。このような理解から、権現山遺跡例をここでは「類三十稲葉式土器」と呼称する。なお、権現山遺跡例は口縁端部が断面三角形に内折する特徴が認められる。この特徴は福田K2式の深鉢との関係を示唆するものであろう。

三十稲葉式古段階 権現山遺跡の類三十稲葉式土器は口縁部付近を無文とし、体部のくびれ位置よりやや下位まで刺突文が施文されていることが確認される。器面を充填する刺突文は列状に整然と施される。施文部位を区画する沈線や隆帯はみられない。これらの特徴は三十稲葉式土器においても古相を示すものとされ、三十稲葉式古段階（田中1989）、後期前葉2期古段階（田中・渡邊1999）、城之腰Ⅵ2期・三十稲葉2式（国島1991）、三十稲葉a式（安部1990）⁶⁾におよそ対比される。

その他

97区SK31から出土した他の精製土器として5個体が図示されている（7～11）。それらは中津Ⅱ式に対比される個体（7）を含むも、他の個体は福田K2式第1段階としての編年の位置づけに決定的に矛盾するものではない。ただし、Ⅱ群5類として分類したきわめて細かい3本沈線を描出する深鉢（10）は、福田K2式第2段階の深鉢に由来するとの意見もあるかもしれない。類例にも乏しく、妥当な解釈を与えることが難しいが、きわめて細かい3本沈線の描出は、文様の割付に関係する可能性を指摘して、福田K2式の深鉢の変遷には馴染まないものと考えておきたい。

97区SK31前後

97区SK36 97区SK36において中津式系深鉢（84）と称名寺式系深鉢（85）が共伴した事例をすでに紹介し、84を中津Ⅱ式に、85を称名寺Ⅱ式にそれぞれ対比した。ただし、84は中津Ⅱ式として対比しつつも、福田K2式第1段階から明確に分かつことは難しい。この型式対比の問題は、「福田K2式」なる型式の規定にかかわる問題にはかならないからである。ここでは84が中津Ⅱ式から福田K2式第1段階へと変遷する過渡的な位置にあることが確認できればよい。一方で、85は称名寺Ⅱ式として対比しつつも、文様構成や施文手法がやや特異であることから、その型式的な位置づけは難しい。

福田K2式第2段階以後 福田K2式第2段階以後については、併行関係を推定する良好な出土事例を欠く。併行関係にかかわる問題としてあえて予察的に述べるとするなら、権現山式4期との共時的な関係

朝日遺跡 のもとに理解した朝日遺跡出土資料(第61図1)は、(堀之内1式初頭を含まない)堀之内97区SK31 1式(今村1977)・堀之内1式中段階(石井1993)との併行が想定される。すなわち、広瀬土壙40段階(縁帯文土器成立期)が(堀之内1式初頭を含まない)堀之内1式・堀之内1式中段階に併行するとの理解を示しておきたい。

併行関係について

97区SK31 97区SK31出土土器のそれぞれの編年的位置によって、福田K2式第1段階、称名寺Ⅱ式、三十稲葉式古段階が併行するとの推論が導かれる。土器をより詳細に検討した結果、厳密にはそれぞれが福田K2式第1段階、称名寺Ⅱ式、三十稲葉式古段階を上限とするものと理解されるが、併行関係の推定に対して直接的に影響を及ぼすものではない。

97区SK36 また、97区SK36における出土状況から、中津Ⅱ式(～福田K2式第1段階)と称名寺Ⅱ式の併行関係の一端をも示した。しかし、称名寺式系の深鉢がやや不安定な編年的位置にあることを勘案するなら、中津Ⅱ式から福田K2式第1段階への過渡的な時期が、称名寺Ⅰ式後半から称名寺Ⅱ式にかけてのいずれかの時期に対応するといった大局的な理解に止めておくべきであろう。つまり、中津Ⅱ式の主たる部分は称名寺Ⅰ式の後半部分に大きく重複するものと推定する。

以上の検討の結果、中津Ⅰ式—称名寺Ⅰ式a・b類—権現山式先1期、中津Ⅱ式—称名寺Ⅰ式c類—権現山式1期、福田K2式第1段階—称名寺Ⅱ式—三十稲葉式古段階—権現山式2期、福田K2式第2・3段階—堀之内1式初頭—権現山式3期、広瀬土壙40段階—堀之内1式—権現山式4期とする併行関係が導かれる。

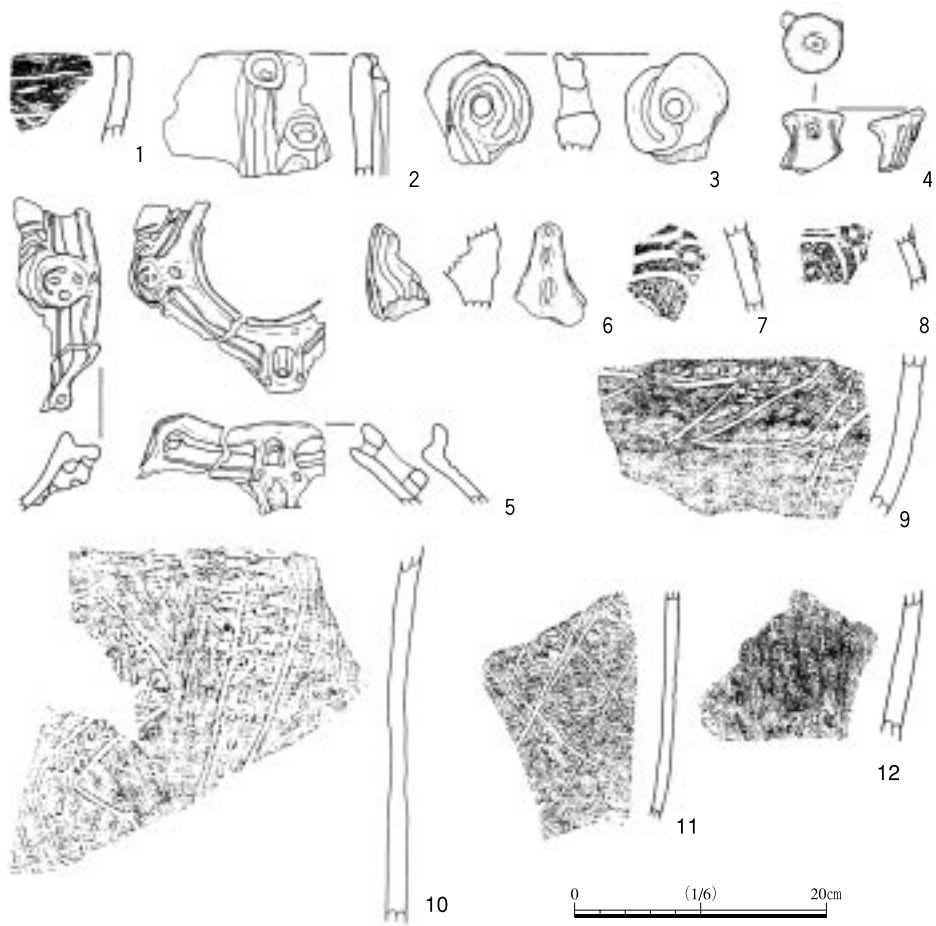
併行関係推定資料について

権現山遺跡における縄文土器の出土状況をもとに、東西編年の併行関係を推定した。以下では、良好な出土状況を示す他の幾つかの事例についても着目し、併行関係にかかる推定の検証を目指すこととしたい。

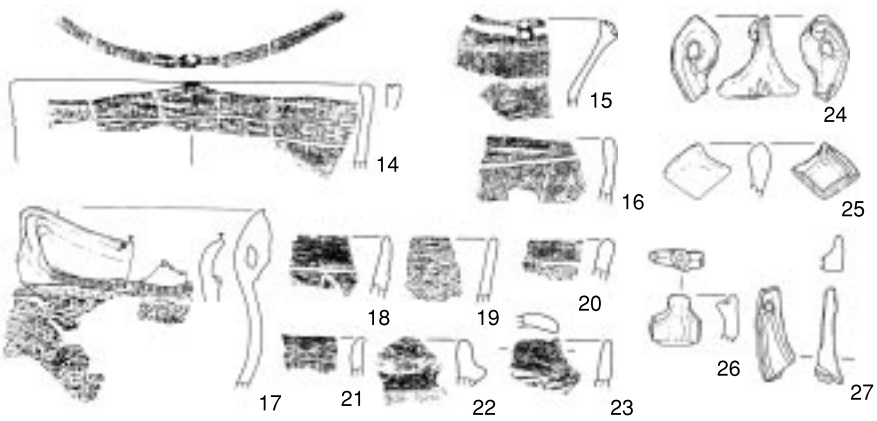
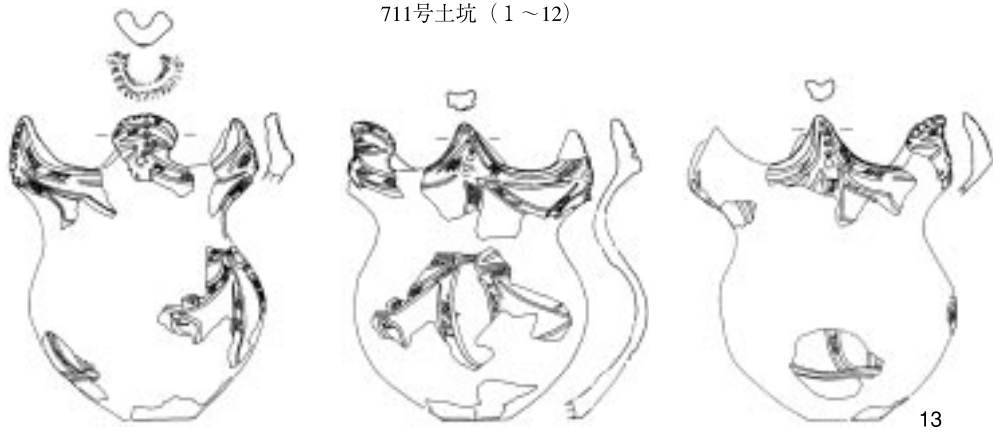
武士遺跡711・712号土坑(第72図)

関西系土器群 千葉県に所在する武士遺跡は、縄文時代中期から後期にかけての集落遺跡で、膨大な量の遺構と遺物が検出されている。そのなかの711・712号土坑から、「関西系土器群」を含む土器群が出土している。なお、「関西系土器群」は両土坑において接合関係を有することから、それらは近接した時期に帰属する可能性が高いとされている。加納実は、「関西系土器群」(第72図13)に対して中津Ⅲ式(福田K2式第1段階)の型式的位置を与え、それにとまなう土器を「明瞭な堀之内1式土器を含まない、称名寺Ⅱ式最終末段階=第7段階」として位置づけた(加納1994・2000)。これに対して千葉豊は、同じ「関西系土器群」を福田K2式第3段階に位置づけ、福田K2式第3段階と称名寺Ⅱ式(～堀之内1式古段階)の併行を想定した(千葉1995)。

三十稲葉式土器 両者の「関西系土器群」に対するいずれの型式比定を是とするかについては、千葉が指摘するように、福田K2式の地域差とその系統変化にかかる問題があって、にわかには解決しがたい。そこで、ここでは712号土坑から出土した「三十稲葉式土器を彷彿とさせる土器」(第72図17)にも注意したい。三十稲葉式土器との関係が類推される土器は、体部の特徴的

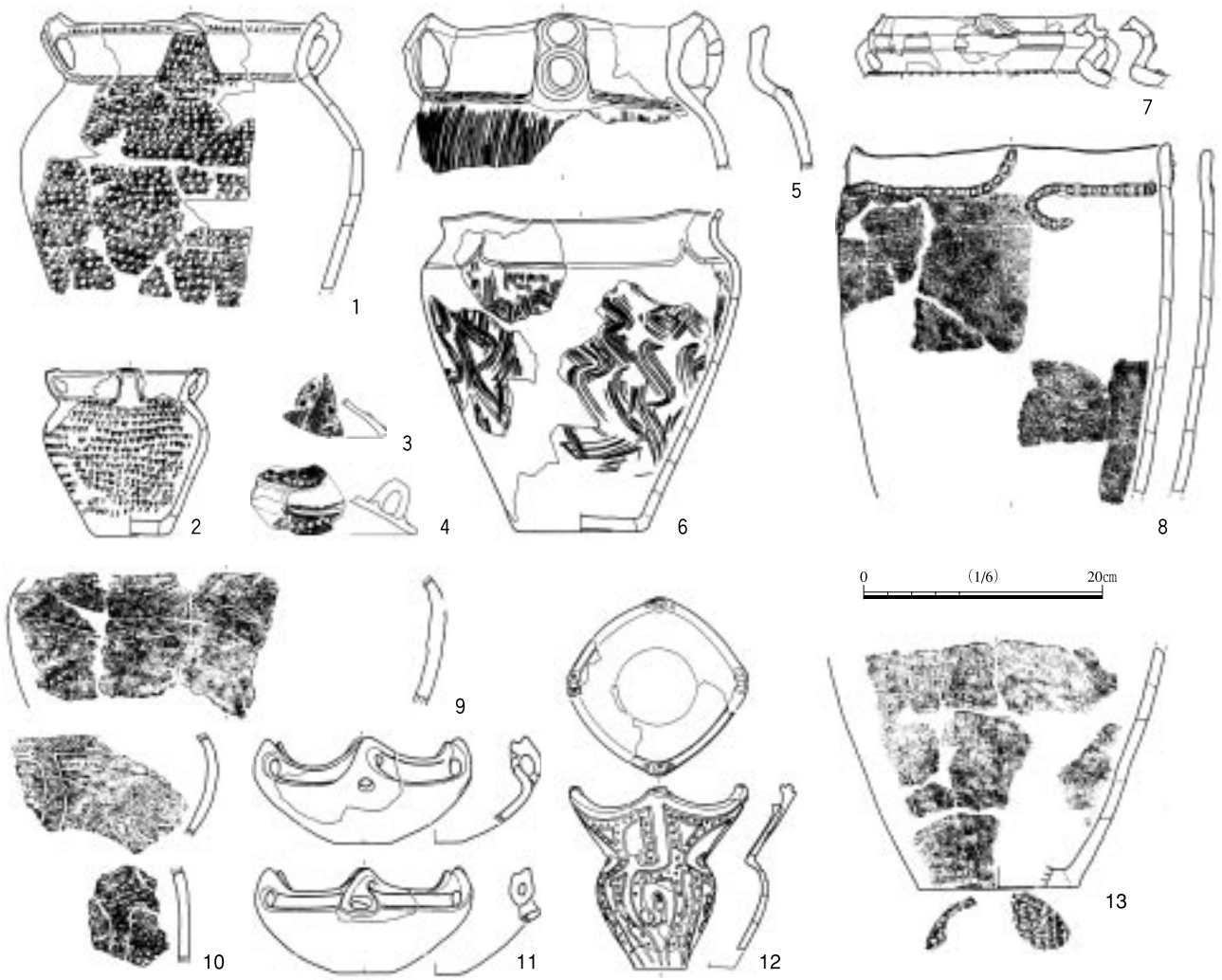


711号土坑 (1~12)

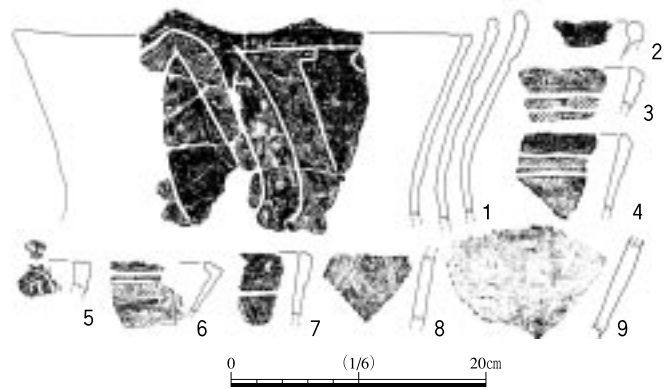


712号土坑 (13~27)

第72图 武士遺跡711・712号土坑出土土器 (1:6)



第73図 城之腰遺跡 R 24—p 30 出土土器 (1 : 6)



第74図 新徳寺遺跡 S K 201 出土土器 (1 : 6)

な刺突文が縄文に置き換わっているものの、口縁部無文帯を跨ぐ橋状突起が付されていて、およそ三十稲葉式古段階（田中 1989）に対比されるであろう。加納も同様に「（三十稲葉式土器の）おおむね古い部分に相当」するものと想定している（加納 1994）。つまり、武士遺跡 711・712 号土坑は権現山遺跡 97 区 S K 31 とともに、三十稲葉式土器、なかでもその古段階に類する土器を含むことから、両者は近接する時期の遺構であるとも考えられる。また、両遺構にともなう関東（系）土器は称名寺Ⅱ式でも堀之内Ⅰ式に近い時期が想定され、「関西系土器」は 2 本沈線によって文様が構成される特徴が認められることも調和的である。結論を急ぐなら、武士遺跡と権現山遺跡の両遺構での類似の出土状況から、称名寺Ⅱ式と福田 K 2 式第 1 段階、三十稲葉式古段階との併行関係が示されることになる。

城之腰遺跡 R 24—p 30（第 73 図）

北陸北東部 権現山遺跡 97 区 S K 31、武士遺跡 711・712 号土坑から出土した土器群の検討において、三十稲葉式土器が少なからぬ貢献を果たした。そこで、三十稲葉式土器が主体的に分布する北陸北東部地域（新潟県）の良好な出土事例として、城之腰遺跡 R 24—p 30 についても一瞥しておく。

城之腰遺跡は新潟県に所在し、主として縄文時代中・後期の遺構と遺物が検出されている。縄文時代後期初頭は遺跡から出土した遺物の四分の一以上を占めていて、R 24—p 30 とした土坑からは、城之腰Ⅵ 2 期・三十稲葉 2 式（国島 1991）の土器群が一括出土し、そのなかには関東系の土器（第 73 図 9・10・12）も含まれていた。

関東系深鉢 第 73 図 12 は、完形に復原される関東系の深鉢で、沈線間に列点を配する特徴から称名寺Ⅱ式に対比される。また、第 73 図 9・10 は、磨消縄文によって文様が構成される土器の破片で、称名寺Ⅰ式として提示されている。しかし、関東北東部地域や東北部地域において出土する称名寺式土器は、称名寺Ⅱ式段階においては、列点よりも縄文の施文が主であることがすでに指摘されているので（今村 1977）、三十稲葉式土器にともなって出土した関東系の土器は総じて称名寺Ⅱ式として位置づけることが妥当であろう。よって、城之腰Ⅵ 2 期・三十稲葉 2 式（国島 1991）・三十稲葉式土器古段階（田中 1989）と称名寺Ⅱ式の併行関係が示されることとなる。この想定は、安部芳郎が文様構成の比較と土器の出土状況の検討をもとに示した編年にかかる併行関係（阿部 1990）とも一致する。

新徳寺遺跡 S K 201（第 74 図）

関東系土器 三重県に所在する新徳寺遺跡は、縄文時代後期前葉を中心とする集落遺跡で、S K 201 において関東系土器を含む土器群が出土している。関東系土器（第 74 図 1）は大小の突起が 2 単位（あるいは 3 単位）ある深鉢で、縄文施文部と無文部が独立し、縄文施文部の区画を相互に 1 本の曖昧な沈線で接続した部分が認められる。この関東系土器にともなって 3 本沈線によって文様帯が構成される深鉢の口縁部（第 74 図 4 など）が出土していることから、小濱学は称名寺Ⅱ式と福田 K 2 式第 2 段階の併行を想定した（小濱 1997）。一方で、第 74 図 6 はいわゆる「b 種」口縁を特徴とすることから、通有の理解においては福田 K 2 式第 3 段階に対比されるであろう。いずれにせよ、新徳寺遺跡における出土状況からは称名寺Ⅱ式と福田 K 2 式第 2 段階あるいは第 3 段階との併行関係が導かれるので、権現山遺跡の出土状況な

第17表 編年対照表

| 権現山遺跡 | | (東海西部) | 今安楽寺遺跡 | 関西 | 関東 | 北陸北東部 |
|-------------|-----------------------|-----------------------|--------------------|------------------------|---------------|---------------|
| (権現山先1期) 古新 | (↓) | (水汲) (林ノ峰G層) (朝日↓) | 今安楽寺Ⅰa式 今安楽寺Ⅰb式 | 中津Ⅰ式 | 称名寺Ⅰ式 a・b類 | 三十稲葉式 直前 |
| 権現山式1期 古新 | 97区谷最下層↓ 97区S K36↓ | (林ノ峰E貝層) | 今安楽寺Ⅱ式 | 中津Ⅱ式 | 称名寺Ⅰ式 c類 | |
| 権現山式2期 | 97区谷下層 97区S K31↓ | | 今安楽寺Ⅲ式 | 福田K2式第1段階 | 称名寺Ⅱ式 | 三十稲葉式 古段階 |
| 権現山式3期 古新 | 97区谷中層 97区谷上層↓ | | 今安楽寺Ⅳ式 今安楽寺Ⅴ式 | 福田K2式第2段階 福田K2式第3段階 | 堀之内Ⅰ式 古段階 | 三十稲葉式 新段階 |
| 権現山式4期 | 01区S X04・05 | (朝日) (林ノ峰C貝層) | 今安楽寺Ⅵ式 | 広瀬土壙40段階 | 堀之内Ⅰ式 中段階 | 南三十稲葉式 新段階 |

どから導いた併行関係とは容易に相容れない結果が生まれることとなる。

新徳寺式

これより先は、それぞれの遺構における土器の出土状況をより詳細に分析する努力に傾けるべきかもしれないが、新徳寺遺跡においては福田K2式以前の遺構・遺物がやや希薄で、むしろ広瀬土壙40段階から北白川上層式(新徳寺式)において遺跡形成にかかる活動が活発化することに注意する必要がある。つまり、新徳寺遺跡においては広瀬土壙40段階～北白川上層式と堀之内Ⅰ式～堀之内Ⅱ式のより厳密な対比を前提として、福田K2式の位置を推定する姿勢がむしろ重要であろう。

小結

編年対照

これまでに権現山遺跡97区S K31出土土器を東西編年の併行関係を推定するうえでの重要な定点の一つとみなして、他の定点となりうる資料との整合を試みた。細かな齟齬はあるが、以上の検討から導かれたおよその結果を第15表として改めて提示する。

福田K2式

ただし、これによって問題が解決されたとするにはあまりに早計である。論旨にかかわる重要な問題として、「福田K2式」なる型式の規定を吟味しないまま、権現山遺跡あるいは東海地方西部が福田K2式土器の広域土器分布圏に包摂されることを議論の出発点としている点がある。権現山式と福田K2式との距離によっては(権現山式が福田K2式と異なる型式と把握されるなら)、権現山遺跡における出土状況のみによって、関西地方の型式と関東地方の型式の位置を単純に律することは危険であろう。

権現山式3期

また、福田K2式第2・3段階に相当するとした権現山式3期については、権現山遺跡において良好な出土状況を示す事例に乏しく、権現山式3期の型式対比や細分、併行関係の推定に少なからず困難を来している。その結果、千葉豊が提起した福田K2式の地域差とその系統変化にかかる問題にまたも猶予を与えてしまうこととなった。あるいは逆に、権現山式3期における不安定な状況は、福田K2式の細分に再考を迫っているものとも捉えられなくもない。これらの課題をここに明示して、ひとまず議論を閉じることにしたい。

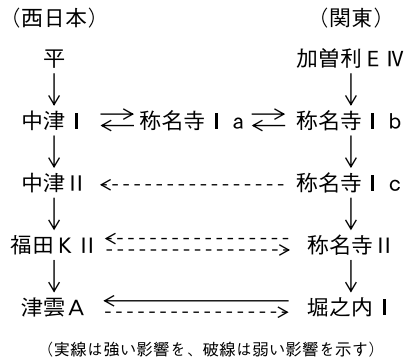
5) 結び

系統関係

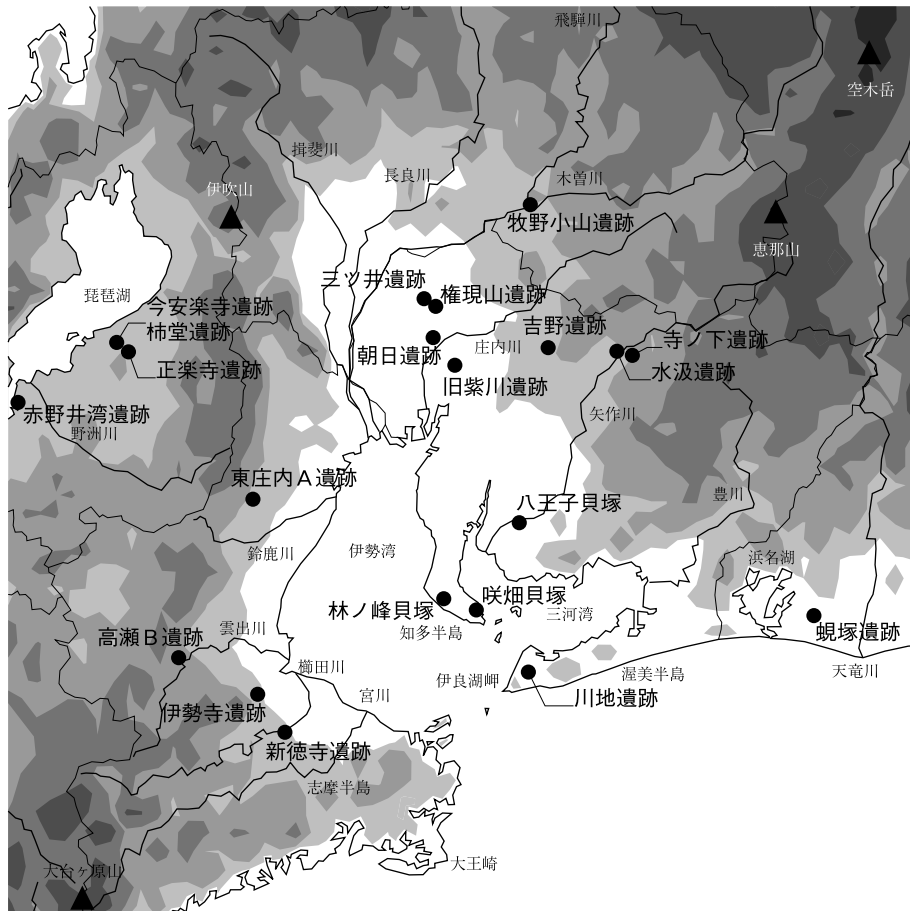
一遺跡から出土した土器について長らく、殊更に文章を綴ってきたのは、これが地域編年の構築と、それを前提とした地域間関係の洞察において、きわめて重要な位置を占めるものと認識したことにほかならない。というのも、称名寺式土器の研究をすすめた今村啓爾は、称名寺式が存在する基層を明確にするとともに、その西日本地域と関東地域間における系統関係とその変遷についても適格に整理した(第75図)。そこで示された系統関係、すなわち型式の動態から推される地域間の交流関係の具体像をえがくうえで、東海地方における型式の流れとその系統関係を把握する意義は決して小さくない。

権現山式の動態

このような意識のもと、いま一度、権現山式とその型式の動態についてまとめておく。権現山先1期には称名寺式と中津式相互の影響関係を介していたものと推定されるが、権現山式1期には中津式に傾斜しつつも、すでに地域における自律的な型式変化を志向するようになる。地域における型式の自律化は、権現山式2期においてより明確化する。これは各地域



第75図 称名寺式土器の系統関係 (今村1997より)



第76図 関連遺跡位置図

において地域差が表出する傾向に通じる現象として理解される。この段階を前後して非精製土器やそれに傾斜する土器など、きわめて複雑な土器の系統分化が促されていることも重要である。この傾向は基本的には権現山式3期に継続するが、権現山式2期にその大きな画期があったものと評価できる。

しかし、この現象を地域間関係が希薄になったものと解釈すべきではない。というのは権現山式2期においては、土器が地域性を発揮しつつも、それら個性的な土器が地域を大きく跨いで出土する事例が確実に認められるからである。権現山遺跡97区SK31や武士遺跡711・712号土坑がおよそ同時期に存在することは何も偶然ではない。権現山式2期に土器型式が大きな転機を経験し、地域間交流の質的な転換も同時に進行したものと想定したい。あるいはこの型式の動態が、権現山式4期における縁帯文土器の成立を準備することにもなるのであろう。

ここで触れた型式の動態にみる変移は、土器型式それぞれの構造をより詳細に分析したうえで証明されるべき課題ではあるものの、少なくとも縄文土器研究の今後の指針と秘めたる可能性の一端を示すささやかな布石程度にはなりえようか。今回は、いわばほとんど既知ともいえる現象面における比較や確認に終始することとなったが、今後は、型式がいかに規定され、相互においていかに存立するかを、さまざまなレベルにおいて再構成する姿勢が求められる。

註

- (1) 2本沈線による複雑化した文様構成を特徴とする土器については、中津式に編入し、「中津Ⅲ式」として理解する立場(泉・玉田1986)と、福田K2式に編入し、「福田K2式古段階」として理解する立場(玉田1989)がある。ここでは後者の立場に従う。また、福田K2式の細分(福田K2式第1段階・第2段階・第3段階)については千葉豊の一連の研究(千葉1989・1992・1995)を参考とした。
- (2) 幸泉満夫が設定した「沈線文系土器」は複数の系統の土器との複雑な関係性を前提として存立している。東海地方西部においては、沈線を文様施文の主とするといった印象が強い西尾市八王子貝塚や南知多町林ノ峰貝塚の土器群に配慮したうえで「沈線文系土器」として定義する必要があるが、ここではそれを考慮していない。
- (3) 福田K2式第2段階と福田K2式第3段階への対比については、97区谷地形における出土位置を加味しているものの、福田K2式第3段階として抽出される資料は乏しく、福田K2式第2段階、あるいは広瀬土壙40段階からの分離を積極的に支持するまでには及ばなかった。福田K2式第2段階と福田K2式第3段階を包摂した段階として権現山式3期を設定したのは、このような出土状況に配慮したためである。
- (4) 権現山遺跡においては、土坑への単独埋設(97区SK40・97区SK67)あるいは敷設(01区SK73)に、非精製土器に傾斜するⅡ群と粗製無文のX群が明瞭に相関する。つまりⅡ群と非精製土器との関連は、その使用形態においても反映されているものと理解されるであろう。
- (5) 中津式と称名寺式が立脚する構造上の相違を明示することは現実的に不可能であるし、接触地帯としての東海地方西部はその問題がさらに複雑化していることを十分に認識する必要がある。しかし、権現山遺跡には中津Ⅰ式に明確に対比される資料がほとんど存在しないこともあって、この議論をこの場において深化させることは難しい。ここでは、深く立ち入ることを避け、通有の理解を適することとする。
- (6) 三十稲葉式土器の編年については、三十稲葉式直前、三十稲葉式古段階、三十稲葉式新段階に区分する案(田中1989)、三十稲葉a式、三十稲葉b式(三十稲葉c式)に区分する案(安部1990)、後期前葉1期、後期前葉2期古段階、後期前葉2期新段階に区分する案(田中・渡邊1989)、城之腰Ⅵ1期・三十稲葉1式、城之腰Ⅵ2期・三十稲葉2式、城之腰Ⅵ3期・三十稲葉3式に区分する案(国島1991)が提出されている。これらの編年案は前三者が三十稲葉式を構成する各々の要素が一個体に表出しない段階を三十稲葉式から分離する一方、後者がこの先行する段階を含めて三十稲葉式土器として認定した点において異なる。このような三十稲葉式の成立に対する認識には相違があるものの、それぞれの編年における各段階が示す内容について大きな齟齬はない。

文献

- 安部芳郎 1990「北陸北半地域における後期前葉土器型式の再検討—三十稲葉式、南三十稲葉式の構成と変遷—」『信濃』第42巻第10号 信濃史学会
- 石井寛 1992「称名寺式土器の分類と変遷」『調査研究集録』第9冊 財団法人横浜市ふるさと歴史財団
- 石井寛 1993「堀之内1式土器群に関する問題」『牛ヶ谷遺跡・華蔵台南遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告XIV 財団法人横浜市ふるさと歴史財団
- 泉拓良・玉田芳英 1986「文様系統論—緑帯文土器—」『季刊考古学』第17号 雄山閣
- 今村啓爾 1997「称名寺式土器の研究（上）・（下）」『考古学雑誌』第63巻第1号・第2号
- 植田文雄 1990「今安楽寺遺跡縄文後期土器の検討」『能登川町埋蔵文化財調査報告書第17集 今安楽寺遺跡』能登川町教育委員会
- 柿沼修平・田川良 1986「文様系統論—称名寺式土器—」『季刊考古学』第17号 雄山閣
- 加納実 1994「縄文時代後期・関西系土器群の新例—市原市武士遺跡の成果から（Ⅱ）—」『研究連絡誌』第39号 財団法人千葉県文化財センター
- 加納実 2000「武士遺跡出土の関西系土器群の再評価」『貝塚博物館紀要』第27号 千葉市立加曽利貝塚博物館
- 国島聡 1991「城之腰遺跡の縄文時代中期末～後期前葉土器の編年」『関越自動車道関係発掘調査報告書 城之腰遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第29集 新潟県教育委員会
- 幸泉満夫 2001「西日本縄文後期土器組成論—瀬戸内地方における沈線文系土器に関する研究—」『考古学研究』第48巻第3号
- 小濱学 1997「結語」『新徳寺遺跡（付編）梅ノ世古遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財調査報告123-3 三重県埋蔵文化財センター
- 田中耕作 1989「三十稲葉式土器様式」『縄文土器大観 4 後期 晩期 続縄文』小学館
- 田中耕作・渡邊裕之 1999「後期」『新潟県の考古学』新潟県考古学会 高志書院
- 玉田芳英 1989「中津・福田KⅡ式土器様式」『縄文土器大観 4 後期 晩期 続縄文』小学館
- 千葉豊 1989「緑帯文系土器群の成立と展開—西日本縄文後期前半の地域相—」『史林』第72巻第6号 史学研究会
- 千葉豊 1992「西日本縄文後期土器の二三の問題」『古代吉備』第14集 古代吉備研究会
- 千葉豊 1995「福田KⅡ式再論—千葉県武士遺跡出土の「関西系土器」の評価—」『古代吉備』第17集 古代吉備研究会
- 富井眞 2000「西日本縄文後期初頭土器の再編—山陰地方からの問題提起—」『考古学研究』第47巻第1号

遺跡文献目録

- 赤野井湾遺跡 濱修ほか 1998『赤野井湾遺跡』琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書2 滋賀県教育委員会事務局文化財保護課・財団法人滋賀県文化財保護協会
- 朝日遺跡 中川真文ほか 1975『朝日遺跡群第一次調査報告』愛知県教育委員会／中川真文ほか 1982『朝日遺跡』愛知県教育委員会／石黒立人ほか 1994『朝日遺跡V（土器編・総論編）』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第34集 財団法人愛知県埋蔵文化財センター
- 伊勢寺遺跡 竹内英昭 1994「松阪市伊勢寺遺跡出土の縄文土器」『研究紀要』第3号 三重県埋蔵文化財センター
- 今安楽寺遺跡 植田文雄 1990『能登川町埋蔵文化財調査報告書第17集 今安楽寺遺跡』能登川町教育委員会
- 柿堂遺跡 植田文雄 1992「柿堂遺跡（第3次）」『能登川町埋蔵文化財調査報告書第23集 中沢遺跡（第8次）柿堂遺跡（第3次）』能登川町教育委員会
- 川地遺跡 原田幹編 1995『川地遺跡』愛知県埋蔵文化財調査報告書第62集 財団法人愛知県埋蔵文化財センター
- 旧紫川遺跡 伊藤正人・川合剛 1993『特別展 名古屋の縄文時代 資料集』名古屋市見晴台考古資料館
- 城之腰遺跡 藤巻正信編 1991『関越自動車道関係発掘調査報告書 城之腰遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第29集 新潟県教育委員会
- 新徳寺遺跡 小濱学編 1997『新徳寺遺跡（付編）梅ノ世古遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財調査報告123-3 三重県埋蔵文化財センター
- 高瀬B遺跡 小濱学ほか「高瀬B遺跡」『研究紀要』第11号 三重県埋蔵文化財センター
- 武士遺跡 加納実編 1998『市原市武士遺跡2 福増浄水場埋蔵文化財調査報告書第2冊』千葉県埋蔵文化財センター調査報告書第322集 千葉県水道局・財団法人千葉県埋蔵文化財センター
- 寺ノ下遺跡 鈴木茂夫・鈴木昭彦 1986『寺ノ下遺跡』足助町教育委員会／岩野見司 2002「寺ノ下遺跡」『愛知県史 資料編1 考古1 旧石器・縄文』愛知県
- 八王子貝塚 松井直樹 2000『八王子貝塚Ⅰ—縄文時代中期・後期前葉編—』西尾市教育委員会
- 林ノ峰貝塚 山下勝年編 1983『林ノ峰貝塚Ⅰ』南知多町文化財調査報告書第五集 南知多町教育委員会
- 水汲遺跡 大橋勤編 1982『水汲遺跡』藤岡町教育委員会

(5) 権現山遺跡の墳丘墓群が提起する問題

早野浩二

はじめに

権現山遺跡では弥生時代後期から古墳時代前期にかかる墳丘墓群をその関連遺構も含めて調査したことによって、それらについての重要な知見を数多くえた一方、多くの課題もまた顕わとした。ここでは、これらの課題について、調査者なりの整理を果たしておきたい。

1) 墳丘墓群と集落

器種組成

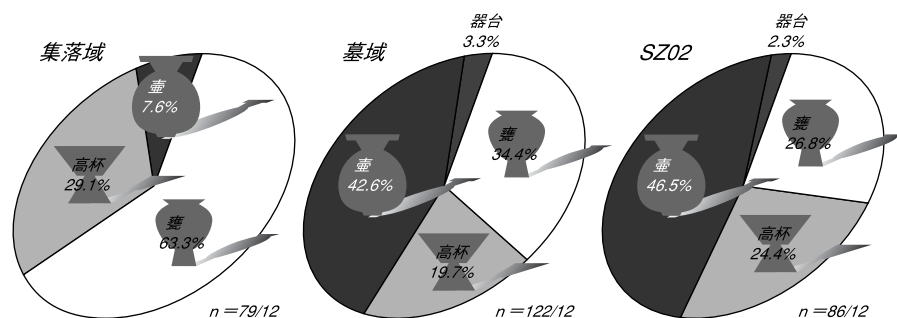
遺跡の景観 本報告では墳丘墓群の西に接して集落域が立地する景観を復原している。そこで、集落域と墓域の性差を反映させる目的で、第77図に出土土器の器種組成を相互に比較した。比較は、97区S B 01、97区S K 121、97区S D 49、97区S X 01・97区S X 02を集落に関係する遺構として出土土器の口縁部残存率の総和を求め、それを5基の墳丘墓の出土土器の口縁部残存率の総和と比較した。ただし、5基の墳丘墓の土器の出土状況は決して一様ではないので、土器群を良好に検出したS Z 02を代表させて、墳丘墓にともなう可能性がより高いA～F群からなる土器群の口縁部残存率の総和も同時に提示した。

土器の消費形態 この比較によれば、集落域と墳丘墓群では、甕と壺の組成が逆転することが明瞭に理解され、土器の消費形態には相互に傾向の相違が存在することが判明する。翻って、遺構配置から推した土地利用の相違を出土土器の組成によって証明する結果をえた。しかし、この比較は土器が保する時間情報をいっさい削除したうえでのものであるため、次に遺構の帰属する時期を明示しつつ、遺跡の変遷過程を整理しておく。

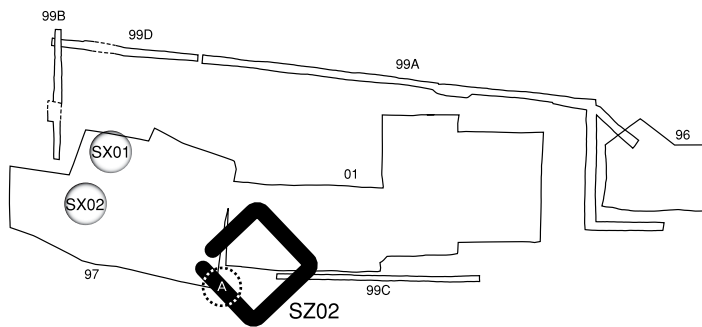
遺構変遷

本報告で述べた各遺構の編年的位置づけに則し、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての遺構変遷を示す。すでに本報告では、S Z 02がその築造時期を含めて少なくとも4段階の変遷過程を経ていることを確認した。遺跡の変遷の理解においても、S Z 02の変遷過程との対比を意識しつつ4期に区分した(第78図)。

1期 山中式に包摂される段階を1期とする。遺構は明確でないが、集落域では一定量の土器が

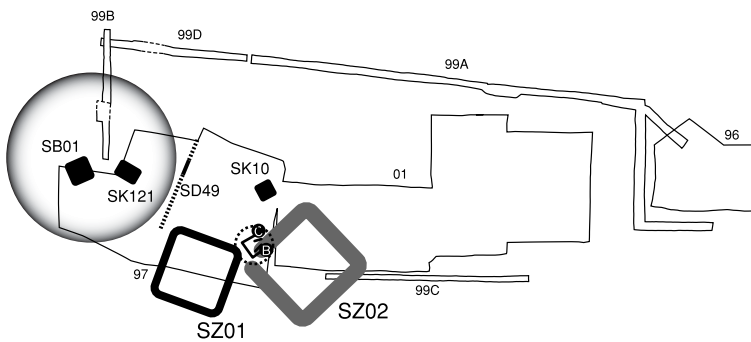


第77図 集落域と墓域における器種組成の比較



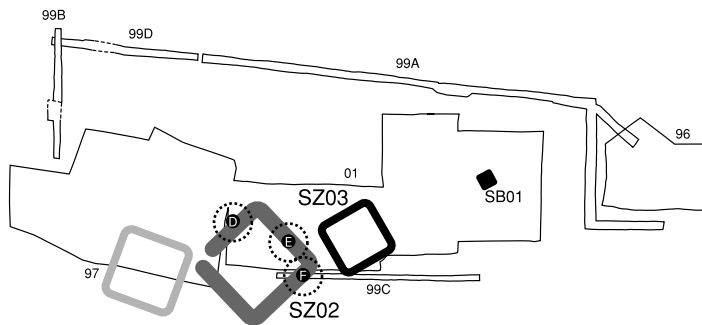
1期 (山中式)

- ・ 小規模な集落 ?
(97区 S X 01 ・ 97区 S X 02)
- ・ S Z 02の築造



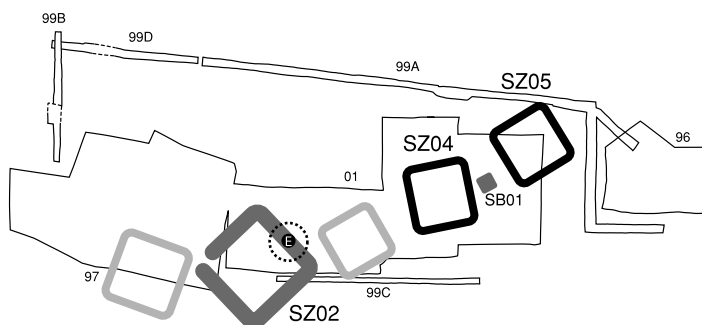
2期 (廻間Ⅰ式)

- ・ 集落の継続
(97区 S K 121 ・ 97区 S B 01)
- ・ 墓域の設定 (97区 S D 49)
- ・ S Z 02の改変 ?
- ・ S Z 02関連 (97区 S K 10)
- ・ S Z 01の築造



3期 (廻間Ⅱ式)

- ・ 集落の消滅
- ・ S Z 02の改修
- ・ S Z 03の築造
- ・ 墳丘墓関連 (01区 S B 01)

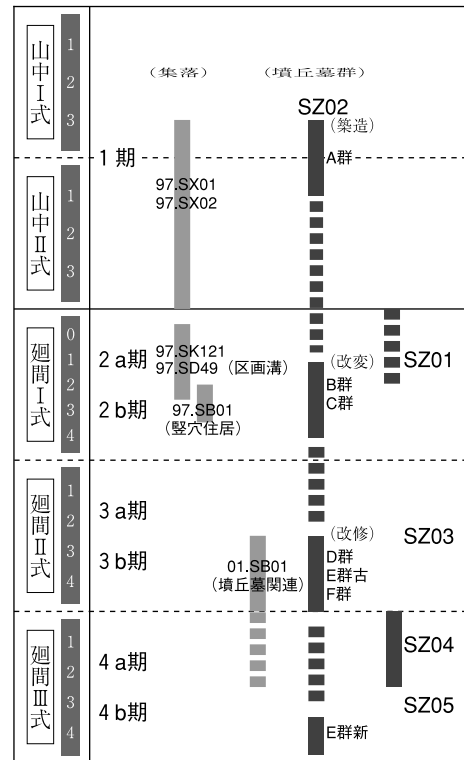


4期 (廻間Ⅲ式)

- ・ 墳丘墓関連 (01区 S B 01) ?
- ・ S Z 04、S Z 05の築造
- ・ 墳丘墓群の終焉

第78図 主要遺構の変遷 (1:2,000)

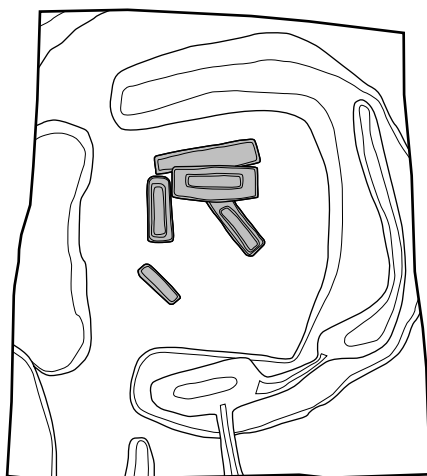
第 18 表 編年対照表



出土し (97 区 S X 01・97 区 S X 02)、低調な
 集落の存在 がらも集落が存在した可能性を示唆している。
 この段階に墳丘墓群中最大規模の S Z 02 の築
 造時期を求める所見はすでに提示した。この
 S Z 02 の築造 所見によるなら、S Z 02 の築造は集落の開始
 に呼応した営為であったことになる。また、
 集落域と S Z 02 の位置関係を示すと (第 78
 図)、微高地の最高所に集落が選地し、S Z 02
 がそのほど近くの空間を利用していることが
 理解される。

2 期 概ね廻間Ⅰ式に対応する段階を 2 期として、
 廻間Ⅰ式前半 (0～2 段階) を 2 a 期、廻間
 Ⅰ式後半 (3～4 段階) を 2 b 期に細分する。
 遺跡からはこの段階に帰属する土器が相対的
 に多く出土していて、遺跡の主体をなす時期
 として理解される。集落域では 2 a 期に 97 区
 S K 121 と 97 区 S D 49、2 b 期に 97 区 S B
 01 が設置されている。

S Z 01 の築造 S Z 01 は出土土器から 2 a 期の築造と推察する。このとき S Z 01 は、S Z 02 と集落域の
 間のやや狭いながらもなお微高地の高所を好んで選地したものと考えることが可能となる。
 この理解は 97 区 S D 49 の性格についても一つの示唆を与えよう。すなわち、S Z 01 が集落
 域に接する位置に配置されるに応じて、集落と墓域を明確に区画する必要が生じ、97 区 S D
 49 に区画溝としての役割が付託されたとも想像できる。S Z 02 においては開口部付近に遺
 構が設置され、築造後もなお、墳丘墓に対する祭祀行為が継続していたことを示している。
 97 区 S K 10 はこの段階に帰属し、その配置から、S Z 02 開口部付近の遺構と同様に S Z 02
 に付属する遺構と考えられる。



第 79 図 山中遺跡 S Z 13 (1 : 400)

さて、墓域における区画溝の存在はすでに廻間Ⅰ式後半に
 その築造が推定される尾西市西上免遺跡 S Z 01 (西上免古
 墳) などで確認されていて、その意義については赤塚次郎が
 すでに指摘している (赤塚 1997)。また、墳丘墓築造後の墳
 丘墓のいわゆる「改変」行為についても一宮市山中遺跡 S Z
 13 (第 79 図) でも注意されている (服部編 1992)。山中遺跡
 S Z 13 は山中Ⅱ式に築造され、廻間Ⅰ式後半に「改変」され
 たと推定されている。「(前方後方型墳丘墓への) 改変」とす
 る表現の適否はともかく、墳丘墓築造後に一定の時間が経過
 した段階で、墳丘墓に方形にめぐる小規模な溝が取りつく状
 況は、権現山遺跡 S Z 02 と山中遺跡 S Z 13 においてほぼ一

致する。想定される築造時期（山中式）と「改変」時期（廻間Ⅰ式後半）が相互に共通している点も見逃せない。

3・4期 廻間Ⅱ式に対応する段階を3期、廻間Ⅲ式に対応する段階を4期として、廻間Ⅱ式前半（1～2段階）を3 a期、廻間Ⅱ式後半（3～4段階）を3 b期、廻間Ⅲ式前半（1～2段階）を4 a期、廻間Ⅲ式後半（3～4段階）を4 b期に細分する。この段階から相対的に土器の出土が希薄となり、遺跡に何らかの変質があったことを推測させる。集落域においてもこの段階の遺構、遺物はほとんど認められない。

S Z 04では廻間Ⅲ式1～2段階の高杯（549）がともなうので、S Z 04は4 a期に築造されたと推定しうる。また、墳丘墓の配置から、S Z 02・S Z 01、S Z 03、S Z 04とする築造順序がもっとも自然と考えるなら、S Z 03の築造時期は3期に求められる。同様にして、S Z 05の築造時期は4期に求められようか。

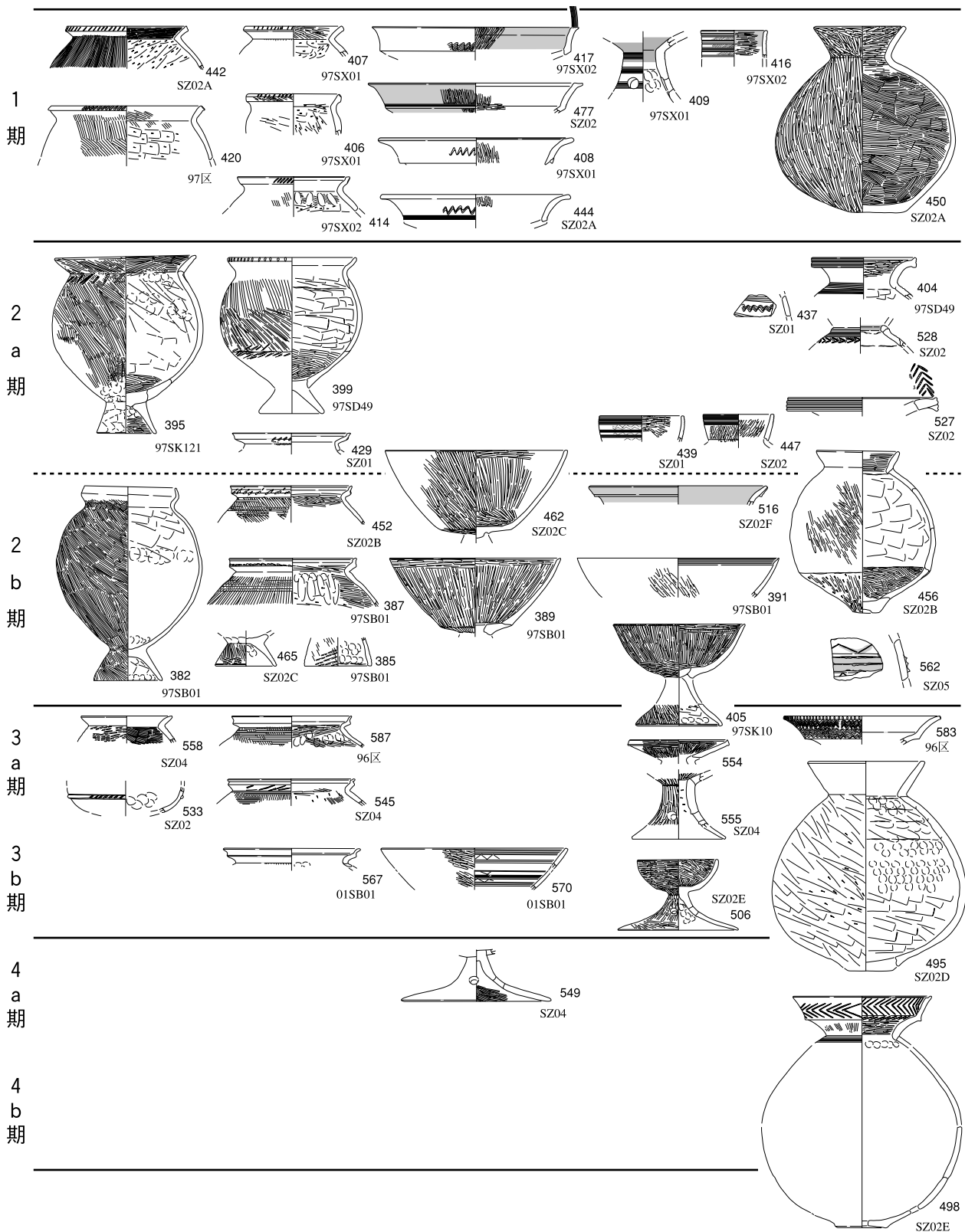
墳丘墓関連 このとき、S Z 04とS Z 05の間に配された01区S B 01が示唆するところは大きい。すでに本報告で01区S B 01は出土土器から3 b期に位置づけた。つまり01区S B 01は3、4期に墳丘墓が微高地東部に順次築造されたこととは決して無関係ではありえないものと考えられる。墳丘墓に付随する施設との想定をすでに本報告で述べたが、遺構そのものや遺物には異質な特徴を認めなかったことから、祭祀空間としての使用よりもむしろ、より実用的な使用に供されたことを想定すべきであろう。

墳丘墓の改修 墳丘墓が順次築造されることと併行してS Z 02では3・4期を通じてなお、墳丘墓の改修、祭祀行為が継続する。墳丘墓の改修は周溝の再掘削、開口部への溝の掘削など、墳丘墓の外観にも大きく関係するものであること、土器の供献が墳丘墓の周囲で実施された形跡があることから、墳丘墓に対する何らかの意識の変化が生じていた可能性も指摘できる。

小結

集落像 これまで集落域と墓域の対比を通じて、墳丘墓の築造とその後の追加的な営為は山中式から廻間式（1～4期）を通じて継続するものの、集落は1・2期に限定され、3・4期には継続しない、つまり、集落と墳丘墓群が時期的な対応を明確に示さないことを明らかとした。また、1・2期に集落が存在したといえどもそれらは明らかに低調で、S Z 02のような大型墳丘墓を築造せしめたとするに疑義なしとはいえない。S Z 02が集落の開始に呼応して築造されたとすれば、それはなおさらである。

S Z 02の意味 そこで注目すべきは、S Z 02が存在した意味である。S Z 02は規模、出土土器とも他の墳丘墓との隔絶は明らかで、築造の契機をはじめその消長が遺跡の消長とも調和することをすでに確かめた。その規模からは、追従的な埋葬が継続した可能性も考えられるものの、墓域における象徴的な存在としての役割が付託されていたことをむしろ積極的に評価しておきたい。この理解の妥当性を保障するには、なお具体的な論証が要求されようが、S Z 02が墳丘墓の築造原理、あるいはそれに反映された集団関係を推し量るうえでの興味深い事例であることは疑いない。



第80図 権現山遺跡における土器群の変遷

2) 権現山遺跡の位置

元屋敷遺跡との関係

元屋敷遺跡 遺跡の機能や景観の変化とその背景など、これまでに顕在した問題について何がしかの手がかりをえるために、周辺遺跡のありようについても述べておく必要がある。ここでは権現山遺跡に近接する一宮市元屋敷遺跡との関係について触れないわけにはいかないであろう。

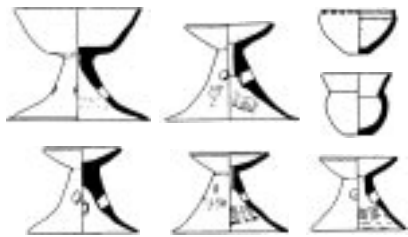
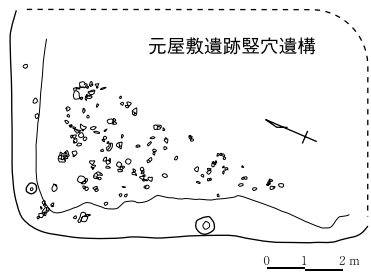
権現山遺跡の北西約0.5kmに隣接して元屋敷遺跡が存在する。遺跡は1961年、1995～1996年に調査され、古墳時代前期の溝と竪穴遺構の検出を報じている（澄田編1967、土本1997・1998）。1961年に出土した土器は「元屋敷式」として長らく当地域の標識的な土器様式として流布していることもよく知られている。近年の発掘調査の成果はまだ公とされていないので、現在までの知見のみについて簡単に整理しておく。

竪穴遺構 1961年の調査で検出された「竪穴遺構」は、1995～1996年の調査で完掘され、その規模は長軸約9.4m、短軸約6.0mであることが明らかとされた。この遺構は住居とするには明らかに大規模であるばかりか、1995～1996年の調査では、鹿と船を図案としたと思われる線刻絵画土器が出土したことからも、特別な施設として機能したことを推測させる（土本2002）。線刻絵画は壺に描かれていて、壺の型的な位置は廻間Ⅰ式4段階～廻間Ⅱ式1段階を前後する位置が与えられている。また、かつて赤塚次郎が竪穴遺構出土土器の一括性を否定し、廻間Ⅰ式4段階～廻間Ⅱ式1段階と廻間Ⅲ式1段階を主体としつつ、廻間Ⅰ式を包摂した土器群として把握したように（赤塚1992）、遺構が機能した時間がかかなりの長期に及ぶことが明らかである。なお、1995～1996年の発掘調査の所見もそれを実際に裏づけている。

権現山遺跡との関係 このとき、元屋敷遺跡の遺構、遺物を権現山遺跡に照らせば、両遺跡がほぼ時間的に重複することは容易に理解されるので、遺跡が相互においていかに関係づけられていたかを問う必要がある。一案としてまず想起されるのが、権現山遺跡を墓域として利用した集団の多数が元屋敷遺跡に居住していた可能性である。しかし、土器群を総体として相互に比較したとき、権現山遺跡の墳丘墓で使用された供献土器の加飾性が意外にも希薄であることに比して、元屋敷遺跡で出土する土器はより加飾される傾向が顕著で、器種もより豊富であるという印象を抱く。元屋敷遺跡における特殊な遺構や遺物の存在をも考慮するなら、元屋敷遺跡が権現山遺跡の墳丘墓群を築造した集団の単なる居住地であったと想定することはやや不自然のようにも思われる。むしろ墳丘墓での祭祀と異なった性格の祭祀を執行する空間が元屋敷遺跡に用意されていた可能性を示しておきたい。つまり、権現山遺跡の墳丘墓群、あるいは元屋敷遺跡の祭祀空間を維持した集団の主たる居住の場はさらに周辺の別の遺跡に求められ、それぞれの遺跡が一体として推移したことが推測される。

五条川中流域遺跡群

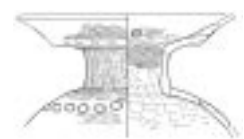
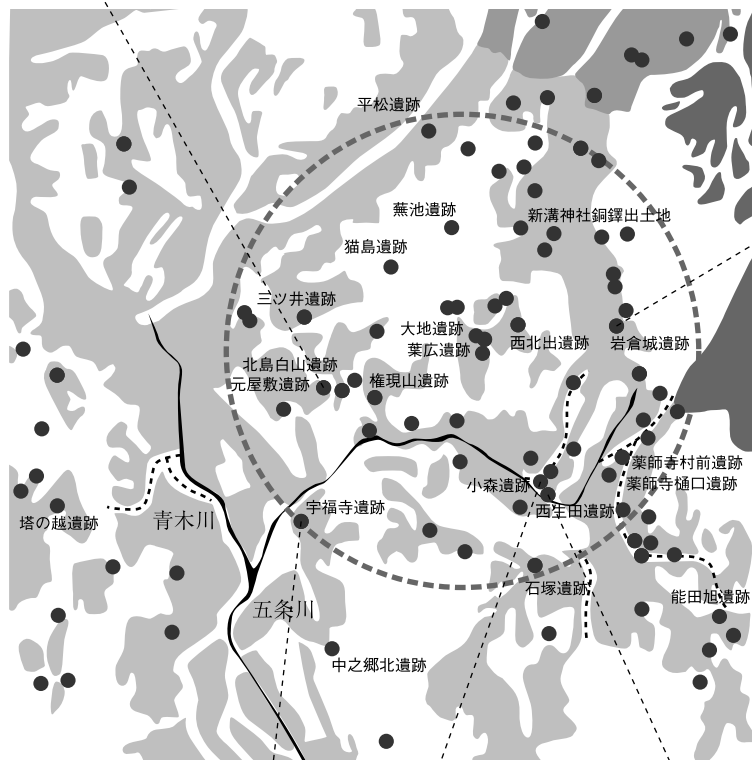
小森遺跡 権現山遺跡の近辺、すなわち五条川中流域に発達した木曾川系自然堤防帯には、元屋敷遺跡以外にも、同時期の遺跡が密集して分布する（第81・82図）。詳細が明らかにされた遺跡は少ないものの、権現山遺跡、元屋敷遺跡と同様に廻間式を通じて存続した遺跡として岩倉市小森遺跡（加納・浅野・北村1988）がある。小森遺跡では箱清水式土器、十王台式土器など東日本から搬入された土器が出土したことがよく知られている（笹澤1988、鈴木1988）。



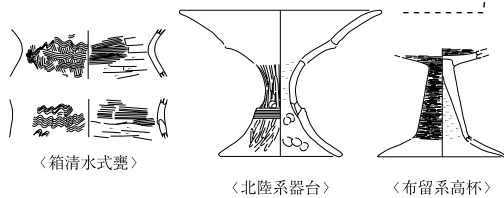
元屋敷遺跡出土土器



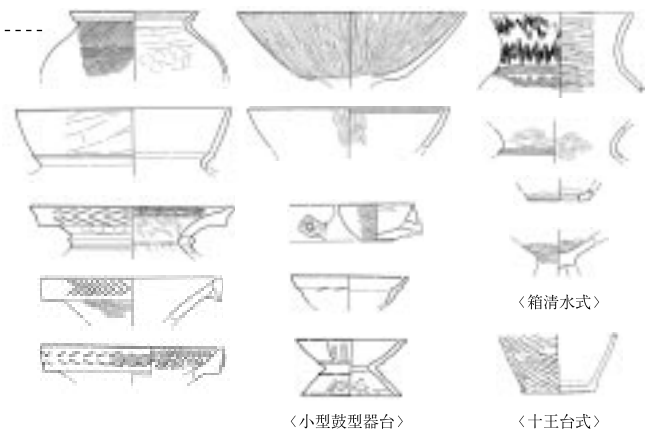
岩倉城遺跡 S X 1201 出土土器



西生田遺跡出土土器



宇福寺遺跡出土土器



小森遺跡出土土器

第 81 図 権現山遺跡周辺の遺跡分布

| | 山中式Ⅱ式 | 廻間Ⅰ式 | 廻間Ⅱ式 | 廻間Ⅲ式 | 松戸Ⅰ式 |
|--------|-------|------|------|------|------|
| 岩倉城遺跡 | ■ | | | | |
| 三ツ井遺跡 | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| 葉広遺跡 | ■ | | | ■ | ■ |
| 西北出遺跡 | | | ■ | ■ | ■ |
| 西生田遺跡 | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| 小森遺跡 | | ■ | ■ | ■ | ■ |
| 権現山遺跡 | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| 元屋敷遺跡 | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| 北島白山遺跡 | | | ■ | ■ | ■ |
| 宇福寺遺跡 | | ■ | ■ | ■ | ■ |

第 82 図 遺跡の消長

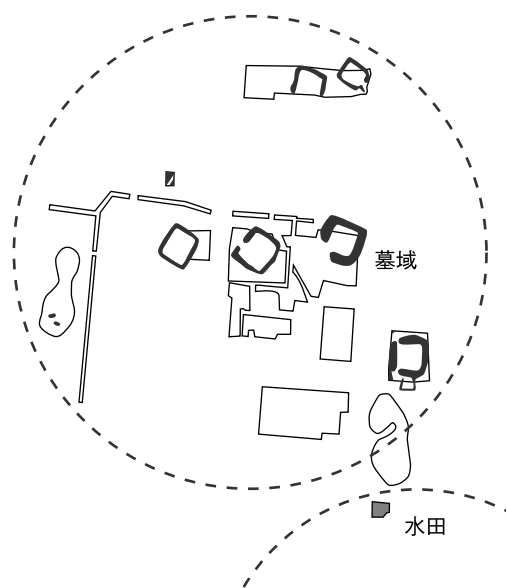
五条川中流域遺跡群 これらの遺跡のありようから、五条川中流域には消長を同じくする遺跡が面をなして分布し、それぞれに異なる特徴を有していたことが理解される。つまり、これらの遺跡は機能補完しつつ相互に関係づけられた地域社会を形成していたと理解することも可能であるように思われる。「五条川中流域遺跡群」と呼称したゆえんである（早野 2002）。

遺跡群への転換 また、遺跡群への傾斜を強めたのは、権現山遺跡において遺跡の機能にかかる大きな転換期として把握した 2 期から 3 期にかかる時期、廻間Ⅰ式後半から廻間Ⅱ式前半のころであったと解せよう。加えてこの時期は元屋敷遺跡の堅穴遺構の中心をなす時期で、絵画土器もこの時期に帰属すること、あるいは小森遺跡において箱清水式土器と十王台式土器が帰属する時期も廻間Ⅰ式後半から廻間Ⅱ式前半である可能性が指摘されている。

周辺環境 このような地域社会が安定的に維持されたことについては、権現山遺跡や元屋敷遺跡における調査の所見でも明らかなように、廻間式の段階には堆積の進行が緩慢であったこと、つまり周辺環境がきわめて安定していたことにも大きく関係しよう。これらの遺跡群が同時に終焉する廻間Ⅲ式後半以降、権現山遺跡において遺構の埋積が進行することからも、自然環境の変化が遺跡群に与えた影響は少なく

岩倉城遺跡 ないものと考えられる。なお、岩倉市岩倉城遺跡の河川に近い低湿な地点には、廻間Ⅲ式 4 段階の小型土器を主体とする土器群が単独に遺棄されていた（松原編 1992）。遺跡群の終焉を象徴した行為であったのであろうか。

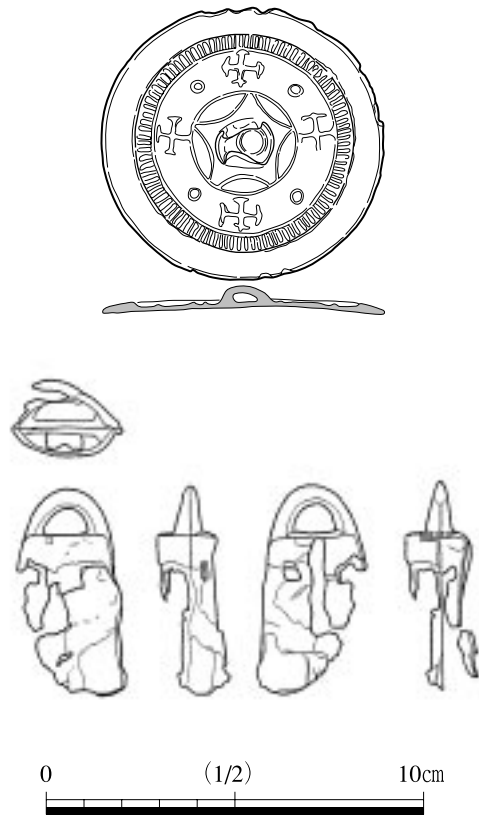
萩原遺跡群 ここに示した五条川中流域遺跡群としての理解は、一宮市八王子遺跡（樋上編 2002）や山中遺跡（服部編 1992、第 83 図）をはじめとする遺跡を包摂した「萩原遺跡群」、大口町仁所野遺跡（宮川 1983）や大口町余野遺跡（岩野・赤塚 1994）などによって構成される「余野遺跡群」（岩



第 83 図 山中遺跡主要遺構配置

野・赤塚1994)など、濃尾平野における他の類した遺跡を分析することを通じてよりの確に把握されるべきであろう。現状での理解によれば、「萩原遺跡群」においては、大型建物を中心とした祭祀空間としての八王子遺跡と墳丘墓のみで構成される山中遺跡、「余野遺跡群」においては、巫鏡(宮川1975、宮川ほか1982、寺澤1992)や小銅鐸(宮川ほか1982、加藤・宮腰2003)などを保持した余野遺跡(第84図)と墳丘墓群としての仁所野遺跡がそれぞれ、「五条川中流域遺跡群」における元屋敷遺跡と権現山遺跡との関係に擬せられる可能性がある。

権現山遺跡の墳丘墓群を整理することを通じて、結論めいたことは何一つ明示せず、幾つかの視点、あるいは可能性を述べるにとどまった。次の機会には「遺跡」、「遺跡群」に対して何らかの具体性を与える作業を提示したい。



第84図 余野遺跡出土の巫鏡と小銅鐸(1:2)

文献

- 赤塚次郎1992「廻間Ⅰ式甕書92」『庄内式土器研究Ⅰ 庄内式土器研究会
赤塚次郎1997「西上免古墳を巡る2つの問題」『西上免古墳』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
第73集 財団法人愛知県埋蔵文化財センター
岩野見司・赤塚次郎1994『日本の古代遺跡 48 愛知』保育社
加藤安信・宮腰健司2003『愛知県史 資料編2 考古2 弥生』愛知県
加納俊介・浅野清春・北村和宏1988「愛知県岩倉市小森遺跡出土の土器」『古代』第86号 早稲田大
学考古学会
笹澤浩1988「コメント2 箱清水式土器について」『古代』第86号 早稲田大学考古学会
鈴木正博1988「コメント1 十王台式土器について」『古代』第86号 早稲田大学考古学会
澄田正一編1967『新編一宮市史 資料編二』一宮市
土本典生1997「元屋敷遺跡」『愛知県埋蔵文化財情報』12 平成7年度 愛知県教育委員会・財団法人
愛知県埋蔵文化財センター
土本典生1998「元屋敷遺跡」『愛知県埋蔵文化財情報』13 平成8年度 愛知県教育委員会・財団法人
愛知県埋蔵文化財センター
土本典生2002「元屋敷遺跡出土の線刻土師器」『一宮市博物館だより』No.31 一宮市博物館
寺澤薫1992「巫の鏡—「卍」字小型仿製鏡の新例とその世界—」『考古学と生活文化』同志社大学考
古学シリーズV 同志社大学考古学シリーズ刊行会
服部信博編1992『山中遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第40集 財団法人愛知県埋蔵文
化財センター
早野浩二2002「愛知県岩倉市小森遺跡の再評価—他地域系土器からみた地域間交流の問題を中心に—」
『考古学フォーラム』15 考古学フォーラム
樋上昇編2002『八王子遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第92集 財団法人愛知県教育サー
ビスセンター愛知県埋蔵文化財センター
松原隆治編1992『岩倉城遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第38集 財団法人愛知県埋蔵
文化財センター
宮川芳照1975「愛知県丹羽郡大口町出土の銅鏡について」『古代学研究』75 古代学研究会
宮川芳照ほか1982『大口町史』大口町
宮川芳照1983『仁所野遺跡』大口町埋蔵文化財調査報告書第4集 大口町教育委員会

第4章 まとめ

権現山遺跡の発掘調査の成果とその意義を本報告のまとめとして書き連ねておく。

複合遺跡 施設建設にともなって新たに発見された権現山遺跡を発掘調査した結果、縄文時代中期末葉、縄文時代後期初頭～前葉、弥生時代後期～古墳時代前期、古墳時代後期、奈良時代～平安時代、鎌倉時代～室町時代、江戸時代の遺構と遺物が検出された。これによって遺跡が、断絶しつつも長期に継続する複合遺跡であることが明らかとなった。

縄文時代 縄文時代後期初頭～前葉の遺構群とそれにとまなう良好な遺物群を検出した。遺構群は堅穴住居を中心に構成される。堅穴住居はその可能性があるものも含めて12棟を検出した。97区S B 08では地床炉や貼床が確認されていて、居住環境を構成する重要な要素についても多くの知見をえた。また、石器製作に関連する遺構として01区S K 71を検出した。各種の石器類の存在をも考慮するなら、遺跡において一定程度体系的な生産活動が行われていた可能性を示すことになる。その他、土器埋設遺構、土器片敷遺構などが確認されたが、今後、他遺跡の事例との比較を通じてその性格を明らかにする必要がある。

これら発掘調査による成果は、尾張平野低地部における縄文時代集落のはじめての調査事例として特筆される。加えて集落周囲の小規模な谷地形や河川、大規模な埋積谷の存在を発掘調査によって明らかとした。これらは、集落景観の復原に貢献する重要な知見である。なお、遺跡の初現としての縄文時代中期末葉の遺構と遺物は、自然堤防状微高地の東端付近において確認された。ただし、集落の規模、縄文時代中期末葉から縄文時代後期初頭にかけての遺跡の姿態については明らかでない。

縄文～弥生時代 縄文時代晩期から弥生時代前期の遺物は散発的な出土が確認されるものの、明確な遺構は形成されず、原則的に遺跡は断絶する。これは、弥生時代前期に環濠集落が形成される元屋敷遺跡との関係を論じるうえで無視できない事実である。弥生時代中期も弥生時代前期からの連続で遺跡を語ることができる。このとき、弥生時代中期中葉の伝法寺野田遺跡の形成についても重要な問題を提起することになる。つまり、弥生時代には新たな生業体系の移入にともなってより可耕地への進出が志向されたのであろう。

弥生～古墳時代 弥生時代後期には集落が形成され、古墳時代へと継続する。ただし、集落形成としての活動は決して活発なものではありえず、遺構、遺物は微高地の西端付近（97区S B 01を中心とした範囲）に局所的に分布する。また、集落の形成と呼応して大型墳丘墓の築造が開始され、弥生時代後期から古墳時代前期を通じて墳丘墓が継続的に築造される。発掘調査においては5基の墳丘墓が東西に列状に配置されていることを明らかとした。このような墳丘墓の配置関係が、集団のいかなる結合原理の反映であるのか興味をもたれるところである。

なかでもS Z 02は墳丘規模が一辺19m前後で、弥生時代後期の墳丘墓としては、明らかに大型の部類に属する。S Z 02では周溝各所で土器群が検出された。それらの土器群の編

年的な位置づけから、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて、S Z 02の周囲で段階的に実施された祭祀行為の実体を明らかとした。竪穴住居として検出した01区S B 01は、これら墳丘墓群の築造にかかわる施設としての性格を与えた。一方で、古墳時代前期の集落に係る遺構は遺跡において未見で、墳丘墓の築造に関与した集団の居住地をいずれの遺跡に擬するかといった課題が残された。

古墳時代 古墳時代後期の円墳4基を発掘調査によってはじめて確認し、それぞれを権現山1～4号墳と呼称した。これらは群集墳を構成するものと考えて差し支えない。4基の円墳は、外表施設として埴輪を採用しないこと、埋葬施設や周溝から出土した土器から、6世紀後葉を前後する時期に築造されたものと推測される。1号墳では埋葬施設が残存し、川原石積みと礫床を特徴とする構造も判明した。この特徴は、木曾川流域の横穴式石室の特徴に通じるもので、尾張低地部における後期古墳の埋葬施設の内容を知る重要な知見となった。

古代 古代の遺構は、縦横に通じる溝を中心に構成される。遺跡から出土する遺物は8世紀末～9世紀初頭を前後するものがほとんどで、7世紀以降、長らく大規模な開発が及ばなかった遺跡も、一時的な開発ラッシュを経験したものと理解した。三ツ井遺跡など周辺の遺跡においても、縦横に通じる溝を中心として遺構群が構成されていることから、同時期、広域において同じ意識のもとに開発が進行したものと想像される。ただしそれは、前代の墳丘墓や古墳の破壊をとまなう大造成事業ではなかったことが溝の配置から明らかである。翻って、墳丘墓や古墳の残存が古代の開発を拒むほどのものであったのであろう。

中世 中世から戦国時代を通じて、遺跡における人びとの営為はきわめて低調である。遺跡では、12世紀後半を中心とした遺構、遺物が散在するものの、それらは日常の生活に関連するものとは到底思われない。本報告ではそれらを埋葬に関連する遺構と推測した。その適否はともかくとして、中世の段階に遺跡は集落の辺境、すなわち「(北島村と野寄村の)村境」の土地として認識されていたと考えられる。

近世 近世の屋敷地に関する遺構群と、それに付随する遺構群を検出した。屋敷地は地籍図の記載に一致し、史料の記述とも一致する可能性が大である。これらの成果は、近世における一般村落の景観を復原するうえでの貴重な材料となる。また、出土遺物から屋敷地は17世紀後葉から19世紀後葉にかけて存続したと推測された。史料に記述される不動産を含めた屋敷の規模と遺物組成との対比をすすめれば、一般村落における住人のさまざまな生活場面をより克明にえがくことも可能となる。さらには、近世社会の構造を重層的に把握する重要な手がかりを与えることにもなるであろう。

展望 時代を追って発掘調査の成果を通覧したとき、遺跡が恒常的に周囲の遺跡らと関係づけられていることがより深く認識された。元屋敷遺跡、三ツ井遺跡や猫島遺跡、権現山遺跡や伝法寺野田遺跡、宇福寺遺跡や中之郷北遺跡など、一宮市南東部域から岩倉市南西部域、西春町域にかけての地域で多くの成果が開発にともなって産まれている。それらは今後の整理、報告、公開を待つものも多い。本報告以後も、これらの重要な成果を結ぶことによって、地域社会の歴史像の構築、歴史的景観の復原に貢献する姿勢が求められる。

尾張低地部における縄文時代集落への接近

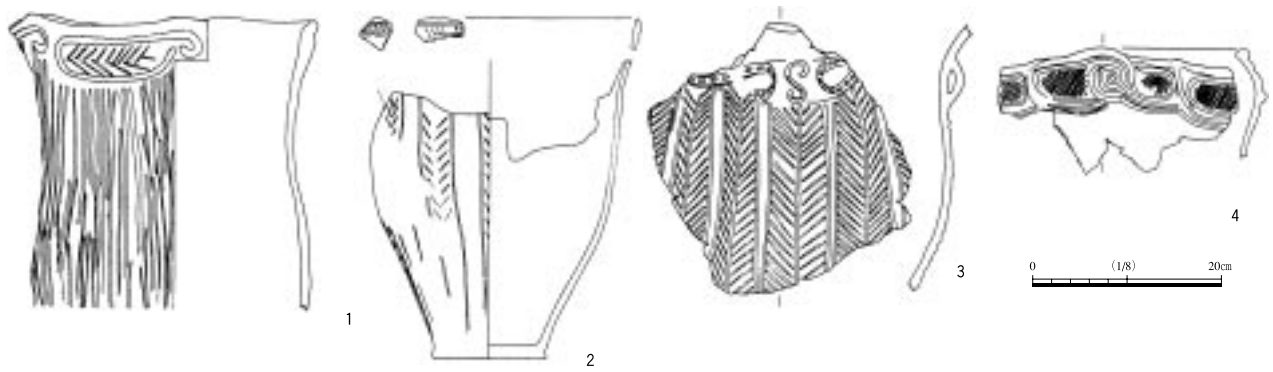
今回の権現山遺跡の発掘調査は、尾張低地部における縄文時代の集落遺跡を理解するうえでの重要な指針として位置づけられるであろう。そこで、今回の調査が今後に資すると思われる点について、現状での問題提起としてここにまとめておきたい。

集落の構成 発掘調査においては、集落が竪穴住居によって構成されることを明らかにした。ただし、集落の具体的な構成について問うことはきわめて難しい。それは、現代の攪乱も含めた各時代の遺構が縄文時代の多くの遺構を破壊し、縄文時代の遺跡の調査に対して不幸な一面を与えているからである。そこで、問題の設定を縄文時代集落に居住した集団の動態に移してみたい。発掘調査は、地床炉や貼床をともなった竪穴住居や石器製作関連遺構の存在を明らかとした。このことは、遺跡における確たる居住や生産活動を証明してはいるものの、それは長期に及ぶ定住性に裏づけられたものであったのであろうか。あるいは、短期的な居住や活動が累積した結果を示すにすぎないのであろうか。尾張低地部における縄文時代の集落形成を理解するうえで、この問題について考察する意味は決して小さくないと思われる。権現山遺跡は出土した縄文土器の型式から、縄文時代中期末葉の山の神式と、縄文時代後期初頭から前葉、中津Ⅱ式から広瀬土壙40段階（権現山式1～4期）にかけて存続したことをすでに明らかとした。ここで、周辺遺跡の動態にも目を転じておきたい。

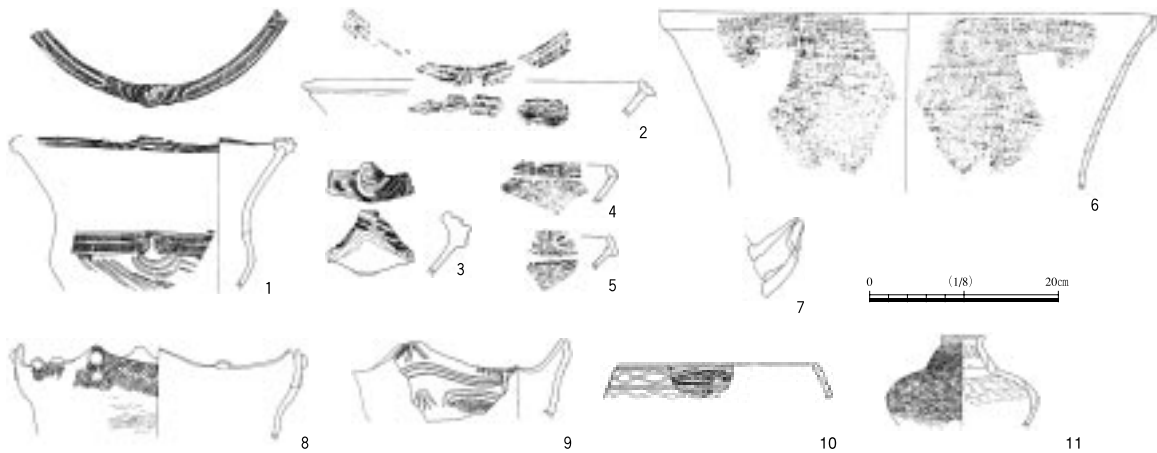
縄文時代中期 犬山扇状地末端に立地する一宮市佐野遺跡では、縄文時代前期・中期前半の土器が採集されているものの、尾張低地部において遺跡形成が可視的となるのは縄文時代中期末葉以降である。**堤下遺跡** この時期の遺跡としては、一宮市佐野遺跡、岩倉市野辺・ノンベ遺跡、権現山遺跡、師勝町堤下遺跡、清洲町朝日遺跡が列挙される。これらは佐野遺跡を除くと、きわめて断片的な資料によって構成され、集落の存在を実体視するまでに及ばないのが実際である。また、朝日遺跡を除いて中期末葉から後期初頭に連続する遺跡が認められないことも特徴である。権現山遺跡形成以前においては、小規模な遺跡が分散する状況にあって、安定的な集落形成は志向されていなかったのであろう。

縄文時代後期 縄文時代後期初頭の遺構と遺物については、権現山遺跡を除くと、朝日遺跡において断片的な資料が認められるにすぎない。権現山遺跡においても中津Ⅰ式（権現山先1期）に対比される段階の遺跡の実体は不明瞭で、中期末葉からの連続を想定することは困難な状況にある。その権現山遺跡は、縄文時代後期前葉の広瀬土壙40段階まで存続し、それ以降の消長を絶つ。これと交替するようにして一宮市三ツ井遺跡が形成される。三ツ井遺跡は縄文時代後期前葉（北白川上層式1期～北白川上層式2期）、縄文時代後期後葉から縄文時代晩期中葉（元住吉山Ⅱ式～稲荷山式）の遺物が出土していて、なかでも北白川上層式2期、稲荷山式の遺物の出土が相対的に多いと報告されている。

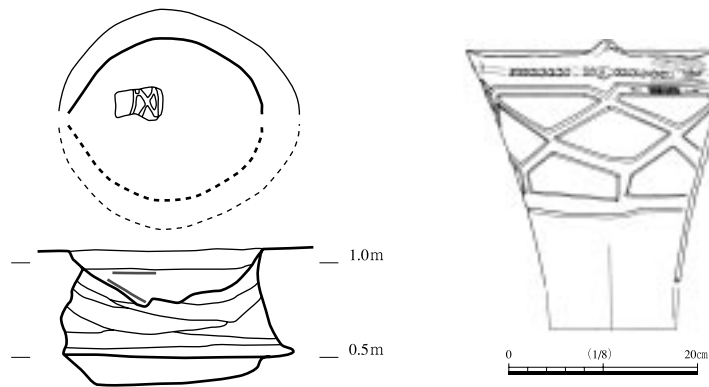
三ツ井遺跡における縄文時代後期中葉（加曾利B式・一乗寺K式）の空白期間に充てられる遺跡が岩倉市西北出遺跡である。また西北出遺跡に近い野辺・ノンベ遺跡においてもおよそ同時期の土器の出土が確認されている。なお、西北出遺跡ではアラカシとマテバシイの貯蔵穴が検出されていることが特筆される。このほか、稲沢市下津遺跡では縄文時代後期後葉～晩期前葉の遺物が出土することも付け加えておく。



第85図 堤下遺跡出土土器（1：8）



第86図 三ツ井遺跡出土土器（1：8）



第87図 朝日遺跡の貯蔵穴（1：40）と出土土器（1：8）

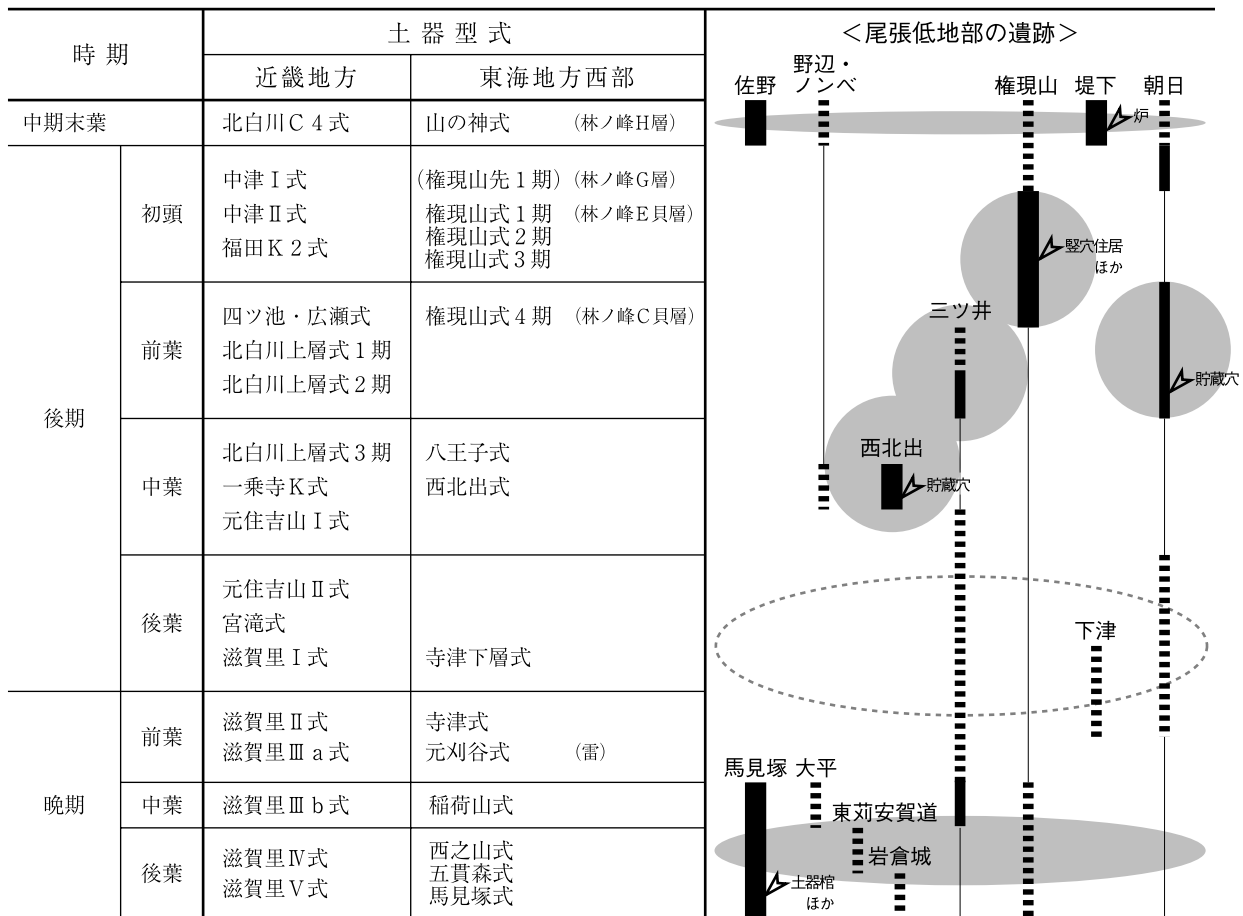
遺跡の消長 これらの遺跡の消長を相互に比較したとき、尾張低地部においては、縄文時代中期末葉から縄文時代晩期中葉まで、比較的短い周期で遺跡の地点移動が繰り返されたことが類推できる。同時に、その範囲は、朝日遺跡を除けば、直径5kmの圏内であることも単純には理解される。これに遺跡の立地を加味すると、尾張低地部における縄文時代後期の遺跡は、安定した自然堤防上に遺跡が立地する権現山遺跡や西北出遺跡と、その周囲の後背湿地上に遺跡が立地する三ツ井遺跡や下津遺跡に大きく類型化される。前者は遺構の存在から、定住をより顕著に志向したものと考えられる。また、遺跡の存続期間が比較的限定されることも特徴的

である。後者は、遺構が明確には検出されず、遺跡の存続も断続的、回帰的であることから、定住への志向は相対的に顕著でないものと考えられる。

堆積環境

このような遺跡の理解によれば、縄文時代における濃尾平野の遺跡形成は決して単線的、発展段階的ではなく、縄文時代後期初頭と後期中葉に安定した集落形成が志向された一方、縄文時代中期末葉、後期前葉、後期後葉～晩期中葉は安定した集落形成の形跡が積極的に認められないものと判断される。この背景には考察において鬼頭らが分析したとおり、堆積環境の変化、具体的には堆積速度の減少にともなう離水環境の出現も大きく関係していたのであろう。また鬼頭らは、三ツ井遺跡における堆積速度は権現山遺跡に比して、相当に高かったことも推測している。この推測は遺構の有無、つまり定住への志向の差異に端的に表現されている。縄文時代後期の再海進、縄文時代晩期から弥生時代前期の小海退にともなう堆積環境の変化についても、このような遺跡の動態を通じてより具体的な立証が可能となるであろう。

再び、権現山遺跡に視点を移してみると、遺跡において検出された97区S K 31、97区S B 08など竪穴住居をはじめとする遺構は、出土した土器から、権現山式2～3期、つまり福田K 2式を中心とする時期に営まれたとすでに報告した。その前後の権現山式1期、権現



(『三ツ井遺跡』第4表を補足改変)

第88図 尾張低地部における縄文時代遺跡の消長

山式4期については、遺構の存在を確実視するまでにいたっていない。そこで、権現山遺跡に居住した集団の実体について示唆をえる目的で、「権現山式土器」の動態にも着目しておきたい。

権現山式土器 「権現山式土器」については、権現山式1期においては東日本と西日本からの系譜を受けつつ、次第に西日本と同一の土器分布圏に傾斜し、権現山式2期には他地域からの系譜を摂取して、多系統の土器が生成されることをすでに論じた。また、権現山式2期に顕在化する土器の動態は、地域における自律的な意志が投影されていた可能性をも示唆した。さらに、**胎土分析と土器製作環境** 縄文土器の胎土分析を実施した結果、これら多系統の土器は類似した胎土の特徴が認められたことから、それにかかる土器製作環境は遺跡周辺において体系づけられていた可能性がある。ここで推測した土器製作環境は、遺跡の堆積環境から推した定住への志向とも無関係であったとは思われない。また、土器の型式学的分析、あるいは胎土分析は、それらの土器製作の担い手についても興味深い問題を提起している。今後の分析に大いに期待したい。このほか、遺跡から出土した石器、とりわけ石鏃については、総じて数量に乏しいことも、集落における生業・生産基盤を理解するうえで参考となる。

石器組成

以上、権現山遺跡を理解するうえでの幾つかの視点を羅列した。今回の調査、整理報告においては、縄文時代の集落像を結ぶには遠く及ばなかったが、明確な視角に則した分析を今後も重ね、より豊かな集落像に接近することを目標としたい。

遺跡文献目録

- 朝日遺跡** 柴垣勇夫ほか1972『貝殻山貝塚調査報告』愛知県教育委員会／中川真文ほか1975『朝日遺跡群第一次調査報告』愛知県教育委員会・中川真文ほか1982『朝日遺跡』愛知県教育委員会／渡辺誠1989『朝日遺跡縄文時代貯蔵穴出土の植物遺体』『年報』昭和63年度 財団法人愛知県埋蔵文化財センター／石黒立人編1991『朝日遺跡Ⅰ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第30集 財団法人愛知県埋蔵文化財センター／石黒立人ほか1994『朝日遺跡Ⅴ（土器編・総論編）』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第34集 財団法人愛知県埋蔵文化財センター／伊藤正人1995『朝日遺跡の縄文時代後期土坑について』『考古学フォーラム』7 考古学フォーラム／野口哲也ほか2000『朝日遺跡Ⅵ—新資料館地点の調査—』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第83集 財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター／渡邊誠2002『朝日遺跡』『愛知県史 資料編1 考古1 旧石器・縄文』愛知県
- 下津遺跡** 日野幸治1986『下津城跡発掘調査報告書（Ⅱ）』稲沢市文化財調査報告XXVI 稲沢市教育委員会／日野幸治編1988『下津城跡発掘調査報告書（Ⅳ）』稲沢市文化財調査報告XXXI 稲沢市教育委員会／岩野見司「下津遺跡」2002『愛知県史 資料編1 考古1 旧石器・縄文』愛知県
- 佐野遺跡** 澄田正一・大参義一・岩野見司1970『新編一宮市史 資料編一』一宮市／大参義一・岩野見司1974『新編一宮市史 資料編四』一宮市／岩野見司「佐野遺跡」2002『愛知県史 資料編1 考古1 旧石器・縄文』愛知県
- 堤下遺跡** 市橋芳則・鈴木こず恵1992『熊之庄堤下遺跡』師勝町埋蔵文化財報告書4 師勝町教育委員会／齊藤基生「堤下遺跡」2002『愛知県史 資料編1 考古1 旧石器・縄文』愛知県
- 西北出遺跡** 大参義一1978『東海地方西部における縄文時代後期前半期の土器について—法仙寺遺跡・西北出遺跡の土器を中心として—』『名古屋大学文学部研究論集』LXXIV（史学25）名古屋大学文学部／浅野清春1985『岩倉市史 上巻』岩倉市史編集委員会 岩倉市／岩野見司「西北出遺跡」2002『愛知県史 資料編1 考古1 旧石器・縄文』愛知県
- 野辺・ノンベ遺跡** 浅野清春1985『岩倉市史 上巻』岩倉市史編集委員会 岩倉市／岩野見司「野辺・ノンベ遺跡」2002『愛知県史 資料編1 考古1 旧石器・縄文』愛知県
- 三ツ井遺跡** 田中伸明編『三ツ井遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第87集 財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター／岩野見司「三ツ井遺跡」2002『愛知県史 資料編1 考古1 旧石器・縄文』愛知県

別表

遺構一覽表
遺物一覽表

遺構一覽表 1

| 調査区 | 遺構 | グリッド | 長軸(m) | 短軸(m) | 深さ(m) | 時期 | 備考 | 調査区 | 遺構 | グリッド | 長軸(m) | 短軸(m) | 深さ(m) | 時期 | 備考 | | | |
|-----|------|-------------|-------|-------|-------|-----|------------------------------|-----|------|-------------|-------|-------|-------|------|---------|------|------|--|
| 96 | SD01 | VG14f-15i | | 0.40 | | Ⅵ期 | | | SD77 | VF15f | | | | Ⅱ期 | | | | |
| 96 | SD02 | VG12j-15i | | 0.75 | 0.30 | Ⅵ期 | | | SD78 | VF14c-15b | | | 0.90 | Ⅲ期 | SD57,73 | | | |
| 96 | SD03 | VG12j-15j | | 0.75 | 0.10 | Ⅵ期 | | | SD79 | VF17g-18g | | | 0.24 | Ⅵ期 | | | | |
| 96 | SD04 | VG13k-15j | | 0.70 | 0.30 | Ⅵ期 | | | SD80 | VE13f | | | | Ⅰ期 | | | | |
| 96 | SD05 | VG12i-12j | | 0.85 | 0.20 | Ⅱ期? | 99A SD05 | | SD81 | VE14t-VF15a | | | 0.25 | Ⅱ期 | | | | |
| 96 | SD06 | VG13f-13j | | 0.60 | 0.20 | Ⅱ期? | SD07 | | SD82 | VF14b-15a | | | 0.12 | Ⅱ期 | | | | |
| 96 | SD07 | VG13k-13l | | 0.70 | 0.20 | Ⅱ期? | SD06 | | SD83 | VE14t-VF14a | | | 0.16 | Ⅱ期 | | | | |
| 96 | SD08 | VG14i-15j | | 0.40 | | Ⅲ期 | 99A SK04,05,SD07/ 01 SD08 | | SD84 | VE14t-VF14a | | | | 0.08 | Ⅱ期 | | | |
| | | | | | | | | | SD85 | VF11c-12d | | | | | Ⅲ期 | SD48 | | |
| | | | | | | | | | SD86 | VF13f | | | | | Ⅲ期 | SD76 | | |
| 96 | SD09 | VG12l-13l | | 0.35 | 0.07 | Ⅵ期 | | | SD87 | VF14e-15e | | | | | Ⅱ期 | | | |
| 96 | SD10 | VG14k-14l | 4.70 | 0.25 | 0.05 | Ⅵ期 | | | SD87 | VF14e-15e | | | | | Ⅱ期 | | | |
| 96 | SD11 | VG13k-15j | | 1.55 | 0.65 | Ⅵ期 | | | SK07 | VF13f | 1.40 | 1.00 | 0.34 | Ⅵ期 | | | | |
| 96 | SK01 | VG13k | 2.80 | 0.85 | 0.20 | Ⅵ期 | | | SK08 | VF17d | 残2.70 | | | 0.49 | Ⅵ期 | | | |
| 96 | SK02 | VG12l | 1.05 | 残1.00 | 0.30 | Ⅵ期 | | | SK09 | VF14c | 0.44 | 0.38 | | 0.19 | Ⅵ期 | | | |
| 96 | SK03 | VG14k | 1.30 | 1.10 | 0.25 | Ⅵ期 | | | SK10 | VF14h-14i | | 残4.50 | 0.20 | Ⅱ期 | | | | |
| 96 | SK04 | VG15k | 1.30 | 1.10 | 0.25 | Ⅵ期 | | | SK11 | VF13a-14a | 1.60 | 0.70 | | 0.32 | V期 | | | |
| 96 | SK05 | VG12l | 残1.45 | 1.65 | 0.45 | Ⅵ期 | | | SK12 | VF13a | 1.82 | 1.02 | 0.15 | V期 | | | | |
| 96 | SK06 | VG14i | 0.65 | 0.65 | 0.25 | Ⅵ期 | | | SK13 | VE15t | 0.76 | 0.46 | | 0.09 | Ⅵ期 | | | |
| 96 | SK07 | VG15i | | | 0.34 | Ⅵ期 | | | SK14 | VE16t | 0.80 | 0.46 | | 0.10 | Ⅵ期 | | | |
| 96 | SK08 | VG14i | 0.70 | 0.20 | 0.21 | Ⅵ期 | | | SK15 | VF15a | 0.94 | 0.34 | | 0.16 | Ⅵ期 | | | |
| 96 | SK09 | VG12k | 0.50 | 残0.40 | 0.18 | Ⅵ期 | | | SK16 | VE14t | | | | 0.34 | Ⅵ期 | | | |
| 96 | SK10 | VG15k | | | 0.19 | Ⅵ期 | | | SK17 | VF15d | 2.08 | 1.10 | 0.21 | V期 | | | | |
| 96 | SK11 | VG14k | 1.15 | 残0.80 | 0.25 | Ⅵ期 | | | SK18 | VF15d | 1.44 | 1.10 | 0.24 | V期 | | | | |
| 96 | P01 | VG14k | 0.30 | 0.20 | 0.10 | Ⅱ期? | | | SK19 | VF17h | 1.44 | 1.32 | | | Ⅵ期 | | | |
| 96 | P02 | VG14l | 0.40 | 0.40 | 0.10 | Ⅱ期? | | | SK20 | | | | | | | 欠番 | | |
| 96 | P03 | VG15k | 0.32 | 0.28 | 0.10 | Ⅱ期? | | | SK21 | VF16e | 1.00 | 0.94 | 0.15 | Ⅵ期 | | | | |
| 96 | P04 | VG15l | 0.30 | 0.30 | 0.15 | Ⅱ期? | | | SK22 | VF17h | | | | 1.04 | Ⅵ期 | | | |
| 96 | P05 | VG12j | 0.30 | 0.30 | 0.20 | Ⅱ期? | | | SK23 | VF17c | | 0.78 | 0.52 | 0.08 | Ⅱ期 | | | |
| 97 | SB01 | VE13r-14s | | | | Ⅱ期 | | | SK24 | VF12b | 残1.06 | 0.70 | | 0.56 | V期 | | | |
| 97 | SB02 | VF11a-11b | | | 0.62 | Ⅳ期 | 竈 | | SK25 | VF14i | | | | 0.40 | Ⅱ期 | | | |
| 97 | SB03 | VF13h-14i | 3.70 | 残3.20 | | Ⅰ期 | | | SK26 | VF14g | 残0.86 | 0.86 | | | Ⅱ期 | | | |
| 97 | SB04 | VF14g-14h | 残4.85 | 残3.50 | | Ⅰ期 | | | SK27 | VF14f-14g | 残0.58 | 0.45 | | | Ⅱ期 | | | |
| 97 | SB05 | VF14h-14i | | | | Ⅰ期 | | | SK28 | VF16g | 1.08 | 0.80 | 0.17 | Ⅱ期 | | | | |
| 97 | SB06 | VF16e-17f | | | 0.13 | Ⅰ期 | | | SK29 | VF11a | 0.42 | 0.38 | 0.40 | Ⅳ期 | | | | |
| 97 | SB07 | VF16g-16h | 4.55 | 残2.00 | 0.24 | Ⅰ期 | 焼土 | | SK30 | VF11b | 残0.90 | 0.76 | | 0.44 | Ⅱ期 | | | |
| 97 | SB08 | VF15e-16f | 残4.60 | 残3.95 | 0.25 | Ⅰ期 | 地床炉,焼土 | | SK31 | VF15f | 残3.11 | | | 0.34 | Ⅰ期 | | | |
| 97 | SB09 | VF16g-16h | | 残3.80 | 0.12 | Ⅰ期 | | | SK32 | VF15e | 残0.80 | 0.76 | 0.11 | Ⅰ期 | | 炭化物少 | | |
| 97 | SB10 | VF13f-14g | | | | Ⅰ期 | | | SK33 | VF14d-14e | 1.06 | 残0.40 | 0.19 | Ⅰ期 | | 炭化物少 | | |
| 97 | SD12 | VF11e | | 0.55 | 0.28 | Ⅵ期 | | | SK34 | VF15d-15e | 1.10 | 1.08 | 0.23 | Ⅰ期 | | | | |
| 97 | SD13 | VF13b-15b | | | 0.41 | Ⅲ期 | SD20,31/99B SD09 | | SK35 | VF15f | 1.20 | 残0.86 | 0.18 | Ⅰ期 | | | | |
| 97 | SD14 | VF15a-VE16c | | | 0.16 | Ⅵ期 | SD23,27,28 | | SK36 | VF16f | 1.14 | 1.02 | 0.14 | Ⅰ期 | | | | |
| 97 | SD15 | VF15c-16c | | 0.60 | 0.30 | Ⅵ期 | SD71 | | SK37 | VF17g | 0.90 | 0.68 | | Ⅰ期 | | | | |
| 97 | SD16 | VF11d-13c | | 0.90 | 0.32 | Ⅳ期 | SD30,34 | | SK38 | VF16h | 0.94 | 0.65 | | Ⅰ期 | | 炭化物少 | | |
| 97 | SD17 | VF13e-13f | | 0.90 | 0.64 | Ⅵ期 | | | SK39 | VF15e | 残0.70 | 残0.62 | 0.10 | Ⅰ期 | | 炭化物少 | | |
| 97 | SD18 | VF12e-13h | 15.0 | 0.50 | 0.42 | Ⅵ期 | SD41/01 SD45 | | SK40 | VF17g | 1.30 | 0.76 | 0.16 | Ⅰ期 | | | | |
| 97 | SD19 | VF12g-14h | | | 0.47 | Ⅵ期 | SD36 | | SK41 | VF16g | 0.76 | 0.48 | 0.22 | Ⅰ期 | | 炭化物多 | | |
| 97 | SD20 | VF12b | | | 0.07 | Ⅲ期 | SD13,31/99B SD09 | | SK42 | VF16g | 0.30 | 0.24 | 0.14 | Ⅰ期 | | 炭化物少 | | |
| 97 | SD21 | VE14r-VF17d | | | | Ⅱ期? | | | SK43 | VF16h | | | | 0.06 | Ⅰ期 | | 炭化物少 | |
| 97 | SD22 | VE13t-14t | | 0.50 | 0.21 | Ⅵ期 | SD25 | | SK44 | VF16h | 0.20 | 0.20 | 0.08 | Ⅰ期 | | 炭化物少 | | |
| 97 | SD23 | VE13t-14t | | 0.80 | 0.44 | Ⅵ期 | SD14,27,28 | | SK45 | VF16h | 0.26 | 0.26 | 0.18 | Ⅰ期 | | 炭化物少 | | |
| 97 | SD24 | VF13a-14a | | | 0.16 | Ⅱ期 | | | SK46 | VF16h | 0.30 | 0.28 | 0.10 | Ⅰ期 | | 炭化物少 | | |
| 97 | SD25 | VE15s-16t | | | 0.29 | Ⅵ期 | SD22 | | SK47 | VF16g | 0.40 | 0.24 | 0.07 | Ⅰ期 | | 炭化物少 | | |
| 97 | SD26 | VE15t-VF16b | 7.70 | 0.45 | 0.10 | Ⅵ期 | | | SK48 | VF16g | 0.36 | 0.26 | 0.21 | Ⅰ期 | | 炭化物少 | | |
| 97 | SD27 | VE15t-VF17d | | | 0.88 | Ⅵ期 | SD14,23,28 | | SK49 | VF16g | 0.26 | 0.24 | 0.13 | Ⅰ期 | | 炭化物少 | | |
| 97 | SD28 | VF13a-VE14t | | | 0.45 | Ⅵ期 | SD14,23,27 | | SK50 | VF16g | 0.46 | 0.44 | 0.13 | Ⅰ期 | | 炭化物少 | | |
| 97 | SD29 | VE15s-16t | | | | Ⅱ期? | | | SK51 | VF16g | 0.30 | 0.25 | 0.07 | Ⅰ期 | | 炭化物少 | | |
| 97 | SD30 | VF14c-15a | | 1.50 | 0.55 | Ⅳ期 | SD16,34 | | SK52 | VF16g-16h | 0.30 | 0.28 | 0.07 | Ⅰ期 | | 炭化物少 | | |
| 97 | SD31 | VE13s-14s | | 1.25 | 0.32 | Ⅲ期 | SD13,20/99B SD09 | | SK53 | VF16g | 0.35 | 0.24 | 0.15 | Ⅰ期 | | 炭化物少 | | |
| 97 | SD32 | VF16e-16d | 3.20 | 0.40 | 0.16 | Ⅵ期 | | | SK54 | VF16g | 0.38 | 0.28 | 0.07 | Ⅰ期 | | 炭化物少 | | |
| 97 | SD33 | VF15e-16f | | | 0.69 | Ⅵ期 | SD43 | | SK55 | VF17g | 0.26 | 0.22 | 0.04 | Ⅰ期 | | 炭化物少 | | |
| 97 | SD34 | VF16a | | 1.10 | 0.32 | Ⅳ期 | SD16,30 | | SK56 | VF16g | 0.28 | 0.22 | 0.27 | Ⅰ期 | | 炭化物少 | | |
| 97 | SD35 | VE14s-13t | | | 0.07 | Ⅲ期? | | | SK57 | VF17g | 0.20 | 0.12 | 0.11 | Ⅰ期 | | 炭化物少 | | |
| 97 | SD36 | VF15g-17f | | | 0.34 | Ⅵ期 | SD19 | | SK58 | VF16g | 0.30 | 0.28 | 0.11 | Ⅰ期 | | 炭化物少 | | |
| 97 | SD37 | VF16i-17c | | | 0.80 | Ⅳ期 | 01 SD50,SK41 | | SK59 | VF16g | 0.30 | 0.20 | 0.07 | Ⅰ期 | | 炭化物少 | | |
| 97 | SD38 | VF11b-12e | | | 0.71 | Ⅵ期 | | | SK60 | VF16g | 0.18 | 0.14 | 0.09 | Ⅰ期 | | 炭化物少 | | |
| 97 | SD39 | VF12c-12d | | 0.40 | 0.17 | Ⅵ期 | | | SK61 | VF16g | 0.30 | 0.30 | 0.18 | Ⅰ期 | | 炭化物少 | | |
| 97 | SD40 | VF12e-13d | 4.00 | 1.40 | 0.10 | Ⅵ期 | | | SK62 | VF16g | 0.32 | 0.30 | 0.17 | Ⅰ期 | | 炭化物少 | | |
| 97 | SD41 | VF11d-12f | | | 0.56 | Ⅵ期 | SD18/01 SD45 | | SK63 | VF16g | 0.30 | 0.18 | 0.09 | Ⅰ期 | | 炭化物少 | | |
| 97 | SD42 | VF12f-14f | | 0.80 | 0.19 | Ⅵ期 | | | SK64 | VF16g | 0.22 | 0.13 | 0.11 | Ⅰ期 | | 炭化物少 | | |
| 97 | SD43 | VF12f-13e | | | 0.45 | Ⅵ期 | SD33 | | SK65 | VF15e | 残0.68 | 0.50 | 0.09 | Ⅰ期 | | 炭化物多 | | |
| 97 | SD44 | VF11c | | | | Ⅵ期 | | | SK66 | VF17f | 0.34 | 0.30 | 0.09 | Ⅰ期 | | 炭化物多 | | |
| 97 | SD45 | VF11d | | 0.40 | 0.30 | Ⅵ期 | | | SK67 | VF17f | 0.77 | 0.72 | 0.50 | Ⅰ期 | | | | |
| 97 | SD46 | VF13h-13i | | | 0.15 | Ⅳ期 | SD47,50 | | SK68 | VF17f | 残1.30 | 0.62 | 0.07 | Ⅰ期 | | | | |
| 97 | SD47 | VF13f-13g | | | 0.18 | Ⅳ期 | SD46,50 | | SK69 | VF16f | | | | 0.04 | Ⅰ期 | | | |
| 97 | SD48 | VF12e-12f | | | 0.19 | Ⅲ期 | SD85 | | SK70 | VF16f | 0.36 | 0.24 | 0.17 | Ⅰ期 | | 炭化物多 | | |
| 97 | SD49 | VF12d-13d | | | 0.29 | Ⅱ期 | | | SK71 | VF16f | 0.40 | 0.38 | 0.10 | Ⅰ期 | | 炭化物少 | | |
| 97 | SD50 | VF11a-12e | | 0.90 | 0.46 | Ⅳ期 | SD46,47 | | SK72 | VF16f | 0.30 | 0.22 | 0.09 | Ⅰ期 | | 炭化物少 | | |
| 97 | SD51 | VF12b | | 0.90 | 0.12 | Ⅱ期 | | | SK73 | VF16f | 0.26 | 0.22 | 0.07 | Ⅰ期 | | 炭化物少 | | |
| 97 | SD52 | VF12c | | 1.05 | | Ⅵ期 | | | SK74 | VF15e-16e | 0.36 | 0.32 | 0.05 | Ⅰ期 | | 炭化物少 | | |
| 97 | SD53 | VF12e-13e | | | 0.31 | Ⅱ期 | | | SK75 | VF15e | 0.25 | 0.22 | 0.08 | Ⅰ期 | | 炭化物多 | | |
| 97 | SD54 | VF12e-13e | | | | Ⅱ期 | | | SK76 | VF15f | 0.20 | 0.18 | | Ⅰ期 | | 炭化物多 | | |
| 97 | SD55 | VF13h-14g | | | 0.07 | Ⅳ期 | | | SK77 | VF15f | 0.33 | 0.32 | 0.02 | Ⅰ期 | | 炭化物多 | | |
| 97 | SD56 | VF13d | | | 0.14 | Ⅱ期 | | | SK78 | VF15f | 残0.24 | 0.24 | 0.04 | Ⅰ期 | | 炭化物少 | | |
| 97 | SD57 | VF16c-15d | | | 0.06 | Ⅲ期 | SD73,78 | | SK79 | VF15f | 0.24 | 0.22 | 0.09 | Ⅰ期 | | 炭化物多 | | |
| 97 | SD58 | VF14d-15d | | 0.60 | | Ⅱ期 | | | SK80 | VF15f | 0.20 | 0.20 | 0.08 | Ⅰ期 | | 炭化物多 | | |
| 97 | SD59 | VF15e-15f | | | 0.18 | Ⅱ期 | | | SK81 | VF15f | 0.30 | 0.30 | 0.07 | Ⅰ期 | | 炭化物少 | | |
| 97 | SD60 | VF15e-16d | | | 0.13 | Ⅲ期? | | | SK82 | VF15f | 0.18 | 0.16 | 0.04 | Ⅰ期 | | 炭化物多 | | |
| 97 | SD61 | VF17h-18h | | 0.90 | 0.22 | Ⅱ期 | SZ02関連 | | SK83 | VF15f | 0.22 | 残0.18 | 0.05 | Ⅰ期 | | 炭化物少 | | |
| 97 | SD62 | VF17h-18h | | | 0.66 | Ⅱ期 | SZ02関連 | | SK84 | VF15e | 0.12 | 残0.14 | 0.11 | Ⅰ期 | | 炭化物多 | | |
| 97 | SD63 | VF16h-17h | | | 0.54 | Ⅱ期 | SZ02関連 | | SK85 | VF15e-15f | 残0.22 | 残0.12 | 0.04 | Ⅰ期 | | 炭化物多 | | |
| 97 | SD64 | VF | | | | | | | | | | | | | | | | |

遺構一覽表 2

| 調査区 | 遺構 | グリッド | 長軸(m) | 短軸(m) | 深さ(m) | 時期 | 備考 | 調査区 | 遺構 | グリッド | 長軸(m) | 短軸(m) | 深さ(m) | 時期 | 備考 |
|-----|-------|-------------|-------|-------|-------|------|--------|--------------------------------|-----|------|-----------|-------|-------|------|-------|
| 97 | SK99 | VF14h | 0.36 | 0.32 | | 0.15 | I 期 | | 99B | P14 | VE10t | 0.25 | 0.20 | 0.11 | VI 期? |
| 97 | SK100 | VF14h | 0.40 | 0.38 | | | I 期 | | 99B | P15 | VE10t | 0.28 | 0.28 | 0.03 | VI 期? |
| 97 | SK101 | VF14g | 0.32 | 0.26 | | 0.14 | I 期 | 炭化物少 | 99B | P16 | VE10t | 0.26 | 0.26 | 0.03 | VI 期? |
| 97 | SK102 | VF15e-16e | | 残0.70 | | 0.11 | I 期 | 炭化物少 | 99B | P17 | VE10t | 0.16 | 0.14 | 0.05 | VI 期? |
| 97 | SK103 | VF14f | 0.34 | 0.30 | | 0.07 | I 期 | 炭化物少 | 99B | P18 | VE10t | 0.40 | 0.39 | 0.41 | VI 期? |
| 97 | SK104 | VF14f | 残0.24 | 0.24 | | 0.09 | I 期 | 炭化物少 | 99B | P19 | VE9t | 0.42 | 残0.28 | 0.42 | VI 期? |
| 97 | SK105 | VF13f-14f | 0.34 | 0.32 | | 0.10 | I 期 | 炭化物少 | 99B | P20 | VE9t | | | 0.07 | VI 期? |
| 97 | SK106 | VF16f | 0.66 | 0.30 | | | II 期 | | 99B | P21 | VE9t | | | 0.04 | VI 期? |
| 97 | SK107 | VF15g | 0.24 | 0.24 | | 0.06 | I 期 | 炭化物少 | 99B | P22 | VE9t | 0.30 | 0.28 | 0.06 | VI 期? |
| 97 | SK108 | VF16g | 0.28 | 0.28 | | 0.06 | I 期 | 炭化物少 | 99B | P23 | VE9t | 0.20 | 0.16 | 0.05 | VI 期? |
| 97 | SK109 | VF16g | 残0.24 | 残0.12 | | 0.10 | I 期 | 炭化物少 | 99B | P24 | VE9t | 0.34 | 残0.20 | 0.04 | VI 期? |
| 97 | SK110 | VF15f | 0.14 | 0.14 | | 0.08 | I 期 | 炭化物少 | 99B | P25 | VE8t | 残0.54 | 0.30 | 0.12 | VI 期? |
| 97 | SK111 | VF15f | 0.20 | 0.18 | | 0.09 | I 期 | 炭化物少 | 99B | P26 | VE9t | | | 0.07 | VI 期? |
| 97 | SK112 | VF15f | 0.28 | 0.18 | | 0.13 | I 期 | 炭化物少 | 99B | P27 | VE8t | 残0.40 | 0.27 | 0.06 | VI 期? |
| 97 | SK113 | VF15f | 0.14 | 0.14 | | 0.04 | I 期 | 炭化物少 | 99B | P28 | VE8t | | | | VI 期? |
| 97 | SK114 | VF16f | 0.50 | 0.40 | | 0.14 | I 期 | 炭化物少 | 99B | P29 | VE8t | | | | VI 期? |
| 97 | SK115 | VF16f | 0.22 | 0.22 | | 0.07 | I 期 | 炭化物少 | 99B | P30 | VE8t | 残0.70 | 0.43 | 0.20 | VI 期? |
| 97 | SK116 | VF15f | 0.20 | 0.18 | | 0.11 | I 期 | 炭化物少 | 99B | P31 | VE8t | 残0.55 | 0.48 | 0.05 | VI 期? |
| 97 | SK117 | VF15f | 0.28 | 0.15 | | 0.15 | I 期 | 炭化物少 | 99B | P32 | VE8t | 0.23 | 0.14 | 0.17 | VI 期? |
| 97 | SK118 | VF15f | 0.20 | 0.18 | | 0.05 | I 期 | 炭化物少 | 99B | P33 | VE8t | 0.32 | 0.30 | 0.06 | VI 期? |
| 97 | SK119 | VF15e | 0.18 | 0.15 | | 0.18 | I 期 | | 99B | P34 | VE8t | 0.48 | 0.30 | 0.07 | VI 期? |
| 97 | SK120 | VF15e | 0.44 | 0.40 | | 0.10 | I 期 | | 99B | P35 | VE8t | 0.40 | 残0.36 | 0.03 | VI 期? |
| 97 | SK121 | VF13a | | | | 0.28 | II 期 | | 99B | P36 | VE8t | 0.24 | 0.24 | 0.05 | VI 期? |
| 97 | SK122 | VF16e-17e | 4.90 | 4.10 | | 0.95 | VI 期 | | 99B | P37 | VE7t | 0.38 | 0.34 | 0.15 | VI 期? |
| 97 | SK123 | VF14h | 0.40 | 0.38 | | 0.18 | II 期 | | 99B | P38 | VE7t | | | 0.02 | VI 期? |
| 97 | SK124 | VF13h | 0.36 | 0.30 | | | II 期 | | 99B | P39 | VE7t | 0.48 | 残0.22 | 0.19 | VI 期? |
| 97 | SK125 | VE13s | 0.70 | 0.64 | | | II 期 | | 99B | P40 | | | | | |
| 97 | SK126 | VE13s | 0.40 | 0.28 | | | II 期 | | 99B | P41 | VE7t | 0.22 | 0.14 | 0.06 | VI 期? |
| 97 | SK127 | VE13r | 0.40 | 0.34 | | | II 期 | | 99B | P42 | VE6t | | | 0.08 | VI 期? |
| 97 | SE01 | VF12c | 1.46 | 残1.24 | | | VI 期 | | 99B | P43 | VE6t | 残0.30 | 0.32 | 0.18 | VI 期? |
| 97 | SE02 | VF12c | 1.22 | 1.20 | | | VI 期 | | 99B | P44 | VE6t | 0.34 | 0.24 | | VI 期? |
| 97 | SE03 | VF15b-16c | 6.84 | 4.74 | | | VI 期 | | 99B | P45 | VE6t | 0.22 | 0.12 | 0.04 | VI 期? |
| 97 | SE04 | VF16f-17f | 2.66 | 2.50 | | 2.04 | VI 期 | | 99B | P46 | VE6t-7t | 残0.34 | 0.22 | | VI 期? |
| 97 | SE05 | VF17h-17i | 2.96 | 残1.45 | | 2.64 | VI 期 | 01 SE01 | 99B | P47 | VE7t | | | | VI 期? |
| 97 | SE06 | VF13f-13g | 2.66 | 2.30 | | 3.16 | VI 期 | | 99B | P48 | VE7t | 0.18 | 残0.18 | 0.08 | VI 期? |
| 97 | SZ01 | VF17c-17f | | | | | II 期 | | 99B | P49 | VE7t | 0.35 | 残0.18 | 0.14 | VI 期? |
| 97 | SZ02 | VF16i-19h | | | | | II 期 | 99C SD13/01 SD64 | 99B | P50 | VE7t | | | 0.05 | VI 期? |
| 97 | SX01 | VE14t-VF14a | 残1.30 | 1.70 | | | III 期 | 1号墳石室 | 99B | P51 | VE6t-7t | | | | VI 期? |
| 99A | SB01 | VG11h-10i | | | | 0.10 | I 期 | | 99B | P52 | VE6t-7t | 残0.58 | 0.50 | 0.17 | VI 期? |
| 99A | SD01 | VG9e-9h | | | | | VI 期 | | 99B | P53 | VE6t | 0.15 | 0.14 | 0.08 | VI 期? |
| 99A | SD02 | VG9d | | 0.90 | | 0.40 | VI 期 | | 99B | P54 | VE6t | 0.10 | 0.10 | 0.04 | VI 期? |
| 99A | SD03 | VG9g-9h | | | | | VI 期 | | 99B | P55 | VE6t | | | 0.10 | VI 期? |
| 99A | SD04 | VG11h | | 0.42 | | | VI 期? | | 99B | P56 | VE6t | 0.38 | 残0.30 | 0.07 | VI 期? |
| 99A | SD05 | VG13h | | 0.82 | | 0.20 | II 期? | 96 SD05 | 99B | P57 | VE6t | 0.34 | 0.24 | 0.08 | VI 期? |
| 99A | SD06 | VG14h | | 1.65 | | 0.36 | VI 期? | | 99B | P58 | VE6t | 0.36 | 0.20 | 0.12 | VI 期? |
| 99A | SD07 | VG16j | | 2.20 | | 0.21 | III 期 | SK04,05// 96 SD08/01 SD08 | 99B | P59 | VE6t | | | 0.04 | VI 期? |
| 99A | SD08 | VG16j | | 0.42 | | 0.14 | V 期? | | 99B | P60 | VE6t | 0.38 | 0.28 | 0.07 | VI 期? |
| 99A | SD09 | VG16f | | | | 0.25 | VI 期 | | 99B | P61 | VE6t | 残0.20 | 0.24 | 0.05 | VI 期? |
| 99A | SD10 | VF7n-8l | | | | | | | 99B | P62 | VE6t | 0.34 | 0.32 | 0.09 | VI 期? |
| 99A | SD11 | VF8n-8o | | | | | | | 99C | SD01 | VG18b-19b | | | 0.14 | V 期 |
| 99A | SK01 | VG10h | | | | 0.18 | VI 期? | | 99C | SD02 | VF18s-19t | | 0.72 | 0.21 | VI 期 |
| 99A | SK02 | VG12h | | | | 0.08 | VI 期? | | 99C | SD03 | VF18s-19s | | 0.38 | 0.09 | VI 期 |
| 99A | SK03 | VG13h | 2.85 | 残0.50 | | 0.11 | II 期? | | 99C | SD04 | VF18s-19s | | 0.36 | 0.10 | VI 期 |
| 99A | SK04 | VG14h | 1.35 | 1.04 | | 0.09 | III 期? | SK05,SD07// 96 SD08/01 SD08 | 99C | SD05 | | | | | |
| 99A | SK05 | VG14h | 残1.20 | 0.42 | | | III 期? | SK04,SD07// 96 SD08/01 SD08 | 99C | SD06 | VF18r-19s | | 1.02 | 0.25 | VI 期 |
| 99A | SK06 | VG15h | 1.58 | 0.70 | | 0.20 | VI 期 | | 99C | SD07 | VF19q | | | 0.15 | VI 期? |
| 99A | SK07 | VG16h | | | | 0.26 | VI 期 | | 99C | SD08 | VF18n-19n | | 0.40 | 0.44 | VI 期 |
| 99A | SK08 | VG16k | 残0.62 | 0.58 | | 0.03 | VI 期 | | 99C | SD09 | VF18s-19s | | 0.90 | 0.52 | VI 期 |
| 99A | SK09 | VG16k | 残1.30 | 1.50 | | 0.10 | VI 期 | | 99C | SD10 | VF18n-19n | | 0.90 | 0.23 | V 期 |
| 99A | SK01 | VG10i | 残0.68 | 0.80 | | 0.06 | I 期 | 下面 礫群 | 99C | SD11 | VF18n-19n | | | 0.65 | VI 期? |
| 99A | SK02 | VG10i | | | | 0.07 | I 期 | 下面 | 99C | SD12 | VF18m-19m | | | 0.26 | V 期 |
| 99A | SK03 | VG10i | 残1.24 | | | 0.04 | I 期 | 下面 | 99C | SD13 | VF18m-19l | | 2.30 | 0.46 | II 期 |
| 99A | P01 | VF7i | 0.24 | 0.18 | | 0.12 | VI 期? | | 99C | SD14 | VF18l-19l | | 0.58 | 0.34 | V 期? |
| 99A | P02 | VF7i | 0.35 | 0.22 | | 0.06 | VI 期? | | 99C | P01 | VG19b | 0.20 | 0.18 | 0.04 | VI 期? |
| 99A | P03 | VF7i | 残0.56 | 0.42 | | 0.13 | VI 期? | | 99C | P02 | VG19b | 0.30 | 0.19 | 0.08 | VI 期? |
| 99A | P04 | VG11h | 0.62 | 0.48 | | 0.08 | VI 期? | | 99C | P03 | VG19b | 0.26 | 0.20 | 0.08 | VI 期? |
| 99A | P05 | VG11h | 0.75 | 残0.35 | | 0.20 | VI 期? | | 99C | P04 | VG19b | 0.32 | 0.24 | 0.18 | VI 期? |
| 99A | P06 | VG11h | 0.66 | 0.60 | | 0.06 | VI 期? | | 99C | P05 | VG19b | 0.44 | 0.32 | 0.17 | VI 期? |
| 99A | P07 | VG14h | 0.53 | 0.52 | | 0.05 | VI 期? | | 99C | P06 | VG18b | 0.42 | 0.28 | 0.19 | VI 期? |
| 99A | P08 | VG15h | 0.73 | 0.65 | | 0.09 | VI 期? | | 99C | P07 | VG18b | 0.28 | 0.22 | 0.12 | VI 期? |
| 99A | P09 | VG15h | 0.58 | 0.50 | | 0.17 | VI 期? | | 99C | P08 | VG18b | 0.26 | 0.20 | 0.07 | VI 期? |
| 99A | P10 | VG14h | 0.42 | 0.25 | | 0.11 | VI 期? | | 99C | P09 | VF19s | 0.36 | 0.30 | 0.04 | VI 期? |
| 99A | P11 | VG15h | | | | 0.40 | VI 期? | | 99C | P10 | VF18s | | | 0.06 | VI 期? |
| 99B | SD01 | VE5t-6t | | | | | | SD02の上層 | 99C | P11 | VF18p | 0.26 | 0.22 | | VI 期? |
| 99B | SD02 | VE5t-6t | | | | | | | 99C | P12 | VF18p | 0.54 | 0.36 | 0.03 | VI 期? |
| 99B | SD03 | VE7t | | 1.30 | | 0.21 | VI 期? | | 99C | P13 | VF18o-18p | 残0.28 | 0.24 | 0.12 | VI 期? |
| 99B | SD04 | VE7t | | 0.24 | | 0.14 | VI 期? | | 99C | P14 | VF18p | | | 0.10 | VI 期? |
| 99B | SD05 | VE8t | | 0.42 | | 0.29 | VI 期 | | 99C | P15 | VF18o | 残0.44 | 0.36 | 0.06 | VI 期? |
| 99B | SD06 | VE10t | 2.40 | 0.20 | | 0.03 | VI 期? | | 99C | P16 | VF18o | 残0.42 | 残0.24 | 0.30 | VI 期? |
| 99B | SD07 | VE10t | | 0.30 | | 0.11 | | | 99C | P17 | VF18o | | | | VI 期? |
| 99B | SD08 | VE12t | | | | 0.22 | V 期? | | 99C | P18 | VF18o | | | 0.08 | VI 期? |
| 99B | SD09 | VE12t | | | | 0.32 | III 期 | 97 SD13,20,31 | 99C | P19 | VF18o | | | 0.27 | VI 期? |
| 99B | SD10 | VE6t | | 2.35 | | 1.15 | IV 期 | | 99C | P20 | VF18o-19o | 残0.62 | 残0.40 | 0.11 | VI 期? |
| 99B | SE01 | VE10t-11t | 2.74 | 残1.15 | | 1.65 | VI 期 | | 99C | P21 | VF19o | | | 0.10 | VI 期? |
| 99B | SK01 | VE10t | 1.02 | 残0.30 | | 0.21 | II 期? | | 99C | P22 | VF19o | | | 0.07 | VI 期? |
| 99B | SK02 | VE11t | | | | 0.04 | II 期? | | 99C | P23 | VF19o | 残0.55 | 残0.35 | 0.11 | VI 期? |
| 99B | SK03 | VE11t | | | | 0.05 | II 期? | | 99C | P24 | VF19o | 0.40 | 0.36 | 0.09 | VI 期? |
| 99B | P01 | VE10t | 0.34 | 0.20 | | 0.03 | VI 期? | | 99C | P25 | VF19o | 0.28 | 0.18 | | VI 期? |
| 99B | P02 | VE10t | 0.82 | 0.44 | | 0.13 | VI 期? | | 99C | P26 | VF18o-19o | 0.36 | 0.28 | 0.09 | VI 期? |
| 99B | P03 | VE10t | 0.75 | 0.48 | | 0.11 | VI 期? | | 99C | P27 | VF18o | 0.32 | 0.28 | 0.09 | VI 期? |
| 99B | P04 | VE10t | 0.24 | 0.24 | | 0.08 | VI 期? | | 99C | P28 | VF18o | 0.30 | 0.20 | 0.14 | VI 期? |
| 99B | P05 | VE10t | 0.24 | 0.20 | | 0.04 | VI 期? | | 99C | P29 | VF18o | 0.30 | 0.23 | 0.09 | VI 期? |
| 99B | P06 | VE10t | | | | 0.11 | VI 期? | | 99C | P30 | VF18o | 残0.26 | 0.22 | 0.08 | VI 期? |
| 99B | P07 | VE10t | 0.32 | 0.30 | | 0.06 | VI 期? | | 99C | P31 | VF18o | | | 0.08 | VI 期? |
| 99B | P08 | VE10t | 0.28 | 残0.18 | | 0.09 | VI 期? | | 99C | P32 | VF18l | | | 0.09 | VI 期? |
| 99B | P09 | VE10t | 0.20 | 残0.17 | | 0.09 | VI 期? | | 99C | P33 | VF18l | | | 0.08 | VI 期? |
| 99B | | | | | | | | | | | | | | | |

遺構一覽表 3

| 調査区 | 遺構 | グリッド | 長軸(m) | 短軸(m) | 深さ(m) | 時期 | 備考 | 調査区 | 遺構 | グリッド | 長軸(m) | 短軸(m) | 深さ(m) | 時期 | 備考 |
|-----|------|-------------|-------|-------|-------|------|------------------------------|-----|------|-------------|-------|-------|-------|-----|--------------|
| 99C | P41 | VF18I | 0.35 | 0.26 | 0.06 | Ⅵ期? | | 01 | SD65 | VF18m-18n | | | | V期 | 99C SD12,10 |
| 99C | P42 | VF18I | 0.34 | 0.32 | 0.04 | Ⅵ期? | | 01 | SD66 | VG14b-13c | | | 0.10 | Ⅱ期 | SBO1 |
| 99C | P43 | VF18I | 残0.72 | 残0.28 | 0.06 | Ⅵ期? | | 01 | SK01 | VG14e | 1.60 | 1.20 | | V期 | |
| 99C | P44 | VF19I | | | 0.06 | Ⅵ期? | | 01 | SK02 | VG14e | 0.40 | 0.40 | | V期 | |
| 99C | P45 | VF19I | 残1.18 | 残0.54 | 0.40 | Ⅵ期? | | 01 | SK03 | VG14e | 0.40 | 0.40 | | V期 | |
| 99C | P46 | VF19m | 0.68 | 0.34 | 0.17 | Ⅵ期? | | 01 | SK04 | VG16e | 残2.80 | 1.20 | | V期 | |
| 99C | P47 | VF18m | | | 0.14 | Ⅵ期? | | 01 | SK05 | VG14e | 残2.10 | 0.80 | | V期 | |
| 99C | P48 | VF19m | | | 0.17 | Ⅵ期? | | 01 | SK06 | VF16t-VG16a | 1.00 | 1.00 | 0.07 | Ⅵ期 | |
| 99C | P49 | VF18m | 残0.68 | 残0.34 | 0.15 | Ⅵ期? | | 01 | SK07 | VG16a | 1.20 | 1.10 | 0.38 | Ⅵ期 | |
| 99C | P50 | VF19n | | | 0.18 | Ⅵ期? | | 01 | SK08 | VF13q | | | | Ⅵ期 | |
| 99C | P51 | VF18n | 0.58 | 0.33 | | Ⅵ期? | | 01 | SK09 | VF12r-12s | | | | Ⅵ期 | |
| 99C | P52 | VF18n | 0.86 | 0.58 | 0.25 | Ⅵ期? | | 01 | SK10 | VF16r-17r | 2.50 | 1.00 | 0.57 | Ⅵ期 | |
| 99C | P53 | VF18n | | | | Ⅵ期? | | 01 | SK11 | VF17r | 1.80 | 1.70 | | Ⅵ期 | |
| 99C | P54 | VF19n | 残0.46 | 0.50 | 0.11 | Ⅵ期? | | 01 | SK12 | VF17r | 2.30 | 1.70 | | Ⅵ期 | |
| 99C | P55 | VF18n | 0.44 | 0.33 | 0.29 | Ⅵ期? | | 01 | SK13 | VF17r | | | | Ⅵ期 | |
| 99C | P56 | VF18n | | | 0.12 | Ⅵ期? | | 01 | SK14 | VF17p | 2.50 | 2.40 | | Ⅵ期 | |
| 99C | P57 | VF18n | | | | Ⅵ期? | | 01 | SK15 | VF17p | 3.00 | 2.30 | | Ⅵ期 | |
| 99C | P58 | VF19m | 0.38 | 0.38 | 0.11 | Ⅵ期? | | 01 | SK16 | VF18q | 1.80 | 1.60 | 0.47 | Ⅵ期 | |
| 99C | P59 | VF18m-19m | 0.32 | 0.30 | 0.08 | Ⅵ期? | | 01 | SK17 | VF17o | 2.40 | 1.70 | | Ⅵ期 | |
| 99C | P60 | VF19m | 0.30 | 0.30 | 0.08 | Ⅵ期? | | 01 | SK18 | VF18o | 残2.30 | 残0.40 | | Ⅵ期 | |
| 99C | P61 | VF19m | 0.26 | 0.24 | 0.10 | Ⅵ期? | | 01 | SK19 | VF18n-18o | 1.30 | 残0.80 | | Ⅵ期 | |
| 99C | P62 | VF18m | 0.30 | 0.24 | 0.07 | Ⅵ期? | | 01 | SK20 | VF18n | 2.10 | 1.20 | | Ⅵ期 | |
| 99C | P63 | VF18m | 0.34 | 0.30 | 0.07 | Ⅵ期? | | 01 | SK21 | VF17n | 1.80 | 1.50 | | Ⅵ期 | |
| 99C | P64 | VF18m | 0.26 | 0.24 | 0.06 | Ⅵ期? | | 01 | SK22 | VF17m | 1.10 | 1.00 | 0.33 | Ⅵ期 | |
| 99C | P65 | VF18m | 0.34 | 0.34 | 0.10 | Ⅵ期? | | 01 | SK23 | VF18n | 0.65 | 0.40 | | Ⅵ期 | |
| 99C | P66 | VF18m | 0.32 | 0.30 | 0.09 | Ⅵ期? | | 01 | SK24 | VF18m | | | | Ⅵ期 | |
| 99C | P67 | VF19n | 0.22 | 0.20 | 0.07 | Ⅵ期? | | 01 | SK25 | VF17m | 3.20 | 2.00 | | Ⅵ期 | |
| 99C | P68 | VF19n | 0.33 | 0.28 | 0.13 | Ⅵ期? | | 01 | SK26 | VF18I-18m | 2.50 | 2.00 | | Ⅵ期 | |
| 99C | P69 | VF19m-19n | | | 0.05 | Ⅵ期? | | 01 | SK27 | VF17m | 0.50 | 0.50 | | Ⅵ期 | |
| 99D | SD01 | VE6t-VF6a | | | 0.14 | V期 | | 01 | SK28 | VF17I-17m | 0.80 | 残0.50 | | Ⅵ期 | |
| 99D | SD02 | VE6t-VF6a | | | 0.48 | V期 | | 01 | SK29 | VF16m | | | | Ⅵ期 | |
| 99D | SD10 | VE6t-VF6a | | | 0.77 | Ⅳ期 | | 01 | SK30 | VF16m | | | | Ⅵ期 | |
| 99D | SD11 | VE7f | | 0.50 | 0.16 | Ⅵ期 | | 01 | SK31 | VF17I | 1.00 | 0.90 | | Ⅵ期 | |
| 99D | SX01 | VE6d-7d | | | | Ⅱ-Ⅲ期 | | 01 | SK32 | VF17I | 残2.40 | 残0.80 | | Ⅵ期 | |
| 01 | SBO1 | VG13b-13c | 4.20 | 残3.00 | 0.25 | Ⅱ期 | | 01 | SK33 | VF18I | 2.00 | 残1.10 | | Ⅵ期 | |
| 01 | SBO2 | VF14i-14j | | | 0.26 | I期 | | 01 | SK34 | VF15m | 2.20 | 1.90 | | Ⅵ期 | |
| 01 | SBO3 | VF16j | | | 0.10 | I期 | | 01 | SK35 | VF15m | 2.20 | 1.70 | | Ⅵ期 | |
| 01 | SBO4 | VF17j-18j | | | 0.14 | I期 | | 01 | SK36 | VF15m | 1.60 | 1.00 | | Ⅵ期 | |
| 01 | SD01 | VG13e-14e | 3.90 | 0.80 | | V期 | | 01 | SK37 | VF17o | 残2.00 | 0.90 | | Ⅵ期 | |
| 01 | SD02 | VG13e | | 1.10 | 0.27 | V期 | | 01 | SK38 | VF15I | 1.00 | 0.80 | | Ⅵ期 | |
| 01 | SD03 | VG16c-17c | | | | V期 | | 01 | SK39 | VF18p | 残2.80 | 1.70 | | Ⅵ期 | |
| 01 | SD04 | VG14d-14e | | | 0.14 | V期 | | 01 | SK40 | VF14j-15j | 1.50 | 1.70 | | Ⅵ期 | |
| 01 | SD05 | VG15d-15e | | 0.70 | 0.07 | V期 | | 01 | SK41 | VF15j | 残2.10 | 1.70 | | Ⅳ期 | SD50/97 SD37 |
| 01 | SD06 | VG11c-15e | | | 0.40 | V期 | | 01 | SK42 | VF14j-15j | 2.60 | 1.00 | | Ⅵ期 | |
| 01 | SD07 | VG11c-13e | | | 0.85 | Ⅱ期 | | 01 | SK43 | VF14j | | | | Ⅵ期 | |
| 01 | SD08 | VG14e-16e | | | 0.30 | Ⅲ期 | 96 SD08/ 99A SK04,05,SD07 | 01 | SK44 | VF16j-17k | 残4.40 | 残4.00 | | Ⅵ期 | |
| 01 | SD09 | VG16d-17d | | 0.60 | | V期 | | 01 | SK45 | VF16j | 残0.60 | 0.60 | | Ⅵ期 | |
| 01 | SD10 | VF14I-17t | | | | Ⅵ期 | | 01 | SK46 | VF16j | 0.45 | 0.45 | | Ⅵ期 | |
| 01 | SD11 | VF13s-15s | | | 0.40 | Ⅱ期 | SD17,20 | 01 | SK47 | VF16i | | | | Ⅵ期 | |
| 01 | SD12 | VF15r-15s | | 0.30 | | Ⅵ期 | | 01 | SK48 | VF17i | 1.50 | | | Ⅵ期 | |
| 01 | SD13 | VF14r-15s | | | | Ⅵ期 | | 01 | SK49 | VF17i | 残1.40 | 0.90 | | Ⅵ期 | |
| 01 | SD14 | VF14r | | | | Ⅵ期 | | 01 | SK50 | VF17i | | 残0.75 | | Ⅵ期 | |
| 01 | SD15 | VF11r-12r | | 残1.20 | | Ⅵ期 | | 01 | SK51 | VG16a-16b | | | 0.66 | Ⅵ期 | |
| 01 | SD16 | VF16t-VG16b | | | | Ⅵ期 | | 01 | SK52 | VG11c | 0.25 | 0.25 | | Ⅵ期 | |
| 01 | SD17 | VF16t-VG16a | 1.50 | | 0.30 | Ⅱ期 | SD11,20 | 01 | SK53 | VG11b | 0.40 | 0.35 | | Ⅵ期 | |
| 01 | SD18 | VG15a | | 0.40 | | Ⅵ期 | | 01 | SK54 | VG12d | 0.50 | 0.30 | | Ⅵ期 | |
| 01 | SD19 | VG12a-14b | | | | Ⅳ期 | | 01 | SK55 | VG13c | 1.70 | 1.10 | | Ⅵ期? | |
| 01 | SD20 | VG12a-14b | | | 0.59 | Ⅱ期 | SD11,17 | 01 | SK56 | VG13c | | | | Ⅵ期? | |
| 01 | SD21 | VF17p-16r | | 0.40 | | Ⅵ期 | | 01 | SK57 | VG11b | | | | Ⅵ期 | |
| 01 | SD22 | VF16I-18q | | | 0.68 | Ⅵ期 | 99C SD06 | 01 | SK58 | VG16a | | | | Ⅵ期? | |
| 01 | SD23 | VF18p-18q | | 0.50 | | Ⅵ期 | | 01 | SK59 | VG16e-17e | 1.60 | 0.80 | 0.10 | Ⅲ期 | |
| 01 | SD24 | VF17n-18o | | 0.50 | | Ⅵ期 | | 01 | SK60 | VG16d | 残1.90 | 0.80 | 0.15 | Ⅲ期 | |
| 01 | SD25 | VF17p | | 0.30 | | Ⅵ期 | | 01 | SK61 | VG15e | 1.40 | 0.80 | 0.13 | Ⅲ期 | |
| 01 | SD26 | VF17n | | 0.40 | | Ⅵ期 | | 01 | SK62 | VG15e | 残1.25 | 0.85 | 0.13 | Ⅲ期 | |
| 01 | SD27 | VF17n-18n | | 0.90 | | Ⅵ期 | | 01 | SK63 | VF17i | | | | Ⅵ期 | |
| 01 | SD28 | VF16m-17m | | 0.35 | | Ⅵ期 | | 01 | SK64 | VF17i | | | | Ⅵ期 | |
| 01 | SD29 | VF16I-17m | | 0.40 | | Ⅵ期 | | 01 | SK65 | VG13b | 0.65 | 0.50 | 0.07 | Ⅱ期 | |
| 01 | SD30 | VF16I-18I | | 0.40 | | Ⅵ期 | | 01 | SK66 | VG13b | 0.52 | 0.46 | 0.12 | Ⅱ期 | |
| 01 | SD31 | VF17m | | 0.50 | | V期 | | 01 | SK67 | VG13c | 0.48 | 0.44 | 0.06 | Ⅱ期 | |
| 01 | SD32 | VF17I-18I | | 0.50 | | Ⅵ期 | | 01 | SK68 | VG13c | | | 0.44 | Ⅱ期 | |
| 01 | SD33 | VF18I | | 0.80 | | Ⅵ期 | | 01 | SK69 | VG14b | 0.42 | 0.36 | 0.08 | Ⅱ期 | |
| 01 | SD34 | VF17I-18I | | 0.70 | | Ⅵ期 | | 01 | SK70 | VG13c | | | 0.41 | Ⅱ期 | |
| 01 | SD35 | VF15o-17r | | | 0.66 | Ⅱ期 | | 01 | SK71 | VF14i | 0.60 | 0.44 | 0.09 | I期 | |
| 01 | SD36 | VF15m | | 0.75 | | Ⅵ期 | | 01 | SK72 | VF14j | 1.38 | 0.86 | 0.14 | I期 | |
| 01 | SD37 | VF14I-15I | | 0.70 | | Ⅵ期 | | 01 | SK73 | VF14i | 1.60 | 1.24 | | I期 | |
| 01 | SD38 | VF15I-16m | | 0.90 | | Ⅵ期 | | 01 | SK74 | VG13c | | | 0.53 | Ⅱ期 | |
| 01 | SD39 | VF14I-15I | | 0.80 | | Ⅵ期 | | 01 | SK75 | VG13c | 0.90 | 0.88 | | Ⅱ期 | |
| 01 | SD40 | | | | | | 欠番 | 01 | SK76 | VG11f | | | | Ⅵ期 | |
| 01 | SD41 | VF15n-16n | | | | Ⅵ期 | | 01 | SK77 | VG11e-11f | 残1.62 | 0.66 | | Ⅵ期 | |
| 01 | SD42 | VF14I-18I | | | | Ⅵ期 | | 01 | SK78 | VG11e | 0.38 | 0.34 | | Ⅵ期 | |
| 01 | SD43 | | | | | | 欠番 | 01 | SK79 | VG11e | 0.30 | 0.24 | | Ⅵ期 | |
| 01 | SD44 | VF14j | | 0.30 | | Ⅵ期 | | 01 | SK80 | VF16j | 0.50 | 0.44 | 0.16 | I期 | |
| 01 | SD45 | VF13i-14j | | 0.70 | | Ⅵ期 | | 01 | SK81 | VF16j | 1.44 | 0.50 | 0.14 | I期 | |
| 01 | SD46 | VF14i-15i | | | | Ⅵ期 | | 01 | SK82 | | | | | Ⅵ期 | 欠番 |
| 01 | SD47 | VF15j | | | | Ⅵ期 | | 01 | SK83 | VF16j | 0.64 | 0.58 | 0.12 | I期 | |
| 01 | SD48 | VF14i-15i | | 0.35 | | Ⅵ期 | | 01 | SK84 | VF18j | 0.42 | 0.36 | 0.09 | I期 | |
| 01 | SD49 | VF16j | | 0.65 | | Ⅵ期 | | 01 | SK85 | VF17j | 0.36 | 0.26 | 0.16 | I期 | |
| 01 | SD50 | VF16i | | | 0.55 | Ⅳ期 | SK41/97 SD37 | 01 | SK86 | VF17j | 0.94 | 0.65 | 0.09 | I期 | |
| 01 | | | | | | | | | | | | | | | |

遺物一覧表 1

| 番号 | 調査区 | 遺構 | グリッド | 種別 | 器種 | 型式 | 口径(cm) | 底径(cm) | 器高(cm) | 残存 | 備考 |
|------|-----|------|-----------|------|------|----------|--------|--------|--------|----|------------|
| E-1 | 99A | SB01 | VG11h-10i | 縄文土器 | 深鉢 | 山の神式 | 26.3 | | *10.5 | | 外面スス |
| E-2 | 99A | SB01 | VG11h-10i | 縄文土器 | 深鉢 | 山の神式 | | 10.4 | *16.5 | | 内外面スス/網代圧痕 |
| E-3 | 99A | 検出 I | | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | 9.0 | *2.4 | | |
| E-4 | 96 | 検出 I | VG14k | 縄文土器 | 双耳壺? | 底部 | | | *1.8 | | |
| E-5 | 96 | T-T8 | | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | 6.0 | *2.1 | | |
| E-6 | 99C | SD02 | VF19s | 縄文土器 | 深鉢 | IV群11類 | | | *4.5 | | |
| E-7 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | I群1類 | | | *4.4 | | |
| E-8 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | I群2類 | | | *5.0 | | 外面スス |
| E-9 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | I群2類 | | | *3.0 | | 外面スス |
| E-10 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | II群5類 | | | *6.0 | | 外面スス |
| E-11 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | IV群10類 | | | *4.1 | | 内外面スス |
| E-12 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | IV群10類 | | | *13.2 | | 外面スス/網代圧痕? |
| E-13 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | III群9類 | 32.2 | | *10.0 | | 外面スス |
| E-14 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VI群14類 | 25.6 | | *13.1 | | 外面スス |
| E-15 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VI群14類 | | | *6.1 | | 外面スス |
| E-16 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VI群14類 | | | *5.9 | | 外面スス |
| E-17 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VI群14類 | | | *3.0 | | 外面スス |
| E-18 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VI群14類 | | | *5.6 | | 外面スス |
| E-19 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VI群14類 | | | *3.5 | | 外面スス |
| E-20 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VI群14類 | | | *4.2 | | 外面スス |
| E-21 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VI群14類 | | | *3.4 | | 外面スス |
| E-22 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VI群14類 | | | *3.4 | | 外面スス |
| E-23 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VII群16類 | 29.0 | | *19.6 | | 外面スス |
| E-24 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群16類 | | | *4.8 | | 外面スス |
| E-25 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群16類 | | | *3.4 | | |
| E-26 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群16類 | | | *3.5 | | |
| E-27 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群16類 | | | *5.2 | | |
| E-28 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群17類 | | | *4.3 | | 外面スス |
| E-29 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群17類 | | | *5.7 | | 外面スス |
| E-30 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群17類 | | | *6.0 | | 外面スス |
| E-31 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群17類 | | | *5.6 | | 外面スス |
| E-32 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群17類 | | | *4.0 | | 外面スス |
| E-33 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群17類 | | | *4.0 | | 外面スス |
| E-34 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群17類 | | | *2.6 | | 外面スス |
| E-35 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *4.8 | | 外面スス |
| E-36 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *5.8 | | |
| E-37 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *9.7 | | 外面スス |
| E-38 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *5.5 | | 外面スス |
| E-39 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *4.6 | | 外面スス |
| E-40 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *4.8 | | 外面スス |
| E-41 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *24.8 | | 外面スス |
| E-42 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *4.6 | | |
| E-43 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *3.6 | | 外面スス |
| E-44 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *5.7 | | |
| E-45 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *8.4 | | 外面スス |
| E-46 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *6.8 | | 外面スス |
| E-47 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | X群20類 | | | *5.9 | | 外面スス |
| E-48 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | X群20類 | | | *4.6 | | |
| E-49 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | X群20類 | | | *14.3 | | 外面スス |
| E-50 | 97 | SK31 | VF15f | 縄文土器 | 双耳壺 | 突起部 | | | *5.3 | | |
| E-51 | 97 | SB08 | VF15e | 縄文土器 | 深鉢 | III群7類 | | | *4.1 | | |
| E-52 | 97 | SB08 | VF15e | 縄文土器 | 深鉢 | IV群10類 | | | *4.1 | | |
| E-53 | 97 | SB08 | VF15e | 縄文土器 | 深鉢 | IV群10類 | | | *5.2 | | |
| E-54 | 97 | SB08 | VF15e | 縄文土器 | 深鉢 | IV群11類 | | | *4.6 | | 外面スス |
| E-55 | 97 | SB08 | VF15e | 縄文土器 | 深鉢 | IV群11類 | | | *4.8 | | 外面スス |
| E-56 | 97 | SB08 | VF15e | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *4.2 | | 外面スス |
| E-57 | 97 | SB08 | VF15e | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *8.4 | | 外面スス |
| E-58 | 97 | SB08 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *4.3 | | |
| E-59 | 97 | SB08 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *5.4 | | 外面スス |
| E-60 | 97 | SB07 | VF16g | 縄文土器 | 深鉢 | I群2類 | 24.0 | | *6.6 | | |
| E-61 | 97 | SB07 | VF16g | 縄文土器 | 深鉢 | I群2類 | | | *2.9 | | 外面スス |
| E-62 | 97 | SB07 | VF16g | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *10.7 | | 外面スス |
| E-63 | 97 | SB07 | VF16g | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *4.1 | | 外面スス |
| E-64 | 97 | SB07 | VF16g | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *3.4 | | 外面スス |
| E-65 | 97 | SB07 | VF16g | 縄文土器 | 深鉢 | X群20類 | | | *4.5 | | |
| E-66 | 97 | SB07 | VF16h | 縄文土器 | 深鉢 | X群20類 | | | *4.1 | | |
| E-67 | 97 | SB09 | VF16h | 縄文土器 | 深鉢 | IV群10類 | | | *3.4 | | 外面スス |
| E-68 | 97 | SB09 | VF16h | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *3.9 | | 外面スス |
| E-69 | 97 | SB09 | VF16h | 縄文土器 | 深鉢 | X群20類 | 18.8 | | *6.3 | | |
| E-70 | 97 | SB10 | VF14f | 縄文土器 | 深鉢 | I群2類 | | | *6.2 | | 内外面スス |
| E-71 | 97 | SB10 | VF13f | 縄文土器 | 深鉢 | II群3類 | | | *7.9 | | 外面スス |
| E-72 | 97 | SB06 | VF17f | 縄文土器 | 浅鉢 | VIII群18類 | 22.0 | | *5.3 | | 外面スス |
| E-73 | 97 | SB06 | VF17f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *5.8 | | 外面スス |
| E-74 | 97 | SB06 | VF17f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *18.6 | | 外面スス |
| E-75 | 97 | SB06 | VF17f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *4.4 | | 外面スス |
| E-76 | 97 | SB06 | VF16f | 縄文土器 | 浅鉢 | VIII群18類 | | | *4.7 | | 外面スス |
| E-77 | 97 | SB06 | VF16g | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群17類 | | | *4.2 | | 外面スス |
| E-78 | 97 | SB06 | VF17f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群16類 | | | *5.8 | | 外面スス |
| E-79 | 97 | SB06 | VF16e | 縄文土器 | 深鉢 | IX群19類 | | | *3.5 | | |
| E-80 | 97 | SB06 | VF17f | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | 8.2 | *3.0 | | |
| E-81 | 97 | SK67 | VF17f | 縄文土器 | 深鉢 | X群20類 | *20.6 | *9.2 | 19.1 | | 内外面スス/網代圧痕 |
| E-82 | 97 | SK67 | VF17f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *6.3 | | 外面スス |
| E-83 | 97 | SK67 | VF17f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *4.3 | | |
| E-84 | 97 | SK36 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | I群2類 | 28.6 | | *22.0 | | |
| E-85 | 97 | SK36 | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | III群7類 | 45.3 | 9.8 | *44.3 | | 外面スス |
| E-86 | 97 | SK37 | VF17g | 縄文土器 | 深鉢 | I群2類 | 31.6 | | *18.4 | | |
| E-87 | 97 | SK35 | VF15e | 縄文土器 | 深鉢 | II群5類 | | | *7.0 | | 外面スス |
| E-88 | 97 | SK35 | VF15e | 縄文土器 | 深鉢 | II群5類 | | | *6.0 | | 外面スス |
| E-89 | 97 | SK33 | VF14e | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *7.8 | | |
| E-90 | 97 | SK34 | VF15d | 縄文土器 | 深鉢 | IV群11類 | | | *4.4 | | |
| E-91 | 97 | SK34 | VF15e | 縄文土器 | 双耳壺 | 突起部 | | | *4.2 | | |
| E-92 | 97 | SK40 | VF16h | 縄文土器 | 深鉢 | II群4類 | 20.0 | 8.2 | 23.9 | | 内外面スス/網代圧痕 |

遺物一覧表 2

| 番号 | 調査区 | 遺構 | グリッド | 種別 | 器種 | 型式 | 口径(cm) | 底径(cm) | 器高(cm) | 残存 | 備考 |
|-------|-----|--------|-----------|------|-------|----------|--------|--------|--------|----|------------|
| E-93 | 97 | 検出Ⅲ | VF13b | 縄文土器 | 深鉢 | I群1類 | 30.7 | 11.5 | *34.8 | | |
| E-94 | 97 | 検出Ⅲ | VF12d | 縄文土器 | 深鉢 | IV群10類 | 26.9 | | *13.3 | | |
| E-95 | 97 | 検出Ⅲ | VF12c・11b | 縄文土器 | 深鉢 | IV群11類 | | | *24.8 | | |
| E-96 | 97 | 検出Ⅲ | VF12e | 縄文土器 | 深鉢 | IV群12類 | | | *5.1 | | |
| E-97 | 97 | 検出Ⅲ | VF12e | 縄文土器 | 深鉢 | IV群12類 | | | *2.5 | | |
| E-98 | 97 | 検出Ⅲ | VF12e | 縄文土器 | 深鉢 | IV群12類 | | | *2.4 | | |
| E-99 | 97 | 検出Ⅲ | VF12e | 縄文土器 | 深鉢 | IV群12類 | | | *1.9 | | |
| E-100 | 97 | 検出Ⅲ | VF12e | 縄文土器 | 深鉢 | IV群12類 | | | *7.5 | | |
| E-101 | 97 | 検出Ⅲ | VF12d | 縄文土器 | 深鉢 | I群1類 | | | *4.9 | | |
| E-102 | 97 | 検出Ⅲ | VF15e | 縄文土器 | 深鉢 | I群1類 | | | *4.4 | | |
| E-103 | 97 | 検出Ⅲ | VF15c | 縄文土器 | 深鉢 | I群1類 | | | *3.0 | | 外面スス |
| E-104 | 97 | 検出Ⅲ | VF12d | 縄文土器 | 深鉢 | II群3類 | | | *9.4 | | |
| E-105 | 97 | 検出Ⅲ | | 縄文土器 | 深鉢 | II群3類 | | | *7.6 | | |
| E-106 | 97 | 検出Ⅲ | VF12d | 縄文土器 | 深鉢 | II群3類 | | | *4.0 | | |
| E-107 | 97 | 検出Ⅲ | VF12d | 縄文土器 | 深鉢 | II群3類 | | | *5.0 | | 外面スス |
| E-108 | 97 | 検出Ⅲ | VF12d | 縄文土器 | 深鉢 | IV群10類 | | | *6.0 | | 外面スス |
| E-109 | 97 | 検出Ⅲ | VF15e | 縄文土器 | 深鉢 | IV群10類 | | | *4.0 | | 外面スス |
| E-110 | 97 | 検出Ⅲ | VF12d | 縄文土器 | 深鉢 | IV群11類 | | | *4.5 | | |
| E-111 | 97 | 検出Ⅲ | VF12d | 縄文土器 | 深鉢 | VII群15類 | 29.8 | | *7.8 | | 外面スス |
| E-112 | 97 | 検出Ⅲ | VF12d | 縄文土器 | 深鉢 | VII群15類 | | | *17.2 | | 外面スス |
| E-113 | 97 | 検出Ⅲ | VF12d | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群17類 | 20.8 | | *10.2 | | 外面スス |
| E-114 | 97 | 検出Ⅲ | VF16d | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *7.4 | | 外面スス |
| E-115 | 97 | 検出Ⅲ | VF12d | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *5.1 | | 外面スス |
| E-116 | 97 | 検出Ⅲ | VF12e | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *5.2 | | 外面スス |
| E-117 | 97 | 検出Ⅲ | VF11f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *4.9 | | 外面スス |
| E-118 | 97 | 検出Ⅲ | VF11b | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *5.4 | | 外面スス |
| E-119 | 97 | 検出Ⅲ | VF12b | 縄文土器 | 深鉢 | X群20類 | 33.0 | | *7.2 | | 外面スス |
| E-120 | 97 | 検出Ⅲ | VF12a | 縄文土器 | 深鉢 | X群20類 | | | *9.5 | | 外面スス |
| E-121 | 97 | 検出Ⅲ | VF12e | 縄文土器 | 深鉢 | X群20類 | | | *5.9 | | 外面スス |
| E-122 | 97 | 検出Ⅲ | VF12d | 縄文土器 | 深鉢 | IX群19類 | | | *5.2 | | 外面スス |
| E-123 | 97 | 検出Ⅲ | VF14a | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | 6.6 | *10.2 | | 外面スス?/網代圧痕 |
| E-124 | 97 | 検出Ⅲ | VF13d | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | 6.8 | *3.5 | | 網代圧痕 |
| E-125 | 97 | 検出Ⅲ | VF13d | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | | *4.2 | | |
| E-126 | 97 | 検出Ⅲ | VF12e | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | 9.0 | *3.0 | | |
| E-127 | 97 | 検出Ⅲ | VF11e | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | | *6.4 | | 外面スス |
| E-128 | 97 | 検出Ⅲ | VF12d | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | 5.2 | *2.1 | | |
| E-129 | 97 | 検出Ⅲ | VF12e | 縄文土器 | 注口土器? | 注口部 | | | *3.8 | | |
| E-130 | 97 | 検出Ⅲ | VF15e | 縄文土器 | 深鉢 | III群6類 | 28.8 | | *11.4 | | |
| E-131 | 97 | 検出Ⅲ | VF17d | 縄文土器 | 深鉢 | III群6類 | | | *5.7 | | |
| E-132 | 97 | 検出Ⅲ | VF12f | 縄文土器 | 深鉢 | III群6類 | | | *4.9 | | 外面スス |
| E-133 | 97 | 検出Ⅲ | VF14g | 縄文土器 | 深鉢 | I群2類 | | | *9.0 | | 外面スス |
| E-134 | 97 | 検出Ⅲ | VF13i | 縄文土器 | 深鉢 | I群2類 | | | *3.6 | | |
| E-135 | 97 | 検出Ⅲ | VF16h | 縄文土器 | 深鉢 | I群2類 | | | *3.8 | | 外面スス |
| E-136 | 97 | 検出Ⅲ | VF17d | 縄文土器 | 深鉢 | I群2類 | | | *4.3 | | |
| E-137 | 97 | 検出Ⅲ | VF14f-14g | 縄文土器 | 深鉢 | I群2類 | | | *3.3 | | 外面スス |
| E-138 | 97 | 検出Ⅲ | VF16g | 縄文土器 | 深鉢 | II群3類 | | | *5.3 | | |
| E-139 | 97 | 検出Ⅲ | VF16g | 縄文土器 | 深鉢 | II群3類 | | | *5.1 | | |
| E-140 | 97 | 検出Ⅲ | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | II群4類 | | | *7.6 | | 外面スス |
| E-141 | 97 | 検出Ⅲ | VF13f | 縄文土器 | 深鉢 | II群4類 | | | *6.2 | | 外面スス |
| E-142 | 97 | 検出Ⅲ | VF16h | 縄文土器 | 深鉢 | IV群10類 | | | *7.9 | | |
| E-143 | 97 | 検出Ⅲ | VF16h | 縄文土器 | 深鉢 | IV群10類 | | | *3.7 | | 外面スス |
| E-144 | 97 | 検出Ⅲ | VF16h | 縄文土器 | 深鉢 | IV群10類 | | | *4.5 | | |
| E-145 | 97 | 検出Ⅲ | VF16h | 縄文土器 | 深鉢 | IV群10類 | | | *3.9 | | 外面スス |
| E-146 | 97 | 検出Ⅲ | VF13f | 縄文土器 | 深鉢 | IV群10類 | | | *3.5 | | |
| E-147 | 97 | 検出Ⅲ | VF16h | 縄文土器 | 深鉢 | IV群10類 | | | *3.6 | | 外面スス |
| E-148 | 97 | 検出Ⅲ | VF16h | 縄文土器 | 深鉢 | IV群10類 | | | *2.9 | | 外面スス |
| E-149 | 97 | 検出Ⅲ | VF12f | 縄文土器 | 深鉢 | IV群10類 | | | *5.6 | | 外面スス |
| E-150 | 97 | 検出Ⅲ | VF14g | 縄文土器 | 深鉢 | IV群10類 | | | *3.7 | | |
| E-151 | 97 | 検出Ⅲ | VF15e | 縄文土器 | 深鉢 | IV群10類 | | | *3.9 | | 外面スス |
| E-152 | 97 | 検出Ⅲ | VF16g | 縄文土器 | 深鉢 | IV群11類 | | | *3.9 | | 外面スス |
| E-153 | 97 | 検出Ⅲ | VF17h | 縄文土器 | 深鉢 | IV群11類 | | | *2.5 | | 外面スス |
| E-154 | 97 | 検出Ⅲ | VF14h | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | 39.8 | | *10.2 | | 外面スス |
| E-155 | 97 | 検出Ⅲ | VF12f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *5.9 | | 外面スス |
| E-156 | 97 | 検出Ⅲ | VF13g | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *5.1 | | 外面スス |
| E-157 | 97 | 検出Ⅲ | VF14g-15g | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *2.7 | | 外面スス |
| E-158 | 97 | 検出Ⅲ | VF15e | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *3.7 | | 外面スス |
| E-159 | 97 | 検出Ⅲ | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群18類 | | | *6.2 | | 外面スス |
| E-160 | 97 | 検出Ⅰ | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群16類 | | | *6.1 | | 外面スス |
| E-161 | 97 | 検出Ⅰ | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | VIII群16類 | | | *6.2 | | 外面スス |
| E-162 | 97 | 検出Ⅲ | VF16h | 縄文土器 | 深鉢 | X群20類 | | | *8.2 | | 外面スス |
| E-163 | 97 | 検出Ⅲ | VF16g | 縄文土器 | 深鉢 | X群20類 | | | *4.1 | | 外面スス |
| E-164 | 97 | 検出Ⅲ | VF16g | 縄文土器 | 深鉢 | X群20類 | | | *3.3 | | 外面スス |
| E-165 | 97 | 検出Ⅲ | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | 13.8 | *1.7 | | |
| E-166 | 97 | 検出Ⅲ | VF14f-14g | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | 12.4 | *2.1 | | 網代圧痕? |
| E-167 | 97 | 検出Ⅲ | VF13f | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | 12.9 | *6.9 | | |
| E-168 | 97 | 検出Ⅲ | VF14h | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | 6.4 | *1.5 | | 外面スス/網代圧痕 |
| E-169 | 97 | 検出Ⅲ | VF12f | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | | *1.1 | | 外面スス/網代圧痕 |
| E-170 | 97 | 検出Ⅲ | VF16h | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | 8.0 | *5.2 | | 網代圧痕? |
| E-171 | 97 | 検出Ⅲ | VF16g | 縄文土器 | 双耳壺 | 突起部 | | | *3.3 | | |
| E-172 | 97 | 検出Ⅱ | VF15d | 縄文土器 | 深鉢 | I群2類 | 23.0 | | *8.1 | | 外面スス |
| E-173 | 97 | 検出Ⅰ | VF16c | 縄文土器 | 深鉢 | I群2類 | | | *1.7 | | |
| E-174 | 97 | SZ01北溝 | VF16d | 縄文土器 | 深鉢 | II群3類 | | | *3.0 | | 外面スス |
| E-175 | 97 | SZ01西溝 | VF17c | 縄文土器 | 深鉢 | II群3類 | | | *7.1 | | |
| E-176 | 97 | 検出Ⅰ | VF16d | 縄文土器 | 深鉢 | II群3類 | | | *6.0 | | 外面スス |
| E-177 | 97 | SK07 | VF13f | 縄文土器 | 深鉢 | II群3類 | | | *6.5 | | |
| E-178 | 97 | 検出Ⅰ | VF16h | 縄文土器 | 深鉢 | II群3類 | | | *4.9 | | |
| E-179 | 97 | 検出Ⅱ | VF12e | 縄文土器 | 深鉢 | II群3類 | | | *4.0 | | 外面スス |
| E-180 | 97 | 検出Ⅰ | VF12f | 縄文土器 | 深鉢 | II群3類 | | | *3.0 | | |
| E-181 | 97 | 検出Ⅱ | VF14c | 縄文土器 | 深鉢 | II群3類 | | | *5.8 | | 外面スス |
| E-182 | 97 | 検出Ⅱ | VF15e | 縄文土器 | 深鉢 | III群7類 | | | *4.8 | | 外面スス |
| E-183 | 97 | 検出Ⅰ | VF15e | 縄文土器 | 深鉢 | III群7類 | | | *3.8 | | 外面スス |
| E-184 | 97 | 検出Ⅱ | VF15e | 縄文土器 | 深鉢 | III群7類 | | | *4.2 | | 外面スス |

遺物一覧表 3

| 番号 | 調査区 | 遺構 | グリッド | 種別 | 器種 | 型式 | 口径(cm) | 底径(cm) | 器高(cm) | 残存 | 備考 |
|-------|-----|----------|-------|------|------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|
| E-185 | 97 | SK07 | VF13f | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅲ群6類 | | | | *5.3 | 外面スス |
| E-186 | 97 | SZ01北溝 | VF16d | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅳ群10類 | 24.8 | | | *3.4 | 外面スス |
| E-187 | 97 | 検出Ⅰ | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅳ群10類 | 14.0 | | | *3.9 | |
| E-188 | 97 | SZ02南溝上層 | VF18h | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅳ群10類 | | | | *3.7 | |
| E-189 | 97 | SZ02南溝中層 | VF18h | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅳ群10類 | | | | *4.3 | |
| E-190 | 97 | SD59 | VF15e | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅳ群10類 | | | | *3.5 | 外面スス |
| E-191 | 97 | SD50 | VF13e | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅳ群10類 | | | | *3.3 | 外面スス |
| E-192 | 97 | 検出Ⅱ | VF12c | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅳ群10類 | | | | *4.6 | |
| E-193 | 97 | 検出Ⅰ | VF17g | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅳ群10類 | | | | *4.7 | 外面スス |
| E-194 | 97 | SD73 | VF15d | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅳ群11類 | | | | *3.5 | 内外面スス |
| E-195 | 97 | 検出Ⅰ | VF12e | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅳ群11類 | | | | *3.6 | 外面スス |
| E-196 | 97 | 検出Ⅱ | VF13d | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅳ群12類 | | | | *4.0 | |
| E-197 | 97 | SD67 | VF17h | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅳ群12類 | | | | *3.2 | |
| E-198 | 97 | SD27 | VF17d | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅳ群12類 | | | | *2.7 | |
| E-199 | 97 | 検出Ⅰ | VF13h | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅳ群12類 | | | | *3.3 | |
| E-200 | 97 | 検出Ⅰ | VF16h | 縄文土器 | 深鉢 | 突起部 | | | | *3.4 | |
| E-201 | 97 | 検出Ⅱ | VF15e | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅲ群9類 | | | | *2.5 | |
| E-202 | 97 | 検出Ⅰ | VF17g | 縄文土器 | 双耳壺? | 体部 | | | | *7.4 | |
| E-203 | 97 | 検出Ⅱ | VF15d | 縄文土器 | 深鉢 | 北白川上層式 | | | | *7.4 | 外面スス |
| E-204 | 97 | SD63 | VF17h | 縄文土器 | 浅鉢? | | 43.0 | | | *15.2 | 外面スス |
| E-205 | 97 | 検出Ⅰ | VF18g | 縄文土器 | 浅鉢? | | | | | *6.1 | 外面スス |
| E-206 | 97 | SD63 | VF17e | 縄文土器 | 浅鉢? | | | | | *3.7 | 外面スス |
| E-207 | 97 | SD66 | VF17f | 縄文土器 | 浅鉢? | | | | | *2.6 | 外面スス |
| E-208 | 97 | 検出Ⅰ | VF16h | 縄文土器 | 浅鉢? | | | | | *4.0 | 外面スス |
| E-209 | 97 | SD66 | VF17f | 縄文土器 | 浅鉢? | | | | | *3.4 | |
| E-210 | 97 | 検出Ⅰ | VF18g | 縄文土器 | 浅鉢? | | | | | *4.8 | |
| E-211 | 97 | 検出Ⅱ | VF17h | 縄文土器 | 浅鉢? | | | | | *4.7 | 外面スス |
| E-212 | 97 | SD20 | VF14b | 縄文土器 | 深鉢 | 突起部 | | | | *3.6 | 外面スス |
| E-213 | 97 | SD42 | VF13f | 縄文土器 | 深鉢 | 突起部 | | | | *3.4 | 内外面スス |
| E-214 | 97 | SD33 | VF15e | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅶ群15類 | | | | *7.0 | 外面スス |
| E-215 | 97 | SZ01北溝 | VF17f | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅷ群16類 | | | | *5.4 | 外面スス |
| E-216 | 97 | SD16 | VF12d | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅷ群18類 | | | | *3.9 | 外面スス |
| E-217 | 97 | SD33 | VF15e | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅷ群17類 | | | | *5.8 | |
| E-218 | 97 | 検出Ⅰ | VE13s | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅸ群19類 | | | | *2.7 | |
| E-219 | 97 | SD63 | VF17g | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅸ群19類 | | | | *4.2 | |
| E-220 | 97 | SD60 | VF15d | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅷ群17類 | | | | *3.3 | |
| E-221 | 97 | 検出Ⅰ | VF16h | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅷ群17類 | | | | *2.1 | |
| E-222 | 97 | 検出Ⅰ | VF12d | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅷ群17類 | | | | *4.0 | 外面スス |
| E-223 | 97 | 検出Ⅰ | VF16h | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅷ群17類 | | | | *4.6 | 外面スス |
| E-224 | 97 | 検出Ⅰ | VF17h | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅷ群18類 | 26.8 | | | *7.7 | 外面スス |
| E-225 | 97 | 検出Ⅰ | VF13f | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅷ群18類 | | | | *7.1 | 外面スス |
| E-226 | 97 | 検出Ⅰ | VF13g | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅷ群18類 | | | | *3.3 | 外面スス |
| E-227 | 97 | 検出Ⅰ | VF13g | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅷ群18類 | | | | *4.5 | 外面スス |
| E-228 | 97 | 検出Ⅰ | VF13g | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅷ群18類 | | | | *4.1 | 外面スス |
| E-229 | 97 | 検出Ⅰ | VF15b | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅷ群18類 | | | | *4.1 | 外面スス |
| E-230 | 97 | SD21 | VF17d | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅷ群18類 | | | | *4.6 | 外面スス |
| E-231 | 97 | 表土剥ぎ | | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅷ群18類 | | | | *4.3 | 外面スス |
| E-232 | 97 | SD49 | VF13d | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅷ群18類 | | | | *3.3 | 外面スス |
| E-233 | 97 | SD27 | VF17d | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅷ群18類 | | | | *4.9 | 外面スス |
| E-234 | 97 | 検出Ⅰ | VF16d | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅷ群18類 | | | | *3.7 | 外面スス |
| E-235 | 97 | 検出Ⅱ | VF15e | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅷ群18類 | | | | *5.9 | 外面スス |
| E-236 | 97 | 検出Ⅰ | VF15f | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅸ群19類 | 30.4 | | | *8.1 | |
| E-237 | 97 | 検出Ⅰ | VF15p | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅸ群19類 | 25.6 | | | *9.9 | |
| E-238 | 97 | SD63 | VF17g | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅸ群19類 | | | | *4.8 | |
| E-239 | 97 | SD63 | VF17g | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅸ群19類 | | | | *7.8 | 外面スス |
| E-240 | 97 | SD23 | VE13t | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅸ群19類 | | | | *2.7 | |
| E-241 | 97 | SD16 | VF12d | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | | 11.0 | *3.3 | |
| E-242 | 97 | 表土剥ぎ | | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | | 6.4 | *2.0 | |
| E-243 | 97 | SD76 | VF12d | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | | 8.2 | *1.9 | |
| E-244 | 97 | 検出Ⅰ | VF13h | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | | 8.2 | *3.3 | |
| E-245 | 97 | SD33 | VF16f | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | | *8.6 | *2.1 | |
| E-246 | 97 | 検出Ⅰ | VF15b | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | | 8.8 | *2.8 | |
| E-247 | 01 | SB02 | VF14i | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅲ群8類 | | | | *3.0 | 外面スス |
| E-248 | 01 | SB02 | VF14i | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅲ群8類 | | | | *4.1 | 外面スス |
| E-249 | 01 | SB02 | VF14i | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅲ群8類 | | | | *4.2 | 外面スス |
| E-250 | 01 | SB02 | VF14i | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅲ群8類 | | | | *2.7 | 外面スス |
| E-251 | 01 | SB02 | VF14i | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅲ群8類 | | | | *4.0 | 外面スス |
| E-252 | 01 | SB02 | VF14i | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅱ群3類 | | | | *4.6 | 外面スス |
| E-253 | 01 | SB02 | VF14j | 縄文土器 | 深鉢 | V群13類 | | | | *4.5 | 外面スス |
| E-254 | 01 | SB02 | VF14i | 縄文土器 | 鉢? | X群20類 | 17.0 | | | *3.9 | |
| E-255 | 01 | SK73 | VF14i | 縄文土器 | 深鉢 | X群20類 | 35.3 | 9.4 | | 26.1 | 網代圧痕 |
| E-256 | 01 | SB03 | VF16j | 縄文土器 | 深鉢 | I群1類 | | | | *3.8 | 外面スス |
| E-257 | 01 | SB03 | VF16j | 縄文土器 | 深鉢 | I群1類 | | | | *5.7 | 外面スス |
| E-258 | 01 | SB03 | VF16j | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅳ群11類 | | | | *3.6 | |
| E-259 | 01 | SB03 | VF16j | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅶ群17類 | | | | *2.0 | 外面スス |
| E-260 | 01 | SB04 | VF17j | 縄文土器 | 深鉢 | I群2類 | | | | *6.0 | 外面スス |
| E-261 | 01 | SB04 | VF17i | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅳ群11類 | | | | *3.7 | 外面スス |
| E-262 | 01 | SB04 | VF17i | 縄文土器 | 深鉢 | V群13類 | *17.2 | | | *3.4 | |
| E-263 | 01 | SB04 | VF14i | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅷ群18類 | | | | *4.8 | |
| E-264 | 01 | SB04 | VF14i | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅷ群18類 | | | | *3.0 | 外面スス |
| E-265 | 01 | SB04 | VF17j | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | | 11.4 | *3.9 | |
| E-266 | 01 | SX04 | VF17i | 縄文土器 | 深鉢 | V群13類 | 30.6 | | | *10.0 | 外面スス |
| E-267 | 01 | SX04 | VF17i | 縄文土器 | 深鉢 | V群13類 | 17.6 | | | *4.6 | 外面スス |
| E-268 | 01 | SX04 | VF17i | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | | 13.4 | *2.2 | |
| E-269 | 01 | SX04 | VF17i | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | | 9.2 | *2.4 | |
| E-270 | 01 | SX04 | VF17i | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅷ群18類 | 41.8 | | | *18.0 | |
| E-271 | 01 | SX05 | VF15i | 縄文土器 | 深鉢 | V群13類 | 16.0 | | | *10.3 | 外面スス |
| E-272 | 01 | SX05 | VF15i | 縄文土器 | 深鉢 | V群13類 | | | | *2.7 | 外面スス |
| E-273 | 01 | SX05 | VF15i | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅷ群18類 | | | | *5.6 | 外面スス |
| E-274 | 01 | SX05 | VF15i | 縄文土器 | 深鉢 | X群20類 | | | | *1.8 | 外面スス |
| E-275 | 01 | SX05 | VF15i | 縄文土器 | 深鉢 | X群20類 | | | | *4.7 | 外面スス |
| E-276 | 01 | SX01 | VF16o | 縄文土器 | 深鉢 | Ⅳ群10類 | | | | *3.3 | 外面スス |

遺物一覧表 4

| 番号 | 調査区 | 遺構 | グリッド | 種別 | 器種 | 型式 | 口径(cm) | 底径(cm) | 器高(cm) | 残存 | 備考 |
|-------|-----|-----------|-----------|------|-------|---------|--------|--------|--------|-------|---------------|
| E-277 | 01 | SX01 | VF16o | 縄文土器 | 深鉢 | X群20類 | 22.2 | | | *7.5 | 内外面スス |
| E-278 | 01 | 検出III | VF14j | 縄文土器 | 深鉢 | III群8類 | | | | *2.5 | 外面スス |
| E-279 | 01 | 検出III | VF14j | 縄文土器 | 深鉢 | III群8類 | | | | *2.8 | |
| E-280 | 01 | 検出III | VF14j | 縄文土器 | 深鉢 | III群8類 | | | | *3.0 | |
| E-281 | 01 | 検出III | VF18o | 縄文土器 | 深鉢 | IV群10類 | 18.0 | | | *4.2 | 内外面スス |
| E-282 | 01 | 検出III | VF14m | 縄文土器 | 深鉢 | IV群10類 | | | | *7.4 | 外面スス |
| E-283 | 01 | 検出III | VF14i | 縄文土器 | 深鉢 | IV群10類 | | | | *4.4 | 外面スス |
| E-284 | 01 | 検出III | VF15i | 縄文土器 | 深鉢 | VII群18類 | 23.2 | | | *3.6 | 外面スス |
| E-285 | 01 | 検出III | VF18l | 縄文土器 | 深鉢 | VII群18類 | | | | *7.2 | |
| E-286 | 01 | 検出III | VF14l | 縄文土器 | 深鉢 | VII群18類 | | | | *6.1 | 外面スス |
| E-287 | 01 | 検出III | VF16o | 縄文土器 | 深鉢 | X群20類 | *21.6 | | | *10.7 | 外面スス |
| E-288 | 01 | 検出III | VF14j | 縄文土器 | 深鉢 | X群20類 | | | | *3.1 | |
| E-289 | 01 | 検出III | VF16o | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | 10.8 | | *1.7 | 網代圧痕 |
| E-290 | 01 | 検出III | VF14j | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | 7.4 | | *1.8 | |
| E-291 | 01 | SD41 | VF18n | 縄文土器 | 深鉢 | I群1類 | | | | *4.3 | 外面スス |
| E-292 | 01 | SD61北溝上層 | VF16l | 縄文土器 | 深鉢 | I群1類 | | | | *2.5 | |
| E-293 | 01 | SD10 | VF14m | 縄文土器 | 深鉢 | I群2類 | | | | *6.6 | |
| E-294 | 01 | SD41 | VF18n | 縄文土器 | 深鉢 | I群2類 | | | | *5.2 | 外面スス |
| E-295 | 01 | SD59 | VF16n | 縄文土器 | 深鉢 | I群2類 | | | | *3.5 | |
| E-296 | 01 | SD42 | VF15l | 縄文土器 | 深鉢 | II群4類 | | | | *4.1 | |
| E-297 | 01 | SD64西溝下層 | VF16i | 縄文土器 | 深鉢 | II群5類 | | | | *5.3 | |
| E-298 | 01 | SD64西溝下層 | VF16i | 縄文土器 | 深鉢 | III群7類 | | | | *2.9 | |
| E-299 | 01 | SD64西溝最下層 | VF16i | 縄文土器 | 深鉢 | III群6類 | | | | *5.2 | 外面スス |
| E-300 | 01 | SD39 | VF15l | 縄文土器 | 深鉢 | III群8類 | | | | *4.0 | |
| E-301 | 01 | 検出I | VF16n | 縄文土器 | 深鉢 | IV群10類 | | | | *4.5 | 外面スス |
| E-302 | 01 | 検出I | VF14j | 縄文土器 | 深鉢 | IV群10類 | | | | *5.0 | 外面スス |
| E-303 | 01 | 検出I | VF15n | 縄文土器 | 深鉢 | IV群10類 | | | | *3.5 | |
| E-304 | 01 | SD10最下層 | VF14n-14o | 縄文土器 | 深鉢 | IV群10類 | | | | *2.5 | 外面スス |
| E-305 | 01 | SD10 | VF15m | 縄文土器 | 深鉢 | IV群10類 | | | | *6.7 | |
| E-306 | 01 | SD51 | VF17j | 縄文土器 | 深鉢 | IV群10類 | | | | *5.2 | 外面スス |
| E-307 | 01 | SD51 | VF17j | 縄文土器 | 深鉢 | IV群10類 | | | | *3.1 | 外面スス |
| E-308 | 01 | SD51 | VF17j | 縄文土器 | 深鉢 | IV群10類 | | | | *3.1 | 外面スス |
| E-309 | 01 | SD22 | VF18q | 縄文土器 | 深鉢 | IV群12類 | | | | *4.4 | |
| E-310 | 01 | SD10 | VF16r | 縄文土器 | 深鉢 | IV群12類 | | | | *3.5 | 外面スス |
| E-311 | 01 | 検出I | VG14a | 縄文土器 | 深鉢 | IV群12類 | 22.4 | | | *4.1 | 外面スス |
| E-312 | 01 | SD10上層 | VF14n | 縄文土器 | 深鉢 | V群13類 | | | | *3.1 | 外面スス |
| E-313 | 01 | SD10最下層 | VF14n-14o | 縄文土器 | 深鉢 | V群13類 | 25.0 | | | *3.1 | |
| E-314 | 01 | SD11 | VF14s | 縄文土器 | 深鉢 | V群13類 | | | | *4.0 | |
| E-315 | 01 | SD64北溝中層 | VF17l-m | 縄文土器 | 浅鉢? | | 11.0 | | | *2.6 | |
| E-316 | 01 | SD10最下層 | VF14n-14o | 縄文土器 | 浅鉢? | | | | | *2.2 | 外面スス |
| E-317 | 01 | 検出I | VF14j | 縄文土器 | 浅鉢? | | | | | *2.3 | 外面スス |
| E-318 | 01 | SD10最下層 | VF14n-14o | 縄文土器 | 深鉢 | VII群16類 | 20.0 | | | *5.5 | |
| E-319 | 01 | SD59 | VF16o | 縄文土器 | 深鉢 | VII群16類 | | | | *5.9 | 外面スス |
| E-320 | 01 | SD10下層 | VF14n | 縄文土器 | 深鉢 | VII群18類 | | | | *5.3 | |
| E-321 | 01 | SD10最下層 | VF14n-14o | 縄文土器 | 深鉢 | VII群18類 | | | | *4.9 | 外面スス |
| E-322 | 01 | SD64西溝下層 | VF16i | 縄文土器 | 深鉢 | VII群18類 | | | | *7.0 | |
| E-323 | 01 | SD64西溝下層 | VF16i | 縄文土器 | 深鉢 | VII群18類 | | | | *5.5 | 内外面スス |
| E-324 | 01 | SD64北溝 | VF17l-17m | 縄文土器 | 深鉢 | VII群18類 | | | | *4.3 | 内面スス |
| E-325 | 01 | SD64北溝中層 | VF17l-17m | 縄文土器 | 深鉢 | VII群18類 | | | | *4.3 | |
| E-326 | 01 | SD10最下層 | VF14n-14o | 縄文土器 | 深鉢 | VII群18類 | | | | *2.1 | 外面スス? |
| E-327 | 01 | SD64西溝最下層 | VF16i | 縄文土器 | 深鉢 | VII群18類 | | | | *3.5 | 外面スス |
| E-328 | 01 | SD64北溝中層 | VF16m | 縄文土器 | 深鉢 | X群20類 | 24.0 | | | *11.6 | 外面スス |
| E-329 | 01 | 検出I | VF16m | 縄文土器 | 鉢? | X群20類 | 17.0 | | | *2.8 | 外面スス |
| E-330 | 01 | SD49 | VF16j | 縄文土器 | 深鉢 | X群20類 | | | | *4.3 | |
| E-331 | 01 | SD22 | VF18q | 縄文土器 | 深鉢 | X群20類 | | | | *2.2 | |
| E-332 | 01 | SD10最下層 | VF14n-14o | 縄文土器 | 深鉢 | IX群19類 | | | | *4.4 | |
| E-333 | 01 | SD10下層 | VF15m | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | 10.6 | | *3.4 | |
| E-334 | 01 | SD64西溝下層 | VF16i | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | 5.4 | | *1.6 | 外面スス |
| E-335 | 01 | SD58 | VF16o | 縄文土器 | 深鉢 | 底部 | | 7.4 | | *2.7 | 外面スス/網代圧痕 |
| E-336 | 97 | SX01 | VE14c | 縄文土器 | 鉢 | | 7.8 | | | *3.2 | |
| E-337 | 97 | SD21 | VE14s | 縄文土器 | 深鉢 | | | | | *3.3 | |
| E-338 | 97 | SD21 | VE15t | 縄文土器 | | | | | | | |
| E-339 | 97 | 検出I | VF15a | 縄文土器 | | | | | | | |
| E-340 | 97 | SD21 | VE14r | 縄文土器 | | | | | | | |
| E-341 | 97 | SD30 | VF15b | 縄文土器 | 深鉢 | | | | | *6.7 | 内面スス? |
| E-342 | 97 | 検出I | VF14a | 縄文土器 | 深鉢 | | 18.6 | | | *3.8 | |
| E-343 | 01 | SD11 | VF14s | 縄文土器 | 深鉢 | | | | | *4.7 | |
| E-344 | 01 | SD64北溝上層 | VF16l | 縄文土器 | 壺 | | 14.6 | | | *7.3 | |
| E-345 | 97 | SZ02南溝上層 | | | 土偶 | | *3.2 | *2.2 | | *1.6 | |
| S-346 | 97 | SK31 | VF15f | 石器 | 石鏃 | | 1.9 | 1.4 | | 0.5 | 下呂石/0.6g |
| S-347 | 97 | 検出III | VF15e | 石器 | 石鏃 | | 2.7 | 1.5 | | 0.8 | 下呂石/3.4g |
| S-348 | 97 | 検出III | VF12e | 石器 | 石鏃 | | 2.2 | 1.3 | | 0.5 | 下呂石/1.1g |
| S-349 | 97 | SZ01北溝 | VF16d | 石器 | 石鏃 | | 2.4 | 1.5 | | 0.5 | 下呂石/1.2g |
| S-350 | 01 | 検出I | VF17m | 石器 | 石鏃 | | *2.9 | 1.8 | | 0.7 | チャート/3.3g |
| S-351 | 99A | 検出I | VF18p | 石器 | 石鏃 | | 4.7 | 2.0 | | 0.8 | 下呂石/4.0g |
| S-352 | 01 | SD22 | VF17h | 石器 | 調整痕剥片 | | 3.6 | 2.8 | | 1.0 | チャート/5.8g |
| S-353 | 97 | SK67 | VF17f | 石器 | 調整痕剥片 | | 3.4 | 2.3 | | 0.7 | チャート/4.4g |
| S-354 | 01 | 検出III | VF14j | 石器 | 調整痕剥片 | | 3.2 | 2.7 | | 1.2 | 下呂石/9.6g |
| S-355 | 97 | 検出III | VF12e | 石器 | 調整痕剥片 | | 2.0 | 1.6 | | 0.4 | 下呂石/0.6g |
| S-356 | 01 | SD10最下層 | VF14n-14o | 石器 | 縦長剥片 | | 5.0 | 1.8 | | 1.1 | 下呂石/6.8g |
| S-357 | 97 | 検出III | VF16t | 石器 | 残核? | | 4.3 | 3.4 | | 2.1 | 下呂石/21.4g |
| S-358 | 01 | SD64西溝上層 | VF16i | 石器 | 残核? | | 5.6 | 3.5 | | 2.3 | 下呂石/31.2g |
| S-359 | 97 | SB07 | VF16h | 石器 | 棒状加工品 | | 4.9 | 1.4 | | 0.8 | ホルンフェルス/6.9g |
| S-360 | 97 | 検出III | VF14g | 石器 | 礫石錘 | | 8.0 | 5.7 | | 3.5 | 砂岩/125.8g |
| S-361 | 97 | 検出II | VF15d | 石器 | 礫石錘 | | 8.8 | 6.1 | | 2.2 | 砂岩/168.9g |
| S-362 | 97 | 検出II | VF14d | 石器 | 礫石錘 | | 5.1 | 4.8 | | 1.8 | 安山岩/61.1g |
| S-363 | 97 | SK31 | VF15f | 石器 | 礫石錘 | | 6.4 | 5.0 | | 1.2 | 安山岩/50.4g |
| S-364 | 97 | SK67 | VF17f | 石器 | 礫石錘 | | 6.2 | 4.4 | | 1.6 | ホルンフェルス/53.6g |
| S-365 | 97 | SB07 | VF16g | 石器 | 切目石錘 | | 5.8 | 4.4 | | 1.2 | ホルンフェルス/48.9g |
| S-366 | 97 | 検出II | VF15d | 石器 | 切目石錘 | | 6.3 | 5.1 | | 1.7 | 砂岩/82.6g |
| S-367 | 01 | SB02 | VF14i | 石器 | 切目石錘 | | 6.0 | 4.0 | | 1.5 | 砂岩/56.9g |
| S-368 | 01 | SK33 | VF18j | 石器 | 切目石錘 | | 5.4 | 3.1 | | 1.7 | 砂岩/36.6g |

遺物一覧表 5

| 番号 | 調査区 | 遺構 | グリッド | 種別 | 器種 | 型式 | 口径(cm) | 底径(cm) | 器高(cm) | 残存 | 備考 |
|-------|-----|-----------------|-----------|------|---------|----|--------|--------|--------|-------|---------------|
| S-369 | 97 | 検出Ⅲ | VF15g | 石器 | 切目石錘 | | 4.2 | 3.4 | 1.1 | | 砂岩/20.8g |
| S-370 | 97 | 検出Ⅲ | VF18g | 石器 | 切目石錘 | | 4.1 | 3.2 | 1.1 | | ホルンフェルス/21.5g |
| S-371 | 01 | SD51 | VF16j | 石器 | 磨石・敲石 | | 15.0 | 10.7 | 7.6 | | 濃飛流紋岩/1700.0g |
| S-372 | 01 | SD10 | VF16q | 石器 | 磨石・敲石 | | 18.2 | 10.0 | 5.3 | | 濃飛流紋岩/1200.0g |
| S-373 | 97 | SD45 | VF17h | 石器 | 磨石・敲石 | | 11.2 | 9.7 | 4.6 | | 安山岩/820.0g |
| S-374 | 97 | SD27 | VF15a | 石器 | 磨石・敲石 | | 10.7 | 10.6 | 4.2 | | 安山岩/745.0g |
| S-375 | 97 | 検出Ⅲ | VF16e | 石器 | 磨石・敲石 | | 12.7 | 11.2 | 6.7 | | 花崗岩/1300.0g |
| S-376 | 97 | 検出Ⅲ | VF14f | 石器 | 磨石・敲石 | | 7.8 | 7.3 | 3.8 | | 安山岩/276.4g |
| S-377 | 97 | 検出Ⅰ | VF16j | 石器 | 磨石・敲石 | | 8.8 | 8.3 | 4.5 | | 安山岩/470.8g |
| S-378 | 97 | 検出Ⅲ | VF16h | 石器 | 磨石・敲石 | | 8.3 | 8.0 | 4.3 | | 花崗岩/405.8g |
| S-379 | 97 | SZ01北溝 | VF17f | 石器 | 磨石・敲石 | | 10.2 | 8.5 | 4.8 | | 安山岩/566.0g |
| S-380 | 01 | SX04 | VF17l | 石器 | 磨石・敲石 | | 7.7 | 7.1 | 3.1 | | 安山岩/251.0g |
| S-381 | 97 | SK31 | VF15f | 石器 | 磨石・敲石 | | 8.5 | 7.2 | 2.3 | | 砂岩/158.6g |
| E-382 | 97 | SB01 | VE13r | 土師器 | 受口壺 | | 12.7 | 9.4 | 26.5 | 1/12 | 外面スス |
| E-383 | 97 | SB01 | VE13s | 土師器 | <字壺? | | 23.0 | | *3.9 | 1/12 | |
| E-384 | 97 | SB01 | VE13r | 土師器 | 受口壺 | | 15.0 | | *18.2 | 4/12 | 外面スス |
| E-385 | 97 | 検出Ⅰ(SB01) | VE14s | 土師器 | S字壺B | | | 9.3 | *3.9 | | 外面タタキ |
| E-386 | 97 | SB01 | VE13s | 土師器 | <字壺 | | 18.8 | | *3.5 | 1/12 | 外面スス |
| E-387 | 97 | SB01 | VE13r | 土師器 | S字壺A | | 17.4 | | *6.3 | 6/12 | |
| E-388 | 97 | SB01 | VE13r | 土師器 | S字壺B | | | | *6.9 | | 外面スス |
| E-389 | 97 | SB01 | VE13r | 土師器 | 高杯 | | 23.6 | | *10.7 | 7/12 | |
| E-390 | 97 | SB01 | VE13s | 土師器 | 高杯 | | | | *6.5 | | |
| E-391 | 97 | 検出Ⅰ(SB01) | VE13s | 土師器 | 加飾高杯 | | 27.8 | | *5.4 | 1/12 | |
| E-392 | 97 | 検出Ⅰ(SB01) | VE13r | 土師器 | 加飾高杯 | | 20.4 | | *3.8 | 2/12 | |
| E-393 | 97 | SB01 | VE13r | 土師器 | 内彎短頸壺 | | | 4.4 | *4.6 | | 外面スス |
| E-394 | 97 | SB01 | VE13s | 土師器 | 加飾壺 | | | | *3.2 | | |
| E-395 | 97 | SK121 | VF13a | 土師器 | <字壺 | | 19.5 | | 24.6 | 11/12 | 外面スス |
| E-396 | 97 | SK121 | VF13a | 土師器 | 受口壺 | | 20.0 | | *2.7 | 1/12 | |
| E-397 | 97 | SK121 | VF13a | 土師器 | S字壺0 | | 17.0 | | *2.8 | 1/12 | |
| E-398 | 97 | SK121 | VF13a | 土師器 | 高杯 | | | 14.4 | *5.6 | | |
| E-399 | 97 | SD49 | VF13d | 土師器 | <字壺 | | 17.9 | | *20.0 | 12/12 | 外面スス |
| E-400 | 97 | SD49 | VF13d | 土師器 | 受口壺 | | 15.6 | | *10.5 | 2/12 | 外面スス |
| E-401 | 97 | SD49 | VF13d | 土師器 | 台付壺 | | | | *4.5 | | 外面スス |
| E-402 | 97 | SD49 | VF13d | 土師器 | 加飾壺 | | | | *5.2 | | |
| E-403 | 97 | SD49 | VF13d | 土師器 | 壺 | | | 7.0 | *7.0 | | |
| E-404 | 97 | SD49 | VF13d | 土師器 | 加飾壺 | | 14.4 | | *5.9 | 3/12 | |
| E-405 | 97 | SK10 | VF17h | 土師器 | 高杯 | | 18.4 | | *14.0 | 4/12 | 外面スス |
| E-406 | 97 | SD50(SX01) | VF12e | 弥生土器 | <字壺 | | 12.4 | | *5.6 | 2/12 | 外面スス |
| E-407 | 97 | 検出Ⅰ(SX01) | VF12c | 弥生土器 | <字壺 | | 13.0 | | *3.2 | 2/12 | |
| E-408 | 97 | 検出Ⅱ(SX01) | VF13d | 弥生土器 | 高杯 | | 27.0 | | *3.7 | 1/12 | 赤彩 |
| E-409 | 97 | 検出Ⅰ(SX01) | VF12d-12e | 弥生土器 | 器台 | | | | *7.5 | | 赤彩 |
| E-410 | 97 | 検出Ⅱ(SX01) | VF12e | 土師器 | 受口壺 | | 25.2 | | *5.2 | 1/12 | |
| E-411 | 97 | 検出Ⅱ(SX01) | VF13e | 土師器 | 壺 | | 20.2 | | *2.1 | 2/12 | 外面スス |
| E-412 | 97 | 検出Ⅱ(SX01) | VF13d | 土師器 | S字壺B | | 12.8 | | *2.7 | 2/12 | |
| E-413 | 97 | 検出Ⅱ(SX01) | VF13e | 土師器 | 高杯 | | 16.0 | | *4.2 | 6/12 | |
| E-414 | 97 | 検出Ⅱ(SX02) | VF14c | 土師器 | 壺 | | 15.6 | | *4.8 | 1/12 | 外面スス |
| E-415 | 97 | 検出Ⅱ(SX02) | VF14c | 土師器 | パレス壺 | | | | *3.7 | 1/12 | |
| E-416 | 97 | 検出Ⅰ(SX02) | VF16a | 弥生土器 | 長頸壺 | | 9.2 | | *3.8 | 1/12 | 赤彩 |
| E-417 | 97 | 検出Ⅰ(SX02) | VE14r | 弥生土器 | 高杯 | | 28.6 | | *3.8 | 2/12 | 赤彩 |
| E-418 | 97 | 検出Ⅱ(SX02) | VF14c | 弥生土器 | 高杯 | | 23.8 | | *3.1 | 1/12 | |
| E-419 | 97 | 表土剥ぎ(SX02) | | 弥生土器 | 高杯 | | | | *3.2 | | |
| E-420 | 97 | SD13 | VF15b | 弥生土器 | <字壺 | | 20.6 | | *9.5 | 2/12 | 外面スス |
| E-421 | 97 | SD23 | VE13t | 土師器 | 台付壺 | | | 8.0 | *4.3 | | |
| E-422 | 97 | SD21 | VF17d | 土師器 | タタキ壺 | | | | *3.7 | | |
| E-423 | 97 | NR01 | VF18e | 土師器 | 台付壺? | | | | *8.0 | | |
| E-424 | 97 | SD31 | VE13s | 土師器 | 内彎短頸壺 | | 13.7 | | *5.9 | 1/12 | |
| E-425 | 97 | 検出Ⅰ | VF16b | 土師器 | 内彎短頸壺 | | 6.4 | | *3.0 | 4/12 | |
| E-426 | 97 | SD22 | VE13t | 土師器 | 壺 | | | 4.8 | *2.4 | | |
| E-427 | 97 | SD50 | VF12b | 土師器 | 高杯 | | | 10.4 | *5.1 | | 赤色顔料付着? |
| E-428 | 97 | SZ01西溝 | VF17d | 土師器 | 壺 | | 21.0 | | *5.3 | 2/12 | 外面スス |
| E-429 | 97 | SZ01北溝 | VF16d | 土師器 | S字壺0 | | 16.2 | | *2.5 | 1/12 | 外面スス |
| E-430 | 97 | SZ01西溝 | VF17c | 土師器 | 受口壺 | | 12.0 | | *1.6 | 1/12 | |
| E-431 | 97 | SZ01西溝 | VF17c | 土師器 | <字壺 | | 16.2 | | *1.8 | 2/12 | |
| E-432 | 97 | SZ01西溝 | VF17c | 土師器 | S字壺A | | 15.8 | | *2.5 | 1/12 | 外面スス |
| E-433 | 97 | SZ01西溝 | VF17c | 土師器 | 受口壺 | | 14.2 | | *2.1 | 2/12 | 外面スス |
| E-434 | 97 | SZ01西溝 | VF17c-17d | 土師器 | 台付壺 | | | 10.1 | *6.0 | | |
| E-435 | 97 | SZ01北溝 | VF17e | 土師器 | 台付壺 | | | 6.0 | *3.1 | | |
| E-436 | 97 | SZ01北溝 | VF16d | 土師器 | 内彎短頸壺 | | 10.0 | | *4.7 | 2/12 | |
| E-437 | 97 | SZ01北溝 | VF16d | 土師器 | 加飾壺 | | | | *2.8 | | |
| E-438 | 97 | SZ01北溝 | VF17f | 土師器 | 高杯 | | | | *4.9 | | |
| E-439 | 97 | SZ01西溝 | VF17d | 土師器 | 有稜低脚高杯? | | 11.6 | | *3.6 | 2/12 | |
| E-440 | 97 | SZ01西溝 | VF17d | 土師器 | 高杯? | | | 18.8 | *2.2 | | |
| E-441 | 97 | 検出Ⅰ(SZ01北溝) | VF16d | 土師器 | 有稜低脚高杯 | | | | *3.6 | | |
| E-442 | 97 | SZ02南溝下層 | VF19i | 弥生土器 | <字壺 | | 16.4 | | *5.9 | 3/12 | 外面スス |
| E-443 | 97 | SZ02南溝下層 | VF18h | 土師器 | 台付壺? | | | 12.2 | *4.2 | | |
| E-444 | 97 | SZ02南溝下層 | VF19i | 弥生土器 | 高杯 | | 26.2 | | *3.7 | 2/12 | |
| E-445 | 97 | SZ02南溝下層 | VF18h | 土師器 | 高杯 | | | | *3.6 | | |
| E-446 | 97 | SZ02南溝下層 | VF19i | 土師器 | 高杯 | | | | *5.2 | | |
| E-447 | 97 | SZ02南溝下層 | VF19i | 土師器 | 内彎短頸壺 | | 9.8 | | *3.7 | 2/12 | |
| E-448 | 97 | SZ02南溝下層 | VF19i | 土師器 | 内彎短頸壺 | | 8.0 | | *3.6 | 2/12 | |
| E-449 | 97 | SZ02南溝下層 | VF18h | 土師器 | 内彎短頸壺 | | 12.8 | | *3.3 | 1/12 | |
| E-450 | 97 | SZ02南溝下層 | VF19i | 弥生土器 | 広口壺 | | 12.7 | 7.5 | 25.9 | 12/12 | |
| E-451 | 97 | SZ02南溝 | VF18h-19i | 土師器 | 広口壺 | | 17.0 | | *27.0 | 3/12 | |
| E-452 | 97 | SZ02西溝(SD67) | VF17h | 土師器 | S字壺A | | 16.8 | | *5.3 | 6/12 | |
| E-453 | 97 | SZ02西溝 | VF17h | 土師器 | <字壺 | | | | *5.5 | | |
| E-454 | 97 | SZ02西溝(SD64/67) | VF17h | 土師器 | 壺 | | | | *7.3 | | |
| E-455 | 97 | SZ02西溝 | VF17h | 土師器 | 高杯 | | | | *4.9 | | |
| E-456 | 97 | SZ02西溝 | VF17h | 土師器 | 広口壺 | | | 3.7 | *21.8 | 2/12 | |
| E-457 | 97 | SD66 | VF17h | 土師器 | 受口壺 | | 19.0 | | *5.1 | 3/12 | |
| E-458 | 97 | SD65 | VF17h | 土師器 | 高杯 | | | | *6.6 | | |
| E-459 | 97 | SD65 | VF17h | 土師器 | 高杯 | | | | *5.8 | | |
| E-460 | 97 | SD66 | VF17h | 土師器 | 高杯 | | | | *5.5 | | 透孔4 |

遺物一覧表 6

| 番号 | 調査区 | 遺構 | グリッド | 種別 | 器種 | 型式 | 口径(cm) | 底径(cm) | 器高(cm) | 残存 | 備考 |
|-------|-----|-----------------|------------|------|---------|----|--------|--------|--------|-------|------------|
| E-461 | 97 | SD66 | VF17h | 土師器 | 高杯 | | | | 13.4 | *5.0 | |
| E-462 | 97 | SD66 | VF17h | 土師器 | 高杯 | | 25.0 | | | *12.1 | 5/12 |
| E-463 | 97 | SD63 | VF17h | 土師器 | 有稜低脚高杯? | | | | | *3.0 | |
| E-464 | 97 | SD64 | VF17h | 土師器 | 台付壺 | | | 7.4 | | *3.6 | |
| E-465 | 97 | SD62 | VF17h | 土師器 | 台付壺 | | | 8.6 | | *4.4 | 外面スス/外面タタキ |
| E-466 | 97 | SD62 | VF17h | 土師器 | 台付壺 | | | 9.2 | | *3.6 | |
| E-467 | 97 | SD64 | VF17h | 土師器 | 壺 | | | 7.4 | | *4.0 | |
| E-468 | 97 | SD64 | VF17h | 土師器 | S字壺A | | 17.8 | | | *1.9 | 1/12 |
| E-469 | 97 | SD62 | VF17h | 土師器 | 高杯 | | | | | *6.2 | 透孔4 |
| E-470 | 97 | SD61 | VF17h | 土師器 | 有稜低脚高杯? | | 13.8 | | | *3.0 | 1/12 |
| E-471 | 97 | SD62 | VF17h | 土師器 | 高杯 | | | | | *4.3 | |
| E-472 | 97 | SZ02南溝中層 | VF18h | 土師器 | 加飾高杯 | | 28.2 | | | *6.7 | 1/12 |
| E-473 | 97 | SZ02南溝中層 | VF18h | 土師器 | 高杯 | | | 12.2 | | *4.1 | |
| E-474 | 97 | SZ02南溝中層 | VF18h | 土師器 | 高杯 | | | | | *5.6 | |
| E-475 | 97 | SZ02南溝中層 | VF18h | 土師器 | <字壺 | | 18.4 | | | *4.0 | 2/12 |
| E-476 | 97 | SZ02南溝中層 | VF18h | 土師器 | 台付壺 | | | 7.6 | | *6.1 | 外面スス |
| E-477 | 97 | SZ02南溝上層 | VF18h | 弥生土器 | 高杯 | | 29.6 | | | *4.1 | 1/12 赤彩 |
| E-478 | 97 | SZ02南溝上層 | VF18h | 土師器 | 受口壺 | | 26.1 | | | *3.5 | 1/12 |
| E-479 | 97 | SZ02南溝上層 | VF18h | 土師器 | 器台? | | 12.0 | | | *3.0 | 1/12 赤彩 |
| E-480 | 01 | SD64西溝下層 | VF16i | 土師器 | 椀形高杯 | | 21.0 | | | *5.2 | 2/12 |
| E-481 | 01 | SD64西溝下層 | VF16i | 土師器 | 高杯 | | | | | *3.9 | |
| E-482 | 01 | SD64西溝下層 | VF16i | 土師器 | 高杯 | | | | | *5.5 | |
| E-483 | 01 | SD64西溝下層 | VF16i | 土師器 | 小型器台? | | 10.0 | | | *1.4 | 1/12 赤彩 |
| E-484 | 01 | SD64西溝下層 | VF16i | 土師器 | 壺 | | | 7.4 | | *4.0 | |
| E-485 | 01 | SD64西溝下層 | VF16i | 土師器 | タタキ壺 | | | | | *3.4 | |
| E-486 | 01 | SD64西溝中層 | VF16i | 土師器 | 壺 | | | 7.0 | | *6.2 | |
| E-487 | 01 | SD64西溝中層 | VF16i | 土師器 | 高杯 | | | | | *3.8 | 外面スス? |
| E-488 | 01 | SD64西溝上層 | VF16j | 土師器 | 器台 | | 19.2 | | | *1.4 | 1/12 |
| E-489 | 01 | SD64西溝上層 | VF16i | 土師器 | 高杯 | | | 12.4 | | *1.9 | |
| E-490 | 01 | SD64西溝上層 | VF16i | 土師器 | 台付壺 | | | 8.3 | | *5.1 | |
| E-491 | 97 | 東壁トレンチ(SZ02西溝) | VF17i | 土師器 | 台付壺 | | | 8.6 | | *4.6 | 外面スス |
| E-492 | 97 | SZ02西溝上層 | VF16i | 土師器 | 加飾壺 | | | | | *5.4 | |
| E-493 | 01 | SD64西溝上層 | VF16i | 土師器 | 受口壺? | | | | | *3.3 | 外面スス |
| E-494 | 01 | SD64西溝上層 | VF16i | 土師器 | 壺 | | | 6.0 | | *1.9 | |
| E-495 | 01 | SD64西溝最下層 | VF16j | 土師器 | 広口壺 | | 10.2 | 26.8 | | *28.3 | 12/12 |
| E-496 | 01 | SD64西溝最下層 | VF16i | 土師器 | 受口壺 | | 18.0 | | | *3.0 | 2/12 |
| E-497 | 01 | SD64西溝最下層 | VF16i | 土師器 | 受口壺 | | 13.8 | | | *2.6 | 1/12 外面スス? |
| E-498 | 01 | SD64北溝中層 | VF16l | 土師器 | 柳ヶ坪型壺 | | 19.0 | 6.8 | | *32.0 | 1/12 |
| E-499 | 01 | SD64北溝中層 | VF16m | 土師器 | S字壺A | | 18.2 | | | *1.5 | 1/12 |
| E-500 | 01 | SD64北溝中層 | VF16l | 土師器 | <字壺 | | 19.6 | | | *2.7 | 1/12 外面スス |
| E-501 | 01 | SD64北溝下層 | VF17m | 土師器 | <字壺 | | 17.8 | | | *2.9 | 2/12 |
| E-502 | 01 | SD64北溝中層 | VF16m | 土師器 | 受口壺 | | 16.6 | | | *1.9 | 1/12 外面スス |
| E-503 | 01 | SD64北溝中層 | VF17l | 土師器 | <字壺 | | 13.0 | | | *5.9 | 2/12 外面スス |
| E-504 | 01 | SD64北溝中層 | VF17l-17m | 土師器 | 内彎短頸壺 | | | 3.0 | | *2.5 | |
| E-505 | 01 | SD64北溝中層 | VF16l | 土師器 | パレス壺? | | | 3.8 | | *3.0 | 赤彩 |
| E-506 | 01 | SD64北溝中層 | VF16l | 土師器 | 低脚高杯 | | 11.2 | 16.5 | | 9.8 | 11/12 |
| E-507 | 01 | SD64北溝中層 | VF16m | 土師器 | 高杯 | | 22.6 | | | *5.1 | 1/12 |
| E-508 | 01 | SD64北溝中層 | VF16m | 土師器 | 高杯 | | 24.0 | | | *3.4 | 1/12 |
| E-509 | 01 | SD64北溝中層 | VF16m | 土師器 | 小型高杯 | | | 10.2 | | *3.0 | |
| E-510 | 01 | SD64北溝中層 | VF16m | 土師器 | 高杯 | | | | | *4.0 | |
| E-511 | 01 | SD64北溝下層 | VF17l | 土師器 | 高杯 | | | | | *5.5 | |
| E-512 | 99C | SD13 | VF18-19l.m | 土師器 | 広口壺 | | 16.8 | 8.2 | | *31.0 | 5/12 |
| E-513 | 99C | SD13 | VF18-19l.m | 土師器 | 広口壺 | | | 23.4 | | *22.6 | |
| E-514 | 99C | SD13 | VF18-19l.m | 土師器 | S字壺A | | | 5.3 | | *3.4 | |
| E-515 | 99C | SD13 | VF18-19l.m | 土師器 | S字壺A | | | | | *3.1 | |
| E-516 | 99C | SD13 | VF18-19l.m | 土師器 | 器台 | | 24.6 | | | *2.7 | 2/12 赤彩 |
| E-517 | 01 | SD64北溝上層 | VF16m | 土師器 | 受口壺 | | 16.0 | | | *2.2 | 1/12 外面スス |
| E-518 | 01 | SD64北溝上層 | VF17m | 土師器 | <字壺 | | 9.8 | | | *5.2 | 3/12 |
| E-519 | 01 | SD64北溝上層 | VF18m | 土師器 | 高杯 | | 17.2 | | | *2.6 | 1/12 |
| E-520 | 01 | SD64北溝上層 | VF16l | 土師器 | 加飾高杯 | | | | | *3.1 | 1/12 |
| E-521 | 01 | SD64北溝上層 | VF17l | 土師器 | 高杯 | | | 19.6 | | *5.8 | |
| E-522 | 01 | SD64北溝上層 | VF18m | 土師器 | 高杯 | | | | | *5.9 | |
| E-523 | 01 | SD64北溝上層 | VF16m | 土師器 | 内彎短頸壺 | | 15.8 | | | *4.4 | 2/12 |
| E-524 | 01 | SD64北溝上層 | VF18m | 土師器 | 内彎短頸壺 | | 11.4 | | | *4.8 | 1/12 |
| E-525 | 01 | SD64北溝上層 | VF16m | 土師器 | 壺? | | 10.4 | | | *5.3 | 3/12 |
| E-526 | 01 | SD64北溝上層 | VF18m | 土師器 | 内彎短頸壺 | | 13.2 | | | *5.7 | 2/12 |
| E-527 | 01 | SD64北溝上層 | VF18m | 土師器 | パレス壺 | | 20.6 | | | *1.9 | 1/12 |
| E-528 | 01 | SD42 (SD64北溝) | VF16l-17l | 土師器 | パレス壺 | | | | | *3.0 | 赤彩 |
| E-529 | 01 | SD64北溝上層 | VF16l | 土師器 | 壺 | | | 4.8 | | *2.4 | |
| E-530 | 01 | SD64北溝上層 | VF18m | 土師器 | 壺 | | | | | *5.7 | |
| E-531 | 01 | 検出 I (SD64北溝上層) | VF17m | 土師器 | 加飾壺 | | | | | *4.3 | |
| E-532 | 01 | SD64北溝上層 | VF16m | 土師器 | パレス壺 | | | | | *2.0 | 赤彩 |
| E-533 | 01 | SD64北溝上層 | VF16l | 土師器 | 手焙形土器 | | | | | *3.6 | |
| E-534 | 01 | SD35西溝上層 | VF15o | 土師器 | 受口壺 | | 18.2 | | | *3.2 | 1/12 |
| E-535 | 01 | SD35西溝上層 | VF16n | 土師器 | 広口壺 | | 19.8 | | | *5.6 | 2/12 |
| E-536 | 01 | SD35上層 | VF16n | 土師器 | 台付壺 | | | 8.2 | | *4.8 | |
| E-537 | 01 | SD35上層 | VF15n | 土師器 | 壺 | | | 7.0 | | *2.8 | 外面スス |
| E-538 | 01 | SD22 (SD35南溝) | VF17o | 土師器 | パレス壺 | | 16.2 | | | *2.5 | 1/12 赤彩 |
| E-539 | 01 | SD35東溝上層 | VF18p | 土師器 | <字壺 | | 18.4 | | | *3.6 | 2/12 外面スス |
| E-540 | 01 | SD35東溝上層 | VF18o | 土師器 | 台付壺 | | | | | *4.5 | |
| E-541 | 01 | SD35東溝上層 | VF18p | 土師器 | 内彎短頸壺 | | 13.2 | | | *4.7 | 3/12 |
| E-542 | 01 | SD35東溝 | VF18p | 土師器 | 小型壺 | | 11.0 | | | *3.6 | 1/12 |
| E-543 | 01 | SD35東溝上層 | VF18p | 土師器 | 壺 | | | 8.0 | | *3.3 | |
| E-544 | 01 | SD35東溝上層 | VF18o | 土師器 | 高杯 | | | | | *4.6 | 透孔3 |
| E-545 | 01 | SD11 | VF14s | 土師器 | S字壺B | | 17.6 | | | *3.5 | 1/12 |
| E-546 | 01 | SD11 | VF14s | 土師器 | S字壺 | | | | | *1.4 | 外面スス? |
| E-547 | 01 | SD11 | VF14s | 土師器 | 鉢 | | 15.2 | | | *4.0 | 1/12 |
| E-548 | 01 | SD11 | VF14s | 土師器 | 椀形低脚高杯 | | 11.6 | | | *3.3 | 1/12 |
| E-549 | 01 | SD11 | VF15s | 土師器 | 低脚高杯 | | | | 20.6 | *7.1 | |
| E-550 | 01 | SD17 | VG16a | 土師器 | S字壺A | | 19.6 | | | *2.4 | 1/12 |
| E-551 | 01 | SD20下層 | VG13a | 土師器 | 壺 | | 21.0 | | | *7.0 | 1/12 外面スス |
| E-552 | 01 | SD20下層 | VG14b | 土師器 | 内彎短頸壺 | | 8.2 | | | *4.4 | 1/12 |

遺物一覧表7

| 番号 | 調査区 | 遺構 | グリッド | 種別 | 器種 | 型式 | 口径(cm) | 底径(cm) | 器高(cm) | 残存 | 備考 |
|-------|-----|----------------|-------------|-----|-------|----|--------|--------|--------|-------|----------|
| E-553 | 01 | SD20下層 | VG14b | 土師器 | 高杯 | | | 12.6 | *4.5 | | |
| E-554 | 01 | SD20下層 | VG14b | 土師器 | 器台 | | 13.4 | | *2.4 | 2/12 | |
| E-555 | 01 | SD20下層 | VG13b | 土師器 | 器台 | | | | *7.4 | | 内外面スス |
| E-556 | 01 | SD20下層 | VG14b | 土師器 | 高杯 | | | 17.4 | *5.0 | | |
| E-557 | 01 | SD20上層 | VG14b | 土師器 | パレス壺 | | | 7.4 | *2.5 | | 赤彩 |
| E-558 | 01 | SD20上層 | VG14b | 土師器 | タタキ壺 | | 12.6 | | *3.7 | 1/12 | |
| E-559 | 01 | SD07 | VG12d | 土師器 | S字壺B | | 15.0 | | *3.4 | 2/12 | 外面スス |
| E-560 | 01 | SD07 | VG11c | 土師器 | S字壺 | | | | *1.9 | | |
| E-561 | 01 | SD07 | VG12d | 土師器 | 小型壺 | | 10.0 | | *5.0 | 1/12 | |
| E-562 | 01 | SD06 (SD07最上層) | VG12d | 土師器 | パレス壺 | | | | *5.7 | | 赤彩 |
| E-563 | 01 | 検出 I (SD07) | VG12c | 土師器 | 壺? | | 12.2 | | *3.2 | 2/12 | 外面スス? |
| E-564 | 01 | SD07 | VG13e | 土師器 | パレス壺 | | | | *4.4 | | 赤彩 |
| E-565 | 01 | SD07 | VG13e | 土師器 | 高杯 | | | | *6.7 | | 透孔4 |
| E-566 | 01 | SD07中層 | VG13e | 土師器 | 壺 | | | | *15.1 | | |
| E-567 | 01 | SB01 | VG13b-13c | 土師器 | S字壺B | | 19.0 | | *2.6 | 2/12 | 外面スス |
| E-568 | 01 | SB01 | VG13c | 土師器 | S字壺 | | | | *1.8 | | 内面スス |
| E-569 | 01 | SK68 (SB01) | VG13c | 土師器 | 台付壺 | | | 8.3 | *4.8 | | |
| E-570 | 01 | SB01 | VG13c | 土師器 | 加飾高杯 | | 25.8 | | *5.8 | 1/12 | |
| E-571 | 01 | SK66 (SB01) | VG13b | 土師器 | 内彎短頸壺 | | 10.4 | | *4.7 | 2/12 | |
| E-572 | 01 | SD08 | VG15e | 土師器 | S字壺A | | 12.3 | | *3.3 | 1/12 | |
| E-573 | 01 | SD08 | VG15e | 土師器 | S字壺A | | 16.3 | | *3.4 | 1/12 | 外面スス |
| E-574 | 01 | SD08 | VG15e | 土師器 | 受口壺? | | 13.2 | | *3.5 | 1/12 | 外面スス? |
| E-575 | 01 | SD10 | VF16t | 土師器 | 加飾高杯 | | 26.0 | | *4.7 | 1/12 | |
| E-576 | 01 | 検出 I | VG16e | 土師器 | パレス壺 | | 18.8 | | *1.9 | 3/12 | 赤彩 |
| E-577 | 01 | SD10最下層 | VF14n | 土師器 | 広口壺 | | 15.9 | | *4.4 | 2/12 | |
| E-578 | 01 | SK61 | VG15e | 土師器 | 広口壺 | | 16.4 | | *5.5 | 2/12 | |
| E-579 | 01 | SD08 | VG15e | 土師器 | 広口壺? | | 11.4 | | *2.5 | 2/12 | 赤彩 |
| E-580 | 01 | SK61 | VG15e | 土師器 | 小型土器 | | | 2.0 | *2.5 | | |
| E-581 | 01 | SD10上層 | VF15m | 土師器 | 手捏ね土器 | | | | *3.5 | 12/12 | |
| E-582 | 99D | SD01上層 | VF16a | 土師器 | 台付壺? | | | 5.0 | *3.6 | | |
| E-583 | 96 | SD08 | VG14i | 土師器 | 加飾壺 | | 21.6 | | *3.9 | 4/12 | |
| E-584 | 96 | SD08 | VG14i | 土師器 | 広口壺 | | 19.0 | | *6.8 | 3/12 | |
| E-585 | 96 | SD08 | VG14i | 土師器 | 壺 | | | 7.4 | *4.0 | | 外面スス? |
| E-586 | 96 | SD08 | VG14i | 土師器 | パレス壺 | | 19.2 | 8.2 | *29.0 | 1/12 | 赤彩 |
| E-587 | 96 | SD08 | VG14i | 土師器 | S字壺B | | 16.6 | | *4.1 | 3/12 | |
| E-588 | 96 | SD08 | VG14i | 土師器 | S字壺A | | 15.0 | | *2.0 | 1/12 | 外面スス |
| E-589 | 96 | SD08 | VG14i | 土師器 | S字壺A | | 14.6 | | *1.9 | 2/12 | |
| E-590 | 96 | SD08 | VG14i | 土師器 | S字壺B | | 13.8 | | *2.3 | 2/12 | |
| E-591 | 96 | SD08 | VG14i | 土師器 | S字壺 | | | | *4.3 | | |
| E-592 | 96 | 検出 I | VG13l | 土師器 | <字壺 | | 12.0 | | *4.6 | 3/12 | |
| E-593 | 96 | SD08 | VG14i | 土師器 | <字壺 | | 19.0 | | *3.4 | 3/12 | 外面スス |
| E-594 | 97 | SX01 | VF14a | 須恵器 | 蓋 | | 13.9 | | 5.0 | | |
| E-595 | 97 | SX01 | VF14a | 須恵器 | 杯 | | 12.2 | | 4.7 | | |
| E-596 | 97 | 検出 I (SX01) | VF14a | 須恵器 | 提瓶 | | | | *7.0 | | |
| M-597 | 97 | SX01 | VF14a | 須恵器 | 刀子 | | | | *9.1 | | |
| E-598 | 97 | 検出 I (SX01) | VE14t | 須恵器 | 蓋 | | 11.6 | | *3.4 | | |
| E-599 | 97 | SD31 | VE13s | 須恵器 | 蓋 | | | | *1.3 | | |
| E-600 | 97 | 検出 I (SD31) | VE13s | 須恵器 | 蓋 | | | | *1.5 | | |
| E-601 | 01 | SD08 | VG16e | 須恵器 | 広口壺 | | 18.0 | | *26.8 | | |
| E-602 | 99C | P06 | VG18b | 須恵器 | 広口壺? | | | | *2.7 | | |
| E-603 | 01 | SD64北溝上層 | VF16m | 須恵器 | 把手付椀? | | 7.2 | | *7.2 | | |
| E-604 | 97 | SD37 | VF17g | 須恵器 | 蓋 | | | | *3.4 | | |
| E-605 | 99A | 表土剥ぎ | | 須恵器 | 杯 | | | | *2.8 | | |
| E-606 | 97 | SD13 | VF15b | 須恵器 | 蓋 | | 15.2 | | *2.4 | | |
| E-607 | 01 | SD22 | VF17o | 須恵器 | 杯 | | 10.2 | | 3.5 | | |
| E-608 | 01 | 検出 I | VG14a | 須恵器 | 杯 | | 9.0 | | *1.9 | | |
| E-609 | 97 | NR01 | VF18f | 須恵器 | 高杯 | | | | *6.9 | | |
| E-610 | 97 | SD30 | VF15b | 須恵器 | 高杯 | | | 5.8 | *3.3 | | |
| E-611 | 97 | SD14 | VF16a | 須恵器 | 高杯 | | | 15.8 | *1.5 | | |
| E-612 | 97 | NR01 | VF18e | 須恵器 | 短頸壺 | | 6.8 | | *4.2 | 1/12 | |
| E-613 | 97 | 検出 I (SZ01北溝) | VF17g | 土師器 | 伊勢型壺 | | | 21.6 | *10.9 | | 外面スス |
| E-614 | 01 | SD10 | VF14m | 土師器 | 伊勢型壺 | | 22.8 | | *3.9 | 3/12 | 外面スス |
| E-615 | 97 | SB02 (カマド付近) | VF11b | 須恵器 | 杯B蓋 | | 16.6 | | 4.9 | 12/12 | |
| E-616 | 97 | SB02 | VF11b | 須恵器 | 杯B蓋 | | 18.4 | | *2.4 | 2/12 | |
| E-617 | 97 | SB02 (カマド付近) | VF11b | 須恵器 | 椀A | | 12.6 | 5.8 | 4.0 | 2/12 | |
| E-618 | 97 | 検出 I (SB02) | VF11b | 須恵器 | 椀A | | | 6.2 | 2.3 | | 底部外面墨書? |
| E-619 | 97 | SB02 (カマド付近) | VF11b | 須恵器 | 杯B | | 16.3 | 12.0 | 4.1 | 4/12 | |
| E-620 | 97 | SB02 | VF11b | 土師器 | 壺 | | 20.2 | | *4.5 | 3/12 | |
| E-621 | 97 | SD30 | VF15b | 須恵器 | 椀A | | 13.2 | 7.2 | 4.2 | 7/12 | |
| E-622 | 97 | SD30 | VF14b | 須恵器 | 椀A | | 12.2 | | *3.8 | 3/12 | |
| E-623 | 97 | SD30 | VF14b | 須恵器 | 椀B | | | 10.4 | *2.4 | | |
| E-624 | 97 | SD30 | VF14b | 須恵器 | 杯B | | 16.8 | 13.8 | 3.5 | 4/12 | 底部外面ヘラ記号 |
| E-625 | 97 | SD30 | VF12d | 須恵器 | 杯B | | 17.7 | | *4.3 | 3/12 | |
| E-626 | 97 | SD30 | VF15a.b.17e | 須恵器 | 杯B | | 17.1 | 12.0 | 6.6 | 8/12 | |
| E-627 | 97 | 検出 I (SD16) | VF11d | 須恵器 | 杯B | | | 10.1 | *2.2 | | |
| E-628 | 97 | SD36 (SD16) | VF11d | 須恵器 | 杯B蓋 | | 23.1 | | *2.2 | 4/12 | |
| E-629 | 97 | SD30 | VF14b | 須恵器 | 壺 | | 23.6 | | *25.5 | 5/12 | |
| E-630 | 97 | SD38 (SD16) | VF11d | 須恵器 | 鉢 | | 17.5 | 7.2 | 9.7 | 6/12 | |
| E-631 | 97 | SD30 | VF15b | 土師器 | 濃尾型壺 | | 22.4 | | *6.7 | 3/12 | |
| E-632 | 01 | SD50 | VF16i | 土師器 | 濃尾型壺 | | 24.0 | | *5.5 | 3/12 | |
| E-633 | 97 | SD30 | VF14b | 土師器 | 濃尾型壺 | | 22.4 | | *3.7 | 1/12 | |
| E-634 | 97 | SD38 (SD16) | VF12d | 土師器 | 濃尾型壺 | | 17.8 | | *3.4 | 4/12 | |
| E-635 | 97 | SD30 | VF14b | 土師器 | 濃尾型壺 | | 13.8 | | *5.2 | 2/12 | |
| E-636 | 97 | SD38 (SD50) | VF12c | 須恵器 | 杯B蓋 | | | | *2.1 | | 内面スス |
| E-637 | 97 | SD55 | VF14h | 土師器 | 濃尾型壺 | | 24.4 | | *2.9 | 6/12 | |
| E-638 | 97 | SD37 | VF17g | 須恵器 | 杯B蓋 | | 17.3 | | *2.5 | 5/12 | |
| E-639 | 01 | SD50 | VF16i | 須恵器 | 杯B蓋 | | 18.4 | | *2.0 | 2/12 | |
| E-640 | 97 | 東壁トレンチ(SD37) | VF16i | 須恵器 | 杯B蓋 | | 19.7 | | 2.7 | 1/12 | |
| E-641 | 97 | 検出 I (SD37) | VF17g | 須恵器 | 杯B蓋 | | 20.4 | | 1.1 | 2/12 | |
| E-642 | 97 | SD37 | VF16h | 須恵器 | 杯B蓋 | | 25.8 | | *3.8 | 3/12 | |
| E-643 | 01 | SD50 | VF16i | 土師器 | 椀A | | 13.5 | 4.9 | 4.5 | 2/12 | |
| E-644 | 97 | SD37 | VF17g | 須恵器 | 椀A | | 12.6 | 7.7 | 3.6 | 2/12 | |

| 番号 | 調査区 | 遺構 | グリッド | 種別 | 器種 | 型式 | 口径(cm) | 底径(cm) | 器高(cm) | 残存 | 備考 |
|-------|-----|------------|-----------|-------|--------|-----------|--------|--------|--------|-------|------------|
| E-645 | 97 | SD37 | VF16h | 須恵器 | 杯A | | 12.2 | 5.2 | 4.0 | 3/12 | |
| E-646 | 01 | 検出I (SD50) | VF16i | 須恵器 | 杯A | | 12.4 | | *3.5 | 2/12 | |
| E-647 | 97 | SD37 | VF17d | 須恵器 | 椀B | | 16.0 | 12.8 | 4.1 | 2/12 | |
| E-648 | 97 | SD37 | VF17g | 須恵器 | 杯B | | 16.4 | 12.1 | 4.6 | 5/12 | |
| E-649 | 97 | 検出I (SD37) | VF17g | 須恵器 | 双耳瓶 | | | | *17.3 | | |
| E-650 | 97 | SD37 | VF17g | 須恵器 | 長頸瓶 | | 7.0 | | *19.2 | 12/12 | |
| E-651 | 97 | 検出I (SD37) | VF17f-g-h | 須恵器 | 壺 | | | | *19.5 | | |
| E-652 | 01 | SD50 | VF16i | 土師器 | 濃尾型壺 | | 20.2 | | *3.2 | 3/12 | |
| E-653 | 97 | SD37 | VF17g | 土師器 | 濃尾型壺 | | 22.0 | | *3.5 | 4/12 | |
| E-654 | 97 | SD37 | VF17h | 土師器 | 濃尾型壺 | | | 7.0 | *5.6 | | 外面スス |
| E-655 | 01 | SD19 | VG13a | 須恵器 | 杯B | | | 11.4 | *1.6 | | |
| E-656 | 99D | SD10 | VE6t-VF6a | 須恵器 | 杯B蓋 | | 22.1 | | *2.8 | 1/12 | |
| E-657 | 99D | SD10 | VE6t-VF6a | 須恵器 | 杯B | | | 11.6 | *1.5 | | |
| E-658 | 99D | SD10 | VE6t-VF6a | 須恵器 | 壺 | | | 4.0 | | | |
| E-659 | 99B | SD10 | VE6t | 須恵器 | 鉢 | | | 12.4 | *3.4 | | |
| E-660 | 99D | SD10 | VE6t-VF6a | 須恵器 | 甌 | | | 20.9 | *5.5 | | |
| E-661 | 97 | 検出I | VF18f | 須恵器 | 長頸瓶 | | 9.0 | | *4.8 | 2/12 | |
| E-662 | 97 | 検出I | VF18f | 須恵器 | 杯B蓋 | | | | *1.6 | | |
| E-663 | 97 | 検出I | VF15a | 須恵器 | 杯B | | | 15.0 | *2.1 | | |
| E-664 | 97 | NR01 | VF18g | 須恵器 | 杯B | | | 13.4 | *3.0 | | |
| E-665 | 01 | SK40 | VF14j | 須恵器 | 椀A | | 11.7 | | *4.1 | 5/12 | |
| E-666 | 01 | SD52 | VF17i | 須恵器 | 杯A | | 13.0 | | *3.5 | 2/12 | |
| E-667 | 01 | SK01 | VG14e | 須恵器 | 盤B | | 16.4 | | *1.7 | | |
| E-668 | 01 | SD10下層 | VF14l | 須恵器 | 高盤 | | | | *2.7 | | |
| E-669 | 01 | SD10 | VF15n | 須恵器 | 平瓶 | | 13.2 | | *6.0 | 2/12 | 外面スス |
| E-670 | 01 | SD06 | VG12d | 須恵器 | 大型深鉢把手 | | 7.4 | 5.4 | | | |
| E-671 | 01 | 検出I | VF18p | | 平瓦 | | 5.6 | 5.5 | 1.6 | | |
| E-672 | 99A | 西部南壁 | | 灰釉陶器 | 皿 | | 14.4 | 6.9 | *2.2 | 4/12 | |
| E-673 | 01 | SK01 | VG14e | 灰釉系陶器 | 小椀 | 第4型式古 | | | *2.3 | | |
| E-674 | 01 | SK01 | VG14e | 灰釉系陶器 | 椀 | 第4型式新 | | 7.6 | *2.8 | | |
| E-675 | 01 | 検出I (SD02) | VG13e | 灰釉系陶器 | 椀 | 第5型式新 | | 8.6 | *2.5 | | |
| E-676 | 01 | SD02 | VG13e | 灰釉系陶器 | 椀 | 第5型式古 | 16.6 | | | 3/12 | |
| E-677 | 01 | SD02 | VG13e | 灰釉系陶器 | 椀 | 第5型式古 | | 8.4 | *2.7 | | 内外面スス |
| E-678 | 01 | SD02 | VG13e | 灰釉系陶器 | 椀 | 第5型式新 | | 7.7 | *2.1 | | |
| E-679 | 01 | SD01 | VG14e-15e | 土師器 | 伊勢型鍋 | | 18.0 | | *2.9 | 2/12 | |
| E-680 | 01 | SD01 | VG15e | 青磁 | 椀 | 龍泉窯系I-4類 | | | *3.6 | | |
| E-681 | 01 | SD06 | VG11d | 灰釉系陶器 | 椀 | 第5型式古 | | 7.6 | *3.5 | | |
| E-682 | 01 | SD06 | VG14e | 灰釉系陶器 | 椀 | 第5型式古 | | 9.0 | *1.9 | | |
| E-683 | 01 | SD65 | VF18n | 灰釉系陶器 | 椀 | 第5型式古 | 14.4 | | *3.3 | 2/12 | 内外面スス |
| E-684 | 01 | 検出I (SD65) | VF18n | 灰釉系陶器 | 椀 | 第5型式古 | | 8.8 | *4.5 | | |
| E-685 | 01 | 検出I (SD31) | VF17m | 灰釉系陶器 | 椀 | 第3~4型式 | | 7.4 | *2.6 | | |
| E-686 | 01 | SD31 | VF17m | 灰釉系陶器 | 椀 | 第5型式古 | | 6.8 | *2.4 | | |
| E-687 | 97 | 検出I (SK12) | VF13a | 灰釉系陶器 | 椀 | 第5型式古 | | 8.0 | *3.4 | | |
| E-688 | 01 | 表土剥ぎ | | 灰釉系陶器 | 椀 | 第5型式古 | | 6.4 | *2.8 | | |
| E-689 | 01 | 表土剥ぎ | | 灰釉系陶器 | 椀 | 第5型式古 | | 8.3 | *2.4 | | |
| E-690 | 01 | 検出I | VF17n | 灰釉系陶器 | 椀 | 第5型式古 | | 7.7 | *3.5 | | |
| E-691 | 01 | SD10 (下層) | VF14n | 灰釉系陶器 | 椀 | 第5型式古~新 | | 7.0 | *2.3 | | |
| E-692 | 01 | 表土剥ぎ | | 灰釉系陶器 | 小椀 | 第4型式新 | 9.9 | 5.5 | 3.4 | 5/12 | |
| E-693 | 01 | SD22 | VF16l-16m | 灰釉系陶器 | 小椀 | 第4型式新 | | 5.2 | *1.7 | | |
| E-694 | 97 | SD33 | VF15e | 灰釉系陶器 | 椀 | 第6型式 | | 6.1 | *2.6 | | |
| E-695 | 97 | NR01客土 | VF17h | 灰釉系陶器 | 片口鉢 | 第5型式古 | | 10.0 | *3.4 | | |
| E-696 | 97 | 検出I | VF18f | 灰釉系陶器 | 片口鉢 | 第5型式古 | | 13.8 | *4.0 | | |
| E-697 | 01 | 検出I | VG13a | 灰釉系陶器 | 椀 | 大洞東 | 13.4 | | *2.7 | 2/12 | |
| E-698 | 99B | SD | | 古瀬戸 | 水注 | 後III~後IV期 | | 5.7 | *3.2 | | |
| E-699 | 97 | 検出I | VF12f | 灰釉系陶器 | 椀 | 第5型式新 | | | | | |
| E-700 | 01 | 検出I | VF16n | 灰釉系陶器 | 椀 | 第5型式 | 2.9 | 2.5 | | | |
| E-701 | 99A | 北中央部 | | 灰釉系陶器 | 壺 | | 2.4 | 1.8 | 1.2 | | |
| E-702 | 97 | NR01 | VF18h | 灰釉系陶器 | 陶丸 | | 2.4 | 2.3 | 2.1 | | |
| E-703 | 01 | SD22 | VF18q | 陶器 | 無頸壺 | | 26.7 | | *9.0 | 2/12 | |
| E-704 | 01 | SD22 | VF18q | 陶器 | 無頸壺 | | 15.0 | 12.0 | 15.9 | 3/12 | 外面スス |
| E-705 | 01 | SD22 | VF18q | 土師器 | 焙烙鍋 | | 30.6 | | 5.3 | 11/12 | |
| E-706 | 01 | SD22 | VF18q | 土師器 | 焙烙鍋 | | 28.0 | | *4.7 | 8/12 | 外面スス |
| E-707 | 01 | SD22 | VF18q | 土師器 | 焙烙鍋 | | 29.8 | | 4.2 | 8/12 | 外面スス |
| E-708 | 01 | SD22 | VF17o | 土師器 | 焙烙鍋 | | 30.0 | | 3.9 | 2/12 | 外面スス |
| E-709 | 01 | SD22 | VF18q | 土師器 | 焙烙鍋 | | 27.0 | | *3.2 | 6/12 | 外面スス |
| E-710 | 01 | SD22 | VF17p-18p | 土師器 | 皿 | | 9.1 | 5.1 | 1.7 | 1/12 | |
| E-711 | 99C | SD06 | VF18s | 土師器 | 皿 | | 3.1 | | 1.6 | 12/12 | |
| E-712 | 99C | SD06 | VF18s | 土師器 | 皿 | | 2.9 | | 1.2 | 8/12 | |
| E-713 | 01 | SD22 | VF17n | 土師器 | 皿 | | 3.4 | | 1.5 | 12/12 | |
| E-714 | 01 | SD22 | VF18q | 陶器 | 德利 | | | 10.1 | *6.2 | | 破断面スス |
| E-715 | 01 | SD22 | VF17o | 陶器 | 德利 | | | 4.9 | *5.7 | | |
| E-716 | 01 | SD22 | VF18q | 陶器 | 火鉢 | | 24.2 | | *3.6 | 2/12 | |
| E-717 | 01 | SD22 | VF18q | 陶器 | 丸皿 | | 13.9 | 6.8 | 3.0 | 12/12 | 内外面スス |
| E-718 | 01 | SD22 | VF18q | 陶器 | 丸皿 | | 13.1 | 6.7 | 2.6 | 4/12 | |
| E-719 | 01 | SD22 | VF18q | 陶器 | 丸皿 | | 13.4 | 7.0 | 3.0 | 2/12 | |
| E-720 | 01 | SD22 | VF16l-16m | 陶器 | 端反皿 | | 13.0 | 5.2 | 2.9 | 2/12 | |
| E-721 | 01 | SD22 | VF17n | 陶器 | 丸皿 | | 14.2 | | *2.2 | 3/12 | |
| E-722 | 01 | SD22 | VF18q | 陶器 | 丸皿 | | 12.6 | 7.3 | 2.7 | 5/12 | |
| E-723 | 01 | SD22 | VF18q | 陶器 | 端反皿 | | 13.2 | | *1.9 | 3/12 | |
| E-724 | 01 | SD22 | VF17p-18p | 陶器 | 蓋 | | | | 2.2 | | |
| E-725 | 01 | SD22 | VF16n | 陶器 | 丸椀 | | 11.7 | 5.3 | 7.1 | 3/12 | |
| E-726 | 01 | SD22 | VF18q | 陶器 | 丸椀 | | 11.2 | 5.3 | 7.3 | 6/12 | |
| E-727 | 01 | SD22 | VF18q | 陶器 | 丸椀 | | 10.6 | | *5.7 | 3/12 | |
| E-728 | 01 | SD22 | VF18q | 陶器 | 天目椀 | | 9.7 | 4.0 | 5.7 | 4/12 | |
| S-729 | 01 | SD22 | VF18q | 石製品 | 竈部材? | | 26.6 | 14.5 | 8.2 | | 礫岩/4100.0g |
| E-730 | 01 | SD45 | VF14i | 陶器 | 播鉢 | | 39.9 | | *11.4 | 3/12 | |
| E-731 | 01 | SD45 | VF14j | 土師器 | 焙烙鍋 | | 30.8 | | 3.4 | 4/12 | 外面スス |
| E-732 | 01 | SD45 | VF14j | 陶器 | 德利 | | 4.1 | | *10.0 | 9/12 | |
| E-733 | 01 | 検出I (SD45) | VF13i | 陶器 | 端反皿 | | 12.6 | 7.1 | 2.4 | 8/12 | |
| E-734 | 01 | SD45 | VF14j | 陶器 | 丸椀 | | 9.2 | 4.8 | 5.4 | 8/12 | |
| E-735 | 01 | SD45 | VF14j | 陶器 | 小椀 | | 6.5 | 3.0 | 4.0 | 8/12 | |
| E-736 | 01 | SD45 | VF14j | 陶器 | 小椀 | | 6.2 | 3.4 | 3.7 | 7/12 | |

遺物一覧表 9

| 番号 | 調査区 | 遺構 | グリッド | 種別 | 器種 | 型式 | 口径(cm) | 底径(cm) | 器高(cm) | 残存 | 備考 |
|-------|-----|-------------|-----------|-----|------|----|--------|--------|--------|-------|---------|
| E-737 | 01 | SD51 | VF17j | 陶器 | 火鉢 | | 34.1 | 22.4 | 11.2 | 6/12 | |
| E-738 | 01 | SD51 | VF17j | 土師器 | 焙烙鍋 | | 28.2 | | *2.6 | 2/12 | |
| E-739 | 01 | SD51 | VF17j | 土師器 | 焙烙鍋 | | 30.4 | | *2.4 | 3/12 | |
| E-740 | 01 | SD51 | VF17j | 陶器 | 蓋 | | 6.2 | | 1.6 | 11/12 | |
| E-741 | 01 | SD51 | VF18j | 陶器 | 灰落とし | | 8.2 | 5.7 | 7.8 | 5/12 | |
| E-742 | 01 | SD51 | VF17j | 陶器 | 丸皿 | | | 5.6 | *1.4 | | |
| E-743 | 01 | SD51 | VF17j | 陶器 | 蓋 | | 10.7 | | 1.9 | 9/12 | |
| E-744 | 01 | SD58 | VF16o | 陶器 | 播鉢 | | 30.4 | | *12.6 | 2/12 | |
| E-745 | 01 | SD58 | VF17o | 磁器 | 丸椀 | | 11.6 | | 6.7 | 6/12 | |
| E-746 | 01 | SD57 | VF15n | 白磁 | 菊花皿 | | 9.4 | 4.7 | 2.8 | 2/12 | |
| E-747 | 01 | SD59 | VF15o | 瓦器 | 把手 | | | | | | |
| E-748 | 01 | SD33 | VF18l | 陶器 | 播鉢 | | | 10.7 | *12.2 | | |
| E-749 | 01 | SK40 | VF14i | 陶器 | 腰鎗茶椀 | | 10.5 | 5.2 | 7.2 | 9/12 | |
| E-750 | 01 | SD43 | VF16o | 青磁 | 花瓶 | | 9.4 | | *3.9 | 3/12 | |
| E-751 | 97 | SD23 | VE13t | 陶器 | 播鉢 | | 33.8 | | *11.6 | 2/12 | |
| E-752 | 97 | SD23 | VE13t | 陶器 | 端反皿 | | 13.4 | 6.9 | 2.8 | 2/12 | |
| E-753 | 97 | SD23 | VE13t | 陶器 | 香炉 | | 13.3 | 9.0 | 7.2 | 4/12 | |
| E-754 | 97 | SD27 | VF15a | 土師器 | 皿 | | 11.2 | 6.3 | 2.0 | 3/12 | |
| E-755 | 97 | SD27 | VF16c | 陶器 | 茶入 | | 2.8 | | *2.1 | 10/12 | |
| E-756 | 97 | SD27 | VF15a | 磁器 | 小杯 | | 7.6 | 3.6 | 5.4 | 4/12 | |
| E-757 | 97 | SD27 | VF15a | 陶器 | 丸椀 | | | 5.6 | *3.2 | | |
| E-758 | 97 | SD27 | VF17g-18g | 磁器 | 小杯 | | 6.6 | 2.8 | 2.6 | 7/12 | |
| E-759 | 97 | SD26 | VF16a | 陶器 | 壺 | | 43.8 | | *8.7 | 2/12 | |
| E-760 | 97 | SD26 | VF16a | 陶器 | 丸椀 | | 9.8 | | *6.7 | 1/12 | |
| E-761 | 97 | 検出 I (SD26) | VF16a | 陶器 | 小型徳利 | | 2.8 | 4.2 | 6.0 | 1/12 | |
| E-762 | 97 | SD26 | VF16a | 磁器 | 小椀 | | 6.2 | | *3.5 | 4/12 | |
| E-763 | 97 | SD26 | VF16a | 土師器 | 皿 | | 8.0 | 5.2 | 1.4 | 4/12 | |
| E-764 | 97 | SD26 | VF16a | 土師器 | 皿 | | 7.4 | 4.4 | 1.2 | 4/12 | |
| E-765 | 97 | SD79 | VF17g-18g | 陶器 | 播鉢 | | | | *10.0 | 1/12 | |
| E-766 | 97 | 検出 I (SD79) | VF17h | 陶器 | 丸皿 | | 8.2 | 4.4 | 2.0 | 12/12 | |
| E-767 | 97 | 検出 I (SD79) | VF17h | 陶器 | 燗台 | | 4.1 | | *4.2 | 12/12 | |
| E-768 | 97 | 検出 I (SD79) | VF18f | 土師器 | 皿 | | 9.2 | 5.2 | 1.8 | 5/12 | 外面スス |
| E-769 | 97 | SD79 | VF17g-18g | 土師器 | 皿 | | 6.8 | 4.4 | 0.8 | 2/12 | 外面スス |
| E-770 | 97 | SD79 | VF17g-18g | 土師器 | 皿 | | 7.2 | 5.2 | 0.9 | 2/12 | 外面スス |
| E-771 | 97 | SD79 | VF17g-18g | 土師器 | 皿 | | 7.8 | 5.0 | 0.9 | 3/12 | 外面スス |
| E-772 | 97 | SD79 | VF17g-18g | 土師器 | 皿 | | 7.6 | 5.2 | 0.8 | 4/12 | 内外面スス |
| E-773 | 97 | SD79 | VF17g-18g | 土師器 | 皿 | | 7.4 | 5.0 | 1.0 | 2/12 | |
| E-774 | 97 | SD79 | VF17g-18g | 土師器 | 皿 | | 6.9 | 4.4 | 1.1 | 2/12 | |
| E-775 | 97 | 検出 I (SD79) | VF16h | 土師器 | 皿 | | 6.8 | 4.8 | 0.8 | 3/12 | 内面スス |
| E-776 | 97 | 検出 I (SD79) | VF17g | 土師器 | 皿 | | 6.8 | 4.8 | 0.8 | 11/12 | 外面スス |
| E-777 | 97 | 検出 I (SD79) | VF17g | 土師器 | 皿 | | 6.8 | 4.6 | 0.8 | 4/12 | |
| E-778 | 97 | 検出 I (SD79) | VF18g | 土師器 | 皿 | | 7.0 | 4.8 | 0.7 | 12/12 | 内外面スス |
| E-779 | 97 | 検出 I (SD79) | VF18g | 土師器 | 皿 | | 7.0 | 5.0 | 0.9 | 5/12 | |
| E-780 | 97 | 検出 I (SD79) | VF18g | 土師器 | 皿 | | 7.0 | 4.4 | 0.9 | 4/12 | |
| E-781 | 97 | SD33 | VF15e | 陶器 | 丸鉢 | | | 18.0 | *7.3 | | |
| E-782 | 97 | SD33 | VF15e | 陶器 | 壺 | | | 13.4 | *4.4 | | |
| E-783 | 97 | SD33 | VF15f | 陶器 | 丸鉢 | | | 11.8 | *5.4 | | |
| E-784 | 97 | SD33 | VF15e | 陶器 | 丸椀 | | | 5.0 | *3.4 | | |
| E-785 | 97 | SD33 | VF15e | 陶器 | 丸皿 | | | 6.0 | *1.5 | | |
| E-786 | 97 | SD33 | VF15e | 陶器 | 徳利 | | | 8.6 | *3.4 | | |
| E-787 | 97 | SD17 | VF14f | 土師器 | 焙烙鍋 | | 38.8 | | *3.5 | 2/12 | 外面スス |
| E-788 | 97 | SD17 | VF13e | 陶器 | 蚊いぶし | | 19.0 | | *6.1 | 2/12 | 内面スス |
| E-789 | 97 | SD17 | VF13f | 陶器 | 丸鉢 | | | 12.2 | *4.9 | | |
| E-790 | 97 | SD17 | VF14f | 陶器 | 小椀 | | 7.6 | | 3.2 | 5/12 | |
| E-791 | 97 | SD17 | VF13f | 陶器 | 蕎麦摺口 | | 7.4 | 4.0 | 5.5 | 3/12 | |
| E-792 | 97 | SD17 | VF13f | 磁器 | 小椀 | | 7.2 | 3.2 | 3.8 | 7/12 | |
| E-793 | 97 | SD17 | VF13f | 磁器 | 小椀 | | 8.4 | 3.6 | 4.2 | 6/12 | |
| E-794 | 97 | SD17 | VF13f | 陶器 | 広東茶椀 | | 10.5 | 5.7 | 5.9 | 12/12 | |
| E-795 | 97 | SD17 | VF13i | 陶器 | 丸皿 | | | 4.8 | *1.7 | | |
| E-796 | 97 | SD17 | VF13f | 陶器 | 小型皿 | | 4.9 | 1.6 | 1.4 | 12/12 | |
| E-797 | 97 | SD17 | VF13e | 陶器 | 丸皿 | | 12.6 | 6.6 | 3.2 | 2/12 | |
| E-798 | 97 | SD17 | VF14f | 陶器 | 丸皿 | | 11.0 | 5.2 | 2.8 | 2/12 | |
| E-799 | 97 | SD38 | VF11d | 土師器 | 焙烙鍋 | | 30.4 | | 4.9 | 11/12 | 外面スス |
| E-800 | 97 | SD38 | VF11d | 陶器 | 大皿 | | 36.2 | 17.2 | 8.6 | 2/12 | |
| E-801 | 97 | SD38 | VF11d | 陶器 | 丸椀 | | 11.6 | | *6.2 | 9/12 | |
| E-802 | 97 | SD38 | VF11d | 陶器 | 丸椀 | | | 5.0 | *4.4 | | |
| E-803 | 97 | SD38 | VF11d | 陶器 | 端反皿 | | 11.2 | 6.8 | 2.5 | 4/12 | |
| E-804 | 97 | SD38 | VF11c | 陶器 | 蓋 | | 9.7 | | *2.6 | 10/12 | |
| E-805 | 97 | SD36 | VF17f | 陶器 | 丸椀 | | 11.6 | 4.4 | 5.3 | 10/12 | 外面スス |
| E-806 | 97 | SD43 | VF13f | 陶器 | 丸皿 | | 11.8 | 6.1 | 3.1 | 10/12 | |
| E-807 | 97 | SK122 | VF17d | 陶器 | 花瓶 | | | 5.6 | *7.8 | | |
| E-808 | 97 | SK122 | VF17d | 陶器 | 丸椀 | | 11.8 | 3.9 | 6.2 | 5/12 | |
| E-809 | 97 | SE04 | VF17f | 陶器 | 徳利 | | | 9.8 | *17.4 | | |
| E-810 | 97 | SE04 | VF17f | 陶器 | 徳利 | | 2.2 | 6.2 | 16.5 | 1/12 | |
| E-811 | 97 | SE04 | VF17f | 陶器 | 徳利 | | | 6.0 | *10.8 | | |
| E-812 | 97 | SE04 | VF17f | 陶器 | 丸鉢 | | 14.7 | 5.8 | 8.1 | 10/12 | 外面スス |
| E-813 | 97 | SE04 | VF17f | 陶器 | 筒形鉢 | | 14.8 | | *5.3 | 3/12 | |
| E-814 | 97 | SE04 | VF17f | 陶器 | 土瓶 | | 7 | | 13.8 | 8/12 | |
| E-815 | 97 | SE04 | VF17f | 陶器 | 筒形容器 | | 6.0 | 4.8 | 4.2 | 12/12 | |
| E-816 | 97 | SE04 | VF17f | 陶器 | 筒形容器 | | 5.9 | 5.7 | 5.5 | 11/12 | |
| E-817 | 97 | SE04 | VF17f | 陶器 | 非円形皿 | | 12.9 | 7.9 | 2.8 | 10/12 | |
| E-818 | 97 | SE04 | VF17f | 磁器 | 皿 | | 10.5 | 6.6 | 2.0 | 9/12 | |
| E-819 | 97 | SE04 | VF17f | 陶器 | 灯臺 | | 12.1 | 4.5 | 2.2 | 12/12 | |
| E-820 | 97 | SE04 | VF17f | 磁器 | 灯臺 | | 7.4 | 3.3 | 1.6 | 12/12 | 外面スス |
| E-821 | 97 | SE04 | VF17f | 磁器 | 灯臺 | | 7.9 | 3.2 | 1.6 | 12/12 | |
| E-822 | 97 | SE06 | VF14g | 土師器 | 焙烙鍋 | | 34.6 | | 3.4 | 2/12 | 外面スス |
| E-823 | 97 | SE04 | VF17f | 陶器 | 乗燭 | | 3.9 | 3.9 | 3.0 | 10/12 | |
| E-824 | 97 | SE02 | VF12c | 瓦 | 井戸側瓦 | | 26.5 | 26.1 | 3.4 | | 4200.0g |
| E-825 | 97 | SE02 | VF12c | 瓦 | 井戸側瓦 | | 26.8 | 26.5 | 3.7 | | 4500.0g |
| E-826 | 97 | NR01 | VF18e | 陶器 | 播鉢 | | 42.0 | | *8.3 | 1/12 | |
| E-827 | 97 | NR01 | VF18g | 陶器 | 灯臺 | | 11.2 | 5.0 | 2.2 | 3/12 | 外面スス |
| E-828 | 97 | NR01 | VF17h | 陶器 | 無高台皿 | | 7.5 | 4.7 | 2.0 | 12/12 | |

| 番号 | 調査区 | 遺構 | グリッド | 種別 | 器種 | 型式 | 口径(cm) | 底径(cm) | 器高(cm) | 残存 | 備考 |
|-------|-----|---------|-----------|------|--------|----|--------|--------|--------|-------|--------------|
| E-829 | 97 | NR01 | VF18h | 陶器 | 丸椀 | | 12.0 | 5.4 | 7.1 | 6/12 | |
| E-830 | 97 | NR01 | VF18g | 陶器 | 丸椀 | | 9.8 | 5.4 | 6.5 | 5/12 | |
| E-831 | 97 | NR01 | VF17h | 陶器 | 丸椀 | | 10.5 | 4.2 | 6.1 | 5/12 | |
| E-832 | 97 | NR01 | VF17h | 陶器 | 筒形湯呑 | | 7.2 | 3.4 | 5.9 | 6/12 | |
| E-833 | 97 | NR01 | VF17h | 陶器 | 茶壺 | | 8.1 | | *18.7 | 2/12 | |
| E-834 | 01 | SD42 | VF18k | 瓦器 | 羽釜 | | 29.2 | | *10.6 | 4/12 | 内外面スス |
| E-835 | 01 | SD10 | VF15n | 陶器 | 蓋 | | 17.6 | | 2.6 | 7/12 | |
| E-836 | 01 | SD10下層 | VF15p | 陶器 | 端反皿 | | 12.6 | 6.7 | 3.7 | 11/12 | |
| E-837 | 97 | 表土剥ぎ | | 陶器 | 播鉢 | | 32.8 | | *10.3 | 3/12 | |
| E-838 | 97 | 表土剥ぎ | | 陶器 | 播鉢 | | 35.0 | | *7.0 | 3/12 | |
| E-839 | 01 | 検出 I | VF16l | 陶器 | 鍋 | | 19.0 | | 7.4 | 3/12 | 外面スス |
| E-840 | 01 | 検出 I | VG12c | 陶器 | サヤ | | 20.0 | 19.6 | 5.1 | 2/12 | |
| E-841 | 01 | 検出 I | VF17l | 陶器 | 丸皿 | | 12.4 | 7.0 | 2.7 | 2/12 | |
| E-842 | 97 | 検出 I | VF14b | 陶器 | 無高台皿 | | 6.8 | 3.4 | 1.7 | 12/12 | |
| E-843 | 97 | 検出 I | VE13a | 陶器 | 灯蓋 | | 6.9 | 4.1 | 1.6 | 4/12 | |
| E-844 | 97 | 検出 I | VF17c | 陶器 | 丸椀 | | 11.4 | 5.6 | 7.2 | 1/12 | |
| E-845 | 97 | 検出 I | VF17c | 陶器 | 丸椀 | | 11.0 | 5.2 | 5.2 | 3/12 | |
| E-846 | 01 | 検出 I | VF16n | 陶器 | 丸椀 | | 10.1 | 3.0 | 4.6 | 12/12 | |
| E-847 | 97 | 検出 I | VF12c | 陶器 | 蓋 | | 6.8 | 6.8 | 2.5 | 7/12 | |
| E-848 | 97 | 検出 I | VF14a | 陶器 | 筒形鉢 | | 8.5 | 6.1 | 4.4 | 6/12 | |
| E-849 | 01 | 検出 I | VF18h | 陶器 | 戸車 | | 1.9 | 1.9 | 1.2 | 12/12 | |
| E-850 | 97 | 検出 I | VF15f | 陶器 | 小型德利 | | | 3.2 | *5.0 | | |
| E-851 | 01 | 検出 I | VG13d | 青磁 | 小杯 | | 5.5 | 2.0 | 3.0 | 12/12 | |
| E-852 | 97 | 検出 I | VE13t | 土製品 | 土鍾 | | 6.1 | 2.7 | | | 41.5g |
| E-853 | 97 | SD23 | VE13t | 土製品 | 土鍾 | | 6.0 | 2.8 | | | 44.2g |
| E-854 | 97 | SD27 | VF16a | 土製品 | 土鍾 | | 6.2 | 3.0 | | | 47.8g |
| E-855 | 97 | SD41 | VF11e | 土製品 | 土鍾 | | 7.0 | 3.0 | | | 50.9g |
| E-856 | 01 | SD10 | VF16q | 土製品 | 土鍾 | | *3.8 | *3.1 | | | 18.5g |
| E-857 | 01 | SD10 | VF15q | 土製品 | 土鍾 | | *3.9 | *3.4 | | | 33.1g |
| E-858 | 01 | SD33 | VF18l | 土製品 | 土鍾 | | *3.5 | *2.2 | | | 7.3g |
| E-859 | 01 | SD51 | VF17j | 土製品 | 加工円盤 | | 5.9 | 5.5 | 1.0 | | 40.8g |
| E-860 | 01 | SD10 | VF16t | 土製品 | 加工円盤 | | 5.5 | 5.3 | 1.1 | | 40.1g |
| E-861 | 97 | SD23 | VE15t | 土製品 | 加工円盤 | | 8.9 | 6.2 | 1.1 | | 66.5g |
| E-862 | 01 | 検出 I | VF17r | 土製品 | 加工円盤 | | 3.2 | 3.2 | 1.1 | | 13.0g |
| E-863 | 97 | 検出 I | VF14c | 土製品 | 加工円盤 | | 3.4 | 3.2 | 1.0 | | 12.0g |
| E-864 | 01 | 検出 I | VF15l | 土製品 | 加工円盤 | | 4.0 | 3.8 | 1.6 | | 28.1g |
| E-865 | 97 | 検出 I | VF16a | 土製品 | 加工円盤 | | 4.1 | 4.1 | 1.1 | | 20.3g |
| E-866 | 97 | NR01 客土 | VF17h | 土製品 | 加工円盤 | | 3.8 | 3.7 | 1.1 | | 15.4g |
| E-867 | 97 | SD27 | VF17d | 土製品 | 加工円盤 | | 2.8 | 2.8 | 0.9 | | 8.6g |
| E-868 | 97 | SD27 | VF17d | 土製品 | 加工円盤 | | 2.4 | 2.4 | 0.5 | | 3.7g |
| E-869 | 01 | 検出 I | VG14a | 土製品 | 加工円盤 | | 2.3 | 2.2 | 0.4 | | 3.5g |
| E-870 | 97 | SD26 | VF16a | 土製品 | 研磨痕土器 | | 6.7 | 5.9 | 1.2 | | 43.8g |
| E-871 | 97 | SD26 | VF16a | 土製品 | 研磨痕土器 | | 6.7 | 6.6 | 1.1 | | 46.4g |
| E-872 | 97 | SK122 | VF17e | 土製品 | 研磨痕土器 | | 3.9 | 3.8 | 1.2 | | 21.1g |
| E-873 | 97 | SK122 | VF17e | 土製品 | 研磨痕土器 | | 5.7 | 4.6 | 1.2 | | 28.6g |
| E-874 | 97 | SD33 | VF15e | 土製品 | 研磨痕土器 | | 4.0 | 3.9 | 1.1 | | 19.7g |
| E-875 | 01 | SD42 | VF18k | 土製品 | 研磨痕土器 | | 4.7 | 3.6 | 1.1 | | 26.4g |
| E-876 | 01 | SK17 | VF17o | 土製品 | 研磨痕土器 | | 5.5 | 4.0 | 1.6 | | 34.8g |
| E-877 | 01 | SD10 | VF16t | 土製品 | 研磨痕土器 | | 5.2 | 4.5 | 1.6 | | 39.6g |
| S-878 | 97 | 検出 I | VF18f | 石製品 | 砥石 | | 8.8 | 8.0 | 2.4 | | 溶結凝灰岩/252.5g |
| S-879 | 01 | SD39 | VF14l | 石製品 | 砥石 | | 7.6 | 4.1 | 2.0 | | 泥質凝灰岩/160.0g |
| S-880 | 97 | SD79 | VF17g-18g | 石製品 | 砥石 | | 4.6 | 5.8 | 3.2 | | 凝灰質泥岩/59.6g |
| S-881 | 97 | SD49 | VF12d | 石製品 | 砥石 | | 3.7 | 4.8 | 3.6 | | 泥質凝灰岩/33.9g |
| S-882 | 97 | SD33 | VF15e | 石製品 | 砥石 | | 5.2 | 5.0 | 2.2 | | 溶結凝灰岩/112.0g |
| S-883 | 97 | SD33 | VF15e | 石製品 | 砥石 | | 4.6 | 4.1 | 1.9 | | 泥質凝灰岩/35.4g |
| S-884 | 01 | SD22 | VF18q | 石製品 | 砥石 | | 3.8 | 3.6 | 1.5 | | 凝灰岩/25.4g |
| S-885 | 97 | SD26 | VF16a | 石製品 | 砥石 | | 4.8 | 4.2 | 2.0 | | 砂質凝灰岩/63.0g |
| S-886 | 97 | NR01 客土 | VF17h | 石製品 | 砥石 | | 9.6 | 2.7 | 2.0 | | 凝灰岩/94.6g |
| S-887 | 97 | NR01 客土 | VF17h | 石製品 | 砥石 | | 4.6 | 3.7 | 2.5 | | 凝灰質砂岩/62.8g |
| S-888 | 99C | 表土剥ぎ | | 石製品 | 砥石 | | 3.4 | 3.2 | 1.9 | | 砂質凝灰岩/19.0g |
| S-889 | 97 | SD17 | VF13e | 石製品 | 硯 | | *3.9 | 6.0 | *1.3 | | 凝灰質泥岩/50.6g |
| M-890 | 01 | 検出 I | VF15n | 鉄製品 | 鉄鎌 | | *17.6 | *4.4 | 0.5 | | |
| M-891 | 97 | NR01 客土 | VF17h | 鉄製品 | 刀子? | | *8.5 | *2.0 | 1.1 | | |
| M-892 | 01 | 攪乱 | VF15k | 鉄製品 | 不明 | | *14.2 | 2.7 | 0.5 | | |
| M-893 | 97 | SD28 | VE13t | 鉄製品 | 不明 | | *10.7 | *5.7 | 0.3 | | |
| M-894 | 01 | 検出 I | VF16p | 鉄製品 | 鉄釘 | | *10.2 | *1.1 | 0.3 | | |
| M-895 | 01 | 検出 I | VG12b | 鉄製品 | 鉄釘 | | *6.8 | *2.0 | 0.3 | | |
| M-896 | 97 | 検出 I | VF15f | 鉄製品 | 鉄釘 | | *7.9 | *2.5 | 0.4 | | |
| M-897 | 01 | SD42 | VF17l | 鉄製品 | 鉄釘 | | *6.3 | *1.4 | 0.6 | | |
| M-898 | 01 | SD42 | VF17l | 鉄製品 | 鉄釘 | | *6.0 | *2.3 | 0.9 | | |
| M-899 | 01 | 検出 I | VF16l | 鉄製品 | 鉄釘 | | *3.9 | *0.5 | 0.4 | | |
| M-900 | 01 | SD10 | VF15q | 鉄製品 | 鉄釘 | | *4.1 | *1.9 | 0.4 | | |
| M-901 | 01 | SD22 | VF18q | 鉄製品 | 円環状鉄製品 | | 3.9 | 3.9 | 0.8 | | |
| M-902 | 97 | 検出 I | VF16e | 青銅製品 | 煙管雁首 | | *7.3 | 1.2 | 2.2 | | |
| M-903 | 97 | 検出 I | VF18h | 青銅製品 | 煙管雁首 | | *1.8 | 1.9 | *1.6 | | |
| M-904 | 97 | 検出 I | VF16m | 青銅製品 | 銭貨 | | | | | | |
| M-905 | 97 | 検出 I | VF13g | 青銅製品 | 銭貨 | | | | | | |
| E-906 | 01 | 検出 I | VF18n | 土製品 | 輪羽口 | | *3.6 | *3.6 | *3.6 | | |

図版

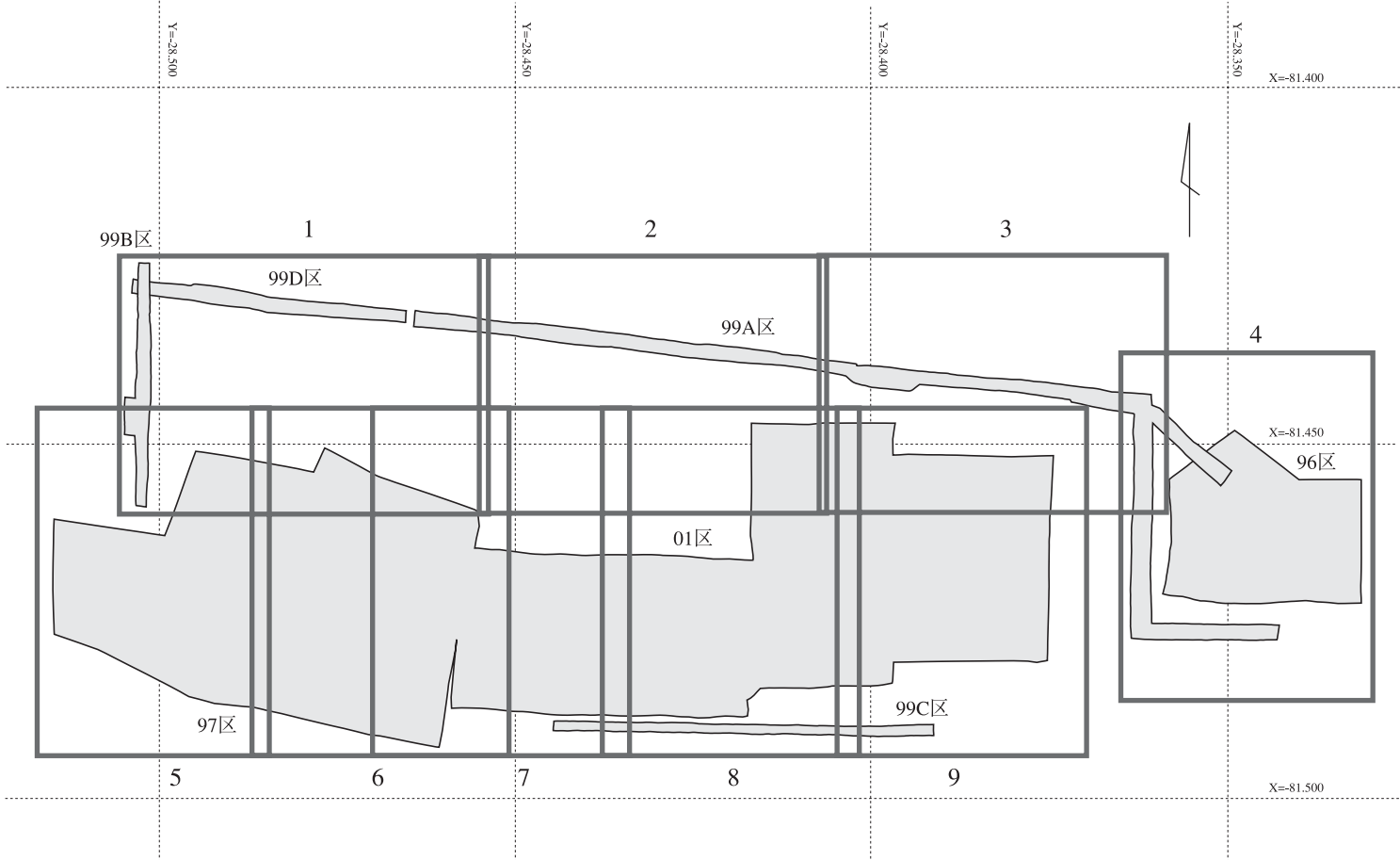
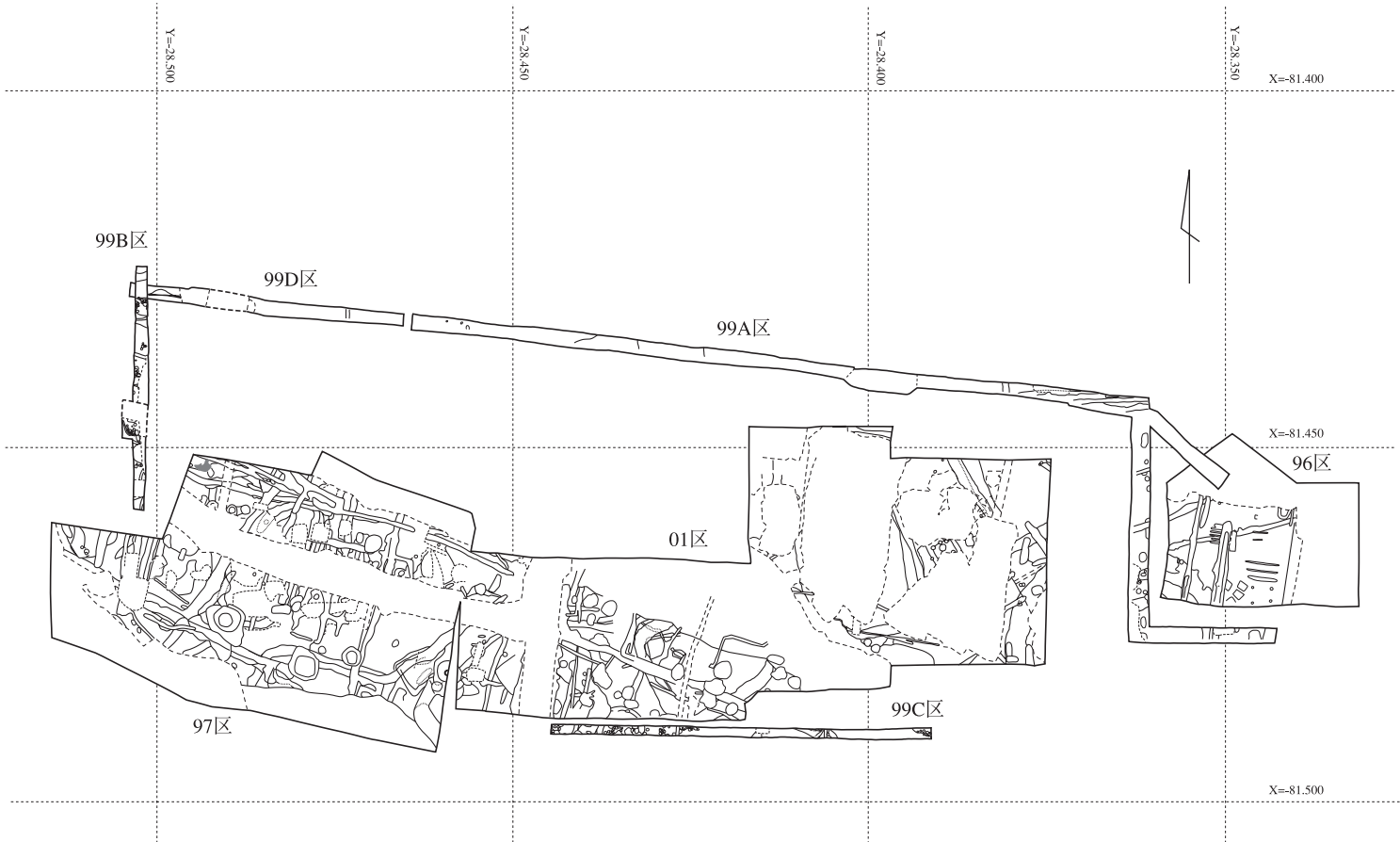
遺構図版

遺物図版

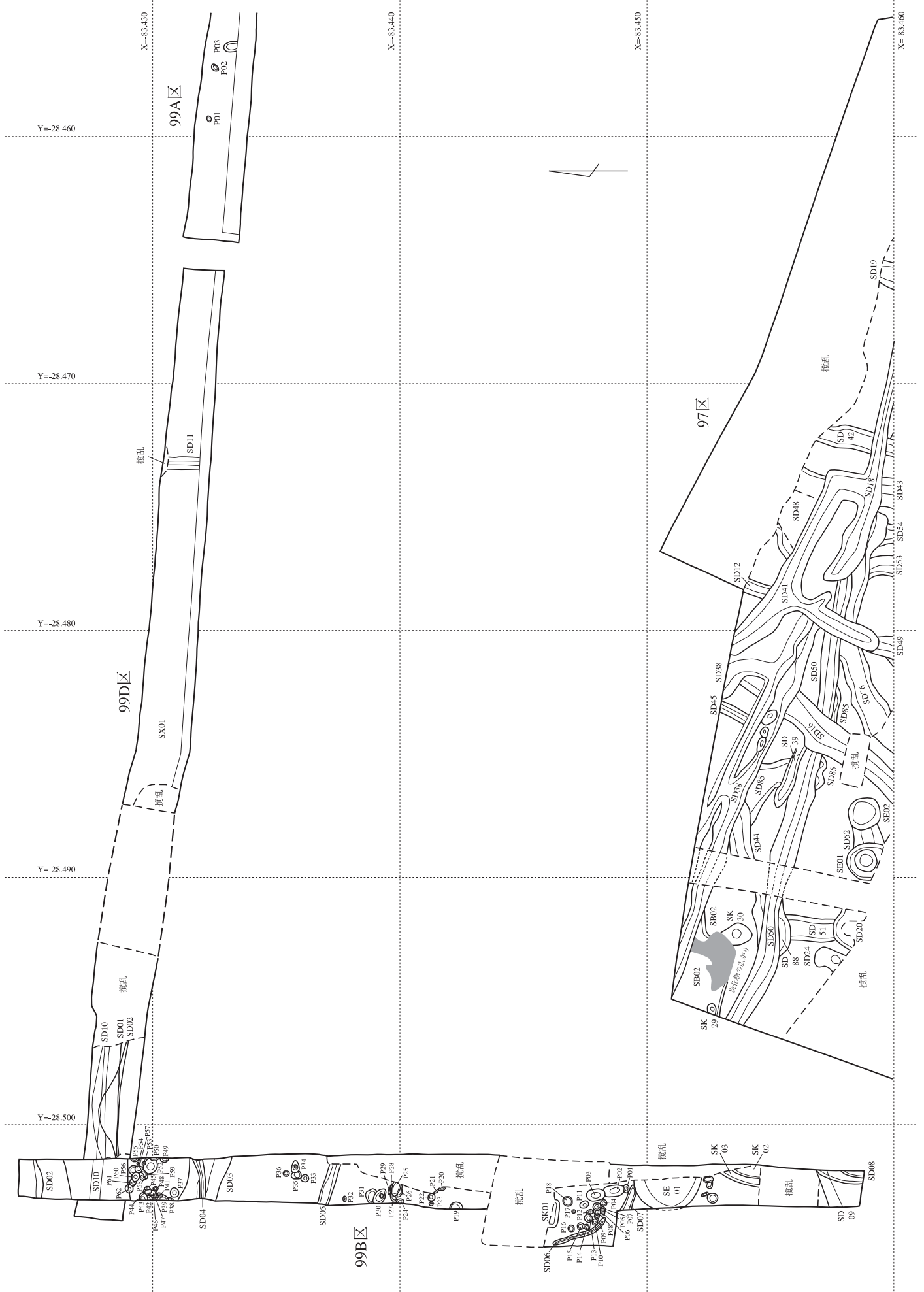
遺構写真

遺物写真

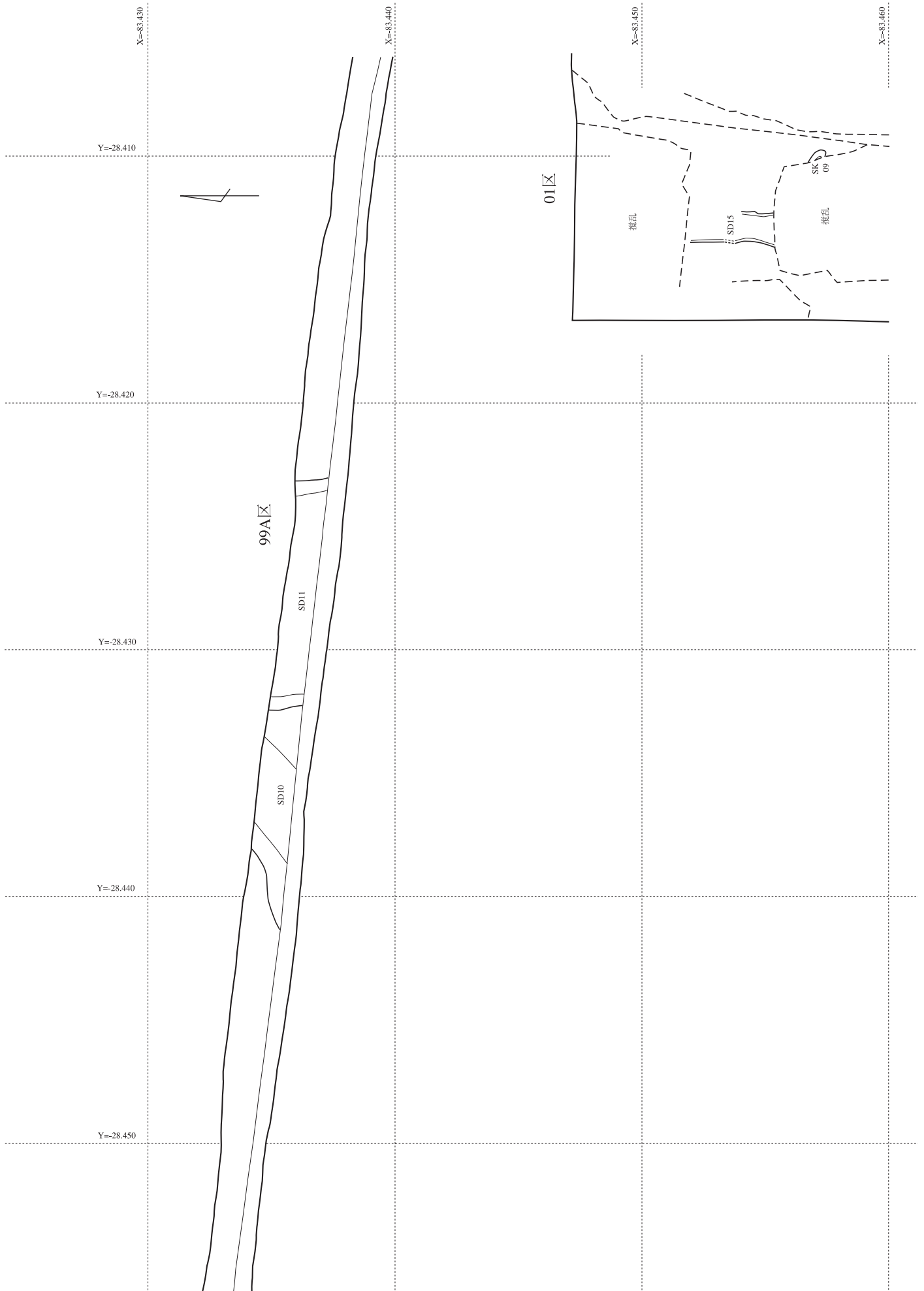
図版1 上面遺構全体図・基本遺構割付図（1：1,000）



図版 2 上面基本遺構図 1 (1:200)

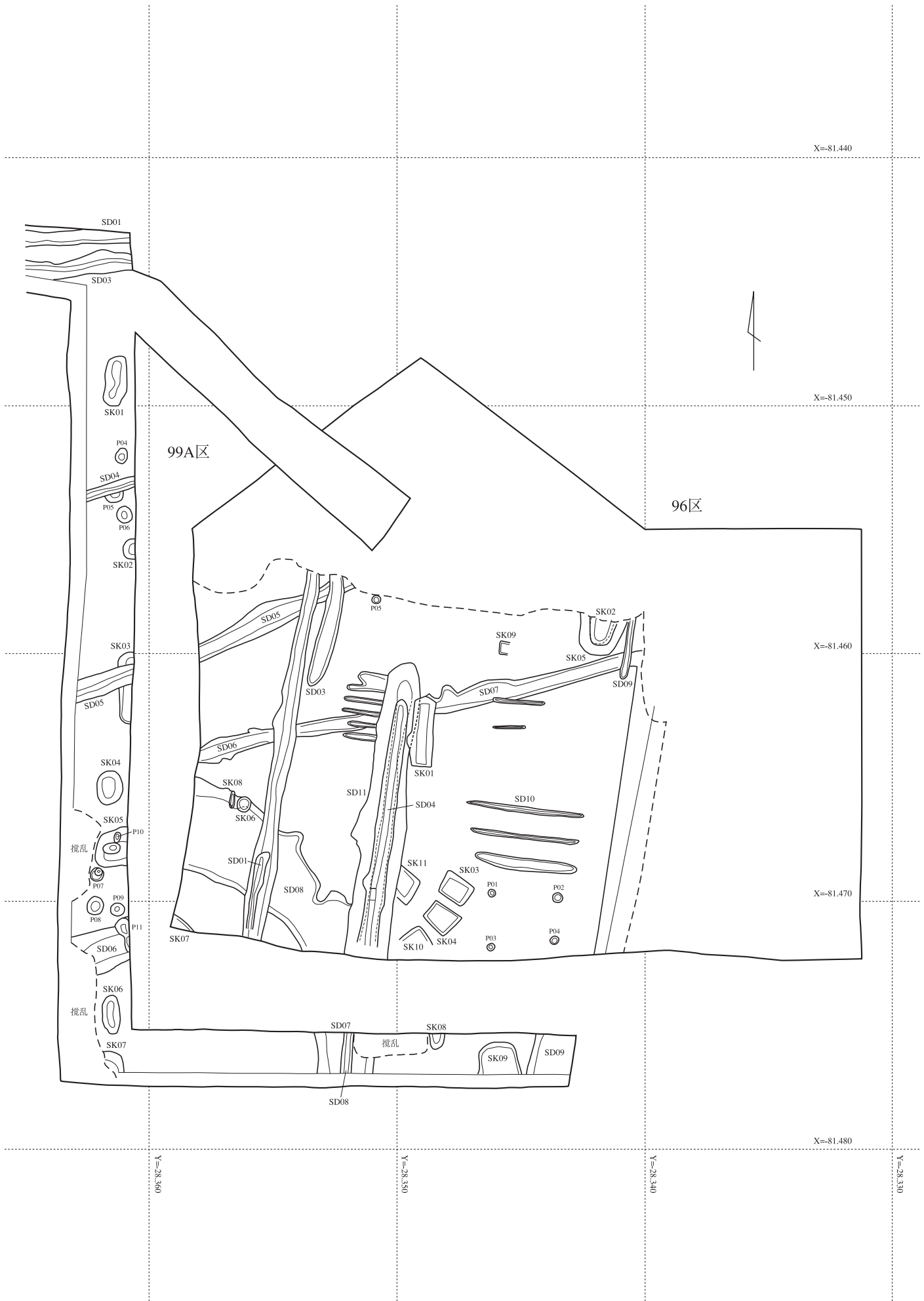


図版3 上面基本遺構図2 (1:200)

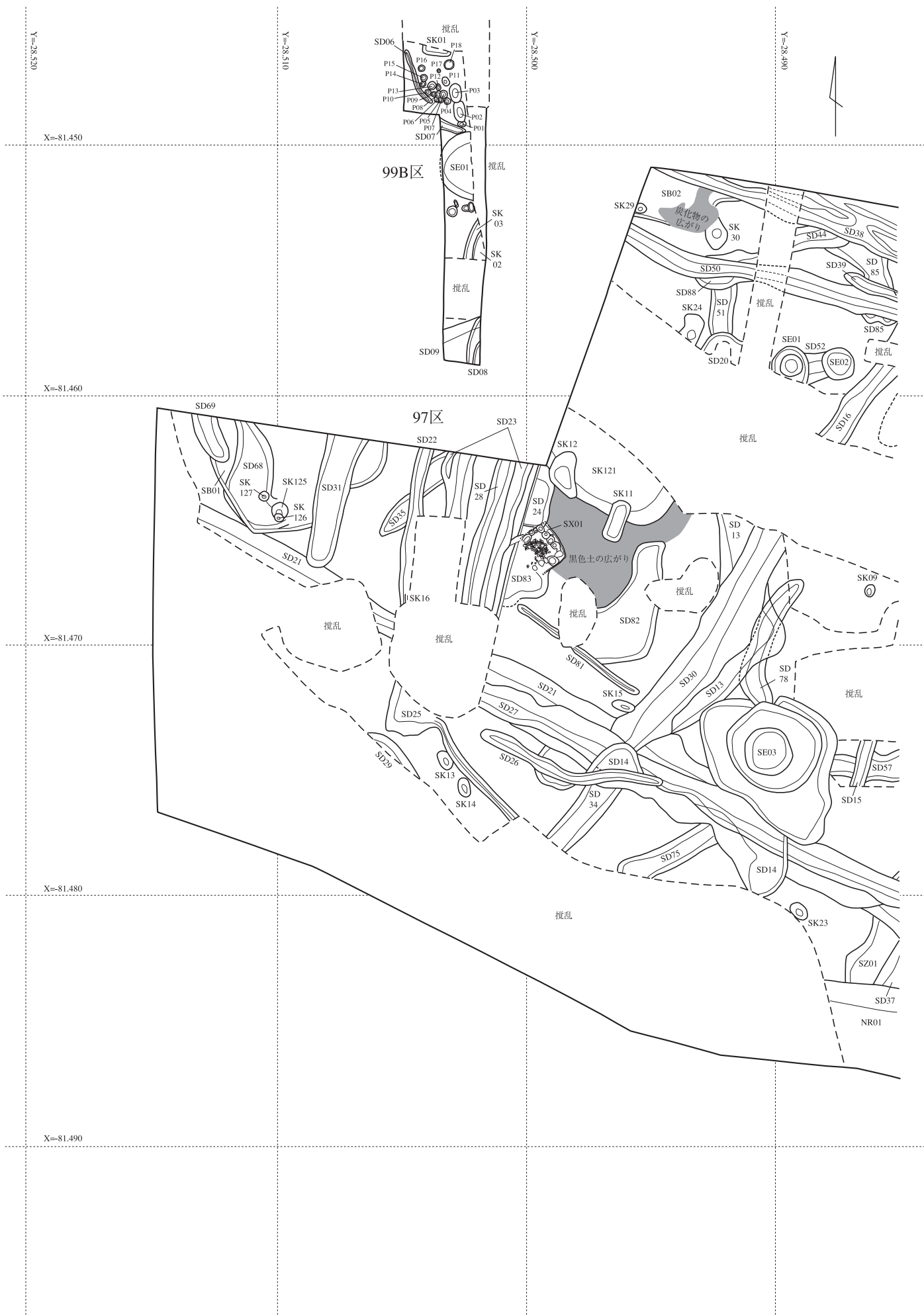


図版4 上面基本遺構図3 (1:200)

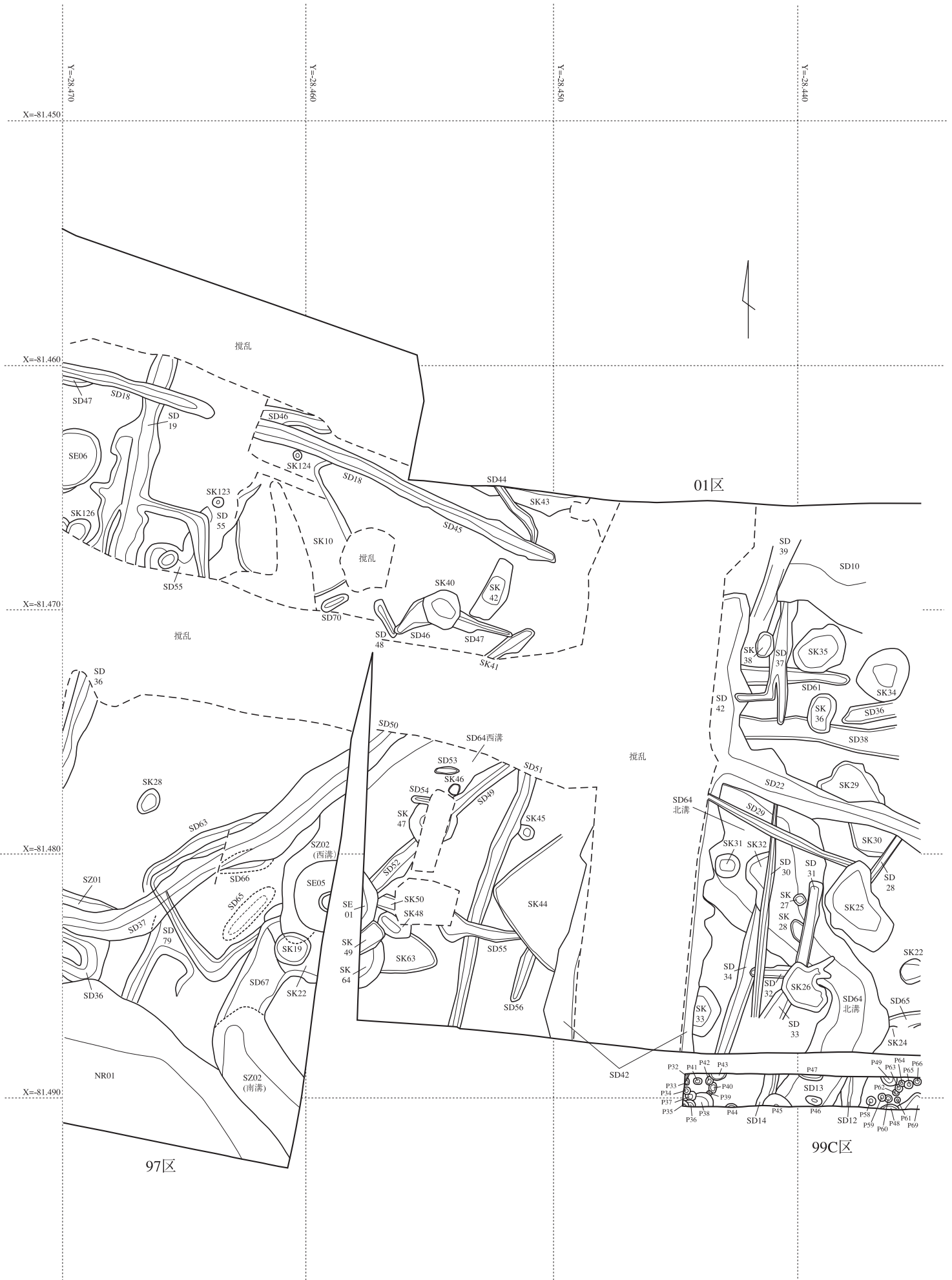


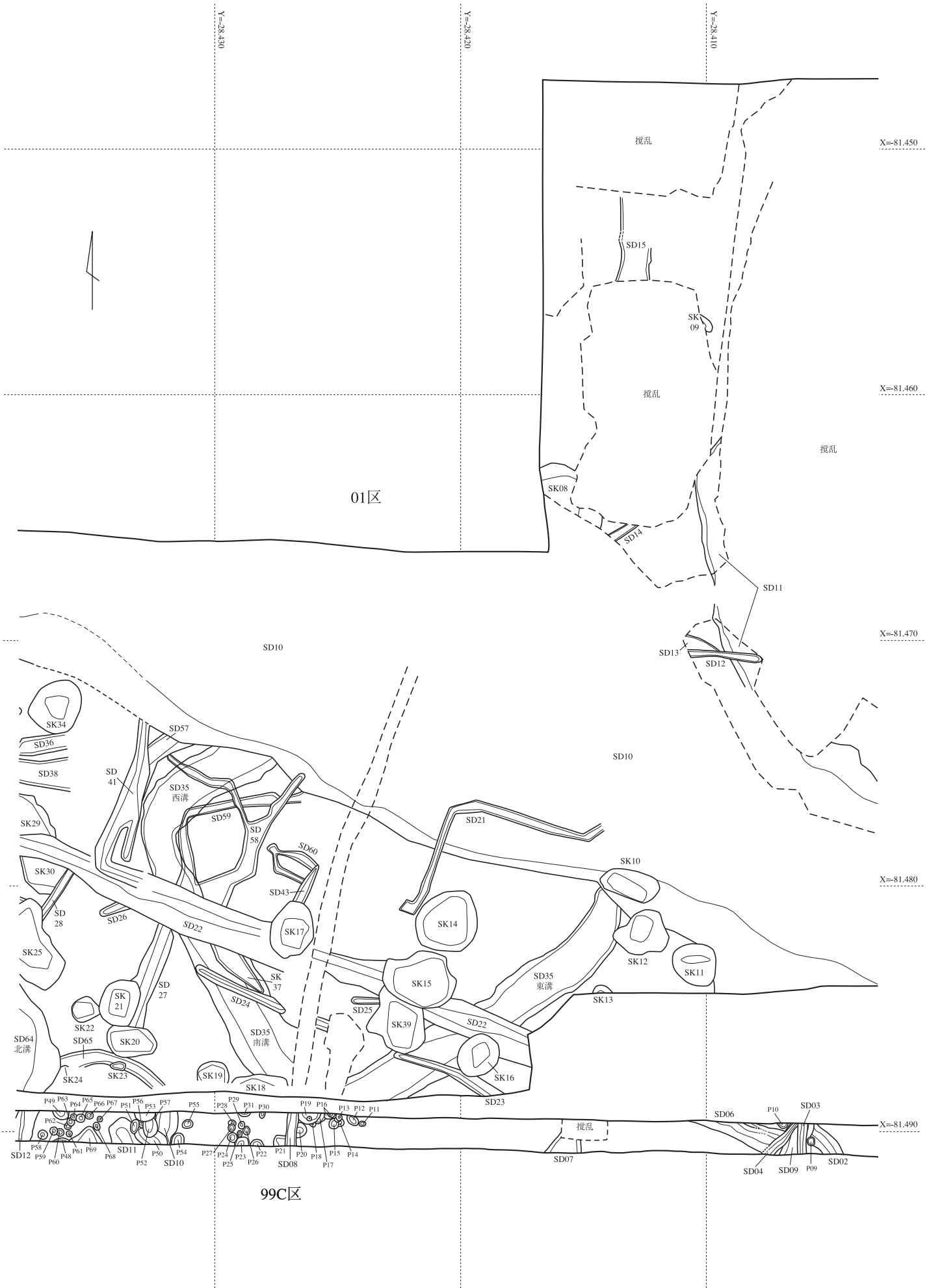


図版6 上面基本遺構図5 (1:200)

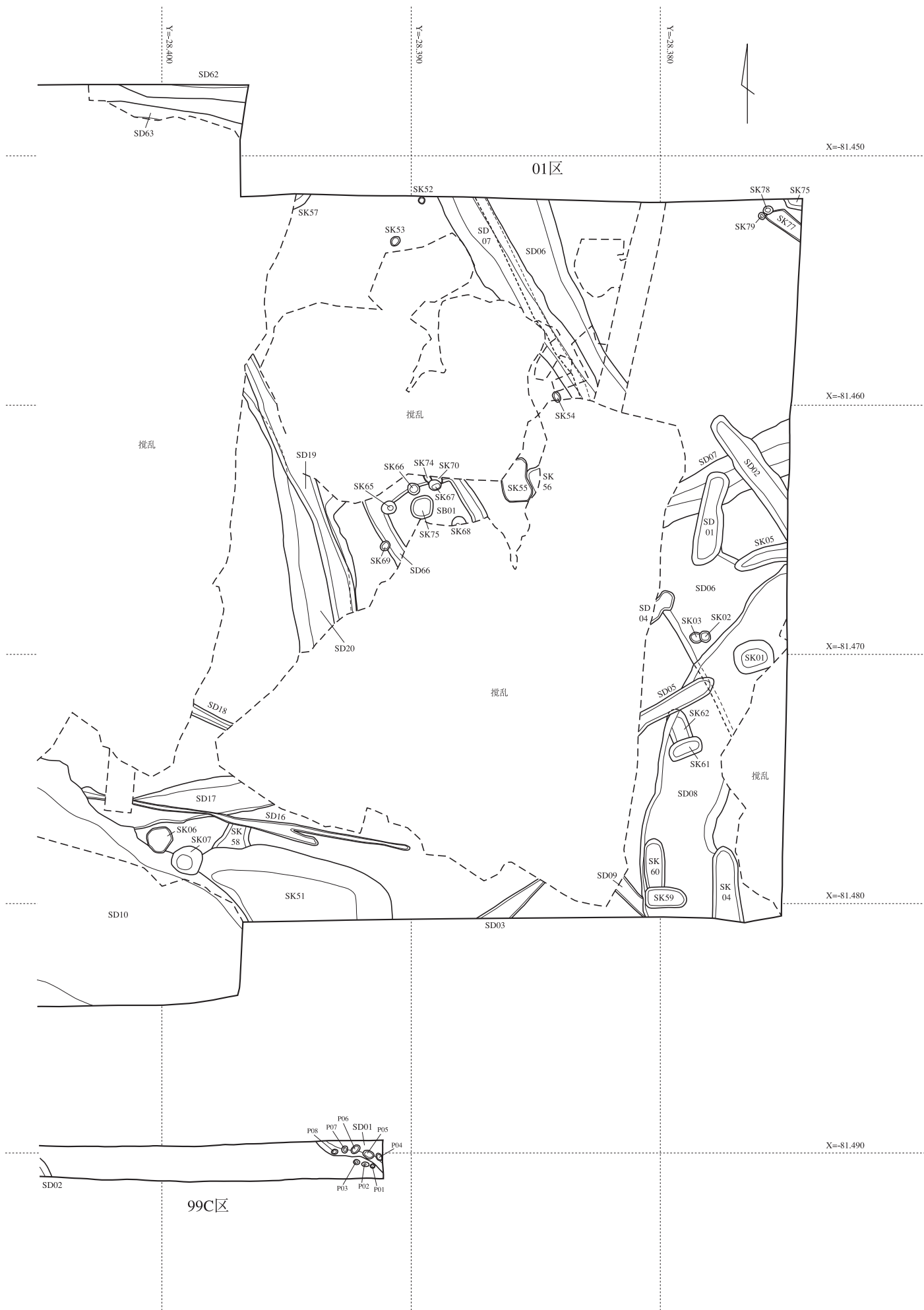


図版 8 上面基本遺構図 7 (1:200)

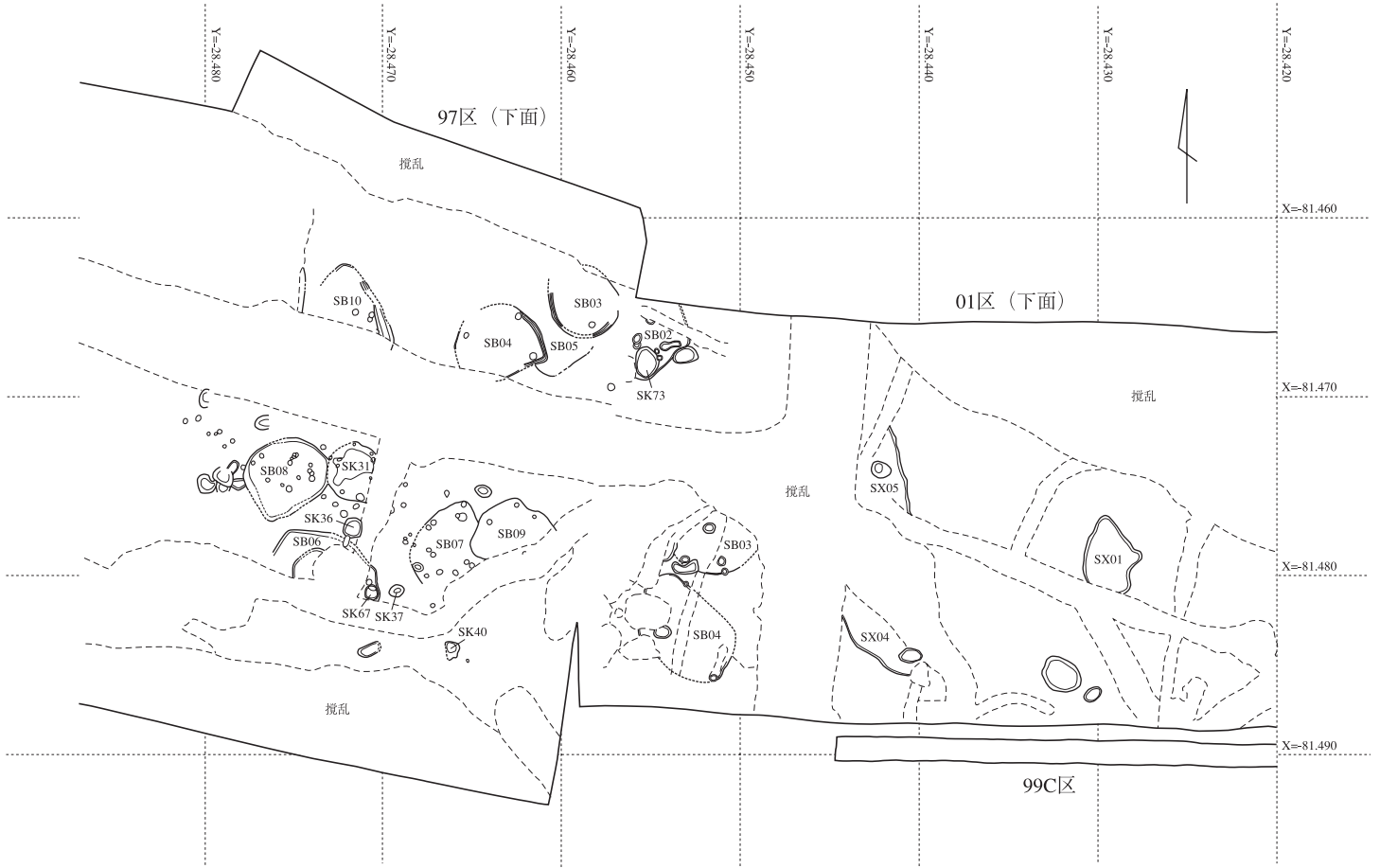




図版10 上面基本遺構図9 (1:200)



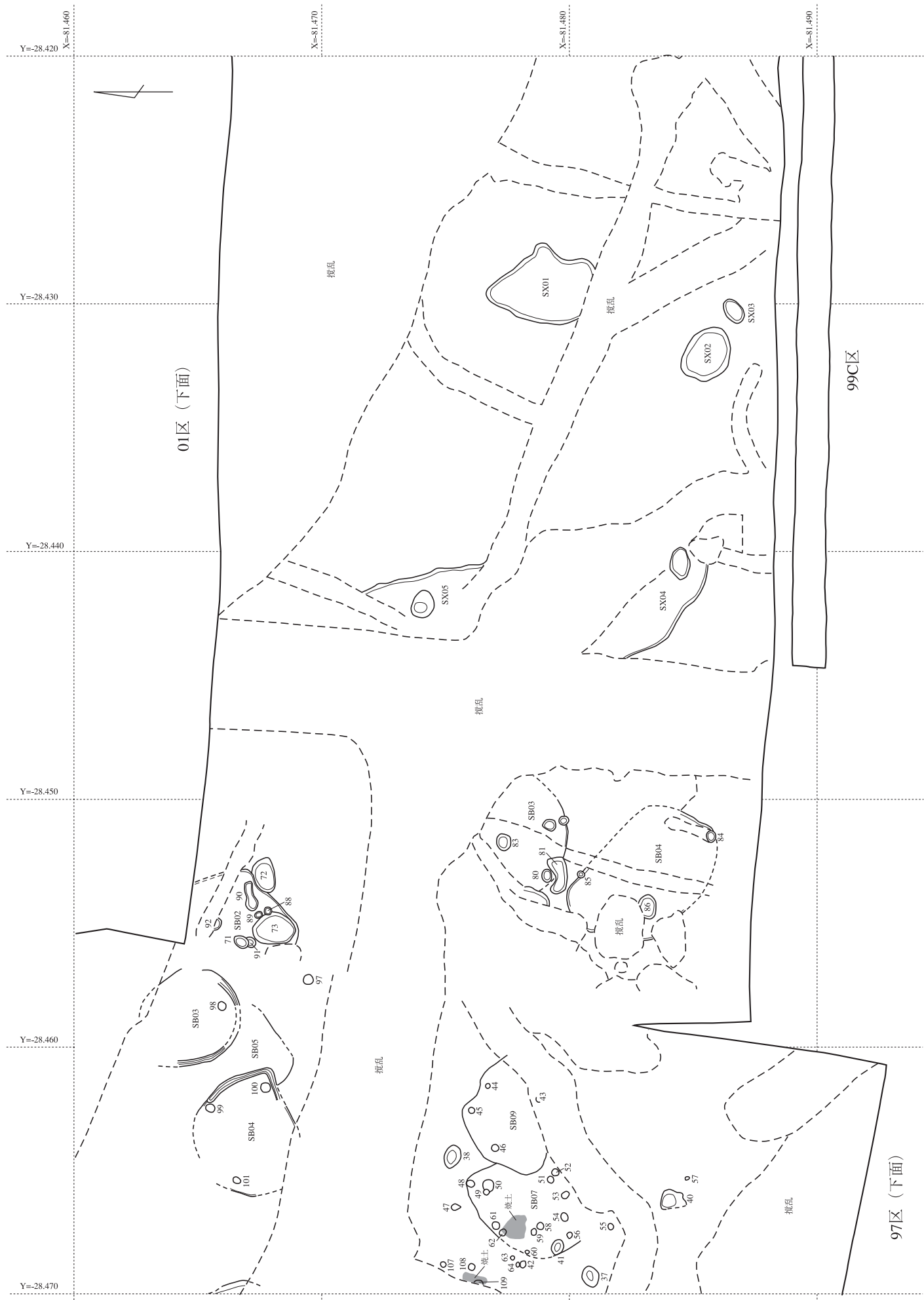
図版 11 下面遺構全体図（1：400）・基本遺構割付図（1：1,000）



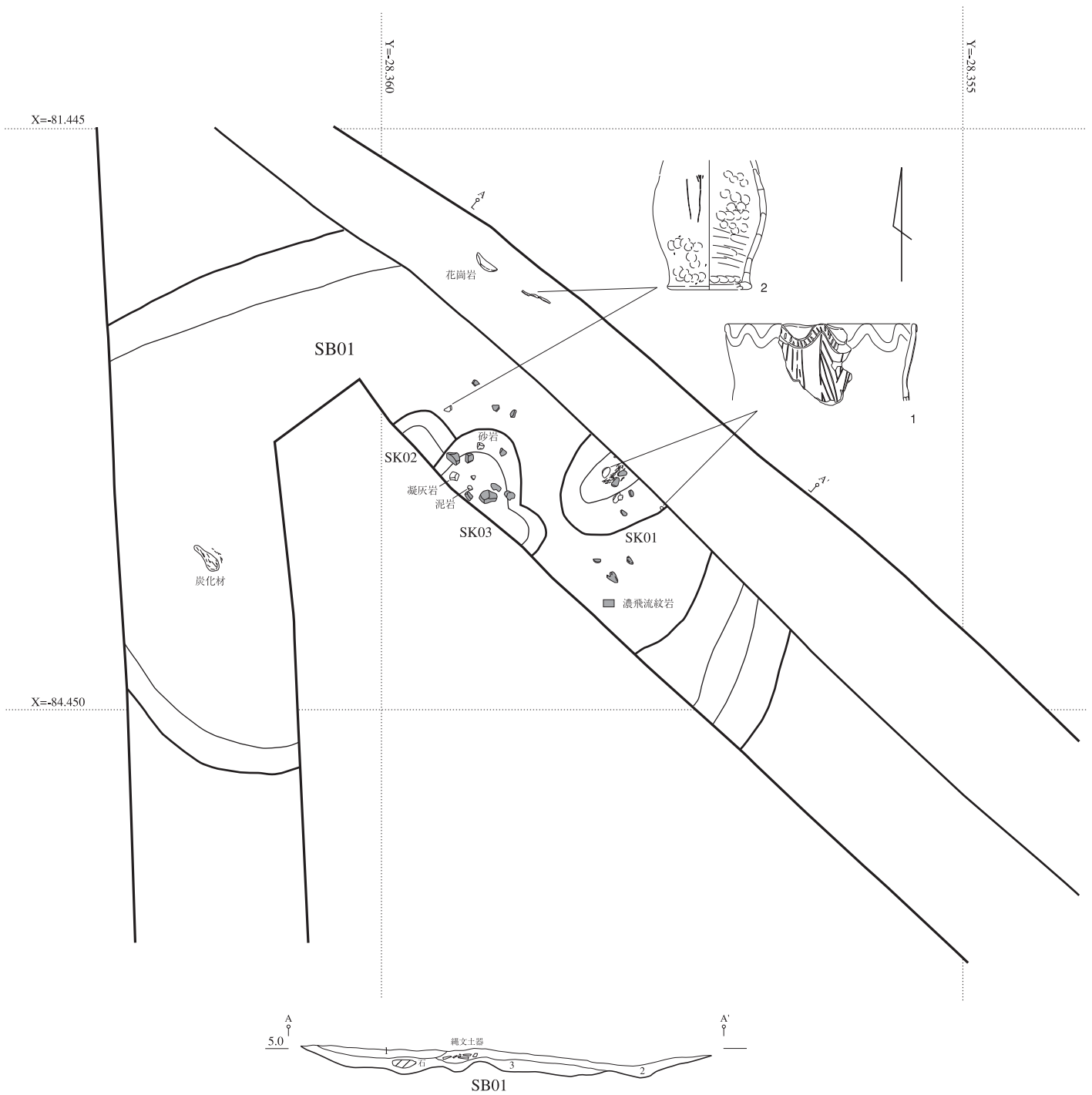
図版 12 下面基本遺構図 1 (1:200)



图版 13 下面基本遺構图 2 (1:200)



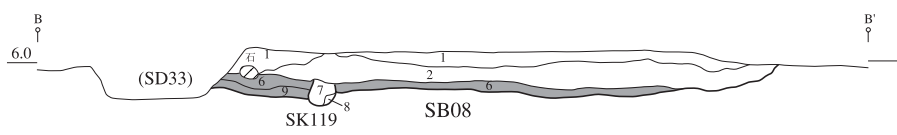
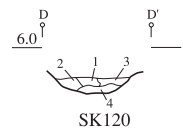
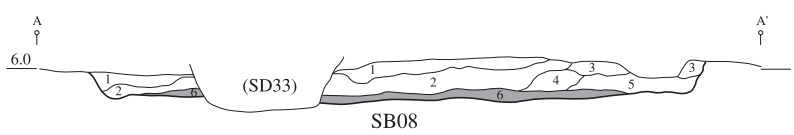
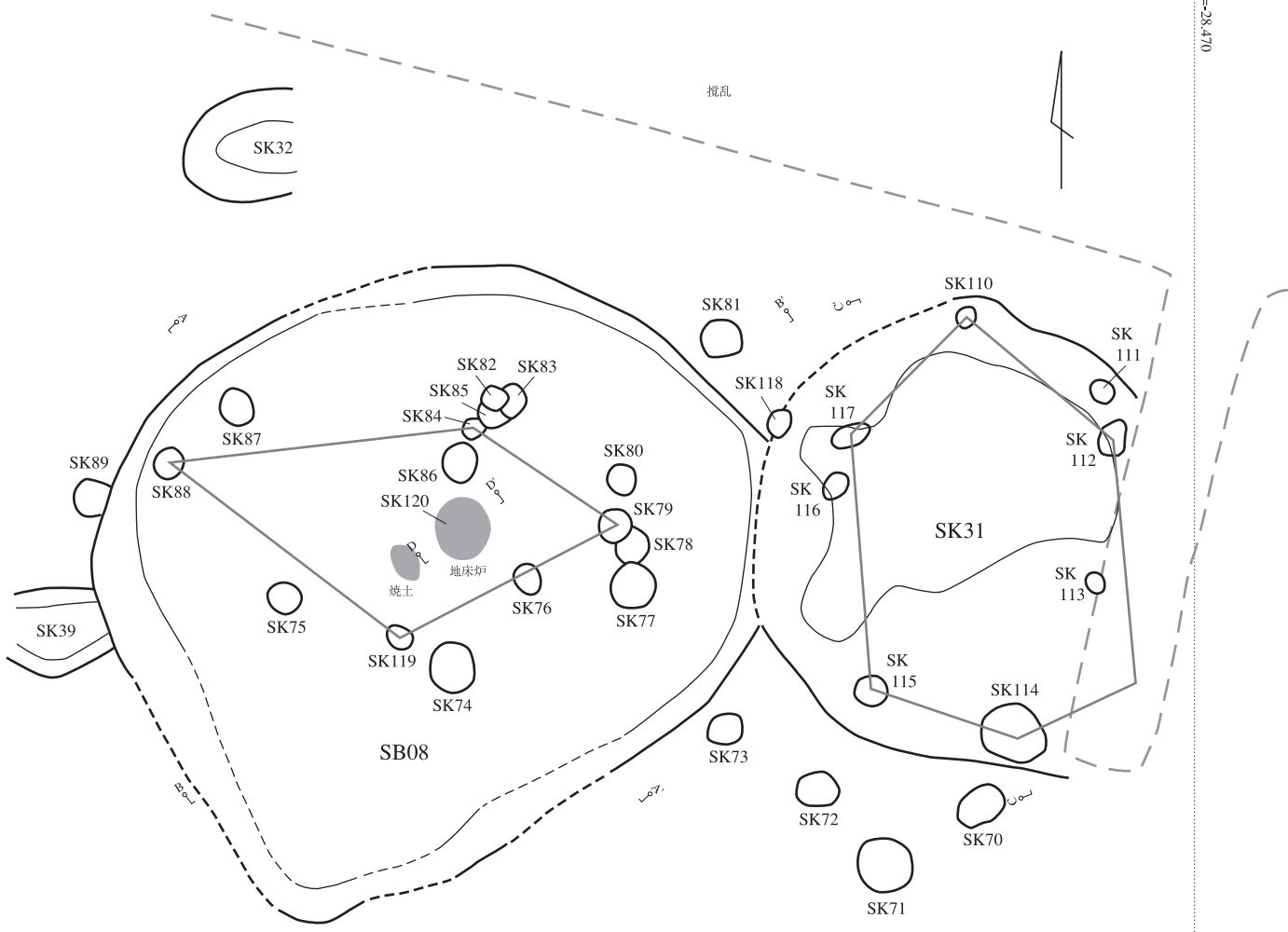
図版 14 99 A区 S B 01 遺構図 (1 : 50)



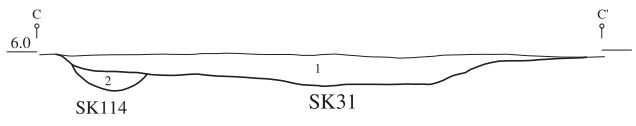
1. 2.5Y6/3極細粒砂、炭化物少量含む
2. 2.5Y5/4極細粒砂、炭化物含む
3. 2.5Y5/3極細粒砂質シルト、炭化物含む

X=81.470

Y=28.470



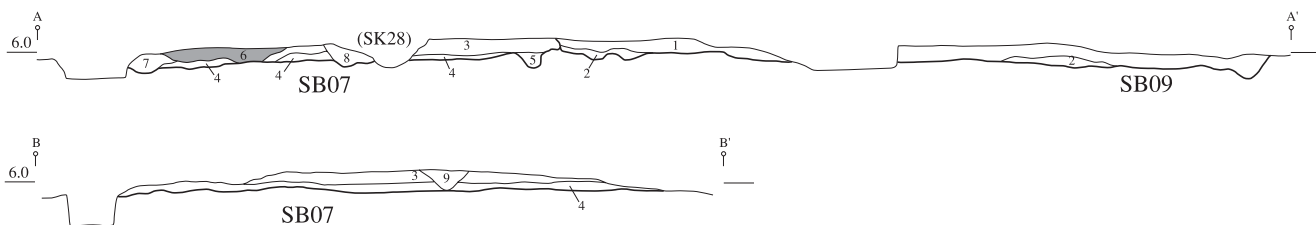
- 1. 2.5Y4/4極細粒砂、炭化物少量混じる
- 2. 2.5Y6/4細粒砂、炭化物少量混じる
- 3. 2.5Y5/4細粒砂、炭化物少量混じる
- 4. 2.5Y6/3細粒砂
- 5. 2.5Y5/4細粒砂
- 6. 2.5Y5/3シルト質極細粒砂、炭化物混じる、ややしまりあり
- 7. 2.5Y5/2極細粒砂、炭化物混じる
- 8. 2.5Y4/2極細粒砂質シルト
- 9. 2.5Y5/3極細粒砂



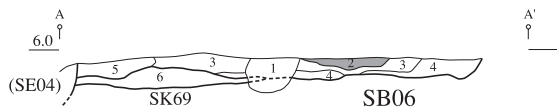
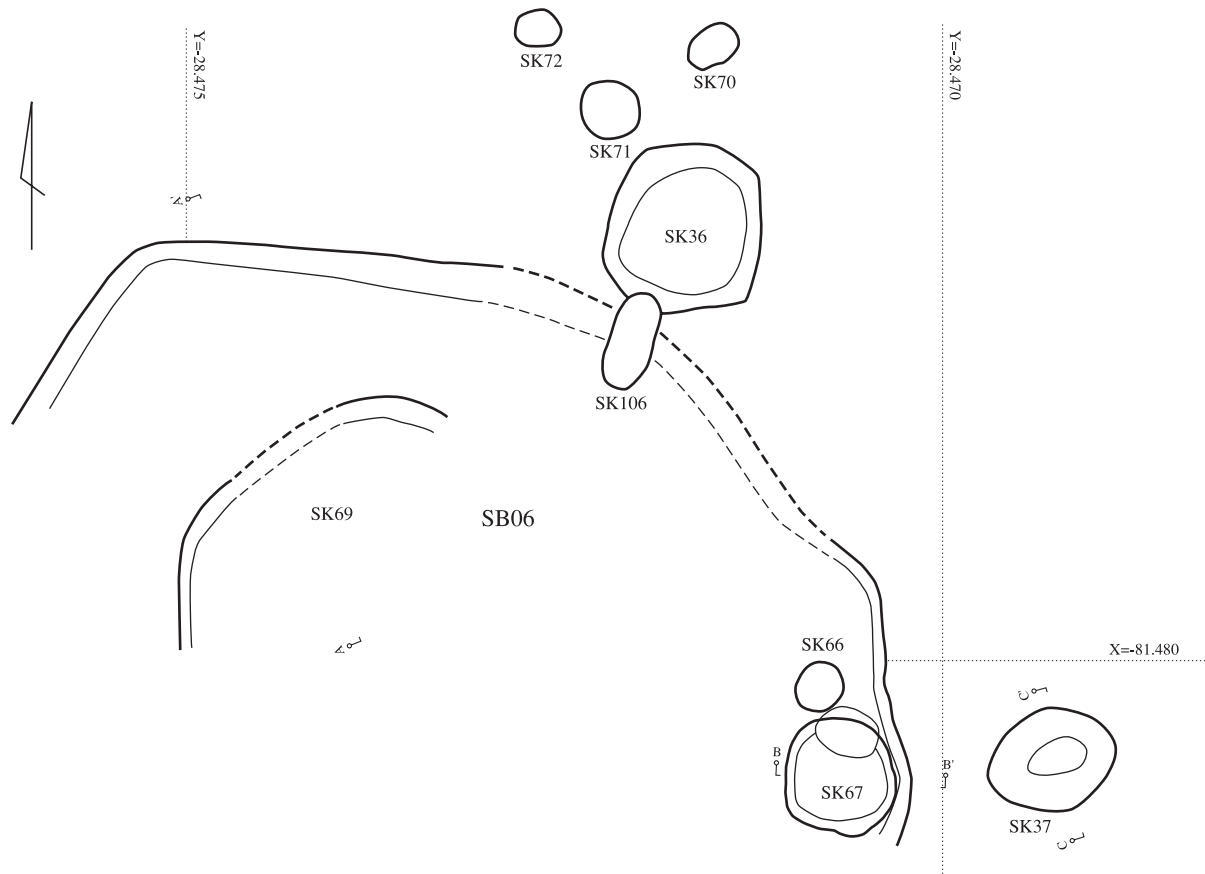
- 1. 2.5Y4/2極細粒砂、炭化物混じる
- 2. 2.5Y5/3極細粒砂、炭化物少量混じる

- 1. 2.5Y5/2シルト質極細粒砂、炭化物混じる
- 2. 2.5Y3/2シルト質極細粒砂、炭化物多く含む
- 3. 2.5Y4/2シルト質極細粒砂、炭化物多く含む
- 4. 2.5Y5/3極細粒砂、炭化物混じる

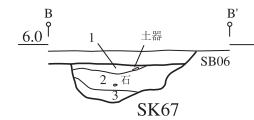
図版16 97区SB07・SB09遺構図(1:50)



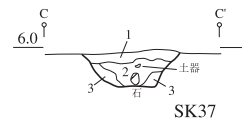
- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. 2.5Y6/4極細粒砂、炭化物少量混じる | 6. 7.5YR8/4極細粒砂(焼土) |
| 2. 2.5Y5/3細粒砂 | 7. 2.5Y5/3極細粒砂、炭化物少量混じる |
| 3. 2.5Y5/4極細粒砂、炭化物少量混じる | 8. 2.5Y4/2シルト質極細粒砂 |
| 4. 2.5Y6/2細粒砂 | 9. 2.5Y4/2シルト質極細粒砂 |
| 5. 2.5Y4/3極細粒砂、炭化物混じる | |



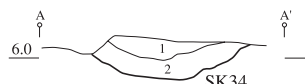
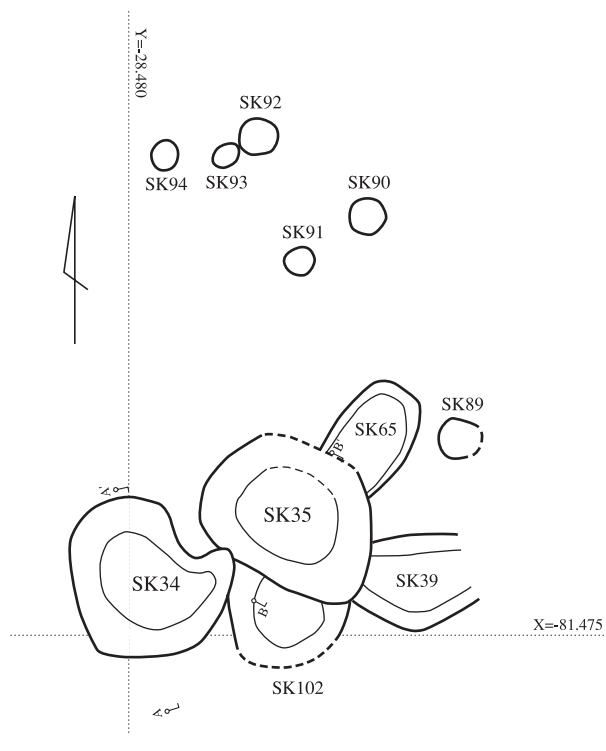
- 1. 2.5Y4/3シルト質極細粒砂
- 2. 2.5Y2/1炭化物層
- 3. 2.5Y4/2極細粒砂、炭化物混じる
- 4. 2.5Y5/3極細粒砂、炭化物少量混じる
- 5. 2.5Y4/2極細粒砂、炭化物多く含む
- 6. 2.5Y5/3極細粒砂、炭化物少量混じる



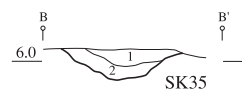
- 1. 2.5Y5/4極細粒砂
- 2. 2.5Y2/1シルト質極細粒砂、炭化物多量混じる
- 3. 2.5Y4/1極細粒砂、炭化物混じる



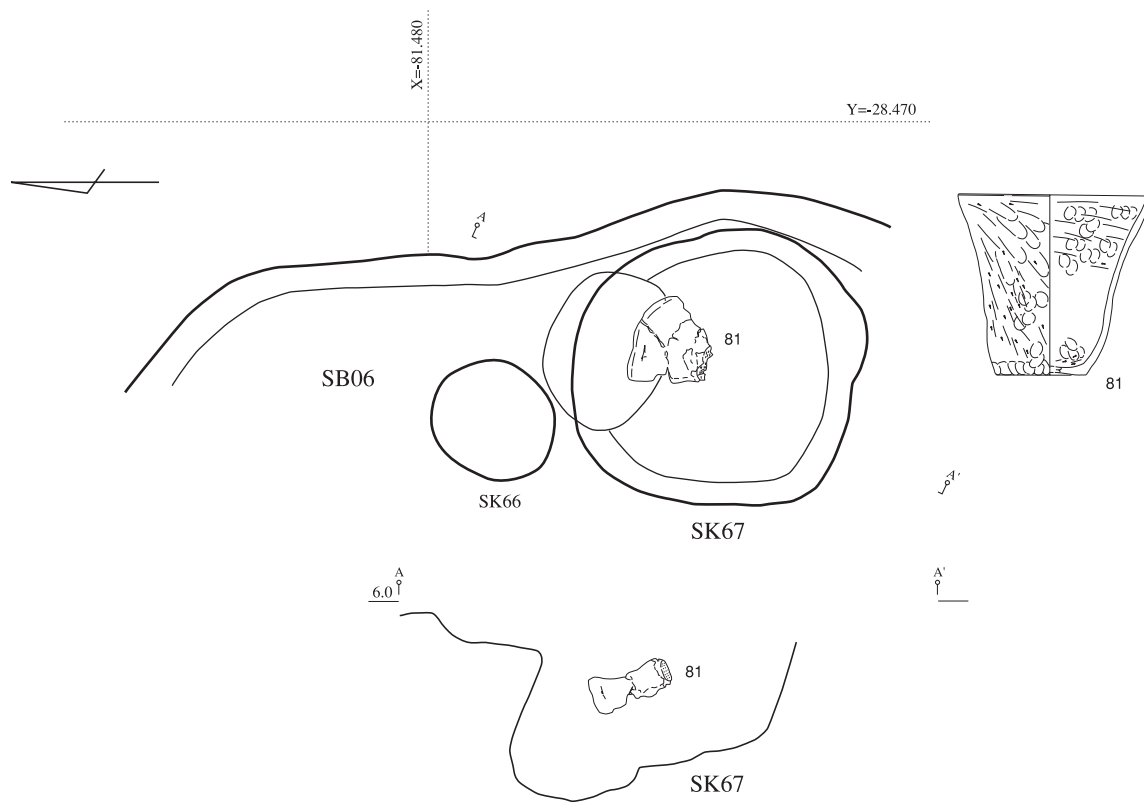
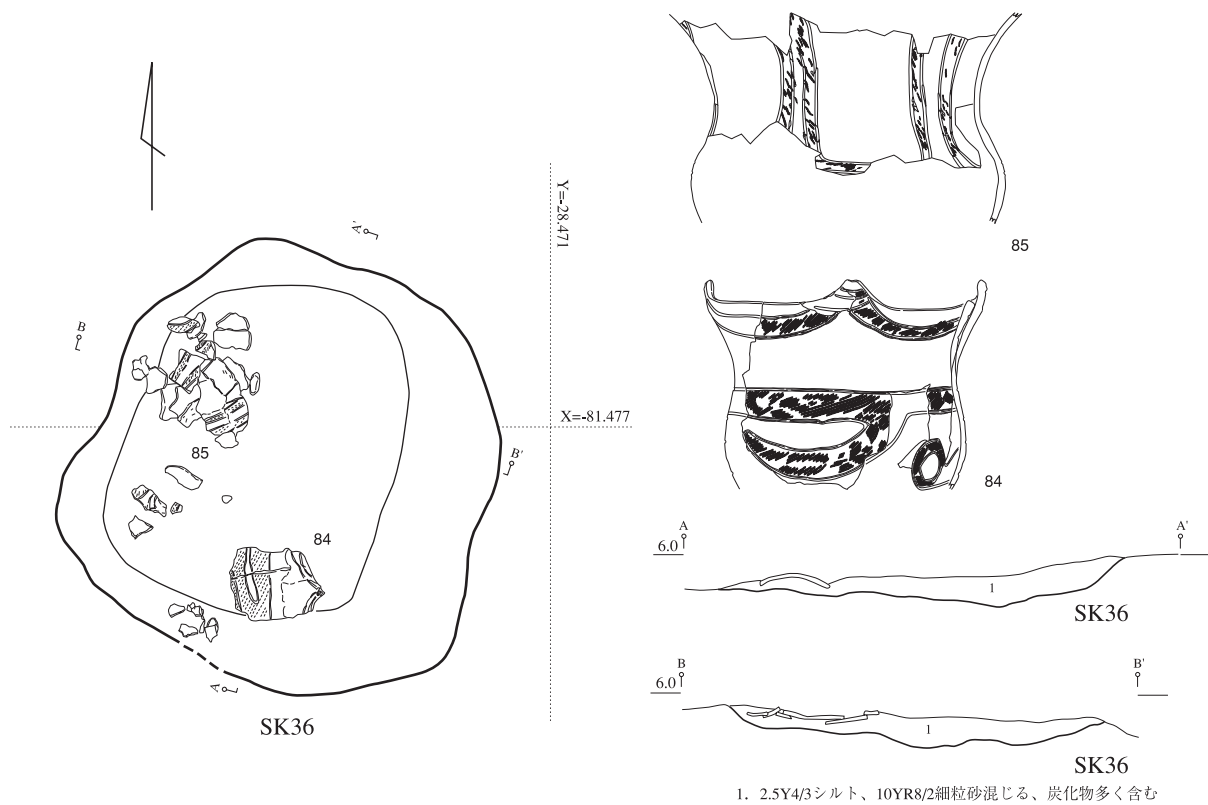
- 1. 2.5Y4/3シルト質極細粒砂、炭化物混じる
- 2. 2.5Y3/2シルト質極細粒砂、炭化物多く含む
- 3. 2.5Y5/4極細粒砂



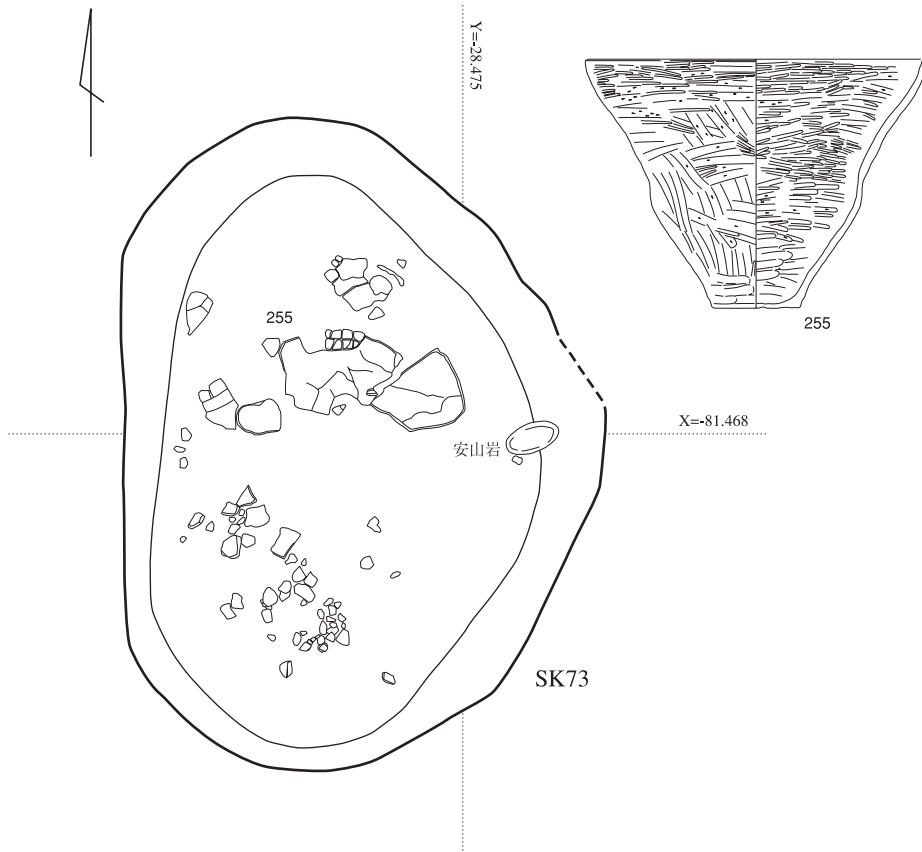
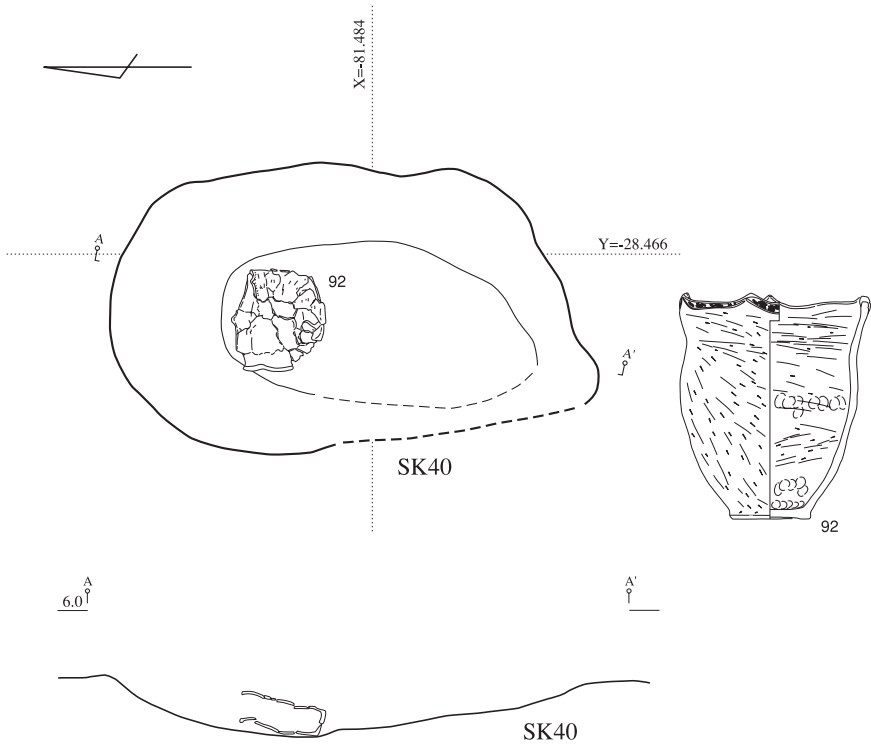
- 1. 2.5Y5/2極細粒砂、炭化物混じる
- 2. 2.5Y5/3シルト質極細粒砂と2.5Y8/1細粒砂の斑土



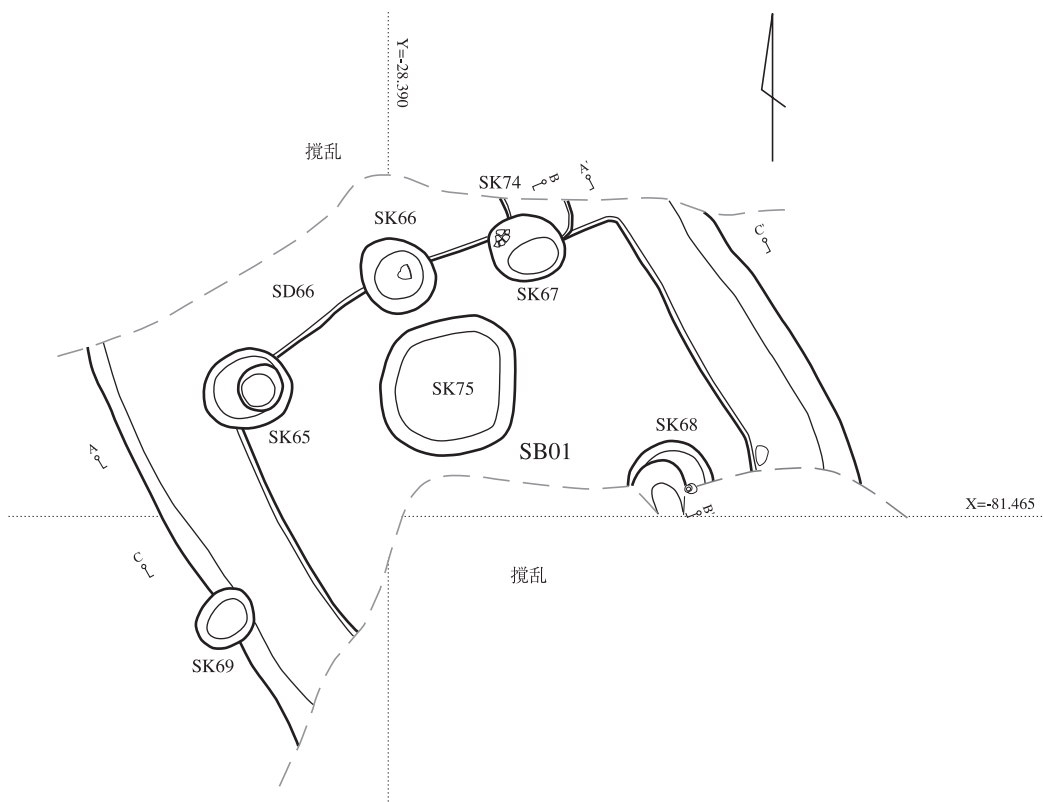
- 1. 2.5Y6/4極細粒砂、炭化物少量混じる
- 2. 2.5Y6/3極細粒砂と2.5Y7/2細粒砂の斑土



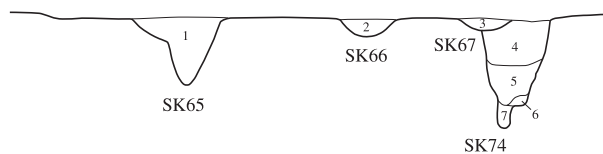
図版 19 97区SK40・01区SK73 遺物出土状態図 (1:20)



図版 20 01区SB01遺構図(1:50)

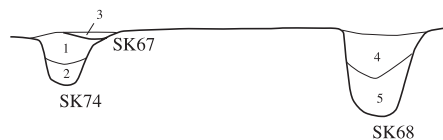


A 6.0' A'



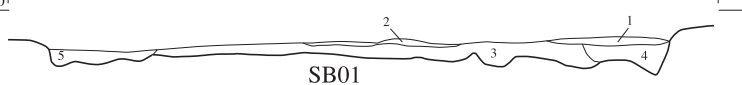
1. 10YR2/3シルト、2.5Y5/3極細粒砂斑入
2. 10YR3/3シルト
3. 10YR3/3シルト
4. 2.5Y5/3極細粒砂、10YR3/3砂質シルト斑入
5. 10YR3/3砂質シルト、2.5Y5/3極細粒砂斑入
6. 2.5Y6/2極細粒砂、2.5Y4/3砂質シルト斑入
7. 2.5Y6/2極細粒砂、2.5Y3/3シルトと2.5Y5/3極細粒砂斑入

B 6.0' B'



1. 2.5Y5/3極細粒砂、10YR3/3砂質シルト斑入
2. 10YR3/3砂質シルト、2.5Y5/3極細粒砂斑入
3. 10YR3/3シルト
4. 10YR3/3シルト、2.5Y5/3極細粒砂斑入
5. 10YR3/3シルトと2.5Y5/3極細粒砂の斑土

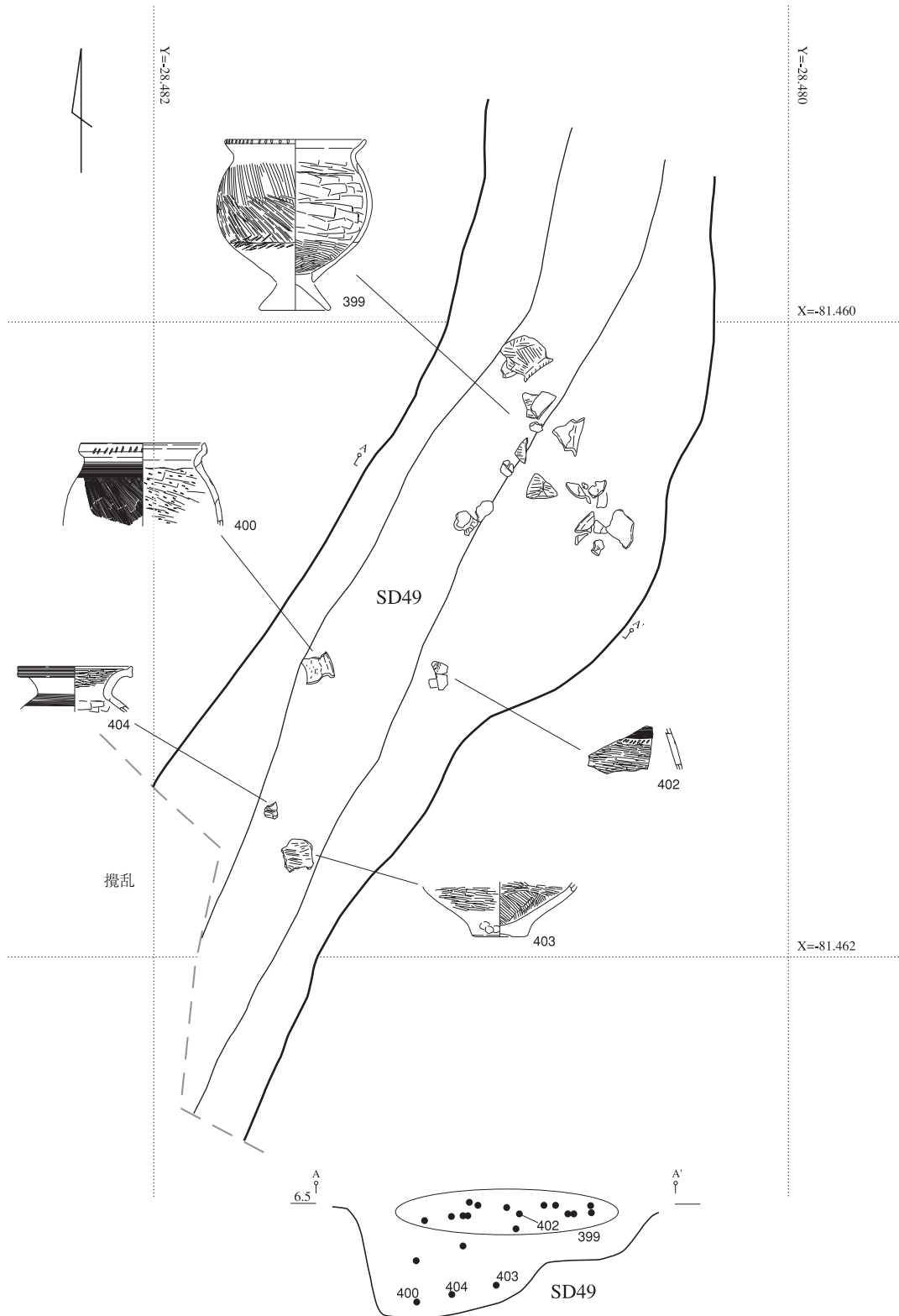
C 6.0' C'

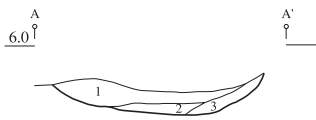
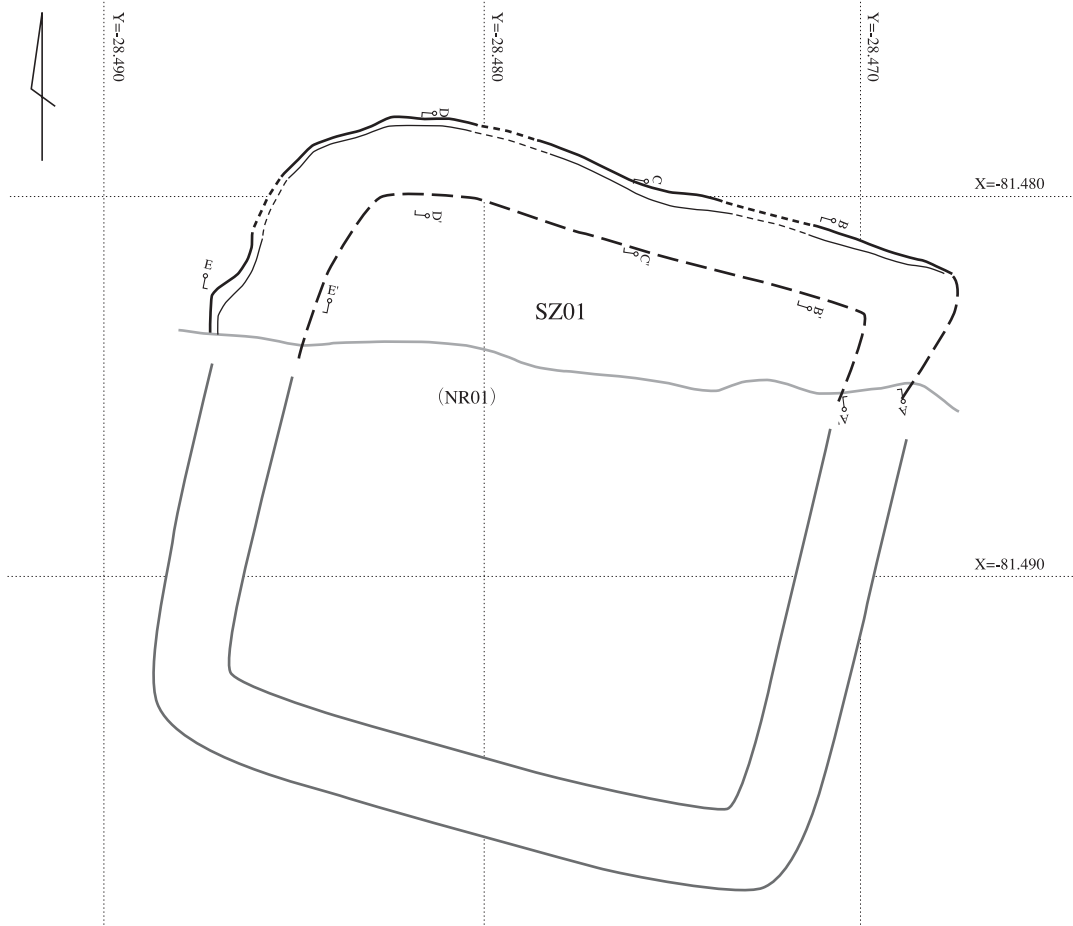


1. 10YR3/3砂質シルト、2.5Y4/4極細粒砂斑入
2. 10YR3/3砂質シルト、10YR2/1砂質シルトと2.5Y5/3極細粒砂斑入、炭化物混じる
3. 2.5Y4/6極細粒砂と10YR3/3シルトと2.5Y6/3極細粒砂の斑土
4. 10YR3/3砂質シルト、2.5Y5/4極細粒砂斑入
5. 10YR3/3砂質シルト、2.5Y5/4極細粒砂斑入

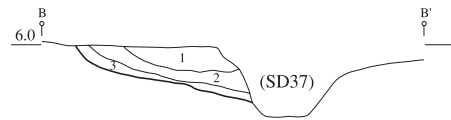


図版 22 97区S D 49遺物出土状態図 (1:20)

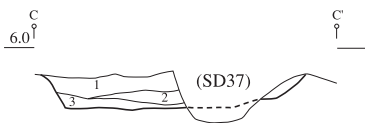




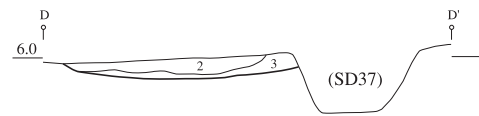
1. 5Y2/1粘質シルト
2. 5Y4/2粘質シルト
3. 5Y4/2粘質シルト、2.5Y8/4細粒砂混じる



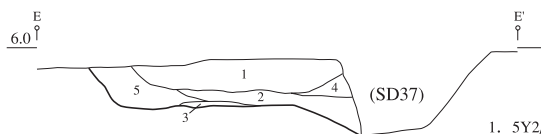
1. 5Y2/1粘質シルト
2. 5Y4/2粘質シルト
3. 5Y4/2粘質シルト、2.5Y8/4細粒砂混じる



1. 5Y2/1粘質シルト
2. 5Y4/2粘質シルト
3. 5Y4/2粘質シルト、2.5Y8/4細粒砂混じる

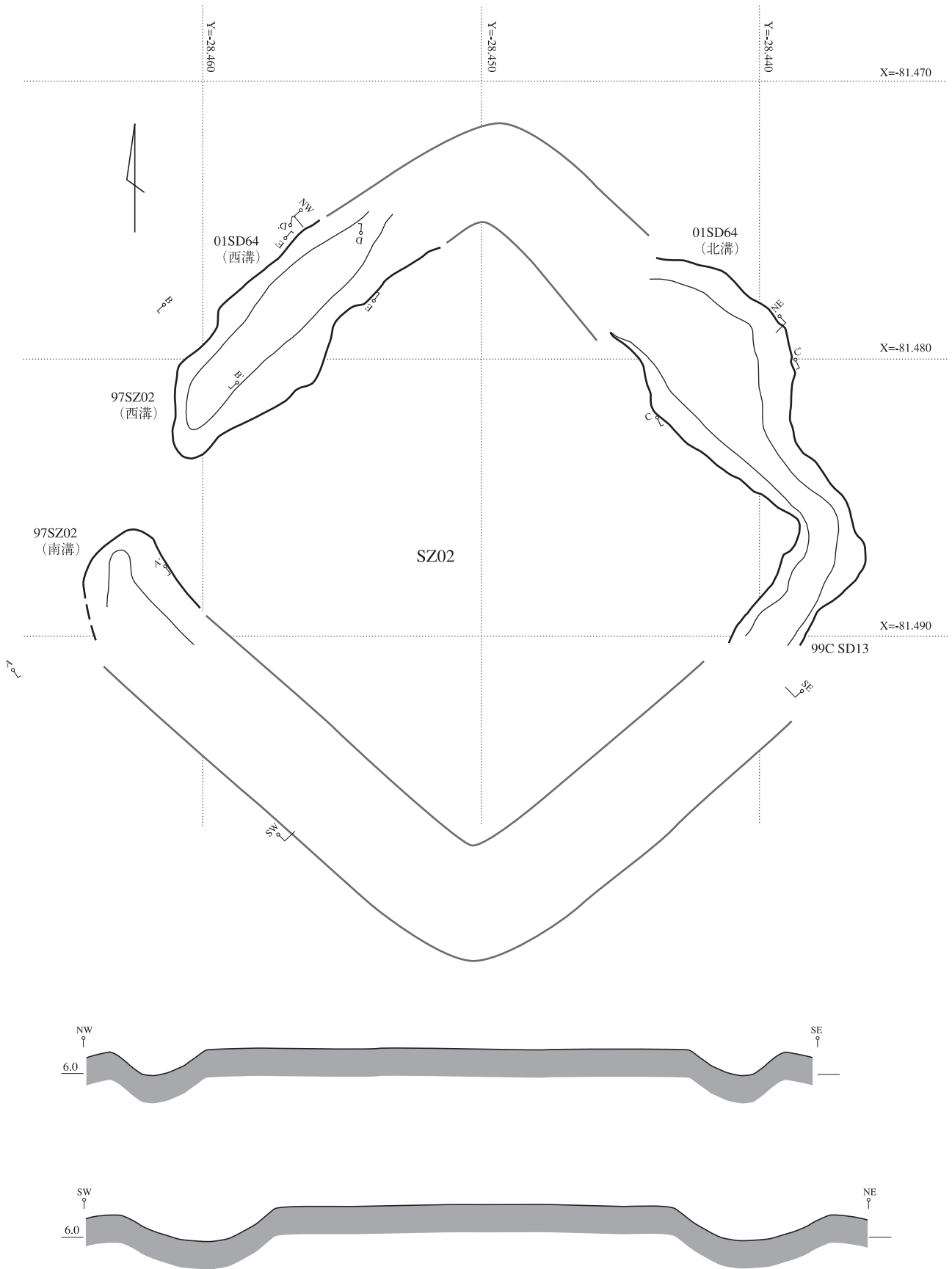


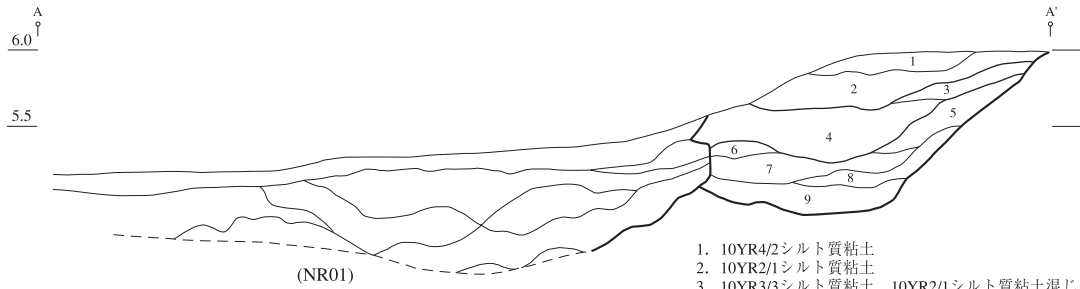
2. 5Y4/2粘質シルト
3. 5Y4/2粘質シルト、2.5Y8/4細粒砂混じる



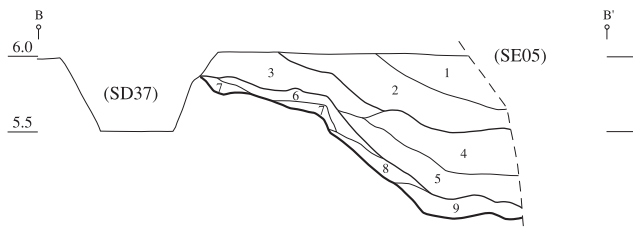
1. 5Y2/1粘質シルト
2. 5Y4/2粘質シルト
3. 5Y4/2粘質シルト、2.5Y8/4細粒砂混じる
4. 5Y2/1粘質シルト、5Y4/2粘質シルト混入
5. 2.5Y5/2粘質シルト

図版 24 S Z 02 遺構図 1 (1:200)

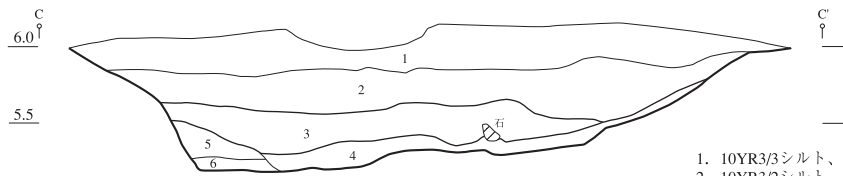




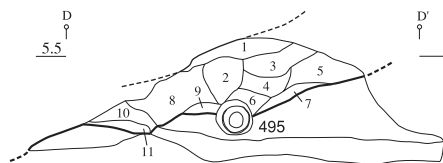
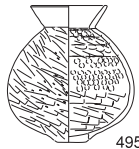
1. 10YR4/2シルト質粘土
2. 10YR2/1シルト質粘土
3. 10YR3/3シルト質粘土、10YR2/1シルト質粘土混じる
4. 10YR3/3シルト質粘土、炭化物少量含む
5. 10YR3/3シルト質粘土、2.5Y8/4細粒砂多く含む
6. 10YR3/3シルト質粘土
7. 10YR3/2シルト質粘土、2.5Y8/4細粒砂少量含む
8. 10YR4/1シルト質粘土、2.5Y8/4細粒砂斑入
9. 10YR5/1粘質シルト、2.5Y8/4細粒砂と粗粒砂混じる



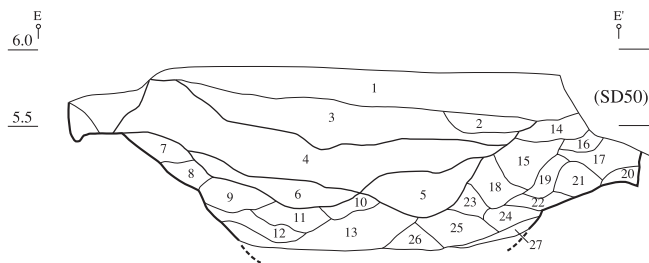
1. 10YR4/2粘質シルト
2. 2.5Y3/1シルト質粘土、炭化物少量混じる
3. 2.5Y4/2粘質シルト
4. 2.5Y4/2シルト質粘土
5. 2.5Y3/1シルト質粘土
6. 2.5Y4/2粘質シルト、2.5Y8/4細粒砂混じる
7. 2.5Y4/2粘質シルトと2.5Y8/6細粒砂の斑土
8. 2.5Y5/1粘質シルト、2.5Y8/4細粒砂混じる
9. 2.5Y5/1粘質シルト、2.5Y8/4細粒砂多量含む



1. 10YR3/3シルト、2.5Y5/4極細粒砂斑入
2. 10YR3/2シルト
3. 10YR3/3シルト
4. 10YR3/3シルト、10YR6/2極細粒砂斑入
5. 10YR2/3シルト、10YR6/2極細粒砂斑入
6. 10YR3/3粘土質シルト、2.5Y5/6極細粒砂斑入

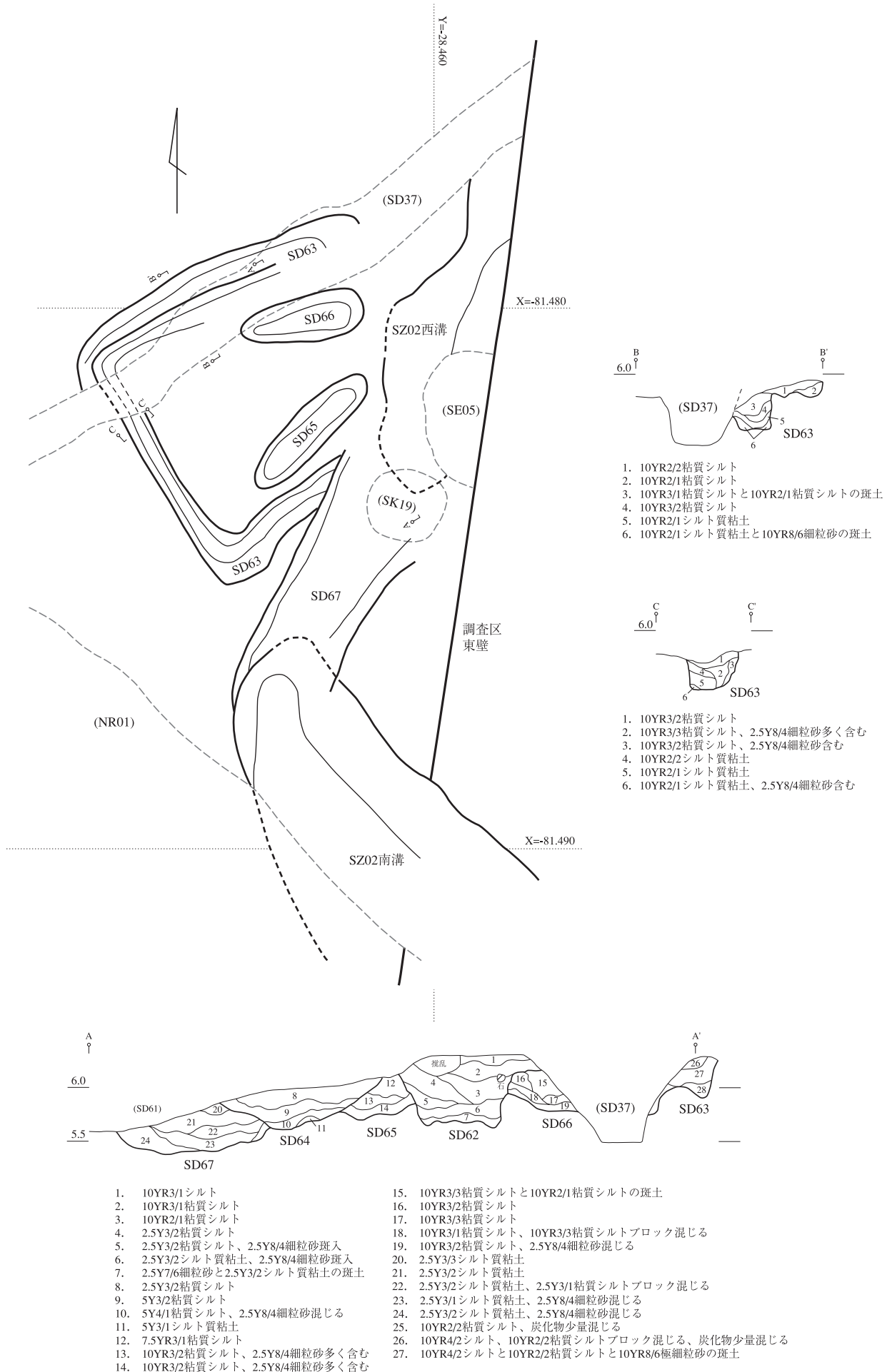


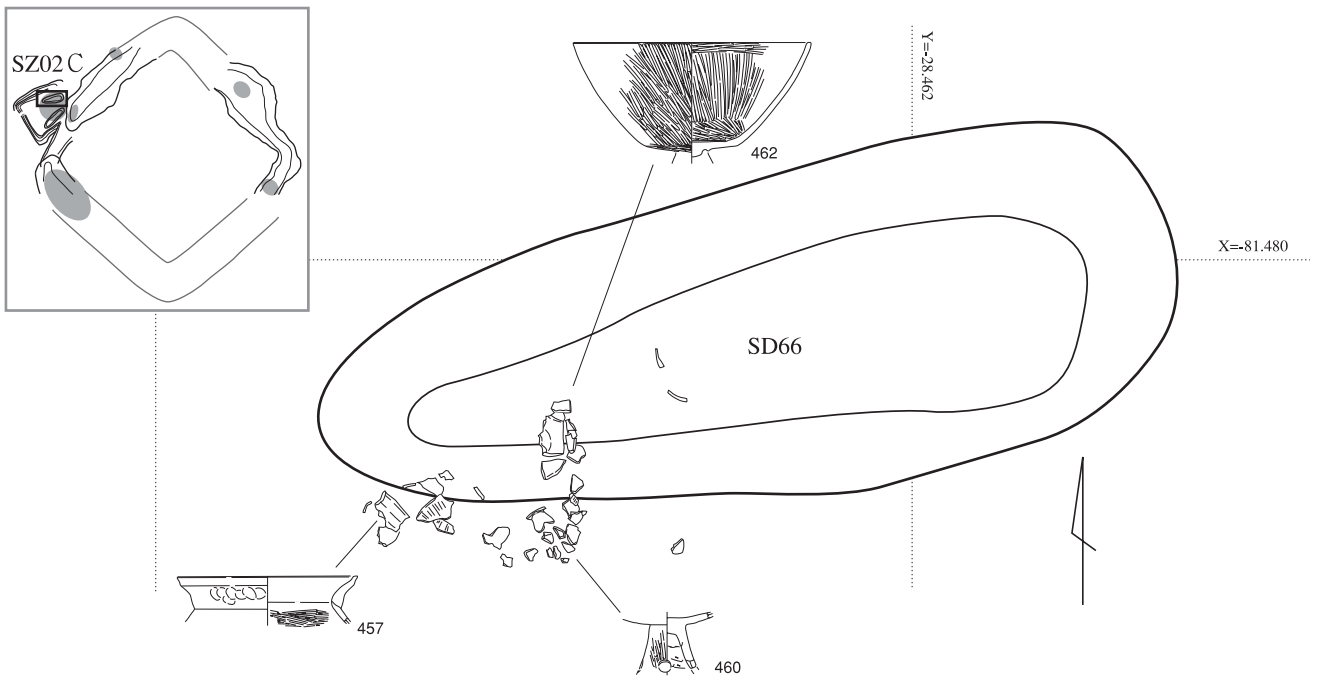
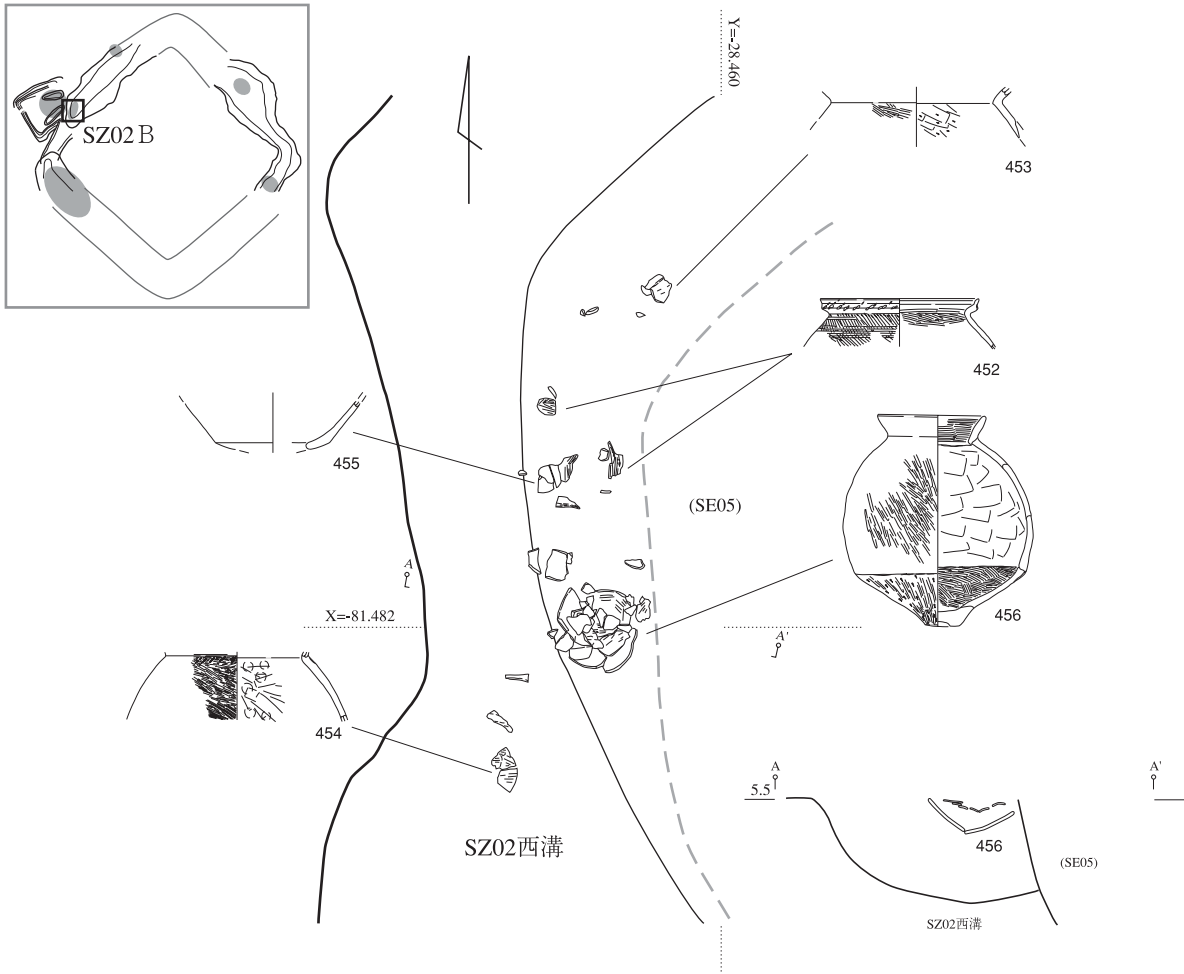
1. 2.5Y4/6極細粒砂、2.5Y4/3砂質シルト斑入
2. 2.5Y3/3極細粒砂
3. 2.5Y5/3極細粒砂、2.5Y6/2極細粒砂斑入
4. 2.5Y4/3極細粒砂、炭化物混じる
5. 2.5Y5/4極細粒砂、2.5Y6/2細粒砂斑入
6. 2.5Y5/2細粒砂、2.5Y5/3極細粒砂斑入
7. 2.5Y5/3極細粒砂、2.5Y5/2極細粒砂斑入
8. 2.5Y6/2極細粒砂と10YR2/2シルトと10YR3/4砂質シルトの斑土
9. 2.5Y5/3極細粒砂、10YR4/6細粒砂斑入
10. 2.5Y6/4極細粒砂
11. 2.5Y4/2砂質シルト、2.5Y5/3極細粒砂斑入



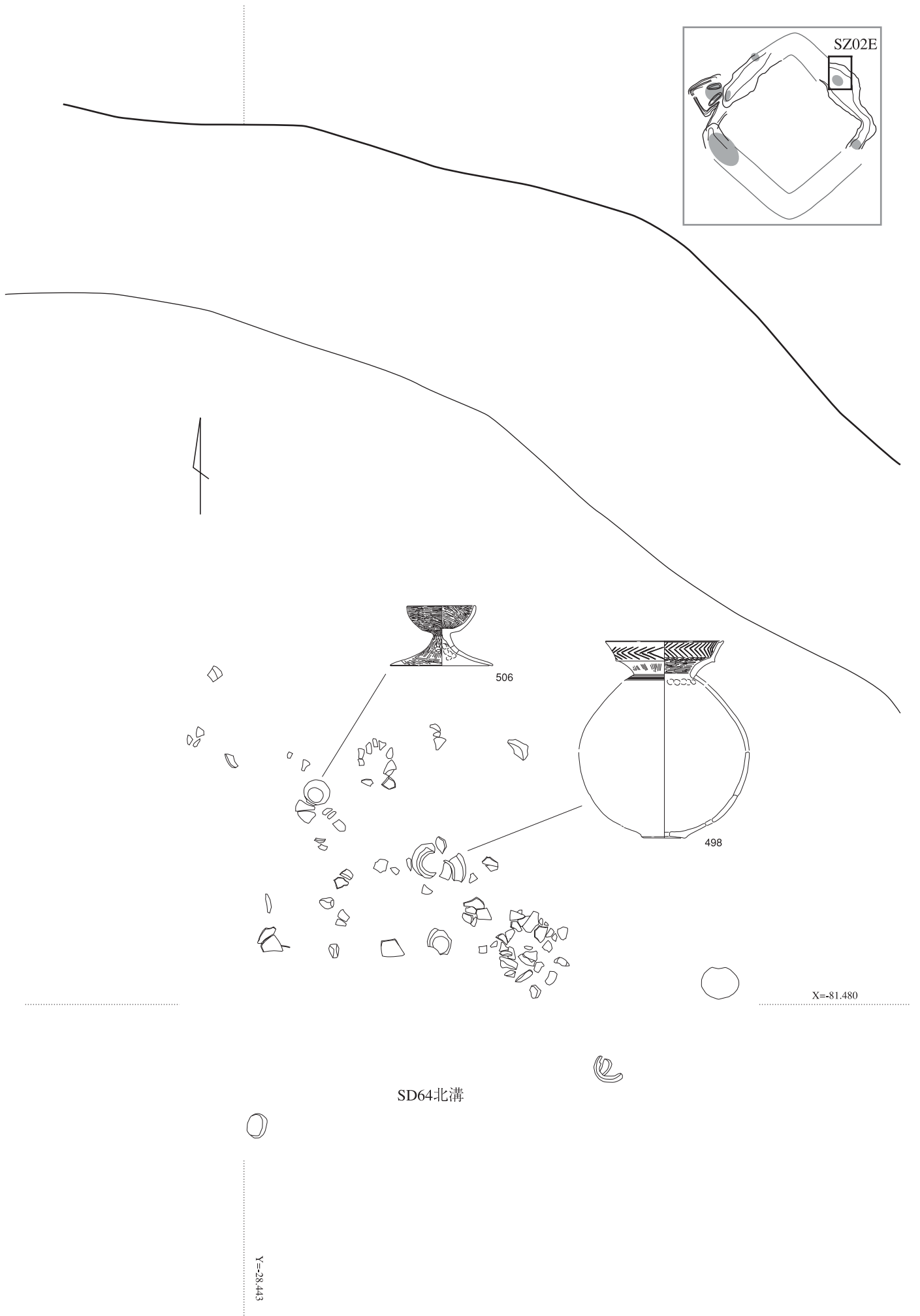
1. 10YR2/3シルト
2. 10YR3/3シルト、10YR2/3シルト斑入
3. 10YR2/2シルト
4. 10YR3/3シルト、10YR2/2シルト斑入
5. 10YR2/2シルト、10YR3/3シルト斑入
6. 10YR3/3粘土質シルト、10YR4/3極細粒砂斑入
7. 2.5Y5/4極細粒砂、10YR4/3極細粒砂と10YR2/2シルト斑入
8. 10YR2/2シルト、10YR3/3シルト斑入
9. 2.5Y5/3極細粒砂、10YR3/3砂質シルト斑入
10. 2.5Y5/3極細粒砂、10YR4/3極細粒砂斑入
11. 10YR5/4極細粒砂、10YR3/3砂質シルト斑入
12. 10YR5/3極細粒砂、10YR5/2極細粒砂斑入
13. 10YR3/3シルト、10YR4/3極細粒砂斑入
14. 10YR2/3シルト、2.5Y4/4極細粒砂斑入
15. 2.5Y4/4砂質シルト、10YR2/3シルト斑入
16. 2.5Y4/2極細粒砂、10YR3/4シルト斑入
17. 10YR2/2シルト、2.5Y5/3極細粒砂斑入
18. 10YR2/2シルト、10YR3/3シルト斑入
19. 10YR2/2シルト、10YR4/3砂質シルト斑入
20. 2.5Y4/3極細粒砂
21. 2.5Y4/3極細粒砂
22. 2.5Y4/3砂質シルト、2.5Y6/4極細粒砂斑入
23. 2.5Y4/3砂質シルト、2.5Y4/4砂質シルト斑入
24. 2.5Y5/3極細粒砂、2.5Y2/3シルト斑入
25. 2.5Y5/3シルト、2.5Y2/2極細粒砂斑入
26. 2.5Y5/3細粒砂と2.5Y6/2極細粒砂と10YR2/2極細粒砂の斑土
27. 10YR2/3シルト、2.5Y5/3極細粒砂斑入

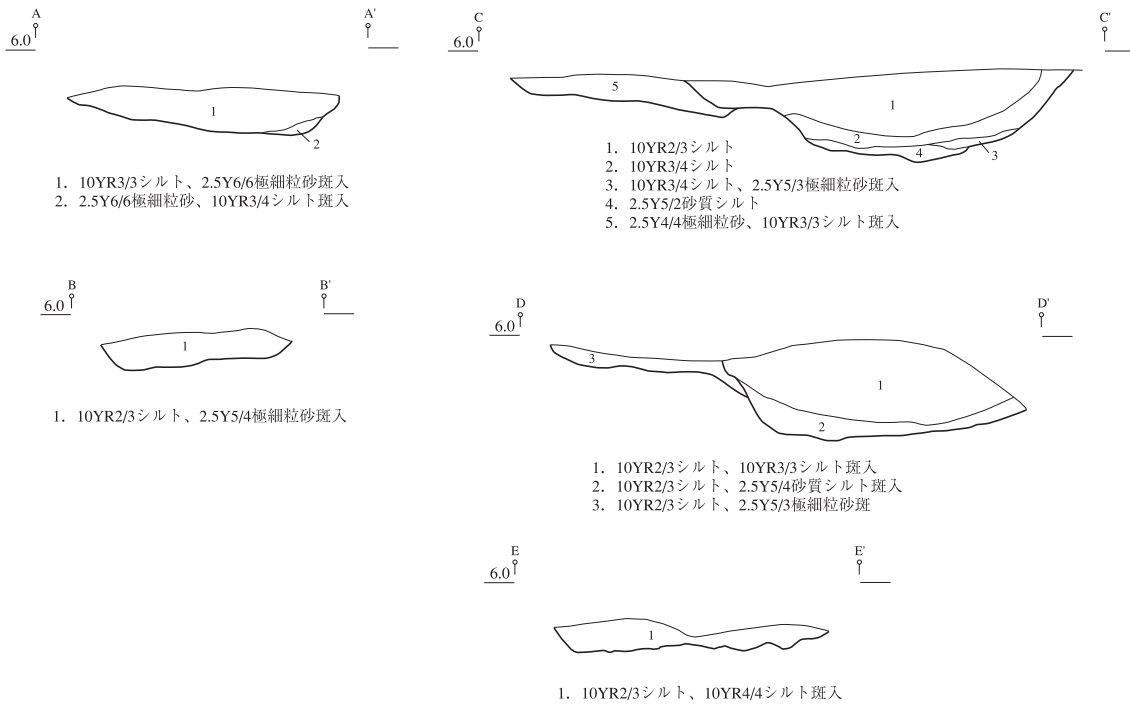
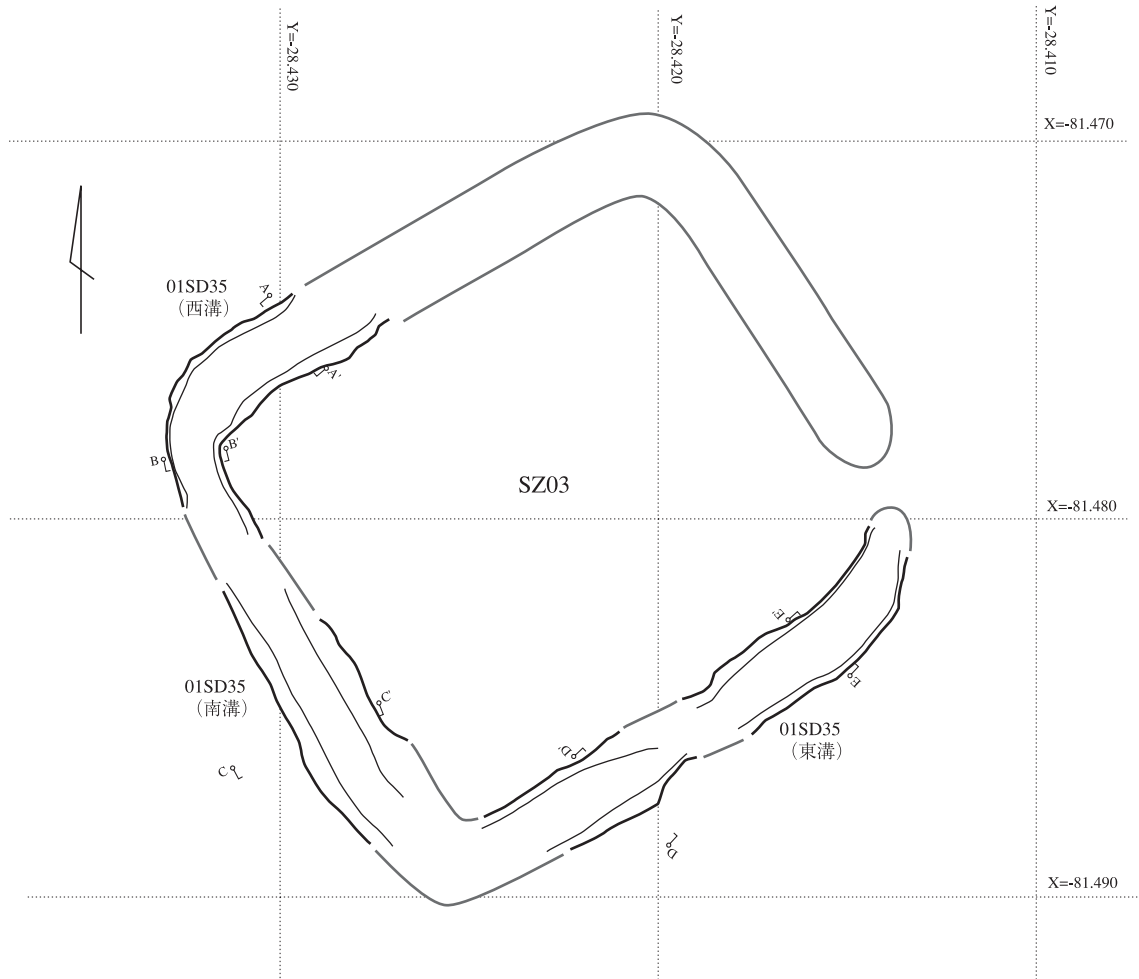
図版 26 S Z 02 開口部付近遺構図 (1 : 100、1 : 50)



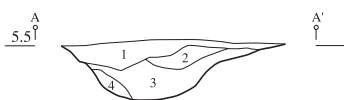
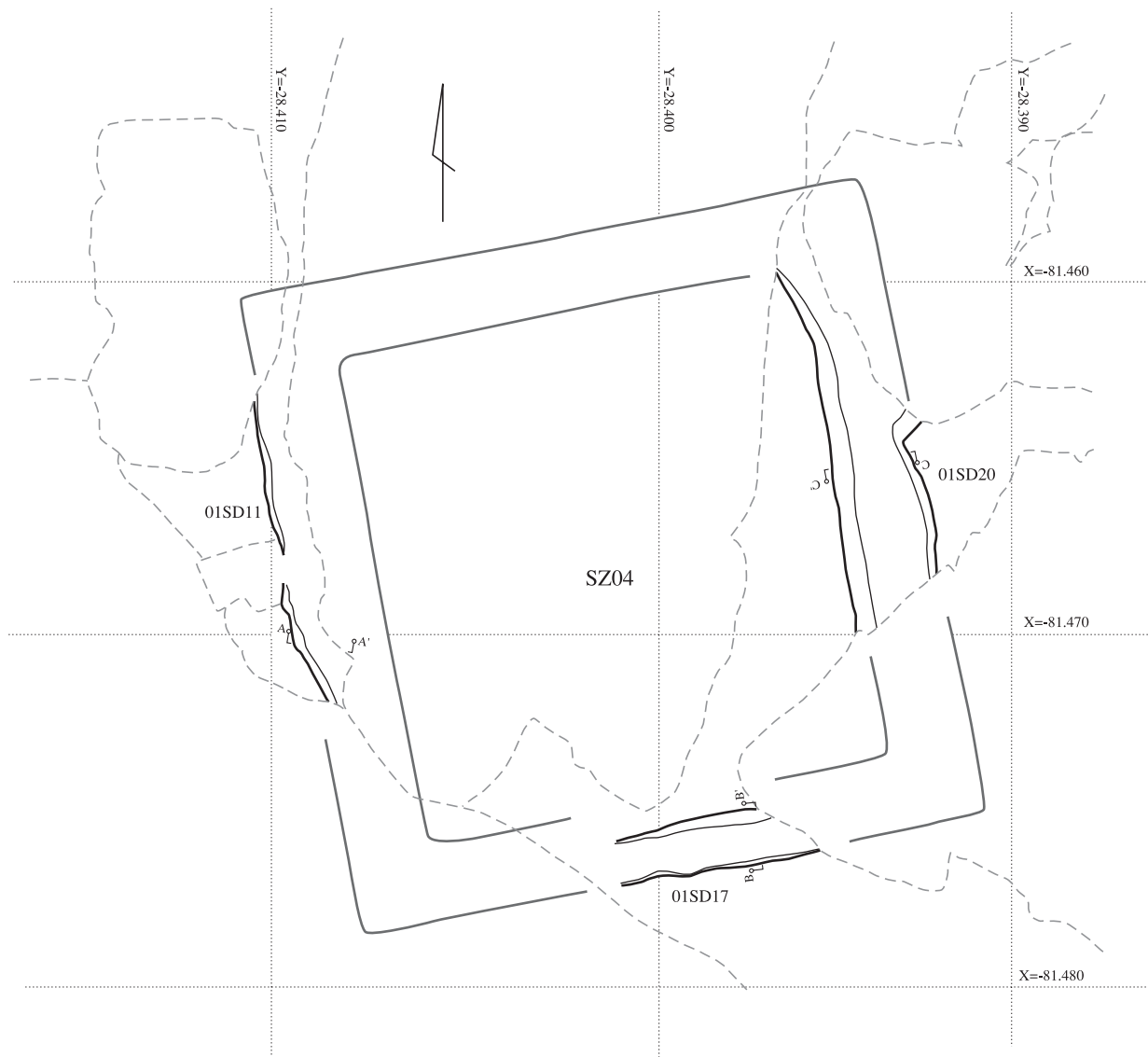


図版 28 S Z 02 E 群遺物出土状態図 (1 : 20)

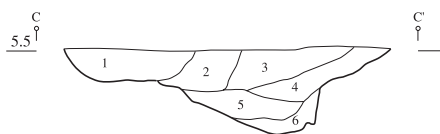




図版30 S Z 04 遺構図 (1 : 200、1 : 50)



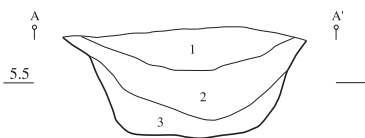
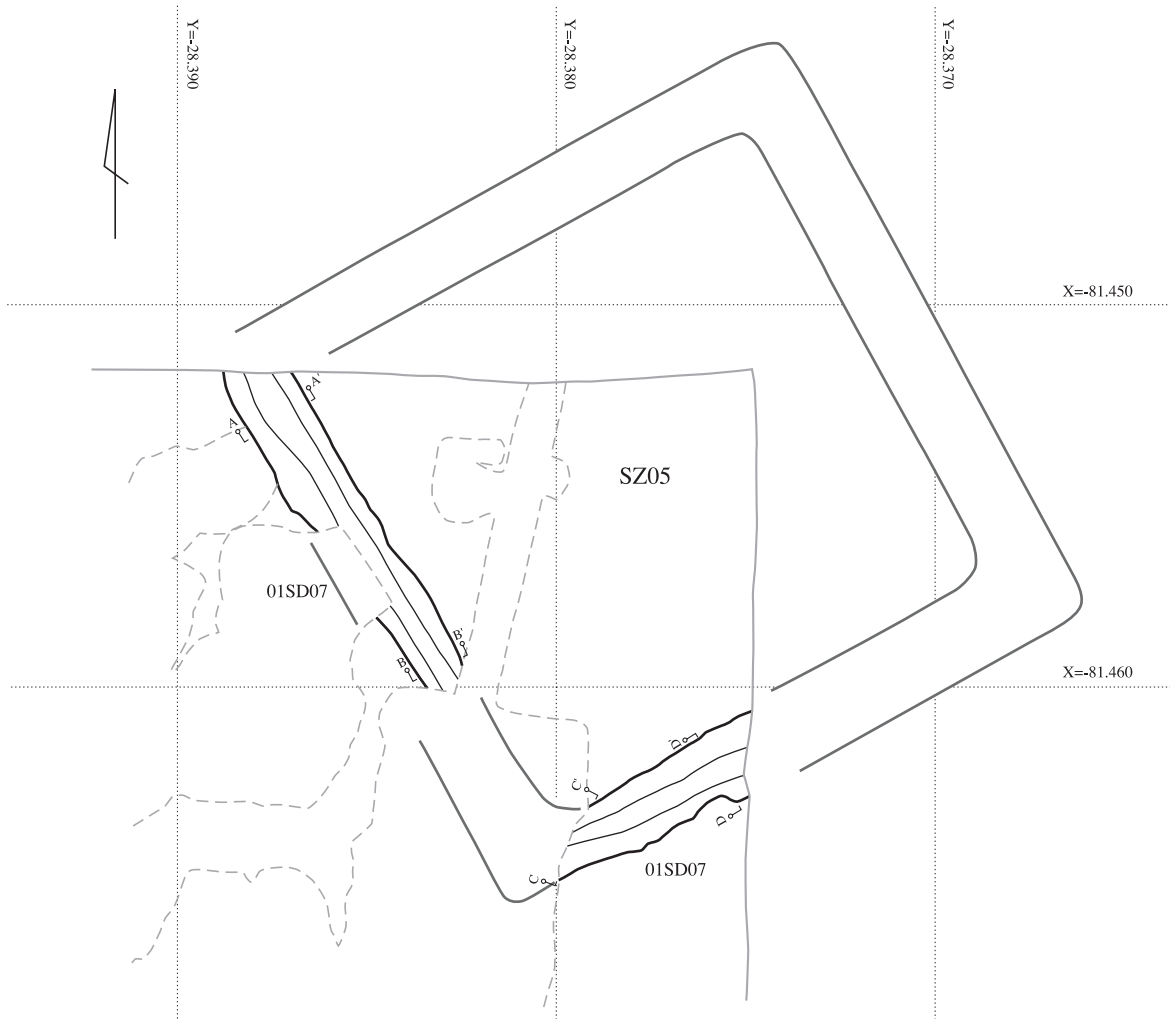
1. 10YR4/3シルトと10YR3/2シルトと2.5Y6/3極細粒砂の斑土
2. 10YR3/2シルト
3. 10YR3/2シルトと10YR3/4シルトと2.5Y5/4極細粒砂の斑土
4. 2.5Y4/4シルトと10YR4/3シルトの斑土、炭化物少量混じる



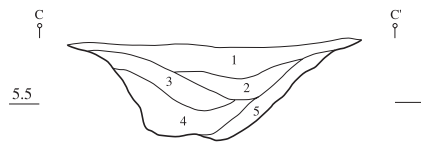
1. 10YR3/3シルト、10YR2/3シルト斑入
2. 10YR4/2シルト
3. 10YR2/3シルト
4. 10YR2/3シルト、2.5Y5/3極細粒砂斑入
5. 10YR4/2シルト、2.5Y5/4砂質シルト斑入
6. 10YR4/2シルトと2.5Y5/3極細粒砂と2.5Y5/4極細粒砂の斑土



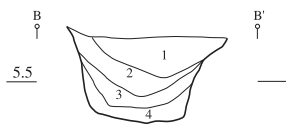
1. 10YR3/3シルト
2. 10YR4/3シルトと2.5Y5/3極細粒砂と2.5Y4/3シルト質極細粒砂の斑土



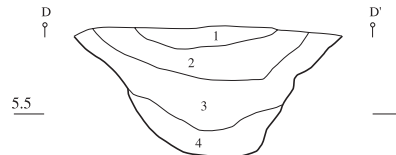
1. 10YR2/3シルト、10YR4/4シルト斑入
2. 10YR3/3シルト、10YR4/2粘土質シルトと2.5Y4/3極細粒砂斑入
3. 10YR4/3砂質シルトと2.5Y5/3極細粒砂の互層



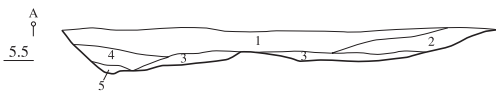
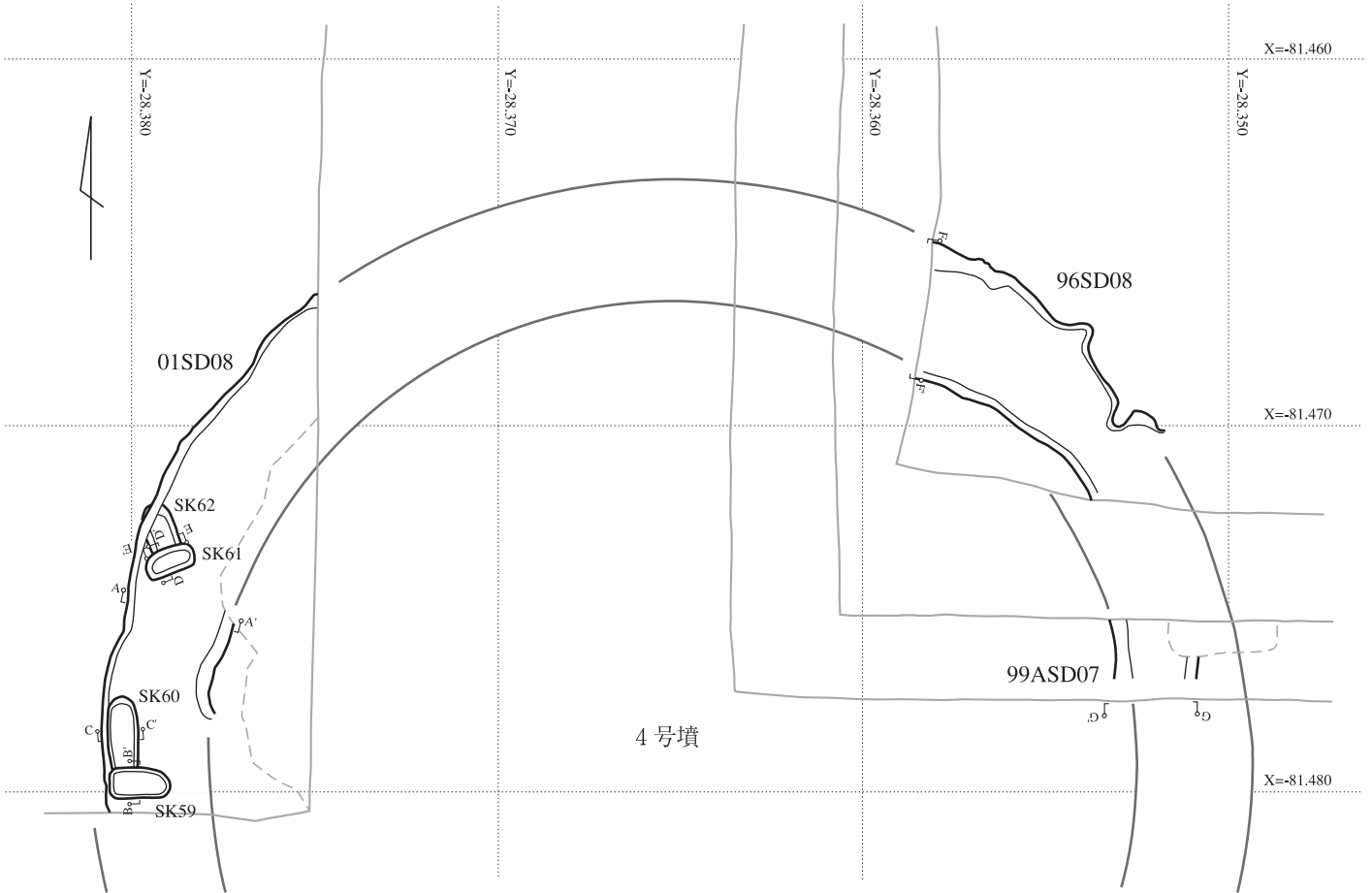
1. 10YR3/3シルト、10YR4/2シルト斑入
2. 10YR2/3粘土質シルト、2.5Y4/3極細粒砂斑入
3. 2.5Y4/3極細粒砂、10YR4/2シルトと2.5Y5/4極細粒砂斑入
4. 2.5Y4/3極細粒砂、10YR3/2粘土質シルトと2.5Y3/3砂質シルト斑入
5. 10YR4/3砂質シルト、2.5Y5/4極細粒砂と2.5Y5/3極細粒砂斑入



1. 10YR2/3シルト
2. 2.5Y5/4極細粒砂
3. 10YR4/3砂質シルトと2.5Y5/3極細粒砂の互層
4. 2.5Y5/4極細粒砂



1. 10YR3/3シルト質極細粒砂、10YR4/3極細粒砂斑入
2. 10YR2/2粘質シルト
3. 10YR3/2シルト質粘土、10YR4/3極細粒砂斑入
4. 10YR5/3極細粒砂、10YR3/3粘質シルトと10YR5/4シルト質極細粒砂が縞状に堆積



1. 10YR2/3シルトと2.5Y5/4極細粒砂と2.5Y5/3極細粒砂の斑土
2. 10YR2/2シルト、2.5Y5/3極細粒砂斑入
3. 2.5Y5/4極細粒砂、10YR2/2シルト斑入
4. 10YR2/2シルト
5. 10YR2/2シルトと2.5Y5/3極細粒砂の斑土



- SK59
1. 10YR3/3シルト、2.5Y5/4極細粒砂斑入



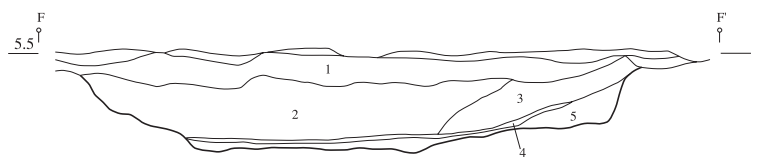
- SK60
1. 10YR2/3シルト、2.5Y5/3極細粒砂斑入



- SK61
1. 10YR2/2シルト、10YR3/2シルトと2.5Y5/3極細粒砂斑入



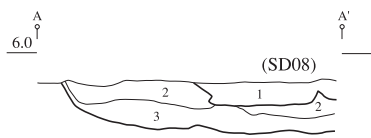
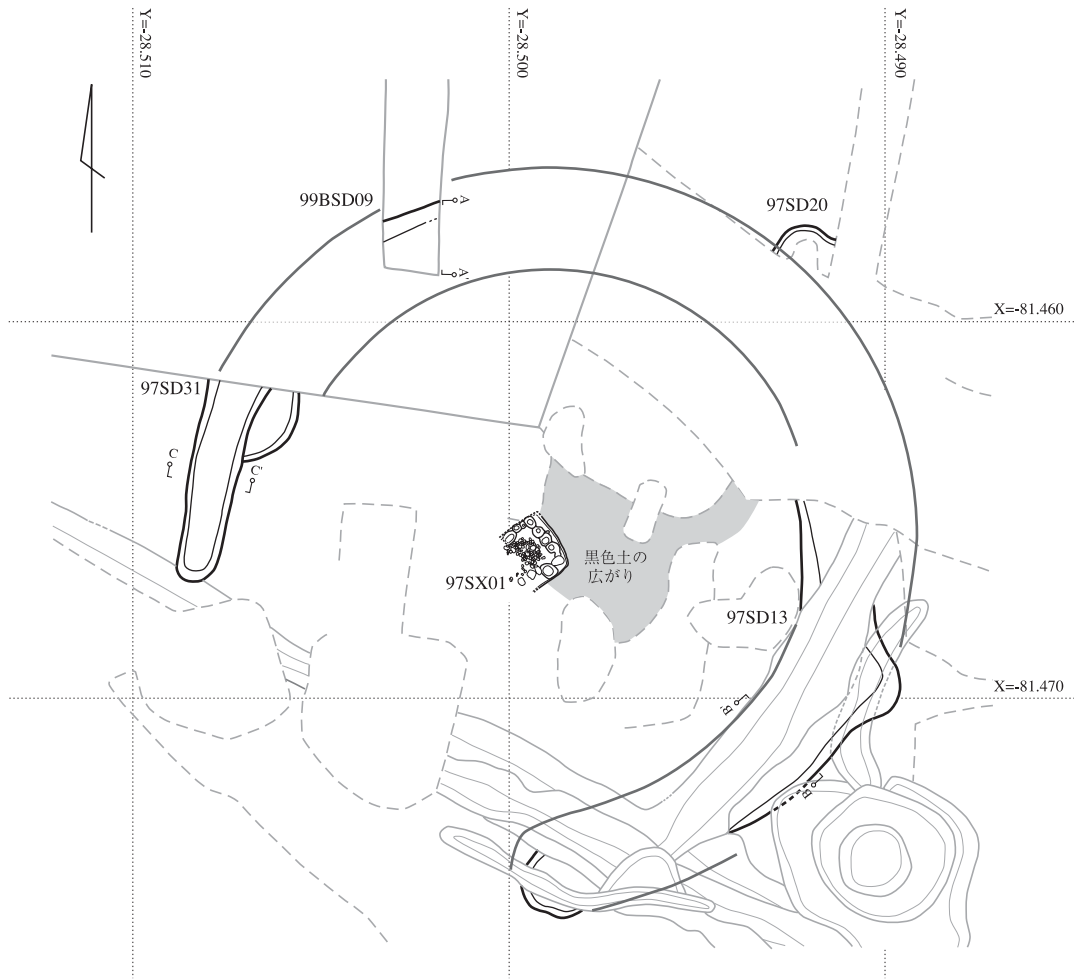
- SK62
1. 10YR3/2シルト
 2. 10YR3/2シルト、2.5Y5/4極細粒砂斑入



1. 10YR3/1粘土質シルト
2. 10YR2/2粘土質シルト、2.5Y5/2極細粒砂混入
3. 10YR2/2粘土質シルト、2.5Y5/2極細粒砂質シルト斑入
4. 10YR1.7/1粘土質シルト
5. 10YR2/3粘土質シルト、2.5Y5/2極細粒砂混入



1. 10YR4/2粘質シルト
2. 10YR5/4砂質シルト
3. 10YR5/2砂質シルト
4. 10YR5/4砂質シルト
5. 10YR5/3砂質シルト
6. 10YR4/3粘質シルト
7. 10YR4/2粘質シルト
8. 10YR4/3砂質シルト、10YR2/3粘質シルトブロック混入
9. 10YR5/2砂質シルト



1. 10YR4/2粘質シルト (粘性弱い)
2. 10YR3/2粘質シルト (粘性やや弱い)
3. 10YR6/4細粒砂、10YR3/2シルト斑入

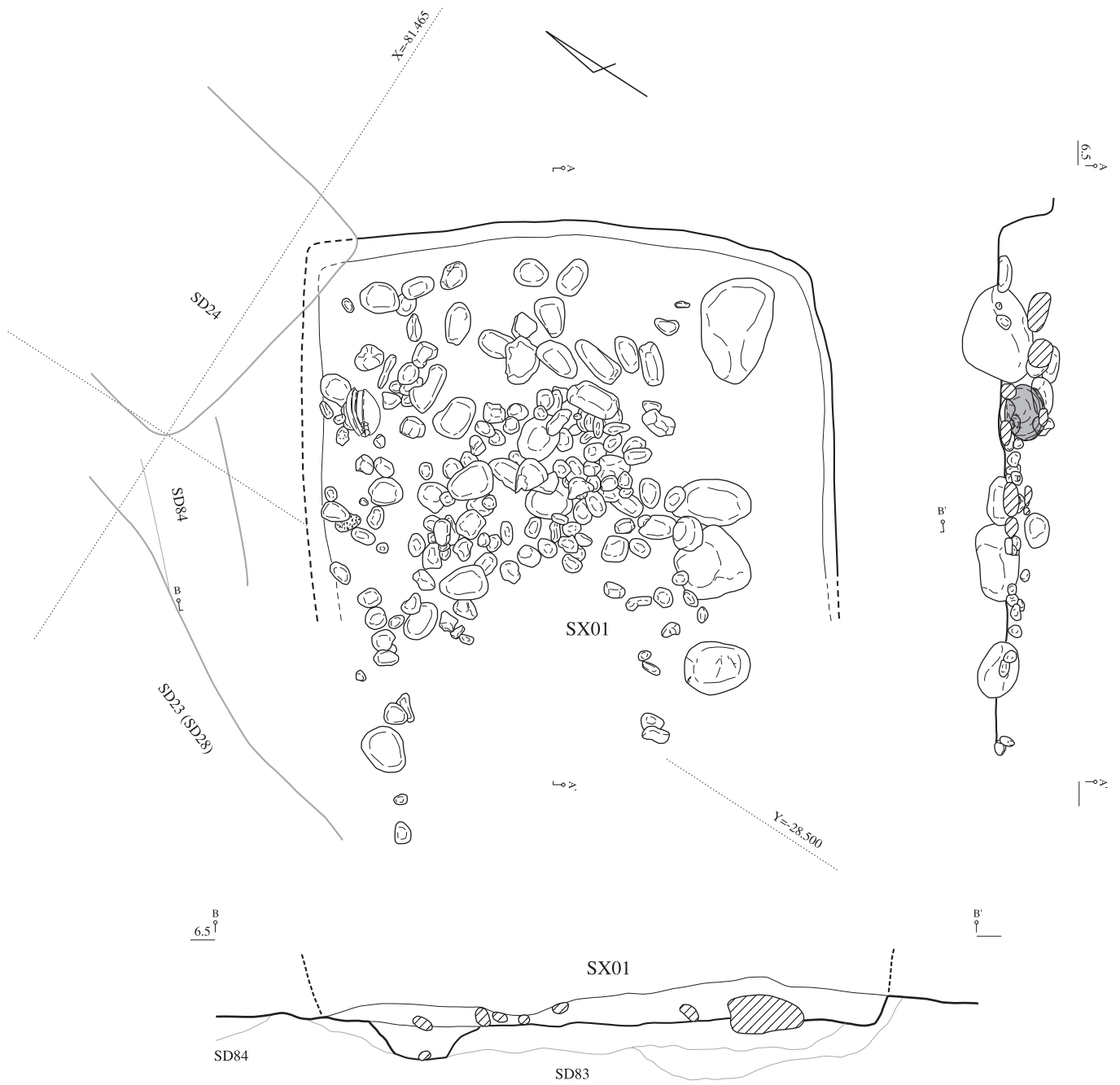


1. 10YR3/2シルト
2. 10YR2/2シルト
3. 10YR2/2シルト、2.5Y7/6極細粒砂斑入



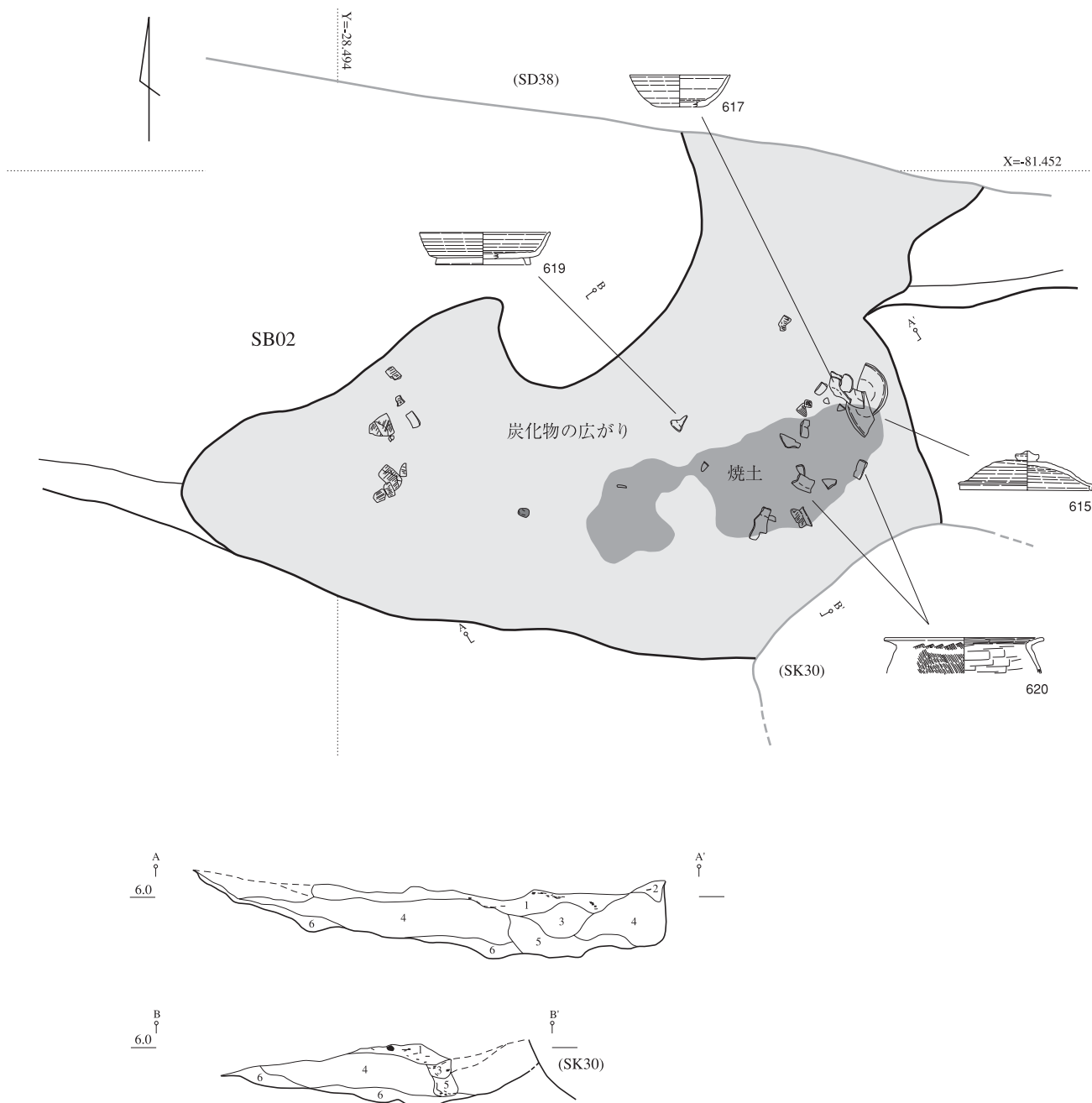
1. 10YR3/2粘質シルト
2. 10YR3/2粘質シルト、2.5Y7/6シルト斑入

図版 34 1号墳石室遺構図1 (1:20)

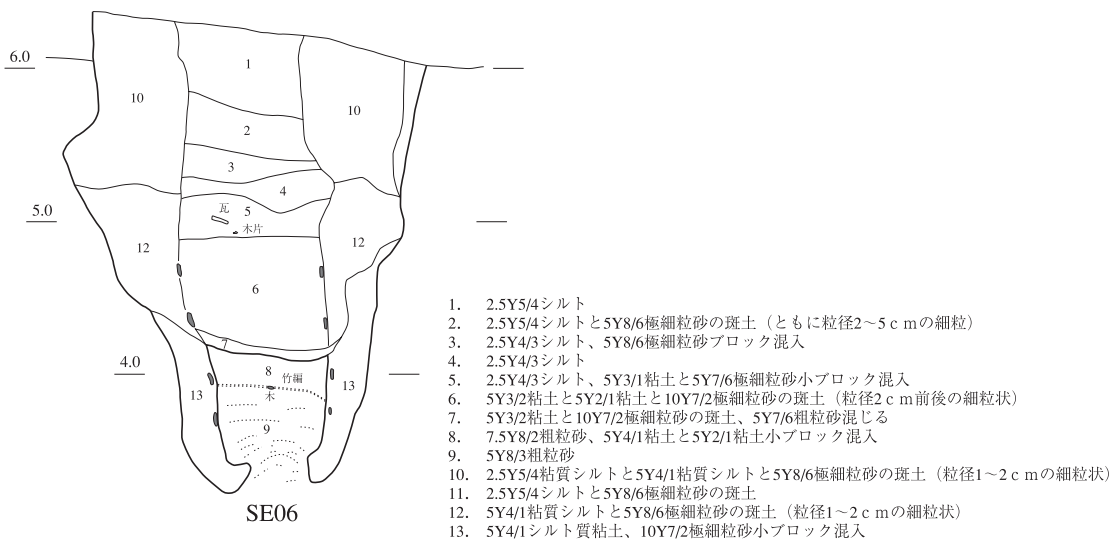
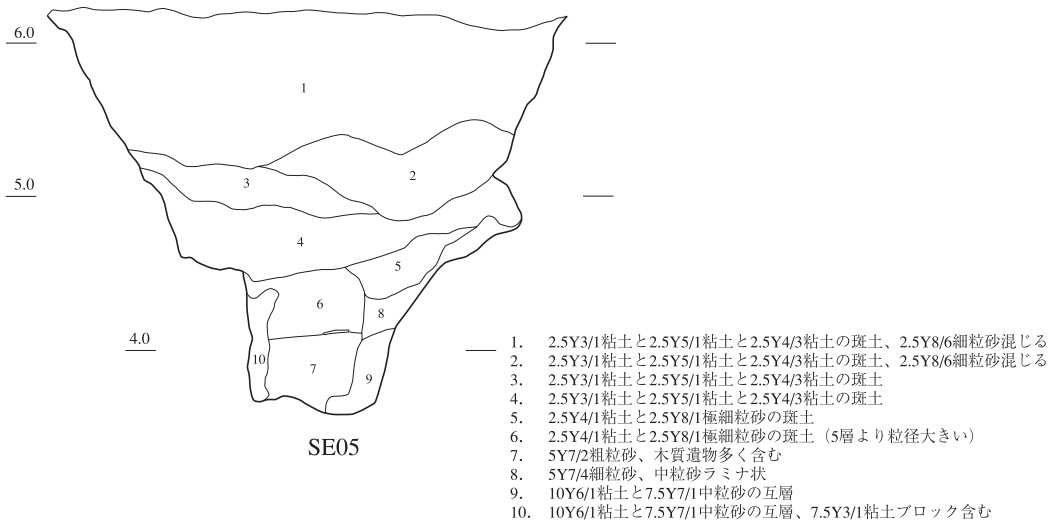
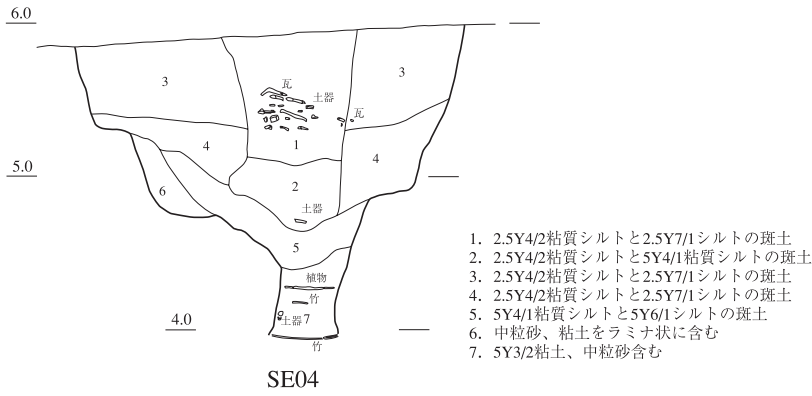




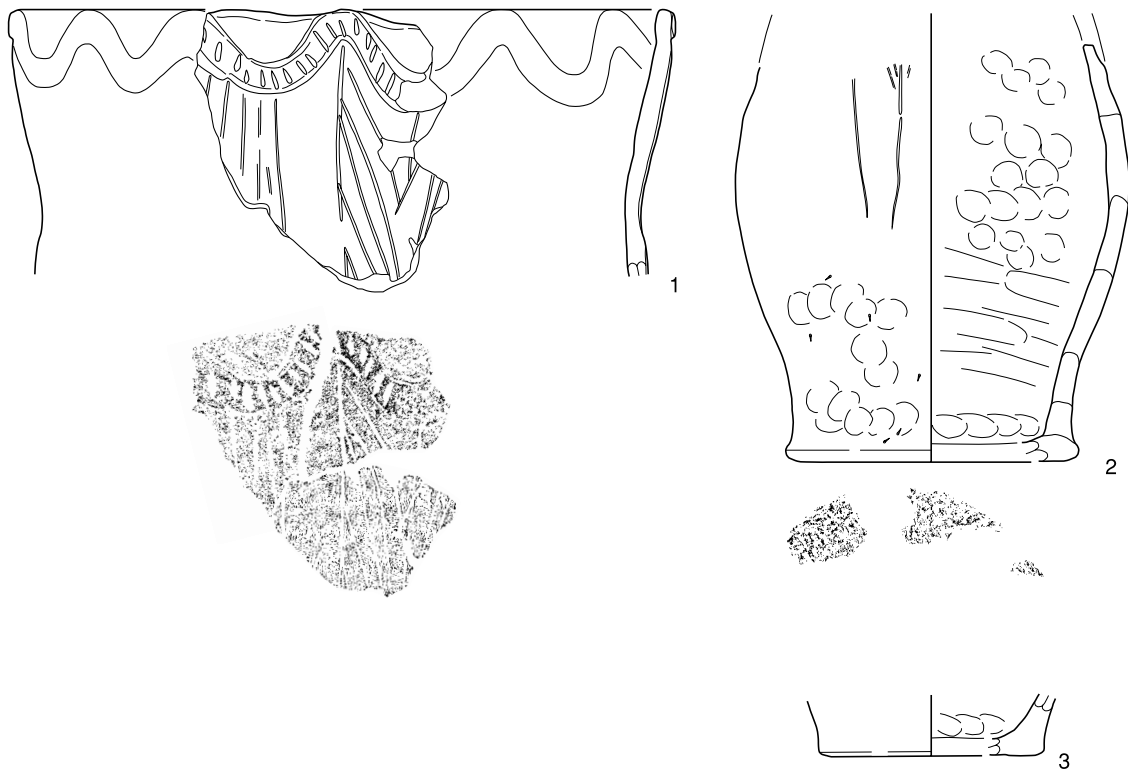
図版 36 97区S B 02 遺物出土状態図 (1:20)



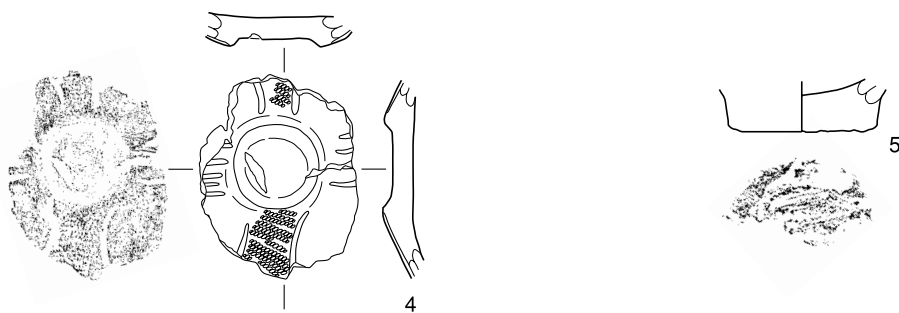
1. 10YR3/2粘質シルト、5YR5/6焼土ブロック多く混じる、炭化物多量に含む
2. 10YR3/3シルト、焼土ブロック少量混じる
3. 10YR3/2粘質シルト、焼土ブロックわずかに混じる、炭化物含む
4. 10YR3/1粘質シルト、2.5Y8/4シルト少量混じる、炭化物少量混じる
5. 10YR3/1粘質シルトと2.5Y8/4シルトの斑土
6. 10YR3/1粘質シルト、2.5Y8/4シルト混じる



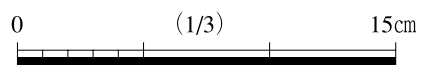
99A区S B01



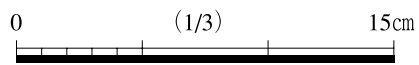
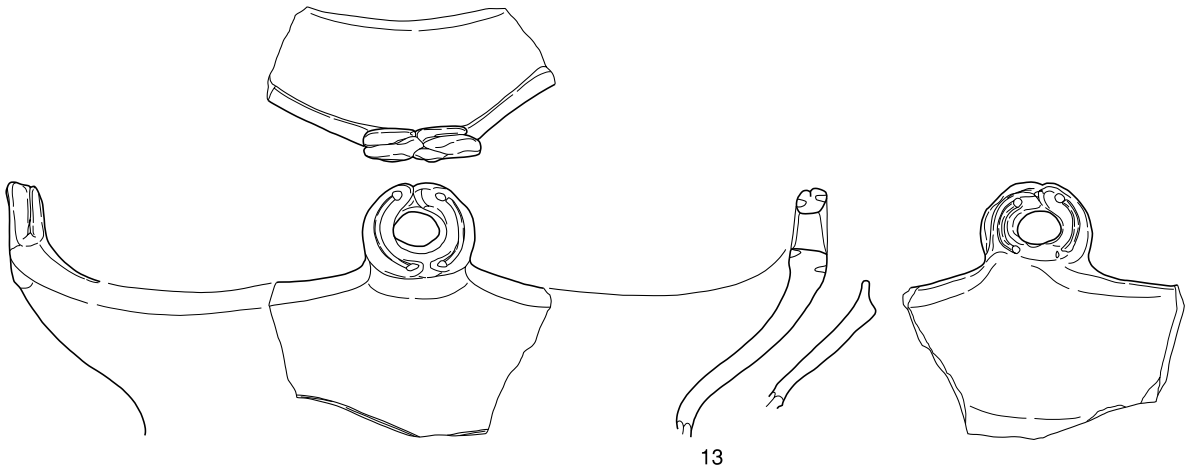
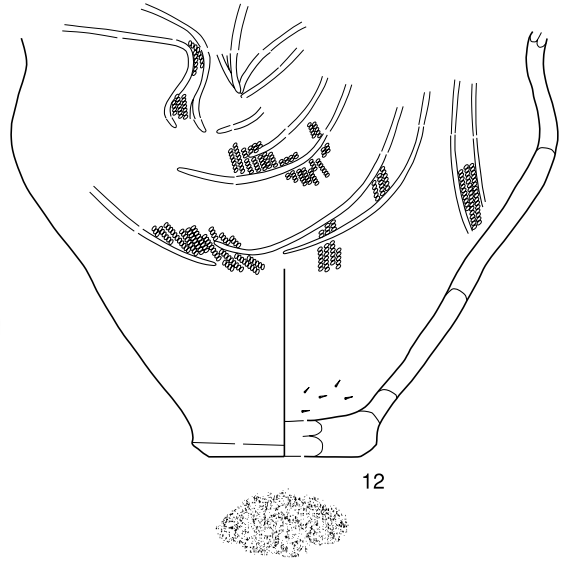
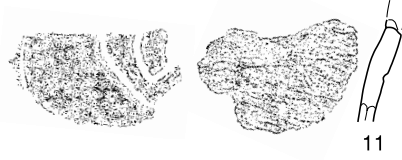
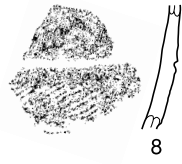
96区



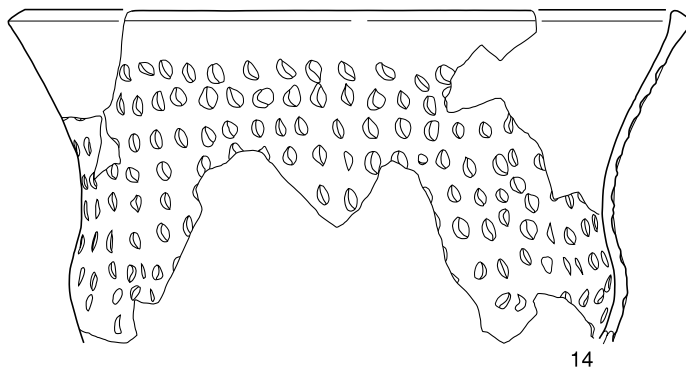
99C区



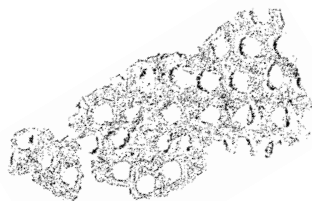
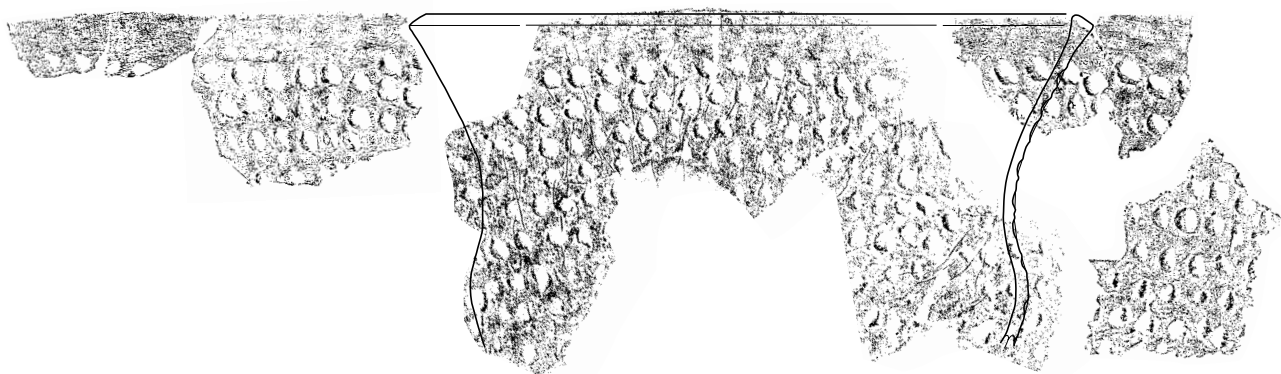
97区S K31-1



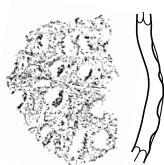
97区S K 31-2



14



15



16



17



18



19



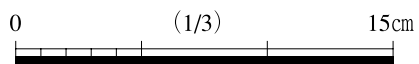
20



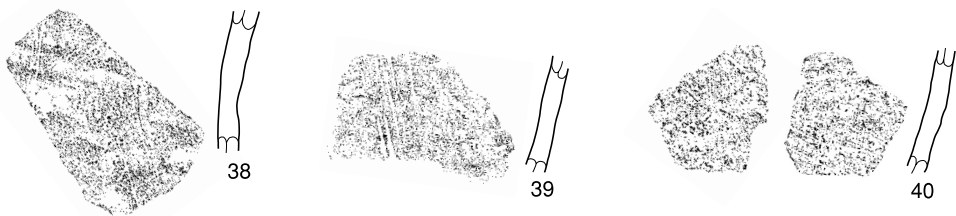
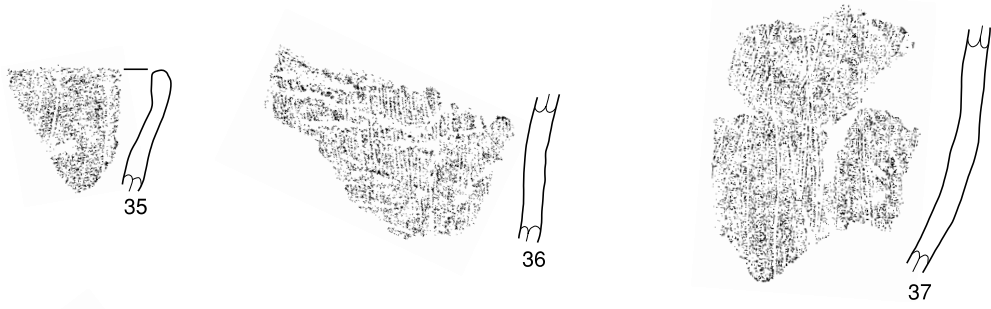
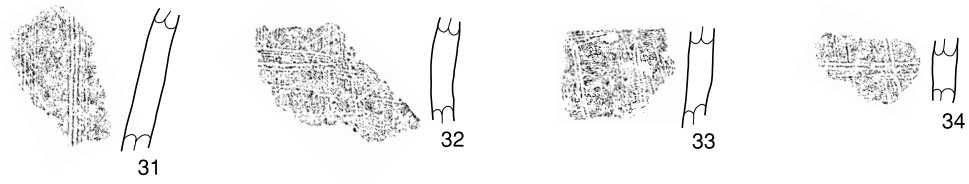
21



22

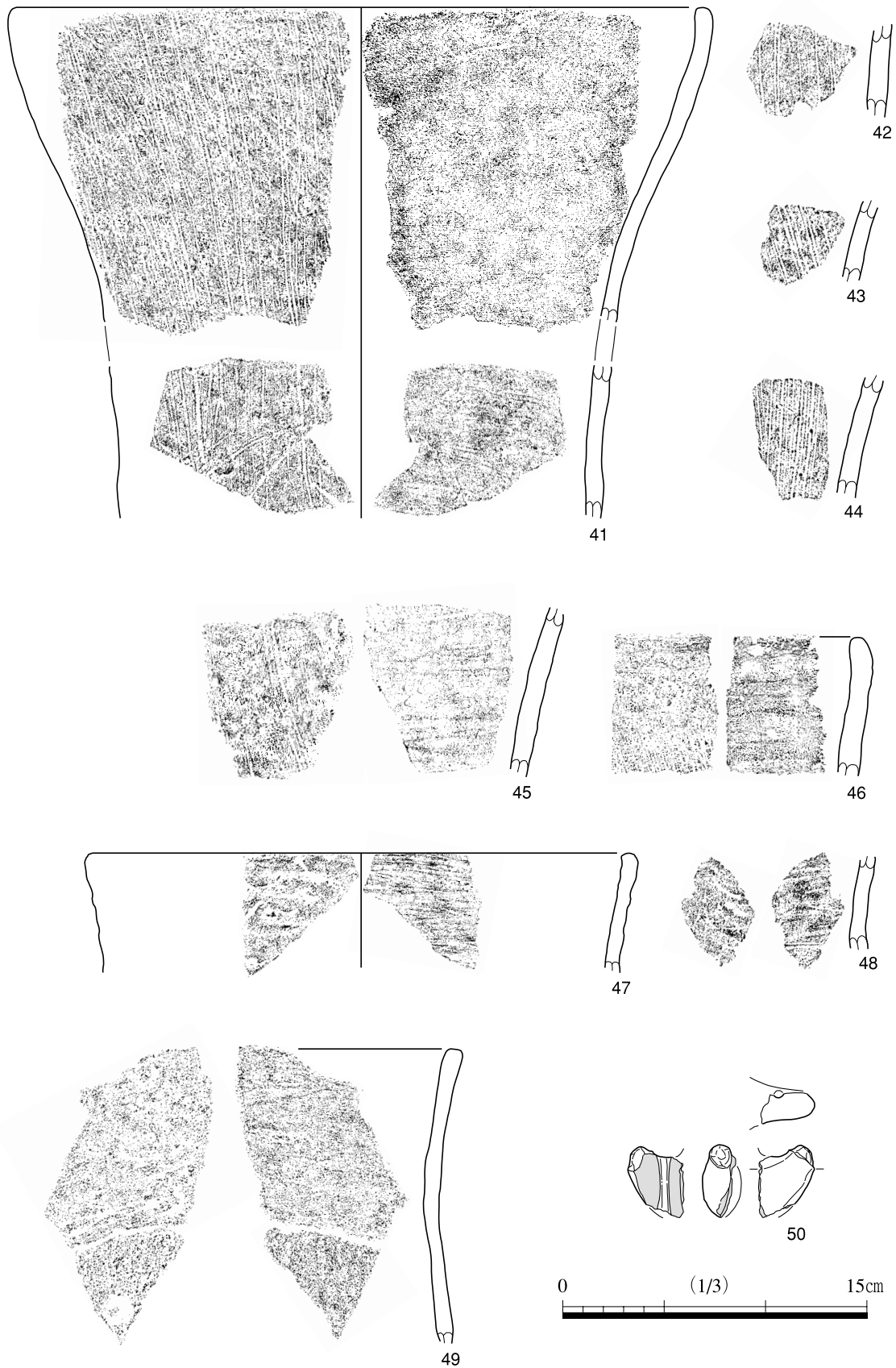


97区S K 31-3

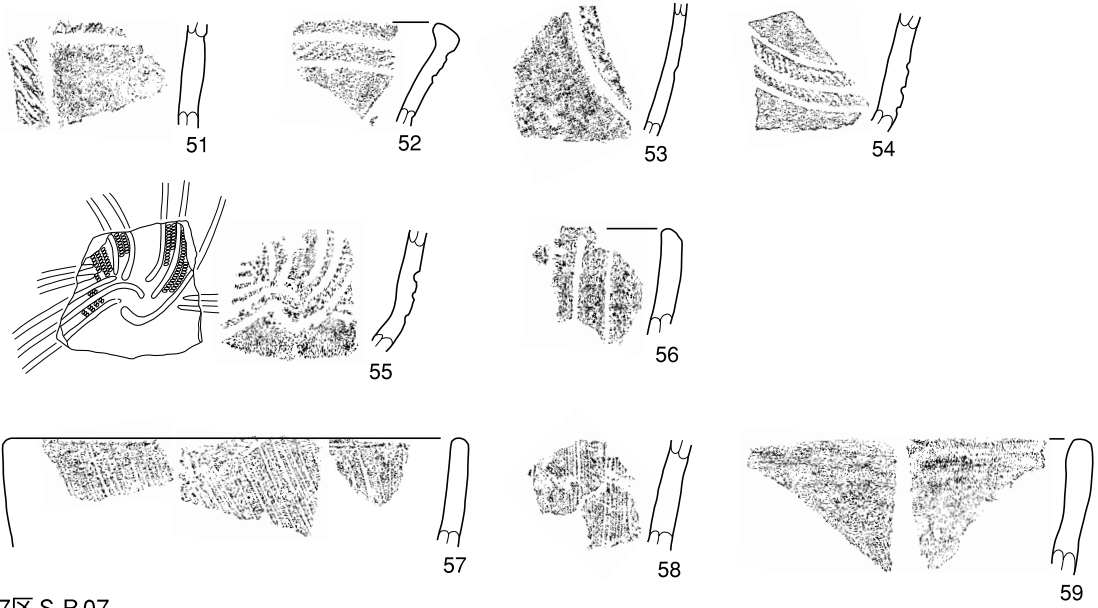


0 (1/3) 15cm

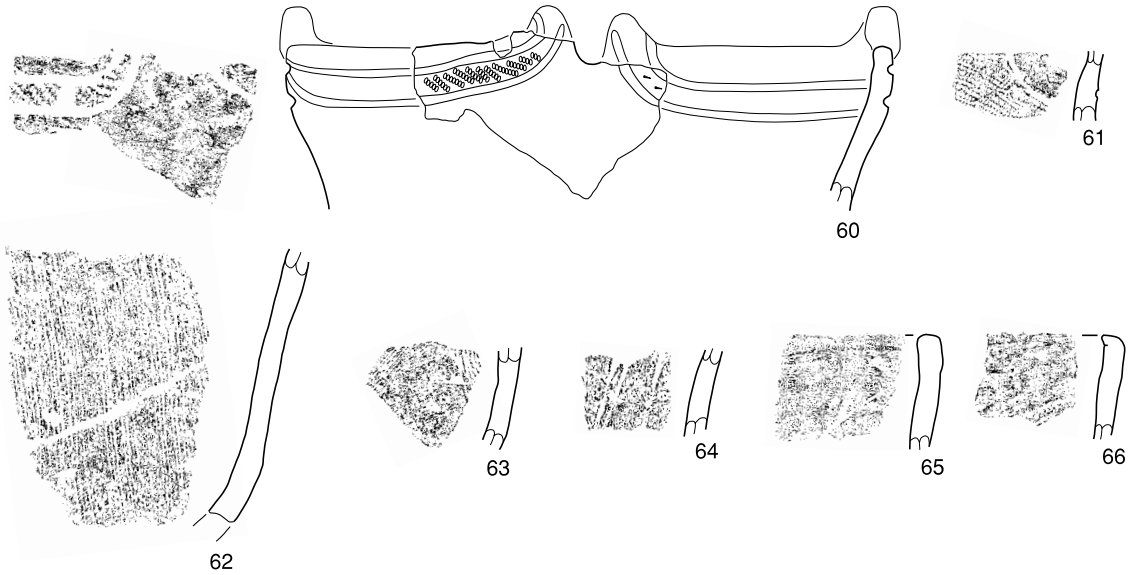
97区 S K 31-4



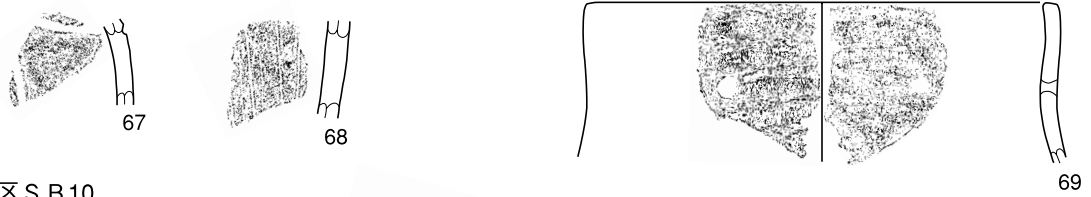
97区 S B08



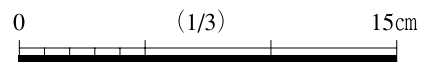
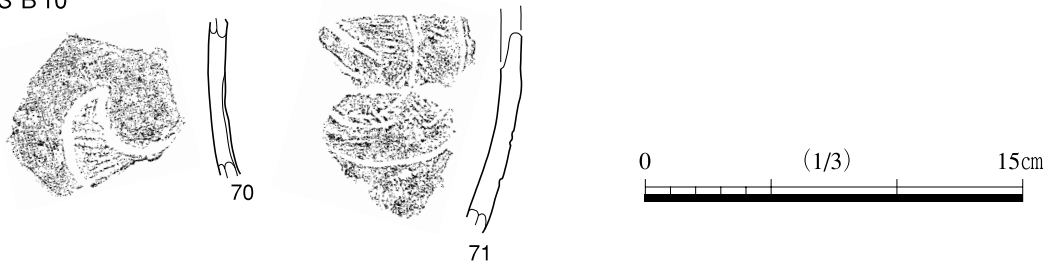
97区 S B07



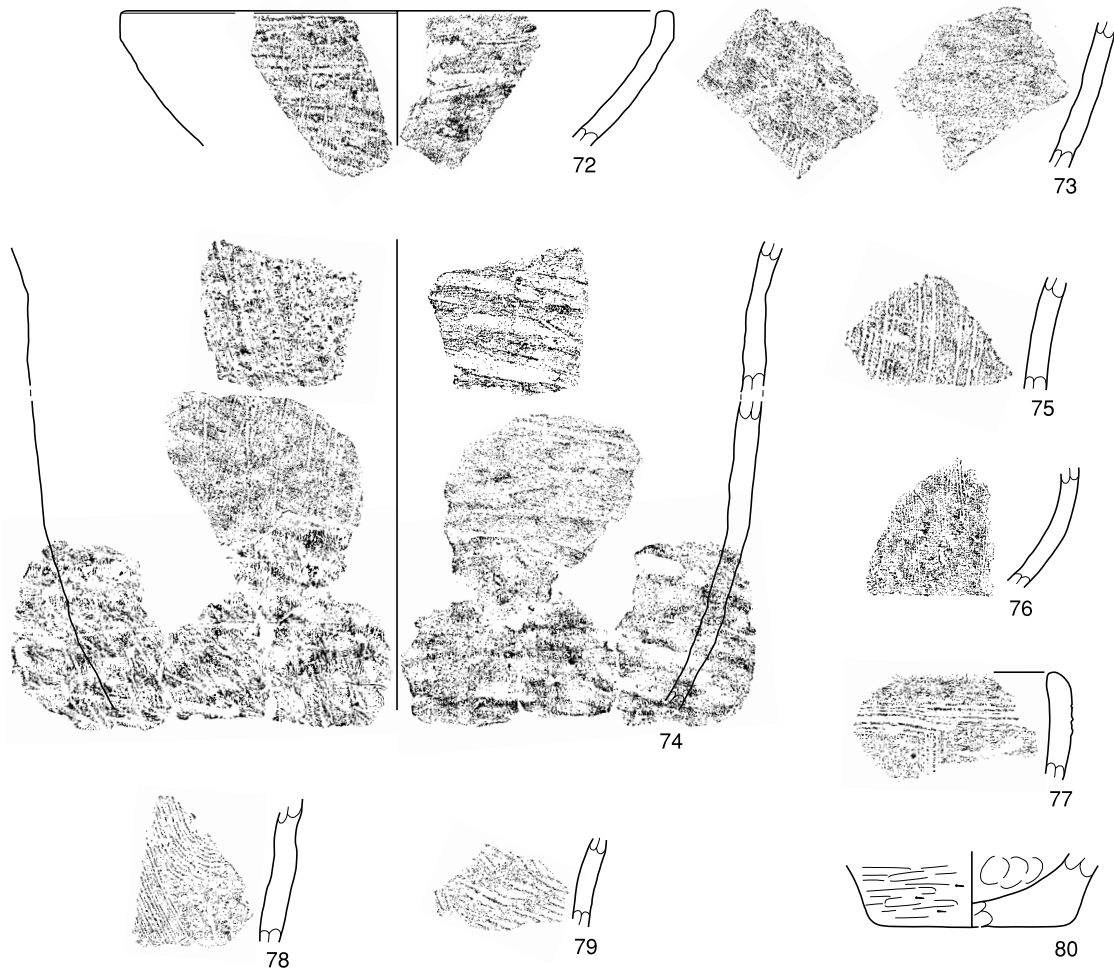
97区 S B09



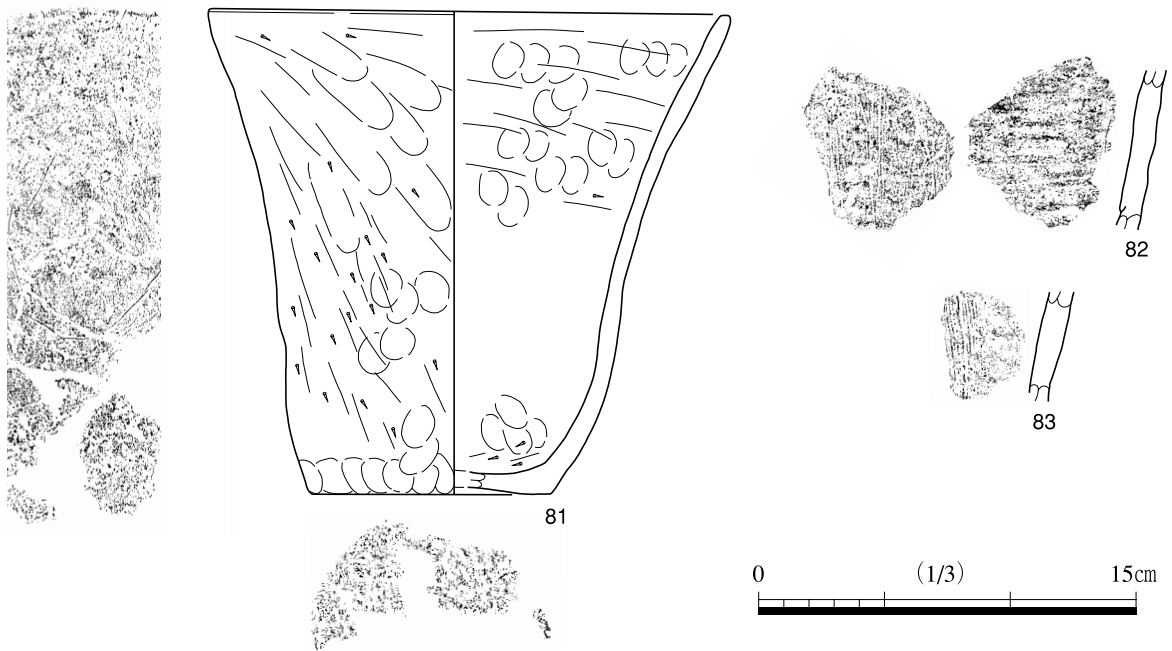
97区 S B10



97区S B 06

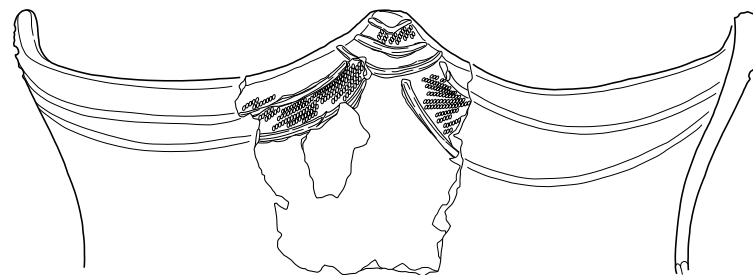
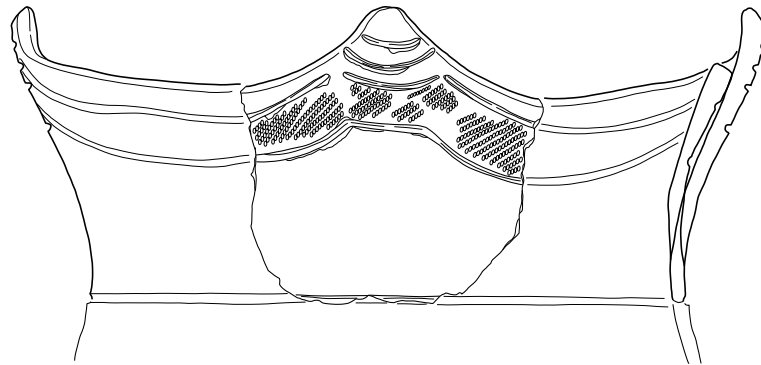
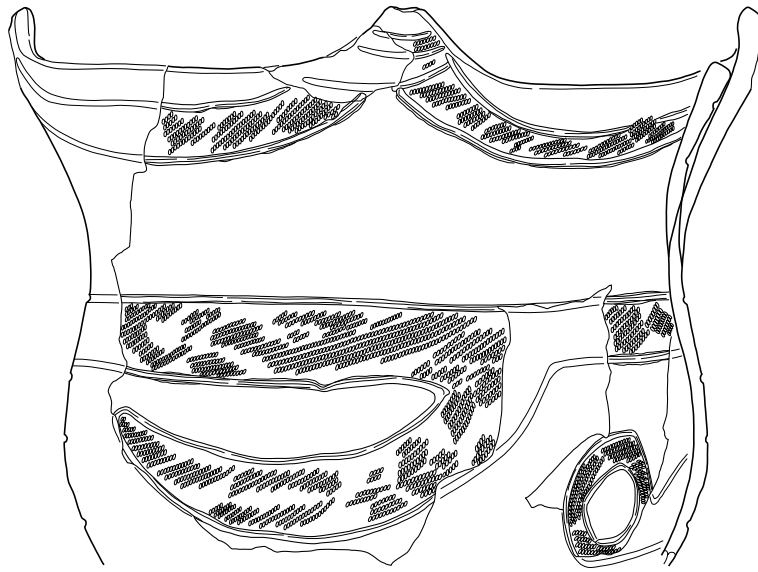


97区S K 67



0 (1/3) 15cm

97区 S K 36-1

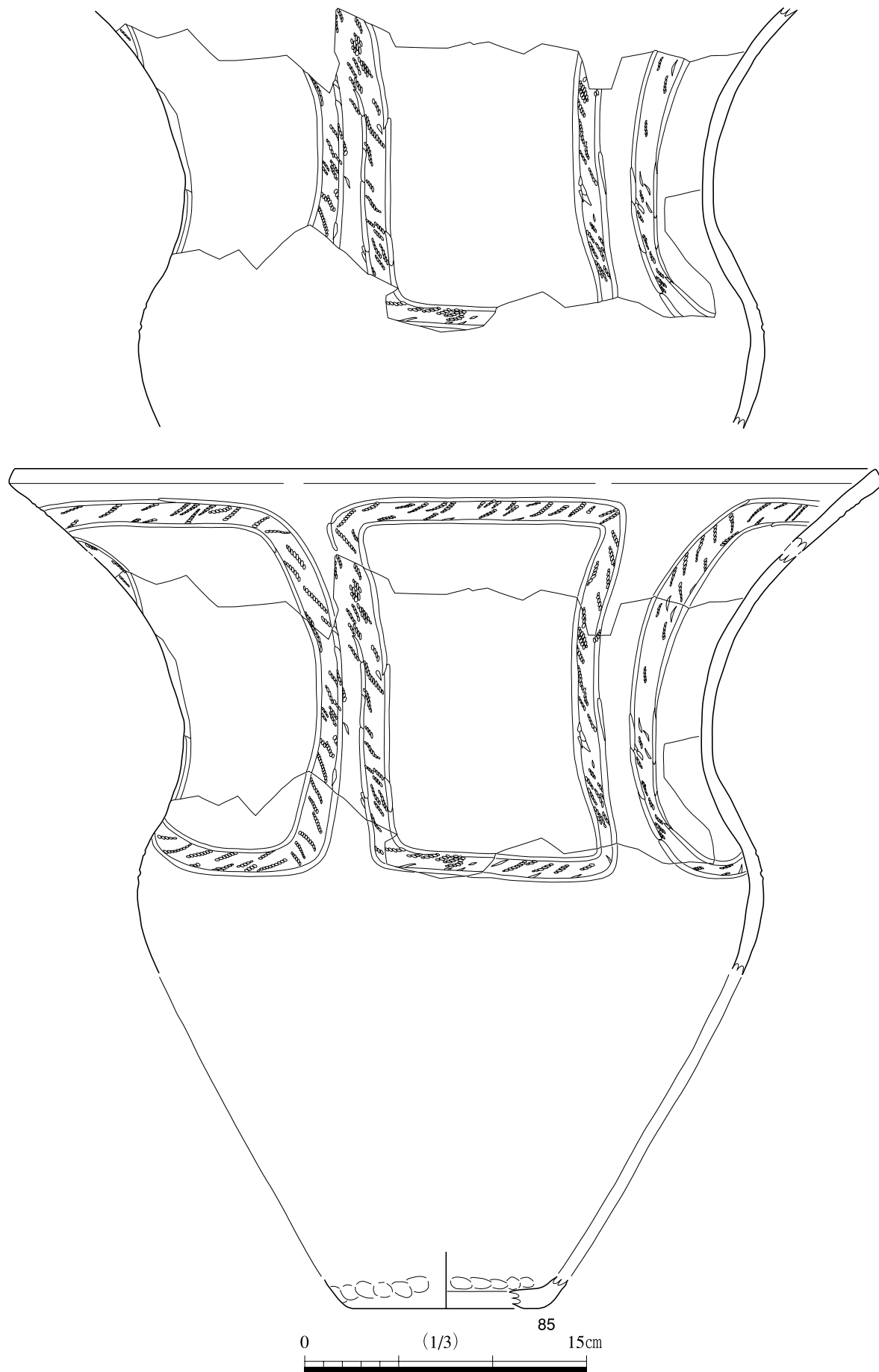


84

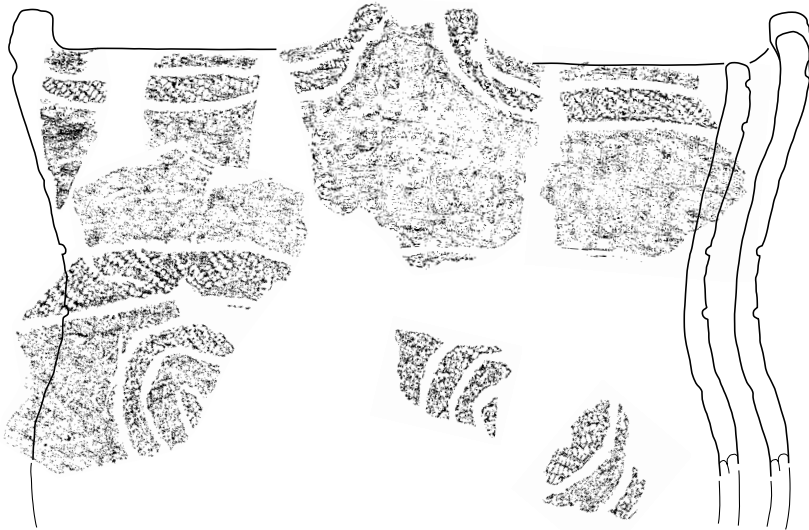
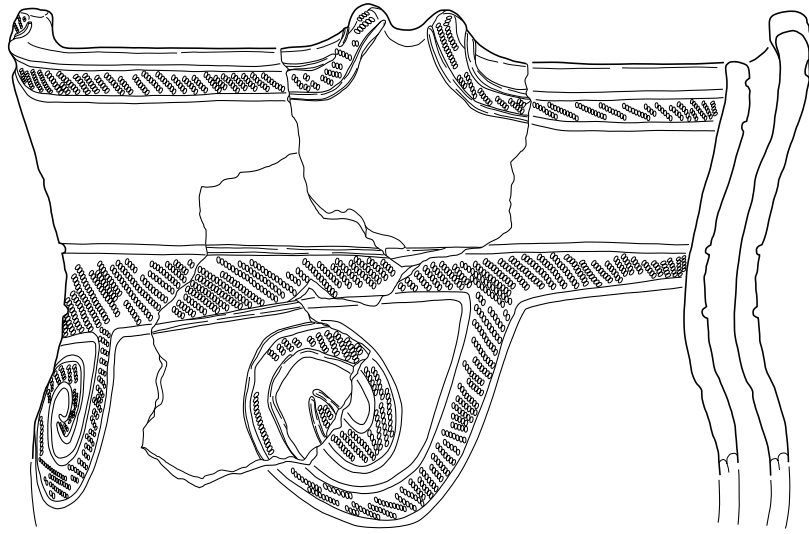
0 (1/3) 15cm



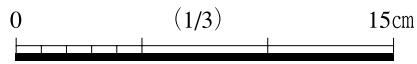
97区 S K 36-2



97区 S K 37



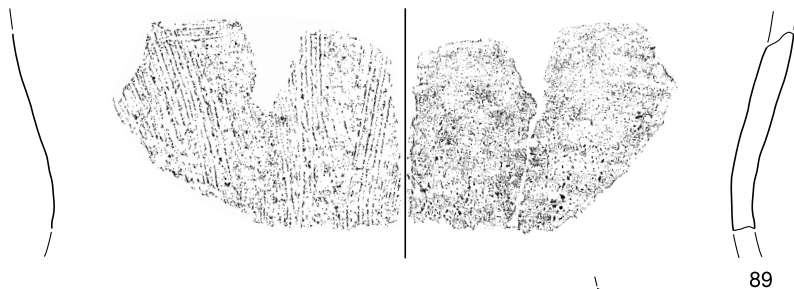
86



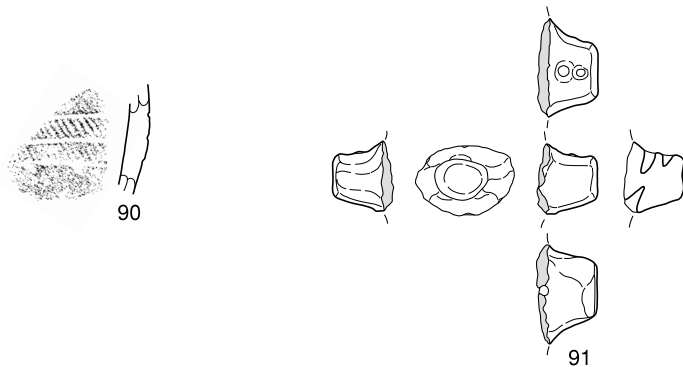
97区 S K 35



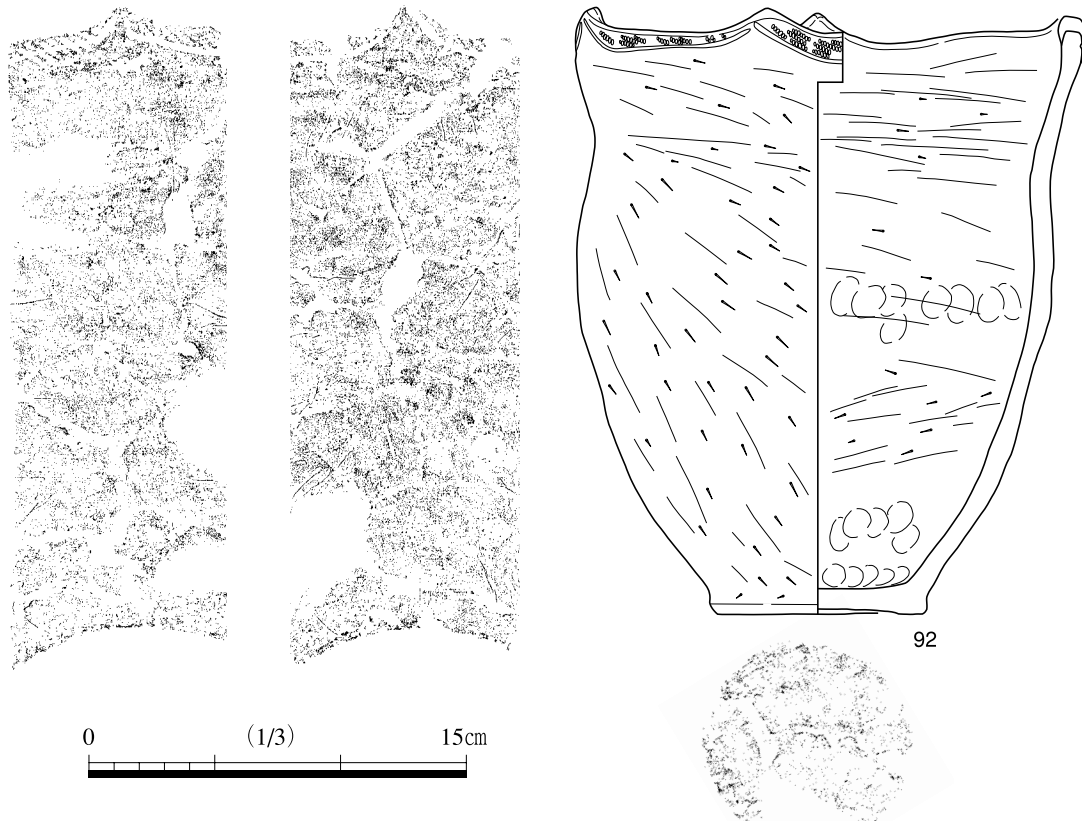
97区 S K 33



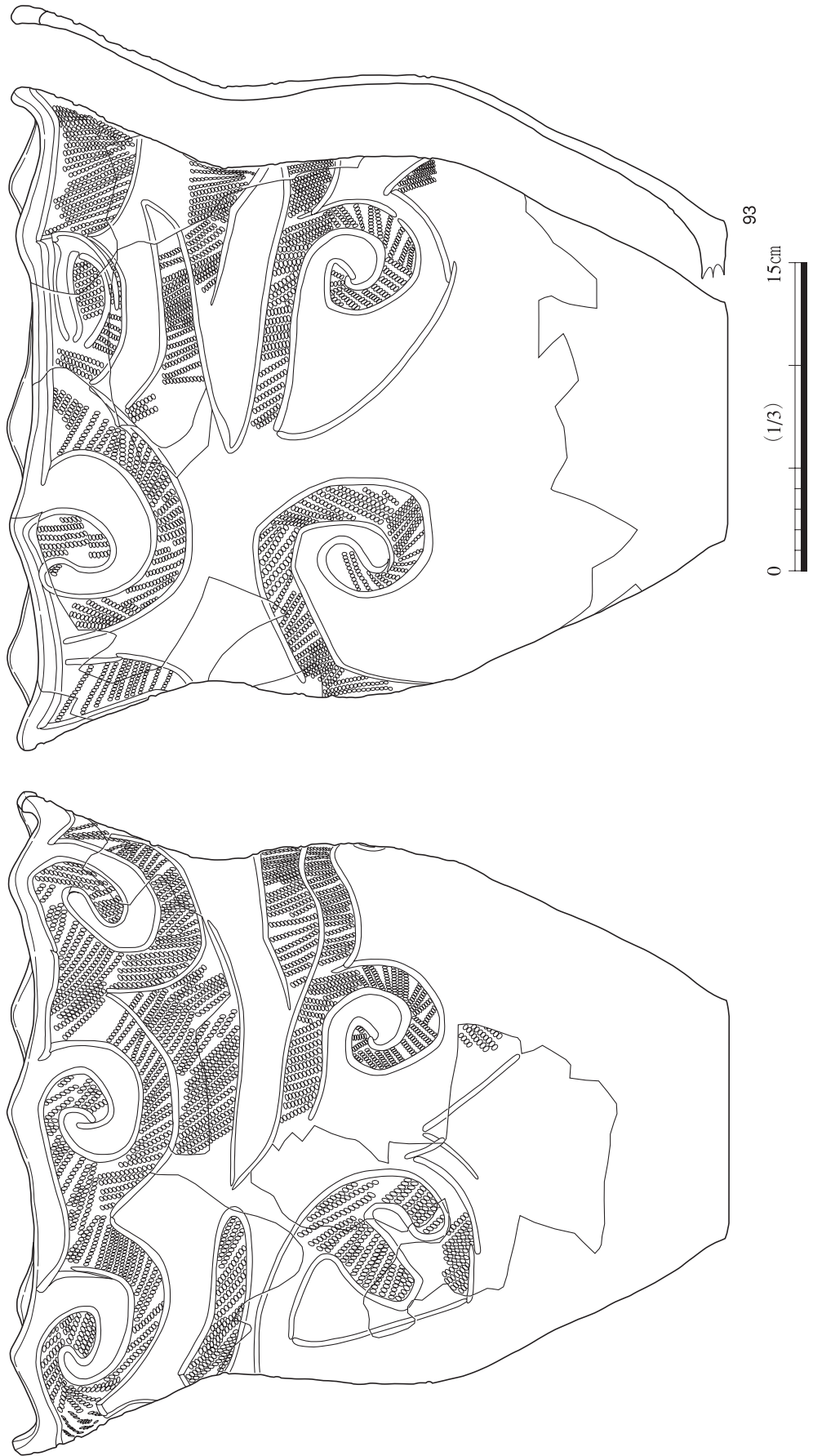
97区 S K 34



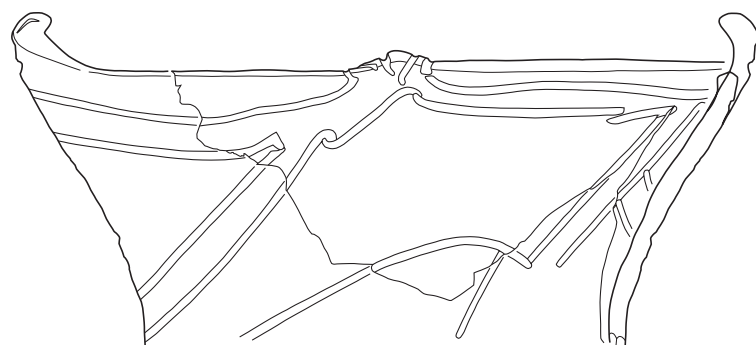
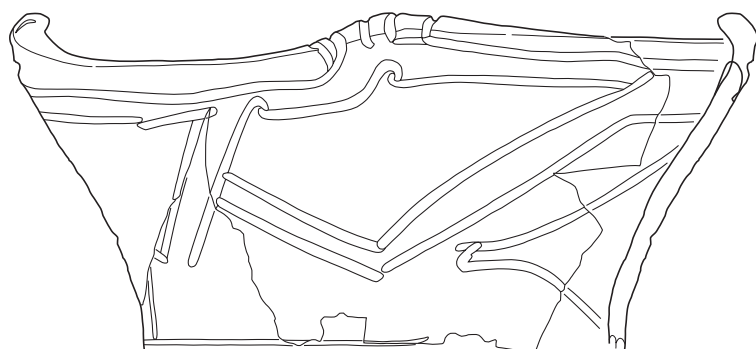
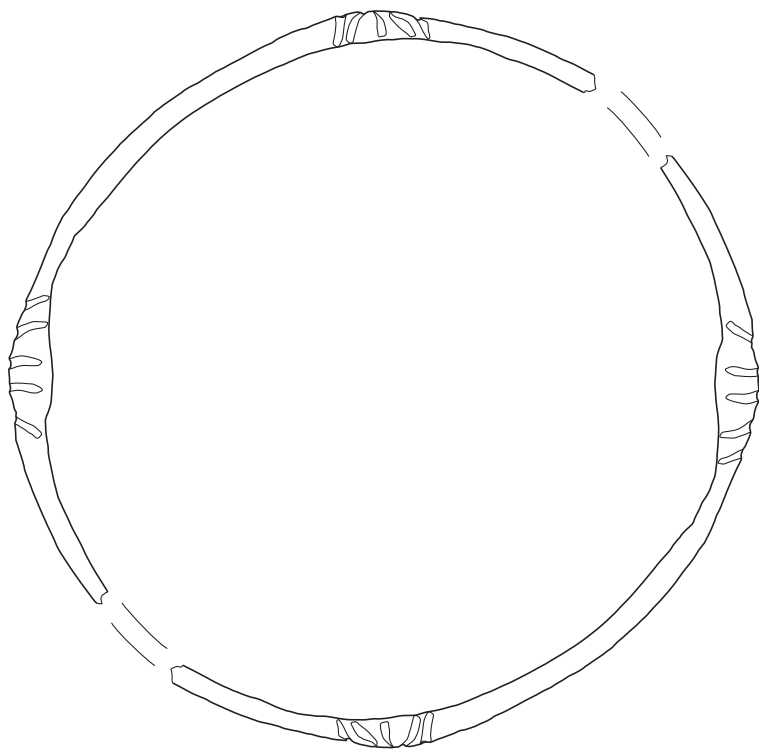
97区 S K 40



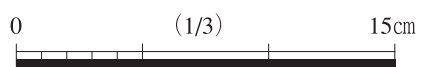
97区谷地形-1



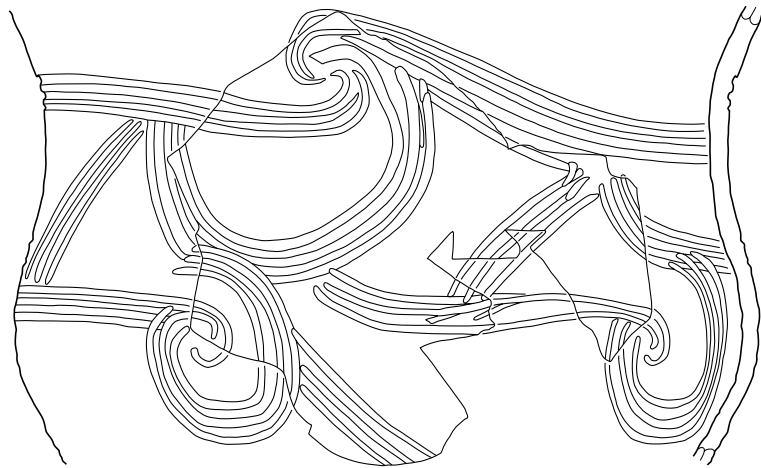
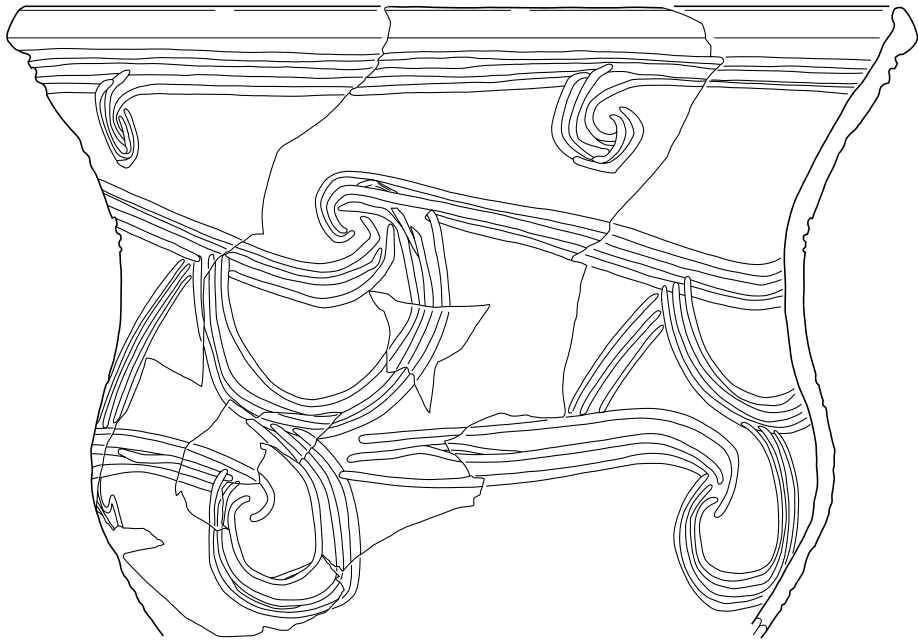
97区谷地形-2



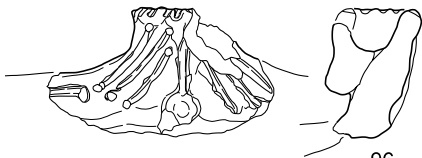
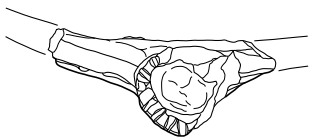
94



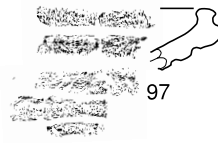
97区谷地形-3



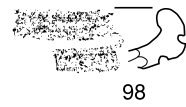
95



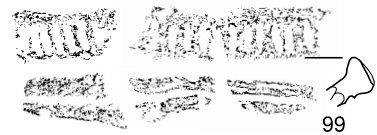
96



97



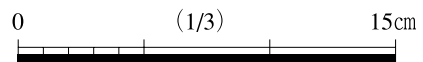
98



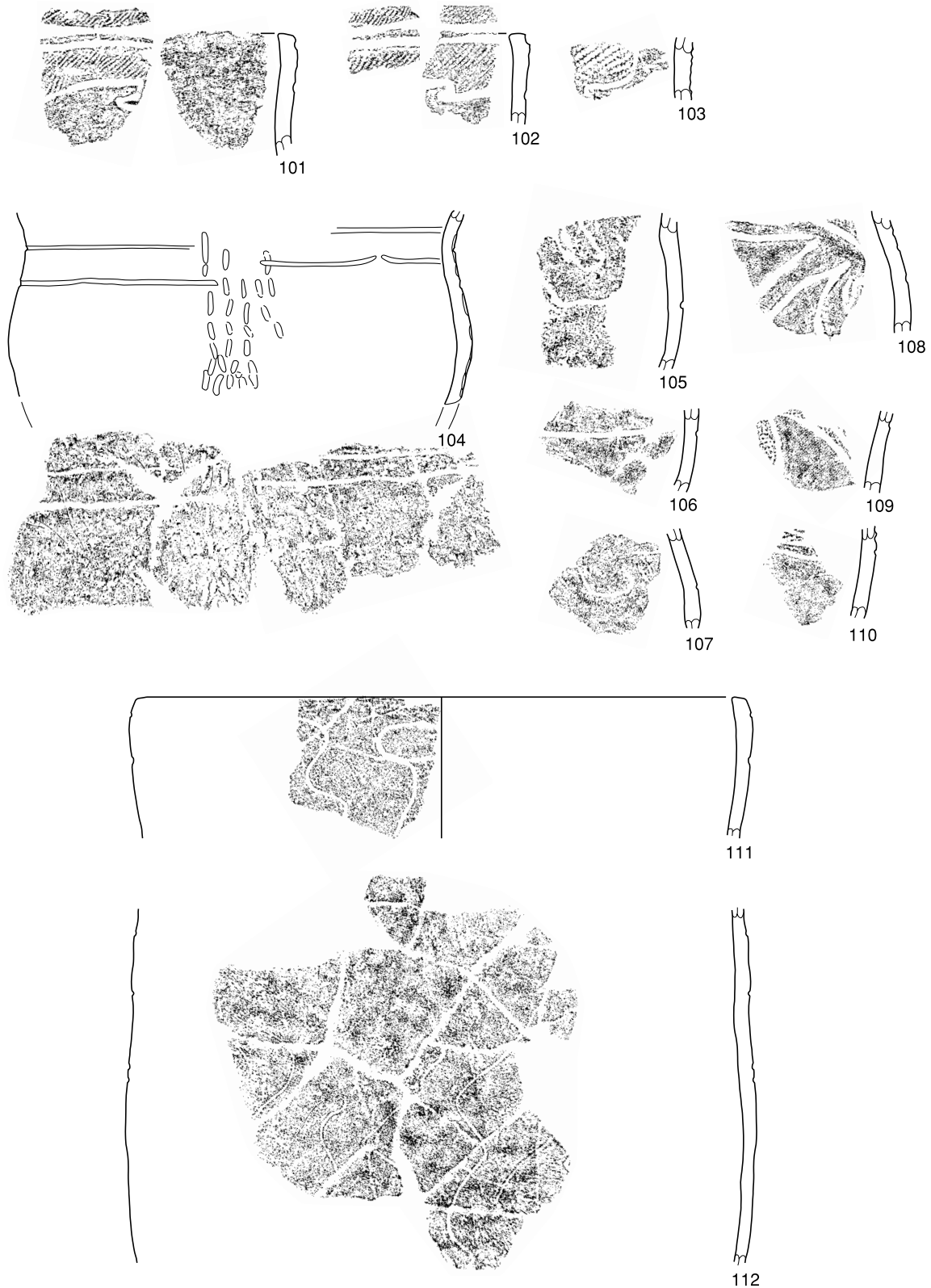
99



100

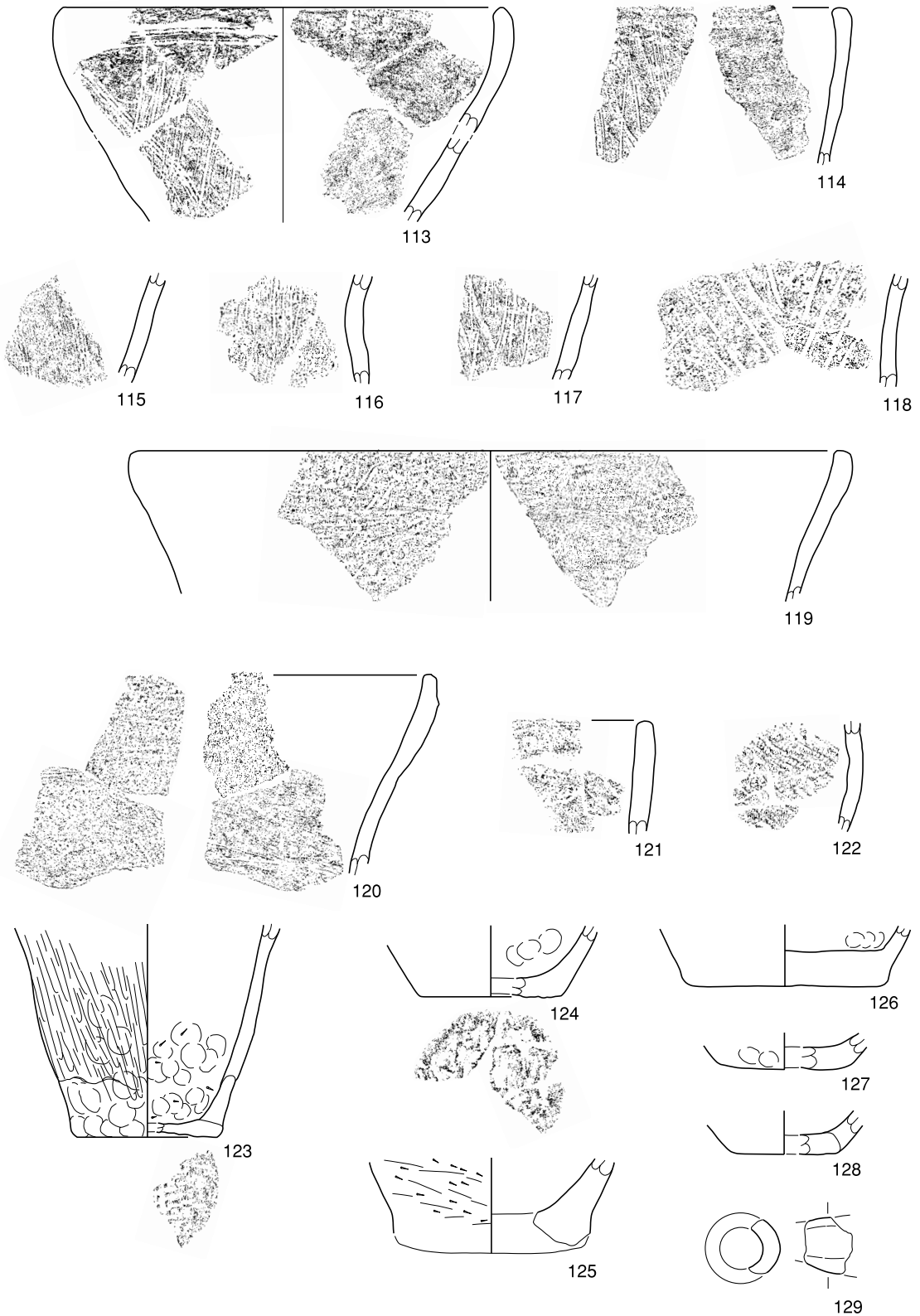


97区谷地形-4



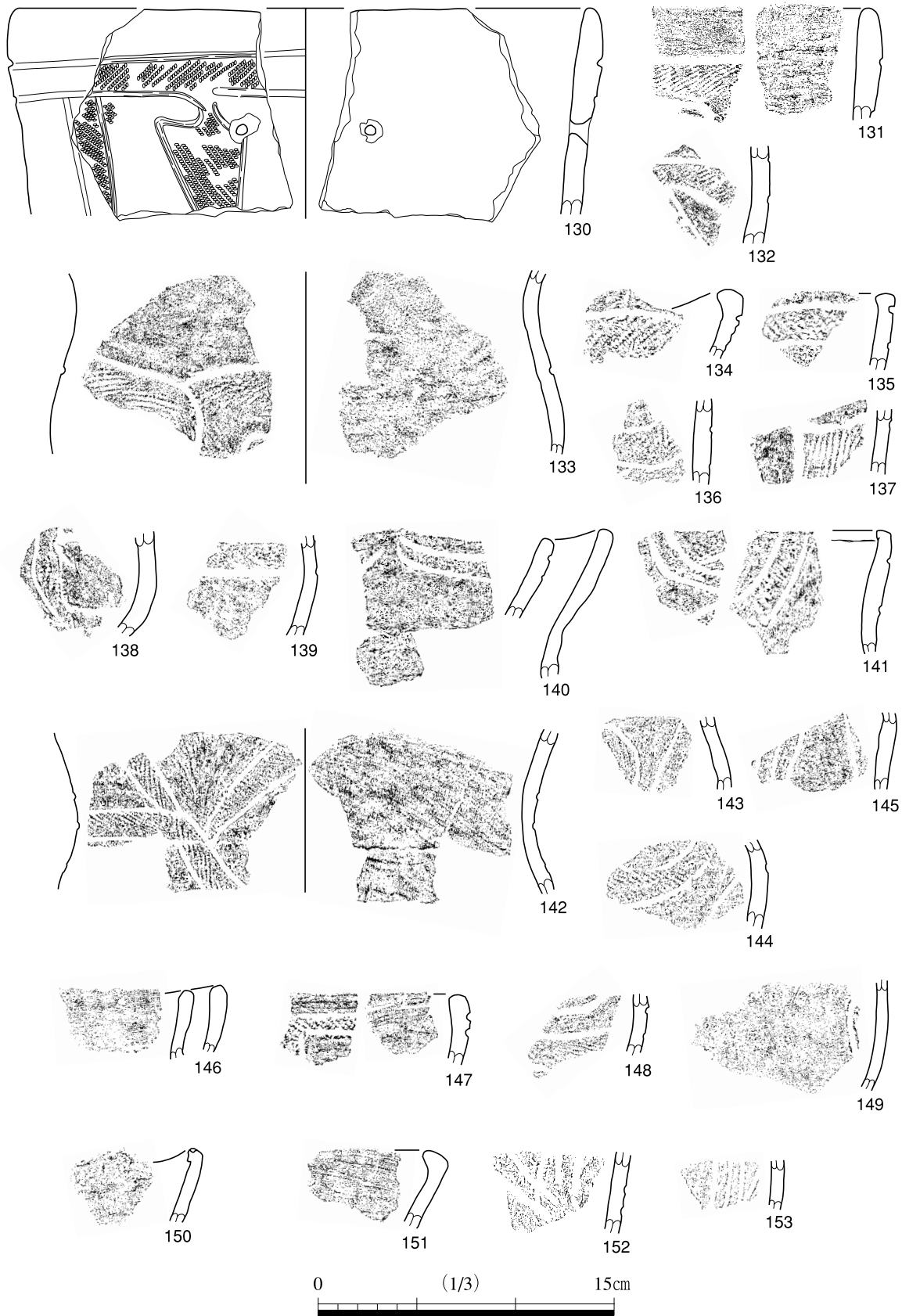
0 (1/3) 15cm

97区谷地形-5

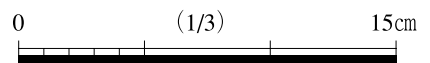
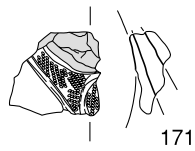
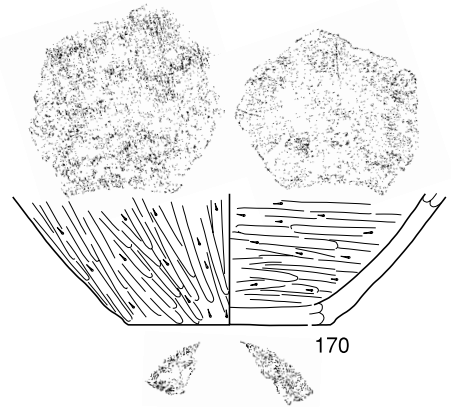
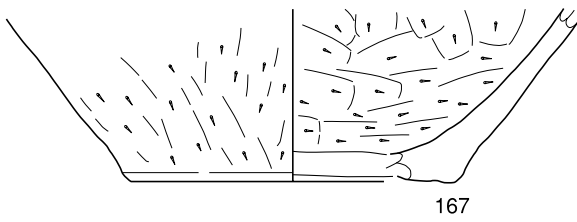
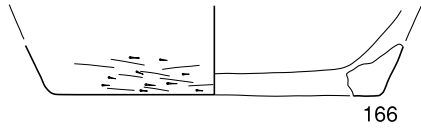
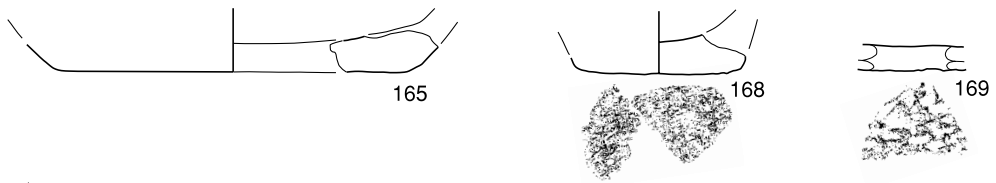
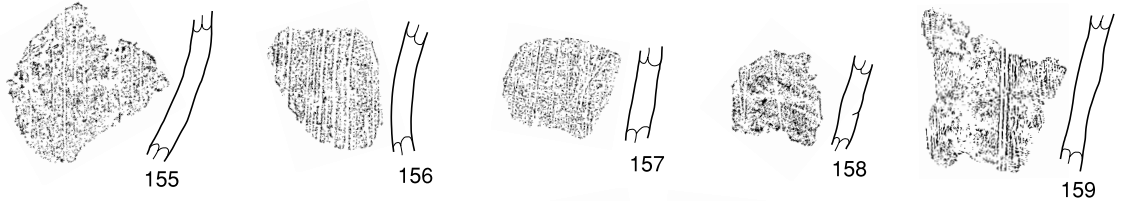
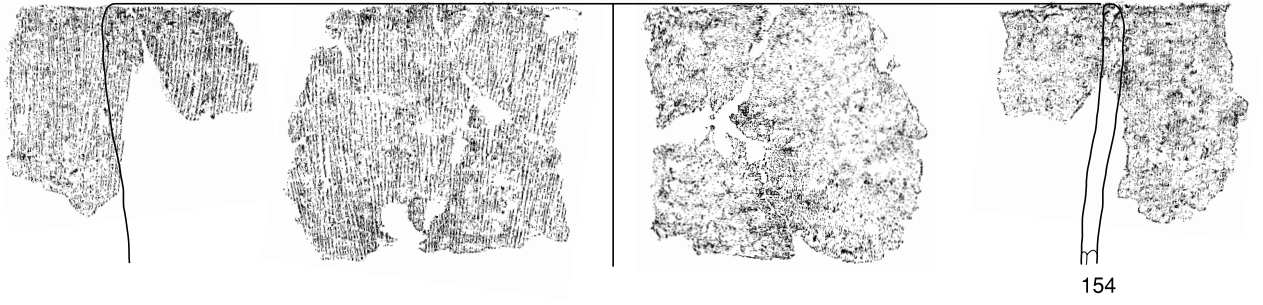


0 (1/3) 15cm

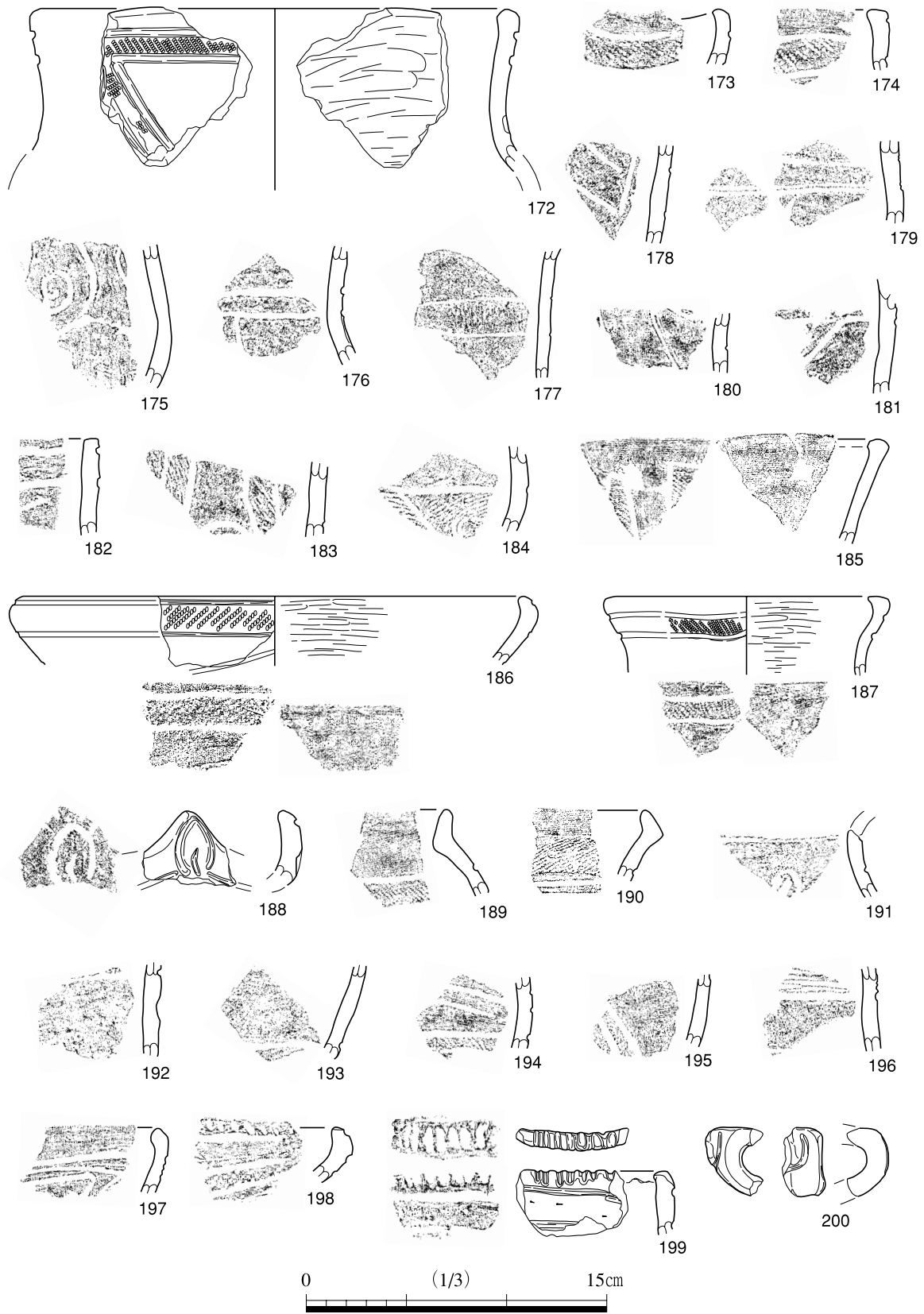
97区包含層-1



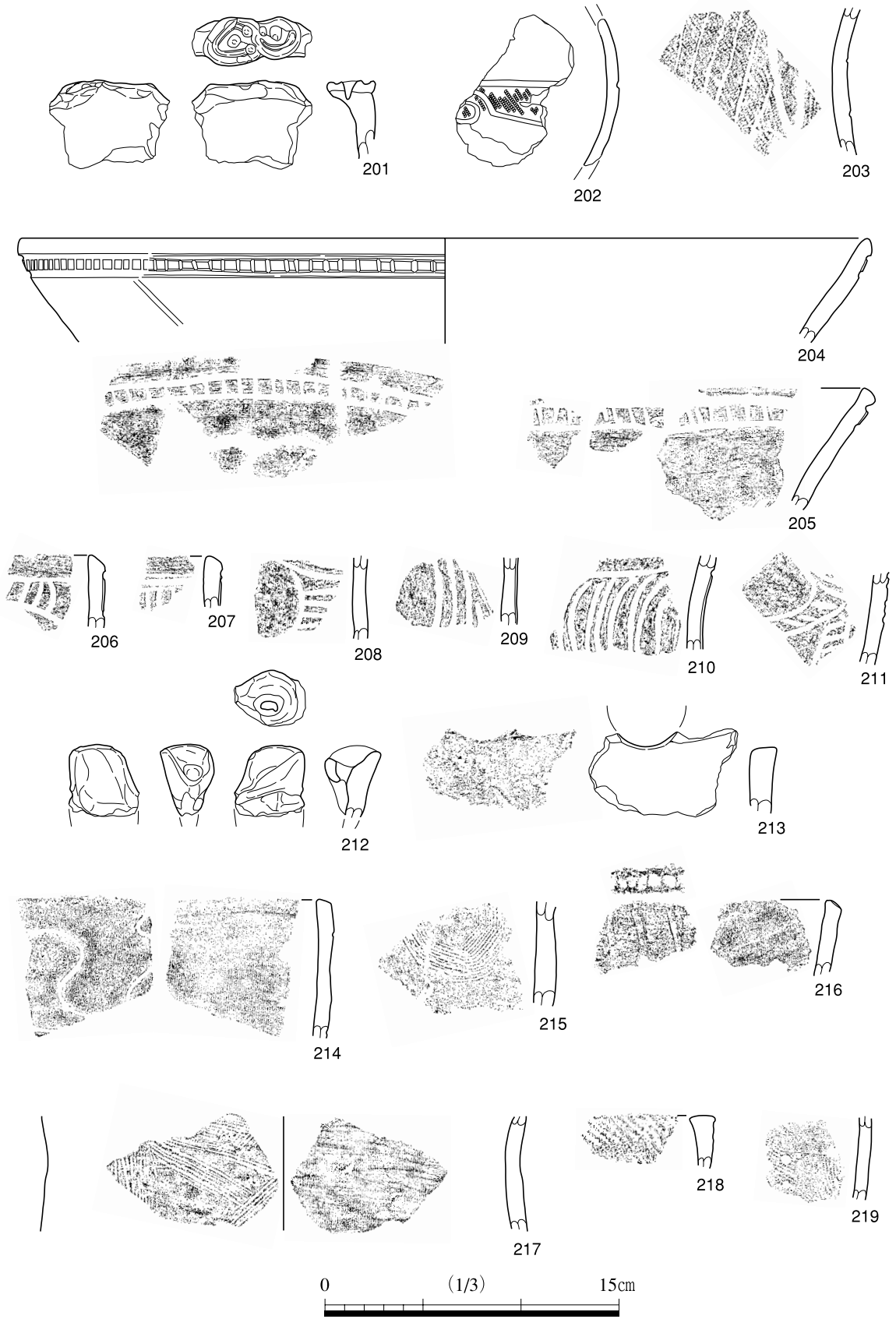
97区包含层-2



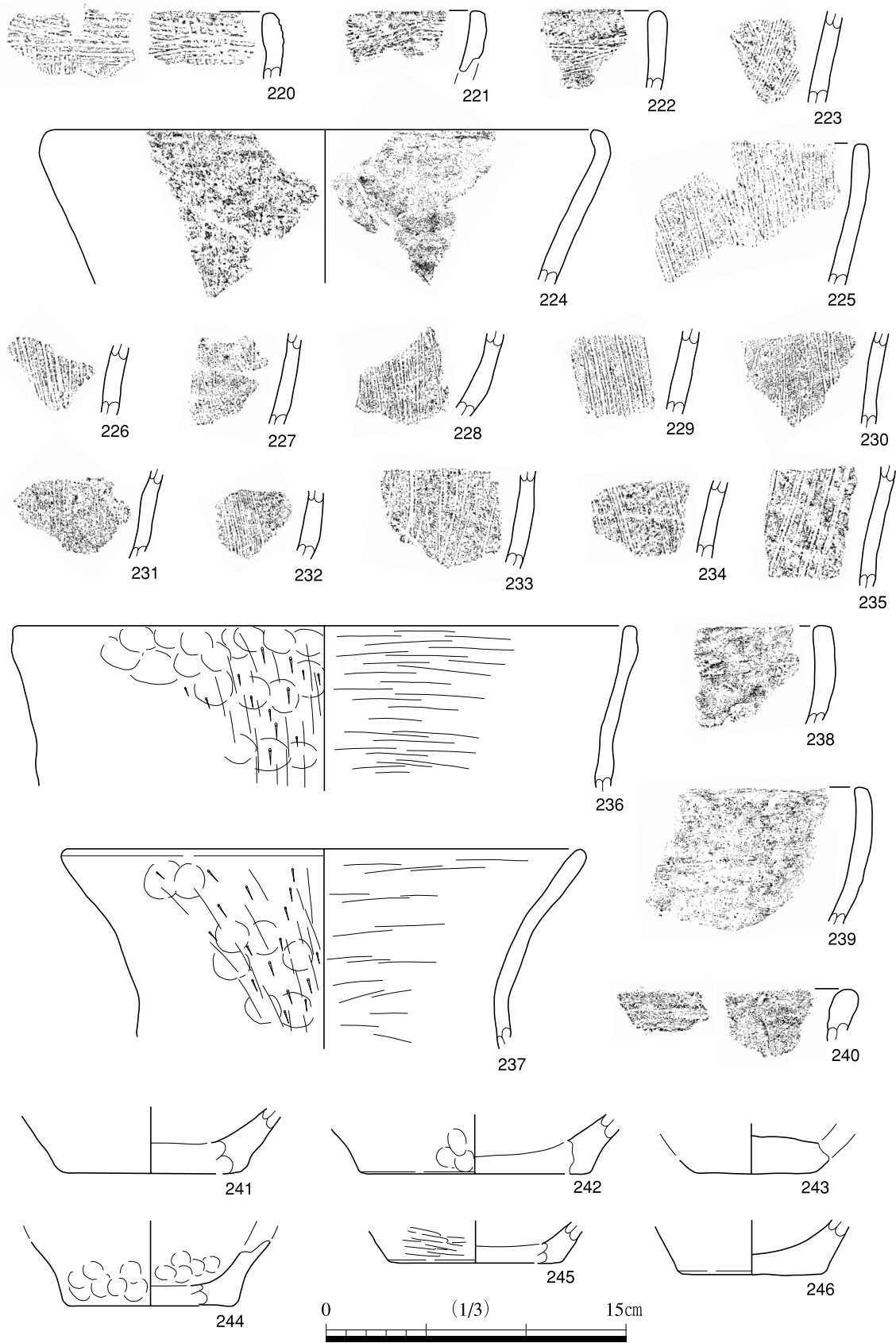
97区その他-1



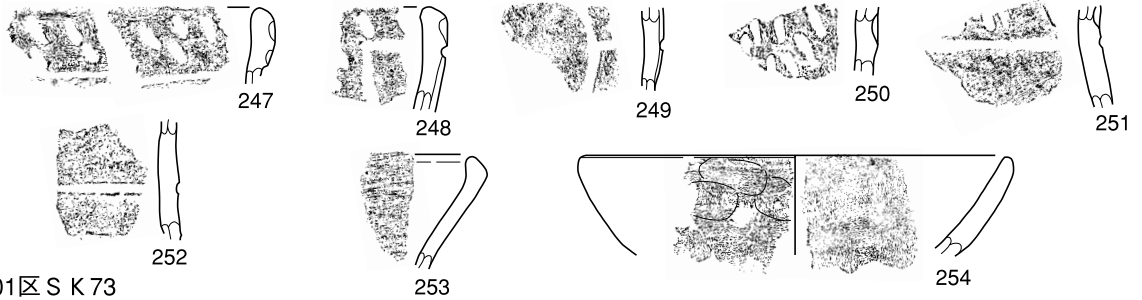
97区その他-2



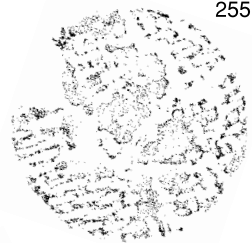
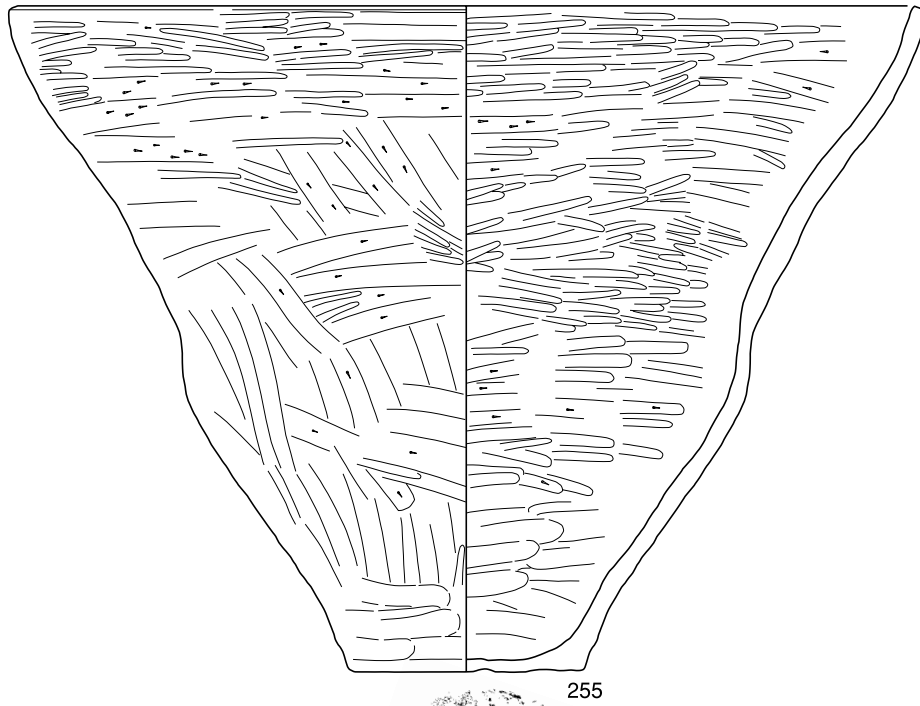
97区その他-3



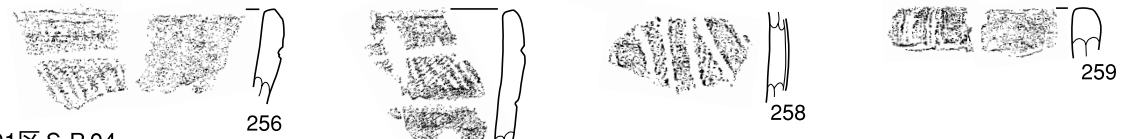
01区 S B 02



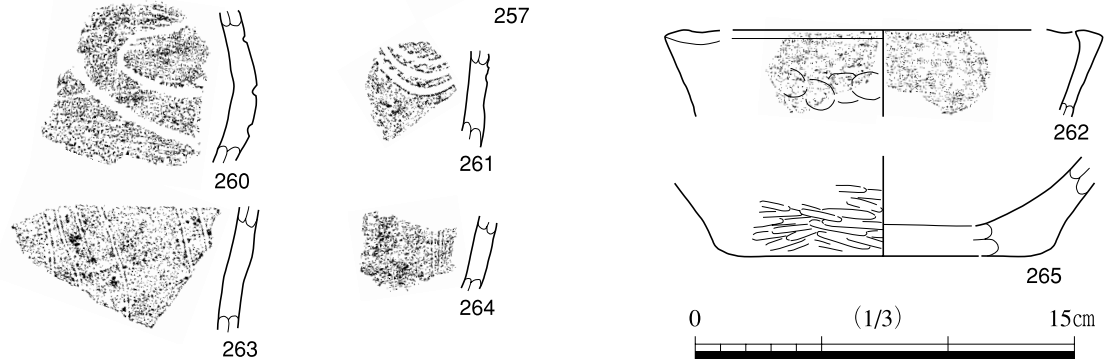
01区 S K 73



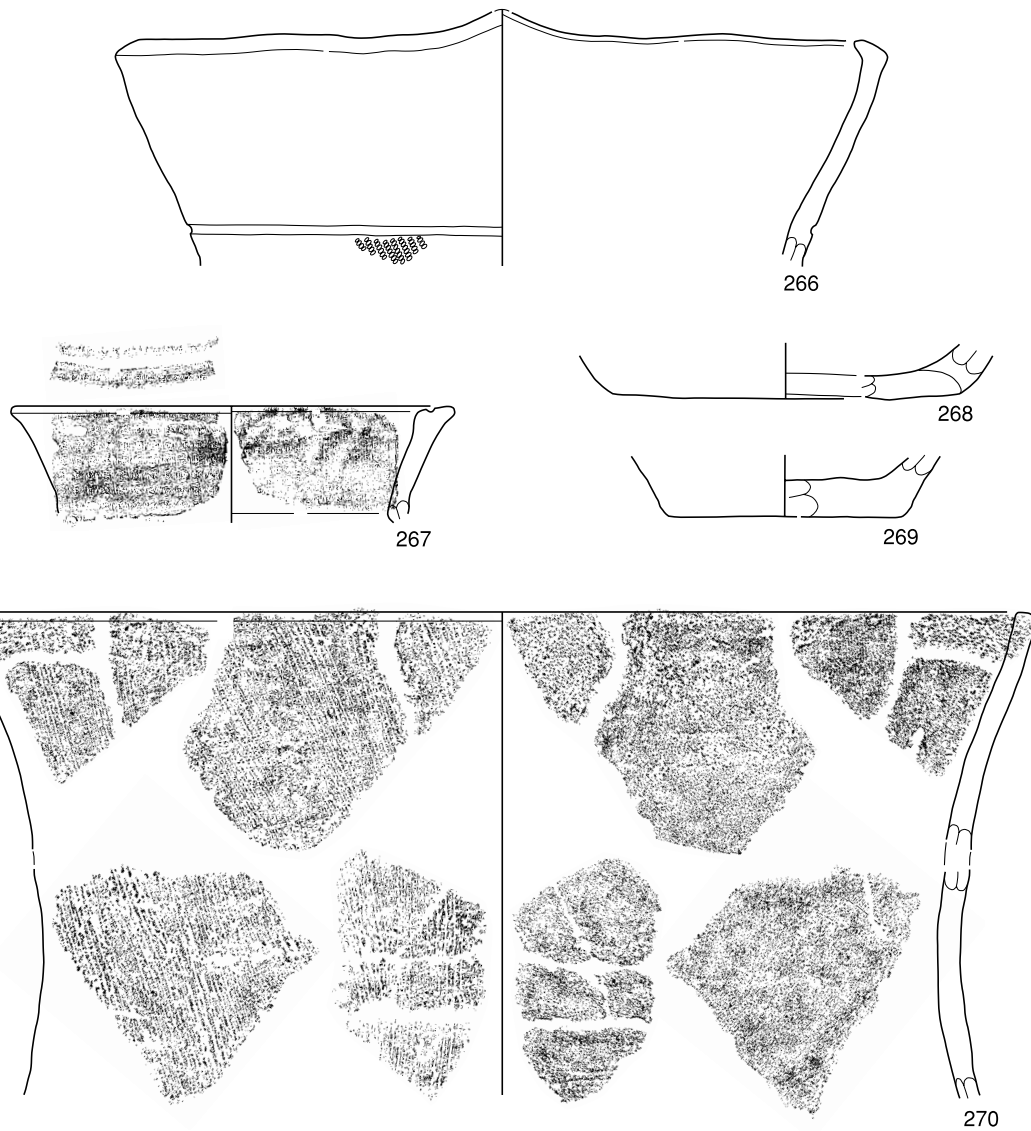
01区 S B 03



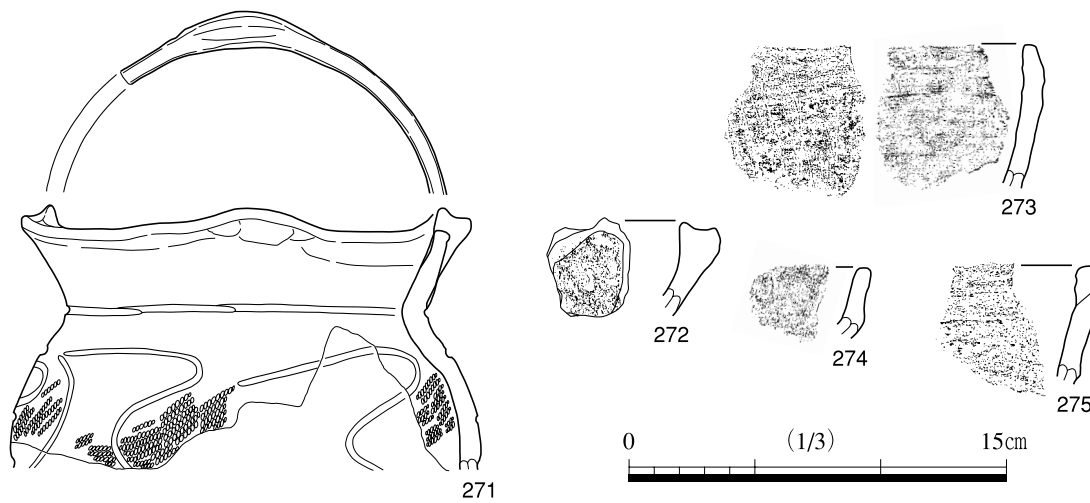
01区 S B 04



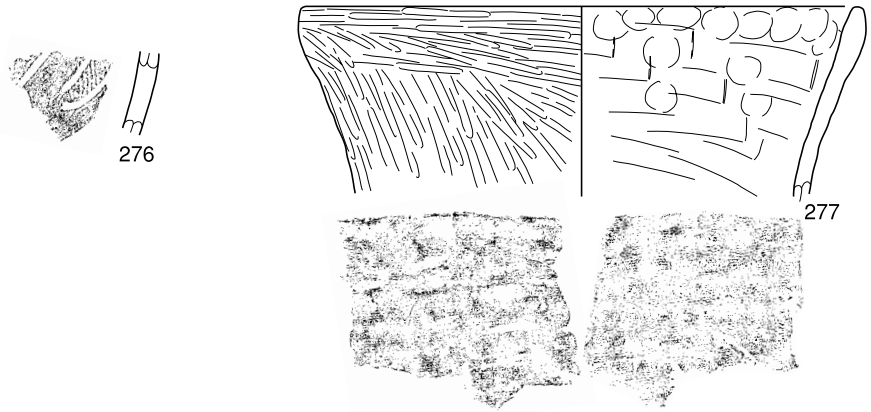
01区 S X 04



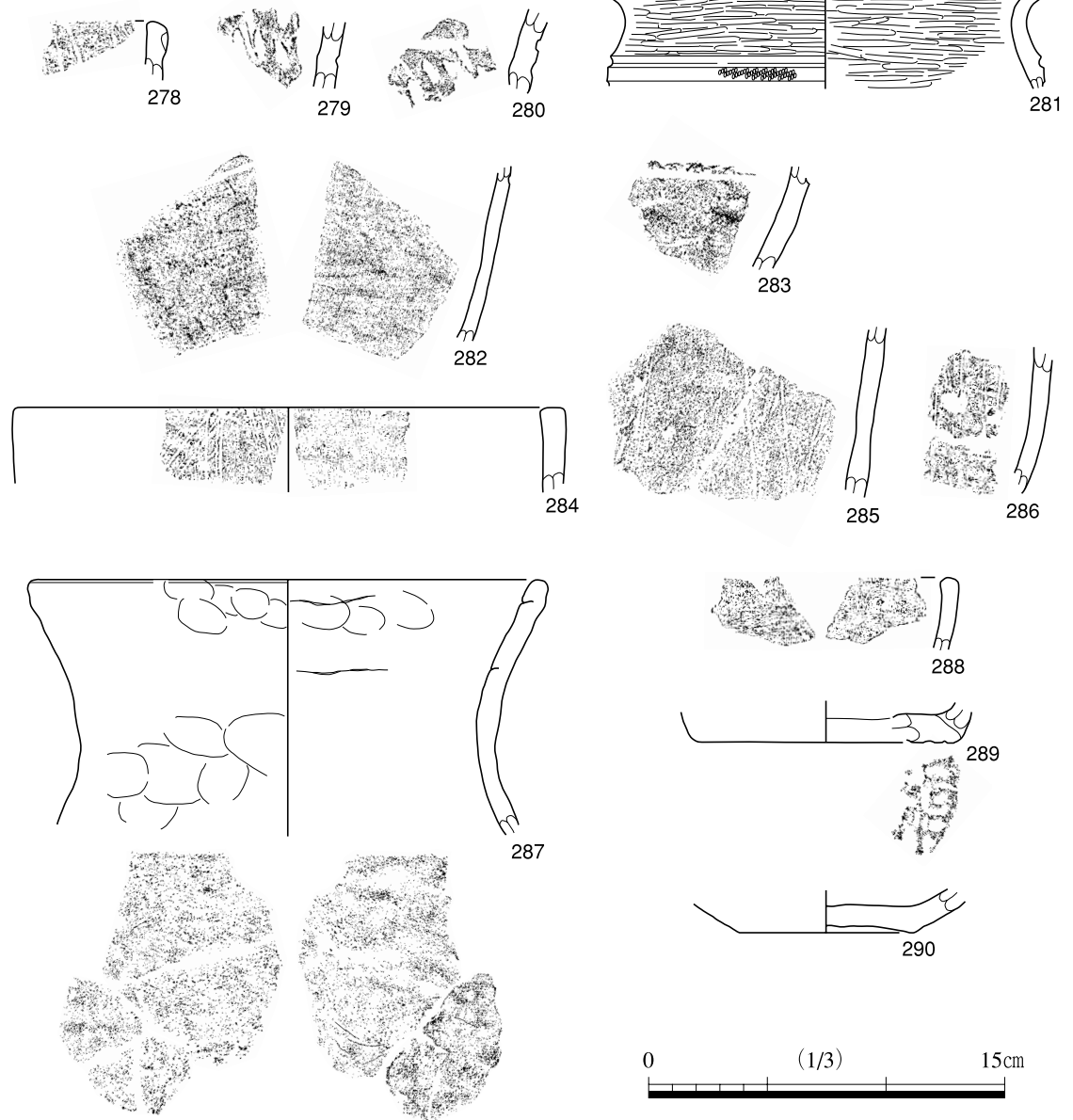
01区 S X 05



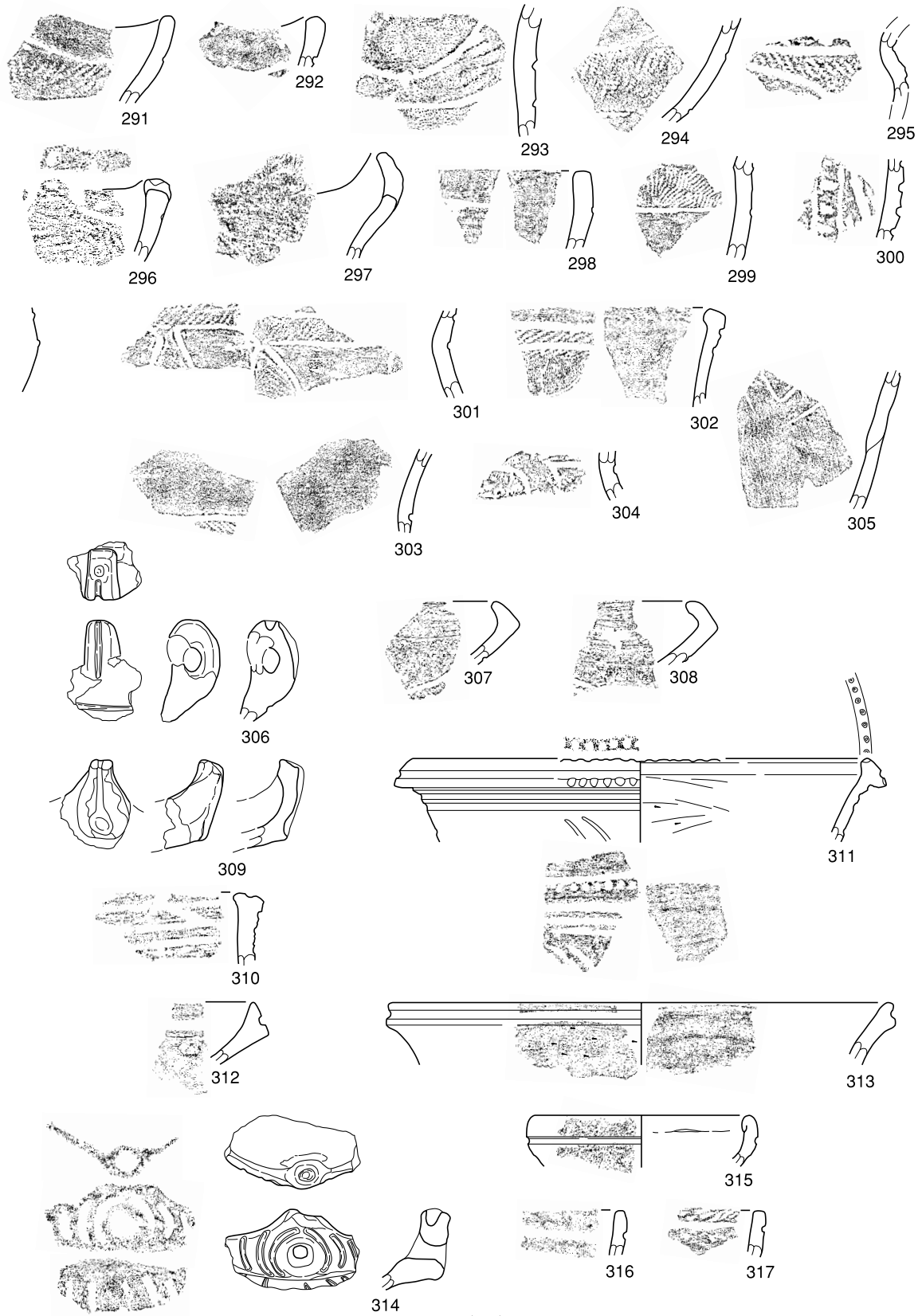
01区S X 01



01区包含層

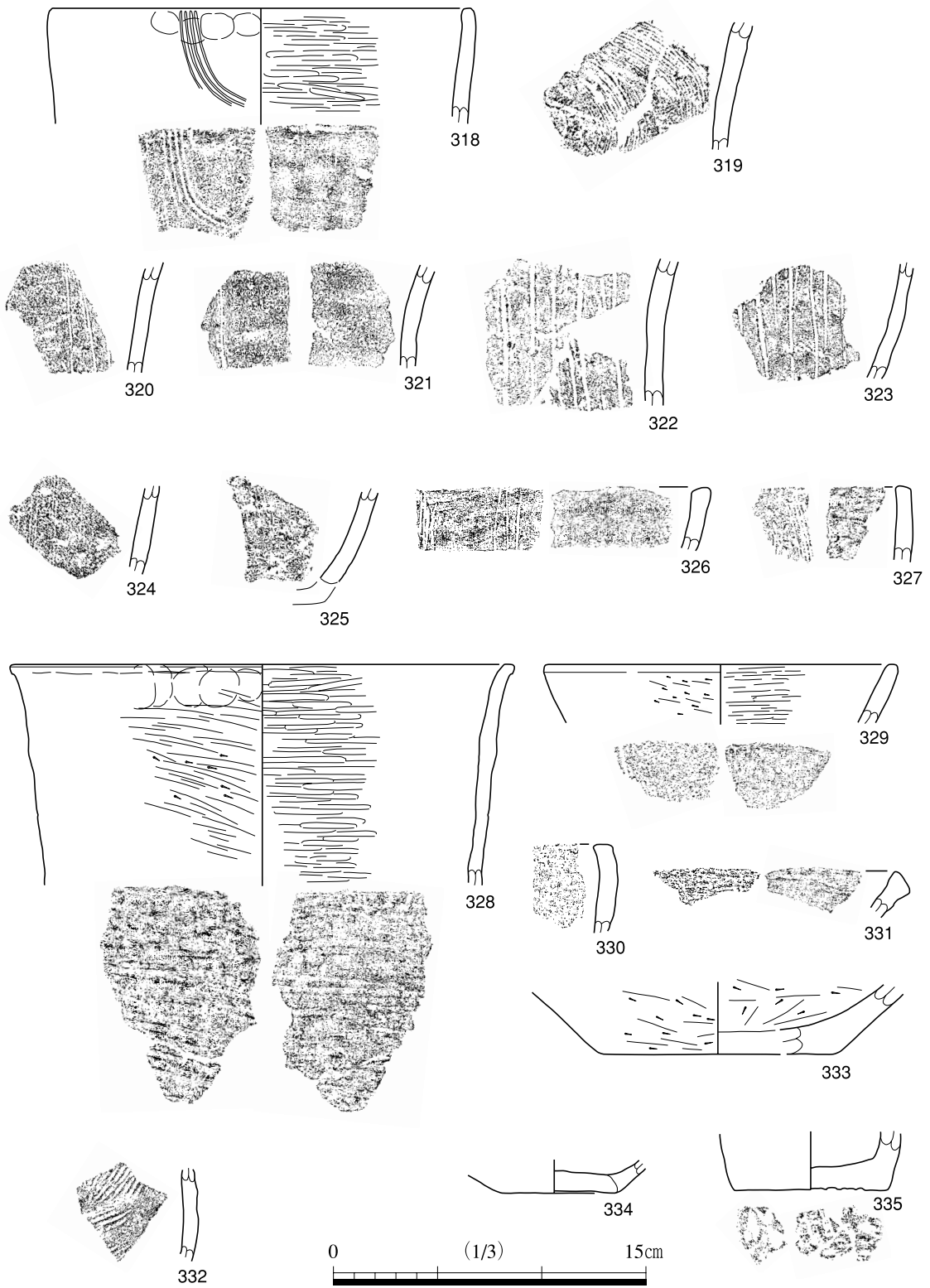


01区その他-1

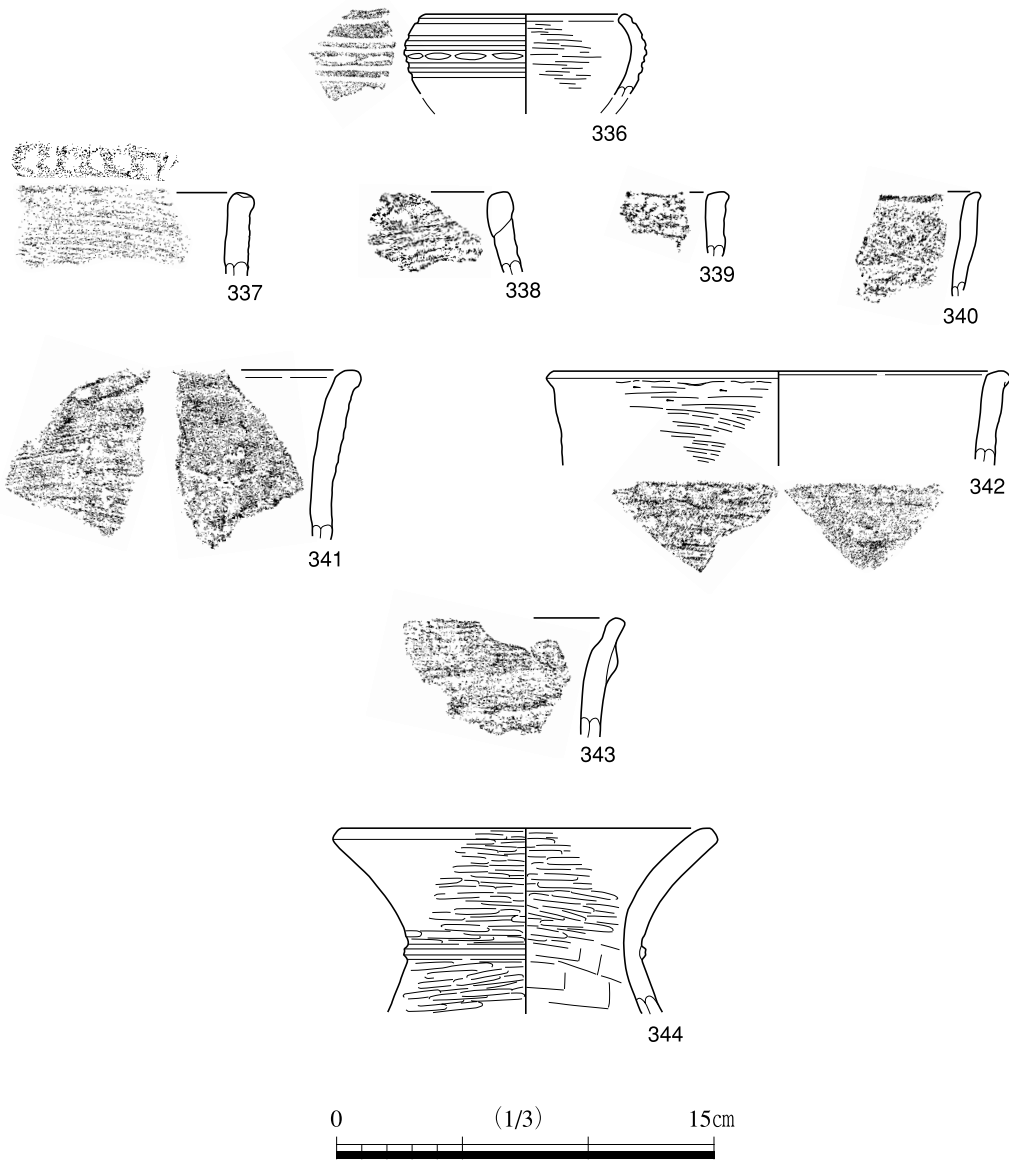


0 (1/3) 15cm

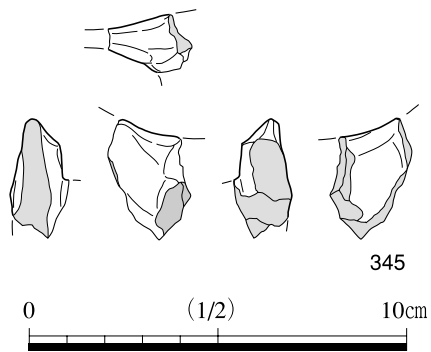
01区その他-2

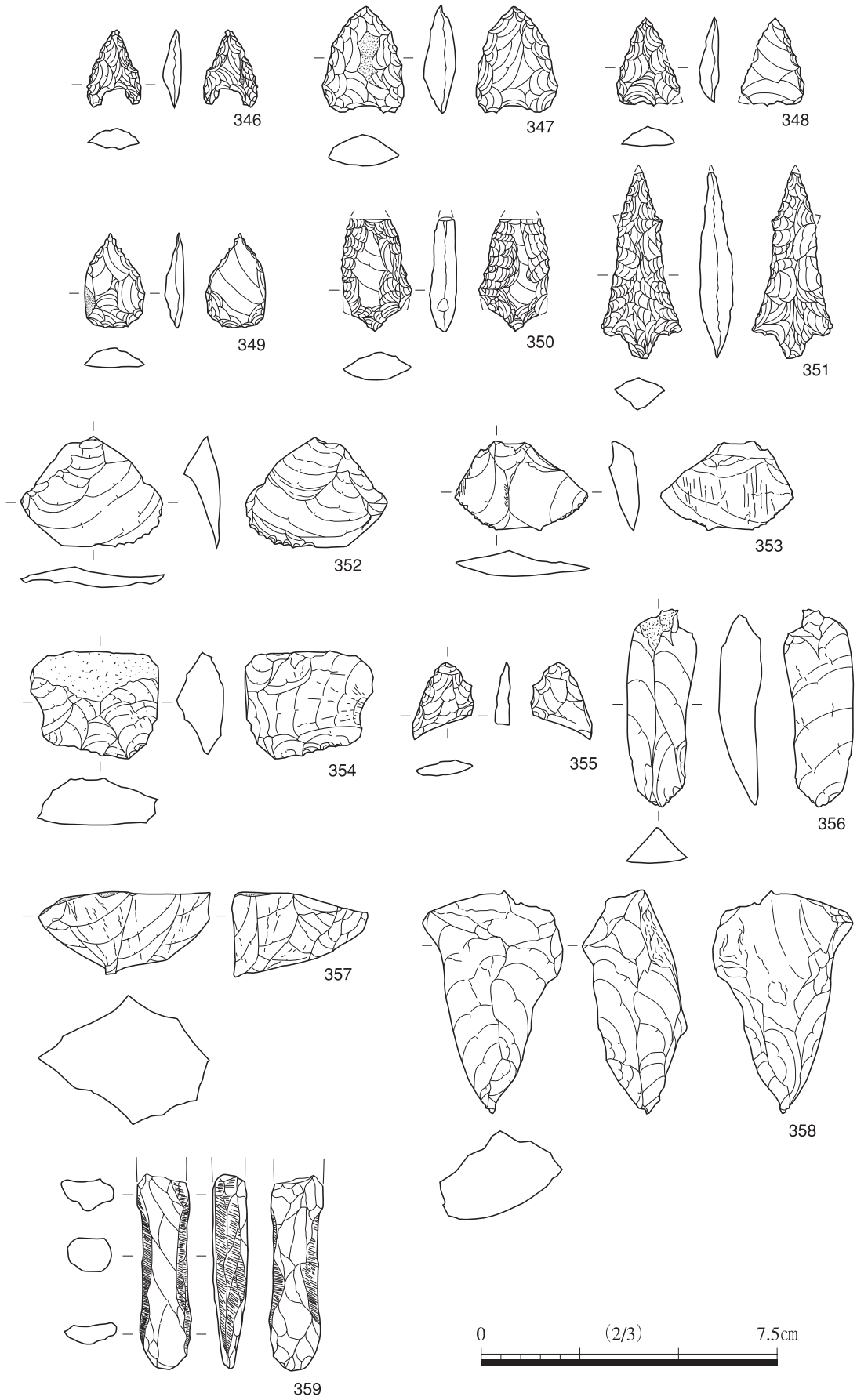


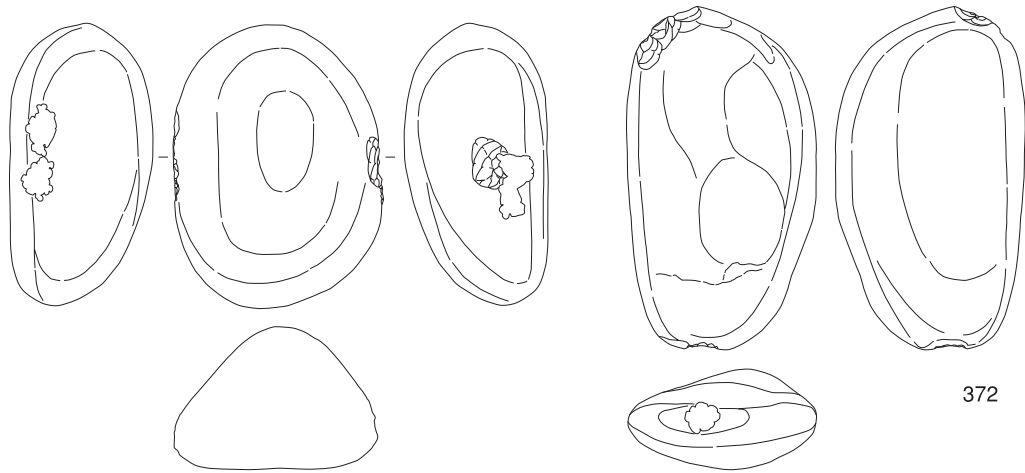
縄文時代晩期～弥生時代前期



土製品

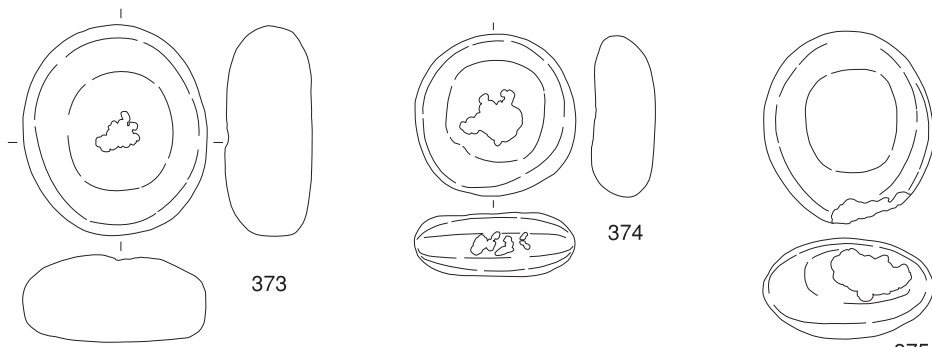






371

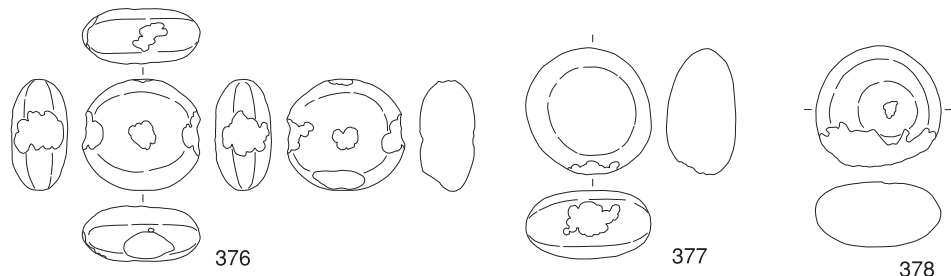
372



373

374

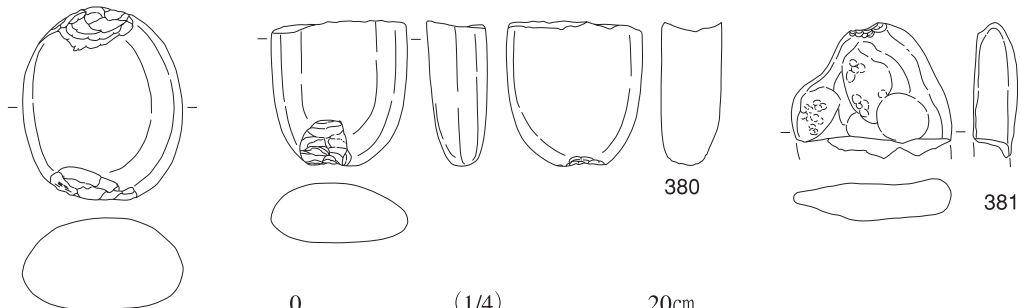
375



376

377

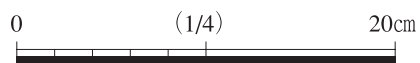
378



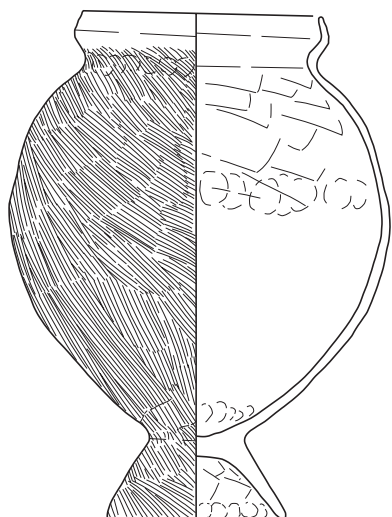
379

380

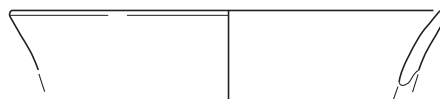
381



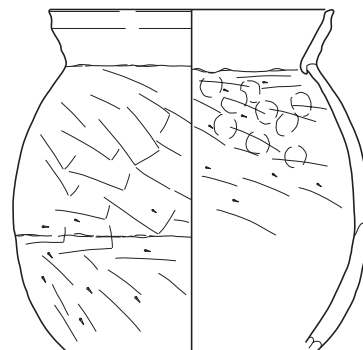
97区S B 01



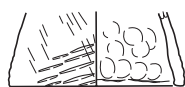
382



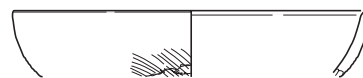
383



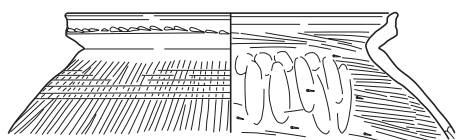
384



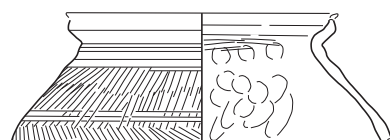
385



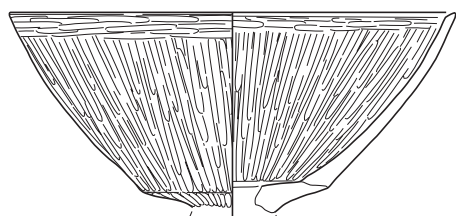
386



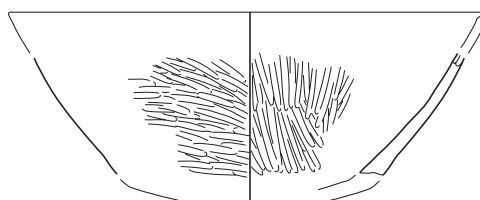
387



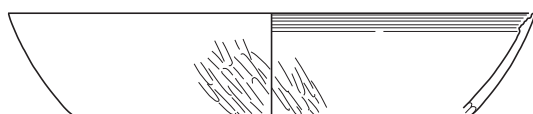
388



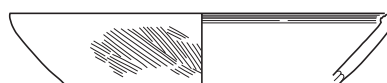
389



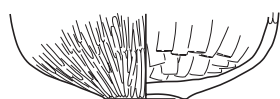
390



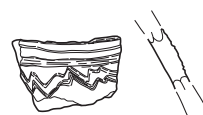
391



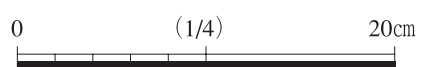
392



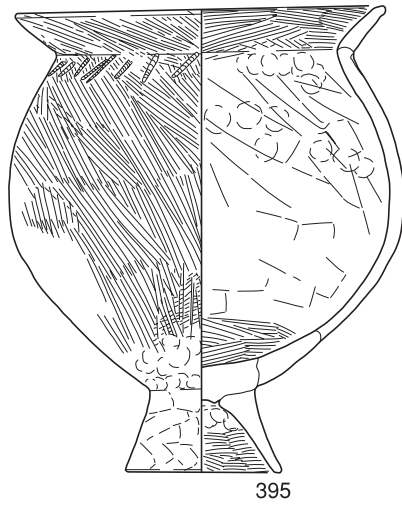
393



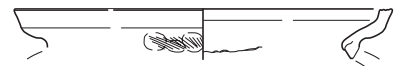
394



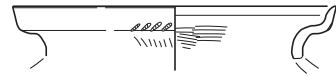
97区 S K 121



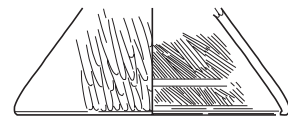
395



396

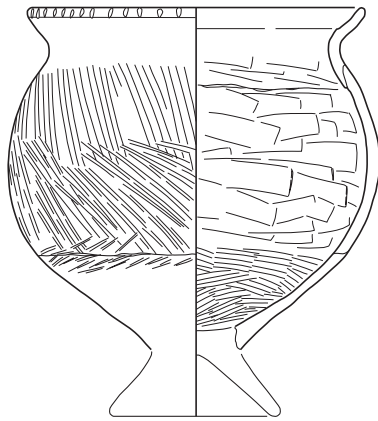


397

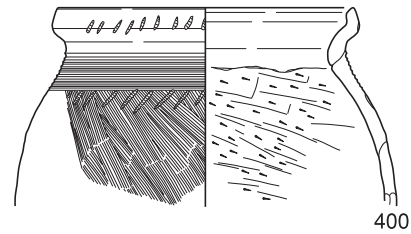


398

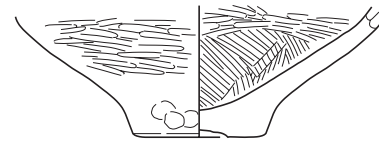
97区 S D 49



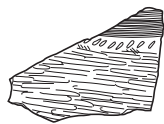
399



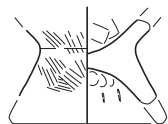
400



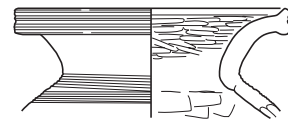
403



402



401

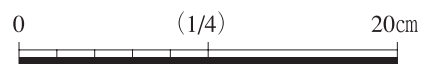


404

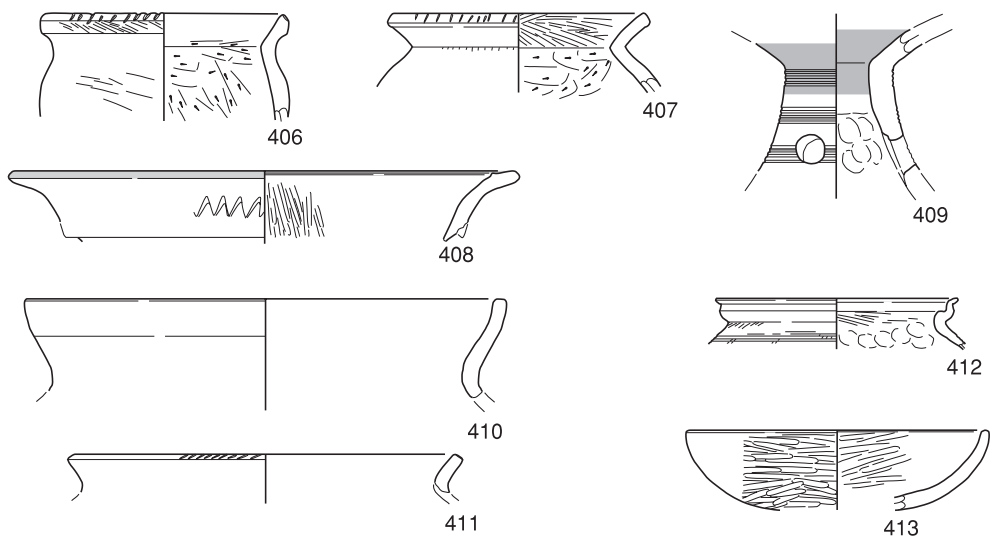
97区 S K 10



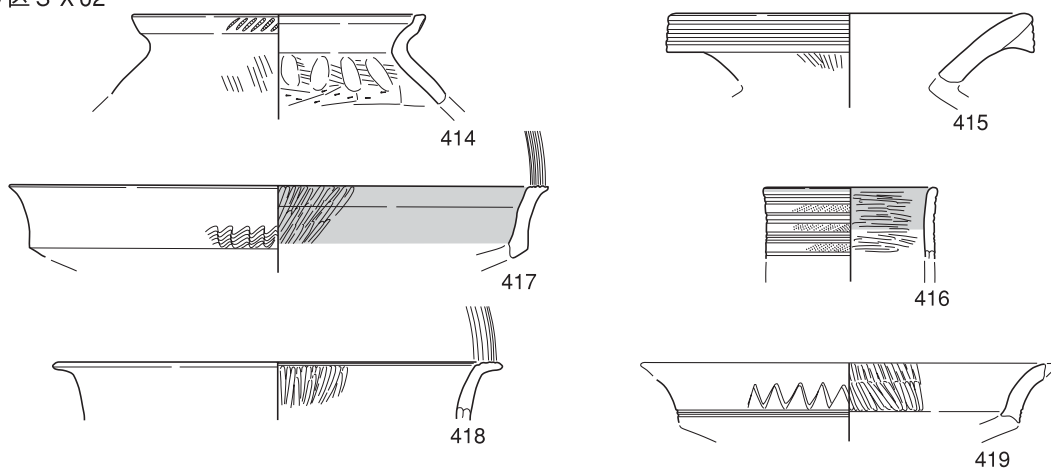
405



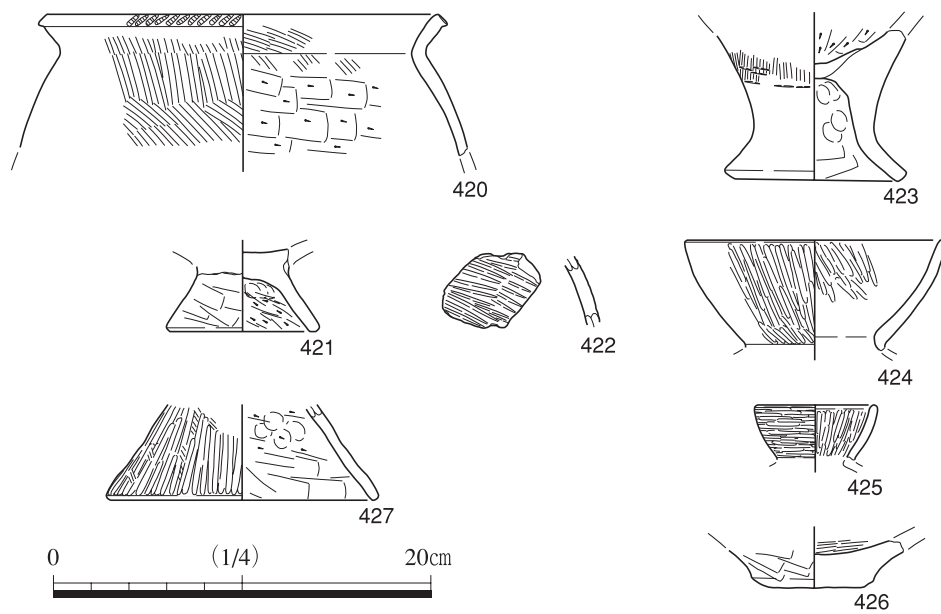
97区 S X 01



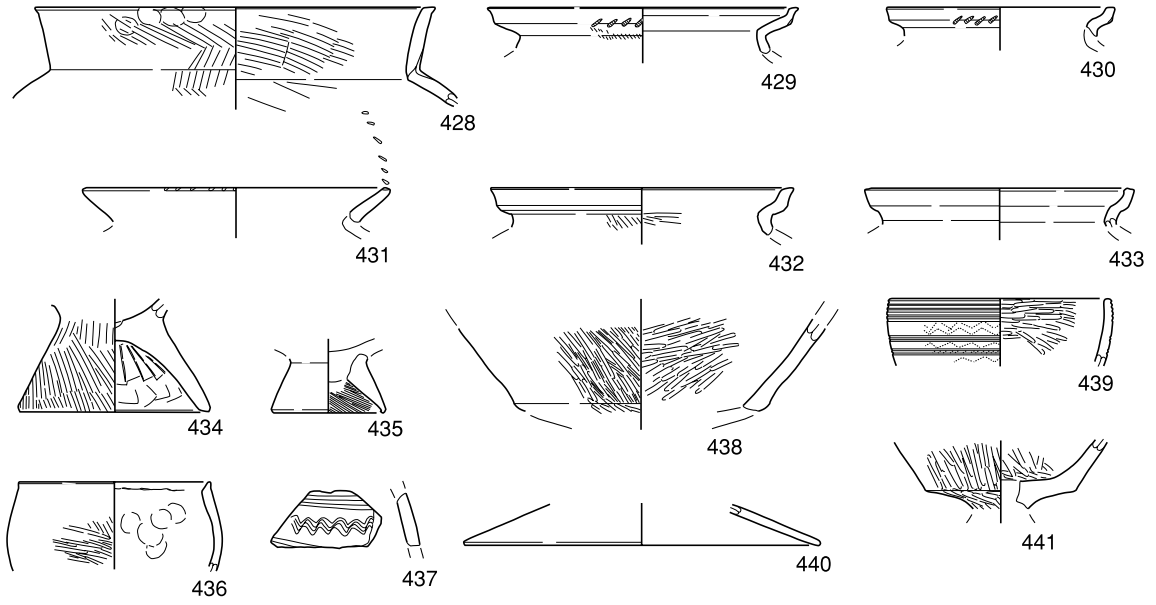
97区 S X 02



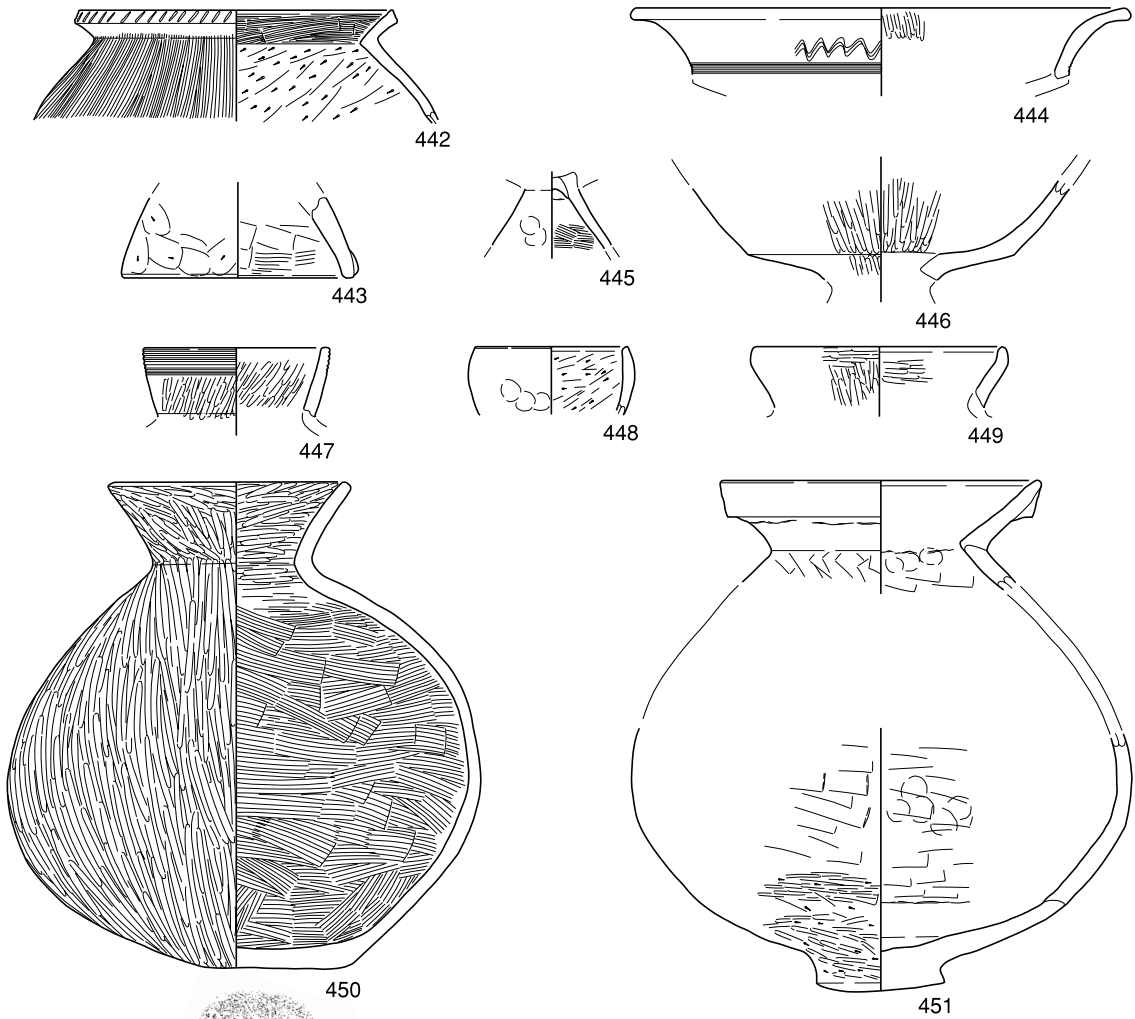
97区



S Z 01

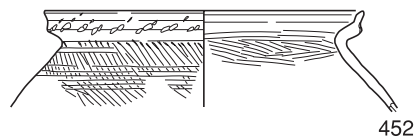


S Z 02-1

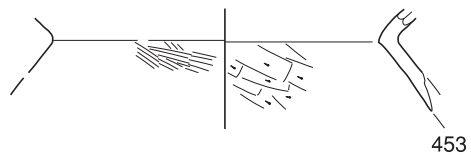


442~451: A群

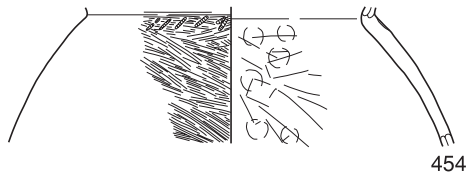
S Z 02-2



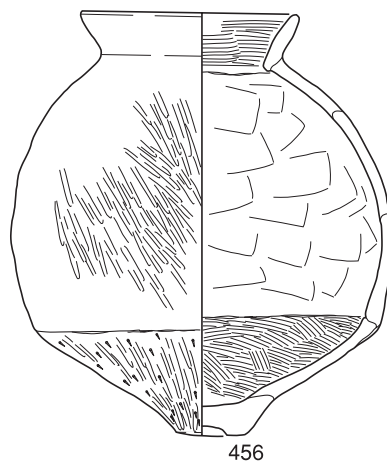
452



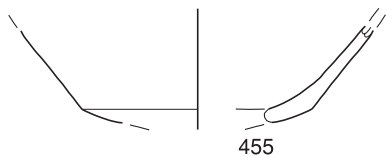
453



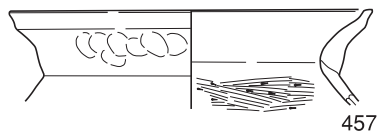
454



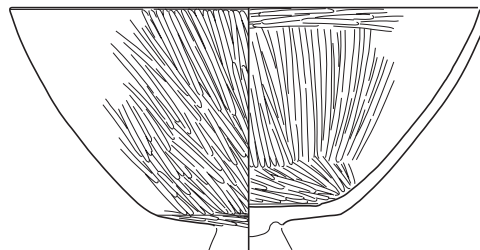
456



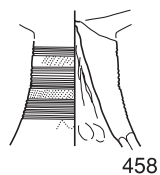
455



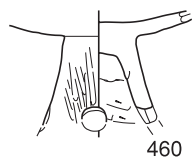
457



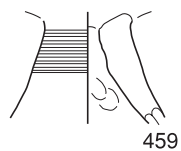
462



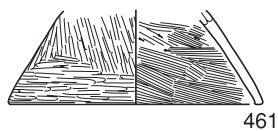
458



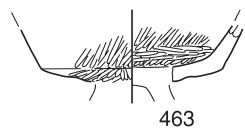
460



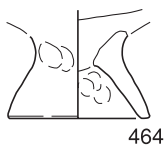
459



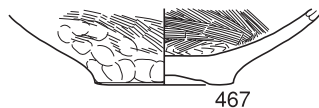
461



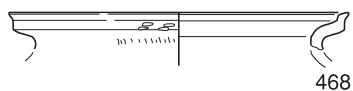
463



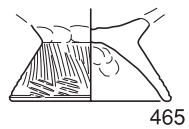
464



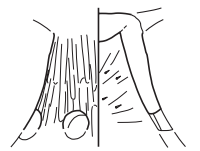
467



468



465



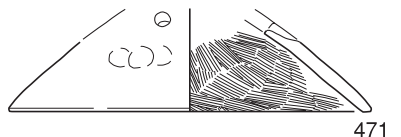
469



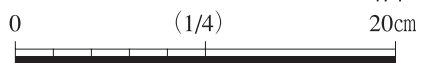
470



466

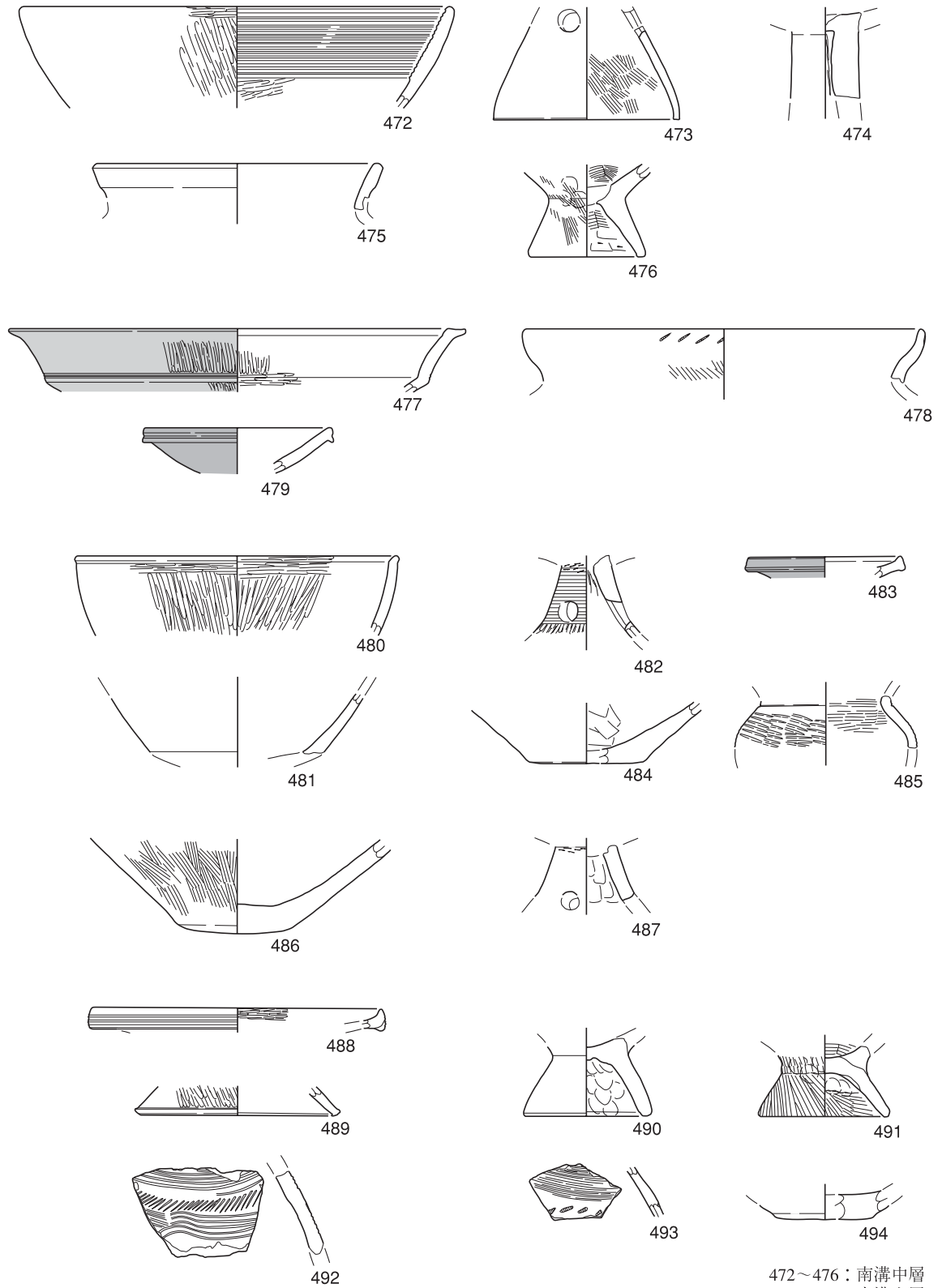


471



452~456: B 群
457~471: C 群

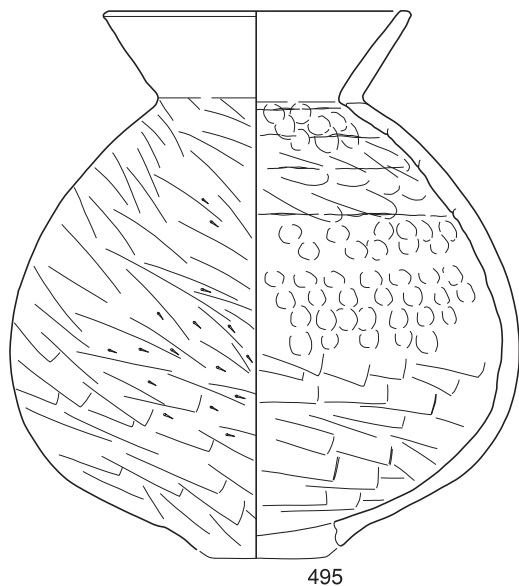
S Z 02-3



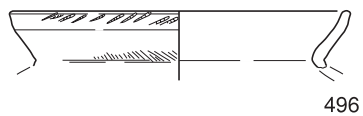
0 (1/4) 20cm

472~476：南溝中層
 477~479：南溝上層
 480~485：西溝下層
 486~487：西溝中層
 488~494：西溝上層

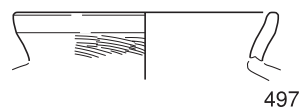
S Z 02-4



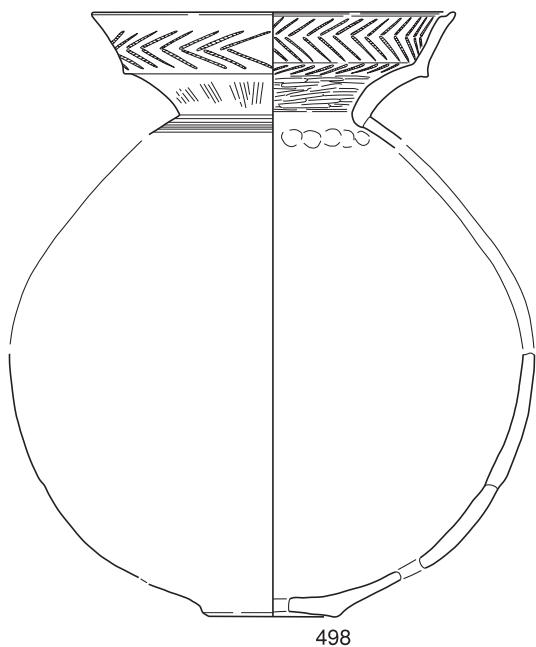
495



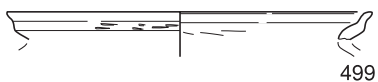
496



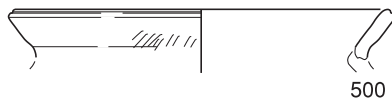
497



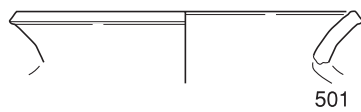
498



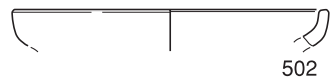
499



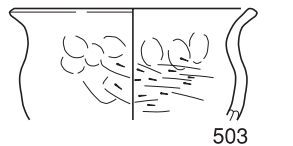
500



501



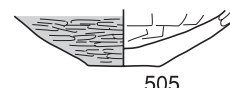
502



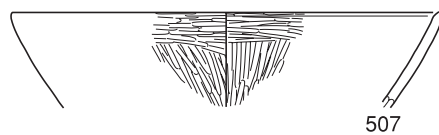
503



504



505



507



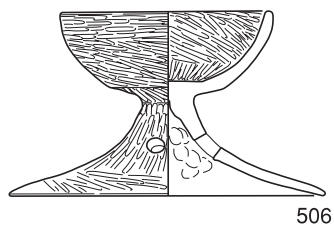
508



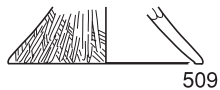
510



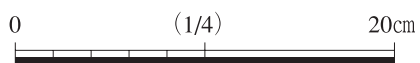
511



506

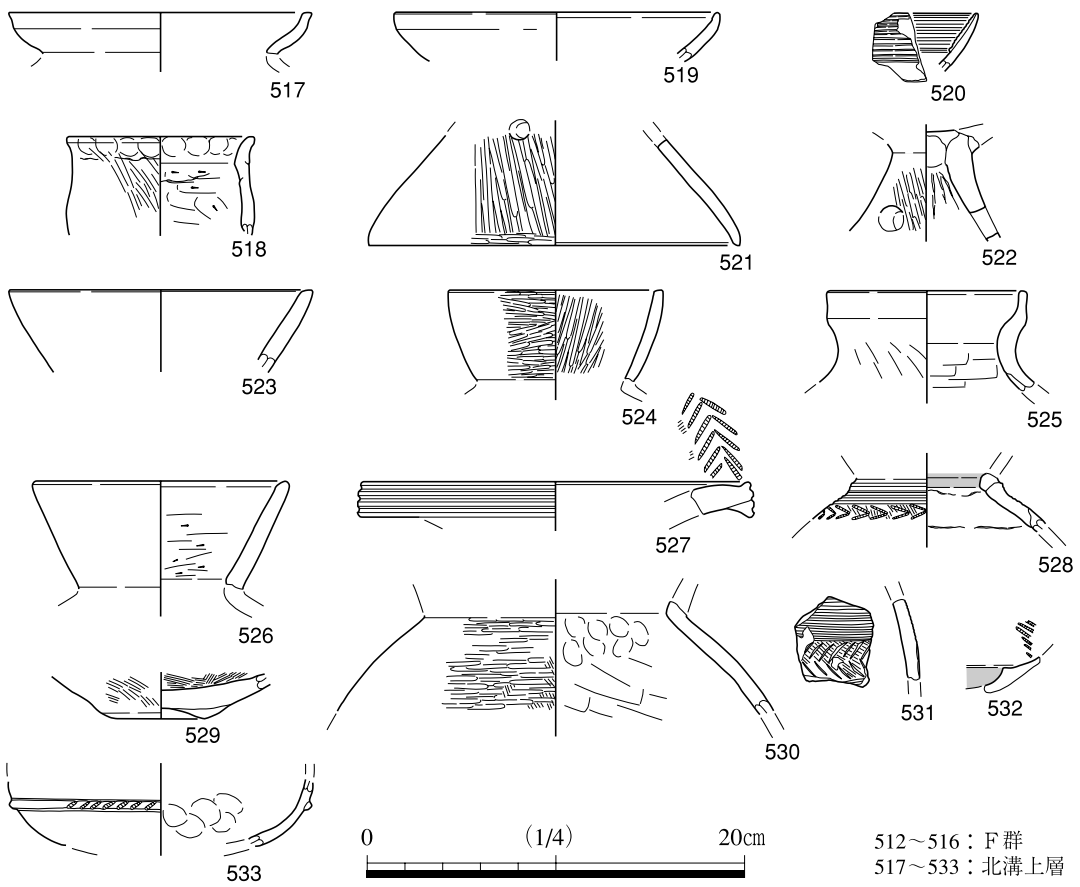
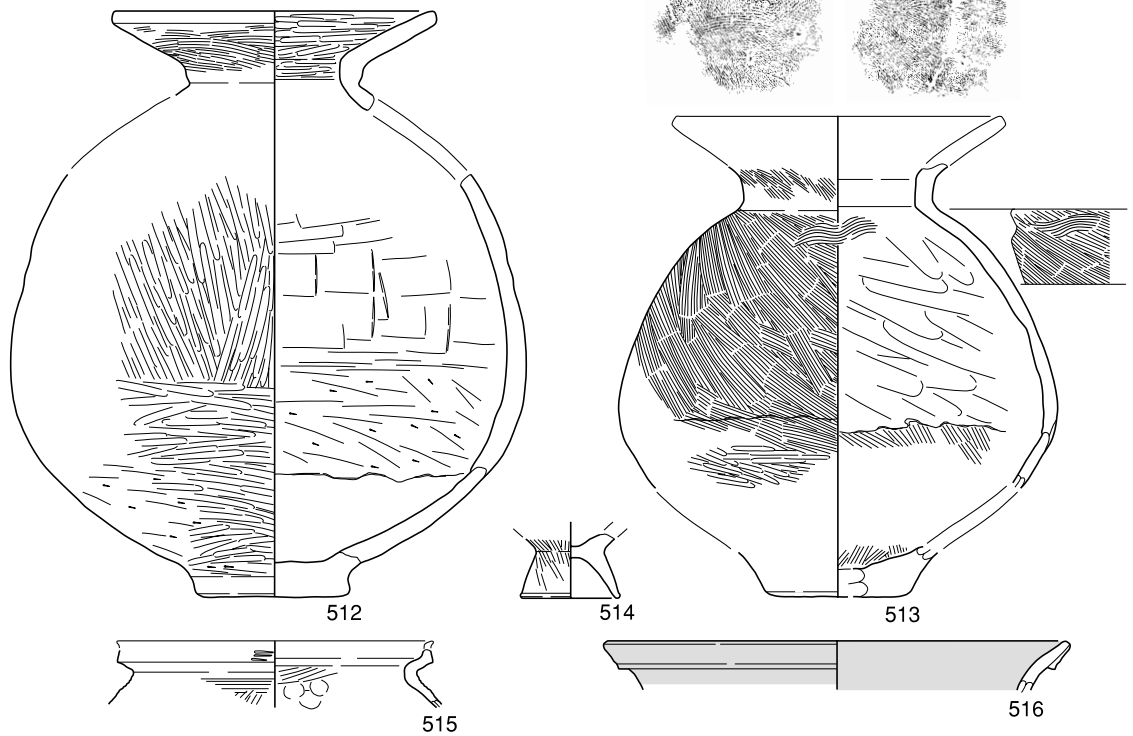


509



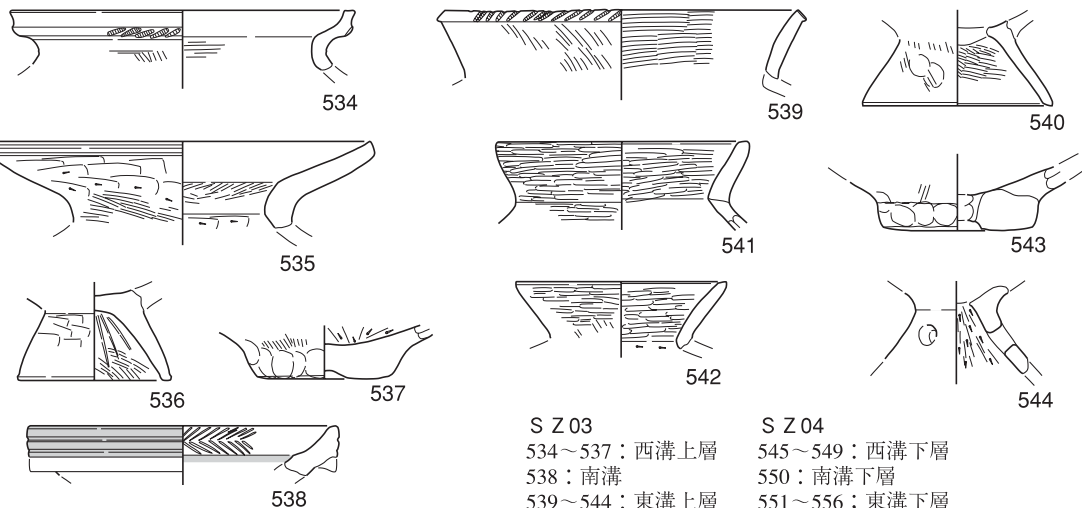
495~497: D群
498~511: E群

SZ02-5



512~516: F群
517~533: 北溝上層

S Z 03



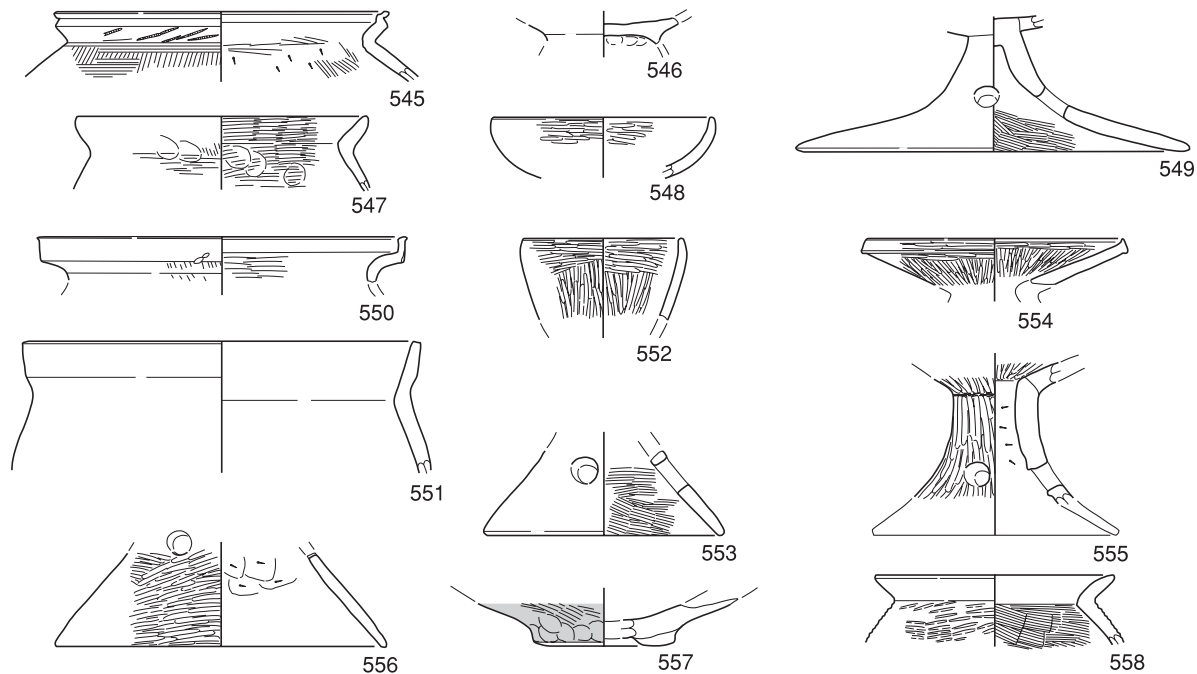
S Z 03

534～537：西溝上層
538：南溝
539～544：東溝上層

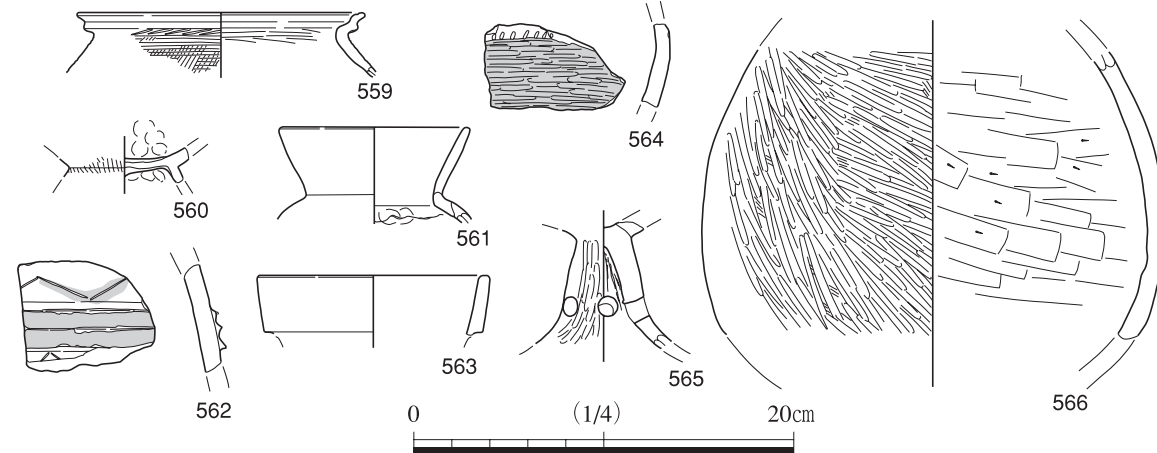
S Z 04

545～549：西溝下層
550：南溝下層
551～556：東溝下層
557・558：東溝上層

S Z 04

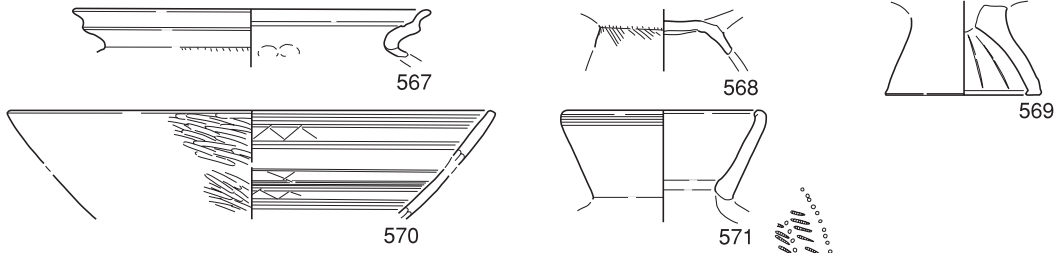


S Z 05

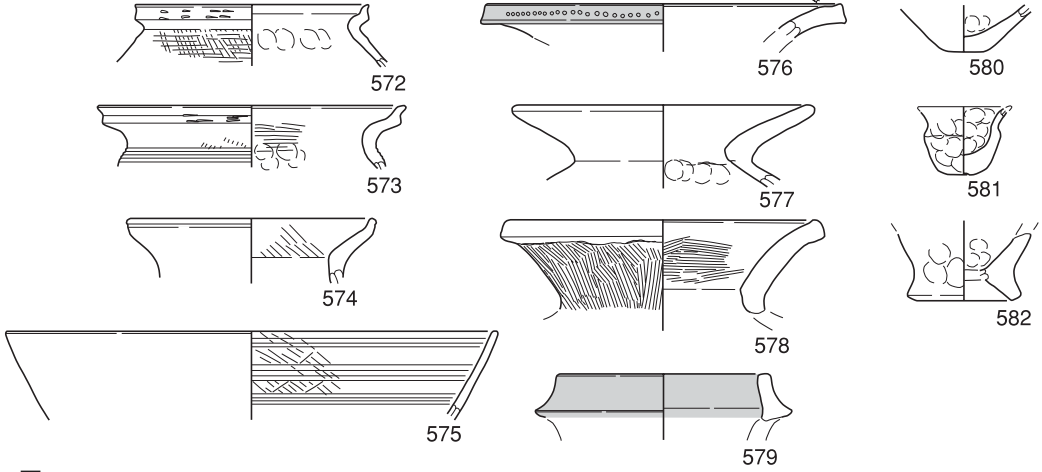


0 (1/4) 20cm

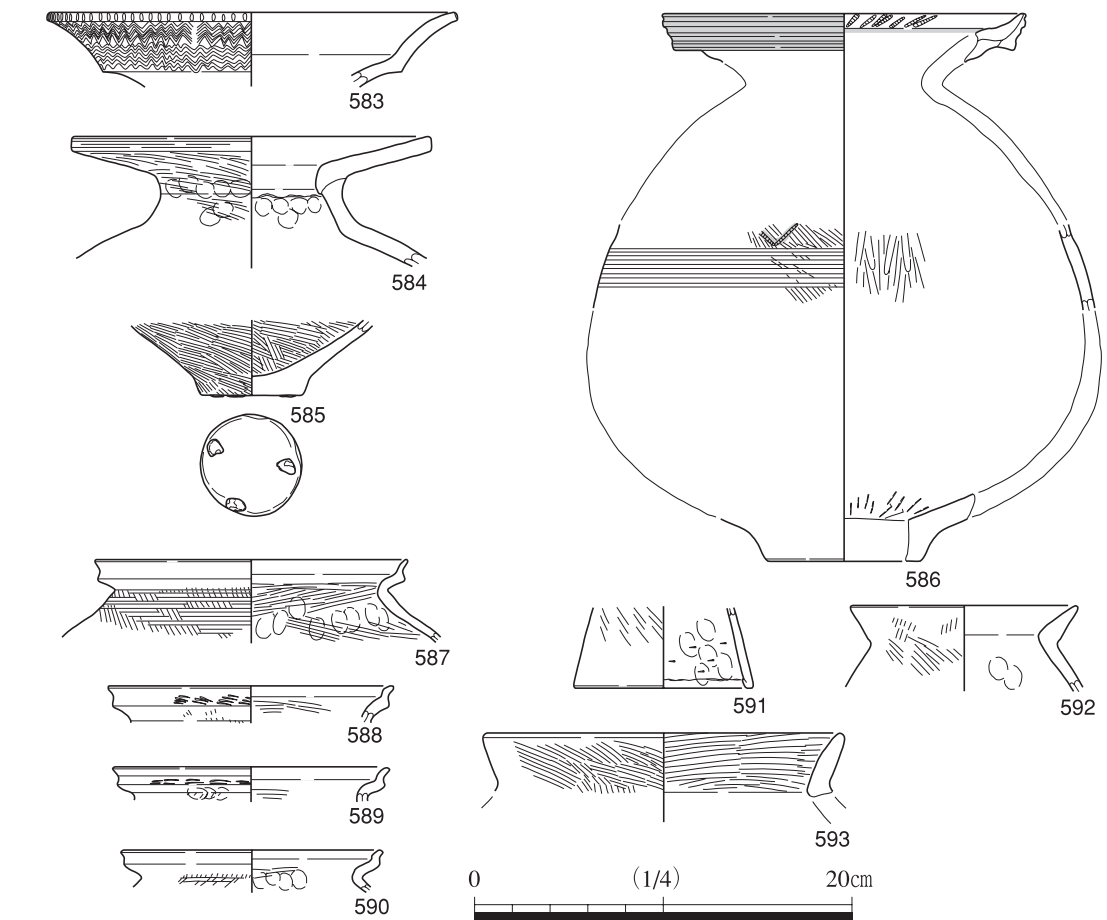
01区S B 01



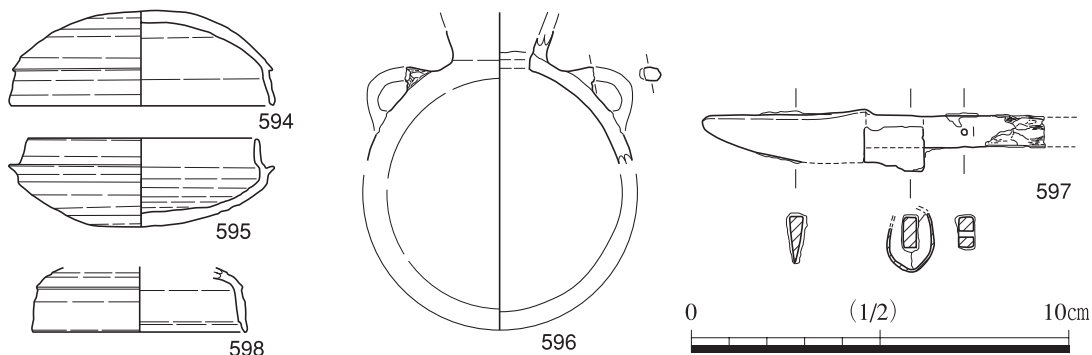
01区



96区

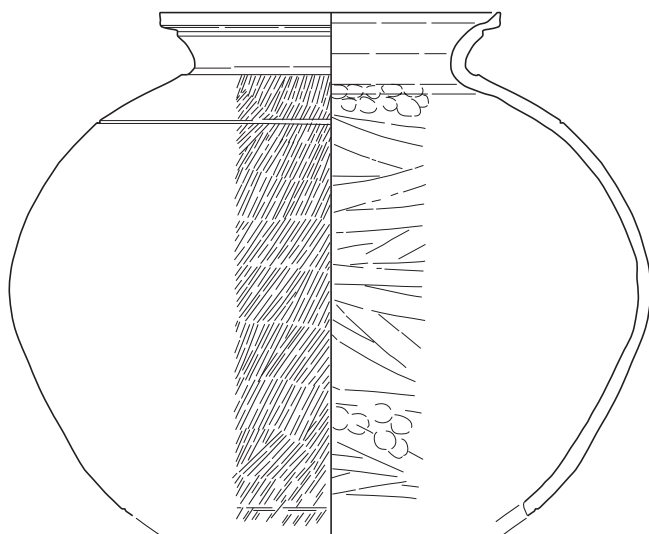


1号墳



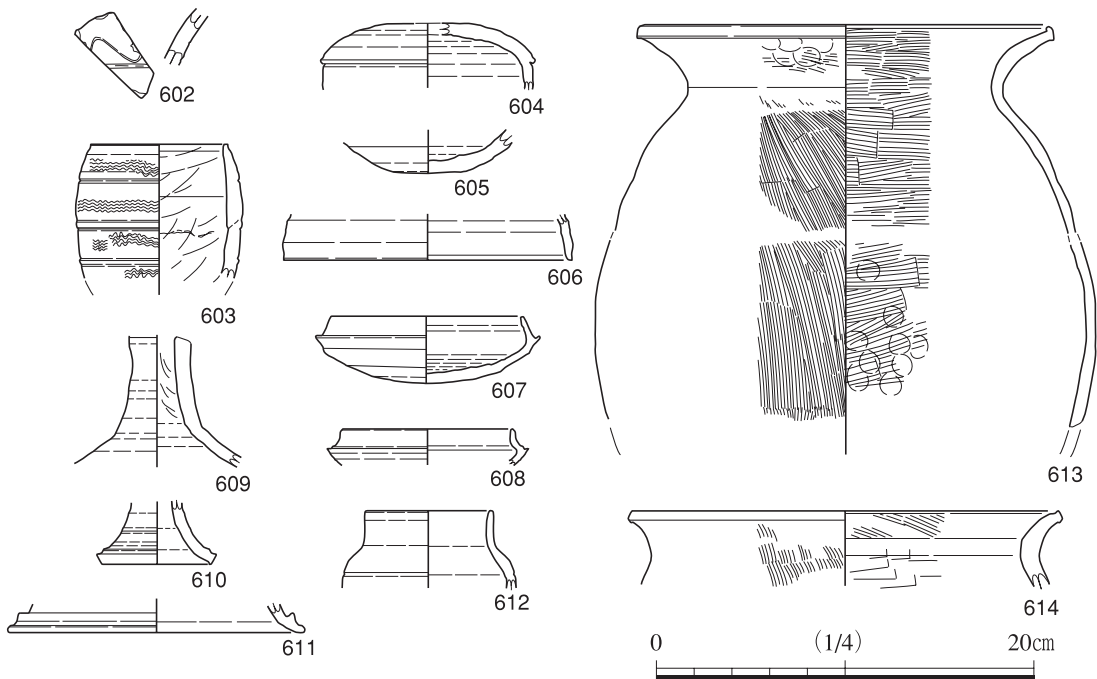
594～598：石室（97区 S X 01）
599・600：周溝（97区 S D 31）

4号墳

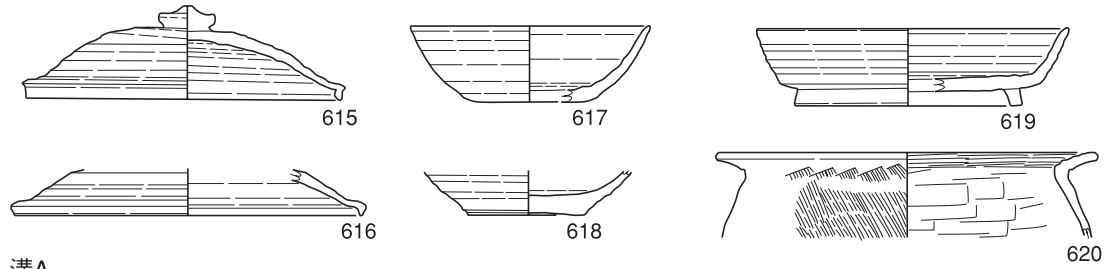


601：周溝（01区 S D 08）

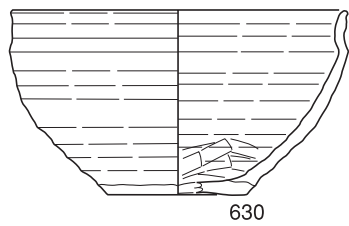
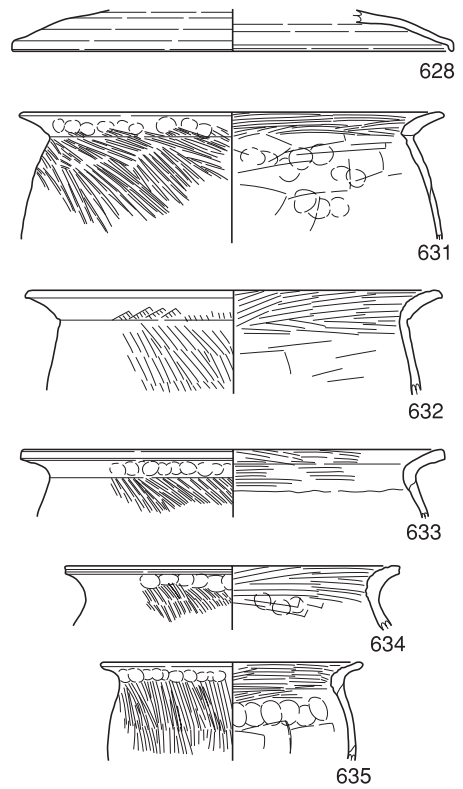
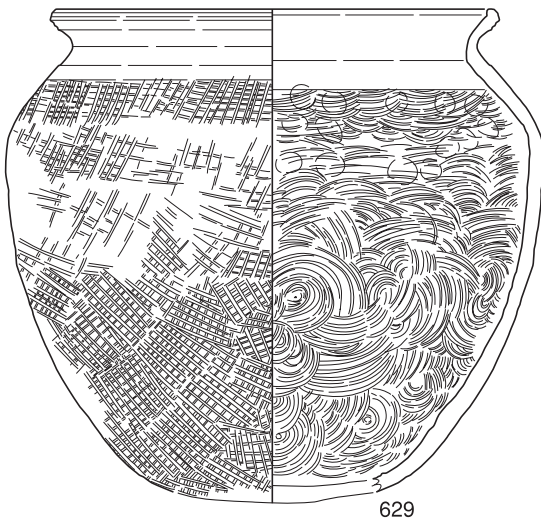
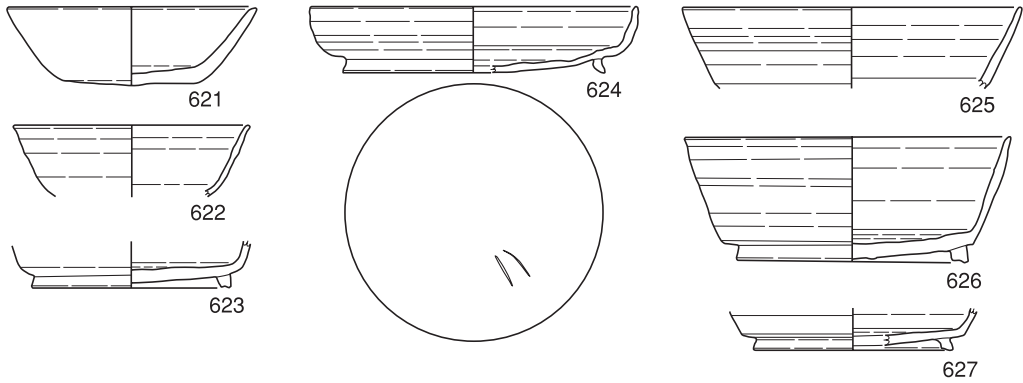
その他



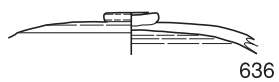
97区 S B02



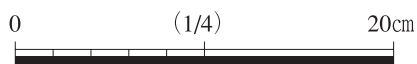
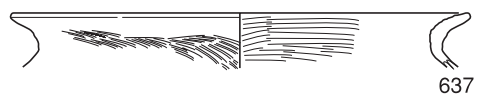
溝A



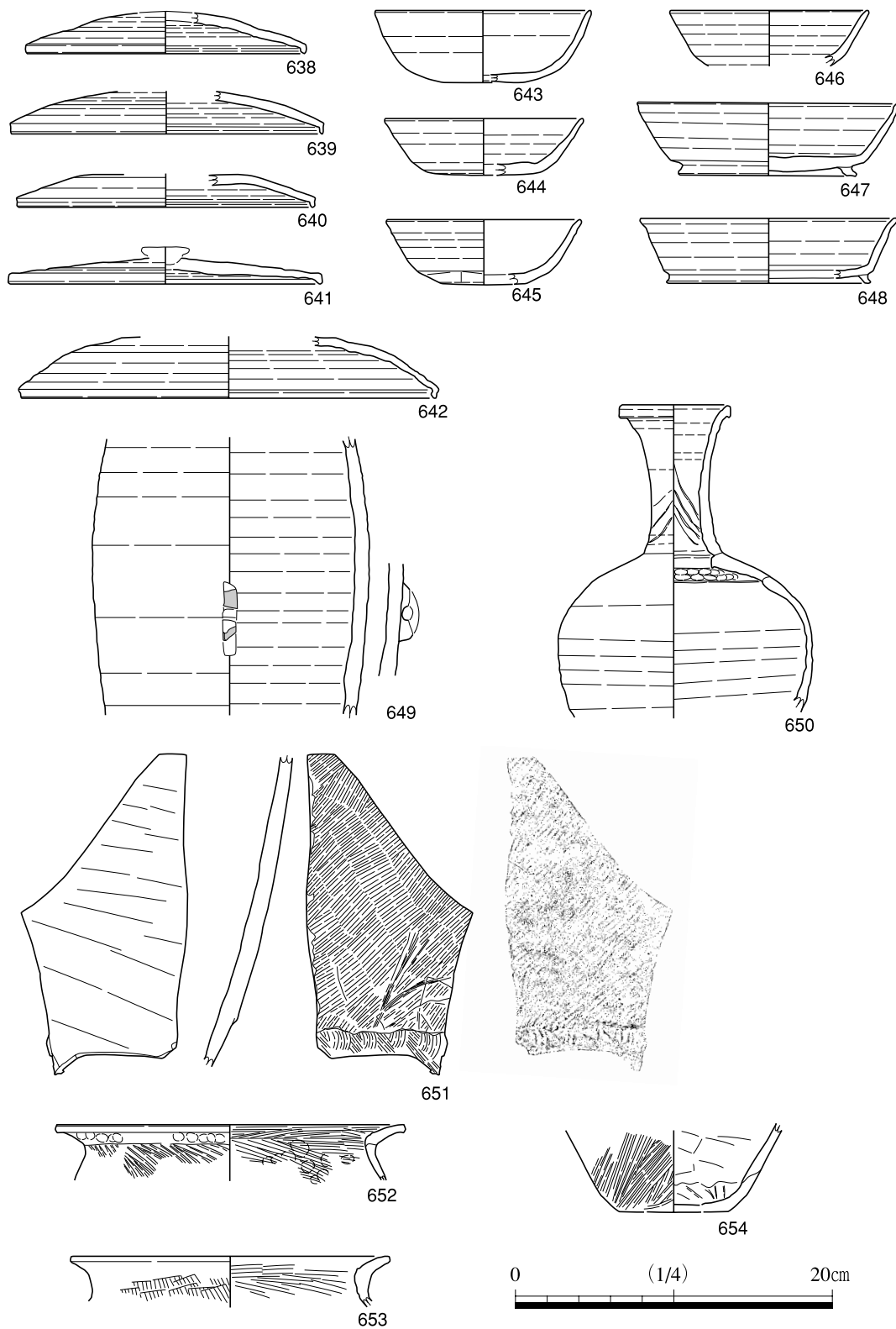
97区 S D50



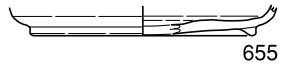
97区 S D55



溝C

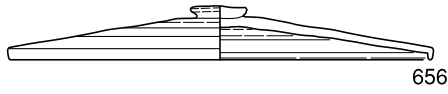


溝D

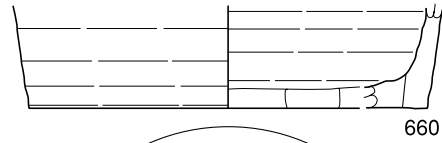


655

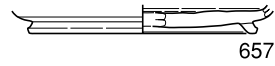
溝E



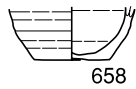
656



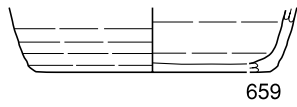
660



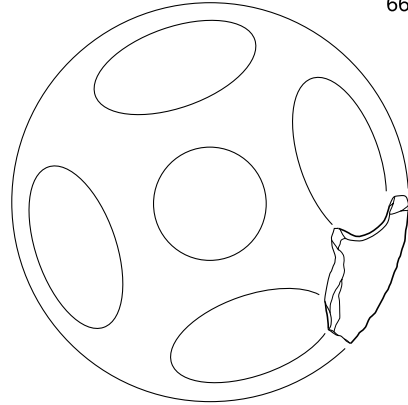
657



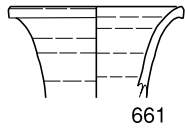
658



659



97区



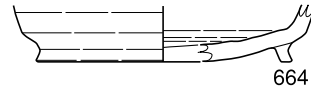
661



663

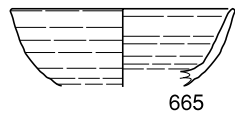


662

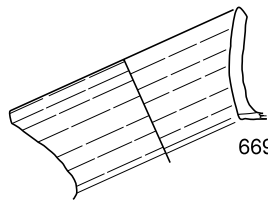


664

01区



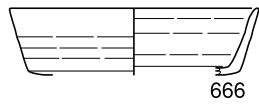
665



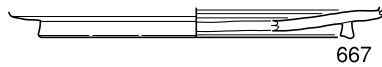
669



670



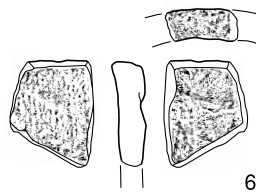
666



667

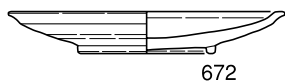


668

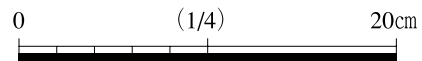


671

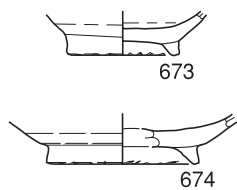
99A区



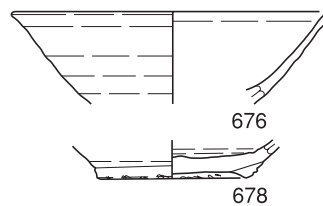
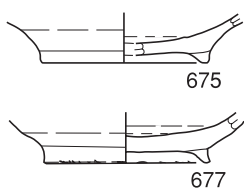
672



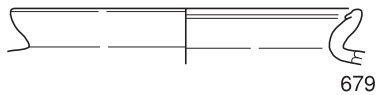
01区 S K 01



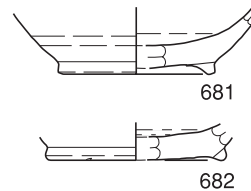
01区 S D 02



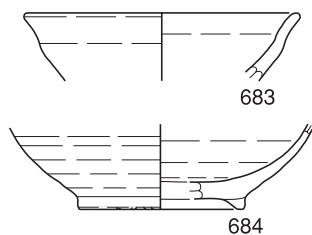
01区 S D 01



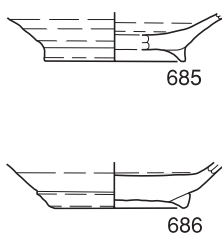
01区 S D 06



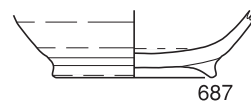
01区 S D 65



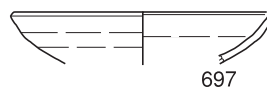
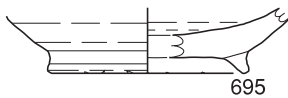
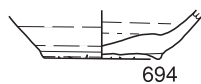
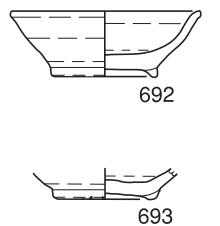
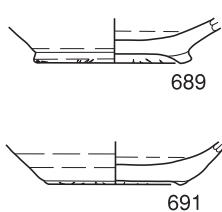
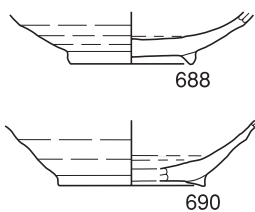
01区 S D 31



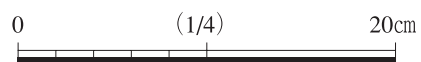
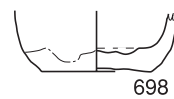
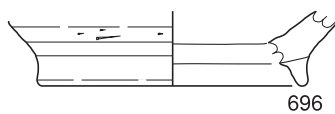
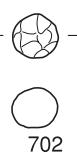
97区 S K 12



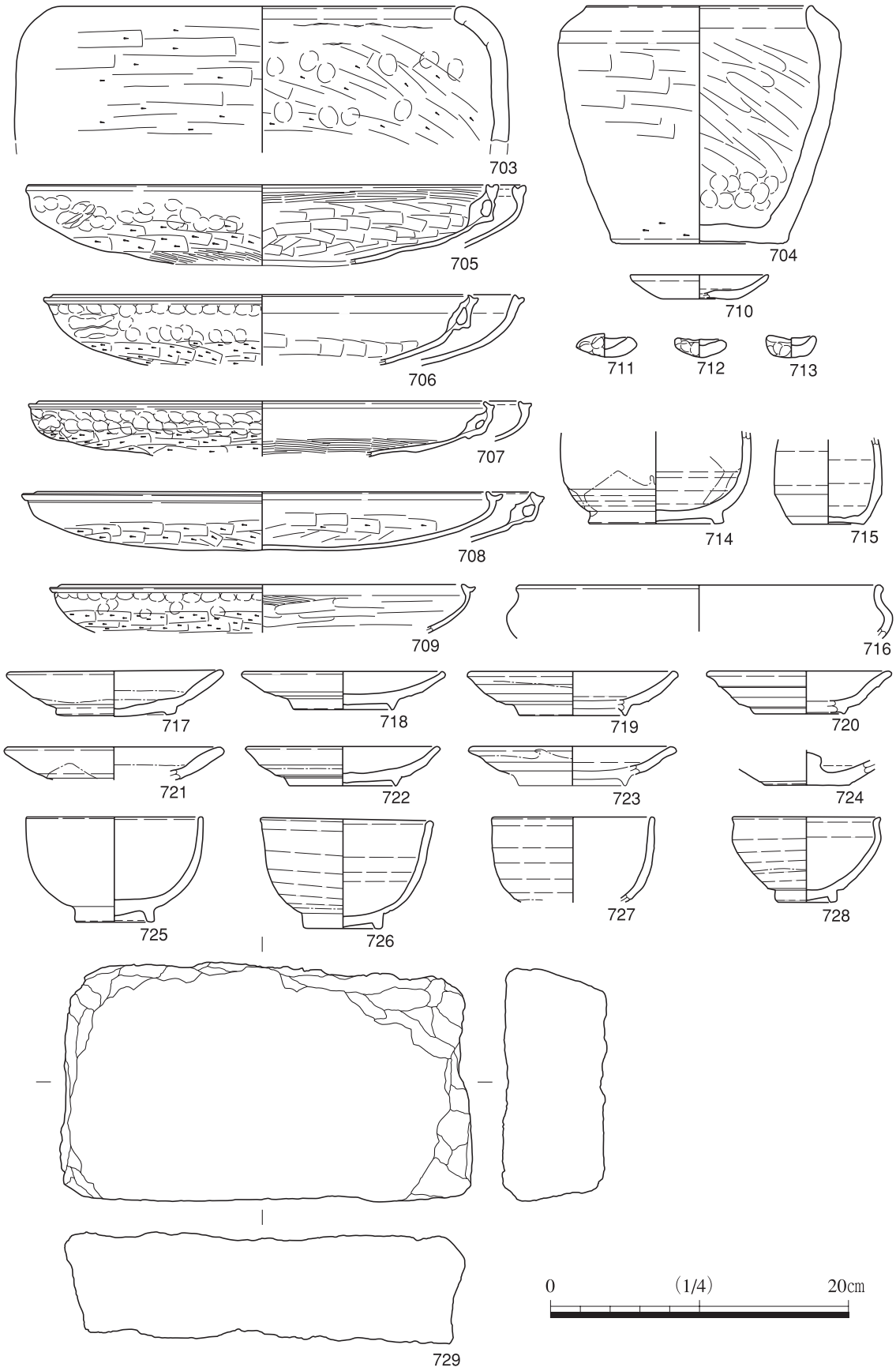
その他



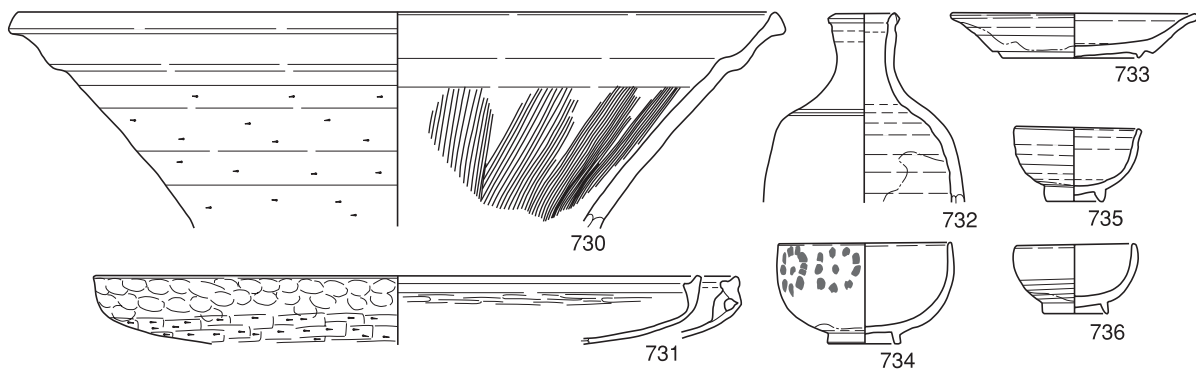
加工円盤・陶丸



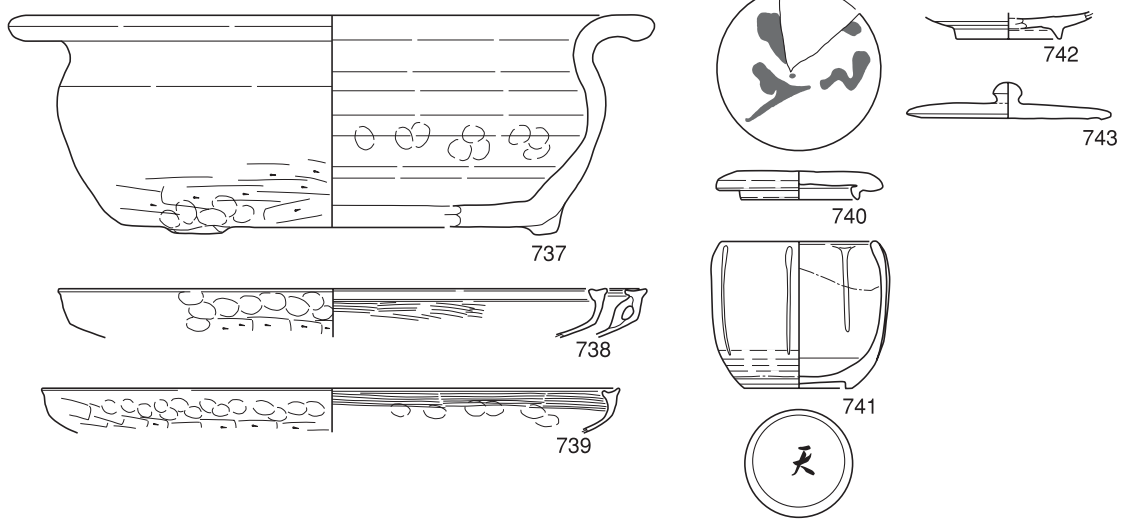
01区S D 22·99C区S D 06



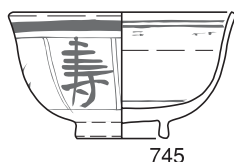
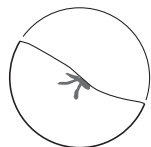
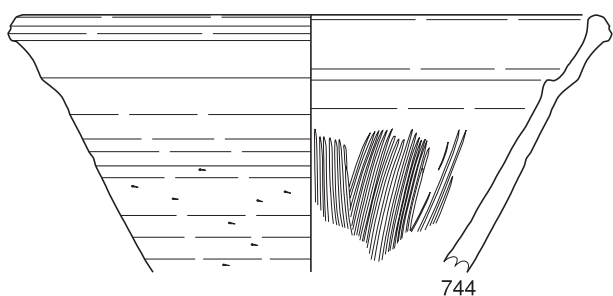
01区 S D 45



01区 S D 51



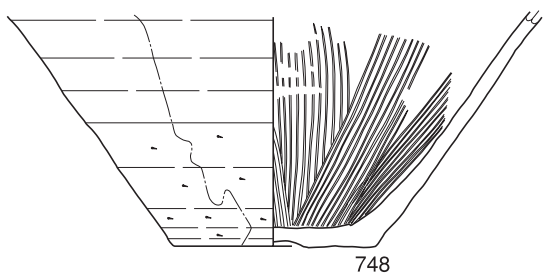
01区 S D 58



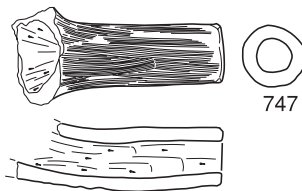
01区 S D 57



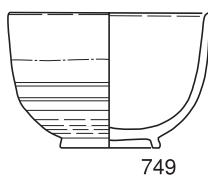
01区 S D 33



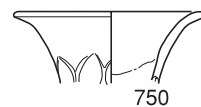
01区 S D 59



01区 S K 40

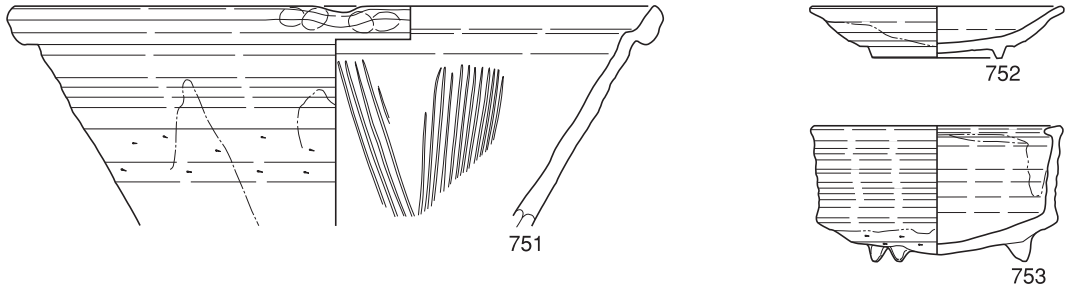


01区 S D 43

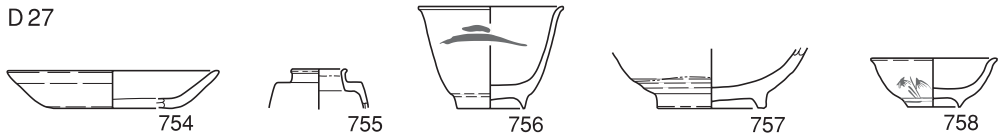


0 (1/4) 20cm

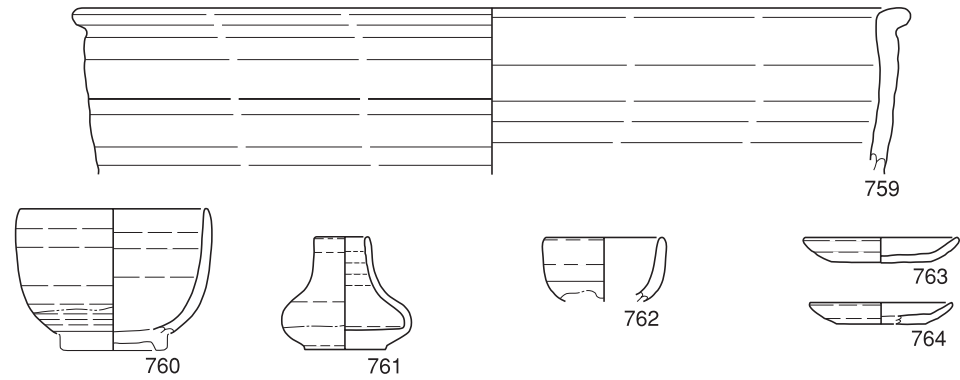
97区 S D 23



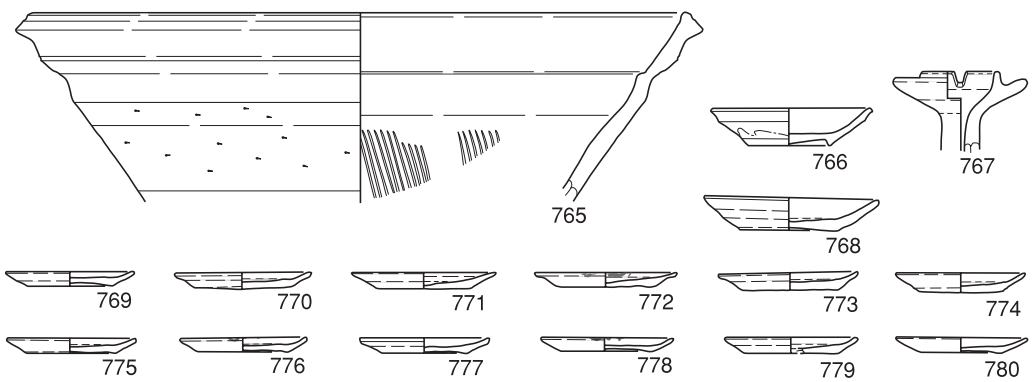
97区 S D 27



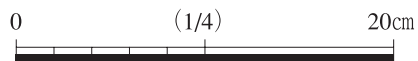
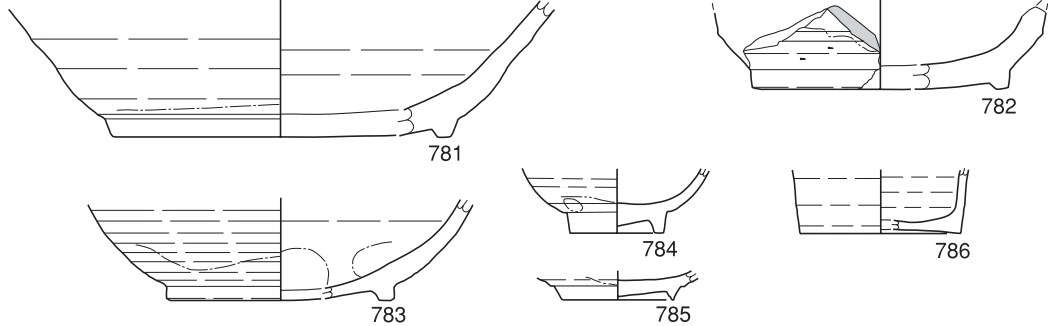
97区 S D 26



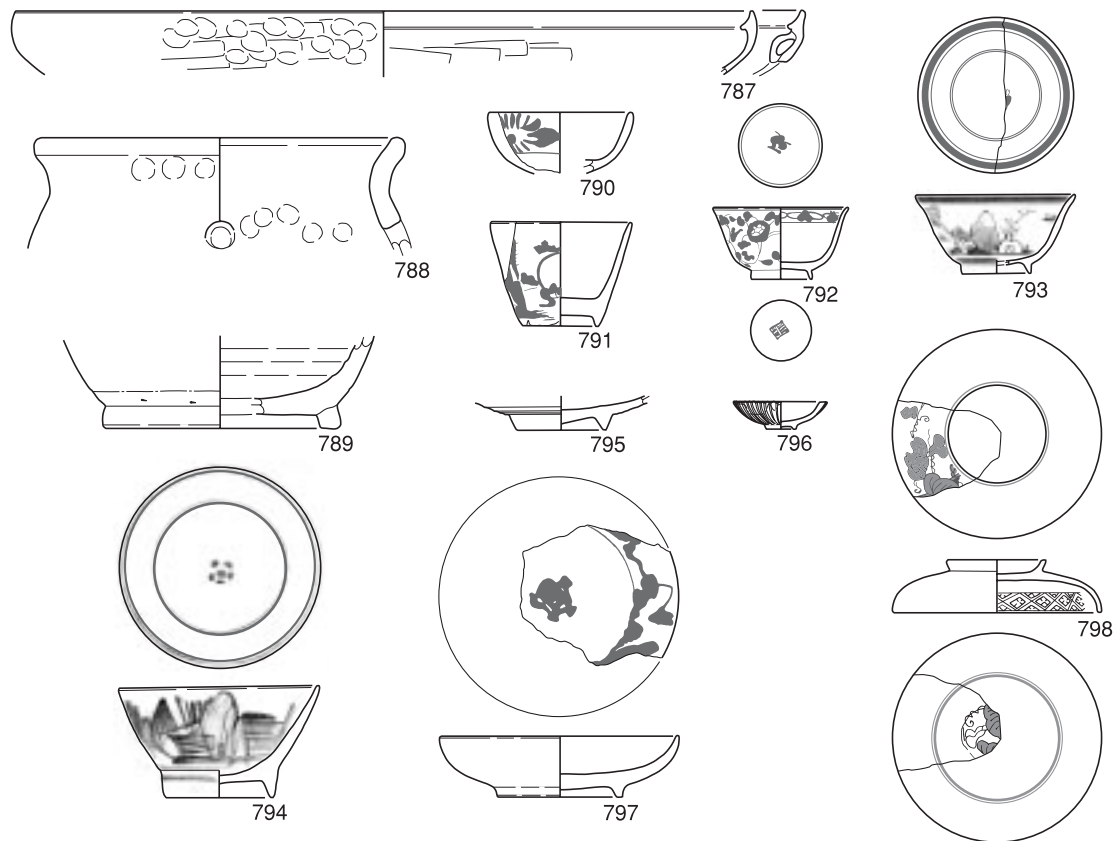
97区 S D 79



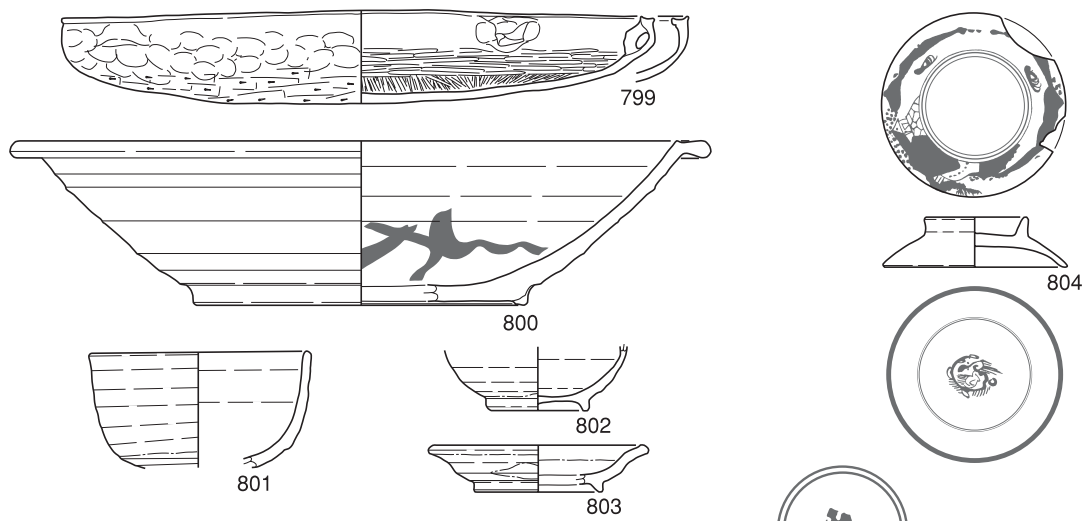
97区 S D 33



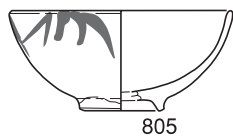
97区 S D 17



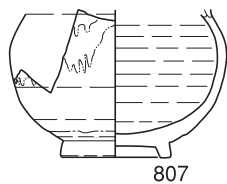
97区 S D 38



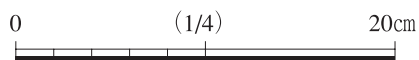
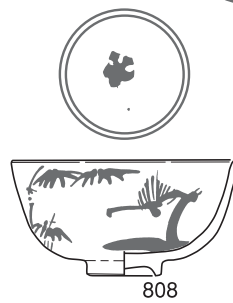
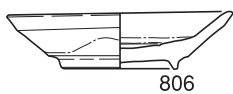
97区 S D 36



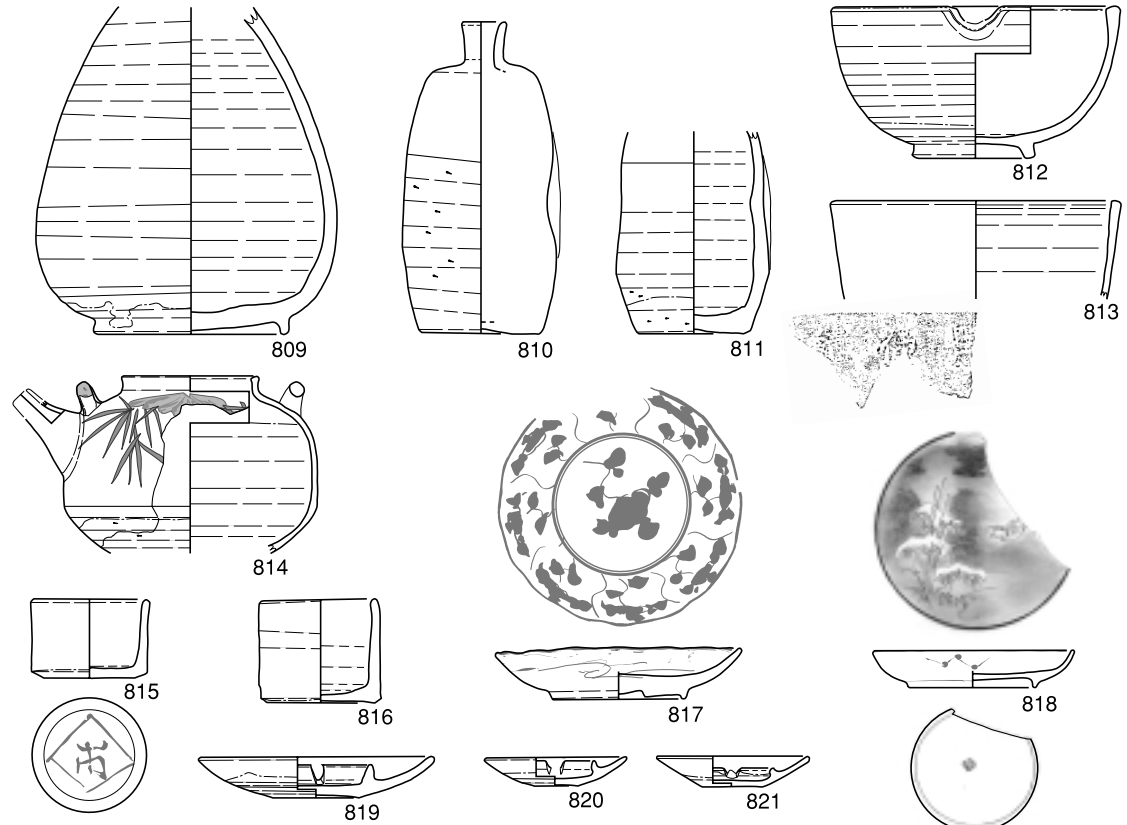
97区 S K 122



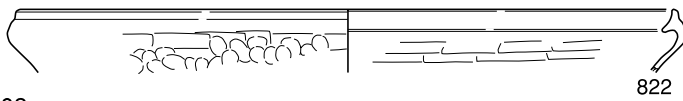
97区 S D 43



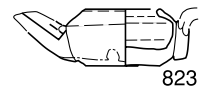
97区 S E 04



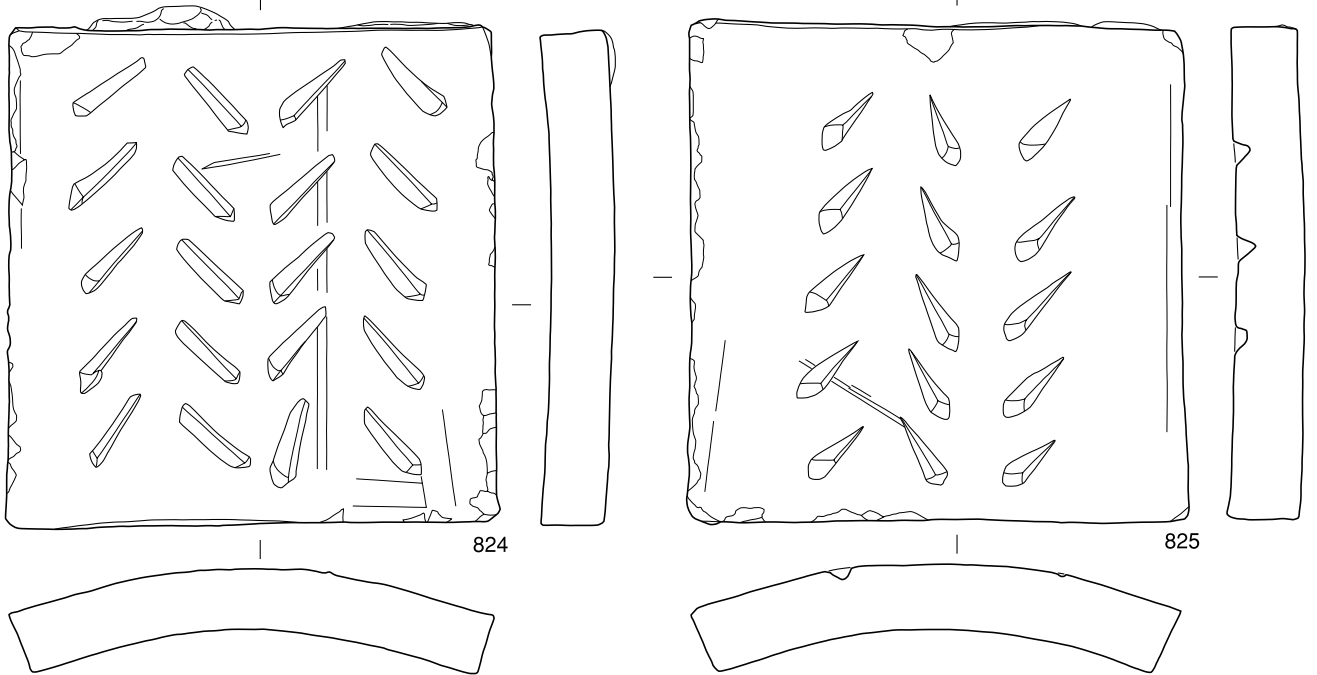
97区 S E 06



97区 S E 01

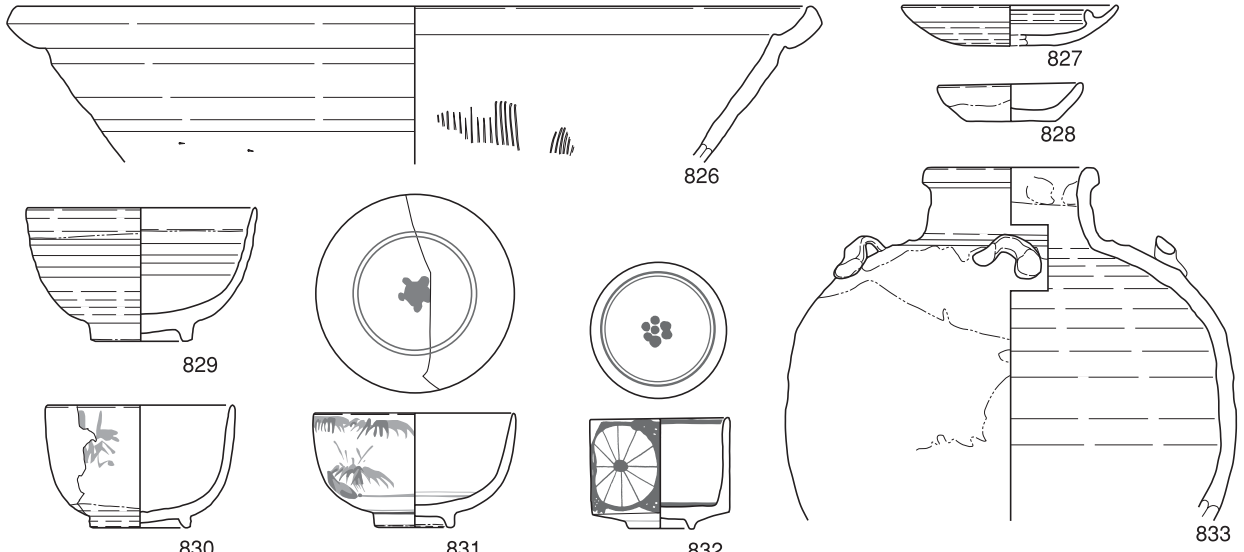


97区 S E 02

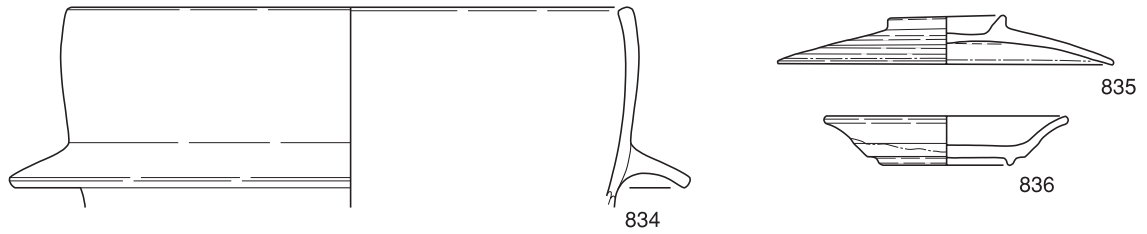


0 (1/4) 20cm

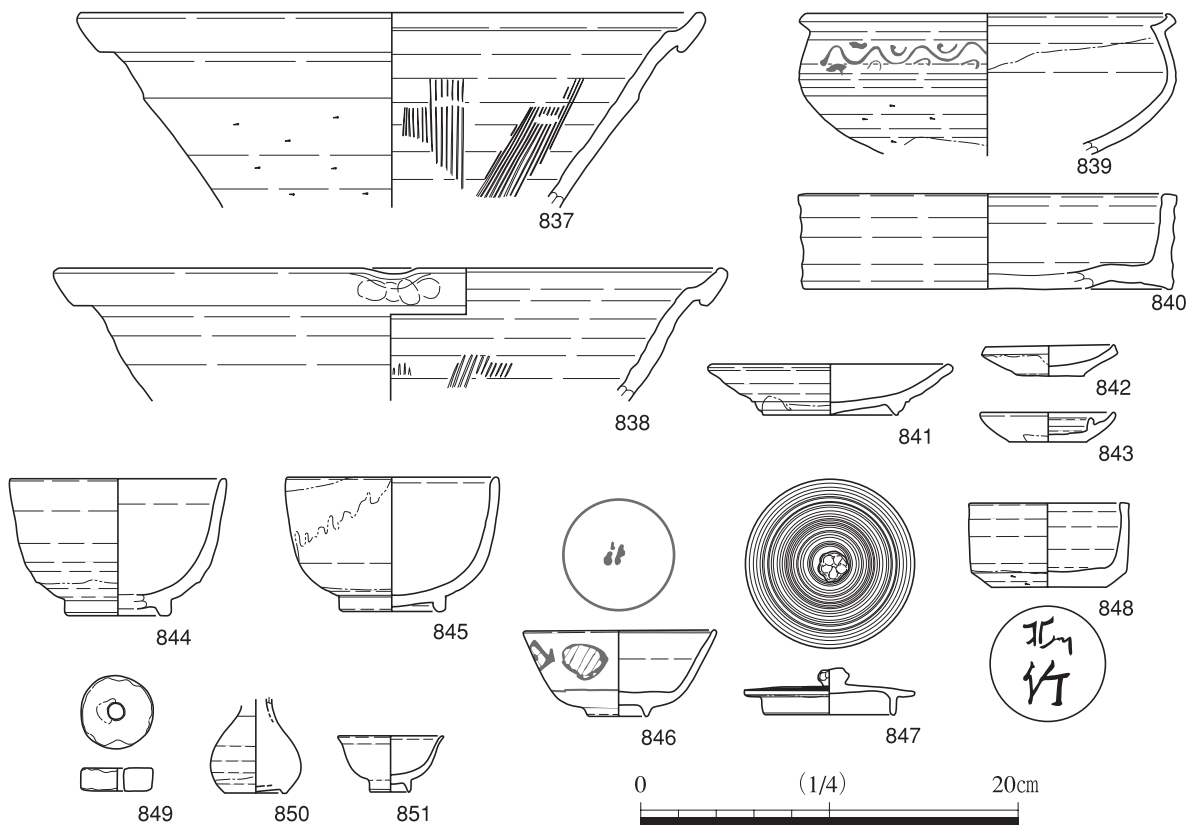
97区 N R 01



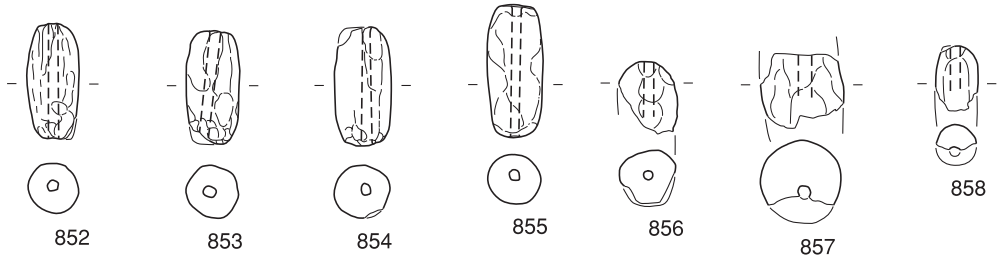
01区 S D 42



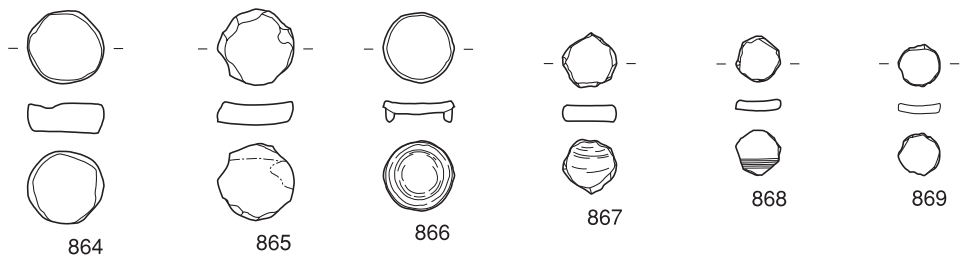
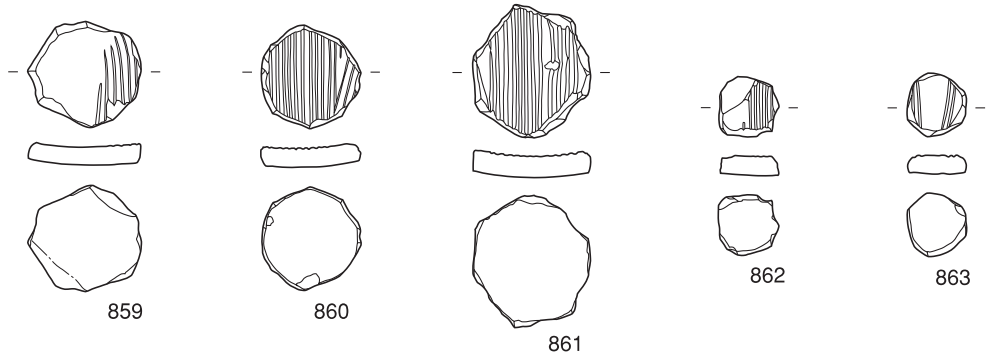
97区・01区



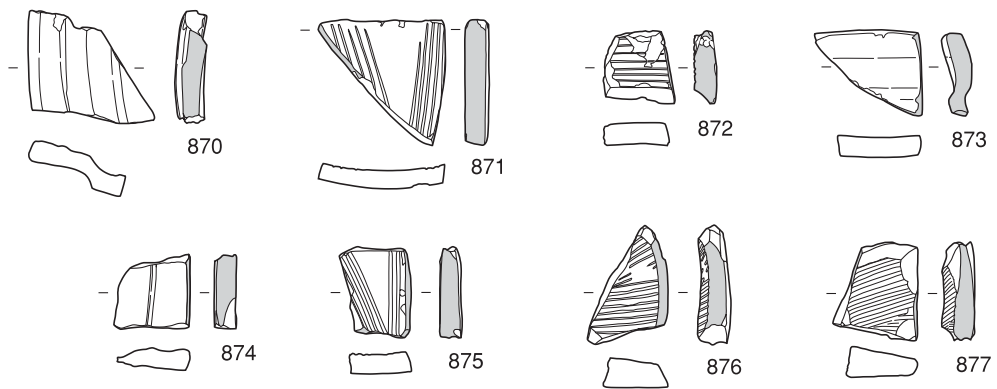
土錘

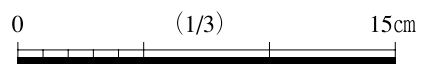
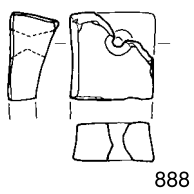
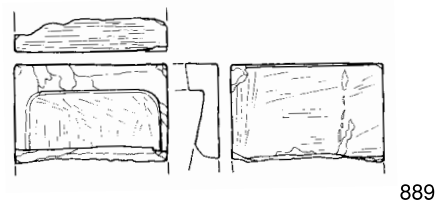
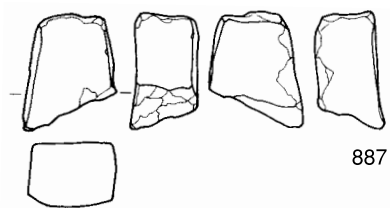
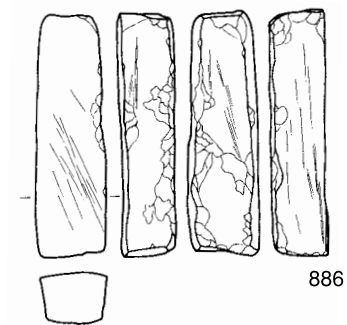
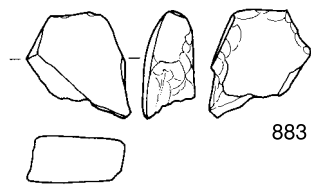
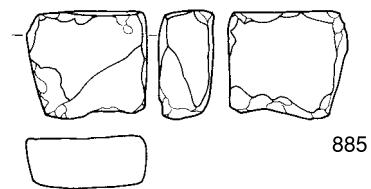
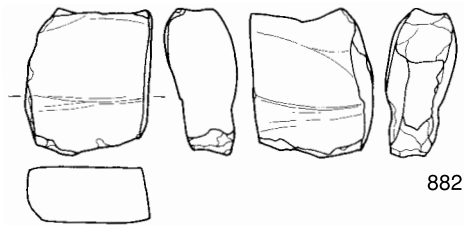
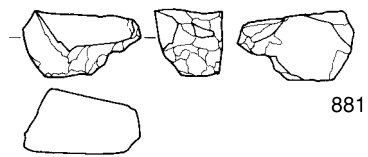
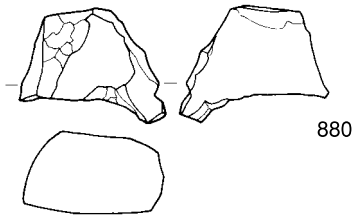
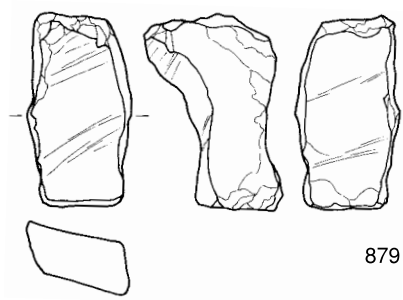
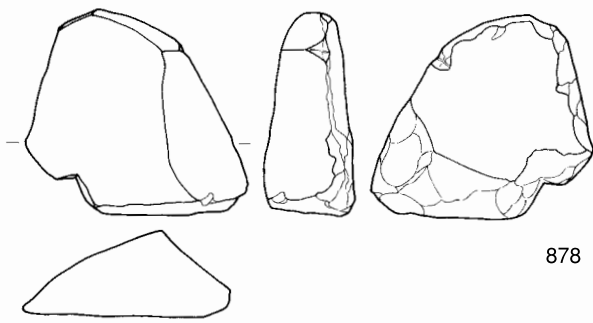


加工円盤

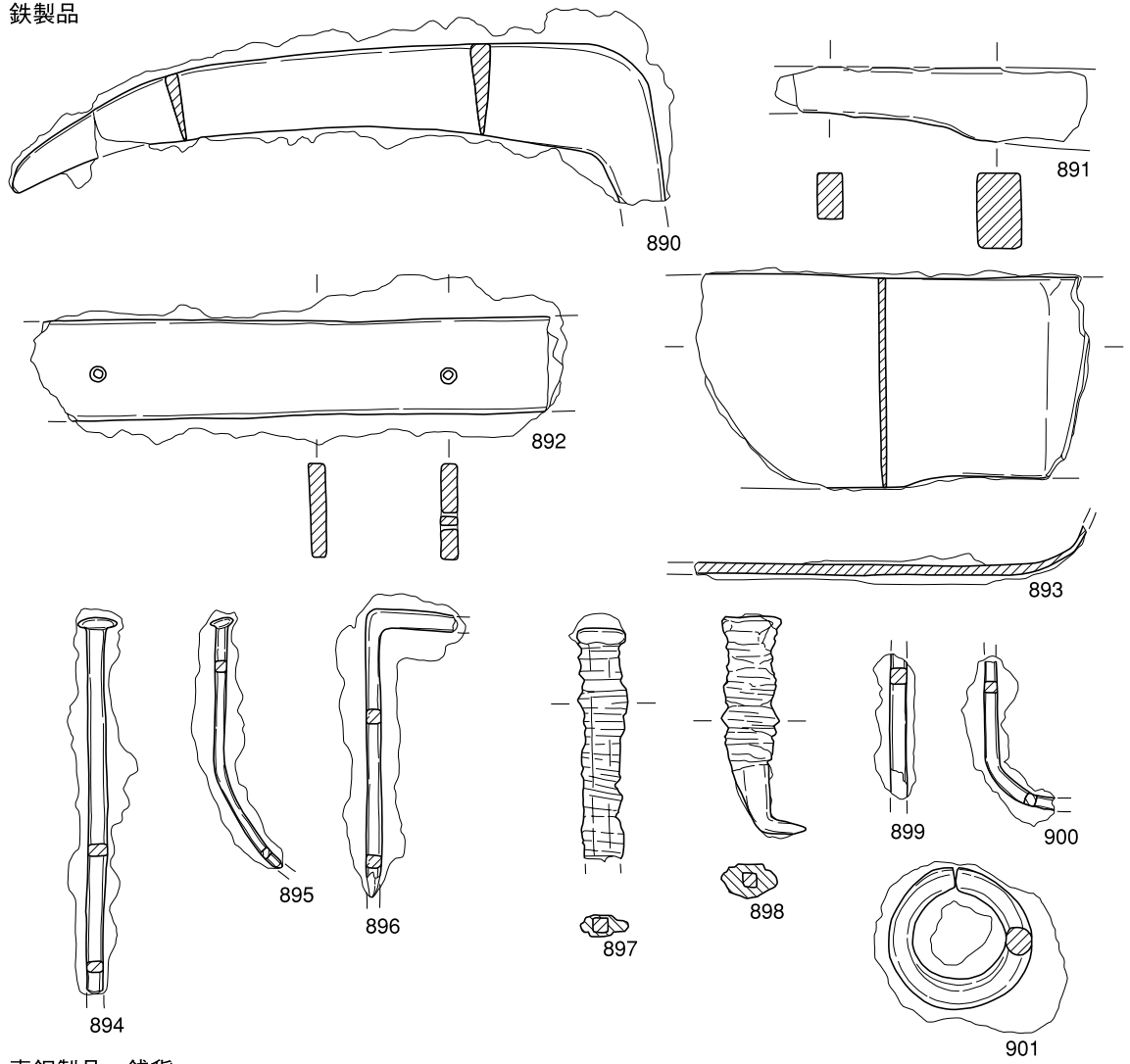


研磨痕土器(転用研具)

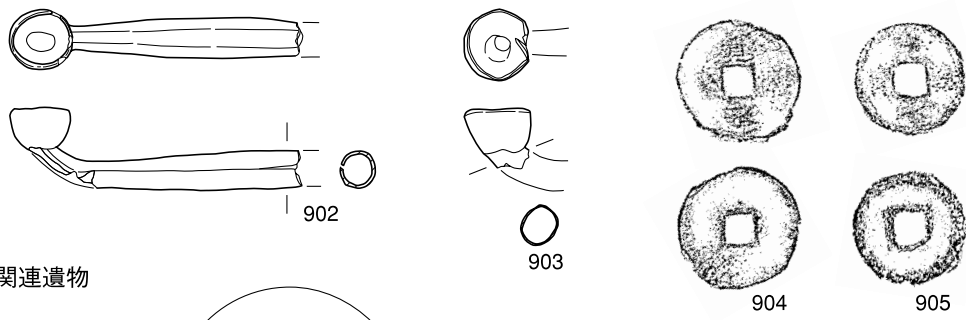




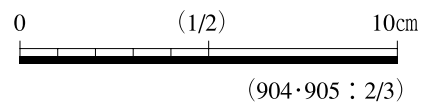
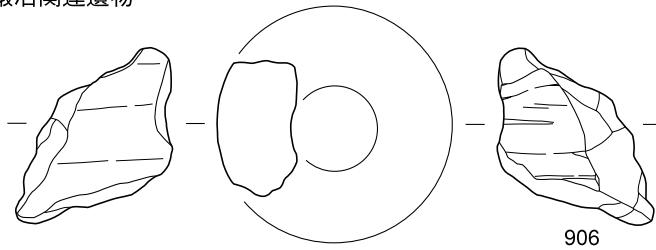
鉄製品



青銅製品・錢貨



鍛冶関連遺物





上段：調査前の遺跡周辺環境（平成8年7月撮影）

下段：96区全景（手前隅の弧状にめぐる溝が4号墳の周溝）



上段：97区縄文時代後期初頭の遺構群
下段：97区S K 31・97区S B 08周辺



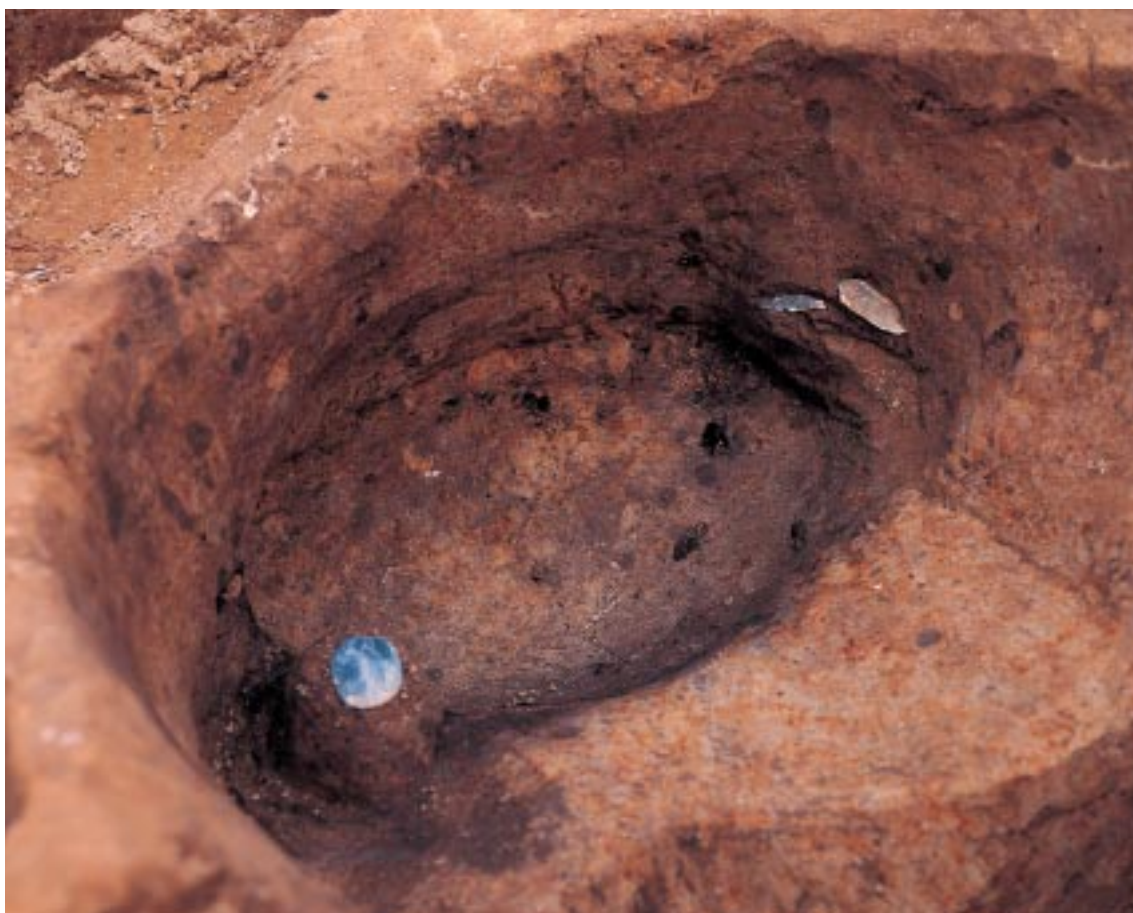
上段：97区 S K 31 遺物出土狀況
下段：97区 S K 31 全景



上段：97区S B 08の地床炉
下段：97区S K 40遺物出土状況



上段：97区 S B 06 と 97区 S K 67
下段：97区 S K 67 遺物出土状況



上段：97区S K 67完掘状況（袋状の断面形）
下段：97区S K 36遺物出土状況



上段：97区谷地形（中層）遺物出土状況

下段：01区縄文時代後期初頭～前葉の遺構群



上段：01区 S K 73 全景
下段：01区 S K 73 近景



上段：01区墳丘墓群全景（手前からS Z 02、S Z 03、S Z 04、S Z 05）
下段：S Z 02全景



上段：S Z 02 南溝土層断面
中段：S Z 02 西溝土層断面
下段：S Z 02 北溝土層断面



上段：S Z 02 A 群遺物出土状況（廣口壺）

下段：S Z 02 B 群遺物出土状況（廣口壺と S 字甕）



上段：S Z 02 D 群遺物出土状況（広口壺）
下段：S Z 02 E 群遺物出土状況（低脚高杯と柳ヶ坪型壺）



上段：S Z 03・S Z 04 全景

下段：S Z 04 西溝遺物出土状況と土層断面



上段：S Z 04、01区S B 01、S Z 05、4号墳の位置関係
下段：97区S B 01 遺物出土状況（高杯、台付甕など）



上段：1号墳横穴式石室（検出時の状況）

下段：1号墳横穴式石室（基底石と磔敷）



上段：1号墳全景
下段：4号墳周溝遺物出土狀況



上段：97区全景（古代と近世を中心とした遺構群）
下段：97区SD 37（溝C）



上段：97区S B 02 竈周辺遺物出土状況
下段：中世土坑（01区S K 01）



上段：01区西半部の近世を中心とした遺構群（S Z 02 周溝の検出状況）

下段：01区 S D 22 遺物出土状況（瀬戸美濃産陶器や焙烙鍋のほかに竈の構築材と思われる石製品が出土した。）



上段：97 区 S D 27 土層断面
下段：97 区 S E 05 土層断面





84



84



85



85



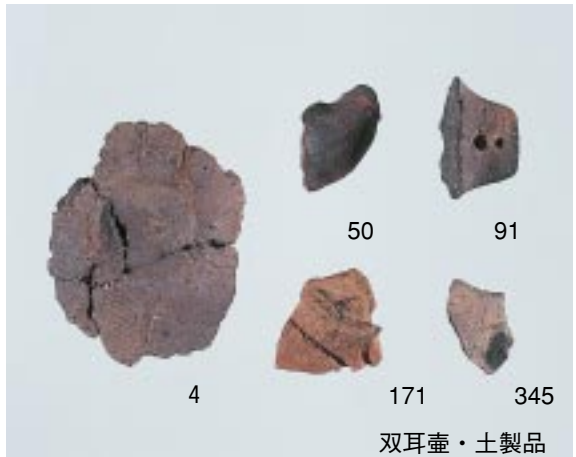
81



92



86



50

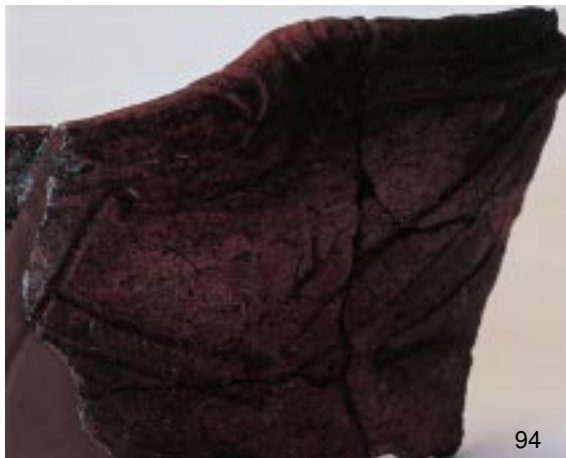
91

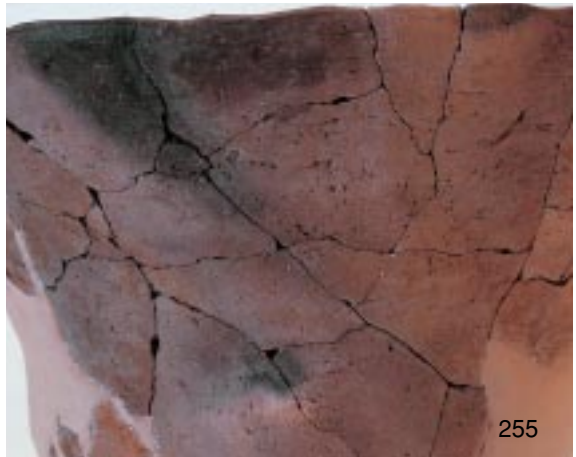
4

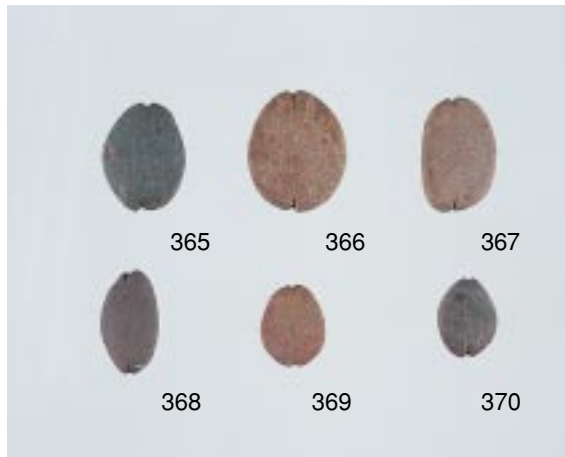
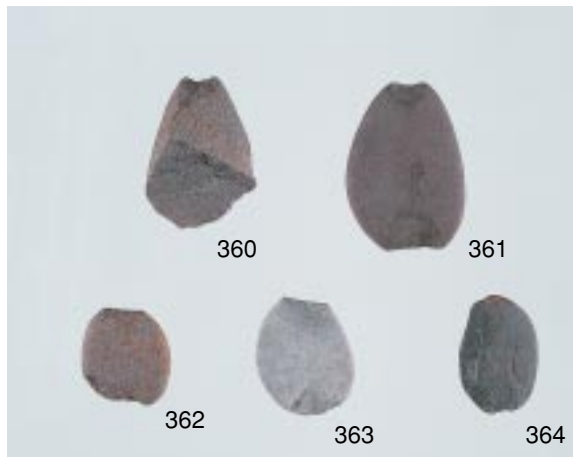
171

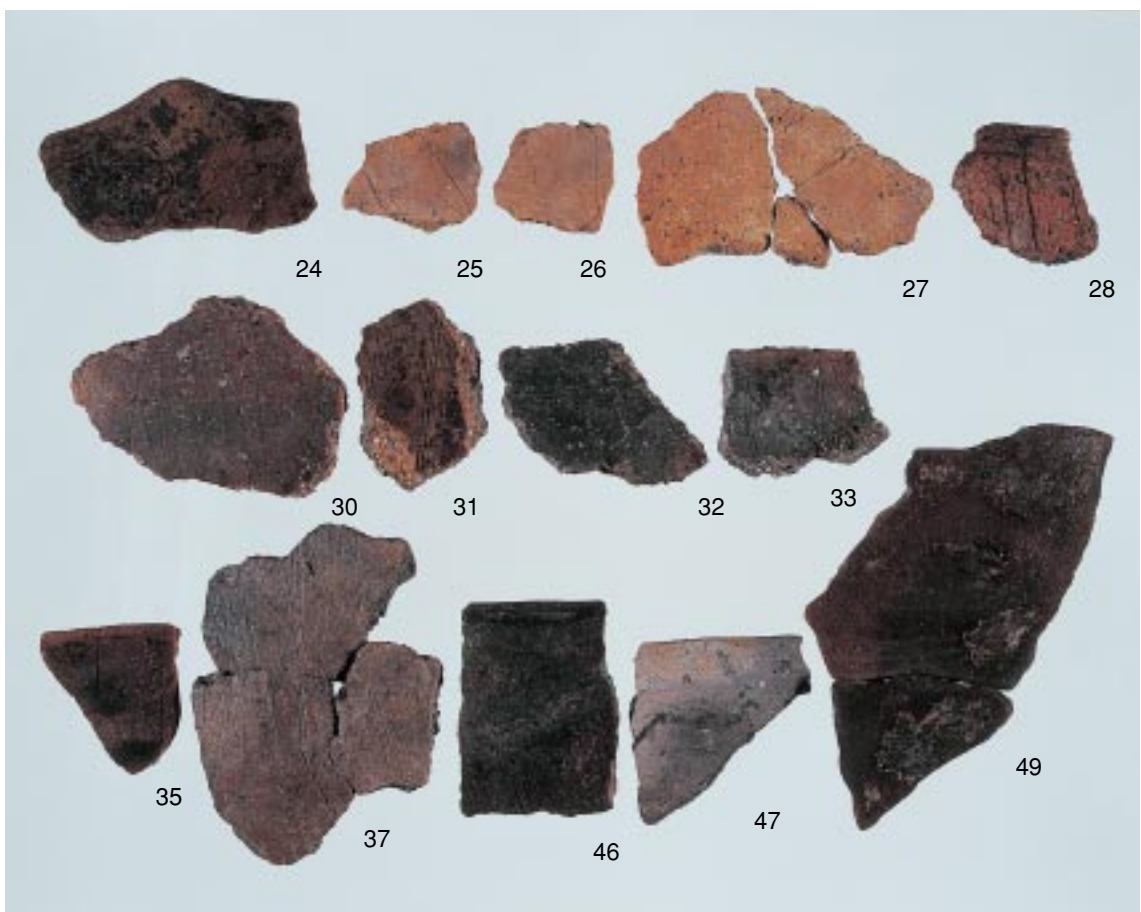
345

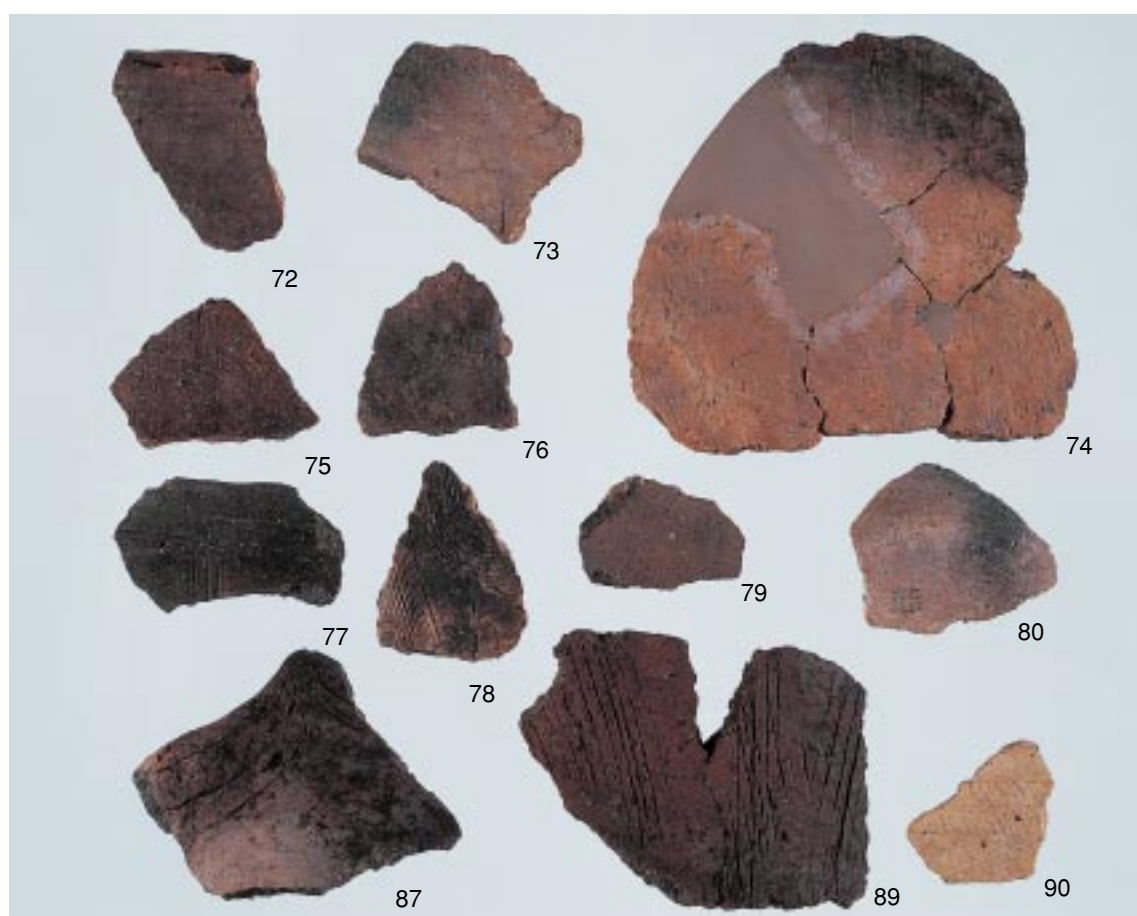
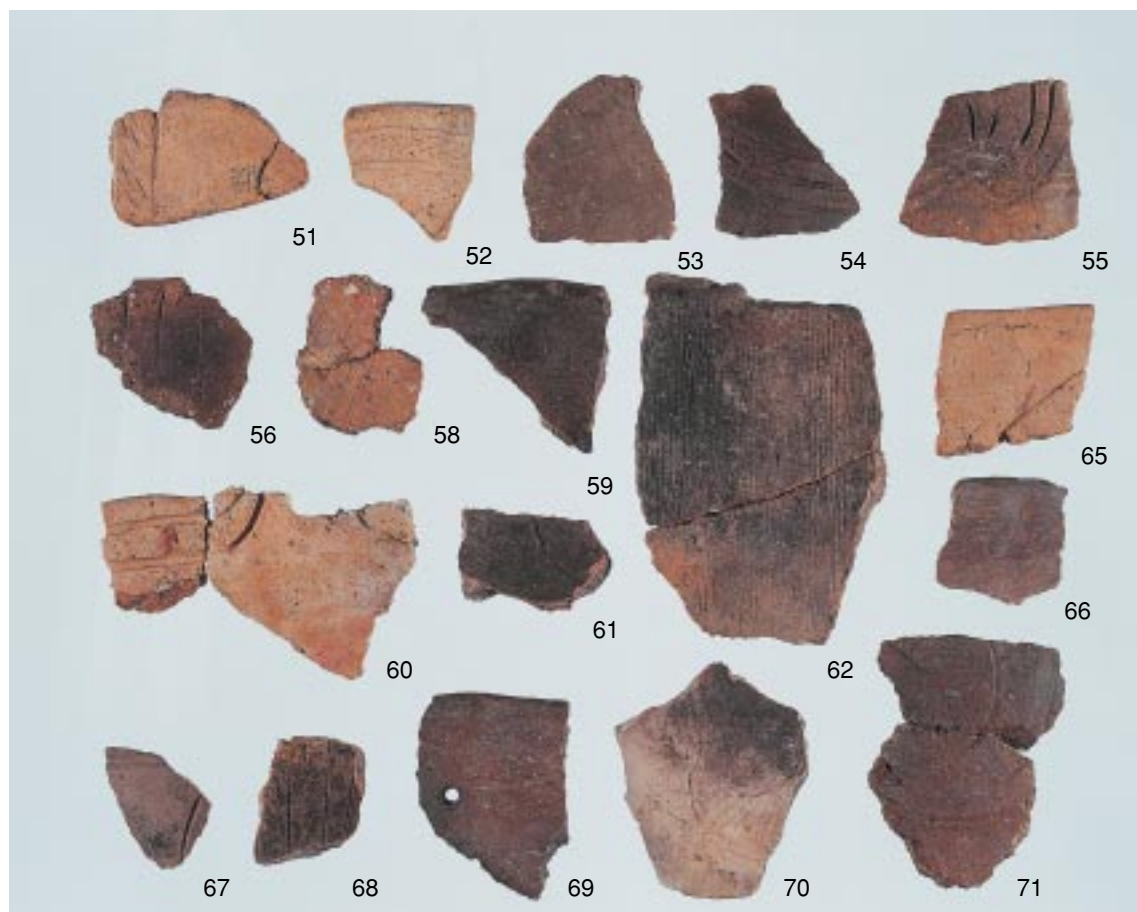
双耳壺・土製品

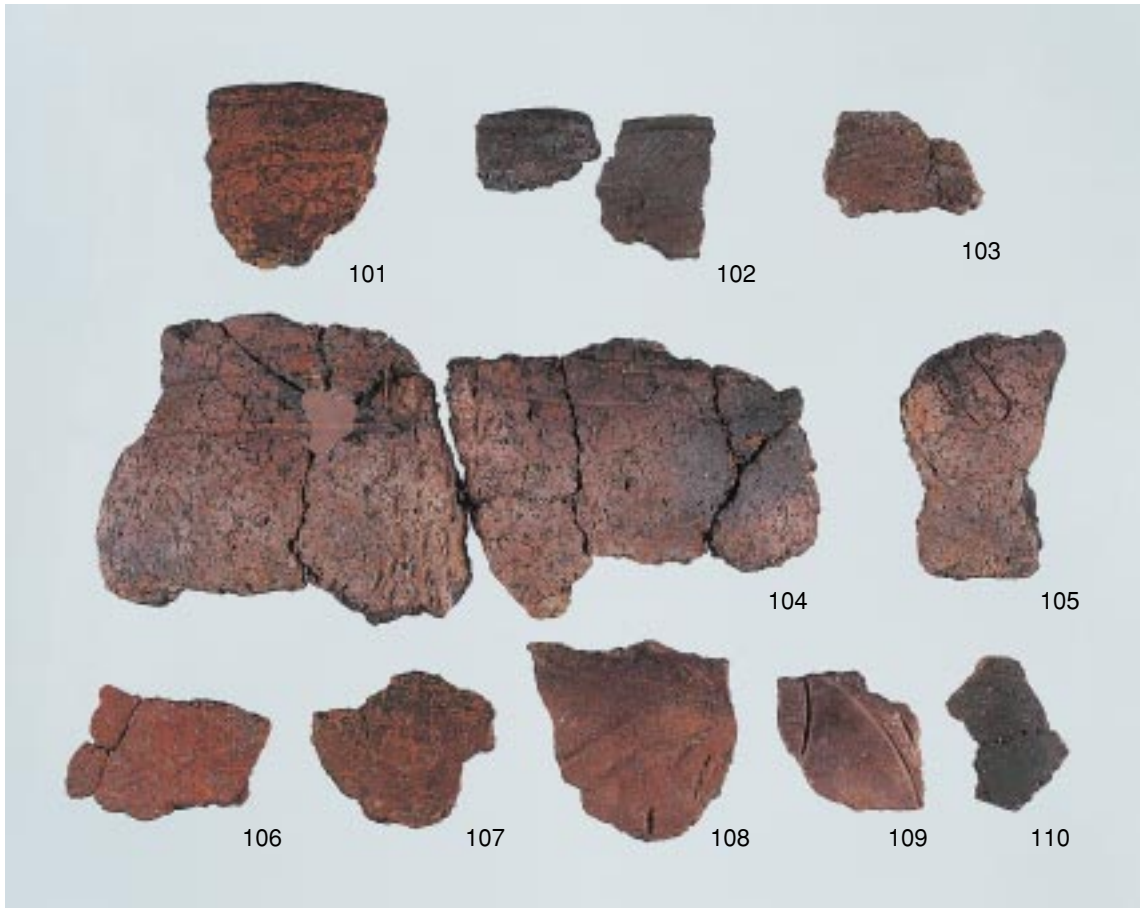




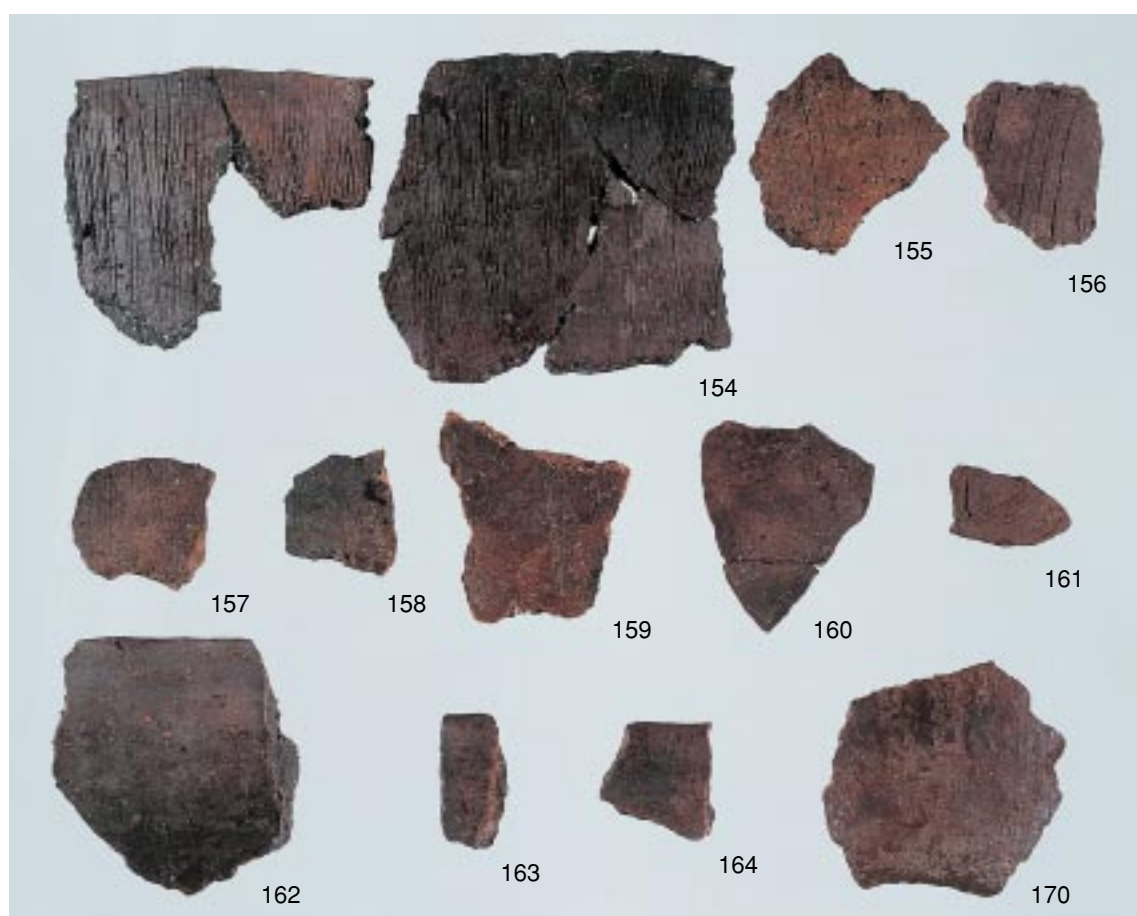




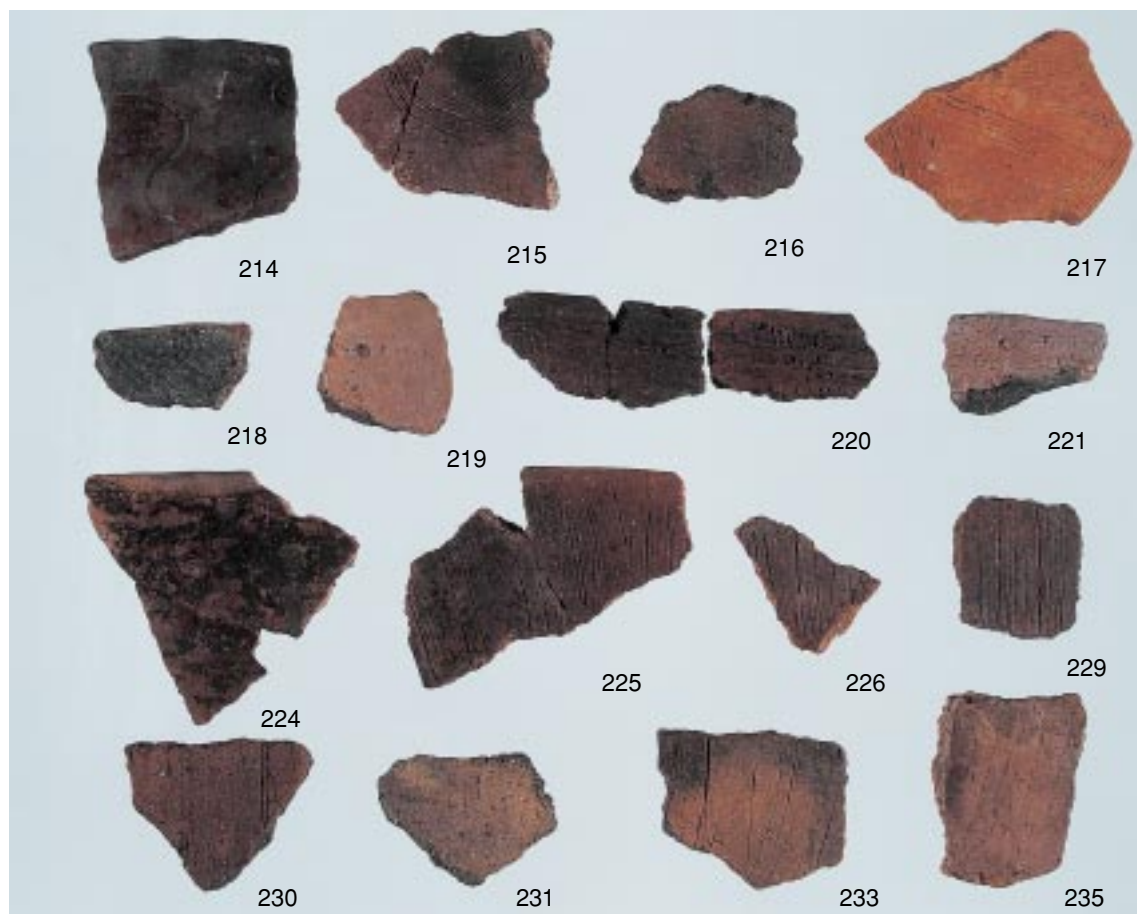


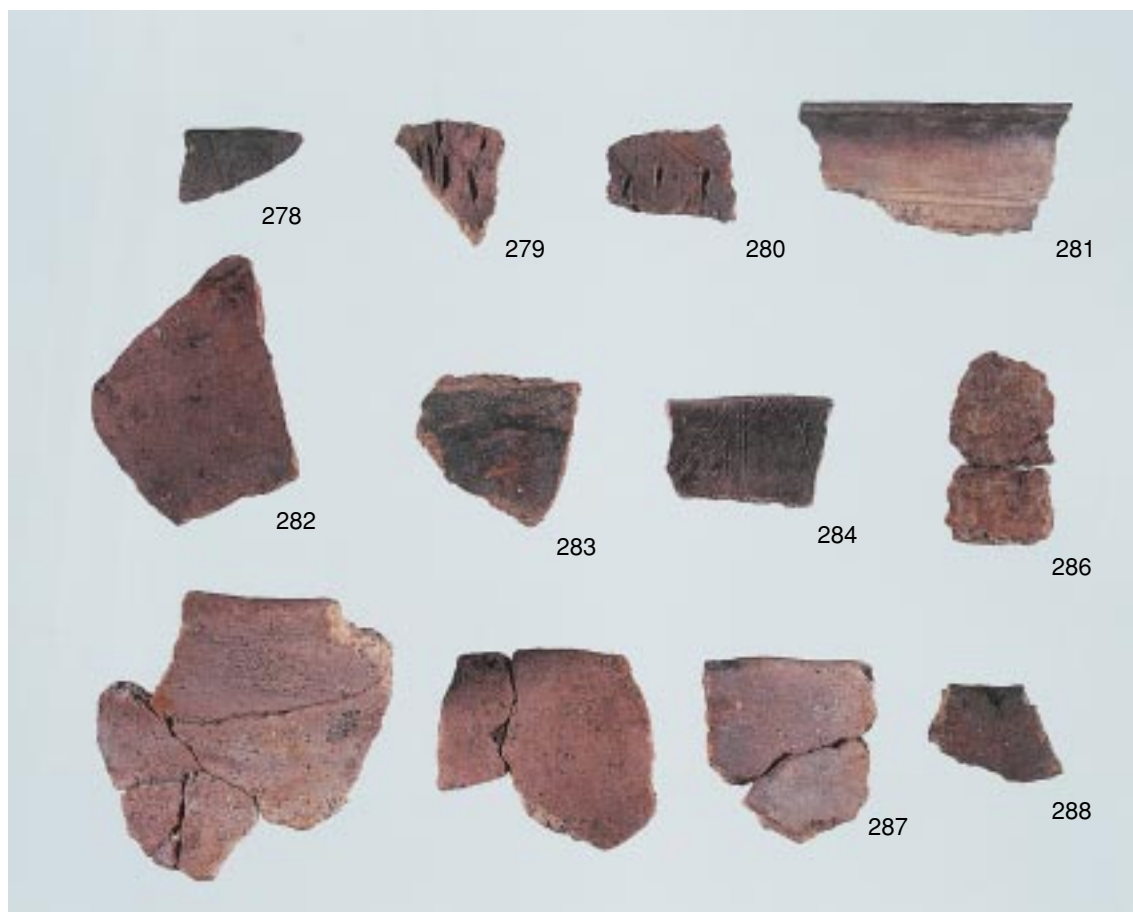


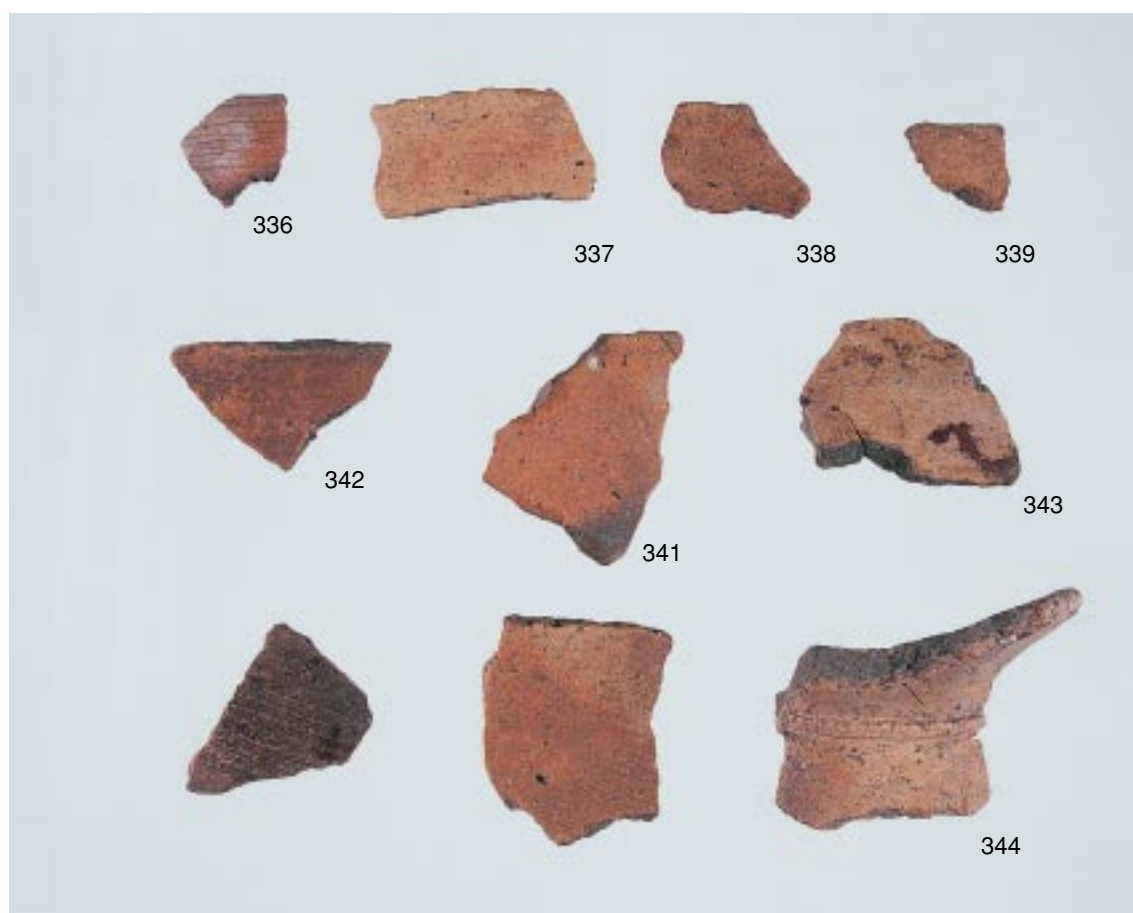
图版 120 97区包含层出土土器

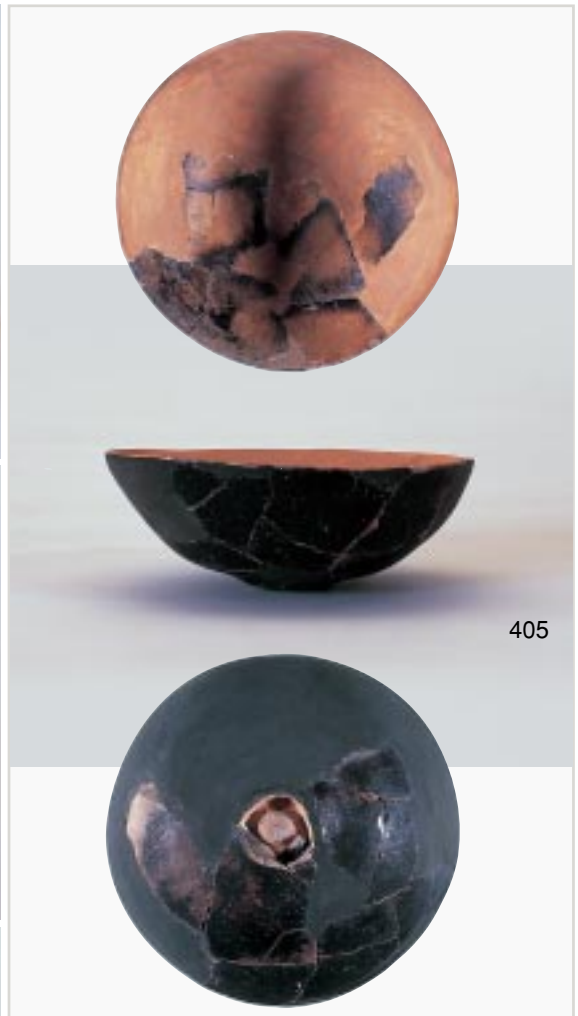
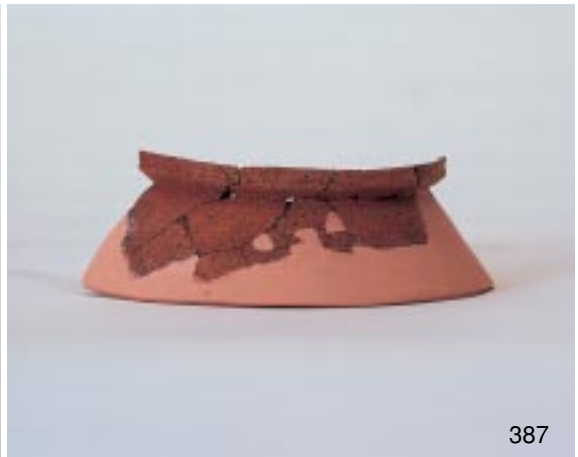


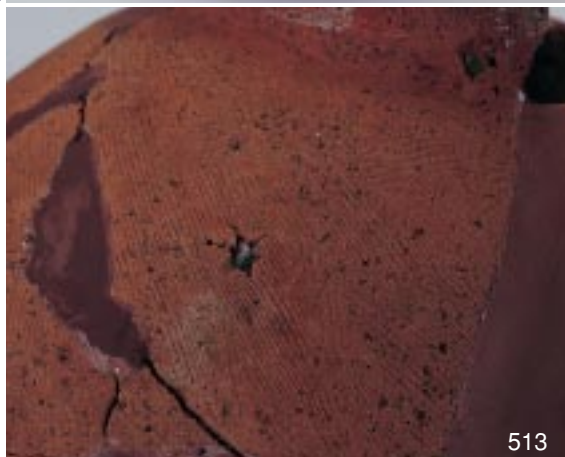








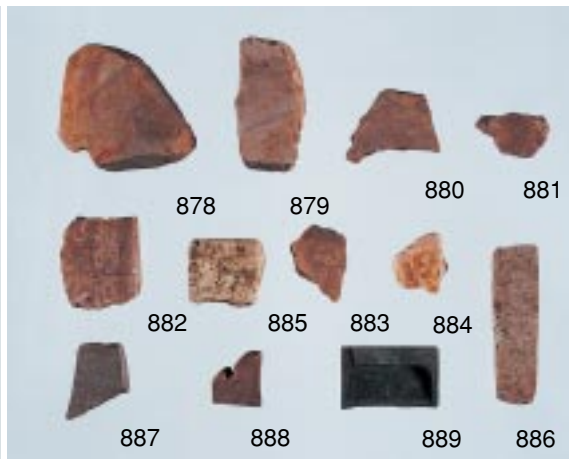
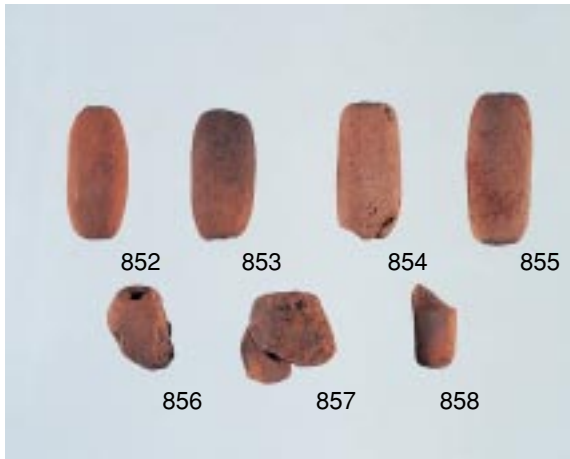














上段：97区谷地形出土縄文土器深鉢（中津Ⅱ式に対比される。）
下段：権現山遺跡から出土した縄文時代後期の土器



上段：97区S K 31から出土した縄文土器（福田K 2式第1段階に対比される。）

下段：97区S K 36から出土した縄文土器（中津Ⅱ式～福田K 2式第1段階に対比される。）



上段：97区谷地形から出土した縄文土器（中津Ⅱ式～福田Ⅱ式に対比される。）
下段：権現山遺跡から出土した縄文時代の石器

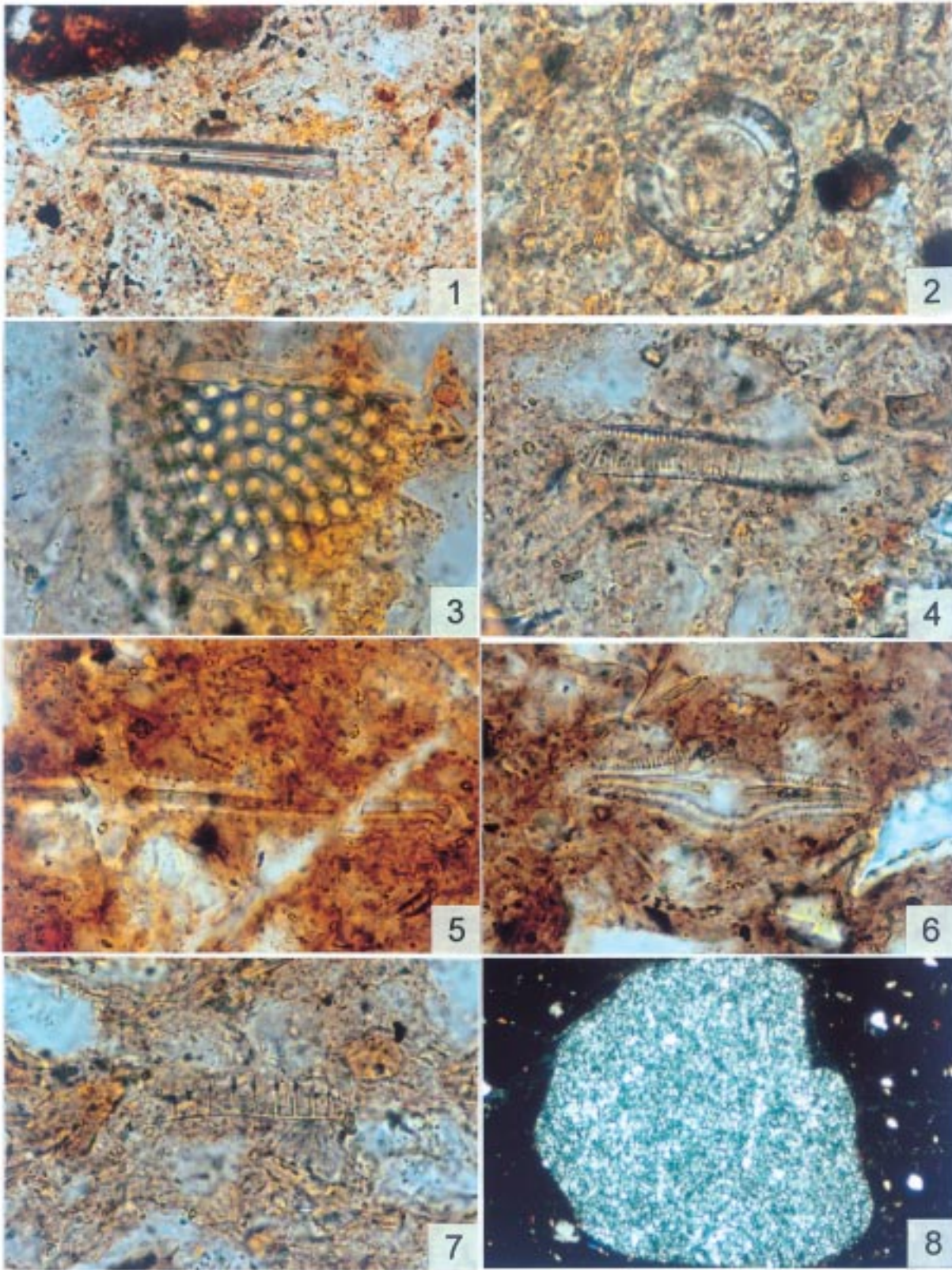


上段：S Z 02 から出土した土器（山中式～廻間Ⅲ式までの土器が出土する。）

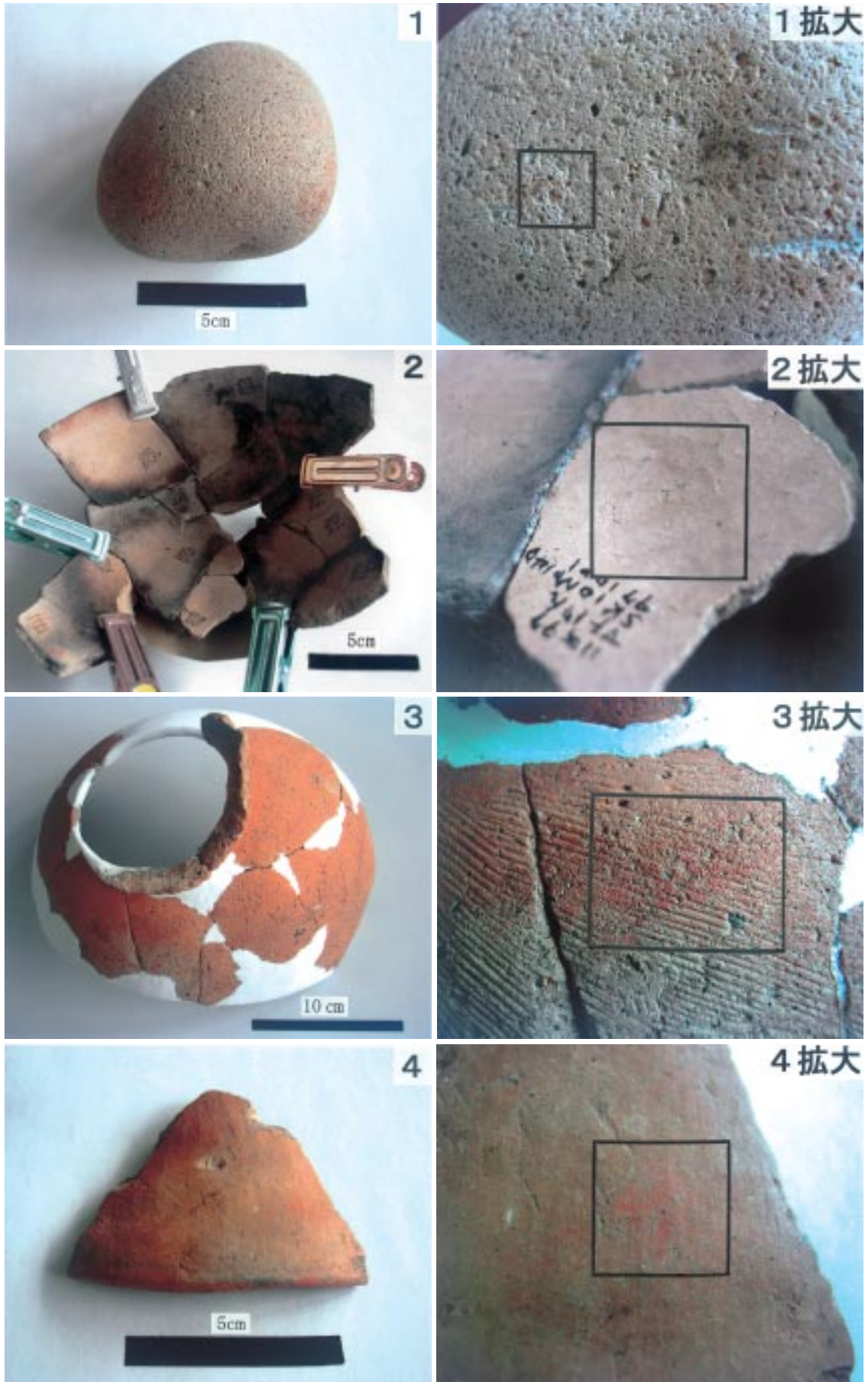
下段：1号墳石室から出土した遺物（須恵器提瓶、蓋杯と鉄刀子）



上段：古代の遺構から出土した土器（折戸10号窯期を中心とする。）
下段：01区SD22から出土した土器・陶磁器、石製品



1 . 骨針化石 No.1 2 . 珪藻化石 (*Melosira granulata*) No.1 3 . 珪藻化石 (*Stephanopyxis*) No.2
4 . 珪藻化石 (*Eunotia* 属) No.7 5 . 珪藻化石 (*Pinnularia* 属) No.7 6 . 珪藻化石 (*Diploneis* 属) No.7
7 . 珪藻化石 (*Epithemia* 属) No.9 8 . 複合石英類 (微細) No.12
(No.1:50 μ m、No.2 ~ 7:20 μ m、No.8:250 μ m)



□：試料採取位置

報告書抄録

| | |
|--------|-------------------------------------|
| ふりがな | ごんげんやまいせき |
| 書名 | 権現山遺跡 |
| 副書名 | |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第110集 |
| 編著者名 | 早野浩二・鶴飼雅弘・鬼頭剛・上田恭子・藤根久・今村美智子・小村美代子 |
| 編集機関 | 財団法人愛知県教育サービスセンター 愛知県埋蔵文化財センター |
| 所在地 | 〒498-0017 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24 |
| 発行年月日 | 西暦 2003年8月31日 |

| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 ... | 東 経 ... | 調査期間 | 調査面積 ^{m²} | 調査原因 |
|--------------------|---|-------|-------|-------------------|--------------------|---|--|---------------------------------|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| ごんげんやまいせき 権現山遺跡 | いわくらしきたじまちょう 岩倉市北島町 のよりちょう 野寄町 | 23228 | 11052 | 35度 15分 55秒 | 135度 51分 13秒 | 19960605～ 19960719 19970701～ 19971107 1999510～ 199912 20010611～ 20011015 | 500 ^{m²} 1,800 ^{m²} 500 ^{m²} 2,350 ^{m²} | 五条川右岸 流域下水道 事業に伴う 事前調査 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な 時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|-------|----|---|---|---|--|
| 権現山遺跡 | 集落 | 縄文 弥生～ 古墳 古墳 奈良～ 平安 鎌倉～ 室町 江戸 | 竪穴住居・土坑 竪穴住居・墳丘墓・ 溝・土坑 円墳・横穴式石室 竪穴住居・溝 溝・土坑 溝・土坑・井戸 | 縄文土器・石器・土偶？ 弥生土器・土師器 土師器・須恵器・鉄刀子 土師器・須恵器・ 灰釉陶器・瓦 土師器・灰釉系陶器・ 中国陶磁・古瀬戸ほか 瀬戸美濃窯産陶器・瓦・ 土師器・砥石ほか | 低地部における 縄文時代集落 弥生時代後期から 古墳時代前期の 墳丘墓群 |